TOSHIBA

東芝デジタル複合機

TopAccess

e-STUDIO2020AC
e-STUDIO2525AC/3525AC/4525AC/5525AC
e-STUDIO2528A/3528A/4528A/5528A
e-STUDIO6527AC/7527AC
e-STUDIO6529A/9029A

●このたびは弊社製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
●お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は必ず保管してください。

© 2021, 2022 Toshiba Tec Corporation All rights reserved
本書は、著作権法により保護されており、東芝テック株式会社の承諾がない場合、本書のいかなる部分もその複写、複製を禁じます。

はじめに

このたびは弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本書は、Webベースの管理ユーティリティであるTopAccessから行うデバイスのリモートセットアップやリモート管理を説明しています。本機をお使いになる前に本書をよくお読みください。

TopAccessにログインする権限により、TopAccess上での操作が制限される項目があります。 また、お使いの機種によっては、表示されない項目や機能があります。

■ 本書の読みかた

□ 本文中の記号について

本書では、重要事項には以下の記号を付けて説明しています。これらの内容については必ずお読みください。

⚠警告	「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷*1を負う可能性があること」を示しています。
⚠注意	「誤った取り扱いをすると人が傷害*2を負う可能性、または物的損害*3のみが発生する可能性があること」を示しています。
注 意	操作するうえでご注意いただきたい事柄を示しています。
補 足	操作の参考となる事柄や、知っておいていただきたいことを示しています。
📖	関連事項を説明している参照先を示しています。必要に応じて参照してください。

＊1　重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものを指します。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を指します。
＊3　物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指します。

□ 本書の対象

本書は一般使用者および機器管理者向けの取扱説明書です。

□ 本書の対象機種について

本書の対象機種は、本文中で以下のように表記しています。

対象機種	本文中の表記
e-STUDIO2020AC	e-STUDIO5525AC Series
e-STUDIO2525AC/3525AC/4525AC/5525AC	
e-STUDIO2528A/3528A/4528A/5528A	e-STUDIO5528A Series
e-STUDIO6527AC/7527AC	e-STUDIO7527AC Series
e-STUDIO6529A/9029A	e-STUDIO9029A Series

□ オプション機器について

使用可能なオプション機器については、以下の参照先をご覧ください。
機体の情報 - 機体の情報 - 本機のオプション

□ 画面と操作手順の説明について

本書では、Windowsでの画面および操作手順は、Windows 10を例に説明しています。
お使いの機種やオプション機器の装着状況、OSのバージョンやアプリケーションによっては、表示される画面が異なることがあります。

□ 本文中の記載名称について

本書では、両面同時原稿送り装置と自動両面原稿送り装置を、どちらも自動原稿送り装置と記述して説明しています。

□ 本文中の初期値について

- 本書に記載している初期値は、標準的な使用環境の値です。導入時の環境に合わせて、初期値を変更している場合があります。なお、機種の違いにより初期値が異なるものは記載していません。
- 選択項目の初期値は、下線で表記しています。

□ 商標について

商標については**安全にお使いいただくために**をご覧ください。

□ セキュリティに関するご利用上のご注意

- 不正に設定値を変更されるなどの操作を防ぐため、本製品をご使用いただく前に、本製品に設定されている工場出荷時の初期管理者パスワードを必ず変更していただきますようお願い致します。
- セキュリティの観点からTopAccessの設定変更を行っているコンピューターから離席される場合は、必ず［ログアウト］してください。
- セキュリティの観点からTopAccessにログインしているときは、他サイトにアクセスしないようにしてください。

目次

はじめに **3**
本書の読みかた 3

第1章　概要

TopAccessの機能ユーザー **10**
TopAccessの条件 **11**
TopAccessを起動する **12**
アドレスを入力して起動する 12
TopAccessの画面説明 **14**
アクセスポリシーモード **15**

第2章　［装置］

［装置］項目説明一覧 **18**
表示アイコンの説明 **20**

第3章　［ジョブ］

［ジョブ］の概要説明 **24**
［印刷ジョブ］項目説明一覧 24
［ファクス／インターネットファクスジョブ］項目説明一覧 27
［スキャンジョブ］項目説明一覧 28
［マルチステーション］項目説明一覧 29

第4章　［ログ］

［ログ］の概要説明 **32**
［ログ閲覧］項目説明一覧 32
［ログのエクスポート］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 40
［ログ設定］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 42

第5章　［登録］

［登録］の概要説明 **44**
共有ホーム 44
共有テーマ設定 44
共有ホーム設定 44
［アドレス帳］項目説明一覧 44
［Fコード／ファクス受信転送（振分け）］項目説明一覧 55

第6章　［カウンター］

［カウンター］の概要説明 **62**
［カウンター］項目説明一覧 62

第7章　［ユーザー管理］

［ユーザー管理］の概要説明 **74**
［ユーザーアカウント］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 74
［グループ管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 83

［ロール管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 85
［部門管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 91
［プロジェクト管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 95
［エクスポート／インポート］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 96
［共通設定］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 98

第8章　［管理者］

［セットアップ］項目説明一覧 103
一般設定 103
ネットワーク設定 119
コピー設定 175
ファクス設定 178
共有フォルダーに保管設定 188
Eメール設定 199
インターネットファクス設定 206
プリンター /ファイリングボックス設定 211
プリンター設定 212
プリントサービス設定 218
ICCプロファイルの設定 227
プリントデータコンバーター設定 229
MFP連携 230
内蔵ブラウザー設定 239
Off Device Customization Architecture設定 242
バージョン 243
［セキュリティ］項目説明一覧 244
認証 244
証明書管理 265
パスワードポリシー 269
セキュリティスタンプ設定 272
環境設定 273
［保守］項目説明一覧 274
ソフトウェアのアップロード 274
ソフトウェアの削除 276
クローンファイル作成 277
クローンファイルのインストール 279
インポート 282
エクスポート 285
パネル表示 287
待機画面 288
ファイル削除 295
レポート通知 296
言語設定 299
リモートコマンド 302
データバックアップ機能 304
ユーザー用紙タイプ 306
システムアップデート 307
再起動 308
［登録］（［管理者］）項目説明一覧 309
共有ホーム 309
テンプレートの詳細設定 316
共有テーマ設定 345
共有ホーム設定 346
初期ホーム 347
初期ホーム設定 347
かんたん画面設定 348
画像/アイコン管理 349
ホームデータリスト 351

ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送 351
メタスキャン 366
XMLフォーマットファイル 370

［アプリケーション］項目説明一覧 371
アプリケーションリスト 371
アプリケーション設定 374
ユーザー拡張情報 377
リソース管理 377

［ライセンス］項目説明一覧 378
ライセンス一覧 378
有効化 378

第9章　［アカウント］

［アカウント］の概要説明 380
［アカウント］項目説明一覧 380

第10章　目的別設定方法

メタスキャンの設定 388
メタスキャンの操作の流れ 388
メタスキャンオプションの確認 389
XMLフォーマットファイルの編集 389
XMLフォーマットファイルの登録 393
拡張フィールド定義の登録 393
メタスキャン用のテンプレート登録 397
メタスキャン 400
メタスキャンのログ確認 400

マルチステーション印刷の設定 401
マルチステーション印刷の操作の流れ 401
マルチステーション印刷の操作の流れ（1台のみ） 402
マルチステーション印刷オプションの確認 402

ホームデータ同期機能の設定 403
ホームデータ同期設定の流れ 403

外部認証の属性をMFPのロールとして使う 405
ロール情報設定ファイルをエクスポートする 405
ロール情報設定ファイルを定義する 405
ロール情報設定ファイルをインポートする 406
ロールベースアクセス設定を有効にする 406

Eメールの設定 407
Eメール設定操作の流れ 407

証明書のインストール 408
デバイス証明書をインストールする 408
クライアント証明書の作成／エクスポート 416
CA証明書をインストールする 417

索引 419

1

概要

TopAccessの機能ユーザー 10

TopAccessの条件 11

TopAccessを起動する 12

アドレスを入力して起動する 12

TopAccessの画面説明 14

アクセスポリシーモード 15

TopAccessの機能ユーザー

TopAccessは、Webブラウザーを利用して、本機の装置情報やジョブのステータスなどの確認、装置設定やメンテナンスが行える管理ユーティリティです。
TopAccessは、「ユーザーモード」と「アクセスポリシーモード」の2種類のモードがあります。

ユーザーモード

TopAccessのユーザーモードから以下の操作を行うことができます。

- 本機の一般情報を表示する（ステータス、カセットやオプション機器の構成、給紙情報など）
- 印刷ジョブ、転送ファクスジョブ、スキャンジョブを表示する（転送ファクスジョブの表示は、FAXユニット装着時のみ有効）
- 印刷ログ、発信／受信ジャーナル、スキャンログを表示する（発信／受信ジャーナルは、FAXユニット装着時のみ有効）
- テンプレートを作成する、変更する
- アドレス帳に連絡先やグループを追加する
- Fコード対応メールボックスを作成する（FAXユニット装着時のみ有効）
- カウンターログを表示する
- クライアントソフトウェアをダウンロードする

📖 P.12 「TopAccessを起動する」

アクセスポリシーモード

TopAccessにログインするユーザーアカウントに応じて、操作を行う権限や表示される項目などが異なります。
操作や表示については、ユーザーアカウントが割り当てられている、ロール管理や部門管理などにより詳細が異なります。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」

TopAccessの条件

TopAccessを操作するには、お使いの機器がネットワークに接続され、TCP/IPが正しく設定されている必要があります。
TCP/IP設定を完了すると、WebブラウザーをTopAccessにアクセスすることができます。

サポートブラウザー

- Windows
  - Microsoft Edge 89以上
  - Firefox 86以上
  - Chrome 89以上
- macOS
  - Safari 14.0以上
- UNIX
  - Firefox 86以上

注 意

- TopAccessでは、コンピューターに情報を保存するのにCookieを使用するので、TopAccessを正しく動作させるためにはお使いのブラウザーでCookieを使用できるように設定されている必要があります。
- TopAccessが正しく動作しないときには、Cookieを削除して試してみてください。
- プロキシサーバーを使用している場合、お使いの機器のIPアドレスをプロキシサーバーの例外に設定してください。
- Webブラウザーのポップアップブロック機能は解除するか、TopAccessのポップアップを許可してください。
- ネットワークパスを入力する際は、お使いのOSやブラウザーに依存しない文字を使用してください。
  TopAccessでは、macOSで入力された“¥”（円マーク ）をネットワークパスのバックスラッシュとして認識できない場合があります。その場合、［option］キーを押しながら［¥マーク］キー を押して、バックスラッシュ（Unicode:0x005C）として入力してください。

補 足

- TopAccessは、欧州言語の特殊文字に対応しています。入力する文字に制限がある場合には、本書の各項目に記載しています。
- 本機は通信プロトコルにTLS1.2とTLS1.3を使用できます。

TopAccessを起動する

TopAccessは、WebブラウザーのURLにアドレスを入力することにより起動できます。

■ アドレスを入力して起動する

1 Webブラウザーを起動し、URLに以下のアドレスを入力します。

http://<IPアドレス>または、http://<デバイス名>

```
http://10.10.70.120/
```

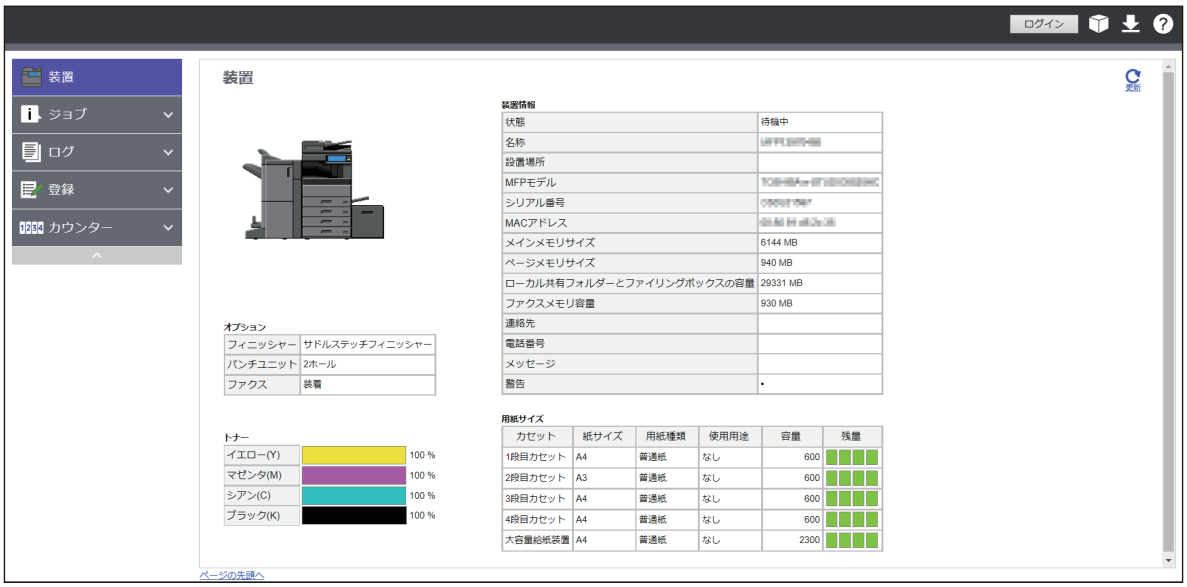
例：
お使いの機器のIPアドレス（IPv4）が「10.10.70.120」のとき
http://10.10.70.120
お使いの機器のIPアドレス（IPv6）が「3ffe:1:1:10:280:91ff:fe4c:4f54」のとき
3ffe-1-1-10-280-91ff-fe4c-4f54.ipv6-literal.net
または
http://[3ffe:1:1:10:280:91ff:fe4c:4f54]
お使いの機器のデバイス名が「mfp_04998820」のとき
http://mfp-04998820

注 意

HTTPネットワークサービスでSSL/TLSが有効に設定されている場合は、TopAccessのアドレスを入力すると警告メッセージが表示されることがあります。その場合は、［詳細設定］をクリックし、［～に進む（安全ではありません）］をクリックして操作を続けてください。

2 TopAccessのWebページが表示されます。

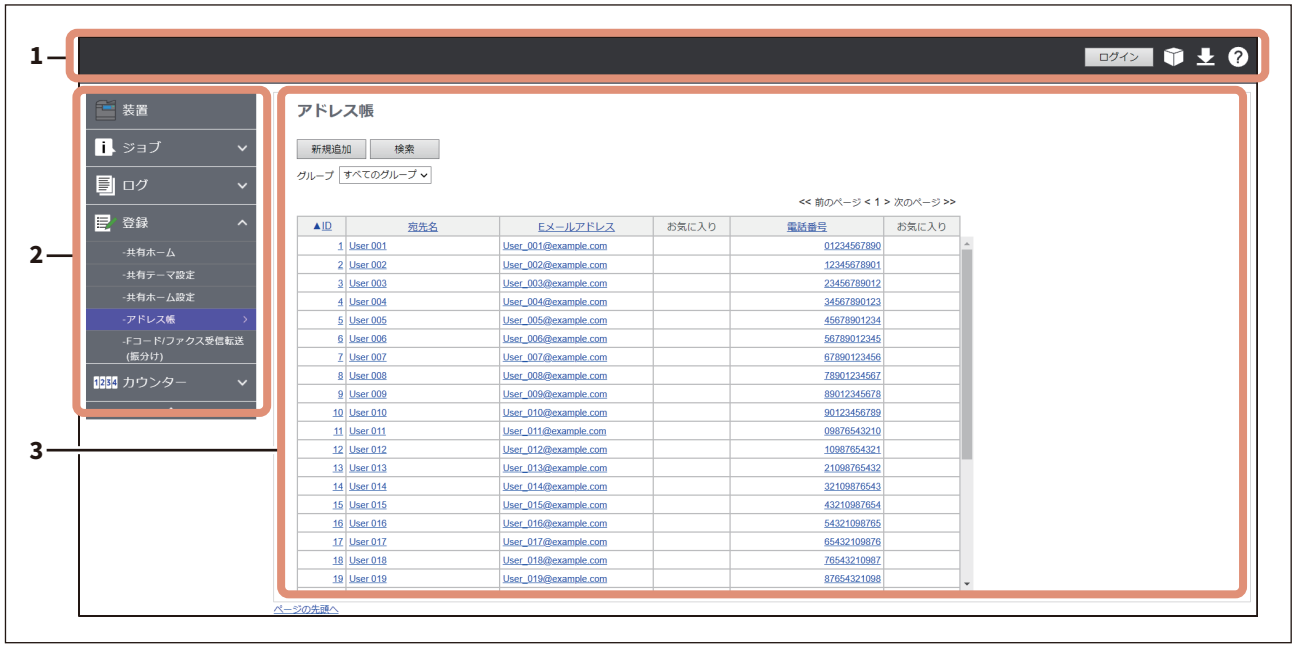
画面に表示される情報は、お使いの機種や装着するオプション機器によって異なります。



補 足

TopAccessDocMonリンクを使用してTopAccessにアクセスすることもできます。TopAccessDocMonからTopAccessにアクセスする方法は、**TopAccessDocMon Help**を参照してください。

TopAccessの画面説明



	項目名	機能説明
1	ヘッダーエリア	TopAccessの操作ボタンやアイコンを表示します。 • **［ログイン］ボタン**：このボタンをクリックすると、ユーザー認証をしてTopAccessにログインできます（ログイン後は、ログアウトできるようにボタンは［ログアウト］に変わります）。ログイン後はそのユーザーの名前を表示します。ログアウト状態またはユーザー認証無効時は、名前は表示されません。 • ：この［ファイリングボックス］アイコンをクリックすると、ファイリングボックスが起動します。 • ：この［インストールクライアントソフトウェア］アイコンをクリックすると、クライアントソフトウェアのインストーラーファイルをTopAccessからダウンロードできるページが表示されます。 • ：この［ヘルプ］アイコンをクリックすると、ヘルプを表示します。
2	メニューエリア	機能をまとめた階層メニューを表示します。矢印は下位メニュー項目があることを示し、クリックすると下層メニューが開いたり閉じたりします。第1階層メニューにある項目をクリックすると、選択された項目の下に第2階層メニューが表示されます。第2階層メニューにある項目をクリックするかその上にマウスポインターを移動すると、第3階層のメニューがポップアップ表示します。第4メニューはあれば設定表示エリアに表示されますので、項目をクリックすると当該の設定領域に移動します。
3	設定表示エリア	メニューエリアの選択に応じて、機能や情報を表示します。［ページの先頭へ］をクリックすると、このエリアの先頭へ戻ります。

注 意

サブまたはポップアップウィンドウが表示された場合、閉じるためにブラウザーの［X］をクリックしないでください。必ずTopAccessの操作ボタンをクリックしてください。

アクセスポリシーモード

TopAccessにログインするユーザーアカウントに応じて、操作を行う権限や表示される項目などが異なるアクセスポリシーモードがあります。
アクセスポリシーモードでは、ユーザーアカウントに割り当てられているロールや部門などにより、操作や表示の詳細が異なります。

1 TopAccessを起動します。

P.12 「TopAccessを起動する」

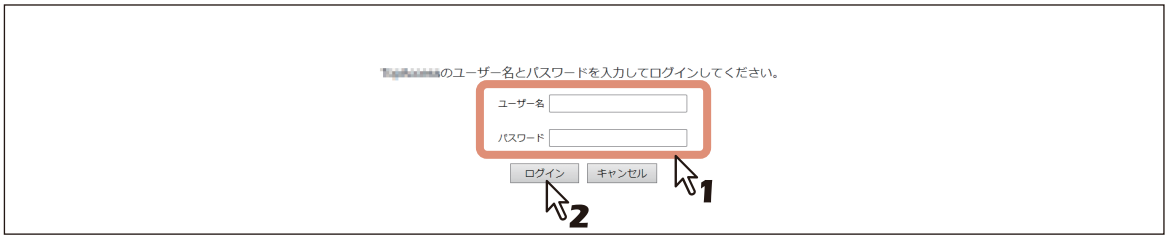
2 ［ログイン］をクリックします。

ログインページが表示されます。

3 ログインするユーザー名とパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

お使いの機器で［ユーザー認証］を有効にしている場合は、［認証種別］の設定に応じてログインする必要があります。

- **［内部認証］**：お使いの機器に登録されているユーザー名とパスワードを入力します。
- **［Windowsドメイン認証］**：ユーザーを管理している［ドメイン名］を選択して、そのドメインに登録されているユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
- **［LDAP認証］**：ユーザーを管理している［LDAPサーバー］を選択して、そのサーバーに登録されているユーザー名とパスワードを入力する必要があります。設定については、以下の参照先をご覧ください。
  P.246 「ユーザー認証設定」



- TopAccessのアクセスポリシーに従ったユーザー名とパスワードを入力してください。
- セットアップページが表示されます。

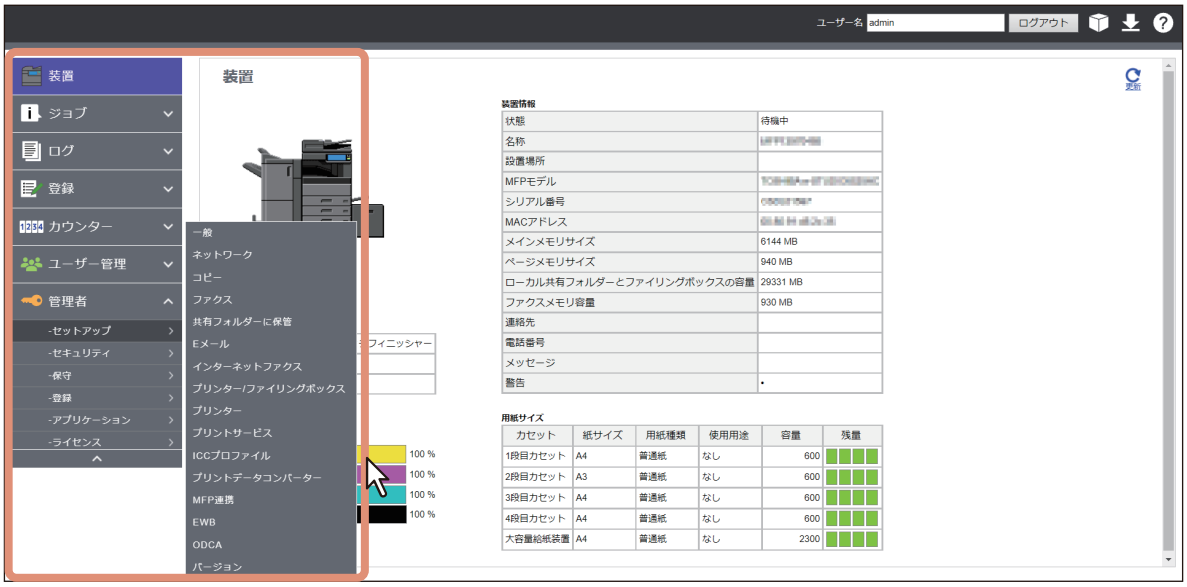
注 意

- ログインに必要な初期設定は、ユーザー名“admin”とパスワード“123456”です。お使いの機種や地域によっては、初回ログイン時に初期管理者パスワードを変更する必要があります。画面の指示に従ってください。
- ログイン時にパスワードを複数回間違えて入力すると、不正なアクセスとみなされ、一定時間ログイン操作ができなくなることがあります。アカウントがロックされる、またはユーザー名やパスワードが正しくないという内容のメッセージが表示され、ログイン操作ができなくなった場合は、管理者にお問い合わせください。
- パスワードは伏せ字で表示されます。
- ログイン後、［セッション確保時間］で設定されている時間が経過した場合、自動的にログアウトします。

補 足

- ユーザーアカウントのロックアウト設定は、［管理者］＞［セキュリティ］＞［パスワードポリシー］で設定できます。
  P.269 「パスワードポリシー」
- ［セッション確保時間］は、［管理者］＞［セットアップ］＞［一般］＞［WEB設定］で設定できます。

4 階層メニューをクリックし、目的のページを表示します。



補 足

ページ右上の［ログアウト］リンクをクリックすると、ログアウトすることができます。

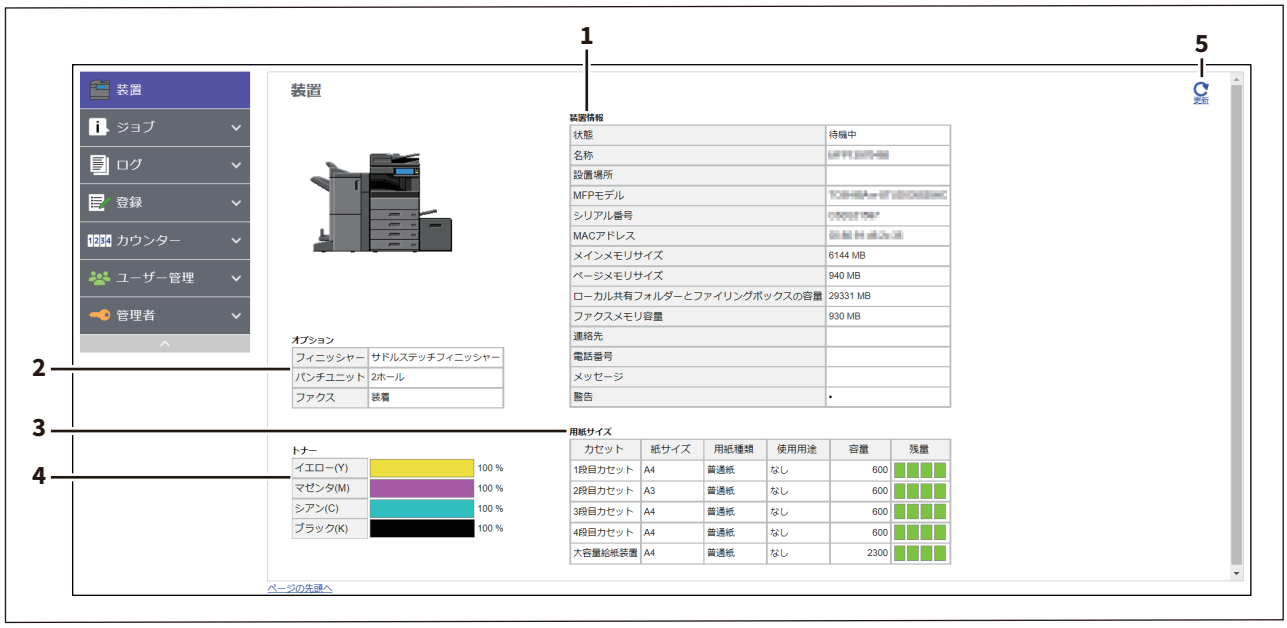
2

[装置]

[装置] 項目説明一覧 18
表示アイコンの説明 20

[装置] 項目説明一覧

ユーザー用の［装置］が表示され、装置の状態を示すビットマップイメージが表示されます。［更新］をクリックすると、ページ上の情報が更新され、表示されます。
このページには、装置に関する以下の情報が表示されます。画面に表示される情報は、お使いの機種や装着するオプション機器によって異なります。



	項目名	機能説明
1	装置情報	以下の情報が表示されます。 • **状態**：本機の状態を表示します。 • **名称**：本機の名称を表示します。 • **設置場所**：本機の設置場所を表示します。 • **MFPモデル**：本機のモデル名を表示します。 • **シリアル番号**：本機のシリアル番号を表示します。 • **MACアドレス**：本機のMACアドレスを表示します。 • **メインメモリサイズ（一部の機種のみ）**：メインメモリサイズを表示します。 • **ページメモリサイズ（一部の機種のみ）**：ページメモリサイズを表示します。 • **ローカル共有フォルダーとファイリングボックスの容量（一部の機種のみ）**：本機のローカルフォルダーとファイリングボックスの空き容量の合計を表示します。 • **ファクスメモリ容量**：本機のファクス送受信用メモリの空き容量を表示します。 • **連絡先**：本機を管理する担当者の氏名を表示します。 • **電話番号**：本機を管理する担当者の電話番号を表示します。 • **メッセージ**：管理者メッセージを表示します。 • **警告**：警告メッセージを表示します。
2	オプション	以下の情報が表示されます。 • **フィニッシャー（一部の機種のみ）**：フィニッシャーの装着状態を表示します。 • **パンチユニット（一部の機種のみ）**：ホールパンチユニットの装着状態を表示します。 • **ファクス**：FAXユニットの装着状態を表示します。 • **機能拡張オプション（一部の機種のみ）**：機能拡張オプションの装着状態を表示します。

	項目名	機能説明
3	用紙サイズ	以下の情報が表示されます。 • **カセット**：装着されているカセットを一覧表示します。 • **紙サイズ**：各カセットにセットされている用紙のサイズを表示します。 • **用紙種類**：各カセットにセットされている用紙の種類を表示します。 • **使用用途**：各カセットにセットされている用紙の用途を表示します。 • **容量**：各カセットにセットできる最大の用紙枚数を表示します。 • **残量**：各カセットの用紙の有無を表示します。 **注 意** 用紙カセットの用紙サイズの設定は、TopAccessから行うことはできません。本機操作パネルより行ってください。 設定方法については、以下の参照先をご覧ください。 **用紙の準備（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 用紙をセットする - カセットに用紙をセットする** **用紙の準備（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 用紙をセットする - カセットに用紙をセットする**
4	トナー	お使いの機器に装着されているトナーカートリッジのトナー残量目安が表示されます。
5	更新	クリックすると、情報を更新します。

表示アイコンの説明

TopAccessの［装置］の本機機体イラスト表示部には、装置にエラーが発生したときやメンテナンスが必要なときに、その内容を示すアイコンが表示されます。以下にアイコンの意味と対処方法を説明します。

	プリンターエラー1	推奨トナーカートリッジ以外を使用したため、印刷を中止したときに表示されます。 エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - トナーカートリッジの交換** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - トナーカートリッジの交換**
	プリンターエラー2	以下の場合に表示されます。 • 排紙トレイから用紙を取り除く必要がある場合。 • フィニッシャーのトレイから用紙を取り除く必要がある場合。 • フィニッシャーでつまったステイプル針を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - ステイプラーの針づまりの解除 - フィニッシャーのステイプラー** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - ステイプラーの針づまりの解除 - フィニッシャーのステイプラー** • サドルステッチユニットでつまったステイプル針を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - ステイプラーの針づまりの解除 - サドルステッチユニットのステイプラー** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - ステイプラーの針づまりの解除 - サドルステッチユニットのステイプラー** • ホールパンチユニットからホールパンチ屑を取り除く必要がある場合。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - パンチ屑ケースの清掃** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - パンチ屑ケースの清掃** • 推奨トナーカートリッジを使用していない場合の警告。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - トナーカートリッジの交換** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - トナーカートリッジの交換** • 用紙サイズ混在の印刷にサドルステッチを行おうとした場合 • 大容量給紙装置から用紙を給紙できない場合の警告 • 排紙トレイに用紙を排紙できない場合の警告 • 本機の内蔵ストレージのデータをバックアップする必要がある場合の警告 • 本機の内蔵ストレージを交換する必要がある場合の警告
	カバーオープン	前面カバーや自動両面印刷ユニットカバーなどを閉じる必要がある場合に表示されます。

	カセットオープン	カセットを閉じる必要がある場合に表示されます。
	トナー切れ	トナーがなくなった場合に表示されます。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - トナーカートリッジの交換** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - トナーカートリッジの交換**
	廃トナーボックス交換	廃トナーボックスの交換が必要な場合に表示されます。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - 廃トナーボックスの交換** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - 廃トナーボックスの交換**
	用紙切れ	カセットの用紙がなくなった場合に表示されます。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **用紙の準備（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 用紙をセットする - カセットに用紙をセットする** **用紙の準備（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 用紙をセットする - カセットに用紙をセットする**
	用紙づまり	本機機体イラストの、紙づまりが発生したと考えられる場所に表示されます。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - 紙づまりの解除** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - 紙づまりの解除**
	ステイプル切れ	フィニッシャーにステイプル針を補充する必要がある場合に表示されます。エラーの解除方法については、以下の参照先をご覧ください。 **困ったときは（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 機体に関するトラブル - ステイプラーの針の補充** **困ったときは（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 機体に関するトラブル - ステイプラーの針の補充**
	サービスコール	このアイコンが表示された場合は、サービスエンジニアまたは弊社販売店にご連絡ください。

3

[ジョブ]

[ジョブ] の概要説明 24
[印刷ジョブ] 項目説明一覧 24
[ファクス／インターネットファクスジョブ] 項目説明一覧 27
[スキャンジョブ] 項目説明一覧 28
[マルチステーション] 項目説明一覧 29

［ジョブ］の概要説明

印刷ジョブやファクス／インターネットファクスジョブ、スキャンジョブを表示したり、削除することができます。また印刷ジョブの場合は、印刷を直ちに実行することもできます。

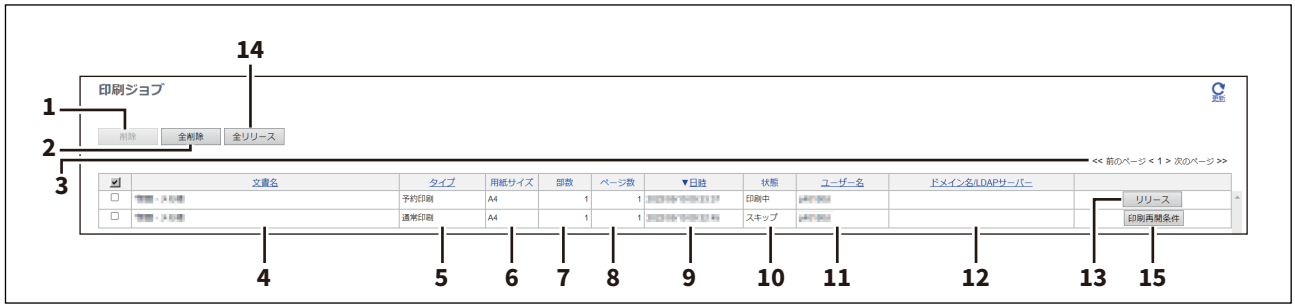
補 足

- ユーザー認証を有効にしている場合、ログインしているユーザーアカウントのジョブを操作できます。ただし、管理権限が設定されているユーザーアカウントの場合は、すべてのジョブを操作できます。
- ページ上部の［更新］をクリックすると、情報を更新します。

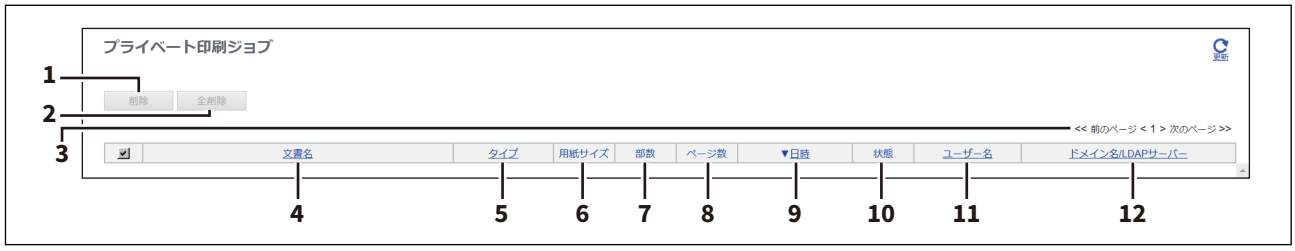
■［印刷ジョブ］項目説明一覧

印刷のジョブページは、印刷ジョブ、プライベート印刷ジョブ、ホールド印刷ジョブに分かれています。
プライベート印刷ジョブ、ホールド印刷ジョブは、アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーアカウントでログインしている場合に選択できます。

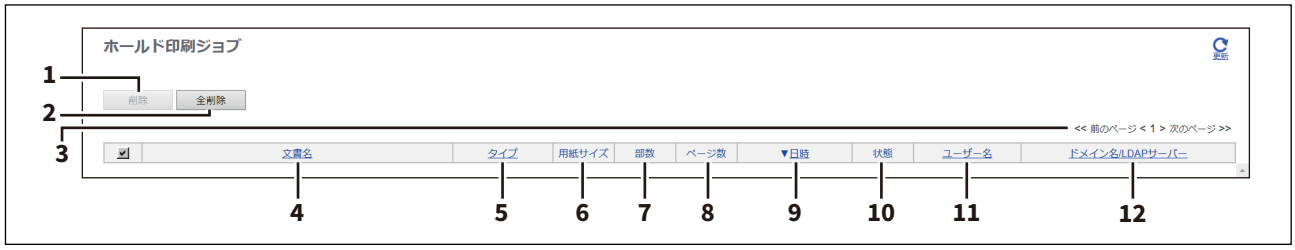
［印刷ジョブ］画面



［プライベート印刷ジョブ］画面



［ホールド印刷ジョブ］画面



	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択した印刷ジョブを削除します。
2	［全削除］ボタン	すべての印刷ジョブを削除します。
3	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
4	文書名	印刷ジョブの文書名を表示します。 機密化設定が有効になっている場合、文書名はアスタリスク（*）10文字で表示されます。 📖 P.108 「機密化設定」

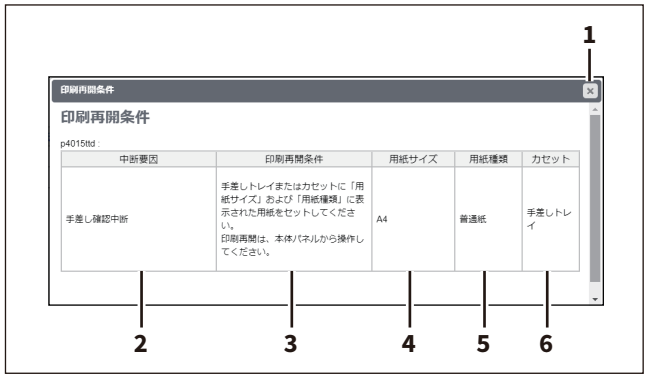
	項目名	機能説明
5	タイプ	プリンタードライバーで設定されたジョブタイプを表示します。 ジョブタイプは、［通常印刷］/［予約印刷］/［プライベート印刷］/［お試し印刷］/［ホールド印刷］/［マルチステーション印刷］（共有印刷）です。
6	用紙サイズ	印刷ジョブに設定された用紙サイズを表示します。
7	部数	印刷ジョブの印刷部数を表示します。
8	ページ数	印刷ジョブの総ページ数を表示します。
9	日時	クライアントコンピューターから印刷ジョブを送信した日時を表示します。 “年/月/日/時/分/秒”で表示されます。 例：2016/12/24 12:34:56
10	状態	印刷ジョブの状態を表示します。 表示される状態は、［実行停止］/［実行待ち］/［処理待ち］/［中断中］/［スキップ］/［実行中］/［印刷中］/［スケジュール］です。
11	ユーザー名	印刷ジョブを所有するユーザーアカウント名を表示します。
12	ドメイン名/LDAPサーバー	印刷ジョブを所有するユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
13	［リリース］ボタン	選択した印刷ジョブが印刷キューに待機中であれば、印刷を実行します。
14	［全リリース］ボタン	全ページの全印刷ジョブを印刷します。
15	［印刷再開条件］ボタン	ジョブスキップ機能を有効にしているときにスキップした印刷ジョブを選択した場合、印刷再開条件の画面を表示します。 📖 P.26 「［印刷再開条件］画面」 📖 P.106 「ジョブ制御」

補 足

- 印刷を完了したジョブは［ログ］に表示されます。
- 該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でジョブ一覧を並べ替えることができます。
- 印刷ジョブページでは、ファクス／インターネットファクスジョブおよびEメール受信印刷ジョブは削除できません。
- プライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブはTopAccessから印刷を実行できません。

□［印刷再開条件］画面

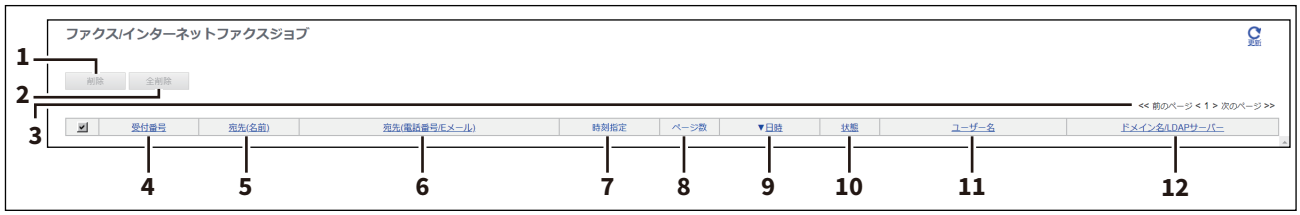
印刷再開の条件を表示します。



	項目名	機能説明
1	［閉じる］ボタン	［印刷再開条件］画面を閉じます。
2	中断要因	印刷が中断した要因を表示します。
3	印刷再開条件	印刷を再開するための方法を表示します。
4	用紙サイズ	印刷を中断したジョブに設定されている用紙サイズを表示します。
5	用紙タイプ	印刷を中断したジョブに設定されている用紙タイプを表示します。
6	カセット	印刷を中断したジョブに設定されている給紙方法を表示します。

■［ファクス／インターネットファクスジョブ］項目説明一覧

ファクス／インターネットファクスジョブページには、以下の情報がファクス／インターネットファクスジョブごとに表示されます。



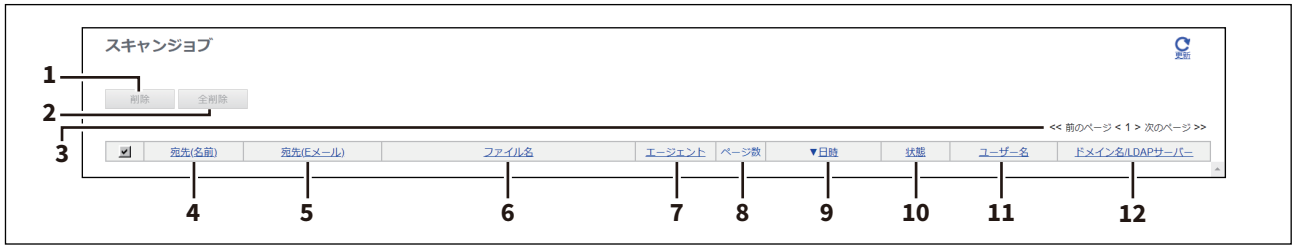
	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択したファクスジョブを削除します。
2	［全削除］ボタン	すべてのファクスジョブを削除します。
3	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
4	受付番号	通信の受付番号（001 ～ 100）を表示します。
5	宛先（名前）	ファクスの宛先の名称を表示します。
6	宛先（電話番号/Eメール）	宛先の電話番号またはEメールアドレスを表示します。
7	時刻指定	ファクス／インターネットファクスジョブの送信予約時間を表示します。
8	ページ数	ファクス／インターネットファクスジョブの総ページ数を表示します。
9	日時	ファクス／インターネットファクスジョブを操作した日時を表示します。 “年/月/日/時/分/秒”で表示されます。 例：2016/12/24 12:34:56
10	状態	ファクス／インターネットファクスジョブの状態を表示します。 表示される状態は、［時刻指定］/［実行待ち］/［回線1］/［回線2］/［ネットワーク］です。
11	ユーザー名	ファクス／インターネットファクスジョブを所有するユーザーアカウント名を表示します。
12	ドメイン名/LDAPサーバー	ファクス／インターネットファクスジョブを所有するユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

補 足

- 送信を完了したジョブは［ログ］に表示されます。
- 該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でジョブ一覧を並べ替えることができます。

■［スキャンジョブ］項目説明一覧

スキャンジョブページには、以下の情報がスキャンジョブごとに表示されます。



	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択したスキャンジョブを削除します。
2	［全削除］ボタン	すべてのスキャンジョブを削除します。
3	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
4	宛先（名前）	Eメール送信されるスキャン文書の宛先（名前）を表示します。
5	宛先（Eメール）	Eメール送信されるスキャン文書の宛先（Eメールアドレス）を表示します。
6	ファイル名	共有フォルダーかUSBに保管またはファイリングボックスに保管のスキャン文書の場合は、ファイル名を表示します。 機密化設定が有効になっている場合、ファイル名はアスタリスク（*）10文字で表示されます。 📖 P.108 「機密化設定」
7	エージェント	スキャンジョブのエージェントを表示します。 表示されるエージェントは、［Eメール］/［共有フォルダーに保管］/［ファイリングボックスに保管］/［USBに保存］です。
8	ページ数	スキャンジョブの総ページ数を表示します。
9	日時	スキャンジョブが本機の操作パネルから送信された日時を表示します。 “年/月/日/時/分/秒”で表示されます。 例：2016/12/24 12:34:56
10	状態	スキャンジョブの状態を表示します。 表示される状態は、［実行待ち］/［中断中］/［実行中］/［スキャン中］です。
11	ユーザー名	スキャンジョブを所有するユーザーアカウント名を表示します。
12	ドメイン名/LDAPサーバー	スキャンジョブを所有するユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

補 足

- スキャンを完了したジョブは［ログ］に表示されます。
- 該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でジョブ一覧を並べ替えることができます。

■［マルチステーション］項目説明一覧

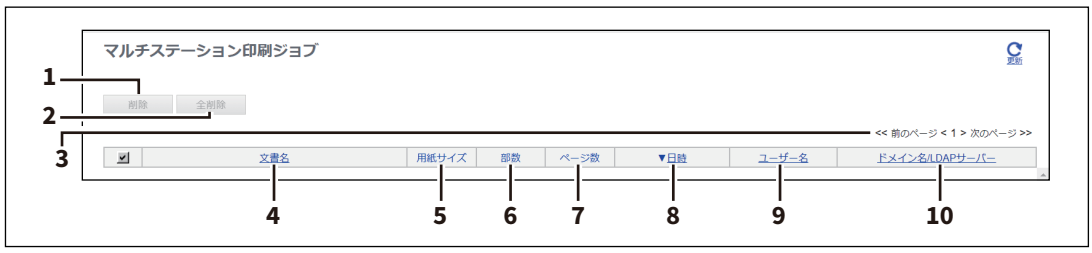
マルチステーション印刷機能で処理する印刷ジョブの情報を、以下の2つのページに分けて表示します。

- **マルチステーション印刷ジョブ**：印刷キューにあるジョブの情報を表示します。
- **マルチステーション再印刷リスト**：印刷したジョブの情報を表示します。

アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーアカウントでログインしている場合に選択できます。

注 意

マルチステーション印刷機能を使用するには、マルチステーション印刷オプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。



	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択した印刷ジョブを削除します。
2	［全削除］ボタン	すべての印刷ジョブを削除します。
3	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
4	文書名	印刷ジョブの文書名を表示します。
5	用紙サイズ	印刷ジョブに設定された用紙サイズを表示します。
6	部数	印刷ジョブの印刷部数を表示します。
7	ページ数	印刷ジョブの総ページ数を表示します。
8	日時	クライアントコンピューターから印刷ジョブを送信した日時を表示します。 “年/月/日/時/分/秒”で表示されます。 例：2016/12/24 12:34:56
9	ユーザー名	印刷ジョブを所有するユーザーアカウント名を表示します。
10	ドメイン名/LDAPサーバー	印刷ジョブを所有するユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

4

[ログ]

[ログ] の概要説明 32
[ログ閲覧] 項目説明一覧 32
[ログのエクスポート] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 40
[ログ設定] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 42

［ログ］の概要説明

ジョブの履歴を確認することができます。

注 意

定期的にログをチェックし、なりすましによる本装置への不正アクセスがないことを確認してください。

補 足

- ログは、本機機体の電源を入れてからシャットダウンまで取得します。スーパースリープモードに移行した後もログは取得されます。
- 各ログは新しい順に最大100件まで表示されます。101件以上ある場合は、ページを選択します。ログはエクスポートすることで、印刷ログ／送信管理記録／受信管理記録／スキャンログは最大5,000件、メッセージログは最大10,000件まで確認することができます。最大件数を超えたログについては、古いものから削除されます。
- 初期登録ロールのAdministratorとAuditorは、すべてのログを確認することができます。初期登録ロールと権限については、以下の参照先をご覧ください。
  📖 P.86 「初期登録ロールと権限」
- ユーザー認証を有効にしている場合、ログインしているユーザーアカウントのログを確認できます。
  また、初期登録ロールのAdministratorとAuditorが割り当てられているユーザーアカウントの場合は、すべてのログを確認できます。
- ページ上部の［更新］クリックすると、情報を更新します。

■［ログ閲覧］項目説明一覧

□ 印刷ログ

印刷ログページには、以下の情報が印刷ログごとに表示されます。

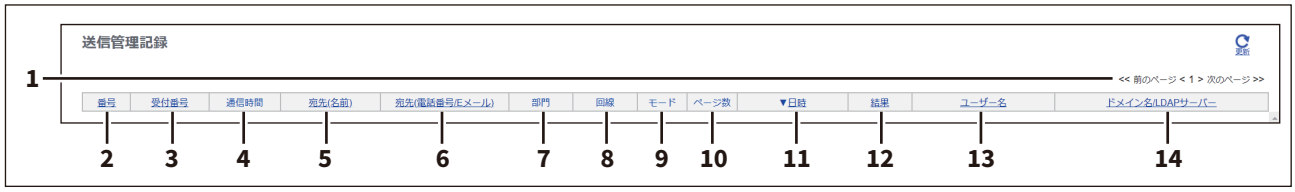
	項目名	機能説明
1	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
2	文書名	印刷ジョブの文書名を表示します。
3	タイプ	印刷ジョブのタイプを表示します。
4	用紙サイズ	印刷ジョブに使用する用紙サイズを表示します。
5	部数	印刷ジョブの印刷部数を表示します。
6	ページ数	印刷ジョブの総ページ数を表示します。
7	日時	クライアントコンピューターから印刷ジョブを送信した日時を表示します。
8	結果	印刷ログの結果を表示します。
9	ユーザー名	印刷ジョブを所有していたユーザーアカウント名を表示します。
10	ドメイン名/LDAPサーバー	印刷ジョブを所有していたユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
11	プロジェクトコード	印刷ジョブのプロジェクトコードを表示します。

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でログ一覧を並べ替えることができます。

□ 送信管理記録

送信管理記録ページには、以下の情報が送信ジャーナルごとに表示されます。



	項目名	機能説明
1	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
2	番号	ログの通番を表示します。
3	受付番号	通信の受付番号を表示します。
4	通信時間	送信に要した時間を表示します。1時間以上の場合は、「59:59」と表示します。
5	宛先（名前）	送信ジョブの宛先の名称を表示します。
6	宛先（電話番号/Eメール）	送信ジョブの宛先ファクス番号またはEメールアドレスを表示します。
7	部門	部門管理機能が有効な場合、部門番号を表示します。
8	回線	使用回線を表示します。
9	モード	送信モード*を表示します。
10	ページ数	送信ジョブの総ページ数を表示します。
11	日時	ファクス／インターネットファクスを操作した時間を表示します。
12	結果	送信結果を表示します。
13	ユーザー名	送信ジョブを所有していたユーザーアカウント名を表示します。
14	ドメイン名/LDAPサーバー	送信ジョブを所有していたユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

＊送信モードは、2桁のアルファベットと3桁の数字、最大4桁の補足記号によって表示されます。
例：EC 603

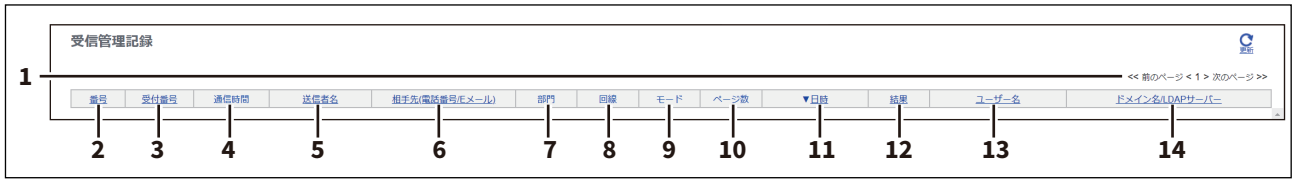
2桁アルファベット 通信モード	3桁目 伝送速度（bps）	2桁目 解像度（pels/mm）	1桁目 符号化方式	最大4桁 補足記号
EC：ECM通信 G3：G3通信 ML：メール通信	0：2400 1：4800 2：7200 3：9600 4：12000 5：14400 6：V.34	0：8×3.85 1：8×7.7 2：8×15.4 4：16×15.4 8：300dpi B：600dpi D：150dpi	0：MH 1：MR 2：MMR 3：JBIG	P：ポーリング通信 SB：Fコード通信 SR/R：Fコード中継同報通信 SF/F：Fコード転送通信 ML：インターネットファクス通信 I：ネットワークファクス通信 O：オフランプゲートウェイ通信

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で送信ジャーナル一覧を並べ替えることができます。

□ 受信管理記録

受信管理記録ページには、以下の情報が受信ジャーナルごとに表示されます。



	項目名	機能説明
1	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
2	番号	ログの通番を表示します。
3	受付番号	通信の受付番号を表示します。
4	通信時間	受信に要した時間を表示します。1時間以上の場合は、「59:59」と表示されます。
5	送信者名	受信ジョブの送信者の名称を表示します。
6	相手先（電話番号/Eメール）	受信ジョブの送信者のファクス番号またはEメールアドレスを表示します。
7	部門	部門管理が有効な場合、部門番号を表示します。
8	回線	使用回線を表示します。
9	モード	受信モード*を表示します。
10	ページ数	受信ジョブの総ページ数を表示します。
11	日時	受信を開始した日時を表示します。
12	結果	受信結果を表示します。
13	ユーザー名	受信ジョブを所有していたユーザーアカウント名を表示します。
14	ドメイン名/LDAPサーバー	受信ジョブを所有していたユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

＊受信モードは、2桁のアルファベットと3桁の数字、最大4桁の補足記号によって表示されます。
例：EC 603

2桁アルファベット 通信モード	3桁目 伝送速度（bps）	2桁目 解像度（pels/mm）	1桁目 符号化方式	最大4桁 補足記号
EC：ECM通信 G3：G3通信 ML：メール通信	0：2400 1：4800 2：7200 3：9600 4：12000 5：14400 6：V.34	0：8×3.85 1：8×7.7 2：8×15.4 4：16×15.4 8：300dpi B：600dpi D：150dpi	0：MH 1：MR 2：MMR 3：JBIG	P：ポーリング通信 SB：Fコード通信 SR/R：Fコード中継同報通信 SF/F：Fコード転送通信 ML：インターネットファクス通信 I：ネットワークファクス通信 O：オンランプゲートウェイ通信

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序で受信ジャーナル一覧を並べ替えることができます。

□ スキャンログ

スキャンログページには、以下の情報がスキャンログごとに表示されます。

	項目名	機能説明
1	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
2	宛先（名前）	Eメール送信されたスキャン文書の宛先（名前）を表示します。
3	宛先（Eメール）	Eメール送信されたスキャン文書の宛先（Eメールアドレス）を表示します。
4	ファイル名	共有フォルダーまたはファイリングボックスに保存されたファイル名が表示されます。 アクセスポリシーにより、表示されない場合があります。
5	エージェント	スキャンジョブのエージェントを表示します。
6	モード	送信モードを6文字のコード*で表示します。
7	ページ数	スキャンジョブの総ページ数を表示します。
8	日時	スキャンジョブが本機の操作パネルから送信された日時を表示します。
9	結果	スキャンジョブの詳細ステータスを表示します。
10	ユーザー名	スキャンジョブを所有していたユーザーアカウント名を表示します。
11	ドメイン名/LDAPサーバー	スキャンジョブを所有していたユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

* 各コードは以下のフォーマットで表示されます。

コードフォーマット：AA B C D E

AA：ジョブタイプを表します。	
CA	コピーと共有フォルダーに保管 コピーしながらファイリングボックスに保管する
CT	コピーしながらファイリングボックスに保管する（印刷なし）
FS	転送箱通信
FF	ファクス受信転送
FE	インターネットファクス受信転送
ST	スキャンしながら共有フォルダーかUSBに保管する スキャンしながらファイリングボックスに保管する スキャンしながらEメール送信する
FA	ファクスと共有フォルダーに保管
PA	印刷とファイリングボックスに保管
PT	印刷しながらファイリングボックスに保管
IA	ネットワークファクスと共有フォルダーに保管
BE	ファイリングボックスからのEメール送信
RS	リモートスキャン
MS	メタスキャン
EN	メールのレポート通知
WS	WSスキャン

RI	結果表を共有フォルダーに保管 結果表をEメール送信
AT	アプリケーション用ストレージに保管

B：通信タイプを表します。	
0	ファイリングボックス
1	Eメール（SMTP）
2	FTP
3	SMB
4	ローカルフォルダーに保管
5	NetWare IPX/SPX
6	USB
7	NetWare TCP/IP
8	FTPS
9	リモートスキャンまたはWeb Serviceスキャン

C：解像度を表します。	
0	100 dpi
1	150 dpi
2	200 dpi
3	300 dpi
4	400 dpi
5	600 dpi
A	8×3.85 （line/mm）（203×98）
B	8×7.7 （line/mm）（203×196）
C	8×15.4 （line/mm）（203×391）
D	16×15.4（line/mm）（400×391）

D：ファイル形式を表します。	
0	ファイリングボックス
1	TIFF（マルチ）
2	TIFF（シングル）
3	PDF（マルチ）または暗号化PDF（マルチ）
4	JPEG
5	PDF（シングル）または暗号化PDF（シングル）
6	高圧縮PDF（マルチ）
7	高圧縮PDF（シングル）
8	XPS（マルチ）
9	XPS（シングル）
A	DIB
B	PDF/A（マルチ）
C	PDF/A（シングル）
D	サーチャブルPDF（マルチ）または暗号化サーチャブル（マルチ）
E	サーチャブルPDF（シングル）または暗号化サーチャブル（シングル）
F	サーチャブル高圧縮PDF（マルチ）

G	サーチャブル高圧縮PDF（シングル）
H	サーチャブルPDF/A（マルチ）
I	サーチャブルPDF/A（シングル）
J	DOCX（マルチ）
K	DOCX（シングル）
L	XLSX（マルチ）
M	XLSX（シングル）
N	PPTX（マルチ）
O	PPTX（シングル）
P	高圧縮PDF/A（マルチ）
Q	高圧縮PDF/A（シングル）
R	サーチャブル高圧縮PDF/A（マルチ）
S	サーチャブル高圧縮PDF/A（シングル）

E：カラーモードを表します。	
B	Black
G	Gray Scale
C	Color
M	Mix

注 意

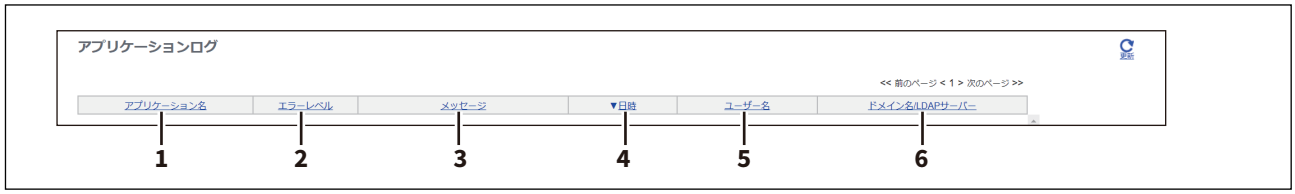
WIA（Windows Image Acquisition）ドライバーを使用してBMP/JPEG/TIFF/PNGファイル形式でスキャンした場合、スキャンログ上のファイル形式はDIBになります。

補 足

該当する表見出しをクリックすると、ページが更新され、指定した順序でログ一覧を並べ替えることができます。

□ アプリケーションログ

アプリケーションログページには、以下の情報がアプリケーションログごとに表示されます。



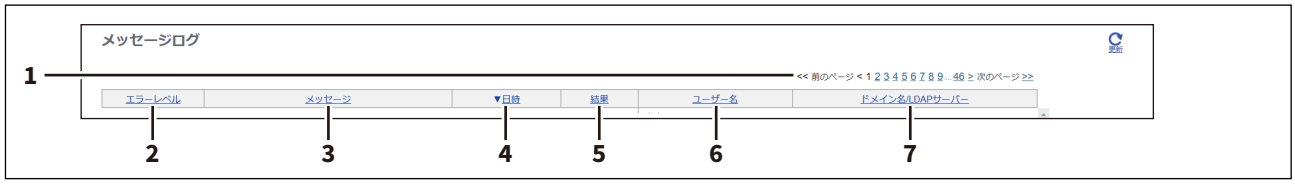
	項目名	機能説明
1	アプリケーション名	エラーが発生したアプリケーション名を表示します。
2	エラーレベル	エラーのレベルを表示します。 **エラー** ：ユーザーによって回避不可能な可能性があるエラー **警告** ：管理者によって回避可能なエラー **情報** ：一般ユーザーによって回避可能なエラー、またはエラーではない
3	メッセージ	メッセージがある場合に表示します。
4	日時	エラーが発生した日時を表示します。
5	ユーザー名	メッセージに関係するユーザーアカウント名を表示します。
6	ドメイン名/LDAPサーバー	メッセージに関係するユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

□ メッセージログ <アクセスポリシーモード>

メッセージログページには、お使いの機種で発生したエラーメッセージが表示されます。

補 足

- アクセスポリシーモードで、管理権限または表示権限が設定されているユーザーアカウントでログインしている場合のみ表示されます。
- 初期登録ロールのAdministratorとAuditorは、すべてのメッセージログを確認することができます。初期登録ロールと権限については、以下の参照先をご覧ください。
  📖 P.86 「初期登録ロールと権限」



	項目名	機能説明
1	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
2	エラーレベル	エラーのレベルを表示します。 **エラー** ：ユーザーによって回避不可能な可能性があるエラー **警告** ：管理者によって回避可能なエラー **情報** ：一般ユーザーによって回避可能なエラー、またはエラーではない
3	メッセージ	メッセージがある場合に表示します。
4	日時	エラーが発生した日時を表示します。
5	結果	エラーコードを表示します。
6	ユーザー名	メッセージに関係するユーザーアカウント名を表示します。
7	ドメイン名/LDAPサーバー	メッセージに関係するユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。

補 足

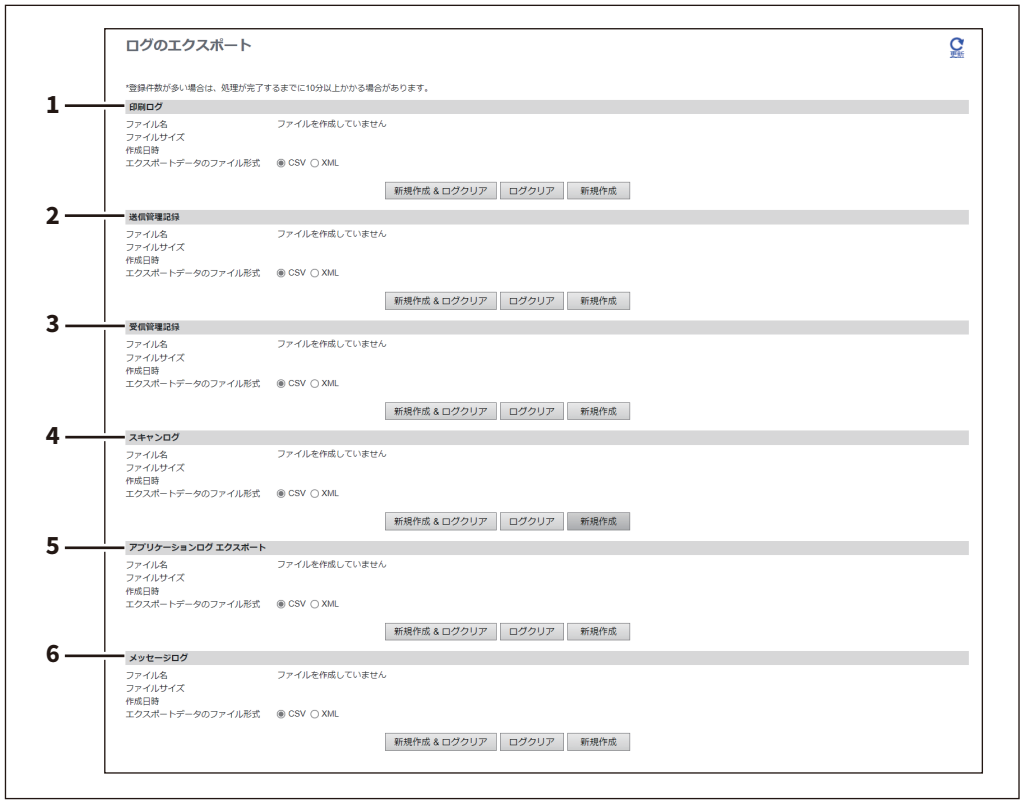
エラーコードとエラーメッセージについては、以下の参照先をご覧ください。
よくあるご質問 - エラーメッセージについてのご質問
よくあるご質問 - エラーコードについてのご質問

■ ［ログのエクスポート］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

ログを消去、またはファイルとしてエクスポートできます。

補 足

- アクセスポリシーモードで、管理権限または表示権限が設定されているユーザーアカウントでログインしている場合のみ表示されます。
- エクスポートデータのファイル形式はCSV形式またはXML形式となります。初期値は［CSV］に設定されています。
- エクスポート可能なログは、印刷ログ／送信管理記録／受信管理記録／スキャンログで最大5,000件、メッセージログで最大10,000件です。最大件数を超えたログについては、古いものから削除されます。



	項目名	機能説明
1	印刷ログ	印刷ログを消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成&ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。

	項目名	機能説明
2	送信管理記録	送信管理記録を消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成&ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。
3	受信管理記録	受信管理記録を消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成&ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。
4	スキャンログ	スキャンログを消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成&ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。
5	アプリケーションログエクスポート	アプリケーションログを消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成&ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。
6	メッセージログ	メッセージログを消去またはファイルとしてエクスポート（ダウンロード）できます。 **新規作成&ログクリア**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。ファイル作成後には、ログを消去します。作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードすることができます。 **ログクリア**：ログを消去します。 **新規作成**：エクスポートデータのファイル形式に従ってファイルを作成します。 作成したファイルをクリックすることで表示またはダウンロードできます。

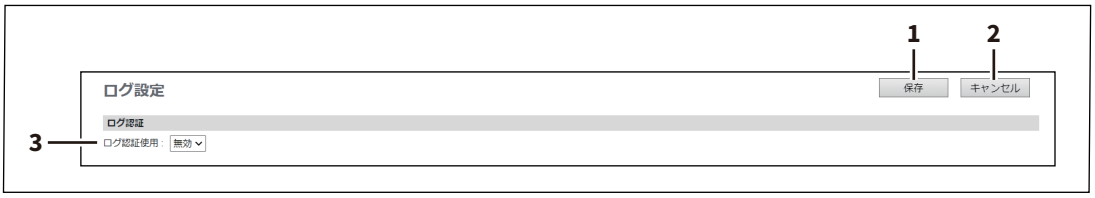
■［ログ設定］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

補 足

アクセスポリシーモードで、管理権限または表示権限が設定されているユーザーアカウントでログインしている場合のみ表示されます。

□ ログ認証

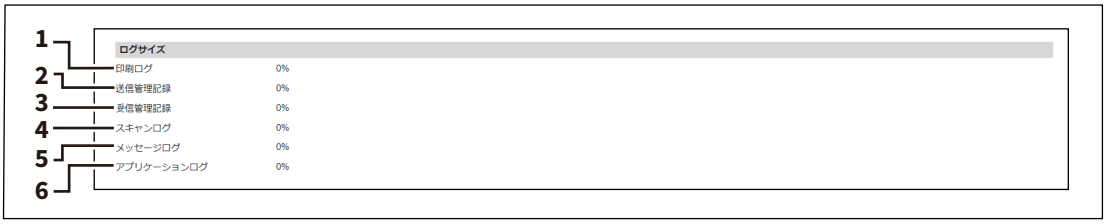
ログ認証を使用するか設定します。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	ログ認証の設定内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	ログ認証使用	ログ認証の使用を設定します。 ログ認証を有効にすると、ユーザーのログ表示をアクセスポリシーに従って制限します。 • **有効**：ログ認証を有効にします。アクセスポリシーに従って表示が制限されます。 • **無効**：ログ認証を無効にします。すべてのユーザーのログが表示されます。

□ ログサイズ

ログに記録されているサイズを表示します。



	項目名	機能説明
1	印刷ログ	印刷ジョブのログサイズを表示します。
2	送信管理記録	送信ジャーナルのログサイズを表示します。
3	受信管理記録	受信ジャーナルのログサイズを表示します。
4	スキャンログ	スキャンジョブのログサイズを表示します。
5	メッセージログ	メッセージログのログサイズを表示します。
6	アプリケーションログ	アプリケーションログのログサイズを表示します。

5

[登録]

[登録] の概要説明 44
共有ホーム 44
共有テーマ設定 44
共有ホーム設定 44
[アドレス帳] 項目説明一覧 44
[Fコード／ファクス受信転送（振分け）] 項目説明一覧 55

［登録］の概要説明

共有ホーム、共有テーマ設定、共有ホーム設定、アドレス帳、Fコード／ファクス受信転送の登録ができます。

■ 共有ホーム

一般ユーザーは［ホーム設定］で許可されている場合にのみ［登録］で［共有ホーム］を設定できます。
📖 P.115 「ホーム設定」
［共有ホーム］については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.309 「共有ホーム」

■ 共有テーマ設定

一般ユーザーは［ホーム設定］で許可されている場合にのみ［登録］で［共有テーマ設定］を設定できます。
📖 P.115 「ホーム設定」
［共有テーマ設定］については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.345 「共有テーマ設定」

■ 共有ホーム設定

一般ユーザーは［ホーム設定］で許可されている場合にのみ［登録］で［共有ホーム設定］を設定できます。
📖 P.115 「ホーム設定」
［共有ホーム設定］については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.346 「共有ホーム設定」

■ ［アドレス帳］項目説明一覧

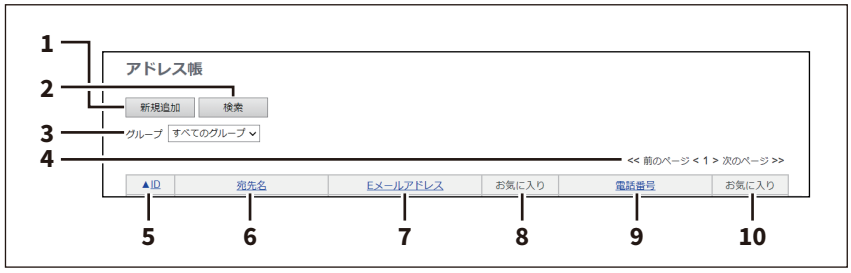
□ ［アドレス帳］画面

Eメール送信、インターネットファクス送信やファクス送信を実行する際に指定する、連絡先リストを管理できます。

補 足

- 「アドレス帳」/「お気に入りアドレス帳」/「グループ」/「お気に入りグループ」をクリックすることで、アドレス帳一覧と複数の連絡先を割り当てたグループ一覧を切り替えて表示することができます。
- アドレス帳の管理は、本機の操作パネルから行うこともできます。操作パネルからアドレス帳を管理する方法については、以下の参照先をご覧ください。
  設定/登録 - 設定項目（ユーザー設定）- アドレス帳 - アドレス帳を管理する

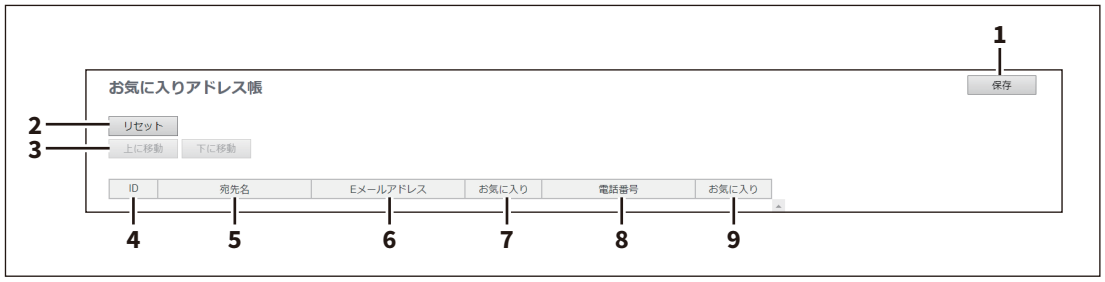
アドレス帳



	項目名	機能説明
1	［新規追加］ボタン	アドレス帳に新しい連絡先を追加します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
2	［検索］ボタン	アドレス帳から連絡先を検索します。 📖 P.52 「［宛先検索］画面」

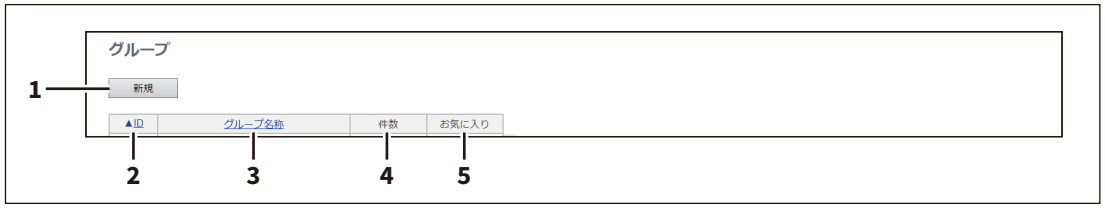
	項目名	機能説明
3	グループ	アドレス帳一覧に表示するグループを、以下またはグループ名称から選択します。 • **すべてのグループ**：すべてのグループを表示します。 • **ローカル**：ローカルアドレス帳を表示します。 • **共通**：共通アドレス帳を表示します。
4	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
5	ID	連絡先の登録ID番号を表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
6	宛先名	連絡先に登録されている名称を表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
7	Eメールアドレス	連絡先に登録されているEメールアドレスを表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
8	お気に入り	Eメールアドレスがお気に入りに設定されている場合にチェックが付きます。
9	電話番号	連絡先に登録されている電話番号を表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
10	お気に入り	電話番号がお気に入りに設定されている場合にチェックが付きます。

お気に入りアドレス帳



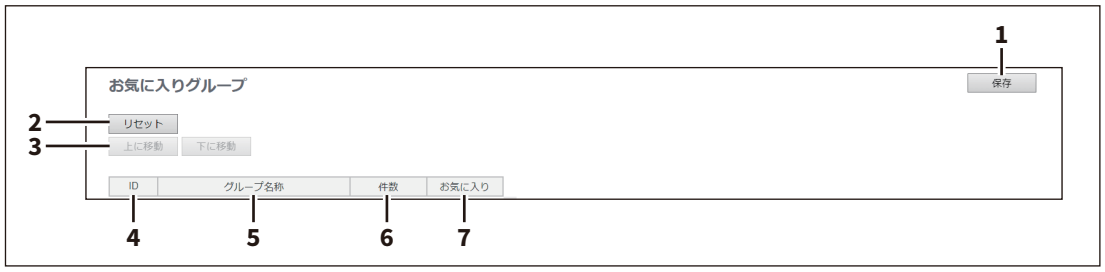
	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定した情報を登録します。
2	［リセット］ボタン	設定した情報を消去します。
3	［上に移動］/［下に移動］ボタン	表内の優先順位を変更します。
4	ID	連絡先の登録ID番号を表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
5	宛先名	連絡先に登録されている名称を表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
6	Eメールアドレス	連絡先に登録されているEメールアドレスを表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
7	お気に入り	Eメールアドレスがお気に入りに設定されている場合にチェックが付きます。
8	電話番号	連絡先に登録されている電話番号を表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
9	お気に入り	電話番号がお気に入りに設定されている場合にチェックが付きます。

グループ



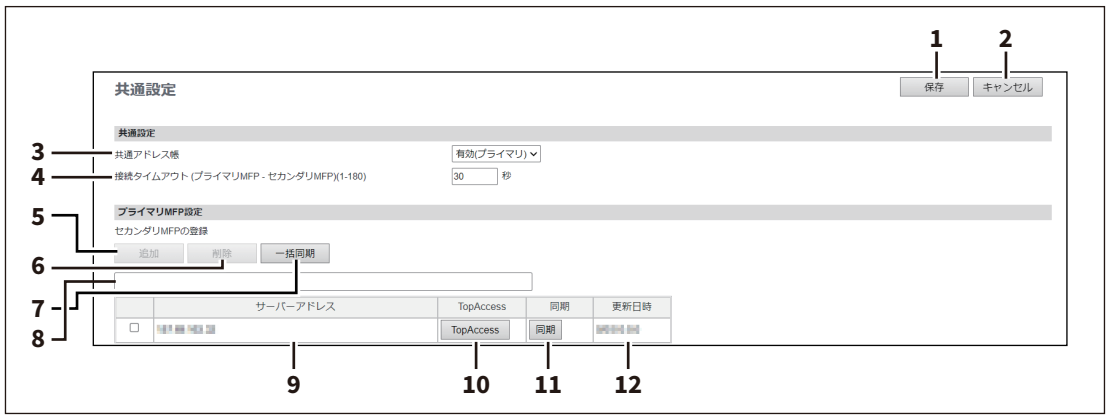
	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	新しいグループを追加します。 📖 P.54 「［グループ情報作成］/［グループ情報編集］画面」
2	ID	グループの登録ID番号を表示します。 📖 P.54 「［グループ情報作成］/［グループ情報編集］画面」
3	グループ名称	グループに登録されている名称を表示します。 📖 P.54 「［グループ情報作成］/［グループ情報編集］画面」
4	件数	グループに登録されているアドレス帳の件数を表示します。
5	お気に入り	グループがお気に入りに設定されている場合にチェックが付きます。

お気に入りグループ



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定した情報を登録します。
2	［リセット］ボタン	設定した情報を消去します。
3	［上に移動］/［下に移動］ボタン	表内の優先順位を変更します。
4	ID	グループの登録ID番号を表示します。 📖 P.54 「［グループ情報作成］/［グループ情報編集］画面」
5	グループ名称	グループに登録されている名称を表示します。 📖 P.54 「［グループ情報作成］/［グループ情報編集］画面」
6	件数	グループに登録されているアドレス帳の件数を表示します。
7	お気に入り	グループがお気に入りに設定されている場合にチェックが付きます。

共通設定



注 意

［MFP連携］＞［共通アドレス帳］で［共通設定を使用］を選択している場合、この画面でセカンダリMFPの登録や削除はできません。

📖 P.231 「共通アドレス帳」

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定した情報を登録します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	共通アドレス帳	他のMFPと共通アドレス帳を同期管理をする場合に、本機をプライマリとするかセカンダリとするかを設定します。 • **無効**：同期しません。 • **有効（プライマリ）**：本機をプライマリとして同期します。 • **有効（セカンダリ）**：本機をセカンダリとして同期します。 **注 意** 複数のMFPの中から1台のMFPを選択してそのMFPで［有効（プライマリ）］を選択します。その他のMFPでは必ず［有効（セカンダリ）］を選択してください。その結果、プライマリMFPのアドレス帳をセカンダリMFPで共有できます。
4	接続タイムアウト	プライマリMFPとセカンダリMFPが接続できない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。
5	［追加］ボタン	新しいセカンダリMFPを追加します。 直下の入力ボックスに同期対象のセカンダリMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力し、［追加］ボタンをクリックして登録します。最大10台まで登録できます。
6	［削除］ボタン	セカンダリMFP一覧で選択しているMFPを削除します。
7	［一括同期］ボタン	すべてのセカンダリMFPをプライマリMFPと同期して、アドレス帳を共有します。
9	入力ボックス	セカンダリMFPを登録するときに、IPアドレスまたはホスト名を入力します。
9	サーバーアドレス	追加したセカンダリMFPのアドレスを表示します。
10	［TopAccess］ボタン	TopAccessを起動します。
11	［同期］ボタン	セカンダリMFPをプライマリMFPと同期して、アドレス帳を共有します。
12	更新日時	前回の更新日時を表示します。

インポート

他の機器のアドレス帳や、異なるアドレス帳プログラムからCSV形式またはXML形式でエクスポートされたアドレス情報をインポートすることができます。
アドレス帳のインポート方法は、本機に登録済みのアドレス帳にインポートしたアドレス帳の情報を追加する方法と、登録済みのアドレス帳をすべて削除してインポートしたアドレス帳の情報に書き換える方法があります。
アドレス帳データを作成する場合は、CSV形式/XML形式でアドレス帳をエクスポートしてから編集することをお勧めします。

注 意

各項目の指定されている文字数を超える場合および使用できない文字を入力している場合は、アドレス帳をインポートできません。

- 姓：全角で32文字
- 名：全角で32文字
- 索引：全角カタカナで64文字
- Eメールアドレス：半角英数字で192文字
- 電話番号：半角数字で128文字
- 電話番号2：半角数字で128文字
- 会社名：全角で64文字
- 部署名：全角で64文字
- 備考：256文字
- SUB：20文字
- SID：20文字
- SEP：20文字
- PWD：20文字

補 足

インポートしたアドレス帳のデータによっては、グループデータが含まれない場合があります。

	項目名	機能説明
1	インポート方式	アドレス帳のインポート方式を設定します。 **追加**：登録済みのデータにインポートした情報を追加します。 **上書き**：登録済みのデータをすべて削除してインポートした情報に書き換えます。
2	アドレス帳タイプ	共通アドレス帳機能を使用しているときは、インポート対象として「ローカル」、「共通」を選択します。
3	お気に入り	お気に入りの情報を有効にするかどうかを設定します。初期値は［有効］に設定されています。
4	ファイル名	インポートするアドレス帳のファイルを選択します。 **［ファイルの選択］ボタン**：アドレス帳のファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択したアドレス帳のファイルをインポートします。

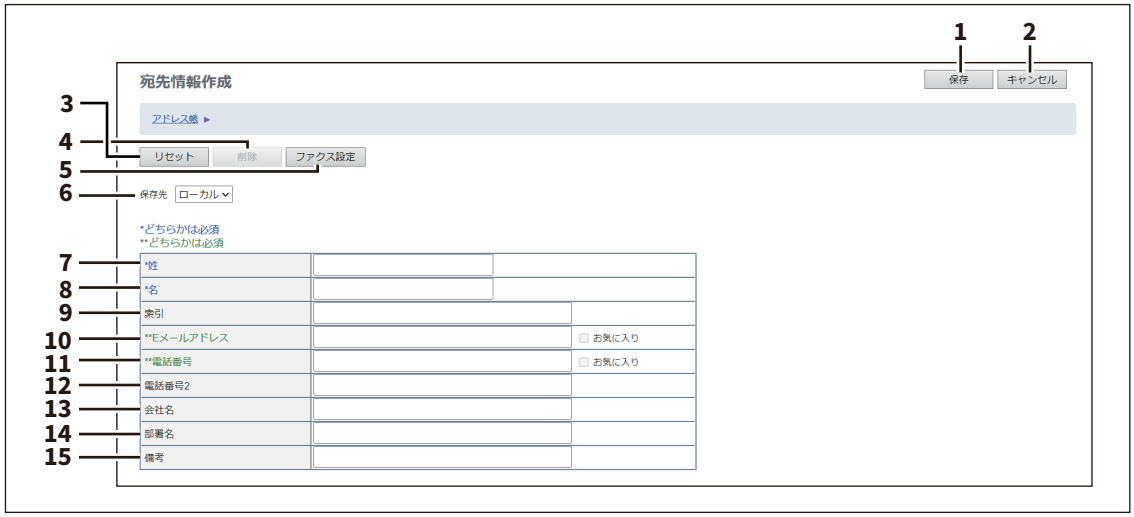
エクスポート

補 足

エクスポートしたアドレス帳データによっては、グループデータが含まれない場合があります。

	項目名	機能説明
1	ファイル名	作成済みのエクスポート用ファイルのファイル名を表示します。 ファイル名をクリックするとダウンロードすることができます。
2	ファイルサイズ	作成済みのエクスポート用ファイルのファイルサイズを表示します。
3	作成日時	作成済みのエクスポート用ファイルの作成日時を表示します。
4	エクスポートデータのファイル形式	エクスポートデータのファイル形式を以下から選択します。 • **CSV**形式 • **XML**形式
5	アドレス帳タイプ	共通アドレス帳機能を使用しているときは、エクスポート対象として「ローカル」、「共通」を選択します。
6	お気に入り	お気に入りの情報を有効にするかどうかを設定します。初期値は［有効］に設定されています。
7	［新規作成］ボタン	エクスポート用ファイルを作成します。 補 足 以前にアドレス帳データをエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報がアドレス帳エリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前にエクスポートしたファイルを保存することができます。

□［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面



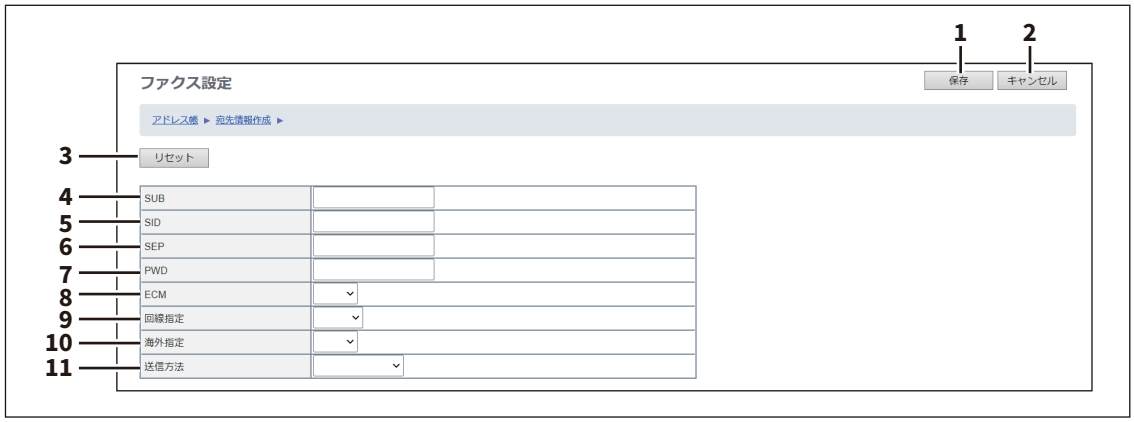
	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した情報を登録します。
2	［キャンセル］ボタン	連絡先の追加や編集を中止します。
3	［リセット］ボタン	各ボックスに入力した情報を消去します。
4	［削除］ボタン	表示している連絡先を削除します。
5	［ファクス設定］ボタン	ファクス用の連絡先を登録します。 📖 P.51 「［ファクス設定］画面」
6	保存先	連絡先をローカルアドレス帳にするか共通アドレス帳にするかを選択します。 **注 意** ［共通設定］＞［共通アドレス帳］を［有効（プライマリ）］または［有効（セカンダリ）］にしているときのみ選択できます。
7	姓	連絡先の姓を入力します。全角半角に関係なく32文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
8	名	連絡先の名を入力します。全角半角に関係なく32文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
9	索引	索引用の文字を入力します。全角半角に関係なく64文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
10	Eメールアドレス	連絡先のEメールアドレスを入力します。半角英数字で192文字まで入力できます。 ［お気に入り］にチェックを付けると、連絡先がお気に入りに設定されます。
11	電話番号	連絡先のファクス番号を入力します。半角数字で128文字まで入力できます。 ［お気に入り］にチェックを付けると、連絡先がお気に入りに設定されます。
12	電話番号2	連絡先の第2ファクス番号を入力します。半角数字で128文字まで入力できます。
13	会社名	連絡先の会社名を入力します。全角半角に関係なく64文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。
14	部署名	連絡先の部門名を入力します。全角半角に関係なく64文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。

	項目名	機能説明
15	備考	連絡先のコメントを入力します。全角半角に関係なく256文字まで入力できます。使用できない文字を入力した場合「！」で置き換えられます。

注 意

- 連絡先を登録するには、［姓］または［名］および、［Eメールアドレス］または［電話番号］のどちらか一方を必ず入力する必要があります。
- ［電話番号］および［電話番号2］には、特別な場合以外は、「-」を含めずに入力してください。（「-」を入れるとポーズが入り3秒間ダイヤルの間隔が空きます。）
- 原稿をファクス送信するには、FAXユニットが必要です。このユニットを装着していない場合は、ファクス番号を設定してもファクス送信を実行することはできません。

□［ファクス設定］画面



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した情報を登録します。
2	［キャンセル］ボタン	ファクスの設定を中止します。
3	［リセット］ボタン	連絡先に設定したファクス設定をデフォルト状態に戻します。
4	SUB	連絡先のファクスのメールボックスへ原稿を送信する場合は、メールボックス番号を入力します。数字と「#」、「*」を使用して20文字まで入力できます。
5	SID	連絡先ファクスのメールボックスへファクスを入力するためのパスワードを入力します。数字と「#」、「*」を使用して20文字まで入力できます。
6	SEP	連絡先ファクスのメールボックスから文書を取り込む場合は、メールボックス番号を入力します。数字と「#」、「*」を使用して20文字まで入力できます。
7	PWD	連絡先ファクスのメールボックスから文書を取り込むためのパスワードを入力します。数字と「#」、「*」を使用して20文字まで入力できます。
8	ECM	ECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正方式）を有効にするか、無効にするかを選択します。［ON］を選択した場合、電話回線のノイズや歪みに影響を受けエラーとなった原稿部分を自動的に再送信するので、画像の乱れのない通信を可能にします。
9	回線指定	使用回線を指定するかを選択します。空欄を選択すると、自動的に使用回線を選択します。ただし、［回線2］は回線増設ユニットがインストールされている場合にのみ、適用されます。

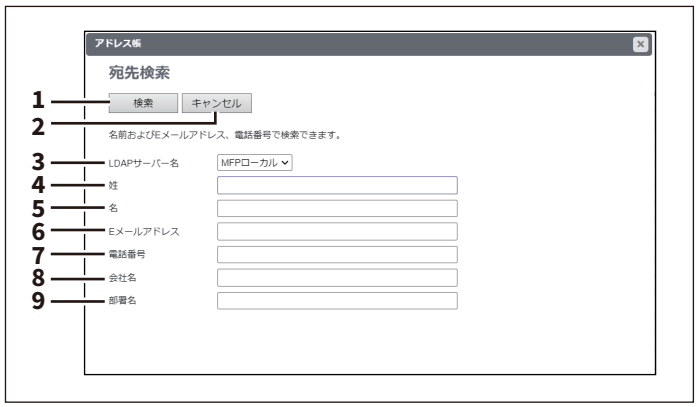
	項目名	機能説明
10	海外指定	文書を海外指定モードで送信するかを選択します。［ON］を選択した場合、通常より遅いスピードで文書を送信し、回線の影響を受けにくくします。
11	送信方法	文書を［メモリ送信］モードで送信するか、または［ダイレクト送信］モードで送信するかを選択します。

□［宛先検索］画面

LDAPサーバーで連絡先を検索し、その連絡先を本機のアドレス帳に追加します。

補 足

LDAP検索を利用するには、ディレクトリサービスがアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーによってセットアップされている必要があります。LDAP検索を操作する前に、ディレクトリサービスがセットアップされているかをご確認ください。



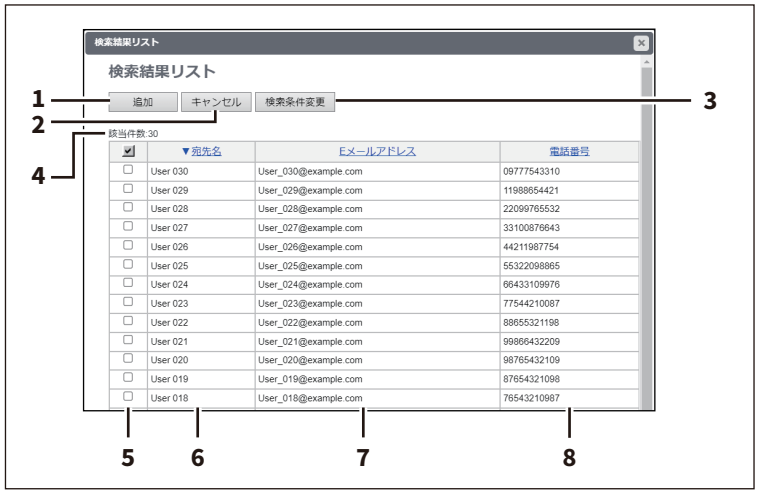
	項目名	機能説明
1	［検索］ボタン	入力した内容で連絡先を検索します。 📖 P.53 「［検索結果リスト］画面」
2	［キャンセル］ボタン	宛先検索を中止します。
3	LDAPサーバー名	検索に使用するLDAPサーバーを選択します。
4	姓	検索条件を入力します。
5	名	
6	Eメールアドレス	
7	電話番号	
8	会社名	
9	部署名	

補 足

- ［LDAPサーバー名］ボックスから「MFPローカル」を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む連絡先が、TopAccessによって検索されます。
- 空欄にした項目は無視され、入力した項目だけを用いて検索します。ただし、少なくとも1つのボックスには文字や文字列を入力する必要があります。

□［検索結果リスト］画面

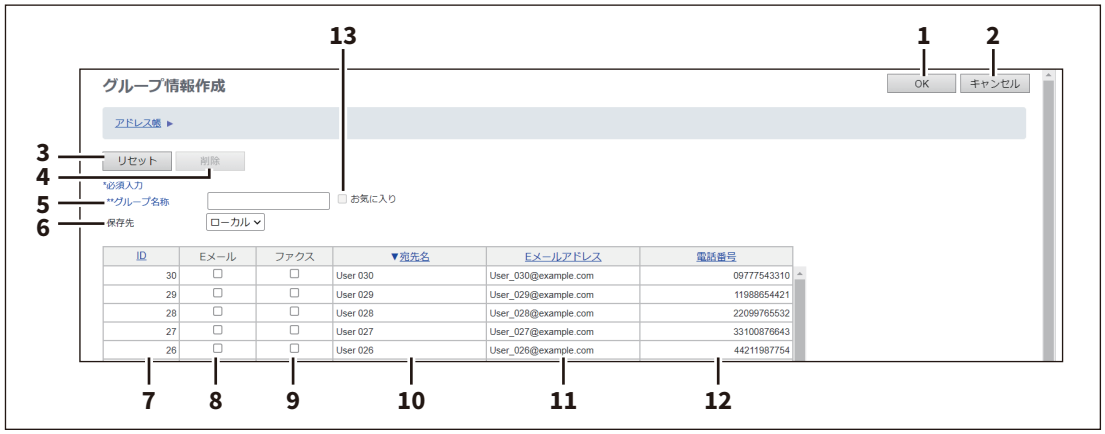
検索結果リストから選択して、アドレス帳に追加します。



	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	検索結果リストで選択されている連絡先をアドレス帳に追加します。
2	［キャンセル］ボタン	検索結果リスト表示を中止します。
3	［検索条件変更］ボタン	［宛先検索］画面に戻ります。検索条件を変更して、再度検索できます。
4	該当件数	検索された連絡先の件数を表示します。
5	チェックボックス	アドレス帳に登録する連絡先をチェックします。
6	宛先名	検索結果を表示します。
7	Eメールアドレス	
8	電話番号	

□［グループ情報作成］/［グループ情報編集］画面

複数の連絡先を割り当てたグループを作成します。
グループ機能を使用すれば、Eメール送信やインターネットファクス送信、ファクス送信を複数の連絡先へ実行する際に、それらの連絡先を個別に選択する手間を省くことができます。



	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	選択した連絡先をグループとして登録します。
2	［キャンセル］ボタン	グループ登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	内容をリセットします。
4	［削除］ボタン	表示しているグループを削除します。
5	グループ名称	グループ名称を入力します。全角半角に関係なく20文字まで入力できます。
6	保存先	グループをローカルアドレス帳にするか共通アドレス帳にするかを選択します。 **注 意** ［共通設定］＞［共通アドレス帳］を［有効（プライマリ）］または［有効（セカンダリ）］にしているときのみ選択できます。
7	ID	連絡先の登録ID番号を表示します。
8	Eメール	連絡先にEメールの情報が設定されている場合、Eメールアドレスをグループ登録するときに選択します。
9	ファクス	連絡先に電話番号の情報が設定されている場合に、ファクス番号をグループ登録するときに選択します。
10	宛先名	連絡先に登録されている宛先名が表示されます。
11	Ｅメールアドレス	連絡先に登録されているEメールアドレスが表示されます。
12	電話番号	連絡先に登録されている電話番号が表示されます。
13	お気に入り	チェックを付けると、グループがお気に入りに設定されます。

■ [Fコード／ファクス受信転送（振分け）] 項目説明一覧

Fコード通信とは、Fコード通信機能に対応したファクス機器どうしで通信する機能であり、メールボックスを使用して原稿の登録や取り出しを行うことができます。
Fコード通信に使用するメールボックスには親展/掲示板/転送の3種類があり、これらは事前に設定しておく必要があります。また、機密性を確保するため、すべてのメールボックスに対してパスワードを設定することができます。

注 意

メールボックスを管理するには、FAXユニットが本機に装着されている必要があります。

補 足

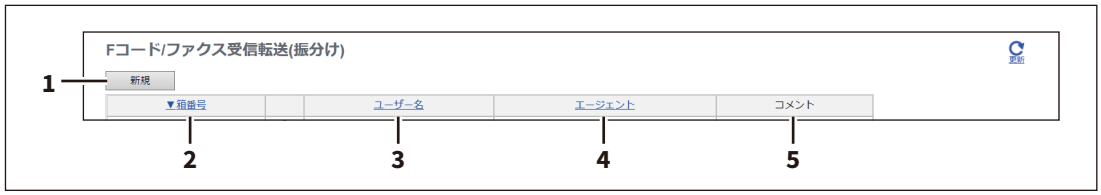
メールボックスの管理は、本機の操作パネルから行うことができます。操作パネルからメールボックスを管理する方法については、以下の参照先をご覧ください。
ファクス - FAXユニットを使う（便利な使いかた）- Fコード通信機能を使う - メールボックスを開設/修正/削除する（Fコード通信）

□ [Fコード／ファクス受信転送（振分け）] 画面

Fコード通信に使用するメールボックスを管理できます。
Fコード通信を使用するには、メールボックス局をセットアップする必要があります。最大300個のメールボックスをセットアップすることができます。
設定したメールボックスは削除することもできます。

注 意

削除するメールボックスに文書が存在する場合は、この操作は、そのメールボックスから文書を取り込む、印刷するまでは削除するまで実行することはできません。



	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	Fコード用のメールボックスを新規作成します。 P.56 「［Fコード設定］画面」
2	箱番号	登録されているボックス番号を表示します。
3	ユーザー名	登録されているボックスのユーザー名を表示します。
4	エージェント	ボックスに割り当てられているエージェントを表示します。
5	コメント	登録されているコメントを表示します。

□［Fコード設定］画面

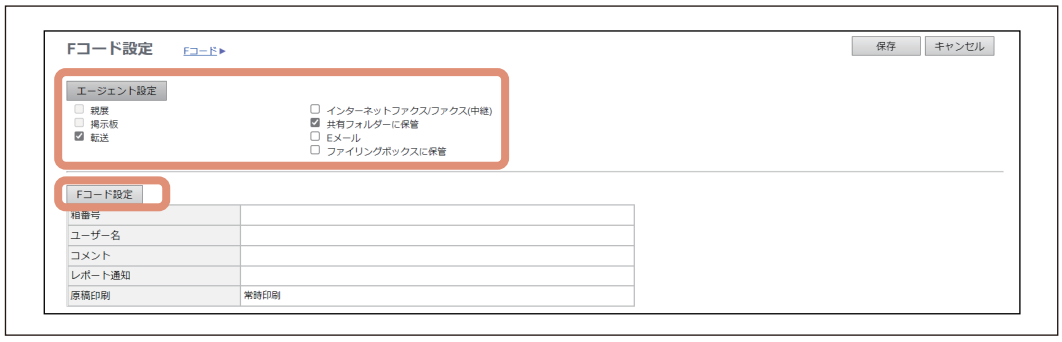
ボックスを設定できます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定したボックスを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	ボックスの設定を中止します。
3	［エージェント設定］ボタン	転送メールボックスに適用するエージェントを設定します。
4	親展	親展のメールボックスを作成します。 親展メールボックスは、1回のみ取り出し可能なファクス原稿を保管する場合に使用します。メールボックスから原稿を取り出すと、メモリに保存されている原稿を消去します。同じボックス番号で登録をすると、前の原稿に追加して保存します。 📖 P.57 「Fコード設定（メールボックス）」
5	掲示板	掲示板のメールボックスを作成します。 掲示板メールボックスは、繰り返し取り出し可能なファクス原稿を保管する場合に使用します。メールボックスから原稿を取り出しても、メモリに保存されている原稿は消えません。同じボックス番号で登録をすると、新しい原稿に書き換えられます。 📖 P.57 「Fコード設定（メールボックス）」
6	転送	中継同報のメールボックスを作成します。選択した場合は、［インターネットファクス／ファクス（中継）］［共有フォルダーに保管］［Eメール送信］［ファイリングボックスに保管］から中継同報に使用するエージェントを選択します。 転送メールボックスは、ファクス原稿を指定した宛先に自動的に転送したい場合に使用します。
7	インターネットファクス／ファクス（中継）	インターネットファクスまたはファクスへの中継同報メールボックスを作成します。このエージェントは、共有フォルダーに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。 📖 P.57 「Fコード設定（メールボックス）」 📖 P.59 「宛先設定（メールボックス）」 📖 P.59 「インターネットファクス設定（メールボックス）」 📖 P.59 「結果送信宛先（メールボックス）」
8	共有フォルダーに保管	共有フォルダー転送メールボックスを作成します。このエージェントは、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェント、Eメール送信エージェント、ファイリングボックスに保管エージェントのどれかと組み合わせてセットアップすることができます。 📖 P.57 「Fコード設定（メールボックス）」 📖 P.60 「共有フォルダーに保管設定（メールボックス）」
9	Eメール	Eメール転送メールボックスを作成します。このエージェントは、共有フォルダーに保管エージェントまたはファイリングボックスに保管エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。 📖 P.57 「Fコード設定（メールボックス）」 📖 P.60 「Eメール設定（メールボックス）」

	項目名	機能説明
10	ファイリングボックスに保管	ファイリングボックス転送メールボックスを作成します。このエージェントは、インターネットファクス／ファクス（中継）エージェント、共有フォルダーに保管エージェント、またはEメール送信エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。 P.57「Fコード設定（メールボックス）」 P.60「ボックス設定（メールボックス）」

□ Fコード設定（メールボックス）

Fコード用のメールボックスを新規に作成する場合は、エージェントを設定するとFコードを設定するための画面が表示されます。［Fコード設定］をクリックして設定ウィンドウを開き、操作を続けます。



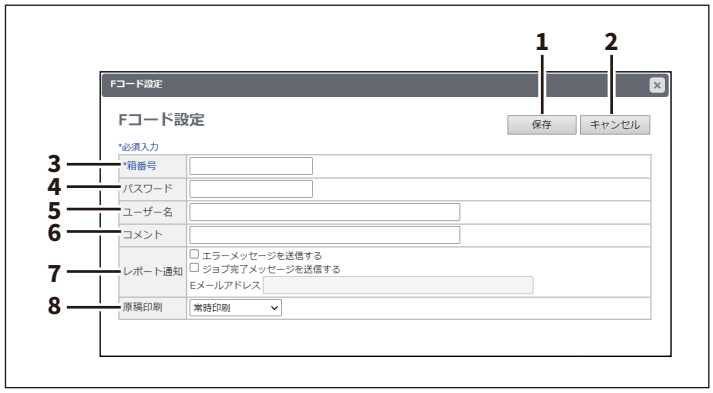
補 足

- メールボックスは、後で編集または削除できます。
- メールボックスにパスワードを設定している場合は、操作にパスワードの入力が必要です。

Fコード設定ページでは、ボックス番号、パスワード、所有者、コメントや通知設定など、全般的な情報をセットアップすることができます。

注 意

- 親展ボックスまたは掲示板ボックスを作成する場合は、［レポート通知］および［原稿印刷］は表示されません。
- 相手先の登録と自局の設定が一致しないとFコード通信はできません。ボックス番号を入力する前に、相手先のボックス番号、自局番号がどのように登録されているかを通信管理記録で確認してください。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	メールボックスの設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定操作を中止します。

	項目名	機能説明
3	箱番号	メールボックスのボックス番号を入力します。半角の数字、#、*を含め、20文字まで入力できます。 また、転送メールボックスを作成している場合は、相手先のファクス番号を入力して、受信ファクス転送（送信者情報）機能を設定することもできます。相手先のファクス番号（相手先が自局番号として登録した番号）を指定した場合、指定したファクス番号から受信したファクス原稿は、メールボックスに設定された転送先へ転送されます。 注 意 • 受信ファクス転送（送信者情報）機能は、転送メールボックスにのみ設定することができます。エージェントの選択で［親展］または［掲示板］を選択した場合は、ファクス番号を指定することはできません。 • 指定したファクス番号からボックス番号（またはサブアドレス）が指定されたファクス原稿を受信した場合は、受信ファクス転送（送信者情報）機能を利用せずに指定されたボックス番号（またはサブアドレス）の設定に従って受信ファクスを処理します。 補 足 送信元のファクス番号を箱番号とした転送メールボックスを作成し、TSI（送信者情報）および発信電話番号（ナンバーディスプレイ利用時のみ）転送機能を利用することができます。この機能は、箱番号に該当する送信元からの原稿をあらかじめ設定したエージェント（共有フォルダーへ保管/Eメール送信/ファイリングボックスへ保管）に従って転送する機能です。
4	パスワード	メールボックスをパスワードで保護する場合は、パスワードを入力します。半角の数字、#、*を含め、20文字まで入力できます。
5	ユーザー名	メールボックスの所有者を入力します。半角／全角にかかわらず30文字まで入力できます。
6	コメント	コメントを入力します。半角／全角にかかわらず30文字まで入力できます。
7	レポート通知	レポート通知の方法を設定します。 **エラーメッセージを送信する**：エラーが発生した場合に、指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。 **ジョブ完了メッセージを送信する**：ジョブの完了時に、指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。 **Eメールアドレス**：通知メッセージが送信されるEメールアドレスを入力します。半角英数字192文字まで入力できます。 注 意 レポート通知を設定した場合は、TopAccessアクセスポリシーモードの［セットアップ］メニューにある［Eメール設定］サブメニューで、Eメール送信の設定を必ず行ってください。 📖 P.199 「Eメール設定」
8	原稿印刷	このメールボックスに送信される文書を本機で印刷するか選択します。 • **常時印刷**：送信された文書を常に印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：指定したすべての転送がエラーになったときに原稿を印刷します。

□ 宛先設定（メールボックス）

連絡先リストのページでは、ファクスやインターネットファクス中継転送およびEメール転送する宛先を指定します。
Eメール転送エージェントの宛先を指定するときは、Eメールアドレスのみを使用することができます。
ファクス／インターネットファクス（中継）エージェントの宛先を指定するときは、ファクス番号およびEメールアドレスの両方を使用することができます。

宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスやファクス番号を手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。

注 意

ファクス／インターネットファクス（中継）エージェントの宛先を設定する場合は、手動による宛先の設定およびLDAPサービスを使用した宛先の設定はできません。

操作方法は、以下の手順と同じです。
📖 P.317 「宛先設定」

□ インターネットファクス設定（メールボックス）

インターネットファクス設定のページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。
操作方法は、以下の手順と同じです。
📖 P.323 「インターネットファクス設定」

□ 結果送信宛先（メールボックス）

中継孫局結果表を送信する宛先を設定します。

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	中継孫局結果表を送信する設定を追加します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定内容をリセットします。
4	宛先	宛先のEメールアドレスまたはファクス番号を入力します。
5	ファクス種別	宛先にファクス番号を入力した場合は「ファクス種別」で「G3ファクス」、Eメールアドレスを入力した場合は「インターネットファクス」を選択します。
6	宛先一覧	登録されている宛先を一覧表で表示します。送信するEメールアドレスまたはファクス番号を選択します。

注 意

中継孫局結果表の宛先には、複数の宛先を指定することはできません。

□ 共有フォルダーに保管設定（メールボックス）

共有フォルダーに保管設定ページでは、受信したファクスの保存方法および保存先を設定します。
操作方法は、テンプレートの登録と同じです。
操作方法は、以下の手順と同じです。
📖 P.330 「共有フォルダーに保管設定」

注 意

ただし、メールボックスの共有フォルダーに保管設定ページでは、保存先にUSBメディアを指定することはできません。

□ Eメール設定（メールボックス）

Eメール設定のエージェント設定ページでは、Eメール転送文書の本文をセットアップします。
操作方法は、テンプレートの登録と同じです。
操作方法は、以下の手順と同じです。
📖 P.326 「Eメール設定」

□ ボックス設定（メールボックス）

ドキュメントボックス設定のページでは、受信したファクスをファイリングボックスにどのように保存するかを設定します。
操作方法は、以下の手順と同じです。
📖 P.335 「ボックス設定」

6

［カウンター］

［カウンター］の概要説明 62
［カウンター］項目説明一覧 62

［カウンター］の概要説明

［カウンター］では、印刷、コピーおよびスキャンしたページ数の記録を確認できます。

■［カウンター］項目説明一覧

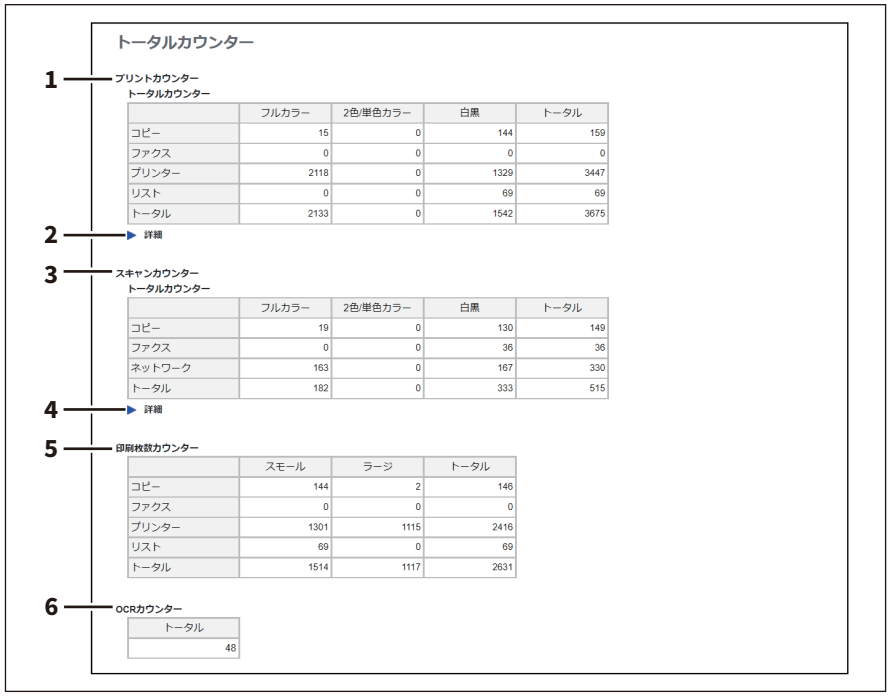
□［トータルカウンター］画面

プリントカウンターとスキャンカウンターのトータルカウンター、スモールサイズとラージサイズ別のトータルカウンターを表示します。

注 意

- ユーザーはトータルカウンターをリセットすることはできません。ただし、アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーは操作パネルからカウンターをリセットすることができます。詳しくは、以下の参照先をご覧ください。
  設定/登録 - カウンターの管理 - 部門管理設定
- 紙づまりやジョブのキャンセルなどのため、トータルカウンターと印刷ログのページ数の総計が一致しない場合があります。
- お使いのOSによっては、トータルカウンターと印刷ログのページ数の総計が一致しない場合があります。
- カウンターの設定によっては、トータルカウンターとそれ以外のカウンターの総計が一致しない場合があります。

カラー機



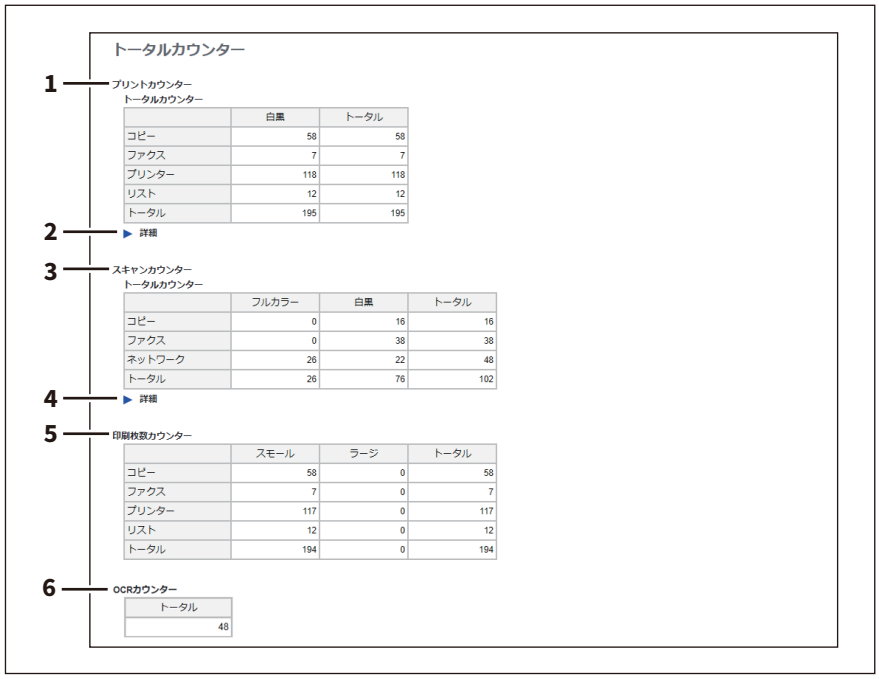
	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
コピー	15	0	144	159
ファクス	0	0	0	0
プリンター	2118	0	1329	3447
リスト	0	0	69	69
トータル	2133	0	1542	3675

	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
コピー	19	0	130	149
ファクス	0	0	36	36
ネットワーク	163	0	167	330
トータル	182	0	333	515

	スモール	ラージ	トータル
コピー	144	2	146
ファクス	0	0	0
プリンター	1301	1115	2416
リスト	69	0	69
トータル	1514	1117	2631

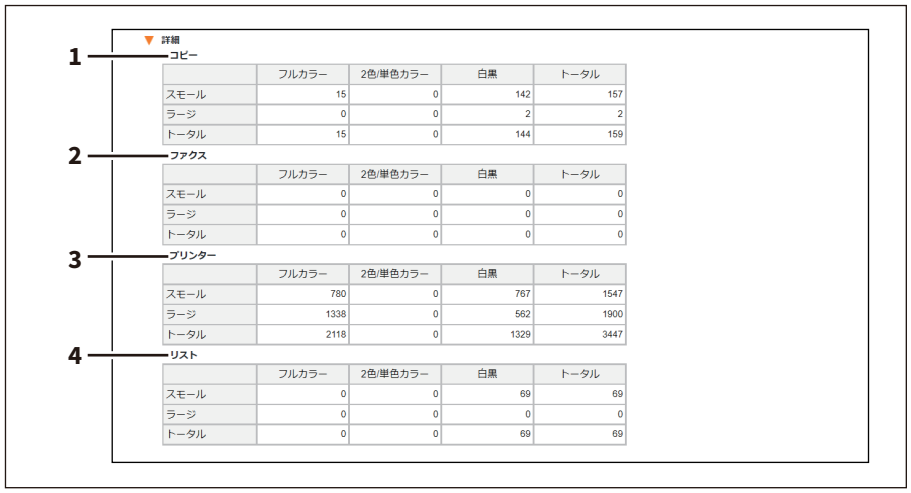
トータル
48

モノクロ機



	カウンターの種類	説明
1	プリントカウンター	出力トータルカウント値を表示します。
2	詳細	[▶] をクリックすると、出力トータルカウント値の詳細を表示します。
3	スキャンカウンター	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
4	詳細	[▶] をクリックすると、スキャンした原稿のトータルカウント値の詳細を表示します。
5	印刷枚数カウンター	機能別の印刷用紙枚数を表示します。用紙1枚の印刷ごとに、片面、両面印刷のいずれにかかわらず、1つカウントが増えます。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
6	OCRカウンター	OCR処理を行った画像枚数を表示します。 補 足 OCRカウンターは、OCRオプション装着時のみ表示されます。

プリントカウンター /プリントカウンター（詳細）



▼ 詳細

1 コピー

	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
スモール	15	0	142	157
ラージ	0	0	2	2
トータル	15	0	144	159

2 ファクス

	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
スモール	0	0	0	0
ラージ	0	0	0	0
トータル	0	0	0	0

3 プリンター

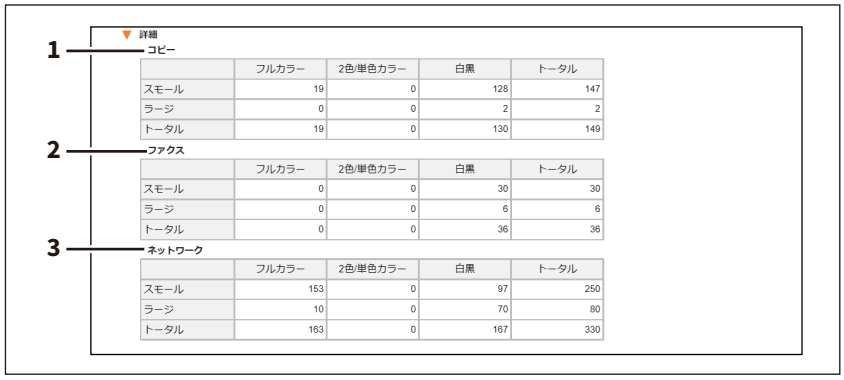
	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
スモール	780	0	767	1547
ラージ	1338	0	562	1900
トータル	2118	0	1329	3447

4 リスト

	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
スモール	0	0	69	69
ラージ	0	0	0	0
トータル	0	0	69	69

	カウンター	説明
1	コピーカウンター	コピー操作で印刷した枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
2	ファクスカウンター	ファクス受信で印刷した枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
3	プリンターカウンター	印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷した枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
4	リストカウンター	システムページ印刷で印刷した枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。

スキャンカウンター /スキャンカウンター（詳細）



▼ 詳細

1 コピー

	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
スモール	19	0	128	147
ラージ	0	0	2	2
トータル	19	0	130	149

2 ファクス

	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
スモール	0	0	30	30
ラージ	0	0	6	6
トータル	0	0	36	36

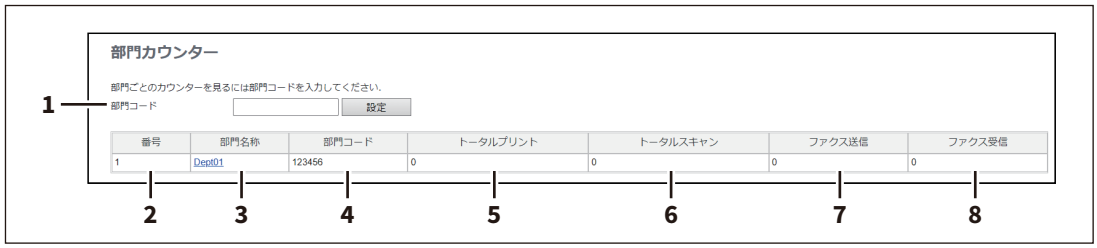
3 ネットワーク

	フルカラー	2色/単色カラー	白黒	トータル
スモール	153	0	97	250
ラージ	10	0	70	80
トータル	163	0	167	330

	カウンター	説明
1	コピーカウンター	コピー操作でスキャンした枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
2	ファクスカウンター	ファクス送信でスキャンした枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
3	ネットワークカウンター	スキャン操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。

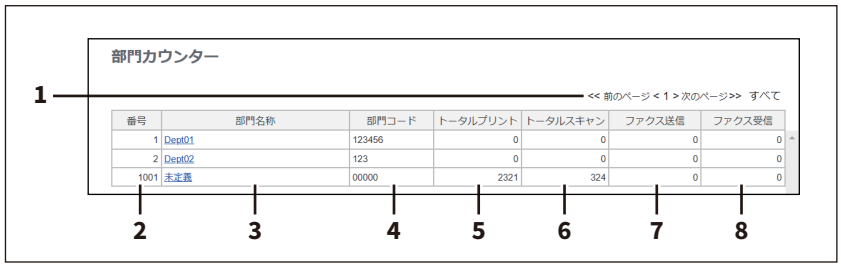
□［部門カウンター］画面

部門ごとのトータルカウンター情報を1ページに20件ずつ表示します。



	項目名	機能説明
1	部門コード	確認したい部門の部門コードを入力し、［設定］ボタンをクリックします。
2	番号	管理部門が登録されている番号を表示します。
3	部門名称	部門名称を表示します。 部門名をクリックすると情報を確認できます。 📖 P.66 「［部門管理情報］画面」
4	部門コード	部門コードを表示します。
5	トータルプリント	出力トータルカウント値を表示します。
6	トータルスキャン	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
7	ファクス送信	ファクス送信した枚数を表示します。
8	ファクス受信	ファクス受信した枚数を表示します。

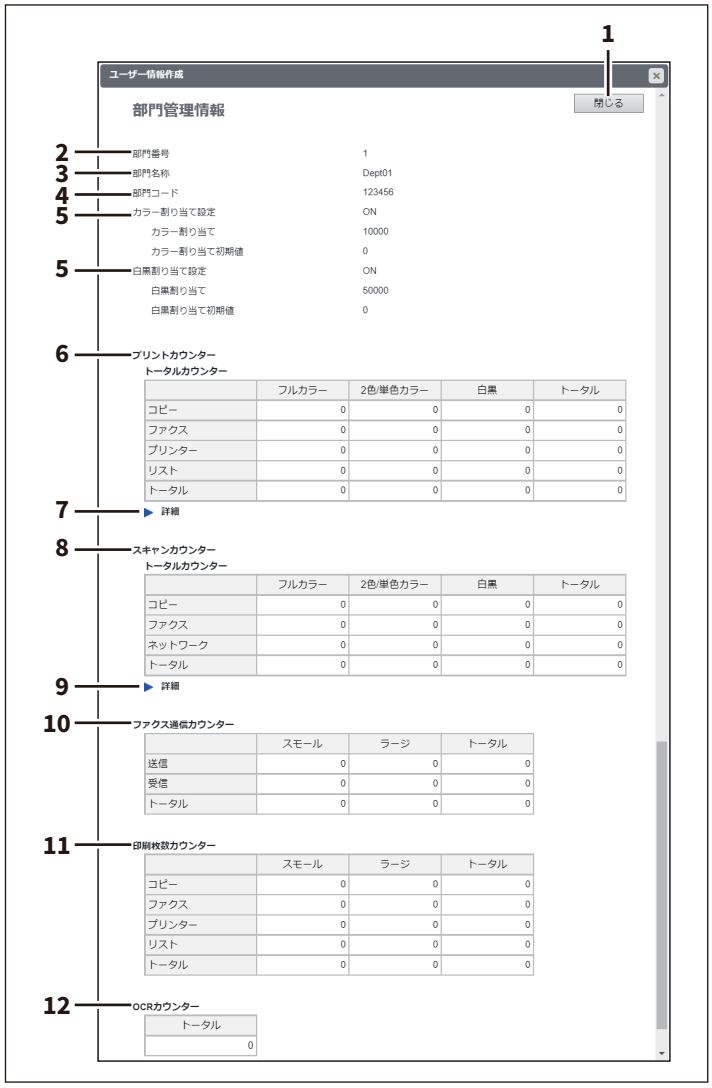
□［部門カウンター］画面 <アクセスポリシーモード>



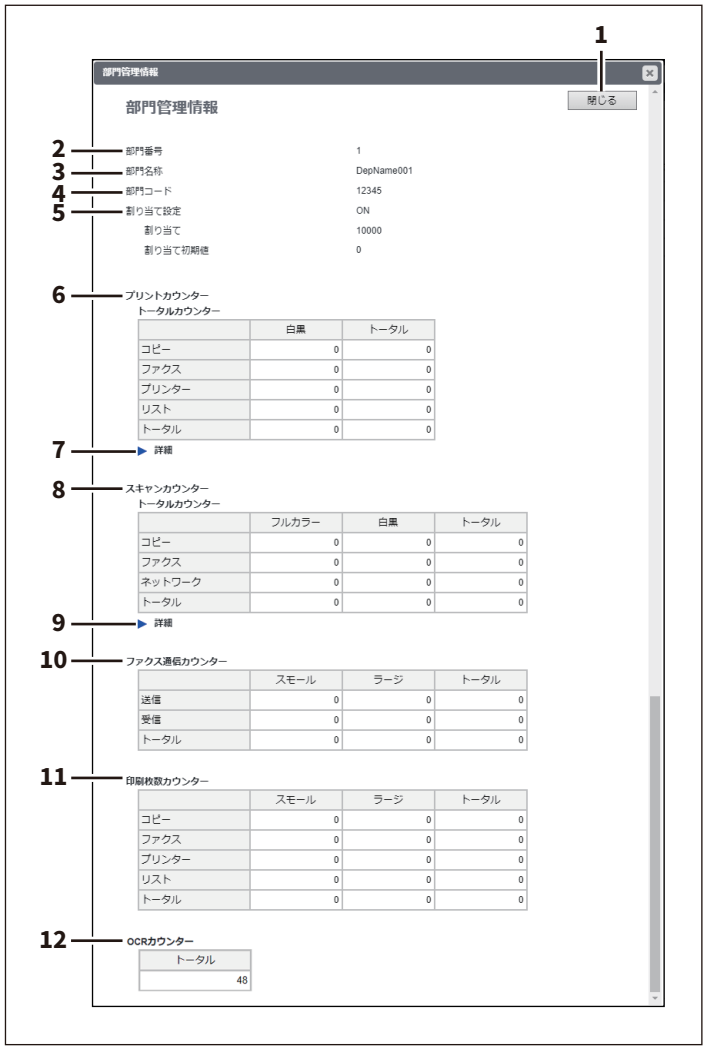
	項目名	機能説明
1	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。［すべて］をクリックすると、すべての部門カウンターを1ページに表示します。
2	番号	管理部門が登録されている番号を表示します。
3	部門名称	部門名称を表示します。 部門名をクリックすると情報を確認できます。 📖 P.66 「［部門管理情報］画面」
4	部門コード	部門コードを表示します。
5	トータルプリント	出力トータルカウント値を表示します。
6	トータルスキャン	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
7	ファクス送信	ファクス送信した枚数を表示します。
8	ファクス受信	ファクス受信した枚数を表示します。

□［部門管理情報］画面

カラー機



モノクロ機



	項目名	機能説明
1	［閉じる］ボタン	［部門管理情報］画面を閉じます。
2	部門番号	管理部門が登録されている番号を表示します。
3	部門名称	部門名称を表示します。
4	部門コード	部門コードを表示します。
5	割り当て設定	• **OFF**：出力制限を行いません。 • **ON**：出力制限を行います。
	割り当て	出力できる残数が表示されます。
	割り当て初期値	ユーザーに割り当てる初期値を表示します。
6	プリントカウンター	出力トータルカウント値を表示します。
7	詳細	[▶] をクリックすると、出力トータルカウント値の詳細を表示します。 **コピーカウンター**：コピー操作で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ファクスカウンター**：ファクス受信で印刷した枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **プリンターカウンター**：印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **リストカウンター**：システムページ印刷で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。

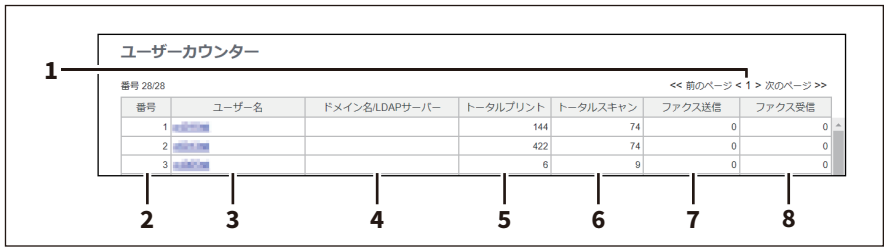
	項目名	機能説明
8	スキャンカウンター	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
9	詳細	[▶] をクリックすると、スキャンした原稿のトータルカウント値の詳細を表示します。 **コピーカウンター**：コピー操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ファクスカウンター**：ファクス操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ネットワークカウンター**：スキャン操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
10	ファクス通信カウンター	通信記録を表示します。
11	印刷枚数カウンター	機能別の印刷用紙枚数を表示します。用紙1枚の印刷ごとに、片面、両面印刷のいずれにかかわらず、1つカウントが増えます。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
12	OCRカウンター	OCR処理を行った画像枚数を表示します。 補 足 OCRカウンターは、OCRオプション装着時のみ表示されます。

□ [ユーザーカウンター] 画面 <アクセスポリシーモード>

ログインしているユーザーごとのトータルカウンター情報を表示します。

補 足

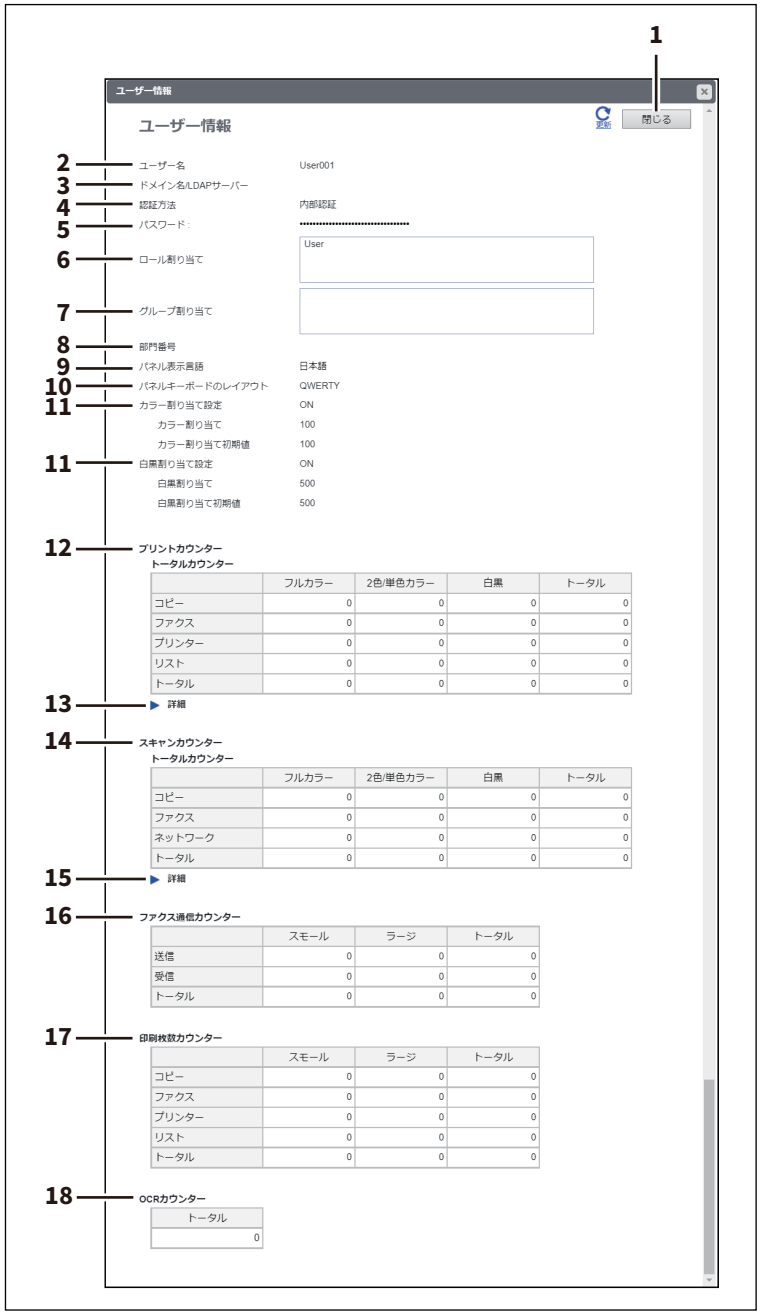
管理者権限でログインしている場合、すべてのユーザーのトータルカウンターが表示されます。



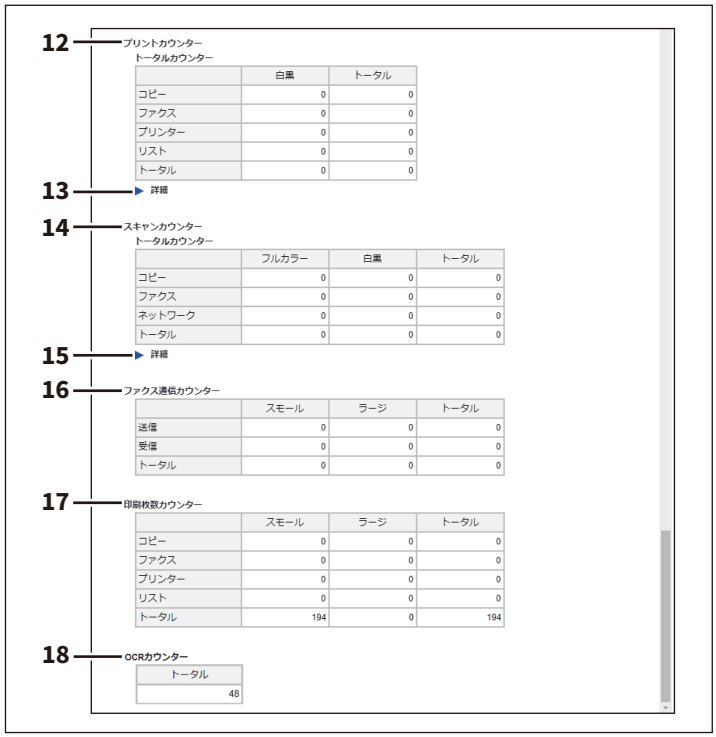
	項目名	機能説明
1	ページ選択	20件以上ある場合に、ページを選択します。
2	番号	ユーザーが登録されている番号を表示します。
3	ユーザー名	ユーザー名称を表示します。 ユーザー名をクリックすると情報を確認できます。 📖 P.69 「[ユーザー情報] 画面 <アクセスポリシーモード>」
4	ドメイン名/LDAPサーバー	ユーザーアカウントのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
5	トータルプリント	出力トータルカウント値を表示します。
6	トータルスキャン	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
7	ファクス送信	ファクス送信した枚数を表示します。
8	ファクス受信	ファクス受信した枚数を表示します。

□［ユーザー情報］画面 <アクセスポリシーモード>

カラー機



モノクロ機

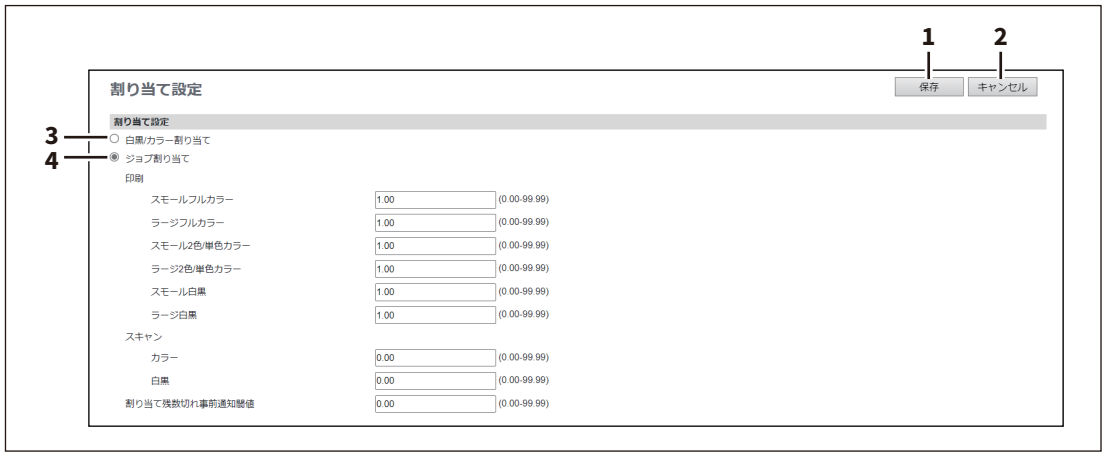


	項目名	機能説明
1	［閉じる］ボタン	［ユーザー情報］画面を閉じます。
2	ユーザー名	ユーザー名を表示します。
3	ドメイン名/LDAPサーバー	登録されているドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
4	認証方法	ユーザーの認証方法を表示します。
5	パスワード	パスワードは表示できません。 パスワードを変更する場合は、［ユーザーアカウント］項目でパスワードをリセットしてください。 📖 P.78 「［パスワード入力］画面」
6	ロール割り当て	登録されているロールを表示します。
7	グループ割り当て	登録されているグループを表示します。
8	部門番号	登録されている部門を表示します。
9	パネル表示言語	登録されているタッチパネルの表示言語を表示します。
10	パネルキーボードのレイアウト	登録されているタッチパネルに表示されるキーボードのパターンを表示します。
11	割り当て設定	• **OFF**：出力制限を行いません。 • **ON**：出力制限を行います。
	割り当て	出力できる残数が表示されます。
	割り当て初期値	ユーザーに割り当てる初期値を表示します。
12	プリントカウンター	出力トータルカウント値を表示します。

	項目名	機能説明
13	詳細	[▶] をクリックすると、出力トータルカウント値の詳細を表示します。 **コピーカウンター**：コピー操作で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ファクスカウンター**：ファクス受信で印刷した枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **プリンターカウンター**：印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **リストカウンター**：システムページ印刷で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
14	スキャンカウンター	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
15	詳細	[▶] をクリックすると、スキャンした原稿のトータルカウント値の詳細を表示します。 **コピーカウンター**：コピー操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ファクスカウンター**：ファクス操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ネットワークカウンター**：スキャン操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
16	ファクス通信カウンター	通信記録を表示します。
17	印刷枚数カウンター	機能別の印刷用紙枚数を表示します。用紙1枚の印刷ごとに、片面、両面印刷のいずれにかかわらず、1つカウントが増えます。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
18	OCRカウンター	OCR処理を行った画像枚数を表示します。 補 足 OCRカウンターは、OCRオプション装着時のみ表示されます。

□［割り当て設定］画面 <アクセスポリシーモード>

印刷枚数による割り当て管理またはジョブによる割り当て管理を設定できます。ジョブによる割り当て管理では、ジョブごとに重み付けを変えてカウントすることもできます。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	割り当て設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	白黒/カラー割り当て	モノクロ出力枚数とカラー出力枚数で、割り当て管理を行います。 補 足 • モノクロ機では［白黒割り当て］と表示され、モノクロ出力枚数で割り当て管理を行います。
4	ジョブ割り当て	ジョブごとに重み付けをして、印刷ジョブとスキャンジョブのトータル割り当てを算出し、割り当て管理を行います。 以下のジョブの重み付けを変えられます。 • 印刷 - スモールフルカラー - ラージフルカラー - スモール2色／単色カラー - ラージ2色／単色カラー - スモール白黒 - ラージ白黒 • スキャン - カラー - 白黒 • 割り当て残数切れ事前通知閾値 割り当て残数が切れる前に通知する閾値を設定します。 補 足 • モノクロ機の印刷では、スモール白黒とラージ白黒の重み付けのみを変更できます。 • 各ジョブの重み付けは 0.00 - 99.99の範囲で変えられます。印刷の初期値は1.00、スキャンの初期値は0.00です。たとえば、印刷のスモール白黒の重み付けを0.50とした場合は、ユーザーがスモール白黒で2枚出力すると、ユーザーの割り当てが1.00減算されます。

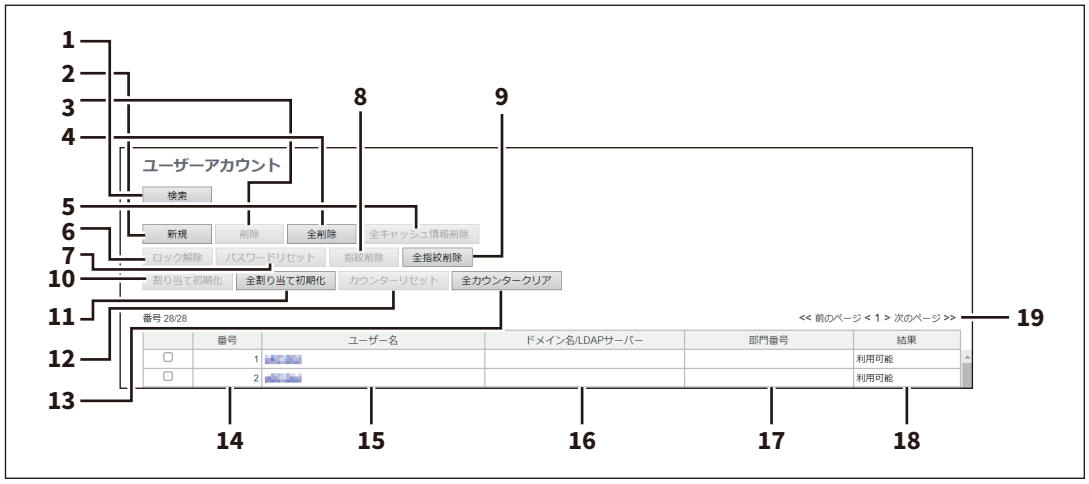
7

[ユーザー管理]

[ユーザー管理] の概要説明 74
[ユーザーアカウント] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 74
[グループ管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 83
[ロール管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 85
[部門管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 91
[プロジェクト管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 95
[エクスポート／インポート] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 96
[共通設定] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード> 98

■［ユーザーアカウント］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、ユーザーアカウントに関する検索や設定ができます。



	項目名	機能説明
1	［検索］ボタン	登録されているユーザーを検索します。 📖 P.75「［ユーザーアカウント検索］画面」
2	［新規］ボタン	新しいユーザー情報を登録します。 📖 P.76「［ユーザー情報作成］画面」
3	［削除］ボタン	ユーザーアカウント一覧で選択しているユーザーを削除します。 初期登録ユーザーは削除できません。
4	［全削除］ボタン	登録されているすべてのユーザーを削除します。（初期登録ユーザーを除く）
5	［全キャッシュ情報削除］ボタン	認証サーバー障害発生時に使用する認証情報を、全部削除します。
6	［ロック解除］ボタン	ユーザーアカウント一覧で選択しているユーザーがロック状態の場合にロックを解除します。
7	［パスワードリセット］ボタン	ユーザーアカウント一覧で選択しているユーザーのパスワードをリセットします。 📖 P.78「［パスワード入力］画面」
8	［指紋削除］ボタン	詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。
9	［全指紋削除］ボタン	詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。
10	［割り当て初期化］ボタン	ユーザーアカウント一覧で選択しているユーザーに設定されている割り当て設定を初期化します。
11	［全割り当て初期化］ボタン	全ユーザーの割り当て設定を初期化します。
12	［カウンターリセット］ボタン	ユーザーアカウント一覧で選択しているユーザーに設定されているカウンターをリセットします。
13	［全カウンタークリア］ボタン	すべての部門に設定されているカウンターをリセットします。
14	番号	ユーザーの登録番号を表示します。 10001～10009は初期登録ユーザーに割り当てられています。
15	ユーザー名	ユーザー名を表示します。 Undefined、Admin、Service、Auditor、Faxope、Guest、Printope、Remote-access-service、IdleScreenPrintは初期登録ユーザーです。 ユーザー名をクリックすると、ユーザー情報を確認することができます。 📖 P.79「［ユーザー情報編集］画面」

	項目名	機能説明
16	ドメイン名/LDAPサーバー	ユーザー情報で登録されているドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
17	部門番号	ユーザー情報で登録されている部門番号を表示します。
18	結果	ユーザーの状態を表示します。
19	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。

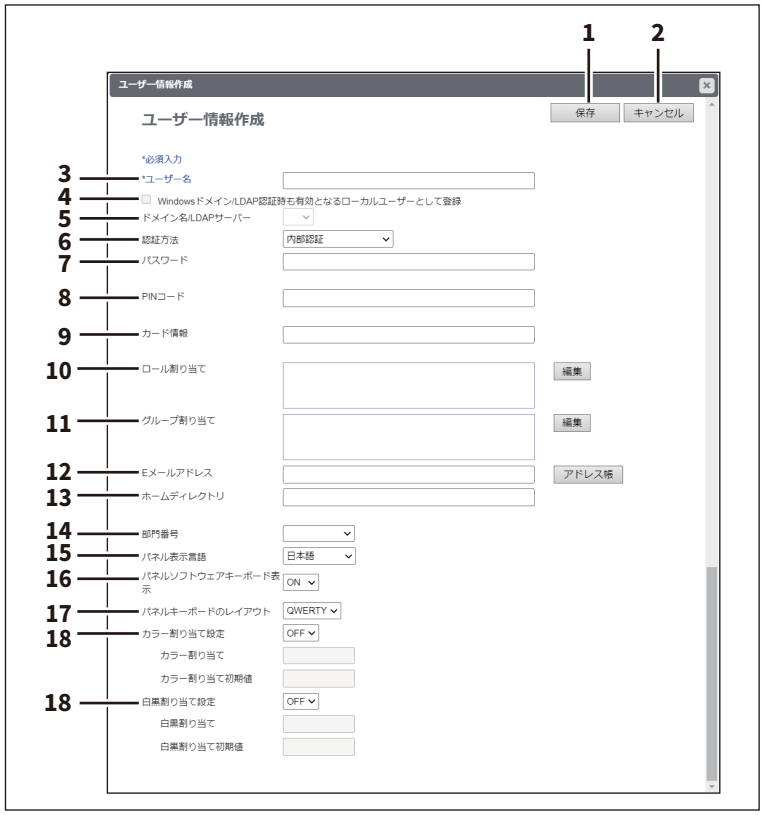
□［ユーザーアカウント検索］画面

登録ユーザーを検索することができます。
検索する項目をチェックして検索条件を入力または選択します。

	項目名	機能説明
1	番号	検索するユーザー番号を入力します。 1～10000の範囲で検索条件を入力します。
2	部門番号	検索する部門番号を選択します。
3	ユーザー名	検索するユーザー名を入力します。 入力した文字列で前方一致検索します。
4	ドメイン名/LDAPサーバー	検索するドメイン名またはLDAPサーバーを入力します。
5	［検索］ボタン	入力/選択した条件でユーザーを検索します。

□［ユーザー情報作成］画面

新しいユーザー情報を登録することができます。

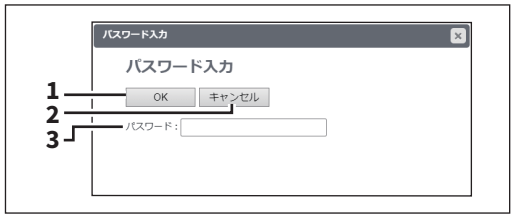


	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容でユーザー情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ユーザー情報作成を中止します。
3	ユーザー名	ユーザー名を入力します。128文字まで入力できます（半角スペースと" * + , / : ; < = > ? [¥] |を除く）。
4	Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザーとして登録	外部認証で管理されているMFPに対し、キャッシュ内情報による内部認証でログインできるローカルユーザーとして登録されます。 **補 足** 「Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザーを登録する」にチェックが入っている場合にのみ設定できます。 📖 P.254 「Windowsドメイン認証」 📖 P.257 「LDAP認証」
5	ドメイン名/LDAPサーバー	ドメイン名またはLDAPサーバーを選択します。
6	認証方法	ユーザーの認証方法を選択します。 • **内部認証**：お使いの機器の内部認証を使用します。 • **Windowsドメイン認証**：Windowsドメインで管理しているネットワーク認証を使用します。 • **LDAP認証**：LDAPで管理しているネットワーク認証を使用します。
7	パスワード	パスワードを入力します。半角英数字と記号（! # ( ) * + , - . / : ; = ? @ $ ^ _ ` { | } ~ \ スペース）で64文字まで入力できます。 ＊ここでは¥マークを「\（バックスラッシュ）」で表記しています。

	項目名	機能説明
8	PINコード	ユーザーのPINコードを入力します。 注 意 • PINコードは最大32桁の数字（0-9）です。最少桁数は、［ユーザー認証設定］画面で設定します。 📖 P.246 「ユーザー認証設定」 • 内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。 • Windowsドメイン認証またはLDAP認証でPINコードを使用する場合は、すべてのユーザーに固有のPINコードを割り当ててください。
9	カード情報	カード認証に必要な情報を入力します。
10	ロール割り当て	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 登録されているロールを選択します。［編集］ボタンをクリックして表示される画面でロールを選択します。 📖 P.82 「［ロール割り当て］画面」
11	グループ割り当て	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 登録されているグループを選択します。［編集］ボタンをクリックして表示される画面でグループを選択します。 📖 P.83 「［グループ割り当て］画面」
12	Eメールアドレス	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 ユーザーのEメールアドレスを入力またはアドレス帳から選択します。 半角英数字と記号で192文字まで入力できます。
13	ホームディレクトリ	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 ホームディレクトリへのネットワークパスを入力します。たとえば、サーバーアドレスが「192.168.1.1」というコンピューターの「users¥name」というフォルダーを指定する場合は、「¥¥192.168.1.1¥users¥name」と入力します。
14	部門番号	登録されている部門を選択します。 📖 P.91 「［部門管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
15	パネル表示言語	タッチパネルの表示言語を選択します。
16	パネルソフトウェアキーボード表示	タッチパネルでの文字入力時にソフトウェアキーボードを表示するかどうかを選択します。
17	パネルキーボードのレイアウト	タッチパネルに表示されるキーボードのパターンを選択します。
18	割り当て設定	［カウンター］＞［割り当て設定］画面の設定に従い、部門の割り当て設定を行います。 • **OFF**：割り当てを行いません。 • **ON**：割り当てを行います。 📖 P.72 「［割り当て設定］画面 <アクセスポリシーモード>」
	割り当て	割り当て数が表示されます。［割り当て設定］の重み付けに従い減算され、0.00になると出力が制限されます。割り当て数は、手動で任意の値に変更することができます。
	割り当て初期値	ユーザーに割り当てる初期値を入力します。 ［カウンター］＞［割り当て設定］画面で［白黒/カラー割り当て］または［白黒割り当て］を設定している場合、99,999,999まで入力できます。［カウンター］＞［割り当て設定］画面で［ジョブ割り当て］を設定している場合、99,999,999.99まで入力できます。

□［パスワード入力］画面

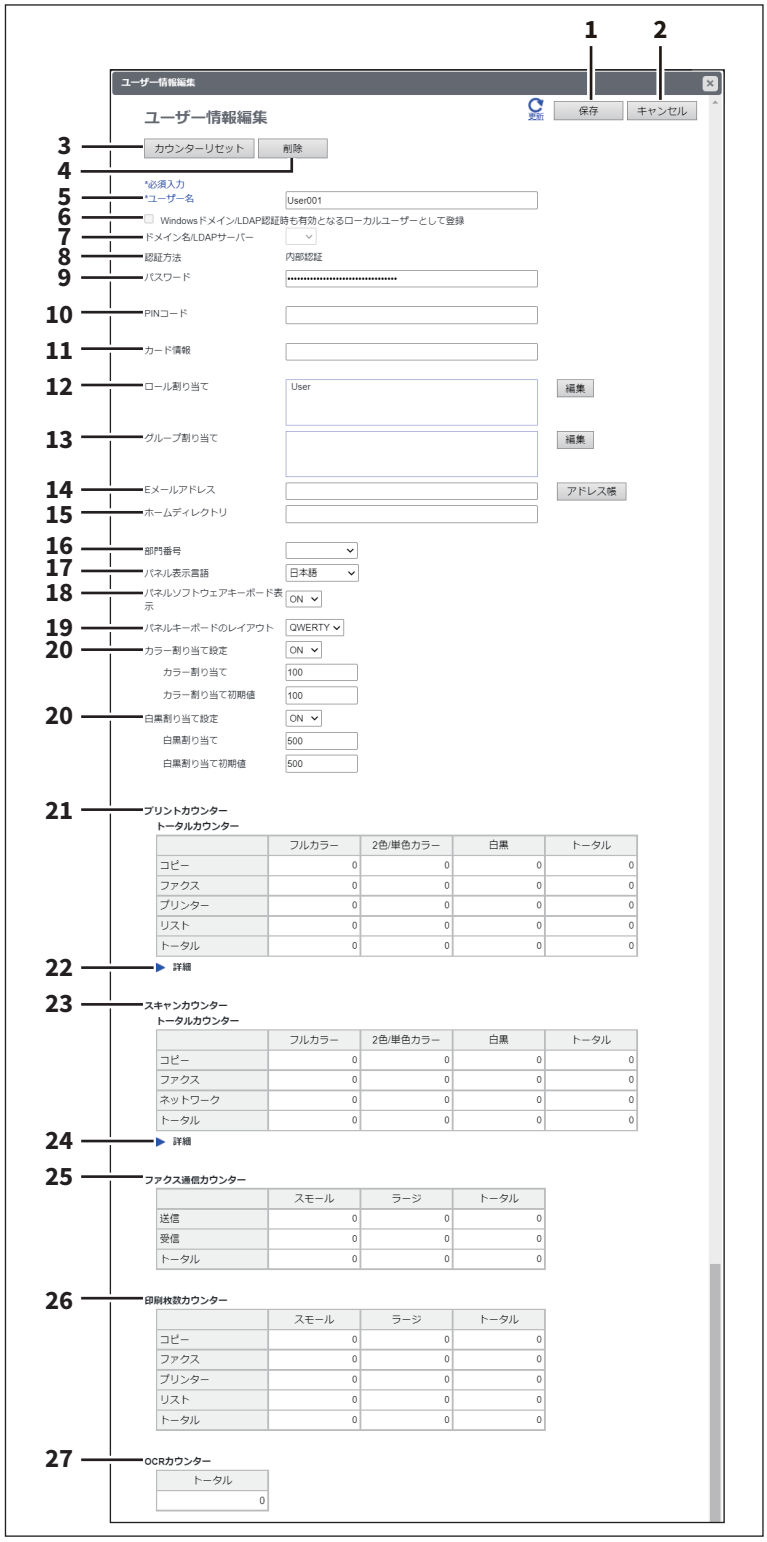
［パスワード入力］画面は、［ユーザーアカウント］項目説明一覧でパスワードを変更するユーザーのチェックボックスにチェックを付け、［パスワードリセット］ボタンをクリックすると表示されます。



	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	入力したパスワードを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	パスワードの変更を中止します。
3	パスワード	新しいパスワードを入力します。

□［ユーザー情報編集］画面

登録されているユーザー情報を更新することができます。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容でユーザー情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ユーザー情報変更を中止します。
3	［カウンターリセット］ボタン	カウンターをリセットします。
4	［削除］ボタン	表示しているユーザーをユーザーアカウントから削除します。

	項目名	機能説明
5	ユーザー名	ユーザー名を表示します。 注 意 内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。
6	Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザーとして登録	外部認証で管理されているMFPに対し、キャッシュ内情報による内部認証でログインできるローカルユーザーとして登録されます。 補 足 「Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザーを登録する」にチェックが入っている場合にのみ設定できます。 P.254 「Windowsドメイン認証」 P.257 「LDAP認証」
7	ドメイン名/LDAPサーバー	登録されているドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。変更する場合は選択します。 認証方法が［Windowsドメイン認証］または［LDAP認証］の場合のみ選択できます。
8	認証方法	ユーザーの認証方法を表示します。 • **内部認証**：お使いの機器の内部認証を使用します。 • **Windowsドメイン認証**：Windowsドメインで管理しているネットワーク認証を使用します。 • **LDAP認証**：LDAPで管理しているネットワーク認証を使用します。
9	パスワード	認証方法が［内部認証］の場合のみ、パスワードを変更できます。 注 意 内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。
10	PINコード	ユーザー認証用のPINコードを表示します。認証方法が［内部認証］の場合のみ設定できます。 注 意 • PINコードは最大32桁の数字（0-9）です。最少桁数は、［ユーザー認証設定］画面で設定します。 P.246 「ユーザー認証設定」 • 内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。 • WindowsドメインまたはLDAP認証でPINコードを使用する場合は、すべてのユーザーに固有のPINコードを割り当ててください。
11	カード情報	カード認証に必要な情報を入力します。
12	ロール割り当て	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 登録されているロールを表示します。変更する場合は［編集］ボタンをクリックして表示される画面でロールを選択します。 P.82 「［ロール割り当て］画面」 注 意 内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。
13	グループ割り当て	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 登録されているグループを表示します。変更する場合は［編集］ボタンをクリックして表される画面でグループを選択します。 P.83 「［グループ割り当て］画面」 注 意 内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。

	項目名	機能説明
14	Eメールアドレス	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 ユーザーのEメールアドレスを入力またはアドレス帳から選択します。 半角英数字と記号で192文字まで入力できます。
15	ホームディレクトリ	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 ホームディレクトリへのネットワークパスを入力します。たとえば、サーバーアドレスが「192.168.1.1」というコンピューターの「users¥name」というフォルダーを指定する場合は、「¥¥192.168.1.1¥users¥name」と入力します。
16	部門番号	登録されている部門を表示します。変更する場合は選択します。 📖 P.91 「［部門管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
17	パネル表示言語	登録されているタッチパネルの表示言語を表示します。変更する場合は選択します。
18	パネルソフトキーボード表示	タッチパネルでの文字入力時にソフトキーボードを表示するかどうかを選択します。
19	パネルキーボードのレイアウト	登録されているタッチパネルに表示されるキーボードのパターンを表示します。変更する場合は選択します。
20	割り当て設定	［カウンター］＞［割り当て設定］画面の設定に従い、部門の割り当て設定を行います。 • **OFF**：割り当てを行いません。 • **ON**：割り当てを行います。 📖 P.72 「［割り当て設定］画面 <アクセスポリシーモード>」
	割り当て	割り当て数が表示されます。［割り当て設定］の重み付けに従い減算され、0.00になると出力が制限されます。割り当て数は、手動で任意の値に変更することができます。
	割り当て初期値	ユーザーに割り当てる初期値を入力します。 ［カウンター］＞［割り当て設定］画面で［白黒/カラー割り当て］または［白黒割り当て］を設定している場合、99,999,999まで入力できます。［カウンター］＞［割り当て設定］画面で［ジョブ割り当て］を設定している場合、99,999,999.99まで入力できます。
21	プリントカウンター	出力トータルカウント値を表示します。
22	詳細	［▶］をクリックすると、出力トータルカウント値の詳細を表示します。 **コピーカウンター**：コピー操作で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ファクスカウンター**：ファクス受信で印刷した枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **プリンターカウンター**：印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **リストカウンター**：システムページ印刷で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
23	スキャンカウンター	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
24	詳細	［▶］をクリックすると、スキャンした原稿のトータルカウント値の詳細を表示します。 **コピーカウンター**：コピー操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ファクスカウンター**：ファクス操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ネットワークカウンター**：スキャン操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
25	ファクス通信カウンター	通信記録を表示します。

	項目名	機能説明
26	印刷枚数カウンター	機能別の印刷用紙枚数を表示します。用紙1枚の印刷ごとに、片面、両面印刷のいずれにかかわらず、1つカウントが増えます。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。
27	OCRカウンター	OCR処理を行った画像枚数を表示します。 補 足 OCRカウンターは、OCRオプション装着時のみ表示されます。

□［ロール割り当て］画面

割り当てるロールを選択します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したロール割り当て内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ロールの割り当てを中止します。
3	利用可能ロール	登録されているロール一覧が表示されます。 割り当てるロールを選択して、［追加］ボタンをクリックします。
4	割り当てロール	割り当てるロール一覧が表示されます。 割り当てを取りやめるロールを選択して、［削除］ボタンをクリックします。

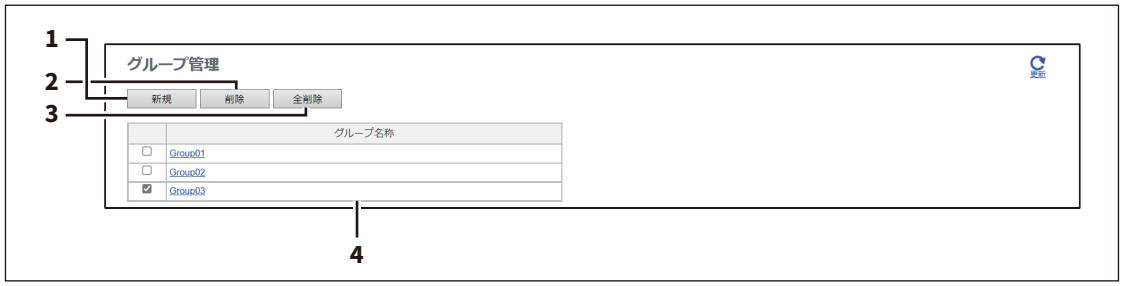
□［グループ割り当て］画面

割り当てるグループを選択します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したグループ割り当て内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	グループの割り当てを中止します。
3	利用可能グループ	登録されているグループ一覧が表示されます。 割り当てるグループを選択して、［追加］ボタンをクリックします。
4	割り当てグループ	割り当てるグループ一覧が表示されます。 割り当てを取りやめるグループを選択して、［削除］ボタンをクリックします。

■［グループ管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

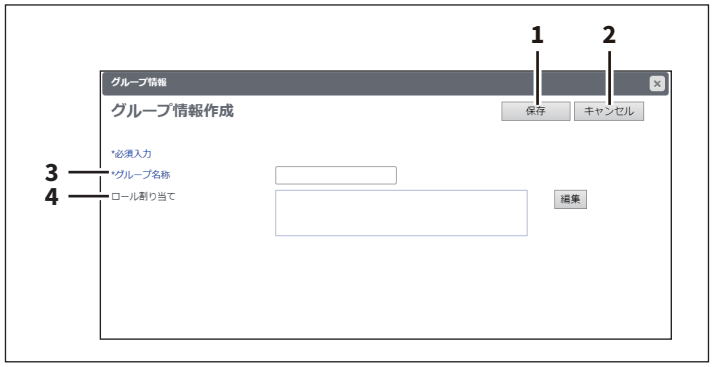
アクセスポリシーモードでログインしている場合、登録されているロールをグループとして管理することができます。



	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	新しいグループを登録します。 📖 P.84 「［グループ情報作成］画面」
2	［削除］ボタン	グループ一覧で選択しているグループを削除します。
3	［全削除］ボタン	すべてのグループを削除します。
4	グループ名称	グループ名を表示します。 グループ名をクリックすると、グループ情報を確認することができます。 📖 P.84 「［グループ情報編集］画面」

□［グループ情報作成］画面

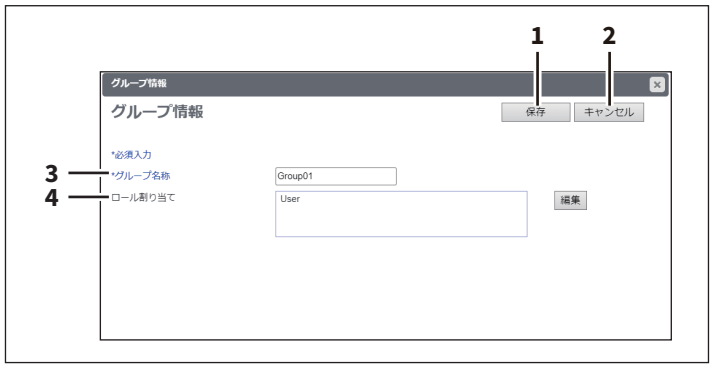
新しいグループを登録することができます。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容でグループ情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	グループ情報作成を中止します。
3	グループ名称	グループ名を入力します。 半角の英数字や「" ' ( ) * + , / : ; < = > ? [¥] ' { | } ~」以外の記号で、最大128文字まで入力できます。
4	ロール割り当て	グループに割り当てるロールを選択します。［編集］ボタンをクリックして表示される画面でロールを選択します。 📖 P.82 「［ロール割り当て］画面」

□［グループ情報編集］画面

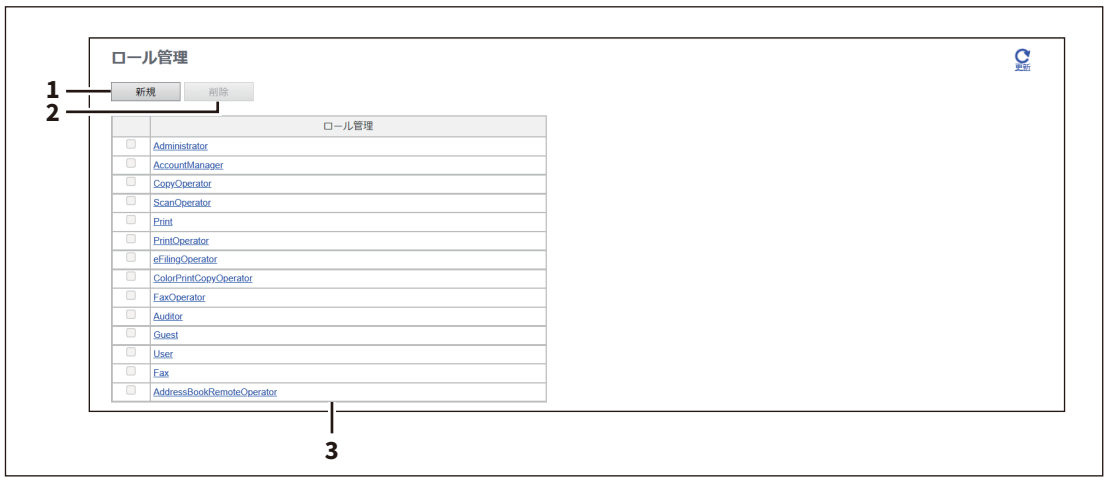
グループに登録されているロールを確認することができます。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容でグループ情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	グループ情報変更を中止します。
3	グループ名称	グループ名を表示します。
4	ロール割り当て	グループに割り当てるロールを表示します。変更する場合は［編集］ボタンをクリックして表示される画面でロールを選択します。 📖 P.82 「［ロール割り当て］画面」

■ [ロール管理] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、ロールを管理/登録することができます。



	項目名	機能説明
1	[新規] ボタン	新しいロールを登録します。 📖 P.88 「[ロールの新規作成] 画面」
2	[削除] ボタン	ロール一覧で選択しているロールを削除します。 初期登録ロールは削除できません。
3	ロール管理	ロール名を表示します。 初期登録ロールについては、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.86 「初期登録ロールと権限」 ロール名をクリックすると、ロール情報を確認することができます。 📖 P.90 「[ロール編集] 画面」

□ 初期登録ロールと権限

初期登録ロールの権限は、下表のとおりです。
下表の「権限項目」列と「権限によって可能な操作（機能）」列は、［ロール情報作成］画面の「6 機能一覧」に表示される機能です。
📖 P.88 「［ロールの新規作成］画面」

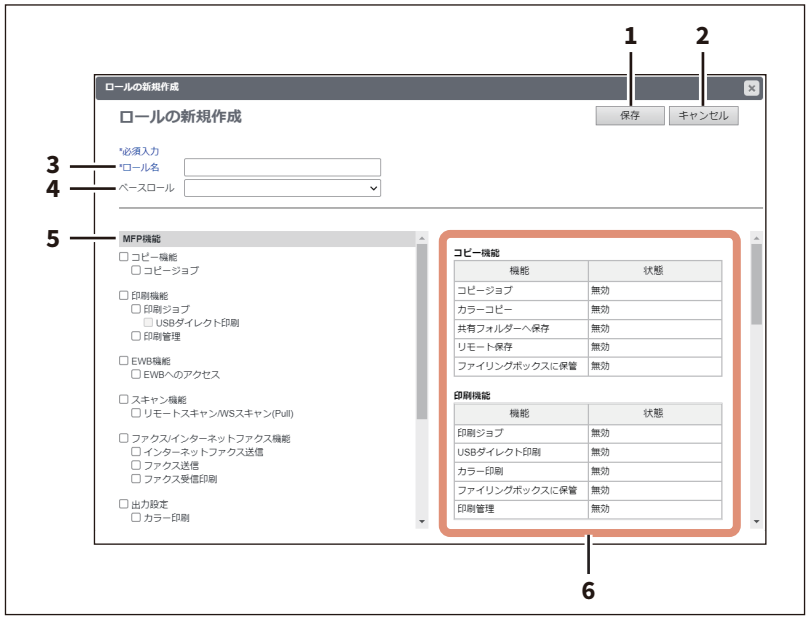
初期登録ロール名	権限項目	権限によって可能な操作（機能）
Administrator	EWB機能	EWBへのアクセス
	スキャン機能 *1	ファイリングボックスに保管
	出力設定 *2	カラー印刷
	ファイリングボックス	ファイリングボックスへのアクセス ファイリングボックスの削除
	デバイス設定	デバイス設定
	ユーザー /部門管理	ユーザー /部門管理の作成、閲覧、編集、削除
	ログ管理	閲覧 エクスポート
	ジョブ管理	ジョブ操作
	アドレス帳編集	アドレス帳のエクスポート/インポート アドレス帳のクローニングファイル作成/インストール
AccountManager	EWB機能	EWBへのアクセス
	ユーザー /部門管理	ユーザー /部門管理の作成、閲覧、編集、削除
CopyOperator	コピー機能	コピージョブ
	EWB機能	EWBへのアクセス
ScanOperator	EWB機能	EWBへのアクセス
	スキャン機能	共有フォルダーへ保存 リモート保存 Ｅメール送信 リモートスキャン/WSスキャン（Pull）
	ローカルファイル保存	ローカル保存 USB保存
	リモート	Ｅメール送信 リモート保存 WS Scan（Push）
Print	印刷機能 *1	印刷ジョブ
	EWB機能	EWBへのアクセス
PrintOperator	印刷機能 *1	印刷管理
	EWB機能	EWBへのアクセス
	出力設定 *2	カラー印刷
eFilingOperator	EWB機能	EWBへのアクセス
	スキャン機能 *1	ファイリングボックスに保管
	ファイリングボックス	ファイリングボックスへのアクセス

初期登録ロール名	権限項目	権限によって可能な操作（機能）
ColorPrintCopyOperator	コピー機能	コピージョブ カラーコピー
	印刷機能 *1	印刷ジョブ カラー印刷
	EWB機能	EWBへのアクセス
	出力設定	カラー印刷
FaxOperator	EWB機能	EWBへのアクセス
	ファクス/インターネットファクス機能	インターネットファクス送信 ファクス送信 ファクス受信印刷 *3
Auditor	EWB機能	EWBへのアクセス
	ログ管理 *1	閲覧
Guest	（権限設定なし）	（設定なし）
User	コピー機能	コピージョブ カラーコピー *2 共有フォルダーへ保存 リモート保存 ファイリングボックスに保管
	印刷機能 *1	印刷ジョブ カラー印刷 *2 ファイリングボックスに保管
	EWB機能	EWBへのアクセス
	スキャン機能	共有フォルダーへ保存 リモート保存 Ｅメール送信 ファイリングボックスに保管 リモートスキャン/WSスキャン（Pull）
	ファクス/インターネットファクス機能 *1	インターネットファクス送信 ファクス送信 共有フォルダーへ保存 リモート保存
	出力設定 *2	カラー印刷
	ローカルファイル保存	ローカル保存 USB保存
	リモート	Ｅメール送信 リモート保存 WS Scan（Push）
	ファイリングボックス	ファイリングボックスへのアクセス
Fax	EWB機能	EWBへのアクセス
	ファクス/インターネットファクス機能 *1	インターネットファクス送信 ファクス送信
AddressBookRemoteOperator	アドレス帳管理	アドレス帳のエクスポート/インポート アドレス帳のクローニングファイル作成/インストール

＊1　一部の操作（機能）のみ可能となります。
＊2　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。
＊3　ファクス受信印刷機能については、サービスエンジニアにお問い合わせください。

□［ロールの新規作成］画面

新しいロールを登録することができます。



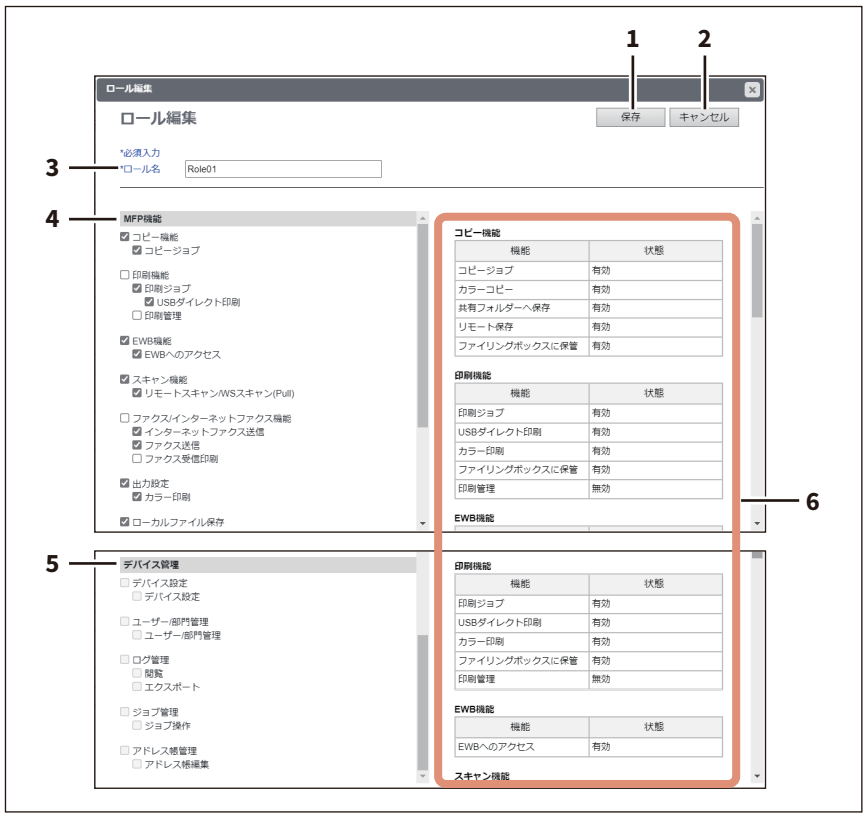
	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容でロールを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ロール作成を中止します。
3	ロール名	ロール名を入力します。 半角英数字128文字まで入力できます。
4	ベースロール	新しいロールのベースとなるロールを選択します。 ベースとして選択できるロールは、作成済みのロールか初期登録ロールのCopyOperator、ScanOperator、Print、PrintOperator、eFilingOperator、ColorPrintCopyOperator、FaxOperator、Guest、User、Faxから選択します。

	項目名	機能説明
5	MFP機能	ロールに割り当てる権限を選択します。
	コピー機能	コピー機能のすべてを割り当てます。
	コピージョブ	コピージョブを割り当てます。
	印刷機能	印刷機能のすべてを割り当てます。
	印刷ジョブ	印刷ジョブを割り当てます。
	USBダイレクト印刷	USBダイレクト印刷を割り当てます。
	印刷管理	印刷管理を割り当てます。
	EWB機能 *1	EWB機能のすべてを割り当てます。
	EWBへのアクセス	EWBへのアクセスを割り当てます。
	スキャン機能	スキャン機能のすべてを割り当てます。
	リモートスキャン/WSスキャン（Pull）	リモートスキャンまたはWSスキャン（Pull）を割り当てます。
	ファクス/インターネットファクス機能	ファクス/インターネットファクス機能のすべてを割り当てます。
	インターネットファクス送信	インターネットファクス送信を割り当てます。
	ファクス送信	ファクス送信を割り当てます。
	ファクス受信印刷	ファクス／インターネットファクス受信印刷を割り当てます。
	出力設定 *2	出力設定のすべてを割り当てます。
	カラー印刷	カラー印刷を割り当てます。
	ローカルファイル保存	ローカルファイル保存のすべてを割り当てます。
	ローカル保存	ローカル保存を割り当てます。
	USB保存	USB保存を割り当てます。
	リモート	リモートのすべてを割り当てます。
	Ｅメール送信	Ｅメール送信を割り当てます。
	リモート保存	リモート保存を割り当てます。
	WS Scan（Push）	WS Scan（Push）を割り当てます。
	ファイリングボックス	ファイリングボックスのすべてを割り当てます。
	ファイリングボックスへのアクセス	ファイリングボックスへのアクセスを割り当てます。
6	機能一覧	「MFP機能」によって選択される、ロールに割り当てた権限によって可能な操作（機能）の有効/無効を表示します。 「MFP機能」で1つの項目を選択した場合でも、「機能一覧」で複数の機能が操作可能になる場合があります。 例）「MFP機能」の「リモート」で「Eメール送信」にチェックを入れると、「機能一覧」で「スキャン機能」の「Eメール」と「リモート」の「Eメール送信」が有効になります。

＊1　EWB（Embedded Web Browser）機能を使用するには、外部連携オプションが必要です。
＊2　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。

□［ロール編集］画面

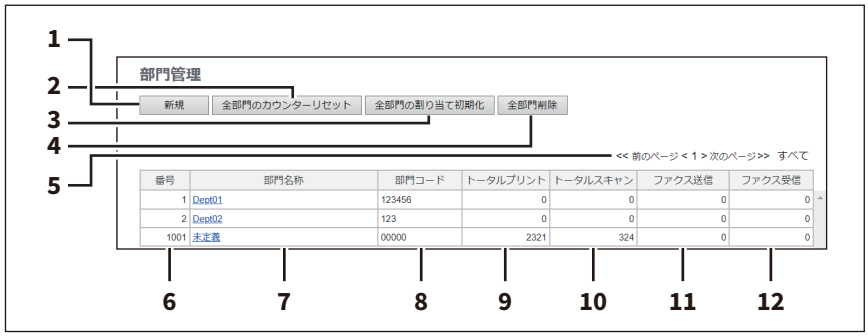
ロールを確認/編集することができます。
初期登録ロールは編集できません。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	編集した内容でロールを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ロール編集を中止します。
3	ロール名	ロール名を変更する場合は入力します。 半角の英数字や「" ' ( ) * + , / : ; < = > ? [¥] ' { | } ~」以外の記号で、最大128文字まで入力できます。
4	MFP機能	ロールに割り当てるMFP機能を選択します。割り当てる機能を選択します。 設定項目の詳細は、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.88 「［ロールの新規作成］画面」
5	デバイス管理	初期登録ロールに割り当てられているデバイス管理の権限を表示します。（初期登録ロールのみ） 📖 P.86 「初期登録ロールと権限」
6	機能一覧	ロールに割り当てた内容を機能別で表示します。 設定項目の詳細は、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.88 「［ロールの新規作成］画面」

■［部門管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、部門管理を登録することができます。



	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	新しい部門を登録します。 📖 P.92 「［部門管理情報］画面」
2	［全部門のカウンターリセット］ボタン	全部門のカウンターをリセットします。
3	［全部門の割り当て初期化］ボタン	全部門の割り当てを初期化します。
4	［全部門削除］ボタン	登録されている部門を削除します。
5	ページ選択	101件以上ある場合に、ページを選択します。
6	番号	部門の登録番号を表示します。
7	部門名称	部門名を表示します。 部門名をクリックすると、部門管理情報を確認することができます。 📖 P.93 「［部門管理情報編集］画面」
8	部門コード	部門コードを表示します。
9	トータルプリント	部門のトータルプリント枚数を表示します。
10	トータルスキャン	部門のトータルスキャン枚数を表示します。
11	ファクス送信	部門のトータルファクス送信枚数を表示します。
12	ファクス受信	部門のトータルファクス受信枚数を表示します。

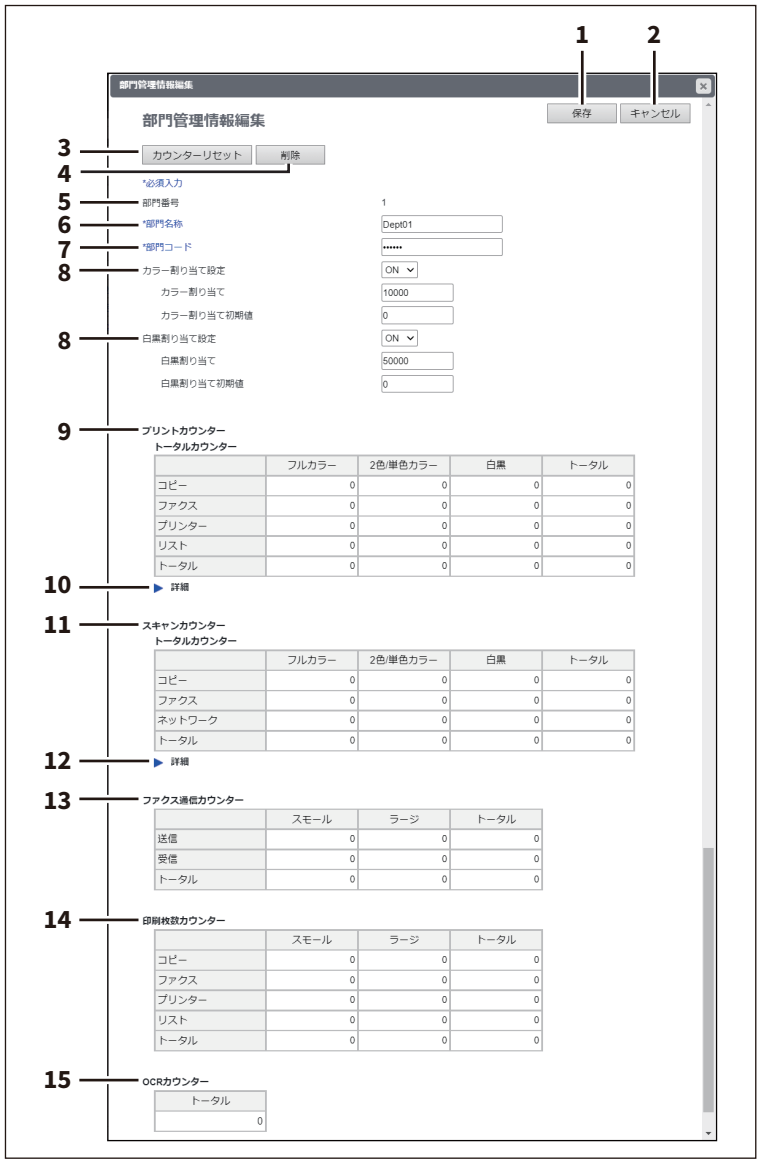
□［部門管理情報］画面

新しい部門を登録することができます。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容で部門情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	部門情報の作成を中止します。
3	部門名称	部門名を入力します。 20文字まで入力できます。
4	部門コード	部門コードを入力します。 半角英数字63文字まで入力できます（半角スペースと! " # $ % & ' ( ) * + , / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~を除く）。
5	割り当て設定	［カウンター］＞［割り当て設定］画面の設定に従い、部門の割り当て設定を行います。 • **OFF**：割り当てを行いません。 • **ON**：割り当てを行います。 📖 P.72「［割り当て設定］画面 <アクセスポリシーモード>」
	割り当て	割り当て数が表示されます。［割り当て設定］の重み付けに従い減算され、0.00になると出力が制限されます。割り当て数は、手動で任意の値に変更することができます。
	割り当て初期値	部門に割り当てる初期値を入力します。 ［カウンター］＞［割り当て設定］画面で［白黒/カラー割り当て］または［白黒割り当て］を設定している場合、99,999,999まで入力できます。［カウンター］＞［割り当て設定］画面で［ジョブ割り当て］を設定している場合、99,999,999.99まで入力できます。

□［部門管理情報編集］画面

部門管理情報を確認/編集することができます。



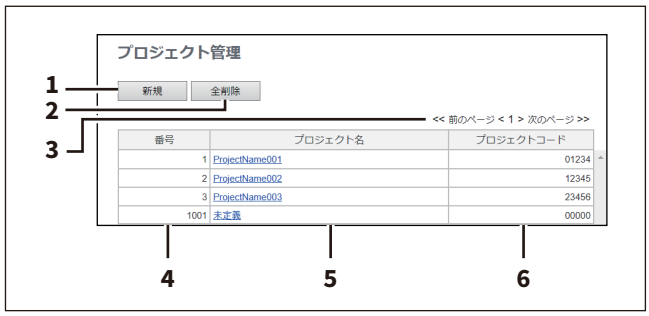
	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力/設定した内容で部門情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	部門情報の変更を中止します。
3	［カウンターリセット］ボタン	カウンターをリセットします。
4	［削除］ボタン	表示している部門を削除します。
5	部門番号	部門の登録番号を表示します。
6	部門名称	部門名を変更する場合は入力します。 20文字まで入力できます。
7	部門コード	部門コードを変更する場合は入力します。 半角英数字63文字まで入力できます（半角スペースと! " # $ % & ' ( ) * + , / : ; < = > ? @ [¥] ^ ` { | } ~を除く）。

	項目名	機能説明
8	割り当て設定	［カウンター］＞［割り当て設定］画面の設定に従い、部門の割り当て設定を行います。 • **OFF**：割り当てを行いません。 • **ON**：割り当てを行います。 📖 P.72「［割り当て設定］画面 <アクセスポリシーモード>」
	割り当て	割り当て数が表示されます。［割り当て設定］の重み付けに従い減算され、0.00になると出力が制限されます。割り当て数は、手動で任意の値に変更することができます。
	割り当て初期値	部門に割り当てる初期値を入力します。 ［カウンター］＞［割り当て設定］画面で［白黒/カラー割り当て］または［白黒割り当て］を設定している場合、99,999,999まで入力できます。［カウンター］＞［割り当て設定］画面で［ジョブ割り当て］を設定している場合、99,999,999.99まで入力できます。
9	プリントカウンター	出力トータルカウント値を表示します。
10	詳細	［▶］をクリックすると、出力トータルカウント値の詳細を表示します。 **コピーカウンター**：コピー操作で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ファクスカウンター**：ファクス受信で印刷した枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **プリンターカウンター**：印刷操作およびEメール受信（インターネットファクス受信）で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **リストカウンター**：システムページ印刷で印刷された枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
11	スキャンカウンター	スキャンした原稿のトータルカウント値を表示します。
12	詳細	［▶］をクリックすると、スキャンした原稿のトータルカウント値の詳細を表示します。 **コピーカウンター**：コピー操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ファクスカウンター**：ファクス操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。 **ネットワークカウンター**：スキャン操作でスキャンした原稿枚数をお使いの機器で設定されている用紙サイズに応じて表示します。
13	ファクス通信カウンター	通信記録を表示します。
14	印刷枚数カウンター	機能別の印刷用紙枚数を表示します。用紙1枚の印刷ごとに、片面、両面印刷のいずれにかかわらず、1つカウントが増えます。 お使いの機器で設定されている用紙サイズに応じてスモールサイズとラージサイズに分類して表示します。
15	OCRカウンター	OCR処理を行った画像枚数を表示します。 補 足 OCRカウンターは、OCRオプション装着時のみ表示されます。

■［プロジェクト管理］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

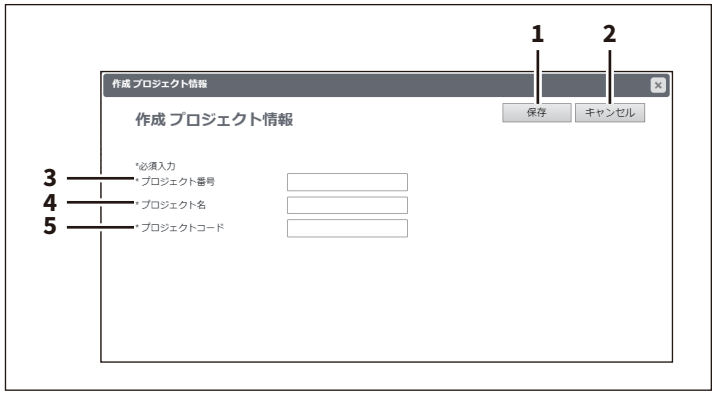
アクセスポリシーモードでログインしている場合、ジョブに対して付加するプロジェクトコードを登録できます。

□［プロジェクト管理］画面



	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	新しいプロジェクトコードを登録します。 P.95 「［プロジェクト情報］（作成）/［プロジェクト情報］（編集）画面」
2	［全削除］ボタン	登録されているプロジェクトコードをすべて削除します。
3	ページ選択	20件以上ある場合に、ページを選択します。
4	番号	プロジェクトコードの番号を表示します。
5	プロジェクト名	プロジェクト名を表示します。
6	プロジェクトコード	プロジェクトコードを表示します。

□［プロジェクト情報］（作成）/［プロジェクト情報］（編集）画面



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	新しいプロジェクトコードの情報を登録します。
2	［キャンセル］ボタン	プロジェクトコードの作成を中止します。
3	プロジェクト番号	プロジェクトコードの番号を入力します。
4	プロジェクト名	プロジェクト名を入力します。
5	プロジェクトコード	プロジェクトコードを入力します。

■ [エクスポート／インポート] 項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

アクセスポリシーモードでログインしている場合、お使いの機器の設定をエクスポート／インポートすることができます。

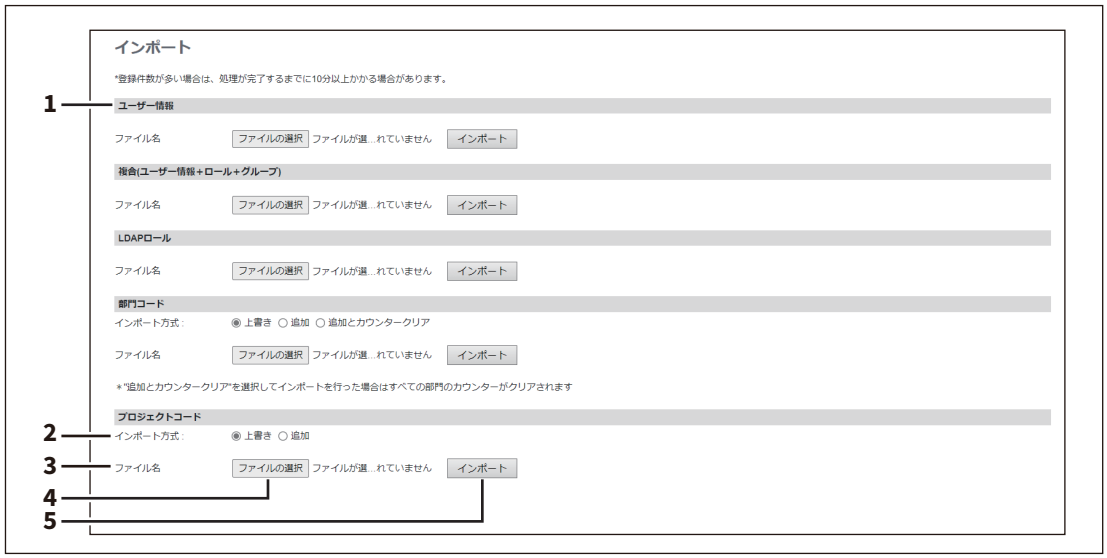
□ エクスポート

注 意

エクスポートしたユーザー情報については、ユーザー情報に不正にアクセスされたり、ユーザー情報が改ざんされないようにデータを管理してください。

	項目名	機能説明
1	エクスポート情報タイプ	エクスポートする情報タイプを以下から選択します。 • ユーザー情報（スモール/ラージカウンター） • ユーザー情報 • ユーザー情報（全カウンター） • 複合（ユーザー情報＋ロール＋グループ） • 複合（全カウンター＋ロール＋グループ） • LDAPロール • 部門情報（スモール/ラージカウンター） • 部門情報 • 部門情報（全カウンター） • プロジェクトコード
2	［新規作成］ボタン	選択した情報タイプのエクスポートファイルを作成します。 補 足 エクスポートした部門情報（全カウンター）のファイルは、［インポート］＞［部門コード］で“部門コード”と“部門カウンター”をインポートするファイルとして使用できます。 P.97 「インポート」

□ インポート

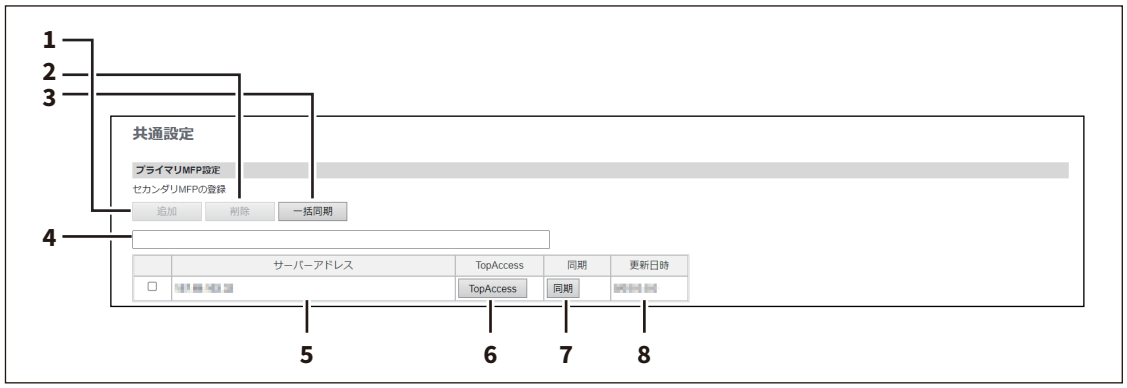


	項目名	機能説明
1	インポート情報タイプ	インポートする情報タイプを以下から選択します。 • ユーザー情報 • 複合（ユーザー情報＋ロール＋グループ） • LDAPロール • 部門コード • プロジェクトコード
2	インポート方式	部門コードまたはプロジェクトコードを選択したときに設定します。
3	ファイル名	インポートするファイル名を表示します。
4	［ファイルの選択］ボタン	インポートするファイルを参照して選択します。
5	［インポート］ボタン	表示されたファイルをインポートします。

■［共通設定］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>

［ユーザー認証設定］＞［共有設定］で本機がプライマリMFPに設定されている場合、本機のユーザー情報を他のセカンダリMFPに同期できます。

📖 P.246 「ユーザー認証設定」



注 意

［MFP連携］＞［ユーザー管理情報の共有］で［共通設定を使用］を選択している場合、この画面でセカンダリMFPの登録や削除はできません。

📖 P.232 「ユーザー管理情報の共有」

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	新しいセカンダリMFPを追加します。 直下の入力ボックスに同期対象のセカンダリMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力し、［追加］ボタンをクリックして登録します。最大10台まで登録できます。
2	［削除］ボタン	セカンダリMFP一覧で選択しているMFPを削除します。
3	［一括同期］ボタン	すべてのセカンダリMFPをプライマリMFPと同期して、ユーザー情報を共有します。 **注 意** • 同期される情報は、ユーザー情報（ユーザー名、パスワード、PINコード、カード情報、ロール割り当て、グループ割り当て、パネル表示言語、パネルキーボードのレイアウト、Eメールアドレス、ホームディレクトリ、パネルソフトキーボード表示）です。部門管理およびプロジェクト管理の設定は同期されません。 • 同期は前回の同期以降に更新されたユーザー情報のみ行います。削除したユーザーがある場合は、セカンダリMFPのユーザーも同期して削除されます。 • 初回同期時に、プライマリMFPである本機に登録されていないユーザー情報がセカンダリMFPに存在する場合、セカンダリMFPのユーザー情報は削除されます。 • ポート番号がプライマリMFPと異なるセカンダリMFPとは同期しません。 📖 P.242 「Off Device Customization Architecture設定」
4	入力ボックス	セカンダリMFPを登録するときに、IPアドレスまたはホスト名を入力します。
5	サーバーアドレス	追加したセカンダリMFPのIPアドレスを表示します。
6	［TopAccess］ボタン	TopAccessを起動します。

	項目名	機能説明
7	［同期］ボタン	セカンダリMFPをプライマリMFPと同期して、ユーザー情報を共有します。
8	更新日時	前回の更新日時を表示します。

8

[管理者]

[セットアップ] 項目説明一覧 103
一般設定 103
ネットワーク設定 119
コピー設定 175
ファクス設定 178
共有フォルダーに保管設定 188
Eメール設定 199
インターネットファクス設定 206
プリンター /ファイリングボックス設定 211
プリンター設定 212
プリントサービス設定 218
ICCプロファイルの設定 227
プリントデータコンバーター設定 229
MFP連携 230
内蔵ブラウザー設定 239
Off Device Customization Architecture設定 242
バージョン 243

[セキュリティ] 項目説明一覧 244
認証 244
証明書管理 265
パスワードポリシー 269
セキュリティスタンプ設定 272
環境設定 273

[保守] 項目説明一覧 274
ソフトウェアのアップロード 274
ソフトウェアの削除 276
クローンファイル作成 277
クローンファイルのインストール 279
インポート 282
エクスポート 285
パネル表示 287
待機画面 288
ファイル削除 295
レポート通知 296
言語設定 299
リモートコマンド 302
データバックアップ機能 304

ユーザー用紙タイプ 306
システムアップデート 307
再起動 308

[登録]（[管理者]）項目説明一覧 309
共有ホーム 309
テンプレートの詳細設定 316
共有テーマ設定 345
共有ホーム設定 346
初期ホーム 347
初期ホーム設定 347
かんたん画面設定 348
画像/アイコン管理 349
ホームデータリスト 351
ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送 351
メタスキャン 366
XMLフォーマットファイル 370

[アプリケーション] 項目説明一覧 371
アプリケーションリスト 371
アプリケーション設定 374
ユーザー拡張情報 377
リソース管理 377

[ライセンス] 項目説明一覧 378
ライセンス一覧 378
有効化 378

注 意

用紙カセットの用紙サイズの設定は、TopAccessから行うことはできません。本機操作パネルより行ってください。設定方法については、以下の参照先をご覧ください。

用紙の準備（e-STUDIO5525AC Series/e-STUDIO5528A Series）- 用紙をセットする - カセットに用紙をセットする

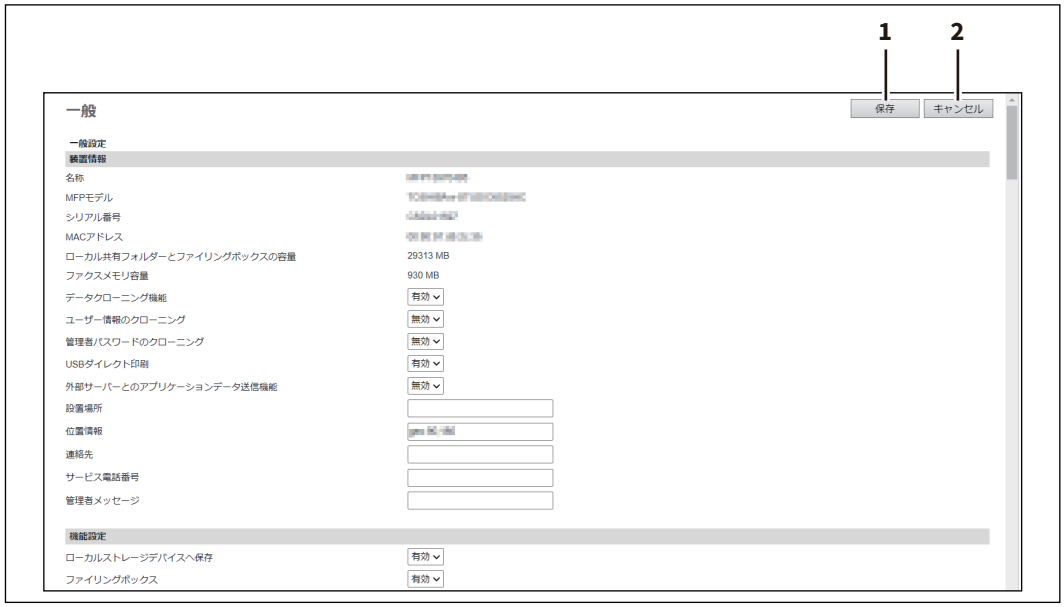
用紙の準備（e-STUDIO7527AC Series/e-STUDIO9029A Series）- 用紙をセットする - カセットに用紙をセットする

補 足

［セットアップ］メニューは［管理者］から、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザーがアクセスできます。

アクセス方法は、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	［セットアップ］メニューでの設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。

■ 一般設定

装置情報、節電、日付、時刻やWebの全般的な設定などの一般設定をセットアップすることができます。

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

補 足

［一般］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。

アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

□ 装置情報

［装置］ページに表示される装置情報の内容を設定します。

	項目名	機能説明
1	名称	お使いの機器の装置名を表示します。
2	MFPモデル	お使いの機器のモデル名を表示します。
3	シリアル番号	お使いの機器のシリアル番号を表示します。
4	MACアドレス	お使いの機器のMACアドレスを表示します。
5	ローカル共有フォルダーとファイリングボックスの容量	お使いの機器のローカル共有フォルダーとファイリングボックスの空き容量を表示します。
6	ファクスメモリ容量	お使いの機器のファクス送受信で利用可能な容量を表示します。
7	データクローニング機能	お使いの機器の設定などをほかの機体に移行する場合に有効にします。
8	ユーザー情報のクローニング	ユーザー情報をほかの機体に移行する場合に有効にします。［データクローニング機能］が有効な場合にのみ選択できます。
9	管理者パスワードのクローニング	初期登録管理者のパスワードをほかの機体に移行する場合に有効にします。［データクローニング機能］が有効な場合にのみ選択できます。
10	USBダイレクト印刷	USBダイレクト印刷機能を有効にするか無効にするかを選択します。 USBダイレクト印刷は、一部の機種のみ使用できます。
11	外部サーバーとのアプリケーションデータ送信機能	外部サーバーからのデータ収集機能を有効にするか無効にするかを選択します。
12	設置場所	お使いの機器の設置場所を入力します。この情報は、ユーザーがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］ページに表示されます。
13	位置情報	緯度と経度を入力します。緯度、経度の順に入力し、緯度と経度はコンマで区切ってください。また、必要に応じて精度なども入力してください。半角英数字と記号（! $ % & ' ( ) * : + ; [, - =] . ~）で、64文字まで入力できます。 （入力例）geo:00.00,90.00
14	連絡先	お使いの機器を管理する担当者の名前を入力します。この情報は、ユーザーがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］ページに表示されます。
15	サービス電話番号	お使いの機器のサービス担当者の電話番号を入力します。この情報は、ユーザーがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］ページに表示されます。
16	管理者メッセージ	ユーザーに通知したいお使いの機器に関するメッセージを入力します。この情報は、ユーザーがTopAccessを起動したときに開かれる［装置］ページに表示されます。

□ 機能設定

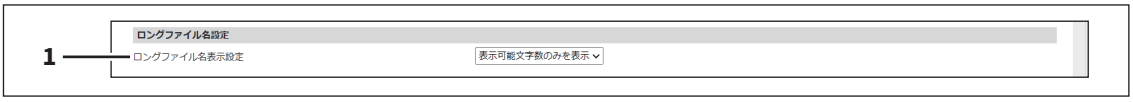
補 足

オプションの装着状況や設定によっては、変更できない項目があります。詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。

	項目名	機能説明
1	ローカルストレージデバイスへ保存	ローカルストレージデバイスへ保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
2	ファイリングボックス	ファイリングボックス機能を有効にするか無効にするかを選択します。
3	Eメール送信	Eメール送信機能を有効にするか無効にするかを選択します。
4	FTP保存	FTP保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
5	FTPS保存	FTPS保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
6	USBメディアを使用	USBメディアの使用を有効にするか無効にするかを選択します。
7	SMB保存	SMB保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
8	Netware保存	NetWare保存機能を有効にするか無効にするかを選択します。
9	インターネットファクス送信	インターネットファクス送信機能を有効にするか無効にするかを選択します。
10	ファクス送信	ファクス送信機能を有効にするか無効にするかを選択します。
11	ネットワークインターネットファクス	ネットワークインターネットファクス機能を有効にするか無効にするかを選択します。
12	ネットワークファクス	ネットワークファクス機能を有効にするか無効にするかを選択します。
13	Web Serviceスキャン	Web Serviceスキャン機能を有効にするか無効にするかを選択します。
14	TWAIN スキャン	TWAINスキャン機能を有効にするか無効にするかを選択します。
15	外部コントローラーへのスキャン	外部コントローラーへのスキャン機能を有効にするか無効にするかを選択します。
16	バックグラウンドコピー	内蔵アプリケーションを使ったスマートスピーカーからのコピー機能を有効にするか無効にするかを選択します。
17	バックグラウンドスキャン	内蔵アプリケーションを使ったスマートスピーカーからのスキャン機能を有効にするか無効にするかを選択します。

□ ロングファイル名設定

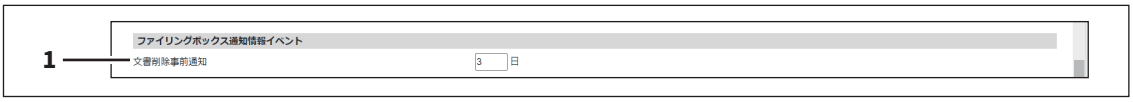
プライベート印刷などで使用するファイル名が長い場合、本機の操作パネルでは、文字数制限で表示できない部分があります。ロングファイル名設定では、ファイル名の表示方法を設定します。



	項目名	機能説明
1	ロングファイル名表示設定	ファイル名の表示方法を選択します。 • **先頭を表示**：ファイル名の先頭から表示し、表示できない部分は「...」で省略します。 • **末尾を表示**：ファイル名の末尾を判断できるように表示します。 • **先頭と末尾を表示**：ファイル名の先頭と末尾が分かるように表示します。 • **表示可能文字数のみを表示**：ファイル名を省略しないで表示します。

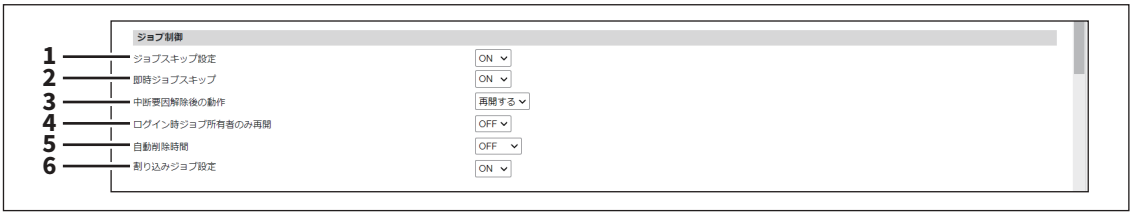
□ ファイリングボックス通知情報イベント

ファイリングボックスに保存されたファイルの保存期限を知らせるEメールの送信条件を設定します。



	項目名	機能説明
1	文書削除事前通知	ファイリングボックス内のファイルの保存期限が迫ったことを知らせるEメールを、保存期限の何日前に送信するかを選択します。日数は0（通知しない）または1～99日の範囲で設定することができます。

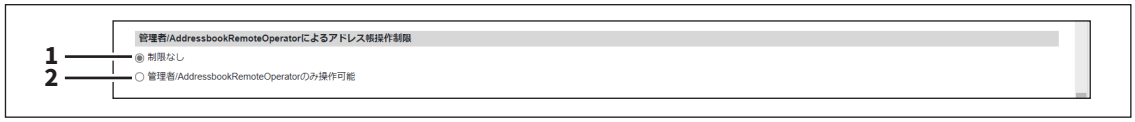
□ ジョブ制御



	項目名	機能説明
1	ジョブスキップ設定	印刷条件に合わないジョブをスキップする機能を有効にするか無効にするかを選択します。この機能を有効にすると、［即時ジョブスキップ］、［中断要因解除後の動作］、［ログイン時ジョブ所有者のみ再開］［自動削除時間］を設定できます。
2	即時ジョブスキップ	即時にジョブをスキップするかどうかを選択します。
3	中断要因解除後の動作	ジョブを中断した原因を解除した後の動作を選択します。 • **再開する**：中断したジョブを自動的に再開します。 • **スキップ**：ジョブをスキップしたままにし、手動で対処します。 • **自動**：ファクス受信印刷などの未定義ユーザーのジョブのみを自動で再開します。

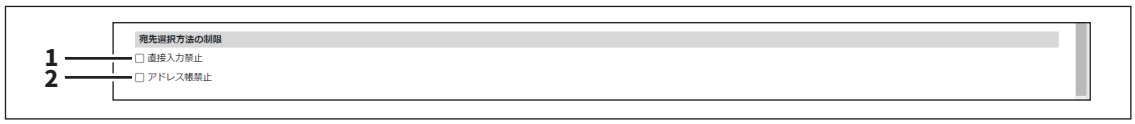
	項目名	機能説明
4	ログイン時ジョブ所有者のみ再開	ユーザー認証が有効な場合に、ログインしたジョブの所有者のみがスキップしたジョブを再開できるようにするかどうかを選択します。 注 意 ユーザー認証が無効な場合は、この設定にかかわらず誰でもスキップしたジョブを再開できます。
5	自動削除時間	スキップしたジョブを削除する時間を設定します。［OFF］を選択すると、削除されません。
6	割り込みジョブ設定	印刷ジョブの割り込み機能をオンにするかオフにするかを選択します。オンにすると、印刷中のジョブを中断して別の印刷ジョブを割り込ませることができます。割り込ませたジョブの印刷が終了すると、中断したジョブの印刷が再開します。

□ 管理者／AddressbookRemoteOperatorによるアドレス帳操作制限



	項目名	機能説明
1	制限なし	すべてのユーザーがアドレス帳の操作を行うことができます。
2	管理者／AddressbookRemoteOperatorのみ操作可能	アクセスポリシーが管理者またはAddressbookRemoteOperatorとして設定されているユーザーのみがアドレス帳の操作を行うことができます。

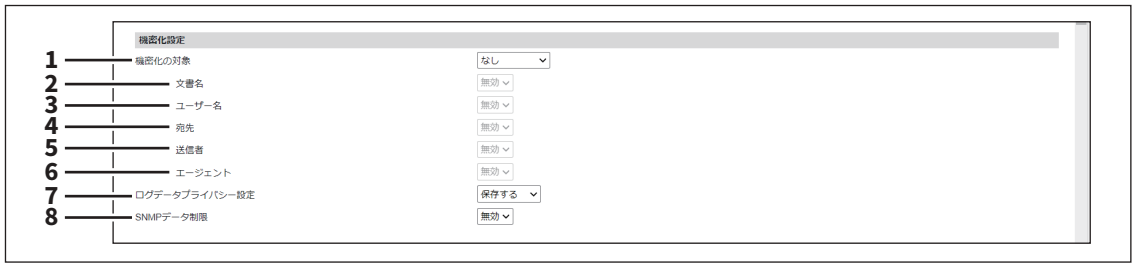
□ 宛先選択方法の制限



	項目名	機能説明
1	直接入力禁止	宛先を直接入力禁止にします。
2	アドレス帳禁止	アドレス帳からの宛先選択を禁止にします。

□ 機密化設定

ジョブに表示される文書名やユーザー名、送信先などをアスタリスク（*）で伏せ字にするか設定します。



	項目名	機能説明
1	機密化の対象	機密化するジョブを設定します。 • **なし**：機密化しません。 • **ジョブステータスのみ**：ジョブステータスのみ機密化します。 • **ジョブログのみ**：ジョブログのみ機密化します。 • **ジョブステータス/ジョブログ**：ジョブステータスとジョブログの両方を機密化します。
2	文書名	• **有効**：文書名を伏せ字（アスタリスク（*）10文字）にして表示します。 • **無効**：文書名を表示します。
3	ユーザー名	• **有効**：ユーザー名を伏せ字（アスタリスク（*）10文字）にして表示します。 • **無効**：ユーザー名を表示します。
4	宛先	• **有効**：宛先を伏せ字（アスタリスク（*）10文字）にして表示します。 • **無効**：宛先を表示します。
5	送信元	• **有効**：送信元を伏せ字（アスタリスク（*）10文字）にして表示します。 • **無効**：送信元を表示します。
6	エージェント	• **有効**：エージェントを伏せ字（アスタリスク（*）10文字）にして表示します。 • **無効**：エージェントを表示します。
7	ログデータプライバシー設定	プライバシー保護のため、すべてのジョブログ、メッセージログ、アプリケーションログ、およびファクス送受信管理記録にユーザーに関連する情報を保存するかどうかを設定します。この機能の設定後のログ保存に影響を及ぼします（設定前すでにあるログ内容には影響はありません）。 • **保存する**：ユーザー関連情報をそのまま保存します。 • **保存しない**：ユーザー認証やログ認証にかかわらず、ユーザー関連情報を10個の星印に置き換えて隠します。
8	SNMPデータ制限	プライバシー保護のため、SNMPのMIBデータ取得を制限するかどうかを設定します。 • **有効**：ユーザー関連情報を含むMIBデータの取得を制限します。 • **無効**：ユーザー関連情報を含むMIBデータの取得を許可します。

□ 節電モード設定

お使いの機器の節電モードの設定を行います。
節電モードの種類や移行手順については、以下の参照先をご覧ください。
機体の情報 - 機体の情報 - 電源の入れかた／切りかた - 使わないときの電力消費を抑える―節電モードのご紹介―

	項目名	機能説明
1	オートクリア	お使いの機器のアイドル状態が続いた場合に、タッチパネル画面をデフォルト表示に戻すまでの時間を選択します。 補 足 オートクリアの設定を変更した場合、設定変更後の値が適用されます。また、オートクリアしたことはログに保存されます。
2	自動節電時間	お使いの機器のアイドル状態が続いた場合に、自動的に低電力モードに移行するまでの時間を選択します。
3	スリープ移行時間	お使いの機器のアイドル状態が続いた場合に、自動的にスリープモードに移行するまでの時間を選択します。
4	スリープモード *1	指定時間経過後に有効となるスリープモードを選択します。 • **電源オフ**：電源オフモードに入ります。 • **自動**：ネットワークやファクスの接続状態に応じて、スリープモードまたは電源オフモードに入ります。接続が有効な場合はスリープモードに入り、接続が無効な場合は電源オフモードに入ります。 • **スリープ**：スリープモードに入ります。 注 意 カラー機とモノクロ機の間でクローニングを行うと、スリープモードの動作が変わる場合があります。機器の電源が予期せずオフになったり、スリープモードが希望どおりに動作しない場合は、スリープモードの設定を確認してください。

	項目名	機能説明
5	スーパースリープ *1	お使いの機器の低電力モードが一定時間経過した場合、または操作パネルの［節電］ボタンを押した場合に、スーパースリープモードに移行するかを設定します。 **注 意** • 本機にe-BRIDGE ID Gateが装着されている場合（人感センサー有効時を除く）、またはIPsec機能が有効な場合は、スーパースリープモードを「無効」から変更できません。 • スーパースリープモード中のお使いの機器をネットワーク検索できないなど、ネットワーク接続できない場合は、検索などを再試行してください。 • お使いの機器の動作状態によっては、設定時間どおりに移行しない場合があります。 • ［復帰設定］＞［ボタン操作］または［原稿検知］が有効な場合は、［スーパースリープ］は設定できません。
6	スーパースリープ中の予測復帰印刷	有線接続されている本機が、印刷ジョブを受信してスーパースリープモードからすばやく復帰するかどうかを設定します。通常の復帰時間より短く復帰できます。 • **有効**：予測復帰印刷機能を有効にします。 • **無効**：予測復帰印刷機能を無効にします。 **注 意** • この設定は、有線接続された本機がスーパースリープモードにある状態でのみ効果があります。 • 何らかの理由で必要もなくこの予測復帰が頻発する場合は、この機能を無効に設定できます。 • この機能は、プライベート印刷ジョブやホールド印刷ジョブでは動作しません。 • この機能は、WindowsのUniversal Printer 2およびUniversal PS3プリンタードライバーで印刷する場合のみ動作します。
7	復帰設定	スリープモードからの復帰方法を設定します。 • **ボタン操作**：本機のボタン操作による復帰を有効または無効にします。 • **原稿検知**：自動原稿送り装置での原稿検知による復帰を有効または無効にします。

	項目名	機能説明
8	ネットワークによる起動設定	ネットワーク検索によりお使いの機器をスーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）から復帰させるプロトコルを選択します。選択できるプロトコル数は、機種によって異なります。 注 意 • ［ネットワークによる起動設定］の設定は、不特定多数のMFPにデータを送信する「ブロードキャスト」と複数のMFPを指定してデータを送信する「マルチキャスト」で有効です。特定のアドレスを指定して送信する「ユニキャスト」では、［ネットワークによる起動設定］の設定は無効です。 • 節電モード設定で、スーパースリープモード設定が「有効」に設定されている場合に、ネットワークによる起動設定が有効になります。 • ネットワークによる起動設定では、各プロトコルの設定の「有効」/「無効」に関係なく、任意のプロトコルを選択できます。ただし、復帰設定で選択していても、選択したプロトコルがプロトコルの設定で「無効」に設定されている場合は、本機はスーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）から復帰しません。 • 本設定で選択したプロトコルでネットワークアクセスを行っても、本機から応答が来ない場合は、ネットワークアクセスを再試行してください。 補 足 以下に記載するプロトコルで、特定のアドレスを指定して送信する「ユニキャスト」の通信では、ネットワークによる起動設定を行わなくても、スーパースリープモード（スーパースリープモードのない機種はスリープモード）から復帰できます。 IPP、FTP、HTTP、SMB、SMTP、SNMP、RAW9100、LPD、WebService
9	人感センサー *2	人感センサーの有効または無効に選択します。 • **無効**：人感センサーを無効にします。 • **有効（画面オン）**：人を検知した場合、タッチパネルの画面を表示します。 • **有効（画面オフ）**：人を検知した場合、待機状態になります。タッチパネルまたは［節電］ボタンを押すとタッチパネルの画面を表示します。
10	カードリーダー反応モード*2	• **通常**：カードリーダーの反応が遅い場合に設定してください。 • **エコ**：カードリーダーの反応が遅くなる可能性がありますが、消費電力を抑えることができます。
11	待機時間 *2	タッチパネルの操作を受け付ける時間（秒）を設定します。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。
＊2　人感センサーユニットを持つ機種のみ使用できます。

お使いの機器がスーパースリープモードに移行するには、以下のネットワーク設定を行う必要があります。

- IPv6設定で［ステートレスアドレスを使用する］以外を選択する。
  📖 P.124 「IPv6／IPv6（セカンダリ）」
- IPX/SPX設定でIPX/SPX使用を無効に設定する。
  📖 P.172 「IPX/SPXの設定」
- POP3設定で次のいずれかの設定になっていること。
  - POP3クライアント使用：無効
  - POP3サーバーアドレス：未入力
  - アカウント名：未入力
  - ポーリングレート：0分

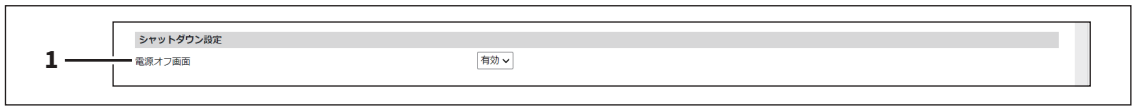
  📖 P.161 「POP3クライアントの設定」
- IEEE 802.1X認証を無効にする。
  有線LAN環境におけるIEEE 802.1X認証方法については、以下の参照先をご覧ください。
  設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- IEEE 802.1X認証設定

お使いの機器のスーパースリープモード中のネットワークアクセス設定については、以下を参照してください。

- ARP
  IPv4環境で本機を使用する場合に、アドレス解決ができるようになります。
- SNMP for IPv4
  IPv4環境でClient Utilitiesを使用する場合に、SNMPでネットワーク検索されるようになります。
- SNMP for IPv6
  IPv6環境でClient Utilitiesを使用する場合に、SNMPでネットワーク検索されるようになります。
- SMB
  IPv4環境でNetBIOS名を利用する場合に、名前解決ができるようになります。
- Bonjour for IPv4
  IPv4環境でBonjourを使用する場合に、Bonjourでネットワーク検索されるようになります。
- Bonjour for IPv6
  IPv6環境でBonjourを使用する場合に、Bonjourでネットワーク検索されるようになります。
- Neighbor Discovery（リンクローカルアドレス）
  IPv6環境で本機を使用する場合に、アドレス解決ができるようになります。
- Neighbor Discovery（マニュアル / ステートフルアドレス）
  IPv6環境で本機を使用する場合に、アドレス解決ができるようになります。
- LLMNR
  NetBIOS名を利用する場合に、名前解決ができるようになります。
- SLP
  SLPを利用する場合に、サービス探索されるようになります。
- Web Services for IPv4
  IPv4環境でWS-Discoveryを使用する場合に、WS-Discoveryでネットワーク検索されるようになります。
- Web Services for IPv6
  IPv6環境でWS-Discoveryを使用する場合に、WS-Discoveryでネットワーク検索されるようになります。

□ シャットダウン設定

機器をシャットダウンするときに確認画面を表示するかどうかを設定します。



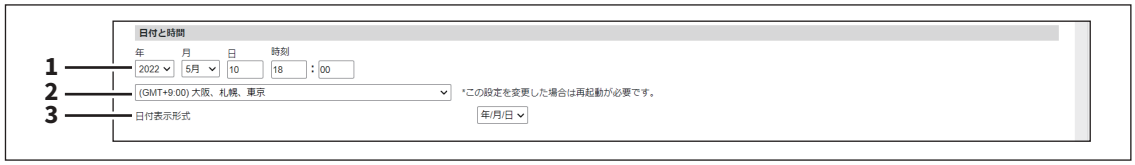
	項目名	機能説明
1	電源オフ画面	確認画面を表示するかどうかを設定します。

□ 日付と時間

日付、時刻、タイムゾーン、日付表示形式を設定します。

補 足

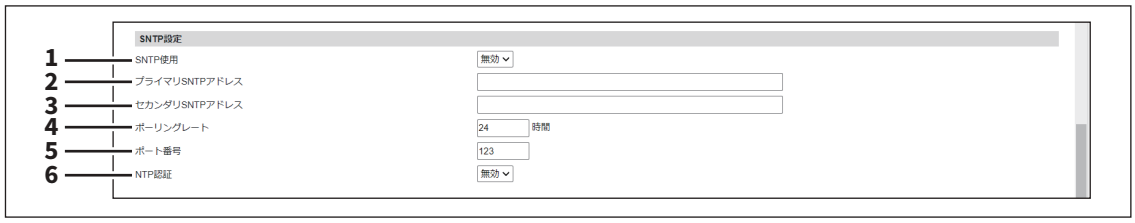
- SNTP機能を有効にすると日付と時間の設定が設定できなくなります。
- 日付と時刻を正しく設定していない場合は、サーバーとのSSL/TLS通信やKerberos認証に失敗する可能性があります。



	項目名	機能説明
1	年/月/日/時刻	年/月の値を各ボックスで選択します。また、日/時刻の値を各ボックスに入力します。
2	タイムゾーン	本機を設置する場所のタイムゾーンを選択します。
3	日付表示形式	日付表示のフォーマットを選択します。

□ SNTP設定

SNTPでは、SNTPサービスを使用して本機の時間設定を同期するかどうかを設定することができます。



	項目名	機能説明
1	SNTP使用	SNTP（Simple Network Time Protocol）を有効にするか無効にするかを選択します。有効にした場合は、SNTPサービスを利用して本機の時間設定を自動的に更新することができます。 補 足 有効にすると［日付と時間の設定］が設定できなくなります。
2	プライマリSNTPアドレス	［SNTP使用］を有効にした場合に、プライマリSNTPサーバーアドレスのIPアドレスまたはFQDNを入力します。
3	セカンダリSNTPアドレス	［SNTP使用］を有効にした場合に、必要に応じてセカンダリSNTPサーバーアドレスのIPアドレスまたはFQDNを入力します。 補 足 TCP/IPの設定で［SNTPサーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからSNTPサーバーアドレスを取得することができます。 📖 P.120 「基本設定」
4	ポーリングレート	お使いの機器が時間を確認するために、どのくらいの間隔でSNTPサーバーにアクセスするか指定します。
5	ポート番号	SNTPで使用するポート番号を入力します。通常、「123」を使用します。
6	NTP認証	NTP認証を有効にするか無効にするかを選択します。

□ サマータイム設定

サマータイムへの切り替えに必要な設定をここで行います。

	項目名	機能説明
1	サマータイム	サマータイムへの切り替えを行う場合には［有効］を選択します。初期値は［無効］です。
2	標準時間との差	現地標準時間からの時間差を選択します。0時間を除く-2時間から+2時間までを、30分単位で選択できます。初期値は+1時間です。
3	日時	サマータイムの適用期間を設定します。 • **開始**:サマータイムの開始日時を選択または入力します。 • **終了**:サマータイムの終了日時を選択または入力します。

補 足

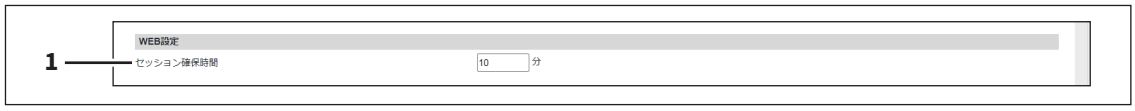
- サマータイムの適用期間中に設定を変更すると、変更内容がそのまま本機の時刻に反映されます。適用期間中に設定を［無効］にした場合は、表示されている時刻が現在の時刻になるため、時刻が正しいか、確認してください。SNTP設定が有効の場合、SNTPサーバーに同期すると、正しい時刻に設定されます。
📖 P.113 「日付と時間」
- 設定した切り替え日時に本機の電源が入っていない場合、次回起動時に切り替えを行います。
- 切り替え後はウィークリータイマーにもサマータイムが適用されます。

注 意

切り替え日時の［開始］と［終了］は、本機に設定された時間を基準に設定してください。
📖 P.113 「日付と時間」

□ WEB設定

TopAccessのセッション確保時間を設定します。



	項目名	機能説明
1	セッション確保時間	TopAccessのセッションデータを保持する時間を入力します。5から999の範囲を整数で入力します。この設定は、ファイリングボックスWebユーティリティのセッションデータを保持する時間としても適用されます。初期値は10分です。

補 足

- アクセスポリシーモードでログインしている場合、操作を行わずにセッション確保時間が経過すると、自動的にログアウトします。
- セッション確保時間の設定を変更した場合、ログイン中のユーザーがTopAccessを操作すると、セッション確保時間は設定変更後の値が適用されます。また、自動的にログアウトしたことはログに保存されます。

□ ホーム設定

ユーザー認証有効時の、操作パネルの［ホーム］初期画面を設定します。［同期設定］によって、設定が異なります。

📖 P.403 「ホームデータ同期設定の流れ」

補 足

ホームデータ同期設定の流れについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.403 「ホームデータ同期設定の流れ」

［同期設定］で［無効］を選択した場合

［同期設定］で［同期にネットワークサーバーを使用する］を選択した場合

［同期設定］で［同期にMFPを使用する］を選択した場合

注 意

［MFP連携］＞［共有ホーム］で［共通設定から選択］を選択している場合、この画面でサーバー名称を入力できません。

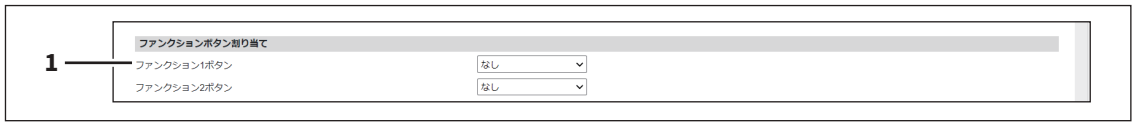
📖 P.234 「共有ホーム」

	項目名	機能説明
1	共有ホーム	共有ホームを有効にするか無効にするかを選択します。
2	ホーム画面初期表示設定	［ホーム］初期画面として、ユーザーホームを表示させるか、共有ホームを表示させるかを選択します。 • **ユーザー**：ユーザーホームを表示させます。 • **共有**：共有ホームを表示させます。

	項目名	機能説明
3	同期設定	［ホーム］画面をネットワークサーバーまたはほかのMFPと同期するかどうかを設定します。 • **無効**：同期しません。 • **同期にネットワークサーバーを使用する**：ネットワークサーバーで同期します。 • **同期にMFPを使用する**：MFPで同期します。
4	サーバー名称	ネットワークサーバーの名称を入力します。
5	ポート番号	ネットワークサーバーのポート番号を入力します。
6	ユーザー名	ネットワークサーバーにアクセスするユーザー名を入力します。
7	パスワード	ネットワークサーバーにアクセスするユーザーのパスワードを入力します。
8	SSL/TLS使用	ネットワークサーバーにアクセスするときに、SSL/TLSを使用するかどうかを設定します。
9	このMFPをプライマリサーバーとする	このMFPをプライマリサーバーとして同期する場合はチェックします。チェックを外すと、その他のMFPをプライマリサーバーとして同期します。 **注 意** FTPサーバーが無効の場合は、このMFPをプライマリサーバーに設定できません。 📖 P.153 「FTPサーバーの設定」
10	サーバー名称	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、そのプライマリサーバーの名称を入力します。
11	ポート番号	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、そのプライマリサーバーのポート番号を入力します。
12	SSL/TLS使用	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、そのプライマリサーバーにアクセスするときに、SSL/TLSを使用するかどうかを設定します。
13	［同期データ一括削除］ボタン	FTPサーバーに保存されている同期データをすべて削除します。
14	一般ユーザーによる共有ホームの変更を許可する	一般ユーザーに共有ホーム画面の変更を許可するかどうかを選択します。 • **有効**：許可します。 • **無効**：許可しません。

□ ファンクションボタン割り当て

ファンクション1ボタン/ファンクション2ボタンに機能を割り当てます。



	項目名	機能説明
1	ファンクション1ボタン/ファンクション2ボタン	割り当てる機能を選択します。

□ パネル設定

操作パネルの初期画面やジョブリストの表示順序を設定します。

	項目名	機能説明
1	初期画面	本機の起動後に、初期画面として表示する機能を選択します。［内蔵アプリケーション］を選んだ場合、［割り当て］を押して、初期画面に設定するアプリケーションを選択します。
2	表示順	ジョブリストでの、ホールド印刷（ファクス）および機密受信ジョブの表示順序を設定します。 **昇順**：日付により昇順にジョブを表示します。 **降順**：日付により降順にジョブを表示します。
3	文書一覧初期表示設定	［ホールド印刷（ファクス）＆機密受信］、［USBダイレクト印刷］、［プライベート印刷、ホールド印刷、お試し印刷、マルチステーション印刷］それぞれに対して、操作パネルで表示する文書一覧の初期表示を設定します。 **文書名**：文書名を一覧に表示します。 **サムネイル画像**：PDFとJPEGファイルはサムネイル画像を一覧に表示します。その他の形式のファイルは所定のアイコンを表示します。 **注 意** • サムネイルはファイルのイメージ図を表します。画像の一部がカットされたり余白が増やされたりして、オリジナルと異なる場合があります。 • マルチステーション印刷機能を使用するには、マルチステーション印刷オプションが必要です。

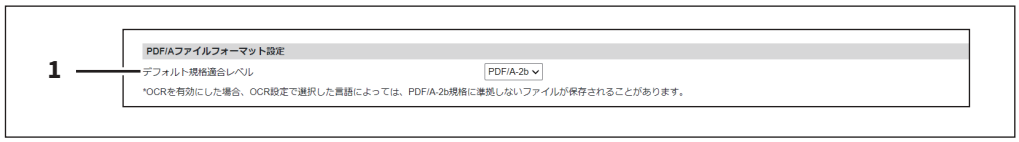
□ OCR設定

OCR機能を設定します。

	項目名	機能説明
1	言語選択	優先する第1言語/第2言語を選択します。
2	自動回転補正	自動回転をするかどうかを設定します。
3	XLSX作成方法	XLSXシートの作成方法を選択します。 • **1ページ1シート**：1ページを1シートにします。 • **複数ページ1シート**：複数ページを1シートにまとめます。

□ PDF/Aファイルフォーマット設定

PDF/Aファイルフォーマットの初期レベルを設定します。



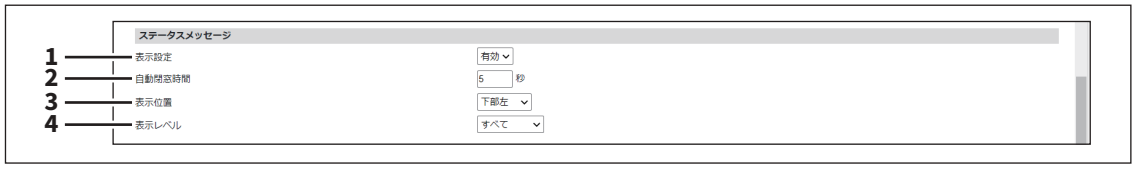
	項目名	機能説明
1	デフォルト規格適合レベル	PDF/Aの規格適合レベルの初期値を選択します。 • **PDF/A-1b**：PDF/A-1bを初期値にします。 • **PDF/A-2b**：PDF/A-2bを初期値にします。

注 意

- OCR機能を有効にして検索可能なPDF/A-2bファイルを保存すると、選択したOCR言語によっては保存したファイルがPDF/A-2b規格に準拠しない場合があります。OCR機能を使って検索可能なPDF/Aファイルを保存するには、PDF/A-1bを選択することをお勧めします。
- 証明書の設定によっては、電子署名付きPDFをPDF/A-1bファイルフォーマットで作成できない場合があります。
  📖 P.268 「証明書設定」

□ ステータスメッセージ

操作パネルのどの画面にも共通して表示するステータスメッセージとアイコンの共通メッセージを設定します。



	項目名	機能説明
1	表示設定	共通メッセージの表示を有効にするか無効にするかを選択します。アプリケーションの［アプリケーション詳細］画面にある［表示設定］の設定は、ここでの設定より優先されます。 📖 P.371 「アプリケーションリスト」
2	自動閉窓時間	共通メッセージが自動的に閉じるまでの時間（初期値5秒）を1から30秒の間で設定します。個々のステータスメッセージに指定された時間が優先されます。
3	表示位置	共通メッセージが画面上に表示される位置（初期値「下部左」）を選択します。アプリケーションの［アプリケーション詳細］画面にある［表示位置］の設定が、ここでの設定より優先されます。 📖 P.371 「アプリケーションリスト」
4	表示レベル	共通メッセージの表示レベルを「すべて」（初期値）、「警告/エラー」、「エラー」から選択します。どのレベルにも属さないメッセージは画面に表示されません。

■ ネットワーク設定

TCP/IP、フィルタリング、IPX/SPX、Bonjour、LDAP、SMB、NetWare、HTTP、SMTPクライアント、SMTPサーバー、POP3、SNTP設定、FTPクライアント、FTPサーバー、SNMP、セキュリティ設定などのネットワーク設定をセットアップすることができます。

注 意

ネットワーク初期化中は、ネットワークが無効になりTopAccessには、しばらくしてからつなぎなおす内容のメッセージが表示されます。また、本機のタッチパネルには、ネットワークが準備中である内容のメッセージが表示されます。これらのメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

補 足

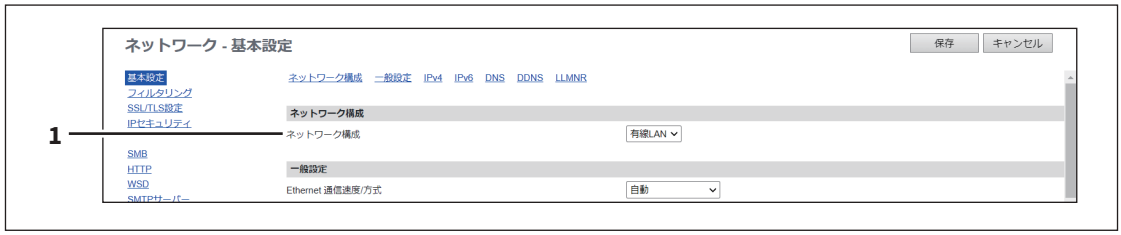
［ネットワーク］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

	項目名	機能説明
1	メニューエリア	［ネットワーク］で設定できる機能を表示します。機能名をクリックすると、右側の設定表示エリアにその機能の設定を表示します。
2	設定表示エリア	メニューエリアで選択した機能の設定を表示します。上部のリンクメニューで項目をクリックすると、その項目に直接移動します。設定を変更した場合は、必ず［保存］をクリックします。［キャンセル］をクリックすると、設定を中止します。

□ 基本設定

基本設定では、TCP/IPやDNS、DDNSを設定します。TopAccess、SMB印刷、Raw TCPまたはLPR印刷、IPP印刷、Eメール送信、インターネットファクスの各機能を使用するには、TCP/IPを設定する必要があります。

ネットワーク構成



	項目名	機能説明
1	ネットワーク構成	本機のネットワーク構成を選択します。 • **有線LAN**：標準の有線LANをプライマリネットワークとして使用します。 • **無線LAN**：無線LANをプライマリネットワークとして使用します。無線LANモジュールが本機に装着されている状態で、無線LAN通信機能が正しく設定されている場合に、この設定は表示されます。 • **有線LAN + 有線LAN2**：有線LANをプライマリネットワークとし、有線LAN2をセカンダリネットワークとして、同時に2回線を使用します。有線LAN2専用のネットワークアダプターが本機に接続されている場合に、この設定は表示されます。 • **無線LAN + 有線LAN**：無線LANをプライマリネットワークとし、標準の有線LANをセカンダリネットワークとして、同時に2回線を使用します。無線LANモジュールが本機に装着されている状態で、無線LAN通信機能が正しく設定されている場合に、この設定は表示されます。

注 意

セカンダリネットワークでは、以下の通信のみサポートします。

- ネットワーク印刷
- リモートスキャン（リモートスキャンドライバーを使用）
- クライアントアプリケーション
- TopAccess
- SNMP（トラップなし）
- Bonjour
- VNC
- IPセキュリティ

補 足

有線LAN2に利用できるネットワークアダプターについては、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお尋ねください。

一般設定／一般設定（セカンダリ）

2回線ネットワークを使用する場合は、セカンダリネットワーク用に［一般設定（セカンダリ）］も設定します。

	項目名	機能説明
1	Ethernet通信速度／方式	Ethernet通信速度を選択します。初期値は［自動］に設定されています。 **注 意** • 特定のEthernet速度を選択する場合は、接続しているネットワークの速度と同じ設定にする必要があります。Ethernetの設定が分からない場合は、［自動］を選択してください。 • 設定を行ってもネットワークの接続が不安定な場合は、本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。
2	ホスト名	お使いの機器のホスト名を入力します。半角の英数字、「-」を含め、63文字まで入力できます。 先頭の文字と最後の文字には「-」は使用できません。初期値はMFP名称に設定されています。
3	IPアドレス衝突検出	IPアドレスの衝突を検出するかを設定します。［有効］に設定した場合、衝突を検出すると操作パネル上にメッセージが表示されます。初期値は［有効］に設定されています。

IPv4／IPv4（セカンダリ）

2回線ネットワークを使用する場合は、セカンダリネットワーク用に［IPv4（セカンダリ）］も設定します。

	項目名	機能説明
1	アドレス設定方法	IPアドレスの設定方法を選択します。 • **マニュアル**：固定のIPアドレスを手動で設定します。このオプションを選択したときは、［IPアドレス］ボックスにIPアドレスを入力します。 • **自動**：AutoIP機能またはDHCPを使って、IPアドレスを自動で割り付けます。ネットワークがDHCPをサポートしている場合は、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリWINSサーバーアドレス、セカンダリWINSサーバーアドレス、POP3サーバーアドレス、SMTPサーバーアドレスを自動的にDHCPサーバーから取得することができます。ネットワークがDHCPをサポートしていない場合は、AutoIP機能を使用してIPアドレスを割り付けます。 • **自動IPなし**：AutoIP機能を使用せずDHCPのみを使ってIPアドレスを自動で割り付けます。ネットワークがDHCPをサポートしている場合はIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリWINSサーバーアドレス、セカンダリWINSサーバーアドレス、POP3サーバーアドレス、SMTPサーバーアドレスを自動的にDHCPサーバーから取得することができます。DHCPサーバーと通信できない場合は、前回使用したIPアドレスをそのまま使用します。
2	ドメイン名の取得	ドメイン名をDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［有効］に設定されています。 **注 意** DHCPサーバーがドメイン名のデータを持っていない場合は、DDNS設定のドメイン名に手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、DDNS設定で正しいドメイン名を入力してください。 📖 P.127 「DDNS」

	項目名	機能説明
3	ドメインサーバーアドレス取得	ドメインサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［有効］に設定されています。 注 意 DHCPサーバーがプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、DNS設定のプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、DNS設定で正しいプライマリおよびセカンダリDNSサーバーアドレスを入力してください。 P.126 「DNS／DNS（セカンダリ）」
4	WINSサーバーアドレス取得	WINSサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［有効］に設定されています。 注 意 DHCPサーバーがプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SMB設定のプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SMB設定で正しいプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを入力してください。 P.145 「SMBの設定」
5	SMTPサーバーアドレス取得	SMTPサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［無効］に設定されています。 注 意 DHCPサーバーがSMTPサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SMTPクライアント設定のSMTPサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SMTPクライアント設定で正しいSMTPサーバーアドレスを入力してください。 P.158 「SMTPクライアントの設定」
6	POP3サーバーアドレス取得	POP3サーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［無効］に設定されています。 注 意 DHCPサーバーがPOP3サーバーアドレスのデータを持っていない場合は、POP3設定のPOP3サーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、POP3設定で正しいPOP3サーバーアドレスを入力してください。 P.161 「POP3クライアントの設定」

	項目名	機能説明
7	SNTPサーバーアドレス取得	SNTPサーバーアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得する場合は、［有効］に設定します。この設定は［アドレス設定方法］オプションで［自動IPなし］または［自動］が設定されている場合のみ適用されます。初期値は［無効］に設定されています。 **注 意** DHCPサーバーがSNTPサーバーアドレスのデータを持っていない場合は、SNTP設定のSNTPサーバーアドレスに手動で正しい値を設定しても、反映されず値が空欄になります。その場合は、この設定を［無効］に設定し、SNTP設定で正しいSNTPサーバーアドレスを入力してください。 P.113 「SNTP設定」
8	IPアドレス	［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、お使いの機器に設定する固定のIPアドレスを入力します。第1オクテットは1～126、128～223、第2～第4オクテットは0～255の設定が可能です。
9	サブネットマスク	［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、必要に応じてサブネットマスクを入力します。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。 ただし、0.0.0.0 と 255.255.255.255は設定できません。
10	ゲートウェイ	［アドレス設定方法］ボックスで［マニュアル］を選択したときに、必要に応じてゲートウェイアドレスを入力します。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。

IPv6／IPv6（セカンダリ）

2回線ネットワークを使用する場合は、セカンダリネットワーク用に［IPv6（セカンダリ）］も設定します。

	項目名	機能説明
1	IPv6使用	IPv6プロトコルの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	リンクローカルアドレス	自動的に生成されたIPv6用の固有なIPアドレスを表示します。

	項目名	機能説明
3	手動	IPv6アドレスを手動で設定します。設定できるIPv6アドレスは1個です。 **IPアドレス**：本機のIPアドレスを入力します。 1:0:0:0:0:0:0:0～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffffの範囲で設定します。 **プレフィックス長**：IPv6のプレフィックス長を入力します。0～128の範囲で設定します。初期値は「0」に設定されています。 **ゲートウェイ**：デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。 1:0:0:0:0:0:0:0～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffffの範囲で設定します。 **設定の取得にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を使用します。 補 足 • マニュアルを選択した場合、ステートフルアドレスは設定できません。 • IPv6アドレスが重複した場合は、DAD（Duplicate Address Detection）機能にて検知し、本機のタッチパネルに通知します。
4	ステートレスアドレスを使用する	ルーターから通知されるIPv6アドレス（ステートレスアドレス）を自動で取得します。 • **IPアドレス取得にDHCPv6を使用する（M flag）**：ステートレスのネットワーク環境で、IPv6サーバーから通知されるIPv6アドレスを取得します。 • **設定の取得にDHCPv6を使用する（O flag）**：ステートレスのネットワーク環境で、DHCPv6サーバーから通知されるDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を使用します。 • **FQDNオプション**：IPアドレス取得にDHCPv6を使用するを選択した場合、FQDNオプションを選択できます。FQDNオプションを選択した場合、アップデート方法を［サーバー］または［クライアント］から選択します。初期値は［サーバー］に設定されています。 • **IPアドレス**：ステートレスアドレスを表示します。最大7個までのIPv6アドレスを保持することができます。 補 足 本機がMフラグに“0”が設定されているRA（Router Advertisement）をルーターから受信した場合は、DHCPv6機能は動作しません。ルーターの設定でRAのMフラグの設定を“1”に変更した場合は、DHCPv6機能を動作させるために本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。
5	ステートフルアドレスを使用する	DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレス（ステートフルアドレス）を自動で取得します。 • **IPアドレス取得にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレスを使用します。 • **設定の取得にDHCPv6を使用する**：DHCPv6サーバーから通知されるIPv6アドレス以外のDNSサーバーのIPv6アドレスなどのオプション情報を使用します。 • **FQDNオプション**：IPアドレス取得にDHCPv6を使用するを選択した場合、FQDNオプションを選択できます。FQDNオプションを選択した場合、アップデート方法を［サーバー］または［クライアント］から選択します。初期値は［サーバー］に設定されています。 • **IPアドレス**：取得したステートフルアドレス、プレフィックス長、ゲートウェイを表示します。

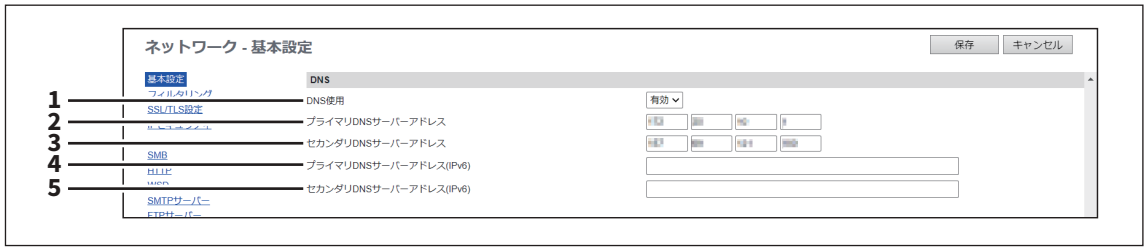
DNS／DNS（セカンダリ）

DNSを使用してSMTPサーバー、POP3サーバー、およびLDAPサーバーの指定にFQDNを設定したい場合に、DNSサーバーを有効にします。2回線ネットワークを使用する場合は、セカンダリネットワーク用に［DNS（セカンダリ）］も設定します。

補 足

DNSサービスが有効であり、DNSサーバーがダイナミックDNSサービスをサポートしている場合は、同時にDDNSセッションも設定してください。

📖 P.127 「DDNS」



	項目名	機能説明
1	DNS使用	DNSサーバーの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	プライマリDNSサーバーアドレス	DNSサービスが有効な場合に、プライマリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。
3	セカンダリDNSサーバーアドレス	DNSサービスが有効な場合に、必要に応じてセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。
4	プライマリDNSサーバーアドレス（IPv6）	IPv6でDNSサービスが有効な場合に、プライマリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。1:0:0:0:0:0:0:0～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffffの範囲で設定します。
5	セカンダリDNSサーバーアドレス（IPv6）	IPv6でDNSサービスが有効な場合に、必要に応じてセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを指定します。1:0:0:0:0:0:0:0～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffffの範囲で設定します。

補 足

TCP/IPの設定で［ドメインサーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリDNSサーバーアドレスとセカンダリDNSサーバーアドレスを取得し、適切なIPアドレスが自動的に入力されます。

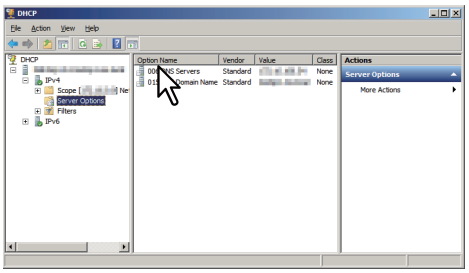
📖 P.120 「基本設定」

DDNS

DDNSでは、DNSサーバーがダイナミックDNSをサポートしている場合に、ダイナミックDNSサービスを有効にすることができます。

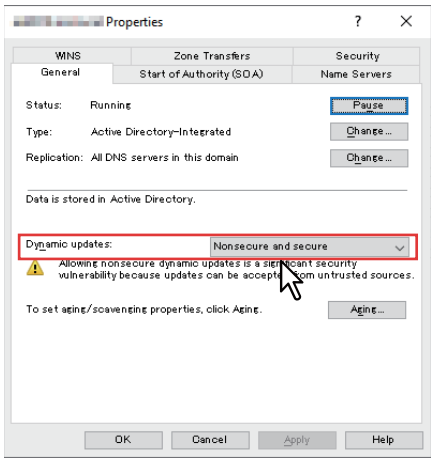
注 意

- 本機においてDDNSでセキュリティを使用する場合、WindowsのDNSのレコードを更新するサーバーと本機の時刻の設定がサーバーのアカウントポリシーに記載されている時間以上ずれている場合、セキュリティを使用したDNSの更新に失敗します。DNSサーバーの時刻の確認をして、本機との時刻を合わせてください。
- DDNSを使用している環境で、DHCPを使って本機のIPアドレスを割り当てている場合は、DHCP Server's Scope OptionsまたはServer Optionで「006 DNS Servers」および「015 DNS Domain Name」を有効にします。

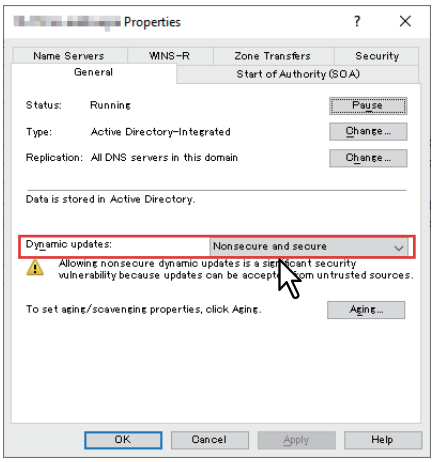


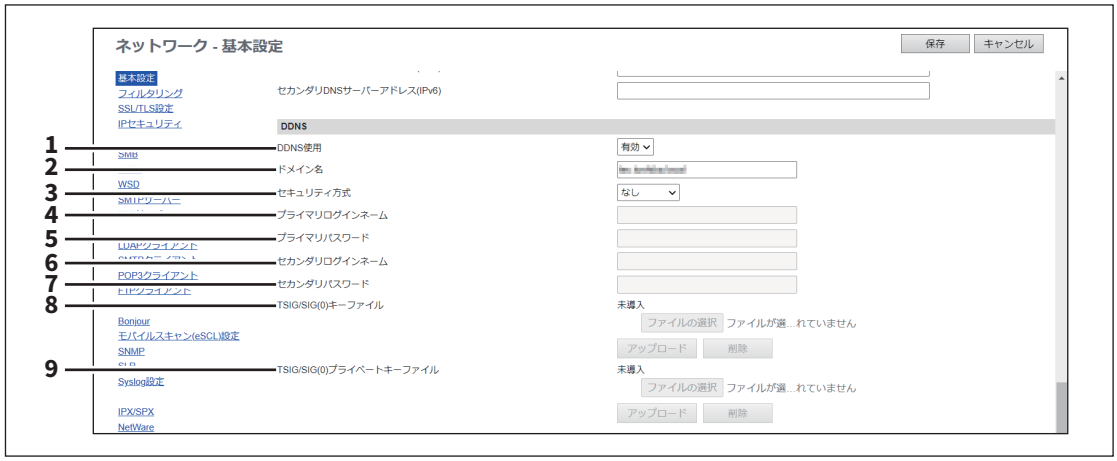
- DDNSを有効にする場合は、DNSサーバーの前方参照ゾーンおよび逆引き参照ゾーンで、「動的更新」設定項目が「非セキュリティ保護およびセキュリティ保護」、または「セキュリティ保護のみ」に設定されていることを確認してください（Windows Serverの場合）。
  DNSサーバーの設定が「セキュリティ保護のみ」に設定されている場合は、本機のDDNS設定でセキュリティの設定を行ってください。

前方参照ゾーン
（Windows Server 2019）



逆引き参照ゾーン
（Windows Server 2019）



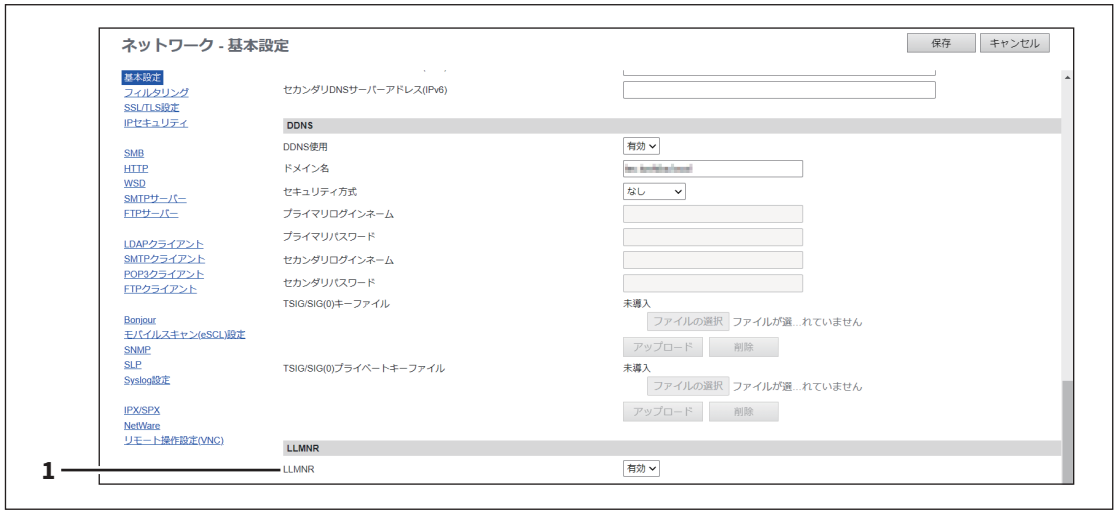


	項目名	機能説明
1	DDNS使用	ダイナミックDNSサービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	ドメイン名	ダイナミックDNSサービスを使用してDNSサーバーに登録する本機のドメイン名を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で96文字まで入力できます。 **補 足** TCP/IPの設定で［ドメイン名の取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからドメイン名を取得することができます。 📖 P.120 「基本設定」
3	セキュリティ方式	セキュリティ方式を選択します。 • **なし** 非セキュアな状態でDDNSアップデートを行います。 • **GSS-TSIG** GSS-TSIGを使用してセキュアなDDNSを行います。ログインネームとパスワードが設定可能です。ログインネームとパスワードが設定されていない場合は、セキュアなDDNSは行われません。 • **TSIG** TSIGを使用してセキュアなDDNSを行います。キーファイルとプライベートキーファイルをアップロードする必要があります。2つのファイルがアップロードされていない場合は、セキュリティ設定が行われません。 • **SIG（0）** SIG（0）を使用してセキュアなDDNSを行います。キーファイルとプライベートキーファイルをアップロードする必要があります。2つのファイルがアップロードされていない場合は、セキュリティ設定が行われません。
4	プライマリログインネーム	セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、プライマリログインネームを指定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。
5	プライマリパスワード	セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、プライマリパスワードを指定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。
6	セカンダリログインネーム	セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、セカンダリログインネームを指定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
7	セカンダリパスワード	セキュリティ方式でGSS-TSIGを選択した場合は、セカンダリパスワードを指定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。
8	TSIG/SIG（0）キーファイル	TSIGおよびSIG（0）で使用するキーファイルを、アップロードまたは削除する場合に設定します。 アップロードする場合は、［ファイルの選択］をクリックしキーファイルを指定して、［アップロード］をクリックします。 削除する場合は、［削除］をクリックします。
9	TSIG/SIG（0）プライベート キーファイル	TSIGおよびSIG（0）で使用するプライベートキーファイルを、アップロードまたは削除する場合に設定します。 アップロードする場合は、［ファイルの選択］をクリックしキーファイルを指定して、［アップロード］をクリックします。 削除する場合は、［削除］をクリックします。

LLMNR／LLMNR（セカンダリ）

2回線ネットワークを使用する場合は、セカンダリネットワーク用に［LLMNR（セカンダリ）］も設定します。



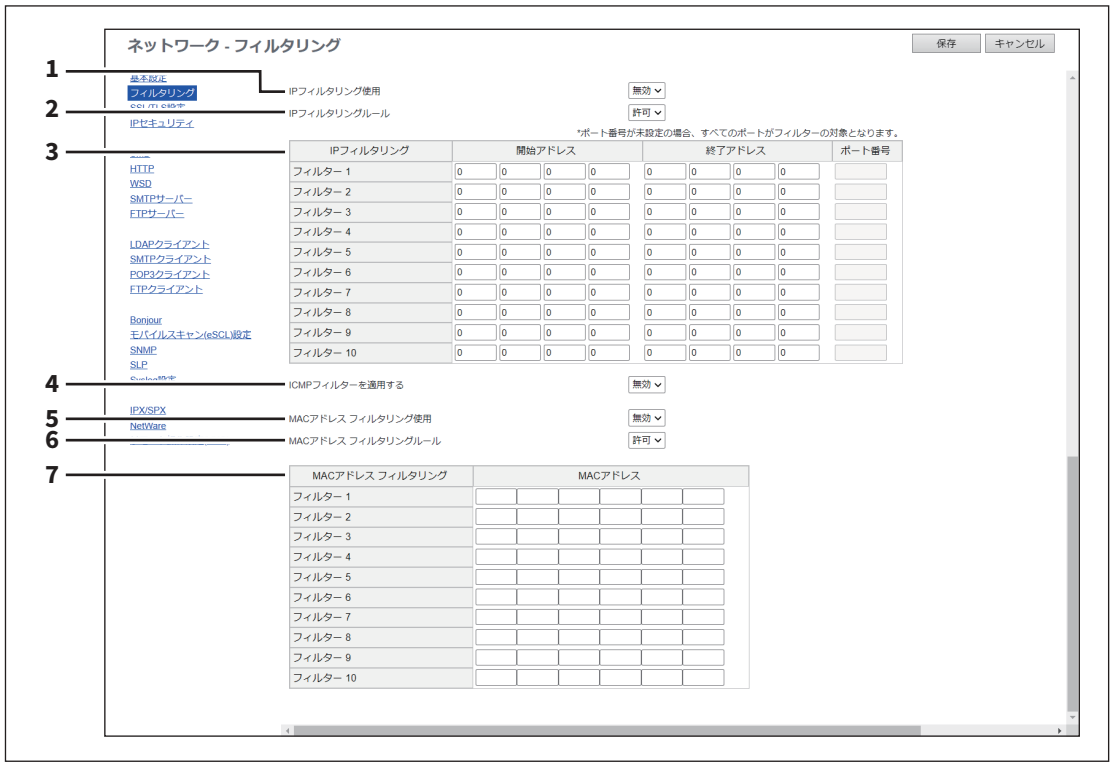
	項目名	機能説明
1	LLMNR	LLMNRの有効/無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。

□ フィルタリングの設定

本機へアクセスするクライアントを制限したい場合は、フィルタリングを設定します。フィルタリングの設定は、IPアドレスまたはMACアドレスで指定することができます。2回線ネットワークを使用する場合は、セカンダリネットワーク用に［セカンダリ］も設定します。

注 意

IPアドレスのフィルタリング設定よりもMACアドレスのフィルタリング設定の方が、より優先的に使用されます。

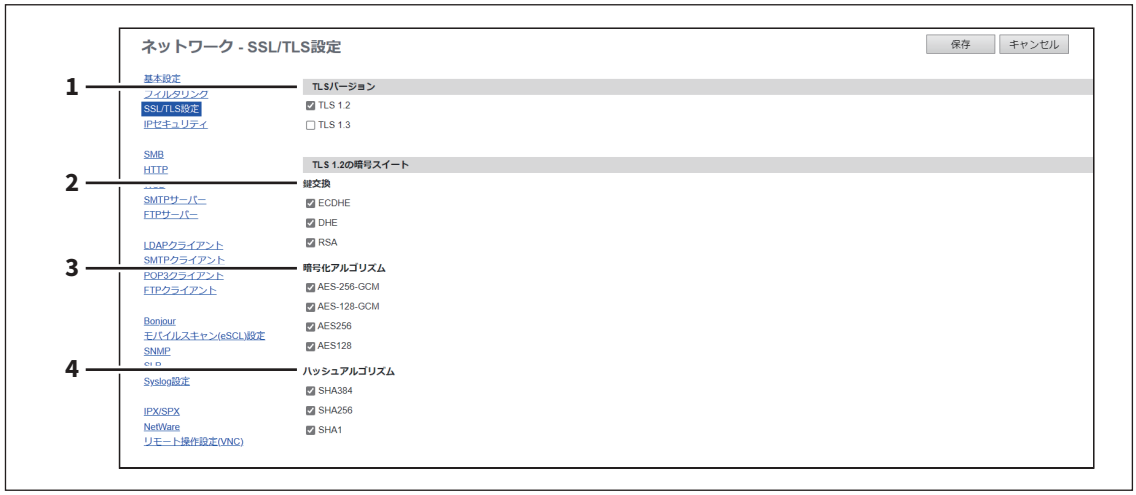


	項目名	機能説明
1	IPフィルタリング使用	IPアドレスでフィルタリングをする場合、［有効］に設定します。この設定を［有効］にすると、［IPフィルタリングルール］で選択した条件で、［IPフィルタリング］で指定したIPアドレスが設定されたネットワーク上の機器からのアクセスを制限します。初期値は［無効］に設定されています。 **注 意** IPフィルタリングは、IPv4で構築されたネットワーク環境でのみ有効となります。IPv6のネットワーク環境では使用できません。IPv6の環境でフィルタリングをしたい場合は、MACアドレスでフィルタリングしてください。
2	IPフィルタリングルール	IPフィルタリングの条件を設定します。 • **許可**：［IPフィルタリング］で指定したIPアドレスが設定されたネットワーク上の機器からのアクセスを、許可します。 • **拒否**：指定したIPアドレスが設定された機器からのアクセスを拒否します。

	項目名	機能説明
3	IPフィルタリング	IPフィルタリングするクライアントの開始IPアドレスと終了IPアドレスおよびポート番号を入力します。最大10個の範囲を指定することができます。 **注 意** IPアドレスは、IPv4のアドレスのみ指定できます。IPv6のアドレスは指定できません。
4	ICMPフィルターを適用する	Internet Control Message Protocol（インターネット制御通知プロトコル）をフィルタリングする場合、［有効］に設定します。初期値は［無効］に設定されています。
5	MACアドレス フィルタリング 使用	MACアドレスでフィルタリングをする場合、［有効］に設定します。この設定を［有効］にすると、［MACアドレス フィルタリングルール］で選択した条件で、［MACアドレス フィルタリング］で指定したMACアドレスが割り当てられたネットワーク上の機器からのアクセスを制限します。初期値は［無効］に設定されています。
6	MACアドレス フィルタリング ルール	MACアドレスフィルタリングの条件を設定します。 • **許可**：［MACアドレス フィルタリング］で指定したMACアドレスが割り当てられたネットワーク上の機器からのアクセスを許可します。 • **拒否**：指定したMACアドレスが割り当てられた機器からのアクセスを拒否します。
7	MACアドレス フィルタリング	MACアドレスフィルタリングするクライアントのMACアドレスを入力します。最大10個のアドレスを指定することができます。

□ SSL/TLSの設定

ネットワーク環境でSSL/TLS通信する際に使用するTLSのバージョンやTLS 1.2の暗号スイートを設定します。

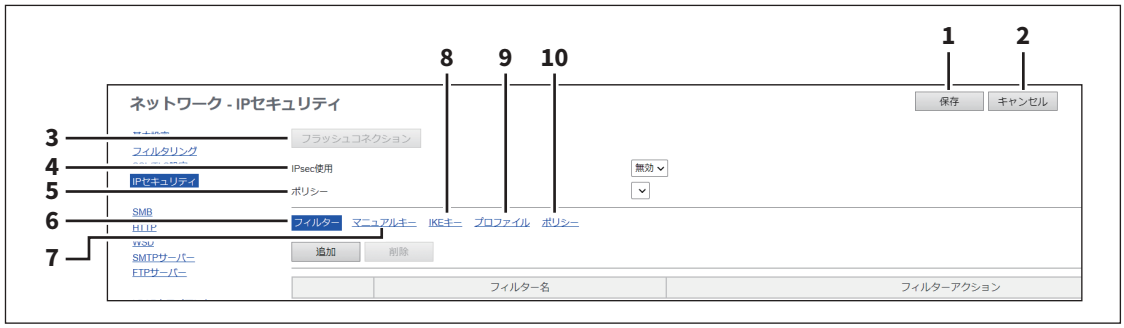


	項目名	機能説明
1	TLSバージョン	SSL/TLS通信で使用するTLSのバージョンを選択します。 **注 意** • 同時に両方のバージョンを無効にできません。 • 機器間で異なるTLSバージョンが設定されていると、通信できません。
2	鍵交換	TLS 1.2の暗号スイートで使用する鍵交換の方式を選択します。
3	暗号化アルゴリズム	TLS 1.2の暗号スイートで使用する暗号化アルゴリズムを選択します。

	項目名	機能説明
4	ハッシュアルゴリズム	TLS 1.2の暗号スイートで使用するハッシュアルゴリズムを選択します。

□ IPセキュリティの設定

IPセキュリティ機能を使用すると、IPsec（IP Security Protocol）による暗号化通信が可能となります。

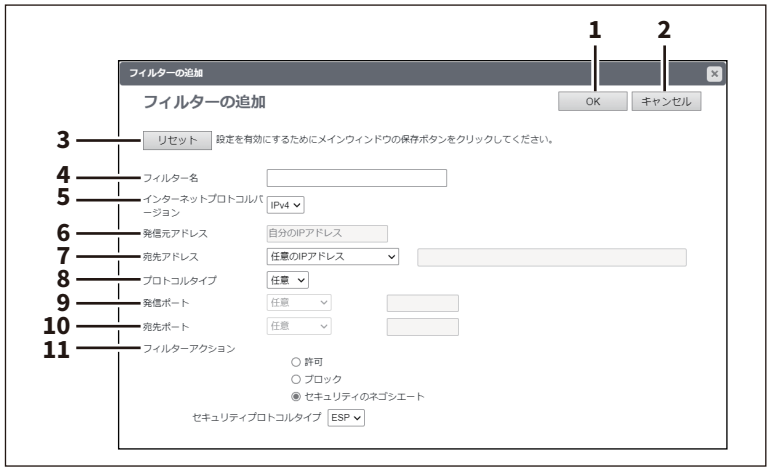


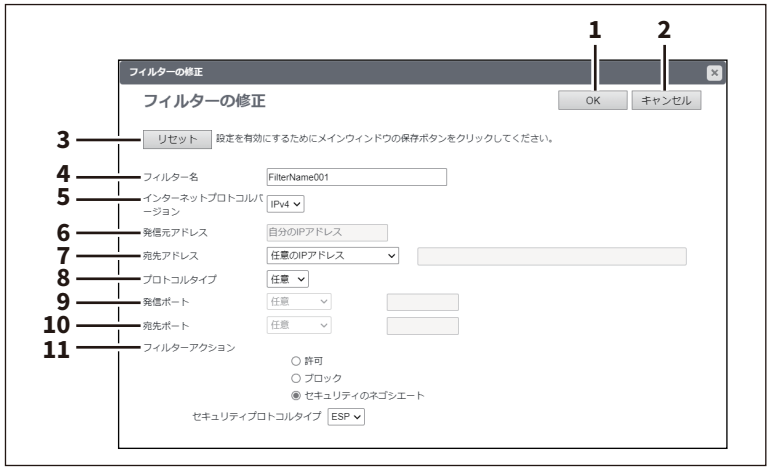
	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	IPセキュリティの設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	IPセキュリティの設定を中止します。
3	［フラッシュコネクション］ボタン	IPsec通信に使用するキーの漏えいや、セキュリティへの侵害が発生した場合、フラッシュコネクション機能を使用して、現在のセッションを手動で消去（フラッシュ）し、新しいセッションを開始させることができます。また、何らかの理由によりSAD（Security Association Database）の情報を消去したい場合にも、フラッシュコネクション機能で情報を消去することができます。
4	IPsec使用	IPsecの有効／無効を設定します。 • **有効**：IPsecを有効にします。 • **無効**：IPsecを無効にします。
5	ポリシー	IPsecで使用するポリシーを選択します。 IPsecによる暗号化通信を行うには、お使いになる環境に合わせたIPsecのポリシーを作成する必要があります。 📖 P.144 「［ポリシーの追加］/［ポリシーの修正］画面」
6	フィルター	IPsec環境のフィルターを作成します。 **［追加］ボタン**：［フィルターの追加］画面でフィルターを追加できます。 📖 P.134 「［フィルターの追加］/［フィルターの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するフィルターにチェックを付けてからクリックするとフィルターを削除できます。 **フィルター名**：登録されているフィルター名をクリックすると内容を修正できます。 📖 P.134 「［フィルターの追加］/［フィルターの修正］画面」 **フィルターアクション**：登録されているフィルターのアクションを表示します。

	項目名	機能説明
7	マニュアルキー	IPsecのマニュアルキーを設定します。 **［追加］ボタン**：［マニュアルキーの追加］画面でマニュアルキーを追加できます。 📖 P.136 「［マニュアルキー追加］/［マニュアルキーの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するマニュアルキーにチェックを付けてからクリックするとマニュアルキーを削除できます。 **マニュアルキー名**：登録されているマニュアルキー名をクリックすると内容を修正できます。 📖 P.136 「［マニュアルキー追加］/［マニュアルキーの修正］画面」 **暗号化アルゴリズム**：登録されている暗号化アルゴリズムを表示します。
8	IKEキー	IPsecのIKEキーを設定します。 **［追加］ボタン**：［IKEの追加］画面でIKEキーを追加できます。 📖 P.138 「［IKEの追加］/［IKEの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するキー名にチェックを付けてからクリックするとキーを削除できます。 **キー名**：登録されているキー名をクリックすると内容を修正できます。 📖 P.138 「［IKEの追加］/［IKEの修正］画面」 **IKEタイプ**：登録されているIKEタイプを表示します。
9	プロファイル	IPsecの環境に合わせて「フィルター」と「マニュアルキー」または「IKEキー」を作成し、それらを組み合わせて「プロファイル」を作成します。 **［追加］ボタン**：［プロファイルの追加］画面でプロファイルを追加できます。 📖 P.141 「［プロファイルの追加］/［プロファイルの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するプロファイル名にチェックを付けてからクリックするとプロファイルを削除できます。 **プロファイル名**：登録されているプロファイル名をクリックすると内容を修正できます。 📖 P.141 「［プロファイルの追加］/［プロファイルの修正］画面」 **プロファイルモード**：登録されているプロファイルのモードを表示します。
10	ポリシー	登録済みのプロファイルを組み合わせてIPsecで使用するポリシーを作成します。 **［追加］ボタン**：［ポリシーの追加］画面でポリシーを追加できます。 📖 P.144 「［ポリシーの追加］/［ポリシーの修正］画面」 **［削除］ボタン**：削除するポリシー名にチェックを付けてからクリックするとポリシーを削除できます。 **ポリシー名**：登録されているポリシー名をクリックすると内容を修正できます。 📖 P.144 「［ポリシーの追加］/［ポリシーの修正］画面」

［フィルターの追加］/［フィルターの修正］画面

フィルターの［追加］ボタン、または登録済みのファイル名をクリックすると表示します。
IPsecのフィルターを作成します。



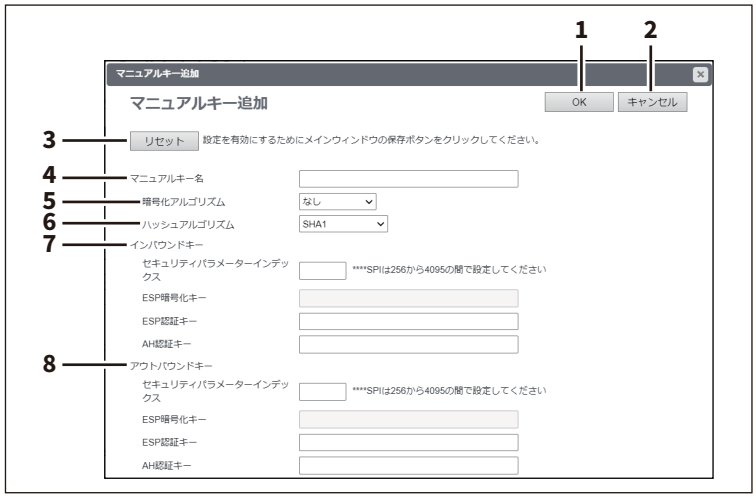


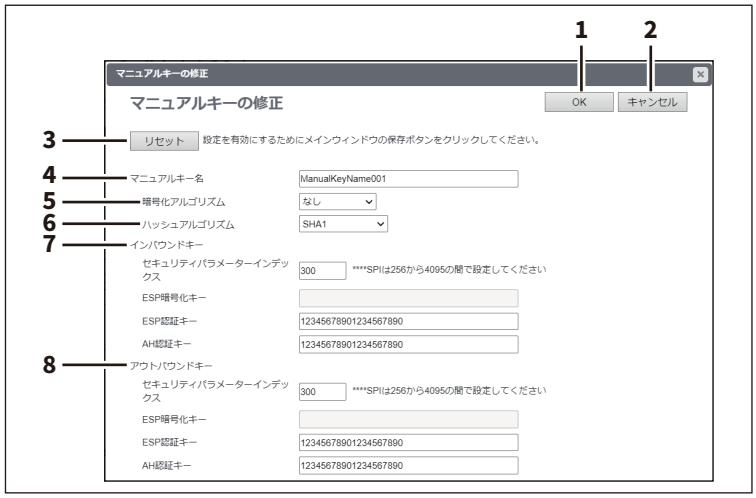
	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したフィルターを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	フィルターの登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定した内容をリセットして、初期の状態に戻します。
4	フィルター名	フィルターの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; , " =」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。
5	インターネットプロトコルバージョン	IPsecを使用するIPのバージョンを選択します。 • **IPv4**：IPsecをIPv4環境で使用する場合に選択します。 • **IPv6**：IPsecをIPv6環境で使用する場合に選択します。
6	発信元アドレス	フィルターを適用させる通信の発信元のアドレスとして、本機のIPアドレスが設定されます。ボックスには［自分のIPアドレス］と表示されます。この項目を変更することはできません。

	項目名	機能説明
7	宛先アドレス	フィルターを適用させる通信の宛先のアドレスを設定します。 • **特定のIPアドレス**：特定の宛先をIPアドレスで設定します。アドレスの入力ボックスにIPアドレスを入力します。 • **サブネット/プレフィックス**：宛先をIPアドレスとサブネットマスクで設定します。アドレスの入力ボックスにIPアドレスとサブネットマスクのプレフィックス値を直接入力します。 • **FQDN**：宛先をFQDNで設定します。アドレスの入力ボックスにFQDNを入力します。半角の英数字、「- .」を含め、255文字まで入力できます。先頭の文字と最後の文字には「- .」は使用できません。 • **任意のIPアドレス**：任意の宛先を設定します。
8	プロトコルタイプ	フィルターに使用するプロトコルを選択します。 • **任意**：任意のプロトコルを使用します。 • **TCP**：TCPのみを使用します。 • **UDP**：UDPのみを使用します。 • **ICMP**：ICMPのみを使用します。
9	発信ポート	発信元のポート番号を設定します。プロトコルタイプでTCPまたはUDPを選択した場合のみ、設定することができます。 • **任意**：任意の発信ポートを使用します。 • **ポート番号**：発信ポート番号を設定します。ポート番号の入力ボックスにポート番号を入力します。
10	宛先ポート	宛先のポート番号を設定します。プロトコルタイプでTCPまたはUDPを選択した場合のみ、設定することができます。 • **任意**：任意の宛先ポートを使用します。 • **ポート番号**：宛先ポート番号を設定します。ポート番号の入力ボックスにポート番号を入力します。
11	フィルターアクション	フィルターの動作を設定します。 • **許可**：指定した宛先からのアクセスを許可します。 • **ブロック**：指定した宛先からのアクセスを拒否します。 • **セキュリティのネゴシエート**：指定した宛先とIPsec通信を行います。なお、この項目を設定した場合は、IPsec通信に使用するセキュリティプロトコルタイプを以下から選択します。 - **ESP**：ESP（Encapsulating Security Payload）を使用します。 - **AH**：AH（Authentication Header）を使用します。

［マニュアルキー追加］/［マニュアルキーの修正］画面

マニュアルキーの［追加］ボタン、または登録済みのマニュアルキー名をクリックすると表示します。
IPsecのマニュアルキーを設定します。



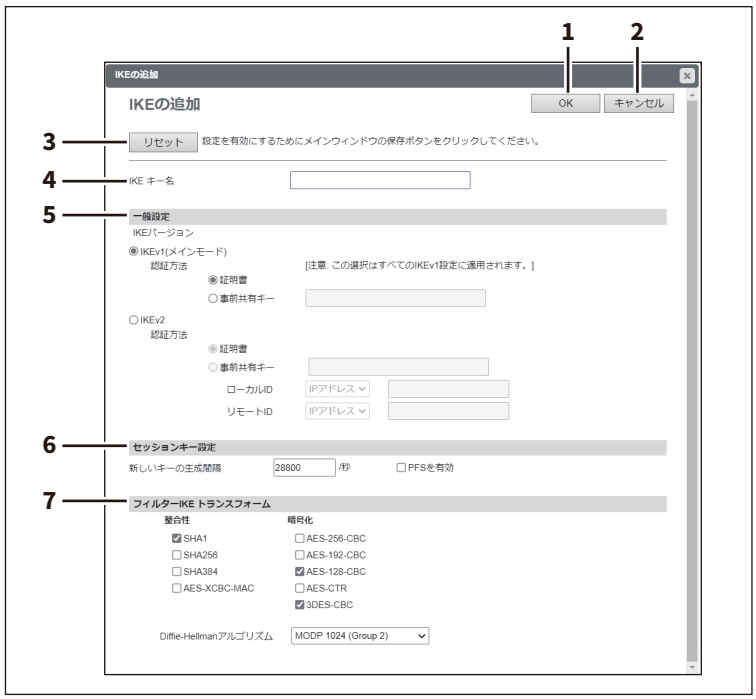


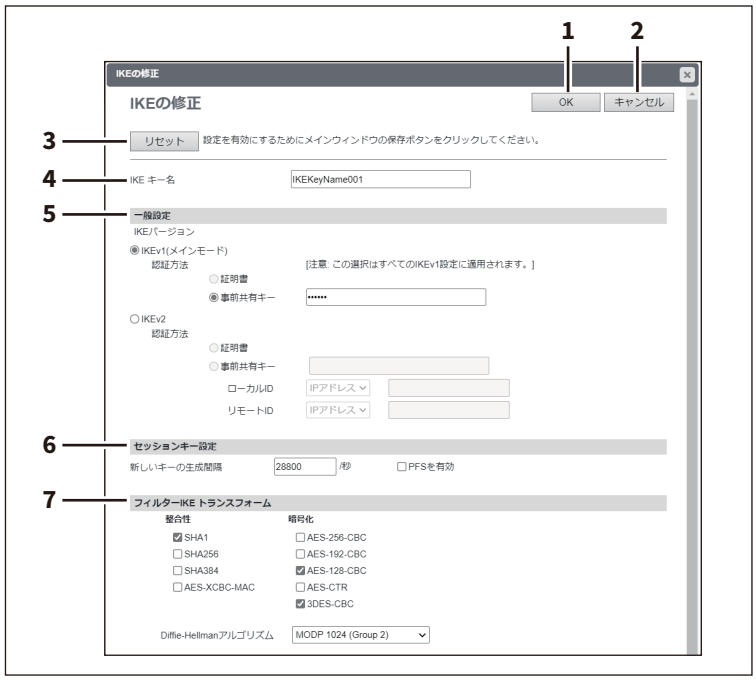
	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したキーを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	キーの登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定した内容をリセットして、初期の状態に戻します。
4	マニュアルキー名	マニュアルキーの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; , " =」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。
5	暗号化アルゴリズム	暗号化アルゴリズムを選択します。 • **なし**：暗号化しません。 • **AES-256-CBC**：AES-CBC（256ビット）を使用します。 • **AES-192-CBC**：AES-CBC（192ビット）を使用します。 • **AES-128-CBC**：AES-CBC（128ビット）を使用します。 • **3DES-CBC**：3DES-CBCを使用します。 • **DES-CBC**：DES-CBCを使用します。
6	ハッシュアルゴリズム	ハッシュアルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **MD5**：MD5を使用します。 • **AES-XCBC-MAC**：AES-XCBC-MACを使用します。

	項目名	機能説明
7	インバウンドキー	受信側のキーを選択します。
	セキュリティパラメーターインデックス	識別用のセキュリティパラメーターインデックス（SPI）を指定します。256から4095までの値を入力できます。
	ESP暗号化キー	ESP（Encapsulating Security Payload）の暗号化キーを入力します。
	ESP認証キー	ESP（Encapsulating Security Payload）の認証キーを入力します。
	AH認証キー	AH（Authentication Header）の認証キーを入力します。
8	アウトバウンドキー	送信先向けのキーを選択します。
	セキュリティパラメーターインデックス	識別用のセキュリティパラメーターインデックス（SPI）を指定します。256から4095までの値を入力できます。
	ESP暗号化キー	ESP（Encapsulating Security Payload）の暗号化キーを入力します。
	ESP認証キー	ESP（Encapsulating Security Payload）の認証キーを入力します。
	AH認証キー	AH（Authentication Header）の認証キーを入力します。

［IKEの追加］/［IKEの修正］画面

IKEキーの［追加］ボタン、または登録済みのキー名をクリックすると表示します。
IPsecのIKEキーを設定します。





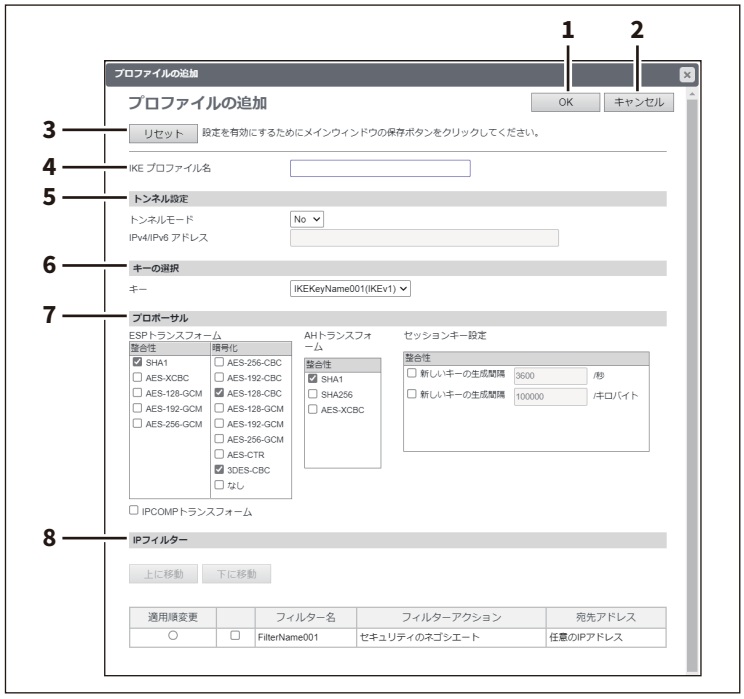
	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したキーを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	キーの登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定した内容をリセットして、初期の状態に戻します。
4	IKEキー名	IKEキーの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; , " =」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。 補 足 最大で30個のIKEキーを作成することができます。

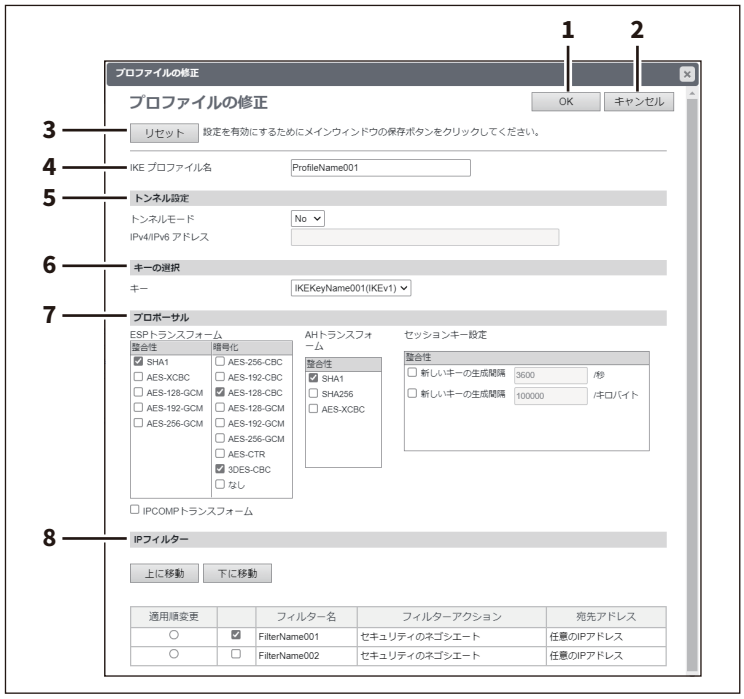
	項目名	機能説明
5	一般設定	
	IKEv1（メインモード）	IKEv1を使用します。 **証明書**：電子証明書により認証する場合に選択します。この項目を選択するには、あらかじめ本機にIPsec用証明書がインストールされている必要があります。 **事前共有キー**：あらかじめ通信相手と鍵情報を交換して認証する場合に選択します。入力ボックスに通信相手と共有する鍵情報を入力します。半角の英数字や「 & < "」以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。 **注 意** 複数のIKEv1の事前共有キーを登録すると、最後に登録した事前共有キーのみ有効になります。
	IKEv2	IKEv2を使用します。 **証明書**：電子証明書により認証する場合に選択します。この項目を選択するには、あらかじめ本機にIPsec用証明書がインストールされている必要があります。 **事前共有キー**：あらかじめ通信相手と鍵情報を交換して認証する場合に選択します。入力ボックスに通信相手と共有する鍵情報を入力します。半角の英数字や「 & < "」以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。 • **ローカルID**：IPアドレス、FQDN、Email、Key-IDから選択します。Key-IDを選択した場合は、対応した値を入力します。半角の英数字や「 & < "」以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。 • **リモートID**：IPアドレス、FQDN、Email、Key-IDから選択します。FQDN、Email、Key-IDを選択した場合は、対応した値を入力します。Key-IDを選択した場合は、対応した値を入力します。半角の英数字や「 & < "」以外の記号で、最大で128文字まで入力できます。Emailを選択した場合は、半角の英数字で、最大で192文字まで入力できます。FQDNを選択した場合は、半角の英数字、「- .」を含め、255文字まで入力できます。先頭の文字と最後の文字には「- .」は使用できません。
6	セッションキー設定	
	新しいキーの生成間隔	IPsec通信の鍵情報を生成しなおす間隔を秒単位で入力します。60秒～604,800秒（7日間）の範囲で設定します。 **PFSを有効**：IKEでPFS（Perfect Forward Secrecy）機能を使う場合、チェックボックスをオンにします。

	項目名	機能説明
7	フィルター IKEトランスフォーム	
	整合性	IKEで使用する認証アルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **SHA256**：SHA256を使用します。 • **SHA384**：SHA384を使用します。 • **AES-XCBC-MAC**：AES-XCBC-MACを使用します。
	暗号化	IKEで使用する暗号アルゴリズムを選択します。 • **AES-256-CBC**：AES-CBC（256ビット）を使用します。 • **AES-192-CBC**：AES-CBC（192ビット）を使用します。 • **AES-128-CBC**：AES-CBC（128ビット）を使用します。 • **AES-CTR**：AES-CTRを使用します。 • **3DES-CBC**：3DES-CBCを使用します。
	Diffie-Hellmanアルゴリズム	IKEで使用するDiffie-Hellmanグループを選択します。 • **MODP 768（Group 1）**：768ビットのMODPグループを使用します。 • **MODP 1024（Group 2）**：1024ビットのMODPグループを使用します。 • **MODP 2048（Group 14）**：2048ビットのMODPグループ14を使用します。 • **MODP 2048（Group 24）**：2048ビットのMODPグループ24を使用します。 • **楕円曲線 P-256（グループ 19）**：楕円曲線 P-256を使用します。 • **楕円曲線 P-384（グループ 20）**：楕円曲線 P-384を使用します。 • **楕円曲線 P-521（グループ 21）**：楕円曲線 P-521を使用します。

［プロファイルの追加］/［プロファイルの修正］画面

プロファイルの［追加］ボタン、または登録済みのプロファイル名をクリックすると表示します。
登録済みのフィルターとマニュアルキーまたはIKEキーを組み合わせてIPsec環境のプロファイルを作成します。





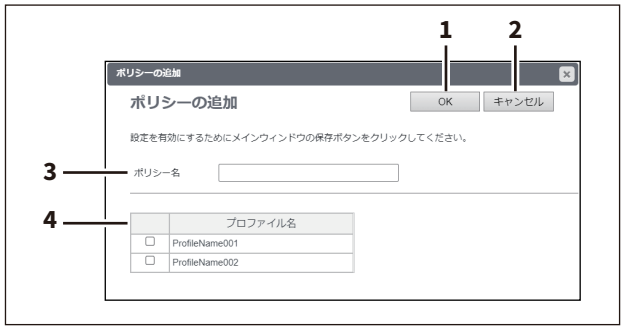
	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したプロファイルを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	プロファイルの登録を中止します。
3	［リセット］ボタン	設定した内容をリセットして、初期の状態に戻します。

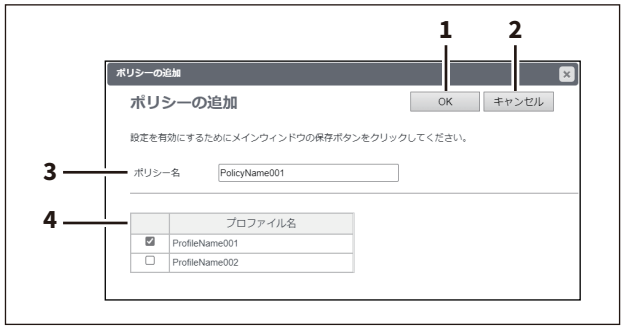
	項目名		機能説明
4	IKEプロファイル名		プロファイルの名前を入力します。半角の英数字や「- _」の記号で、最大63文字まで入力できます。 補 足 最大で30個のプロファイルを作成することができます。
5	トンネル設定		
		トンネルモード	IPsec通信にトンネルモードを使用するかを選択します。 • **Yes**：トンネルモードを使用します。 • **No**：トンネルモードを使用しません。（トランスポートモードを使用します。）
		IPv4/IPv6アドレス	トンネルモードの使用時にデータの暗号化／復号化などを行う、ゲートウェイのIPアドレスを入力します。
6	キーの選択		
		キー	本機に登録されているIKEキー設定が表示されます。プロファイルに適用するキーを選択します。

	項目名	機能説明
7	プロポーサル	
	ESPトランスフォーム	ESPに適用するトランスフォームを設定します。 **整合性**：ESPで使用する認証アルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **AES-XCBC**：AES-XCBCを使用します。 • **AES-128-GCM**：AES-128-GCMを使用します。 • **AES-192-GCM**：AES-192-GCMを使用します。 • **AES-256-GCM**：AES-256-GCMを使用します。 **暗号化**：ESPで使用する暗号アルゴリズムを選択します。 • **AES-256-CBC**：AES-CBC（256ビット）を使用します。 • **AES-192-CBC**：AES-CBC（192ビット）を使用します。 • **AES-128-CBC**：AES-CBC（128ビット）を使用します。 • **AES-128-GCM**：AES-GCM（128ビット）を使用します。 • **AES-192-GCM**：AES-192-GCMを使用します。 • **AES-256-GCM**：AES-256-GCMを使用します。 • **AES-CTR**：AES-CTRを使用します。 • **3DES-CBC**：3DES-CBCを使用します。 • **なし**：暗号化をしません。
	AHトランスフォーム	AHに適用するトランスフォームを設定します。 **整合性**：AHで使用する認証アルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **SHA256**：SHA256を使用します。 • **AES-XCBC**：AES-XCBCを使用します。
	セッションキー設定	IPsec通信に使用するセッションキーを設定します。 **セッションキー設定**：セッションキーを生成しなおす間隔を設定します。生成間隔は、時間またはデータ量で設定することができます。設定したい方法のチェックボックスをオンにして、ボックスに数値を入力します。 • **新しいキーの生成間隔［　］/秒**：キーの生成間隔を時間（秒）で設定します。180～86,400秒（24時間）の範囲で設定します。 • **新しいキーの生成間隔［　］/キロバイト**：キーの生成間隔をデータ量（キロバイト）で設定します。 20,480～214,783,647KBの範囲で設定します。
	IPCOMPトランスフォーム	IPCOMPトランスフォームを使用する場合は選択します。
8	IPフィルター	本機に登録されているフィルター設定がリストで表示されます。プロファイルに適用するフィルターのチェックボックスをオンにします。なお、複数のフィルターが登録されている場合は、リストの並び順を変更することもできます。並び順を変えたいフィルターの［MOVE］欄をクリックし、［上に移動］／［下に移動］をクリックすると、フィルターを上／下に移動させることができます。

［ポリシーの追加］/［ポリシーの修正］画面

ポリシーの［追加］ボタン、または登録済みのポリシー名をクリックすると表示します。
登録済みのプロファイルを組み合わせて、IPsecで使用するポリシーを作成します。

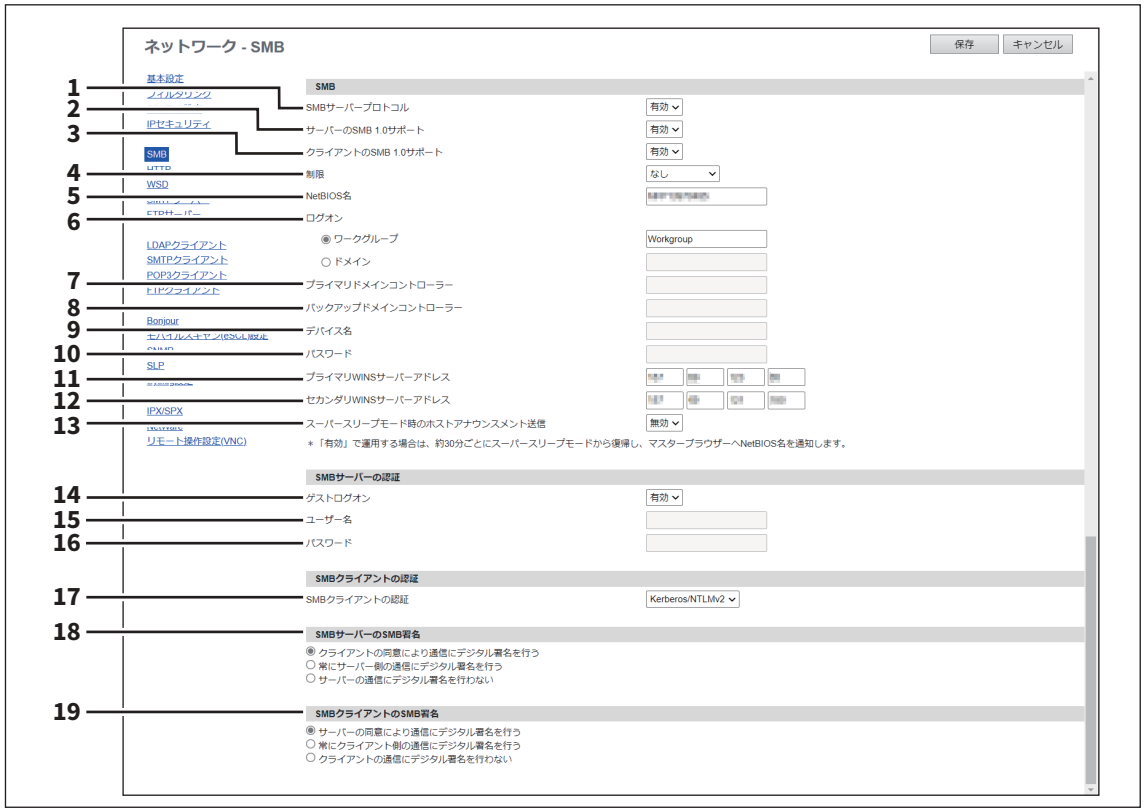




	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	設定したポリシーを保存します。
2	［キャンセル］ボタン	ポリシーの登録を中止します。
3	ポリシー名	ポリシーの名前を入力します。半角の英数字や「# % & + ¥ ' ; , " =」以外の記号で、最大63文字まで入力できます。 補 足 最大で10個のポリシーを作成することができます。
4	プロファイル名	ポリシーに適用するプロファイルを選択します。 プロファイルは複数選択することができます。

□ SMBの設定

SMBでは、SMBネットワークの各プロパティを設定し、Microsoft Windowsネットワークによる本機へのアクセスや、SMB印刷を有効にします。SMBを有効にすると、SMB印刷が利用可能になるほか、本機の共有フォルダーを参照できるようになります。また、異なるサブネット間のファイル共有やプリンター共有をWINSサーバーを使って解決している場合は、WINSサーバーアドレスを指定します。



	項目名	機能説明
1	SMBサーバープロトコル	SMBの有効／無効を選択します。 • **有効**：SMBを有効にします。 • **無効**：SMBを無効にします。
2	サーバーのSMB 1.0サポート	サーバーでSMB 1.0をサポートするかどうかを選択します。 • **有効**：サーバーでSMB 1.0を有効にします。 • **無効**：サーバーでSMB 1.0を無効にします。
3	クライアントのSMB 1.0サポート	クライアントでSMB 1.0をサポートするかどうかを選択します。 • **有効**：クライアントでSMB 1.0を有効にします。 • **無効**：クライアントでSMB 1.0を無効にします。
4	制限	SMBで制限を指定します。 • **なし**：SMBで制限しない場合に選択します。 • **プリント共有**：共有フォルダーの参照のみ有効にし、本機のSMB印刷を無効にします。 • **ファイル共有**：SMB印刷のみ有効にし、本機の共有フォルダーの参照を無効にします。

	項目名	機能説明
5	NetBIOS名	Windowsネットワーク上で表示される本機の名称を入力します。標準の設定では、「MFP<NICシリアル番号>」がNetBIOS名として設定されています。 **注 意** NetBIOS名は、半角英数字と「-」（ハイフン）のみを使用して入力してください。それ以外の文字を使用して入力した場合は、警告メッセージが表示されます。
6	ログオン	本機が所属するワークグループ名またはドメイン名を入力します。 • **ワークグループ**：本機をワークグループに参加させる場合は、ワークグループ名を入力します。すべてのクライアントコンピューターは、ユーザー名やパスワードを使用せずに本機にアクセスすることができます。 • **ドメイン**：本機をドメインにログオンさせる場合は、ドメイン名を入力します。ドメインのメンバーとしてログオンしていないクライアントコンピューターから本機にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要になります。本機へのアクセスを制限したい場合は、ドメインで管理します。 **注 意** ワークグループ名は、半角英数字と以下の記号「; : " < > + = ¥ | ? , * #」以外の文字とひらがな、漢字を使用して入力してください。ドメイン名は、半角英数字と以下の記号「; : " < > + = ¥ | ? , * #」以外の文字を使用して入力してください。それ以外の文字を使用して入力した場合は、警告メッセージが表示されます。
7	プライマリドメイン コントローラー	本機をドメインにログオンさせる場合に、プライマリドメインコントローラーのサーバー名またはIPアドレスを指定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。
8	バックアップドメイン コントローラー	本機をドメインにログオンさせる場合に、必要に応じてバックアップドメインコントローラーのサーバー名またはIPアドレスを指定します。プライマリドメインコントローラーが使用できない場合に、バックアップドメインコントローラーが使用されます。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。 **注 意** プライマリドメインコントローラーおよびバックアップドメインコントローラーに誤った設定を行うと、Windowsネットワーク内のプライマリドメインコントローラーおよびバックアップドメインコントローラーを最大4分程度検索するとともに、検索中はタッチパネルの「ネットワーク準備中」表示が消えません。この場合は、「ネットワーク準備中」表示が消えた後、プライマリドメインコントローラーおよびバックアップドメインコントローラーに正しい設定を行ってください。
9	デバイス名	指定したドメインにログオンするための、本機のデバイス名（ログオンユーザー名）を入力します。半角英数字と記号（" / ¥ [ ] : ; | = , + * ? < >を除く）で128文字まで入力できます。
10	パスワード	指定したデバイス名（ログオンユーザー名）のパスワードを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。

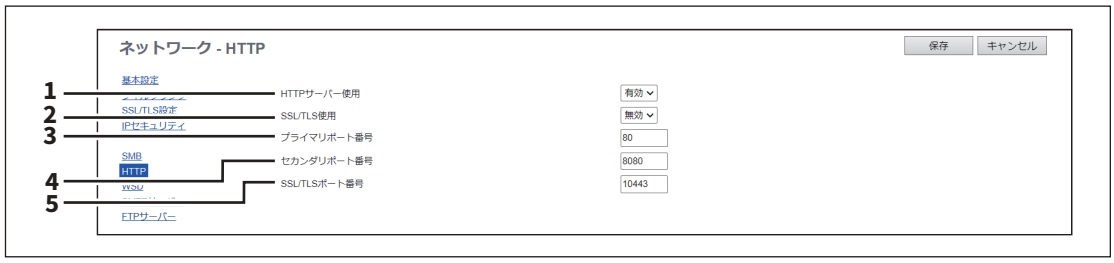
	項目名	機能説明
11	プライマリWINSサーバーアドレス	WINSサーバーを使用して本機のNetBIOS名およびワークグループ名を解決する必要がある場合に、プライマリWINSサーバーのIPアドレスを指定します。異なるサブネットからNetBIOS経由でアクセスしたい場合に設定します。 補 足 TCP/IPの設定で［WINSサーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを取得することができます。 📖 P.120 「基本設定」
12	セカンダリWINSサーバーアドレス	WINSサーバーを使用して本機のNetBIOS名およびワークグループ名を解決する必要がある場合に、必要に応じてセカンダリWINSサーバーのIPアドレスを指定します。プライマリWINSサーバーが使用できない場合に、セカンダリWINSサーバーが使用されます。 補 足 TCP/IPの設定で［WINSサーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを取得することができます。 📖 P.120 「基本設定」 注 意 ［プライマリWINSサーバーアドレス］および［セカンダリWINSサーバーアドレス］に、「0.0.0.0」を入力した場合は、WINSの設定は無効になります。
13	スーパースリープモード時のホストアナウンスメント送信	スーパースリープモード時でも、Windowsコンピューターの「ネットワーク」フォルダー内に本機のアイコンを表示します。 • **無効**：スーパースリープモード時のホストアナウンスメント送信を無効にします。 • **有効**：スーパースリープモード時でも、Windowsコンピューターの「ネットワーク」フォルダー内に本機のアイコンを表示します。 注 意 本機のスーパースリープモードが［無効］の場合、本設定に関係なくWindowsコンピューターの「ネットワーク」フォルダー内に本機のアイコンを表示します。
14	ゲストログオン	ゲストユーザーがSMBサーバーにログオンできるかどうかを選択します。初期値は［有効］に設定されています。
15	ユーザー名	［ゲストログオン］が［無効］の場合、SMBサーバーにログオンするためのユーザー名を入力します。半角の英数字と記号（" / ¥ [ ] : ; | = , + * ? < >を除く）で32文字まで入力できます。 注 意 ユーザー名を変更する前に本機のSMBサーバーに接続した場合、Windowsコンピューターにユーザー名およびパスワードの資格情報がキャッシュされていますので、資格情報をクリアするためにWindowsコンピューターを再起動してください。

	項目名	機能説明
16	パスワード	［ゲストログオン］が［無効］の場合、指定したユーザー名のパスワードを入力します。半角の英数字と記号で128文字まで入力できます。 **注 意** パスワードを変更する前に本機のSMBサーバーに接続した場合、Windowsコンピューターにユーザー名およびパスワードの資格情報がキャッシュされていますので、資格情報をクリアするためにWindowsコンピューターを再起動してください。
17	SMBクライアントの認証	SMBクライアントの認証方法を設定します。 • **Kerberos/NTLMv2**：Kerberos/NLTMv2認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。Kerberos認証に失敗した場合はNTLMv2認証を行います。 • **Kerberos/NTLMv1**：Kerberos/NTLMv1認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。Kerberos認証に失敗した場合はNTLMv1認証を行います。 • **Kerberos**：Kerberos認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。 • **NTLMv2**：NTLMv2認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。 • **NTLMv1**：NTLMv1認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。 **注 意** macOS 10.12以降のSMBサーバーは、NTLMv1認証に対応していません。
18	SMBサーバーのSMB署名	クライアントが本機の共有フォルダーにアクセスする場合など、クライアントから本機にSMBでアクセスする際に、SMB署名を使用するかどうかを設定します。 • **クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う**：クライアントがデジタル署名を使用してSMB通信した場合のみ、デジタル署名を使ってSMB通信を保護します。クライアントがデジタル署名を使用していない場合は、デジタル署名を使用せずにSMB通信を行います。 • **常にサーバー側の通信にデジタル署名を行う**：クライアントがデジタル署名を使用してSMB通信した場合のみ、本機と通信ができるようにします。クライアントがデジタル署名を使用せずに本機にSMB通信した場合は、本機とSMB通信することはできません。 • **サーバーの通信にデジタル署名を行わない**：クライアントがデジタル署名を使わずにSMB通信した場合のみ、本機と通信ができるようにします。クライアントが常にデジタル署名を使用してSMBサーバーにアクセスするよう設定されている場合は、本機とSMB通信することはできません。 **注 意** クライアントコンピューターでSMBクライアントのSMB署名の設定がどのように設定されているか分からない場合は、［クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う］を設定してください。誤ったSMB署名の設定を行うと、SMB通信ができなくなる恐れがあります。

	項目名	機能説明
19	SMBクライアントのSMB署名	ネットワークフォルダーにスキャンデータを保管する場合など、本機からSMBサーバーにアクセスする際に、SMB署名を使用するかどうかを設定します。 • **サーバーの同意により通信にデジタル署名を行う**：通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が有効の場合のみ、デジタル署名を使ってSMB通信を保護します。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が無効の場合は、デジタル署名を使用せずにSMB通信を行います。 • **常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う**：常にデジタル署名を使用してSMBサーバーとSMB通信を行います。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が無効の場合は、SMBサーバーと通信することはできません。 • **クライアントの通信にデジタル署名を行わない**：デジタル署名を使用せずにSMBサーバーとSMB通信を行います。通信するSMBサーバーのSMB署名の設定が有効の場合は、SMBサーバーと通信することはできません。 **注 意** • 通信するSMBサーバーでSMBサーバーのSMB署名の設定がどのように設定されているか分からない場合は、［サーバーの同意により通信にデジタル署名を行う］を設定してください。誤ったSMB署名の設定を行うと、SMB通信ができなくなる恐れがあります。 • Windows Server 2012以降では、デフォルトの設定で常にサーバー側の通信にデジタル署名を行うよう設定されています。Windows Server 2012以降とSMB通信を行う場合は、［サーバーの同意により通信にデジタル署名を行う］または［常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う］を設定してください。

□ HTTPの設定

HTTPでは、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティなど、Webベースのサービスを有効にするかを設定します。



	項目名	機能説明
1	HTTPサーバー使用	TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティなどのWebベースのサービスを有効にするか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	SSL/TLS使用	HTTPで本機にアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）/TLS（Transport Layer Security）を使用するか選択します。有効にすると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティの操作により通信されるデータは暗号化されます。初期値は［無効］に設定されています。 **注 意** SSL/TLSを使用するには、サーバーのOSがSSL/TLSをサポートしている必要があります。
3	プライマリポート番号	HTTPアクセスに使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「80」を使用します。 **注 意** 以下の設定と同じポート番号は使用できません。 該当するポート番号を変更した後に、プライマリポート番号を設定してください。 • HTTP/セカンダリポート番号 • HTTP/SSL/TLSポート番号 • IPP印刷/ポート番号 • IPP印刷/SSL/TLSポート番号
4	セカンダリポート番号	TopAccessおよびファイリングボックスWebユーティリティに使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「8080」を使用します。 **注 意** 以下の設定と同じポート番号は使用できません。 該当するポート番号を変更した後に、セカンダリポート番号を設定してください。 • HTTP/プライマリポート番号 • HTTP/SSL/TLSポート番号 • IPP印刷/ポート番号 • IPP印刷/SSL/TLSポート番号

	項目名	機能説明
5	SSL/TLSポート番号	SSL/TLSに使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「10443」を使用します。 **注 意** 以下の設定と同じポート番号は使用できません。 該当するポート番号を変更した後に、SSL/TLSポート番号を設定してください。 • HTTP/プライマリポート番号 • HTTP/セカンダリポート番号 • IPP印刷/ポート番号 • IPP印刷/SSL/TLSポート番号

□ WSDの設定

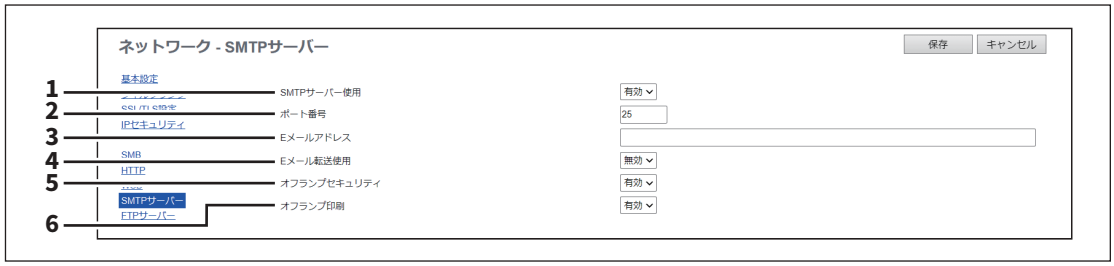
Web ServiceプリントおよびWeb Serviceスキャンを行う場合に設定します。Windowsコンピューター搭載の機能を利用して、ネットワークを介したクライアントとの操作ができます。

	項目名	機能説明
1	SSL/TLS使用	Web ServiceでSSL/TLSを使用するかどうかを設定します。 • **有効**：SSL/TLSを使用します。 • **無効**：SSL/TLSを使用しません。
2	フレンドリネーム（表示名）	本機の表示名を入力します。全角半角に関係なく（半角記号 = ; # / ¥ : * ? " > < | ! , を除く）127文字まで入力できます。
3	Web Serviceプリント	Web Serviceプリントの有効／無効を設定します。 • **有効**：Web Serviceプリントを有効にします。 • **無効**：Web Serviceプリントを無効にします。 **注 意** SSL/TLSを使用したWeb Serviceプリントを有効にするには、本機やクライアントコンピューターに証明書をインストールする必要があります。詳しくは、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.408 「証明書のインストール」
4	プリンター名	本機のプリンター名を入力します。全角半角に関係なく（半角記号 = ; # / ¥ : * ? " > < | , ! を除く）127文字まで入力できます。初期値は「MFPモデル名称-シリアル番号」に設定されています。
5	プリンター情報	本機のプリンター情報を入力します。全角半角に関係なく（= ; # ¥を除く）127文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
6	Web Serviceスキャン	Web Serviceスキャンの有効／無効を設定します。 • **有効**：Web Serviceスキャンを有効にします。 • **無効**：Web Serviceスキャンを無効にします。
7	スキャナー名	本機のスキャナー名を入力します。全角半角に関係なく（半角記号 = ; # / ¥ : * ? " > < | , ! を除く）127文字まで入力できます。初期値は「MFPモデル名称-シリアル番号」に設定されています。
8	スキャナー情報	本機のスキャナー情報を入力します。全角半角に関係なく（= ; # ¥を除く）127文字まで入力できます。
9	クライアントPCからのスキャンでの認証	クライアントコンピューターからスキャンする場合、ユーザー認証によって処理を受け付けるかどうか設定します。 • **すべてのジョブを受け付けない**：ユーザー認証にかかわらずすべてのジョブを受け付けません。 • **ユーザー名が有効であればジョブを受け付ける**：ユーザー認証されている場合のみジョブを受け付けます。 • **すべてのジョブを受け付ける**：ユーザー認証にかかわらずすべてのジョブを受け付けます。

□ SMTPサーバーの設定

SMTPサーバーでは、インターネットファクスおよびEメールのSMTP受信を有効にするか選択します。通常は、オフランプゲートウェイ機能を利用したい場合に設定します。

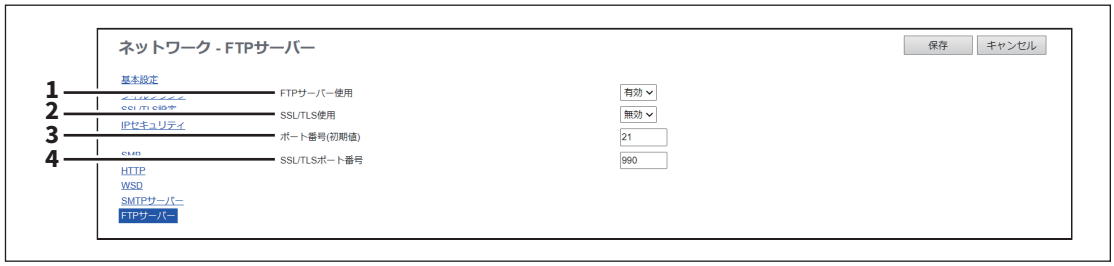


	項目名	機能説明
1	SMTPサーバー使用	本機がSMTPサーバーとして働くかどうかを選択します。オフランプゲートウェイ機能を利用したい場合は、有効にする必要があります。有効にすると、本機ドメイン宛のインターネットファクスやEメールを、SMTP通信によりSMTPサーバーを介して受信することができます。初期値は［有効］に設定されています。
2	ポート番号	SMTPでインターネットファクスやEメールを受信するポート番号を入力します。通常、「25」を使用します。 **注 意** HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL/TLS有効時はSSL/TLSポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。
3	Eメールアドレス	本機のEメールアドレスを入力します。本機がSMTPサーバーとして動作する場合は、本機のドメイン名を含むすべてのインターネットファクスやEメールをSMTPを使って受信することができます。受信した文書のEメールアドレスが、ここで入力した名前と一致すると、本機は受信した文書を印刷します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で192文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
4	Eメール転送使用	オフランプゲートウェイ転送を有効にするか選択します。初期値は［無効］に設定されています。
5	オフランプセキュリティ	本機のアドレス帳に登録されたファクス番号にのみオフランプゲートウェイ転送を行うかどうかを設定します。有効にすると、指定された転送宛先が本機のアドレス帳に登録されていない場合、送信を中断します。不正なオフランプゲートウェイ転送を防ぐことができます。初期値は［有効］に設定されています。
6	オフランプ印刷	オフランプゲートウェイ転送を行う際に、転送される文書を本機で印刷するかを設定します。有効にすると、オフランプゲートウェイ転送される文書を自動的に印刷し、どのような文書が転送されたのかを確認することができます。初期値は［有効］に設定されています。

□ FTPサーバーの設定

FTPサーバーでは、本機のFTPサーバー機能の有効／無効を設定します。



	項目名	機能説明
1	FTPサーバー使用	本機のFTPサーバー機能を有効にするかどうかを選択します。以下の機能を使用する場合は、有効にする必要があります。 • FTP印刷 • AddressBook Viewerで本機のアドレス帳データを読み書きする • ファイリングボックスBackup/Restore Utilityでファイリングボックスデータをバックアップ／リストアする 初期値は［有効］に設定されています。
2	SSL/TLS使用	FTPサーバーにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）/TLS（Transport Layer Security）を使用するか選択します。初期値は［無効］に設定されています。 **注 意** SSL/TLSを使用するには、サーバーのOSがSSL/TLSをサポートしている必要があります。
3	ポート番号（初期値）	本機にFTPでアクセスするときに使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「21」を使用します。 **注 意** HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL/TLS有効時はSSL/TLSポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

	項目名	機能説明
4	SSL/TLSポート番号	SSL/TLSを使用してFTPサーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、FTPサーバーのポート設定によって異なります。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「990」を使用します。 **注 意** HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL/TLS有効時はSSL/TLSポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。

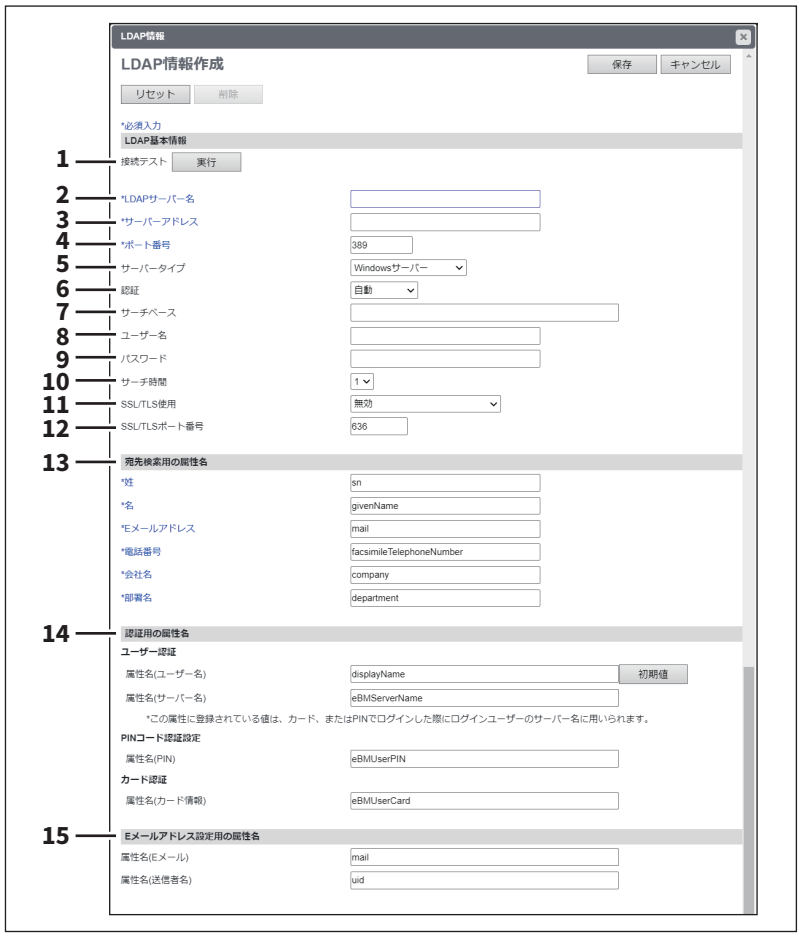
□ LDAPクライアントの設定

LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバーのディレクトリサービスに関するプロパティを登録することができます。新しいディレクトリサービスを追加すると、ユーザーはLDAPサーバーを使って宛先を検索することができます。

	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	ディレクトリに利用するLDAPサーバーを登録します。 📖 P.155 「［LDAP情報作成］/［LDAP情報編集］画面」
2	登録LDAP一覧	登録されているLDAPサーバーの一覧を表示します。 LDAPサーバー名をクリックすると、登録内容を編集できます。 📖 P.155 「［LDAP情報作成］/［LDAP情報編集］画面」
3	検索方法	LDAP検索時の検索方法を選択します。 • **部分一致**：検索条件と部分的に一致する情報を検索します。 • **前方一致**：検索条件と一致する内容で始まる情報を検索します。 • **後方一致**：検索条件と一致する内容で終わる情報を検索します。 • **完全一致**：検索条件と完全に一致する情報を検索します。
4	［サーバー割り当て］ボタン	検索先サーバーを登録します。 📖 P.157 「［サーバー割り当て］画面」
5	［上に移動］/［下に移動］ボタン	検索リストの上下を移動します。

［LDAP情報作成］/［LDAP情報編集］画面

登録LDAP一覧のLDAPサーバー名をクリックするか、［新規］ボタンをクリックすると表示されます。



	項目名	機能説明
1	［実行］ボタン	設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。
2	LDAPサーバー名	ディレクトリサービスを識別するディレクトリサービス名を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で64文字まで入力できます。
3	サーバーアドレス	LDAPサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。
4	ポート番号	LDAPサーバーにアクセスするポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。SSL/TLSを使用しないLDAPサーバーにアクセスするには、初期値の「389」を使用します。SSL/TLSを使用する場合は、通常「636」を使用します。
5	サーバータイプ	LDAP認証に利用するLDAPサーバーを選択します。 **Windowsサーバー**：Windowsサーバーを使用してLDAPを設定している場合に選択します。 **その他のLDAPサーバー**：Windowsサーバー以外のOSを使ってLDAPを設定している場合に選択します。

	項目名	機能説明
6	認証	SASL認証プロトコルを選択します。SASL認証プロトコルが分からない場合は、［自動］を選択します。 • **自動**：自動で認証を識別してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Kerberos**：Kerberos認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Digest-MD5**：Digest-MD5認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **CRAM-MD5**：CRAM-MD5認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Login**：Login認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Plain**：Plain認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Simple Bind**：Simple Bind認証を使用してLDAPサーバーに接続する場合に選択します。
7	サーチベース	検索ベースを入力します。Windowsサーバーを使用している場合は、必ず入力してください。半角英数字と記号（; # ¥を除く）で256文字まで入力できます。
8	ユーザー名	LDAPサービスにアクセスするためにユーザー名が必要な場合は、ログインユーザー名を入力します。半角英数字と記号で256文字まで入力できます。
9	パスワード	LDAPサービスにアクセスするためにパスワードが必要な場合は、ログインパスワードを入力します。半角英数字と記号で32文字まで入力できます。
10	サーチ時間	LDAPサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を選択します。1～5の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。
11	SSL/TLS使用	LDAPにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）/TLS（Transport Layer Security）を有効にするか選択します。 • **無効**：SSL/TLSを無効にします。 • **登録されたCA証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL/TLS認証を行う場合に選択します。 • **すべての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL/TLS認証を行う場合に選択します。 **注 意** • ［登録されたCA証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。 📖 P.417 「CA証明書をインストールする」 • 登録したLDAPディレクトリサービスのうち1つでもSSL/TLSを使用しているLDAPディレクトリサービスがある場合は、有効に設定します。有効に設定すると、LDAPサーバーにSSL/TLSを使用してアクセスし、接続できない場合はSSL/TLSを使用せずに再度LDAPサーバーに接続するようになります。したがって、有効に設定しても、SSL/TLSを必要としないLDAPディレクトリサービスにも接続することができます。 • SSL/TLSを使用するには、サーバーのOSがSSL/TLSをサポートしている必要があります。

	項目名	機能説明
12	SSL/TLSポート番号	SSL/TLSを使用してLDAPサーバーにアクセスするポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「636」を使用します。
13	宛先検索用の属性名	外部のLDAPサーバーによる宛先検索に使用する属性名を設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で32文字まで入力できます。
14	認証用の属性名	認証用の属性名を設定します。［属性名（ユーザー名）］、［属性名（サーバー名）］と認証用の［属性名（PIN）］または［属性名（カード情報）］を入力します。 半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で32文字まで入力できます。 ［初期値］ボタンをクリックすると、あらかじめ設定されている値が表示されます。
15	Eメールアドレス設定用の属性名	認証用の［属性名（Eメール）］と［属性名（送信者名）］を設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で32文字まで入力できます。

［サーバー割り当て］画面

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	サーバー一覧から割り当てサーバーに追加します。
2	［削除］ボタン	割り当てサーバーから削除します。

□ SMTPクライアントの設定

SMTPクライアントでは、インターネットファクスおよびEメールのSMTP送信を有効にするか選択します。

注 意

インターネットファクスおよびEメール送信を行うには、送信者アドレスを設定する必要があります。送信者アドレス設定については、以下の説明を参照してください。

📖 P.199 「Eメール設定」
📖 P.206 「インターネットファクス設定」

また、内部認証以外のユーザー管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザーの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザー管理設定の詳細については、以下の説明を参照してください。

📖 P.73 「[ユーザー管理]」

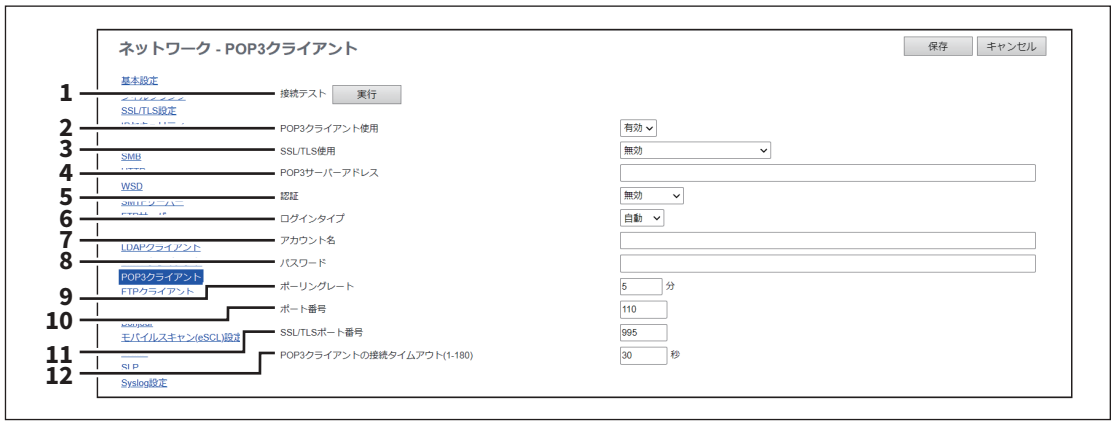
	項目名	機能説明
1	［実行］ボタン	設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。
2	SMTPクライアント使用	本機からSMTPサーバーを介してインターネットファクスおよびEメールを送信する場合に有効にします。初期値は［有効］に設定されています。
3	SSL/TLS使用	SMTPサーバーにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）/TLS（Transport Layer Security）を使用するか選択します。 • **無効**：SSL/TLSを無効にします。 • **登録されたCA証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL/TLS認証を行う場合に選択します。 • **すべての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL/TLS認証を行う場合に選択します。 **注 意** • ［登録されたCA証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。 📖 P.417 「CA証明書をインストールする」 • SSL/TLSを使用するには、サーバーのOSがSSL/TLSをサポートしている必要があります。

	項目名	機能説明
4	SSL/TLS	［SSL/TLS使用］を有効にした場合に、SSL/TLSに使用するプロトコルを選択します。 • **STARTTLS**：SMTPの拡張コマンドであるSTARTTLSを使用してメッセージをTLS（Transport Layer Security）で送信する場合に選択します。 • **Over SSL/TLS**：メッセージをSSL（Secure Socket Layer）/TLS（Transport Layer Security）で送信する場合に選択します。 **注 意** ［Over SSL/TLS］を選択した場合は、ポート番号を正しいSSL/TLSポート番号に変更してください。Over SSL/TLSでは、通常「465」を使用します。
5	SMTPサーバーアドレス	［SMTPクライアント使用］を有効にした場合に、SMTPサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。 **注 意** FQDNを使用してSMTPサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。 **補 足** TCP/IPの設定で［SMTPサーバーアドレスの取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからSMTPサーバーアドレスを取得することができます。 📖 P.120 「基本設定」
6	POP Before SMTP	POP Before SMTP認証を有効にするかどうかを選択します。初期値は［無効］に設定されています。 **注 意** ［POP3クライアント］の［認証］で［アプリケーション］を選択している場合、この［POP Before SMTP］の設定は機能しません。
7	認証	SMTPサーバーに接続するための認証方法を選択します。 • **無効**：認証を使用せずにSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Plain**：Plain認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Login**：Login認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **CRAM-MD5**：CRAM-MD5認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Digest-MD5**：Digest-MD5認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **Kerberos**：Kerberos認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **NTLM（IWA）**：NTLM（IWA）認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。 • **自動**：自動で認証を識別してSMTPサーバーに接続する場合に選択します。

	項目名	機能説明
8	ログイン名	認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に、SMTPサーバーに接続するためのログイン名を入力します。64文字まで入力できます。 **注 意** POP Before SMTP認証を有効にした場合、本機がPOP3サーバーにアクセスするためのアカウント名を入力します。 📖 P.161 「POP3クライアントの設定」
9	パスワード	認証を使用してSMTPサーバーに接続する場合に、SMTPサーバーに接続するためのパスワードを入力します。64文字まで入力できます。 **注 意** POP Before SMTP認証を有効にした場合、本機がPOP3サーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。 📖 P.161 「POP3クライアントの設定」
10	Eメール／インターネットファクス 送信最大容量（2-100）	SMTPを介して送信可能な最大容量を選択します。2～100MBの範囲で設定します。 **注 意** 送信可能な最大容量には添付ファイルを含みます。最大容量を100 MBに設定した場合、添付可能なファイルの最大容量は約70 MBです。
11	ポート番号	［SMTPクライアント使用］を有効にした場合に、SMTPサーバーにアクセスするためのポート番号を入力します。入力するポート番号は、SMTPサーバーのポート設定によって異なります。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「25」を使用します。 **注 意** HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL/TLS有効時はSSL/TLSポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。 誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。
12	SMTPクライアントの 接続タイムアウト（1-180）	SMTPサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。初期値は「30」に設定されています。

□ POP3クライアントの設定

POP3クライアントでは、インターネットファクスやEメール印刷ジョブを受信するPOP3サーバーを設定します。



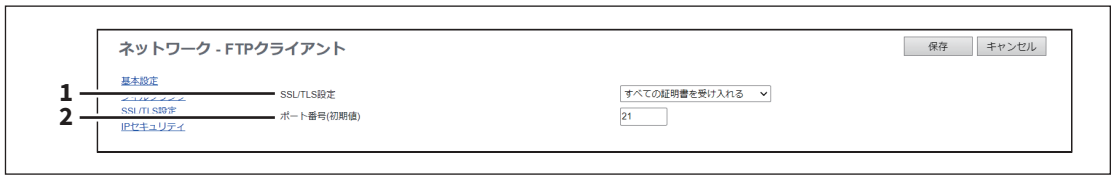
	項目名	機能説明
1	［実行］ボタン	設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。
2	POP3クライアント使用	POP3サーバーからのインターネットファクスやEメールの取り込みを有効にするか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
3	SSL/TLS使用	POP3サーバーにアクセスするときにSSL（Secure Sockets Layer）/TLS（Transport Layer Security）を使用するか選択します。 • **無効**：SSL/TLSを無効にします。 • **登録されたCA証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL/TLS認証を行う場合に選択します。 • **すべての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL/TLS認証を行う場合に選択します。 **注 意** • ［登録されたCA証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。 P.417 「CA証明書をインストールする」 • SSL/TLSを使用するには、サーバーのOSがSSL/TLSをサポートしている必要があります。
4	POP3サーバーアドレス	［POP3クライアント使用］を有効にした場合に、POP3サーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。 **注 意** FQDNを使用してPOP3サーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。 **補 足** TCP/IPの設定で［POP3サーバーアドレス取得］オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからPOP3サーバーアドレスを取得することができます。 P.120 「基本設定」

	項目名	機能説明
5	認証	POP3サーバーにアクセスするときの認証を有効にするかどうかを設定します。 • **無効**：認証を無効にします。 • **NTLM/SPA**：NTLM/SPA認証を有効にします。 • **Kerberos**：Kerberos認証を有効にします。 • **アプリケーション**：Eメールクラウドサービス連携機能のあるアプリケーションでの認証を有効にします。［割り当て］をクリックすると、Eメールクラウドサービスを利用できるアプリケーションのリストが表示されます。使用するアプリケーションをリストから選択し、［OK］をクリックしてリスト画面を閉じます。通常は標準のシステムアプリケーション「Eメール用クラウド認証」が選択できます。選択したアプリケーション名が［割り当て］ボタンの右側に表示されたら、画面上部の［保存］をクリックします。アプリケーションでの設定を促すメッセージが表示されたら［OK］をクリックしてメッセージ画面を閉じ、アプリケーション名をクリックして設定画面を開きます。使用するEメールクラウドサービスをリストから選択し、Eメールクラウドサービスのアカウント名を入力した後に、［アカウント登録］をクリックしてサービスにサインインしてください。 **注 意** ［アプリケーション］を選択する場合は、以下の点に注意してください。 • ［SMTPクライアント］にある［POP Before SMTP］の設定は機能しません。 • アプリケーションとEメールクラウドサービス間で認証用に利用する資格情報の有効期限が切れると、アプリケーションはPOP3サーバーへログインできません。資格情報を更新したアプリケーションをインストールまたはアップデートしてください。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。 **補 足** • 現在のアカウント名を変更または再登録する場合は、［削除］をクリックして削除してから入力と登録をやり直してください。 • ［Eメール用クラウド認証］の設定画面は［管理者］＞［アプリケーション］＞［アプリケーションリスト］＞［システムアプリケーション］からも開くことができます。 📖 P.371 「アプリケーションリスト」

	項目名	機能説明
6	ログインタイプ	POP3のログインタイプを選択します。 • **自動**：POP3サーバーによって、ログインタイプを自動的に決定する場合に選択します。 • **POP3**：一般的なPOP3ログインタイプを使用する場合に選択します。 • **APOP**：APOPのログインタイプを使用する場合に選択します。APOPでは、ユーザー名およびパスワードを暗号化して、POP3サーバーにアクセスすることができます。 注 意 • ［自動］を選択してもメールサーバーにログインできない場合は、［POP3］または［APOP］いずれかのログインタイプを選択してください。 • ［認証］で［アプリケーション］を選択している場合は、［自動］を選択してください。
7	アカウント名	本機がPOP3サーバーにアクセスするためのアカウント名を入力します。96文字まで入力できます。 注 意 • ［認証］で［NTLM/SPA］または［Kerberos］を選択している場合は、アカウント名はドメインを除いたアカウント名を入力してください。 • ［認証］で［アプリケーション］を選択している場合は、アプリケーションの設定画面で登録した同じアカウント名を入力してください。
8	パスワード	本機がPOP3サーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。半角英数字と記号で96文字まで入力できます。 補 足 ［認証］で［アプリケーション］を選択している場合は、パスワードは必要ないので入力できません。
9	ポーリングレート	本機が新着メッセージを確認するために、どのくらいの間隔でPOP3サーバーにアクセスするか指定します。0から4096までの値を入力できます。初期値は「5」に設定されています。
10	ポート番号	POP3サーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、POP3サーバーのポート設定によって異なります。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「110」を使用します。
11	SSL/TLSポート番号	SSL/TLSを使用してPOP3サーバーにアクセスするポート番号を入力します。入力するポート番号は、POP3サーバーのポート設定によって異なります。通常、「995」を使用します。
12	POP3クライアントの 接続タイムアウト（1-180）	POP3サーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。初期値は「30」に設定されています。

□ FTPクライアントの設定

FTPクライアントでは、［共有フォルダーかUSBに保管］操作でFTPを使ってネットワークフォルダーに文書を保存する場合に、初期値として使用されるポート番号を設定します。



	項目名	機能説明
1	SSL/TLS設定	SSL/TLSで用いる証明書を設定します。 • **登録されたCA証明書を使用する**：登録された証明書を利用します。 • **すべての証明書を受け入れる**：すべての証明書を利用します。
2	ポート番号（初期値）	ネットワークフォルダーにFTPでアクセスするときに使用するポート番号を入力します。FTPで使用するポート番号はFTPサーバーの設定よって異なることがあります。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「21」を使用します。

□ Bonjourの設定

macOSやWindows OSなどのBonjour（mDNS）の有効/無効を設定します。2回線ネットワークを使用する場合は、セカンダリネットワーク用に［セカンダリ］も設定します。

	項目名	機能説明
1	Bonjour使用	Bonjourの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	Link-Localホスト名	本機のDNS名を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で127文字まで入力できます。
3	サービス名	Bonjourネットワークに表示される本機の名称を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で63文字まで入力できます。
4	Chrome OSプリント	Chrome OS印刷サービスの有効/無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。

□ モバイルスキャン（eSCL）の設定

モバイルスキャン（eSCL）では、モバイルスキャンの有効／無効を設定します。

補 足

モバイルスキャン（eSCL）の設定は、AirPrint機能のスキャンの設定と連動しています。

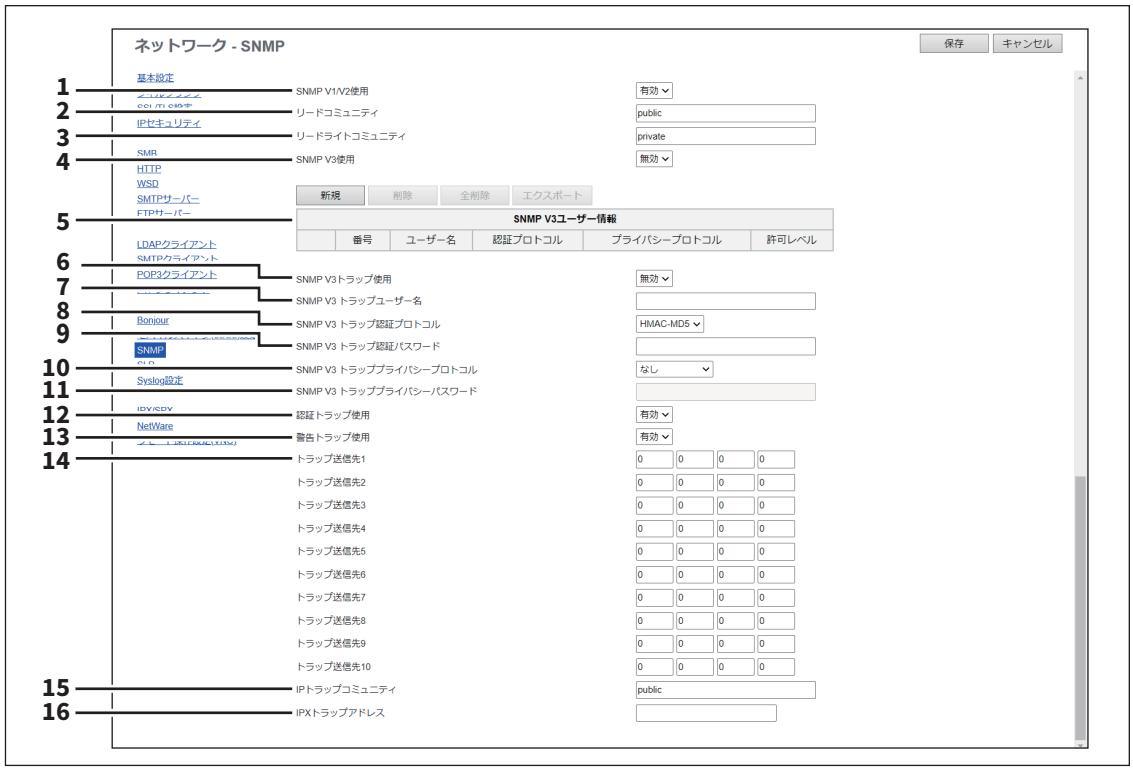
	項目名	機能説明
1	モバイルスキャン使用	モバイルスキャンの有効／無効を選択します。
2	セキュアスキャン（SSL/TLS）	セキュアスキャンの有効／無効を選択します。
3	認証	セキュアスキャン有効時にBasic認証を行うかどうか設定します。初期値は［無効］に設定されています。
4	ユーザー名	Basic認証で使用するユーザー名を設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で127文字まで入力できます。
5	パスワード	Basic認証で使用するパスワードを設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で127文字まで入力できます。

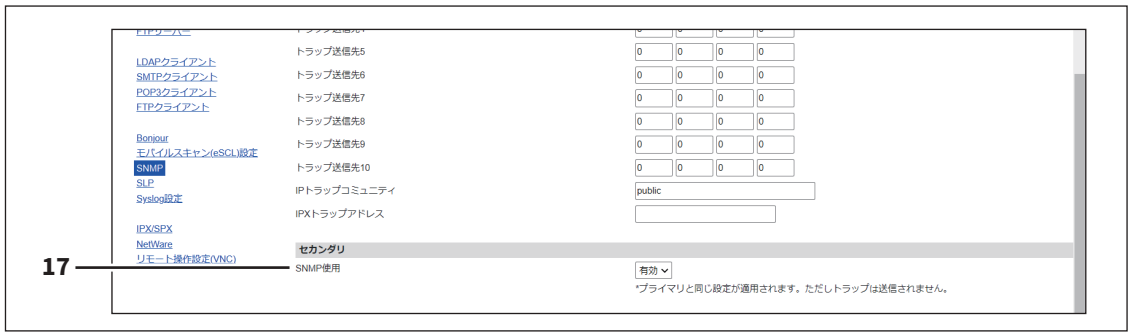
□ SNMPの設定

SNMPネットワークサービスでは、SNMPネットワーク監視ユーティリティを使って装置状態を監視するSNMPを有効にするか選択します。管理者が本機のMIBに適合したSNMPネットワーク監視ユーティリティを使って装置状態を監視したい場合は、SNMPおよびSNMPトラップを有効に設定する必要があります。

注 意

管理者が複数のコンピューターからアクセスポリシーモードで本機に同時にアクセスし、同時にエクスポート操作を行った場合、エクスポートの動作が不安定になる可能性があります。エクスポートをする場合は、必ず管理者が1台のコンピューターからアクセスポリシーモードで本機にアクセスし、操作をするようにしてください。





	項目名	機能説明
1	SNMP V1/V2使用	SNMP V1／V2の有効／無効を選択します。TopAccessDocMon、TWAINドライバー、ファイルダウンローダーおよびAddressBook Viewerの使用をユーザーに許可する場合は、有効を選択してください。初期値は［有効］に設定されています。

	項目名	機能説明
2	リードコミュニティ	SNMPアクセス用のSNMPリードコミュニティ名を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で31文字まで入力できます。初期値は「public」に設定されています。 **注 意** • セキュリティの観点から、リードコミュニティのコミュニティ名は、工場出荷時のコミュニティ名から変更して使用していただくことを推奨します。 • リードコミュニティのコミュニティ名を変更する場合は、お使いのアプリケーションと設定を合わせてください。設定を合わせないと、MIBを使用しているアプリケーション（TopAccess、TWAINドライバー、ファイルダウンローダー、AddressBook Viewer）が使用できなくなります。また、プリンタードライバーのSNMP通信も無効になり、オプション構成の自動取得や部門コードチェック、有効なファイリングボックスの取得などの機能が使用できなくなります。 • リードコミュニティを空欄にした場合、クライアントコンピューターと本機のSNMP通信はできなくなります。
3	リードライトコミュニティ	SNMP通信による読み書きを許可するSNMPリードライトコミュニティ名を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で31文字まで入力できます。初期値は「private」に設定されています。 **注 意** • セキュリティの観点から、リードライトコミュニティのコミュニティ名は、工場出荷時のコミュニティ名から変更して使用していただくことを推奨します。 • リードライトコミュニティのコミュニティ名を変更する場合は、お使いのアプリケーションと設定を合わせてください。設定を合わせないと、MIBを使用しているアプリケーション（TopAccess、TWAINドライバー、ファイルダウンローダー、AddressBook Viewer）が使用できなくなります。また、プリンタードライバーのSNMP通信も無効になり、オプション構成の自動取得や部門コードチェック、有効なファイリングボックスの取得などの機能が使用できなくなります。
4	SNMP V3使用	SNMP V3の有効／無効を選択します。TWAINドライバー、ファイルダウンローダーおよびAddressBook Viewerの使用をユーザーに許可する場合は、有効を選択してください。
5	SNMPユーザー情報	本機に登録されたSNMPユーザー情報がリスト表示されます。SNMPユーザー情報は、登録、編集、削除、およびエクスポートすることができます。
6	SNMP V3トラップ使用	SNMP V3トラップを送信するかを選択します。初期値は［無効］に設定されています。
7	SNMP V3トラップユーザー名	SNMP V3トラップユーザー名を入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
8	SNMP V3トラップ認証 プロトコル	認証に使用するプロトコルを選択します。 • **HMAC-MD5**：HMAC-MD5を使用する場合に選択します。 • **HMAC-SHA**：HMAC-SHAを使用する場合に選択します。
9	SNMP V3トラップ認証 パスワード	認証パスワードを入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
10	SNMP V3トラッププライバシー プロトコル	データの暗号化に使用するプロトコルを選択します。 • なし：暗号化をしない場合に選択します。 • **CBC-DES**：CBC-DESを使用する場合に選択します。 • **CFB-AES-128**：AES-128（CFBモード）を使用する場合に選択します。
11	SNMP V3トラッププライバシー パスワード	プライバシーパスワードを入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
12	認証トラップ使用	指定したプライベートコミュニティ以外からSNMP V1／V2により本機にアクセスがあった場合に、SNMPトラップを送信するかを選択します。初期値は［有効］に設定されています。
13	警告トラップ使用	警告状況が発生したときに、SNMP V1／V2トラップを送信するかを選択します。初期値は［有効］に設定されています。
14	トラップ送信先 1～10	SNMPトラップを送信するIPアドレスを入力します。アドレスは10か所まで指定することができます。0 0 0 0～255 255 255 255の範囲で設定します。
15	IPトラップコミュニティ	IPトラップ用のトラップコミュニティ名を入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。初期値は「public」に設定されています。
16	IPXトラップアドレス	IPXトラップを送信するIPXアドレスを入力します。半角英数字と記号で20文字まで入力できます。 **注 意** 「SNMP V3ユーザー情報」の一覧表に登録済みのユーザー名を、SNMP V3トラップのユーザー名として使用する場合は、一覧に登録されている「認証プロトコル」、「認証パスワード」（一覧表には表示されない）、「プライバシープロトコル」、「パスワード」（一覧表には表示されない）と同一のプロトコルとパスワードを、「SNMP V3トラップ認証プロトコル」、「SNMP V3トラップ認証パスワード」、「SNMP V3トラッププライバシープロトコル」、「SNMP V3トラッププライバシーパスワード」に入力してください。 これらの情報が同一ではない場合には、一覧表に登録されている情報が使用されます。
17	SNMP使用	2回線ネットワークを使用する場合は、プライマリネットワークと同じ設定がセカンダリネットワークに適用されます。ただし、トラップは送信されません。

［SNMP V3ユーザー情報作成］画面

SNMP V3ユーザー情報作成画面の［新規］ボタンをクリックすると表示します。

補 足

SNMP V3ユーザー情報は、［SNMP V3ユーザー情報作成］画面の［保存］ボタンをクリックすると瞬時に登録され、ネットワークから登録したユーザーで本機にSNMPアクセスが可能になります。

	項目名	機能説明
1	コンテキスト名	コンテキスト名が表示されます。
2	ユーザー名	ユーザーの名前を入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
3	認証プロトコル	認証に使用するプロトコルを選択します。 • **HMAC-MD5**：HMAC-MD5を使用する場合に選択します。 • **HMAC-SHA**：HMAC-SHAを使用する場合に選択します。
4	認証パスワード	認証に使用するパスワードを入力します。半角英数字で最大31文字まで入力できます。
5	プライバシープロトコル	データの暗号化に使用するプロトコルを選択します。 • **なし**：暗号化をしない場合に選択します。 • **CBC-DES**：CBC-DESを使用する場合に選択します。 • **CFB-AES-128**：AES-128（CFBモード）を使用する場合に選択します。
6	パスワード	ユーザー情報のパスワードを入力します。半角英数字と記号で31文字まで入力できます。
7	許可レベル	SNMP V3のユーザーのアクセス許可レベルを選択します。 • **一般ユーザー**：データの読み取りのみを許可します。 • **管理者**：データの読み取りと書き込みを許可します。

□ SLPの設定

SLPを有効にすると、本機はService Agentとなり、User Agentからのサービス検索および、Directory Agentへのサービス登録に対応します。

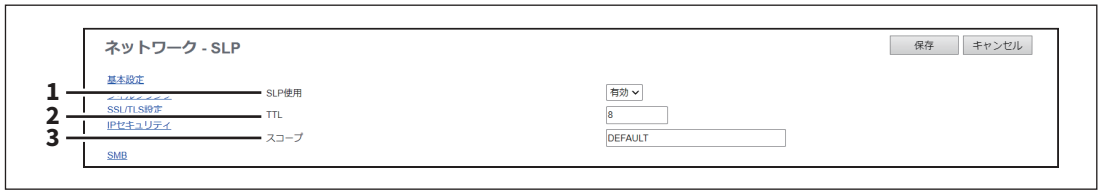
補 足

SLP設定では、以下のプリントサービスのみサポートしています。
Raw TCP印刷、LPD印刷、IPP印刷、WSD印刷、SMB印刷、FTP印刷

注 意

SLPの“printer-location”attributeについて

SLPで通知するサービスに、情報として“printer-location”というattributeがあります。その情報はTopAccessの［管理者］、［セットアップ］メニュー、［一般］サブメニュー、［装置情報］にある［設置場所］の設定が使用されます。TopAccessから［設置場所］の設定を変更した場合は、本機の電源を一度オフにした後、再度オンにしてください。電源を入れなおした後、SLPの“printer-location”に反映されます。



	項目名	機能説明
1	SLP使用	SLPサービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	TTL	サービスを提供するネットワークの範囲TTL（Time To Live）を設定します。 異なるネットワーク上に存在するUser AgentおよびDirectory Agentと通信を行うために使用します。
3	スコープ	スコープを設定します。デフォルト値は「DEFAULT」になります。 スコープを設定することで、サービスを提供するグループを指定できます。 補 足 • スコープの入力では、「 , 」（コンマ）区切りで複数指定することができます。 • スコープの設定では、以下の記号「 ( ) ¥ ! < = > ~ ; * + 」は入力できません。 • スコープの入力欄を空欄にして設定することはできません。 • User Agent（UA）であるKonqueror（SUSE Linux）やSLPSNOOPユーティリティ（Novellクライアント）などを使用してサービス検索を行うことができます。

□ Syslog設定

Syslogを使用してSyslogサーバーにメッセージログを送信する場合に設定します。

注 意

Syslogサーバーにメッセージログが送信されていることを定期的に確認してください。

	項目名	機能説明
1	Syslog使用	Syslog送信を有効にするかどうかを設定します。
2	サーバーアドレス／ホスト名	SyslogサーバーのIPアドレスまたはホスト名を設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。
3	ポート番号	Syslogサーバーと通信する際に使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「514」を使用します。
4	プロトコル	通信のプロトコルを設定します。 • **TCP**：TCPのみを使用します。 • **UDP**：UDPのみを使用します。
5	SSL/TLS使用	Syslogサーバーにアクセスするときに SSL（Secure Sockets Layer）/ TLS（Transport Layer Security）を使用するか選択します。 • **無効**：SSL/TLSを無効にします。 • **登録されたCA証明書を使用する**：本機に登録された証明書を使用してSSL/TLS認証を行う場合に選択します。 • **すべての証明書を受け入れる**：本機の登録された証明書を使用せずにSSL/TLS認証を行う場合に選択します。 • ［登録されたCA証明書を使用する］を選択した場合は、セキュリティ設定でCA証明書を登録する必要があります。 📖 P.417 「CA証明書をインストールする」 • SSL/TLSを使用するには、サーバーのOSがSSL/TLSをサポートしている必要があります。
6	ログの重要度	通知するログの種別を選択します。 • **エラー**：エラーが発生した場合に通知します。 • **警告**：警告情報があった場合に通知します。 • **情報**：情報を通知します。

	項目名	機能説明
7	ログの種類	通知するログの内容を選択します。 • **セキュリティ /認証**：セキュリティ /認証に関するログ • **ローカルユース0**：上記以外のログ • **ローカルユース1（ジョブログ）**：ジョブログ 補 足 「ログの重要度」と「ログの種類」を設定するときは、両方を設定してください。

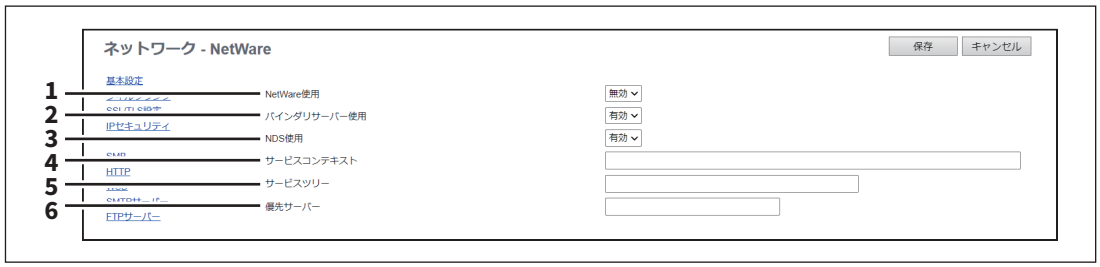
□ IPX/SPXの設定

IPX/SPXを介した通信を有効にするには、IPX/SPXプロトコルを設定します。NetWare 6.5サーバーを使いIPX/SPXを介してNovell印刷機能および「共有フォルダーに保管」のIPX/SPX機能を使用するには、IPX/SPXを設定する必要があります。

	項目名	機能説明
1	IPX/SPX使用	IPX/SPXプロトコルの有効／無効を選択します。IPX/SPXネットワークでNovell印刷をセットアップするには、有効を選択してください。 初期値は［無効］に設定されています。
2	フレームタイプ	目的のフレームタイプを選択します。 • **自動**：本機が最初に検出した、適切なフレームタイプを使用します。 • **IEEE 802.3/Ethernet II/IEEE 802.3 Snap/IEEE802.2**：［自動］の代わりに、これらのオプションから使用するフレームタイプを選択することもできます。
3	現在のフレームタイプ	本機の実際のフレームタイプを表示します。

□ NetWareの設定

NetWareでは、NetWareバインダリとNDSサービスを設定します。Novell印刷環境を構築するときは、この設定を行う必要があります。



	項目名	機能説明
1	NetWare使用	NetWareの有効／無効を選択します。 • **有効**：NetWareを有効にします。 • **無効**：NetWareを無効にします。
2	バインダリサーバー使用	NetWareバインダリモードでのNovell印刷を有効にするか選択します。バインダリモードでNetWareサーバーを使ってNovell印刷環境を構築するときは、有効を選択してください。
3	NDS使用	NetWare NDSモードでのNovell印刷を有効にするか選択します。NDSモードでNetWareサーバーを使ってNovell印刷環境を構築するときは、有効を選択してください。有効を選択した場合は、同時にNDSのコンテキストとツリーの指定も行ってください。
4	サービスコンテキスト	本機用のNetWareプリントサーバーのNDSコンテキストを入力します。
5	サービスツリー	NDSツリーを入力します。
6	優先サーバー	優先して接続するNetWareサーバー名を入力します。

□ リモート操作設定

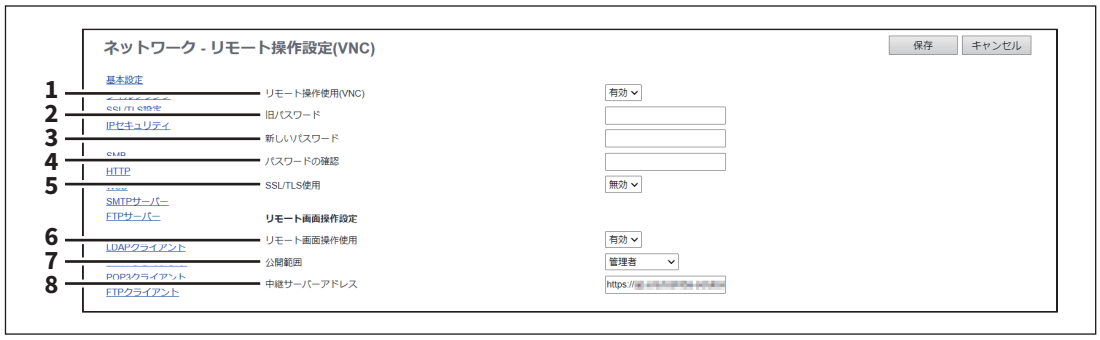
タブレットやスマートフォンなどのモバイル端末やコンピューターを使って操作パネルを見たり操作できます。

注 意

- このリモート操作機能の初期パスワードは「d9kvgn」です。必ず変更してから、この機能を使用してください。パスワードは、6文字以上8文字以下の英数字で指定してください。
- リモート操作できるモバイル端末やコンピューターは1台のみです。

補 足

- リモート操作するには、Windows 10以降でUltraVNC（クライアントソフトウェア）をお使いいただくことをお勧めします。
- リモート操作が有効な場合は、本機はスーパースリープモードに移行できません。
- リモート操作中のMFPのタッチパネル左下に、「操作パネル共有中」と表示されます。



	項目名	機能説明
1	リモート操作使用（VNC）	リモート操作の有効／無効を選択します。 • **有効**：リモート操作を有効にします。 • **無効**：リモート操作を無効にします。
2	旧パスワード	リモート操作の旧パスワードを入力します。
3	新しいパスワード	リモート操作の新パスワードを入力します。
4	パスワードの確認	リモート操作の新パスワードを再入力します。
5	SSL/TLS使用	リモート操作時にSSL（Secure Sockets Layer）/TLS（Transport Layer Security）を使用するか選択します。 • **有効**：SSL/TLSを有効にします。 • **無効**：SSL/TLSを無効にします。
6	リモート画面操作使用	リモート画面操作機能の有効／無効を選択します。 • **有効**：リモート画面操作を有効にします。 • **無効**：リモート画面操作を無効にします。 **注 意** 「リモート画面操作使用」については、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。
7	公開範囲	リモート画面操作機能の公開範囲を選択します。 • **管理者**：管理者を許可します。 • **一般ユーザー**：一般ユーザーを許可します。
8	中継サーバーアドレス	リモート画面操作に使用する中継サーバーのIPアドレス／ポート番号を入力します。

■ コピー設定

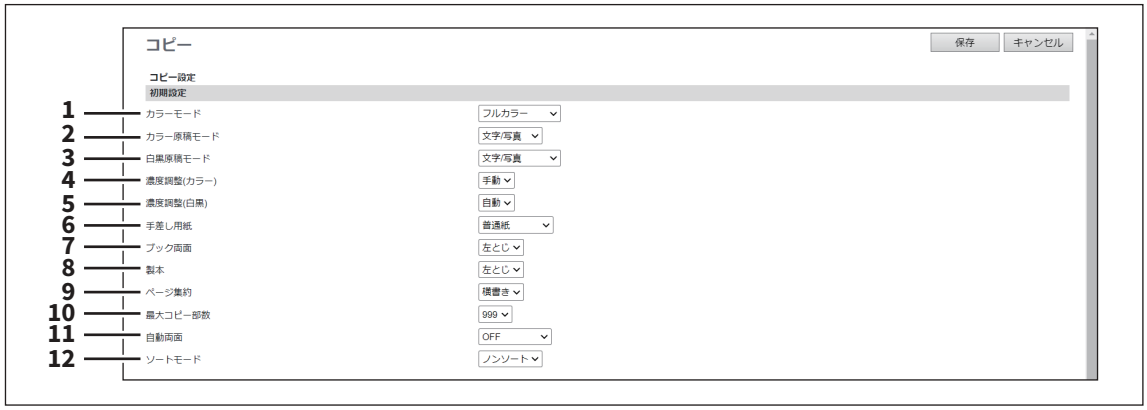
コピー設定をセットアップすることができます。

補 足

［コピー］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

□ 初期設定

初期設定では、タッチパネル画面から行うコピー操作に適用する標準のコピー設定をセットアップします。



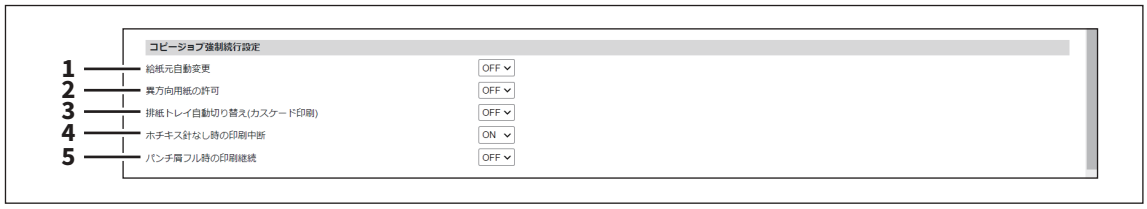
	項目名	機能説明
1	カラーモード *1	コピーに適用する標準のカラーモードを選択します。 • **オートカラー**：各原稿のカラータイプを自動で判断します。カラー原稿はフルカラーでコピーし、モノクロ原稿はモノクロでコピーします。 • **フルカラー**：すべての原稿をフルカラーでコピーします。 • **白黒**：すべての原稿をモノクロでコピーします。 注 意 • 白黒無制限機能が有効な場合は、［白黒］のみを選択することができます。白黒無制限機能の詳細については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - カウンターの管理 - 部門管理設定 - 白黒無制限の有効/無効を設定する**

	項目名	機能説明
2	カラー原稿モード *1	カラー原稿に適用する標準の原稿モードを選択します。 • **文字／写真**：文字と写真が混在する原稿をコピーする場合に選択します。 • **文字**：文字のみ、または文字と線画のみの原稿をコピーする場合に選択します。 • **印画紙写真**：L判などの一般的な写真原稿をコピーする場合に選択します。 • **印刷写真**：雑誌やカタログなどのグラビア印刷による写真原稿をコピーする場合に選択します（例:雑誌、パンフレット） • **地図**：細かい図形や文字がある原稿をコピーする場合に選択します。
3	白黒原稿モード *1/原稿モード	白黒原稿に適用する標準の原稿モードを選択します。 • **文字／写真**：文字と写真が混在する原稿をコピーする場合に選択します。 • **文字** ：文字のみ、または文字と線画のみの原稿をコピーする場合に選択します。 • **写真**：写真原稿をコピーする場合に選択します。 • **グレースケール** *2：文字と写真が混在する原稿で、特に写真の再現性を高めたい場合に選択します。
4	濃度調整（カラー）*1	カラーイメージの濃度を選択します。 • **自動**：標準のカラー濃度モードに自動モードを適用します。自動モードでは、原稿の濃度を自動的に検知して最適な濃度でコピーします。 • **手動**：標準のカラー濃度モードに手動モードを適用します。手動モードでは、原稿の濃度を手動で設定します。
5	濃度調整（白黒）*1/濃度調整	イメージの濃度を選択します。 • **自動**：標準の濃度モードに自動モードを適用します。自動モードでは、原稿の濃度を自動的に検知して最適な濃度でコピーします。 • **手動**：標準の濃度モードに手動モードを適用します。手動モードでは、原稿の濃度を手動で設定します。
6	手差し用紙	手差しコピーを行う際に標準で使用する用紙の種類を選択します。
7	ブック両面 *2	ブック原稿を両面コピーする際に適用する標準のページ配列を選択します。自動両面ユニットが装着されている場合のみ、使用できます。 • **右とじ**：左ページから読む配列でブック原稿をコピーします。 • **左とじ**：右ページから読む配列でブック原稿をコピーします。
8	製本 *2	マガジンソートコピーに適用する標準のページ配列を選択します。自動両面ユニットが装着されている場合のみ、使用できます。 • **右とじ**：左ページから読む配列で冊子を作成します。 • **左とじ**：右ページから読む配列で冊子を作成します。
9	ページ集約	2in1/4in1コピーに適用するページ配列を選択します。 • **横書き**：2ページまたは4ページを左から右、または上から下の配列でコピーします。縦向き原稿のときは、本機は左から右にコピーします。横向き原稿の場合は、上から下にコピーします。 • **縦書き**：2ページまたは4ページを右から左、上から下の配列でコピーします。縦向き原稿のときは、本機は右から左にコピーします。横向き原稿の場合は、上から下にコピーします。
10	最大コピー部数	ユーザーが指定できるコピーの最大枚数を選択します。［9999］*2、［999］、［99］、［9］の中から選択することができます。

	項目名	機能説明
11	自動両面	自動原稿送り装置に原稿がセットされたときに自動的に適用する両面コピー設定を選択します。自動原稿送り装置および自動両面ユニットが装着されている場合のみ、使用できます。 • **OFF**：自動原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［片面→片面］にします。 • **片面／両面**：自動原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［片面→両面］にします。 • **両面／両面**：自動原稿送り装置に原稿がセットされたときに、初期設定として両面コピーを［両面→両面］にします。 • **ユーザー設定**：自動原稿送り装置に原稿がセットされたときに、両面コピーの選択画面を自動的に表示します。
12	ソートモード	コピーを実行する際に適用する標準のソートモードを選択します。 • **ノンソート**：ソートを行わず排紙します。 • **ステイプル** *2：ステイプル留めして排紙します。 • **ソート**：原稿と同じページ順に、1部ごとに仕分けた状態で排紙します。 • **グループ**：ページごとにそろえて排紙します。

＊1　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。
＊2　お使いの機種によっては選択できません。

□ コピージョブ強制続行設定



	項目名	機能説明
1	給紙元自動変更	原稿サイズと給紙元の用紙サイズが異なった場合に、自動的に原稿サイズに合わせて給紙元を変更するかどうか設定します。 • **ON**：給紙元を変更してジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
2	異方向用紙の許可 *1	原稿の向きと給紙元の用紙の向きが異なった場合に、異なる方向の用紙にコピーするかどうか設定します。 • **ON**：異方向の用紙へのコピーを許可してジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
3	排紙トレイ自動切替（カスケード印刷）*1	自動的に排紙トレイを切り替えるかどうか設定します。 • **ON**：排紙トレイを自動的に切り替えてジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
4	ホチキス針なし時の印刷中断 *1	ステイプルの針がなくなったときに印刷を中断するかどうか設定します。 • **ON**：ステイプルの針がなくなったときは印刷を中断します。 • **OFF**：ステイプルの針がなくなったときでも印刷を中断しません。
5	パンチ屑フル時の印刷継続 *1	パンチ屑がフルになったとき印刷を継続するかどうか設定します。 • **ON**：パンチ屑がフルになったときでも印刷を継続します。 • **OFF**：パンチ屑がフルになったときは印刷を中断します。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

■ ファクス設定

ファクス設定をセットアップすることができます。

注 意

［ファクス］サブメニューは、本機にFAXユニットを装着している場合にのみ利用できます。

補 足

［ファクス］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

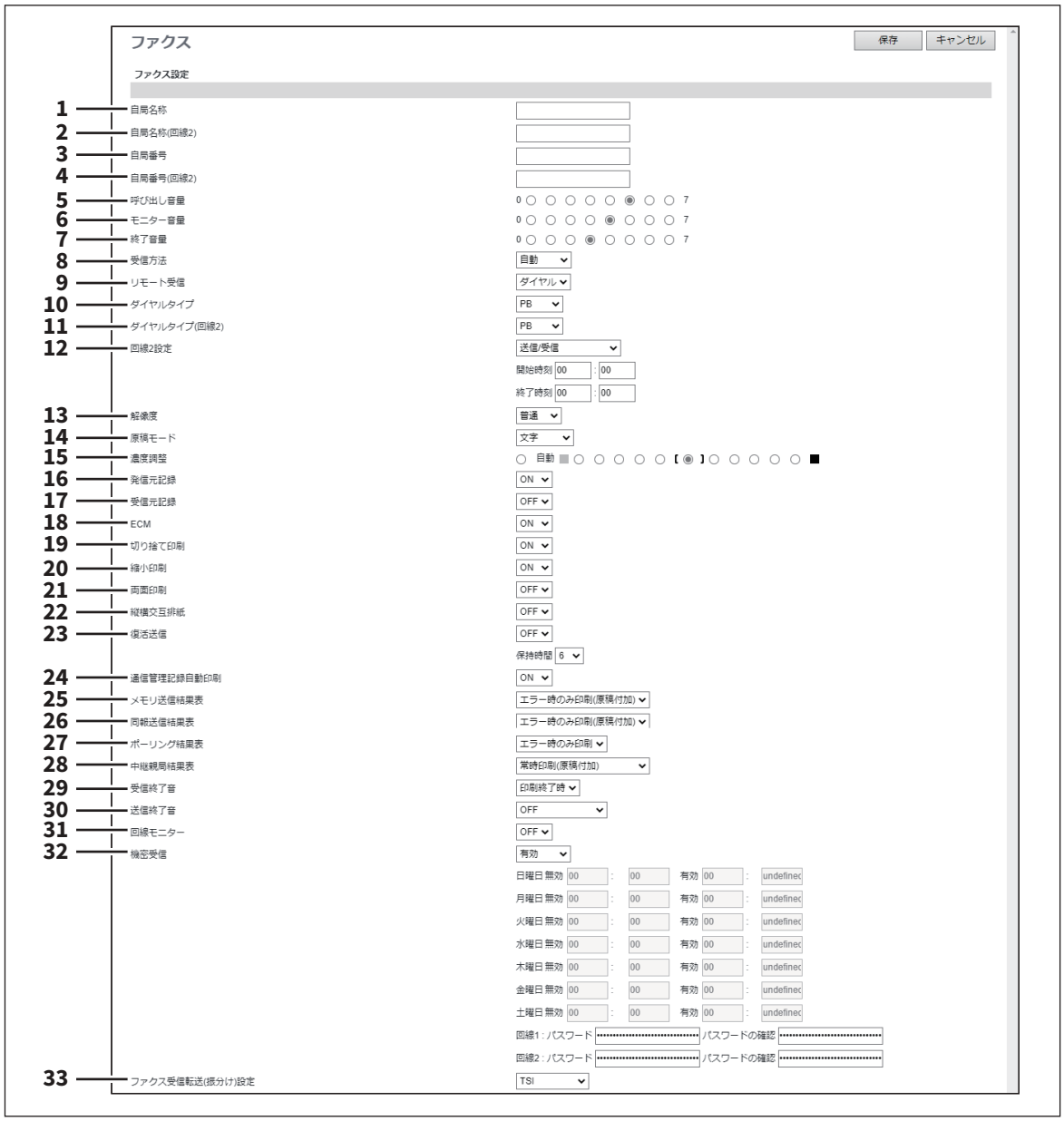
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

□ ファクス設定

ファクス設定では、タッチパネル画面から行うファクス操作に適用する標準のファクス設定をセットアップします。

補 足

お使いの機種によっては、表示されない項目や機能があります。



	項目名	機能説明
1	自局名称	本機を識別するターミナルID（会社名）を全角10文字、半角20文字まで入力します。この名称は、本機から送信されるすべての文書の先頭に印字されます。
2	自局名称（回線2）*1	本機に回線2を設置している場合に、回線2で本機を識別するターミナルID（会社名）を全角10文字、半角20文字まで入力します。この名称は、本機の回線2から送信されるすべての文書の先頭に印字されます。
3	自局番号	本機のファクス番号を入力します。
4	自局番号（回線2）*1	本機に回線2を設置している場合に、回線2のファクス番号を入力します。
5	呼び出し音量	呼び出し音量を選択します。
6	モニター音量	送信中の回線モニター音量を選択します。
7	終了音量	受信完了時の終了音の音量を選択します。
8	受信方法	ファクス受信時に本機をどのように動作させるかを選択します。 • **自動**：呼び出し時に、着信原稿を自動的に受信します。回線がファクス通信専用に使用されている場合は、このオプションを選択します。 • **手動**：操作パネルの［スタート］ボタンを押すことによって、着信原稿の受信を開始します。 • **TEL/FAX**：着信すると通話なのかファクスなのかを自動的に判別して切り替えます。 補 足 •「手動」または「TEL/FAX」により受信する場合は、外付け電話機を装着することが必要です。 • 回線増設ユニットを装着している場合、回線2の受信方法は自動受信限定です。
9	リモート受信	外付け電話を使ってファクスのリモート受信する場合の操作方法を選択します。 • **OFF**：リモート受信機能を無効にします。 • **ダイヤル**：受話器を取って通話した後、ダイヤル操作で受信を開始します。 • **簡易**：受話器を取った後、指定時間内に受話器を元に戻すと受信を開始します。
10	ダイヤルタイプ	回線1のダイヤルの種類を選択します。 • **10PPS**：10PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。 • **20PPS**：20PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。 • **PB**：トーンタイプのプッシュホン回線を使用します。
11	ダイヤルタイプ（回線2）*1	回線2を設置している場合に、回線2のダイヤルの種類を選択します。 • **10PPS**：10PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。 • **20PPS**：20PPSパルスタイプのダイヤル回線を使用します。 • **PB**：トーンタイプのプッシュホン回線を使用します。
12	回線2設定 *1	回線2を設置している場合に、回線2をどのように使用するか選択します。 • **送信／受信**：回線2をファクスの送受信に使用します。 • **受信専用**：回線2をファクスの受信専用に使用します。 • **受信専用（時刻指定）**：回線2を指定した時間の間、受信専用として使用します。選択した場合は、回線2を受信専用として使用する開始時刻と終了時刻を入力してください。

	項目名	機能説明
13	解像度	ファクスを送信する際に適用する標準の解像度を選択します。 • **普通**：標準の解像度に標準モードを適用します。このモードは、普通サイズの文字で構成されたテキスト原稿をひんぱんに送信する場合に適しています。 • **精細**：標準の解像度に精細モードを適用します。このモードは、細かい文字や細かな線画を含む原稿を送信する場合に適しています。 • **高精細**：標準の解像度に高精細モードを適用します。このモードは、特に細かい文字や精密な線画を含む原稿を送信する場合に適しています。
14	原稿モード	ファクスを送信する際に適用する標準の画質を選択します。 • **文字**：標準の画質モードに文字モードを適用します。このモードは、テキスト原稿を送信する場合に適しています。 • **文字／写真**：標準の画質モードに文字／写真モードを適用します。このモードは、テキスト、写真両方で構成された原稿を送信する場合に適しています。 • **写真**：標準の画質モードに写真モードを適用します。このモードは、写真原稿を送信する場合に適しています。
15	濃度調整	ファクスを送信する際に適用する標準の濃度を選択します。 原稿によって理想的な濃度を適用する［自動］を選択するか、手動で11段階の濃度を選択します。
16	発信元記録	送信者を識別する送信ヘッダー（TTI）を受信ファクスに印刷するかを選択します。 **注 意** 印刷される時刻は各ページの送信時刻です。
17	受信元記録	受信した時刻、日付、ページ数を確認する受信ヘッダー（RTI）を受信ファクスに印刷するか選択します。
18	ECM	文書が電話回線のノイズや歪みなどにより影響を受けた部分があるときに、自動的に再送するECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正モード）を有効にするか選択します。
19	切り捨て印刷	記録紙より大きなファクス原稿を受信したときに、受信したファクス原稿の下の部分を切り捨てるかを選択します。
20	縮小印刷	記録紙の印刷可能範囲より大きなファクス原稿を受信したときに、受信したファクス原稿を縮小するか選択します。
21	両面印刷	記録紙の両面に受信したファクス原稿を印刷するか選択します。自動両面ユニットが装着されている場合のみ、使用できます。
22	縦横交互排紙 *1	受信ごとに、縦横交互に排紙方向を変えて排紙トレイに出力するか選択します。
23	復活送信	初期値で指定されているリダイヤル回数に失敗した後、メモリ内に保持した原稿を操作パネルで操作して送信することができます。このオプションを有効にした場合は、1～24時間の範囲でデータを保持する時間を選択します。
24	通信管理記録自動印刷	通信を完了するたびに、送信ジャーナルや受信ジャーナルを自動的に印刷するか選択します。

	項目名	機能説明
25	メモリ送信結果表	メモリ送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。 • **OFF**：メモリ送信レポートを印刷しません。 • **常時印刷**：メモリ送信を完了するたびにメモリ送信レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：メモリ送信に失敗した場合にのみメモリ送信レポートを印刷します。 • **常時印刷（原稿付加）**：メモリ送信を完了するたびに、原稿の最初のページを添付したメモリ送信レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：メモリ送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付したメモリ送信レポートを印刷します。
26	同報送信結果表	同報送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。 • **OFF**：同報送信レポートを印刷しません。 • **常時印刷**：同報送信を完了するたびに同報送信レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：同報送信に失敗した場合にのみ同報送信レポートを印刷します。 • **常時印刷（原稿付加）**：同報送信を完了するたびに、最初のページのイメージを添付した同報送信レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：同報送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付した同報送信レポートを印刷します。
27	ポーリング結果表	ポーリング受信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。 • **OFF**：ポーリングレポートを印刷しません。 • **常時印刷**：ポーリング受信を完了するたびに、ポーリングレポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：ポーリング受信に失敗した場合にのみ、ポーリングレポートを印刷します。
28	中継親局結果表	中継送信を実行した後に、どのように結果レポートを印刷するか選択します。 • **OFF**：中継局レポートを印刷しません。 • **常時印刷**：中継送信を完了するたびに中継局レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：中継送信に失敗した場合にのみ中継局レポートを印刷します。 • **常時印刷（原稿付加）**：中継送信を完了するたびに、最初のページのイメージを添付した中継局レポートを印刷します。 • **エラー時のみ印刷（原稿付加）**：中継送信に失敗した場合にのみ、最初のページのイメージを添付した中継局レポートを印刷します。
29	受信終了音	受信が終了した際にどのように受信終了音を鳴らすか選択します。 • **OFF**：受信終了音を鳴らしません。 • **印刷終了時**：印刷終了後に、受信終了音を鳴らします。 • **受信終了時**：受信終了後に、受信終了音を鳴らします。
30	送信終了音	送信が終了した際にどのように送信終了音を鳴らすか選択します。 • **OFF**：送信終了音を鳴らしません。 • **常時**：送信終了時に、送信終了音を常時、鳴らします。 • **エラー時**：送信がエラー終了時に、送信終了音を鳴らします。 • **正常時**：送信が正常終了時に、送信終了音を鳴動します。

	項目名	機能説明
31	回線モニター	回線モニターを確認して相手機との接続を確認するかどうか設定します • **OFF**：回線モニターを確認しません。 • ON：回線モニターを確認します。
32	機密受信	受信したファクスを出力せずに、機体内に保管する機密受信を設定します。 機密受信を使うことで、夜間や休日などの人がいない時間帯や不特定多数の人が立ち入る時間帯などに受信したファクスから情報が漏えいするのを防止できます。 • **有効**：機密受信を有効にします。 機密受信したファクスを印刷するため［回線1 : パスワード］と［パスワードの確認］/［回線2 : パスワード］*1と［パスワードの確認］*1を設定する必要があります。パスワードは、半角英数字と記号（! # ( ) * + , - . / : ; = ? @ $ ^ _ ` { | } ~ \ スペース）で20文字まで入力できます。 • **無効**：機密受信を無効にします。 • **週間予定**：機密受信を有効にするか無効にするかを曜日ごとに設定します。 機密受信を有効にする時間と無効にする時間を設定します。（24時間表示） - 終日機密受信を有効にしたい曜日には、無効/有効を 00:00/00:00 と設定します。 - 終日機密受信を無効にしたい曜日には、無効/有効を 00:00/24:00 と設定します。 機密受信したファクスを印刷するため［回線1 : パスワード］と［パスワードの確認］/［回線2 : パスワード］*1と［パスワードの確認］*1を設定する必要があります。パスワードは、半角英数字と記号（! # ( ) * + , - . / : ; = ? @ $ ^ _ ` { | } ~ \ スペース）で20文字まで入力できます。 ＊ここでは¥マークを「\（バックスラッシュ）」で表記しています。
33	ファクス受信転送（振分け）設定	［発信電話番号］と［TSI］（送信者情報）の番号が両方通知された場合、どちらの箱番号からファクス受信転送（振分け）するかを選択します。 **注 意** 発信者の電話番号によるファクス受信転送は、ナンバーディスプレイ利用時のみ利用できます。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

□ 送信者名登録

ファクスの送信者名を20件まで登録できます。登録した送信者名は、テンプレートでインターネットファクスやファクス設定を保存する際に選択できます。

📖 P.323 「インターネットファクス設定」
📖 P.324 「ファクス設定」

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	新しいファクス送信者名を登録します。入力ウィンドウが表示されたら、名前には全角10文字、半角20文字まで入力できます。［保存］をクリックして名前を登録します。設定操作を中止するには、［キャンセル］をクリックしてウィンドウを閉じます。
2	［削除］ボタン	リストで選択した名前を削除します。
3	［上に移動］	リストで選択した名前を上に移動します。
4	［下に移動］	リストで選択した名前を下へ移動します。
5	送信者名	登録した送信者名をリストに表示します。リストを上下にスクロールして名前を20件まで確認できます。

□ 受信電話番号拒否登録

ナンバーディスプレイを利用している場合、迷惑ファクス防止のために着信を拒否する電話番号を50件まで登録できます。

注 意

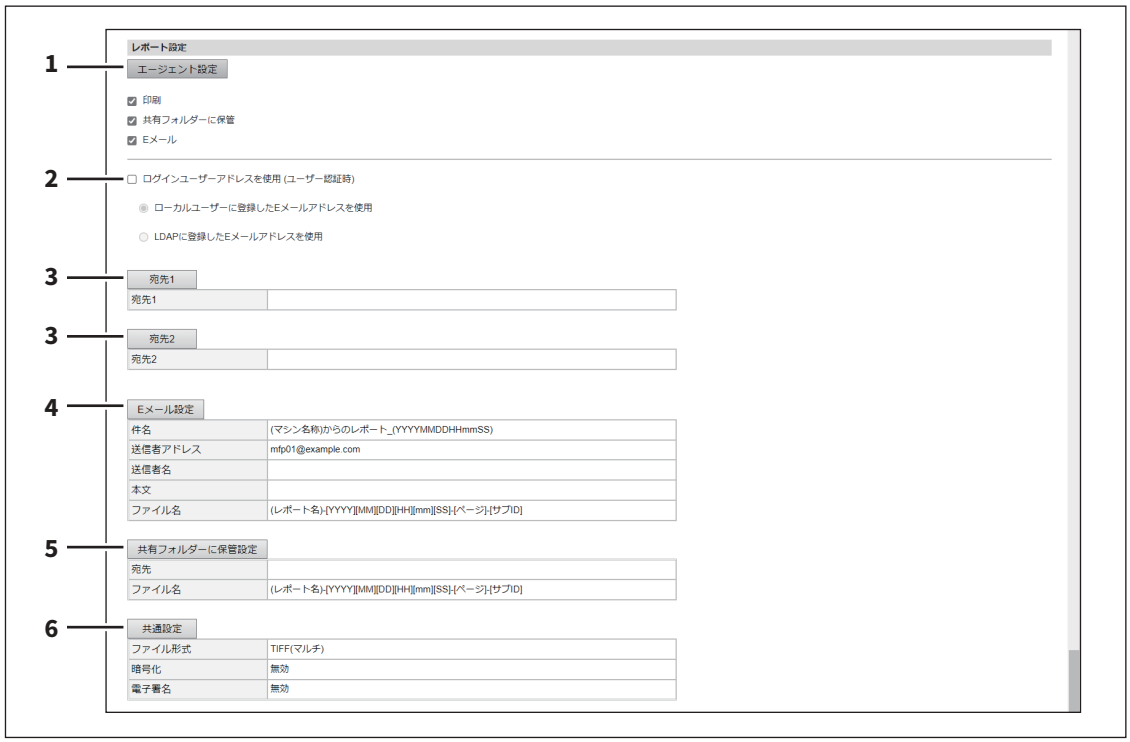
発信者の電話番号によるファクス受信転送は、ナンバーディスプレイ利用時のみ利用できます。

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	着信を拒否する電話番号を登録します。入力ウィンドウが表示されたら、電話番号（数字のみ20桁まで）を入力できます。［保存］をクリックして電話番号を登録します。設定操作を中止するには、［キャンセル］をクリックしてウィンドウを閉じます。
2	［削除］ボタン	リストで選択した電話番号を削除します。

	項目名	機能説明
3	［エクスポート］ボタン	リストに登録した電話番号のファイルをエクスポートして保存できます。ボタンをクリックするとウィンドウが開いてダウンロード用のリンクを表示します。リンクをクリックすると、ファイルを任意のフォルダーに保存できます。
4	電話番号	登録した電話番号をリストに表示します。リストを上下にスクロールして電話番号を50件まで確認できます。電話番号をクリックすると、変更できます。
5	インポート方式	電話番号を登録してあるファイルのインポート方法を選択します。 • **追加**：インポートする新しい電話番号を、リストに追加します。 • **上書き**：リストに登録してある電話番号をすべて削除して、インポートする新しい電話番号に書き換えます。
6	ファイル名	着信を拒否する電話番号のファイルをインポートできます。 • **［ファイルの選択］ボタン**：電話番号のファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：選択した電話番号のファイルをインポートします。

□ レポート設定

ファクスの結果レポートをどのようにするか選択します。



	項目名	機能説明
1	エージェント設定	以下の項目を選択して［エージェント設定］をクリックすると、詳細な設定ができます。 **印刷**：印刷します。［エージェント設定］での設定はありません。 **共有フォルダーに保管**：ファイルに保存します。［エージェント設定］をクリックすると、［共有フォルダーに保管設定］と［共通設定］が設定できます。 **Eメール**：メールで送信します。［エージェント設定］をクリックすると、宛先設定と［Eメール設定］、［共通設定］が設定できます。

	項目名	機能説明
2	ログインユーザーアドレスを使用（ユーザー認証時）	ユーザー認証時にログインユーザーのEメールアドレスをEメール送信の宛先に使用するかどうかを設定します。チェックすると、以下の項目を設定できます。 **ローカルユーザーに登録したEメールアドレスを使用**：内部認証のユーザーに設定されたEメールアドレスを、Eメール送信の宛先に使用します。 **LDAPに登録したEメールアドレスを使用**：LDAPクライアントに登録されたサーバーのEメールアドレスを、Eメール送信の宛先に使用します。［サーバー割り当て］をクリックし、最大4つのLDAPサーバーを割り当てます。 📖 P.154 「LDAPクライアントの設定」
3	［宛先1］/［宛先2］ボタン	レポート設定で［Eメール］を選択して［エージェント設定］ボタンをクリックしたときに有効になります。 クリックすると宛先リストが表示され、宛先を設定できます。 📖 P.317 「宛先設定」
4	［Eメール設定］ボタン	レポート設定で［Eメール］を選択して［エージェント設定］ボタンをクリックしたときに有効になります。 クリックするとEメール設定に関するエージェント設定のページで、以下の項目を設定できます。 • 件名 • 送信者アドレス • 送信者名 • 本文 • ファイル名 📖 P.326 「Eメール設定」
5	［共有フォルダーに保管設定］ボタン	レポート設定で［共有フォルダーに保管］を選択して［エージェント設定］ボタンをクリックしたときに有効になります。 クリックすると共有フォルダーに保管設定に関するエージェント設定のページで、以下の項目を設定できます。 • 宛先 • ファイル名 📖 P.330 「共有フォルダーに保管設定」
6	［共通設定］ボタン	レポート設定で［Eメール］または［共有フォルダーに保管］を選択して［エージェント設定］ボタンをクリックしたときに有効になります。 エージェント設定のページで、以下の項目を設定できます。 • ファイル形式 • 暗号化 • 電子署名 📖 P.326 「Eメール設定」 📖 P.330 「共有フォルダーに保管設定」

□ アプリケーションへの受信転送設定

受信原稿（ファクスで受信した画像ファイル）とアプリケーションの動作に利用可能な受信情報（メタデータ）をアプリケーションのストレージ領域に保存するかを設定します。アプリケーションの詳細については、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。

注 意

受信原稿を利用するアプリケーションが本機にインストールされていない、またはアプリケーションの実行許可が無効に設定されている場合は、使用できません。

	項目名	機能説明
1	受信転送の使用	アプリケーションのストレージ領域に受信原稿を保存する場合は、［有効］に設定します。初期値は［無効］に設定されています。 **注 意** ［受信転送の使用］を［有効］に設定すると、他の転送設定が［有効］に設定されている場合であってもアプリケーションへの受信転送設定が優先されます。
2	バックアップ設定	指定したボックスに受信原稿をバックアップとして保存する場合は、［有効］に設定します。初期値は［有効］に設定されています。 **補 足** ［受信転送の使用］が［有効］に設定されている場合に表示されます。
3	［ボックス設定］ボタン	受信原稿を保存するボックスを変更する場合やフォルダー名を変更する場合にクリックします。クリックすると［ボックス設定］画面が表示されます。 **補 足** ［バックアップ設定］が［有効］に設定されている場合に、設定を変更することができます。

□ ボックス設定（アプリケーションへの受信転送設定）

受信原稿をバックアップする宛先を設定します。

注 意

保存可能な文書数は1ボックスまたは1フォルダーあたり最大400文書、構成可能なページ数は1文書あたり最大200ページです。保存可能な文章数を超えて保存しようとした場合、ファイリングボックスへの保存に失敗します。ボックスまたはフォルダー内のドキュメントを定期的に削除するか、文書保存期間を設定して自動で削除してください。

	項目名	機能説明
1	宛先	受信原稿を保存するボックスを設定します。 **ボックス番号**：受信原稿を保存するボックス番号を選択します。初期値は「000：共有ボックス」です。 **パスワード**：ボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。 **パスワードの確認**：確認のためにパスワードを再入力します。
2	フォルダー名	受信原稿を保存するボックス内のフォルダー名を入力します。64文字まで入力できます。
3	文書名	複合機が自動的に付けるジョブごとの番号（ジョブID）が文書名として表示されます。文書名は、変更できません。

■ 共有フォルダーに保管設定

共有フォルダー保存設定をセットアップすることができます。

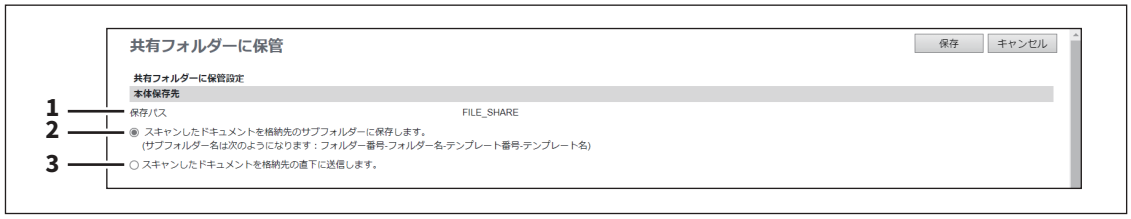
補 足

［共有フォルダーに保管］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

□ 本体保存先の設定

本機の共有フォルダーのパスを確認することができます。共有フォルダーは、Windowsネットワークから本機を参照して開くことができます。



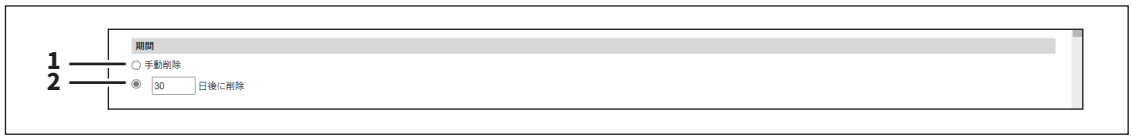
	項目名	機能説明
1	保存パス	共有フォルダーかUSBに保管操作でローカルフォルダーを指定した場合にファイルが保存される本機の共有フォルダー名を表示します。
2	スキャンしたドキュメントを格納先のサブフォルダーに保存します。	共有フォルダーに「フォルダー番号-フォルダー名-テンプレート番号-テンプレート名」の名前のサブフォルダーを作成してファイルを保存する場合に選択します。 補 足 フォルダーの外に登録されているテンプレートボタンを呼び出した場合、サブフォルダー名は「テンプレート番号-テンプレート名」になります。
3	スキャンしたドキュメントを格納先の直下に送信します。	共有フォルダー直下にファイルを保存する場合に選択します。

□ 期間の設定

保存期間の設定では、本機の共有フォルダーに保存したファイルをどのように削除するか選択します。

注 意

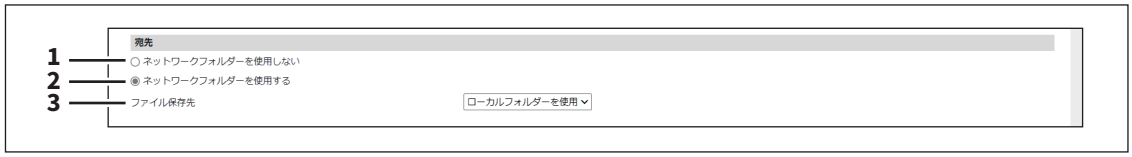
ローカル保存時に作成されたフォルダーは、そのフォルダー内のファイルが削除されて空になると自動的に削除されます。



	項目名	機能説明
1	手動削除	手動でスキャンファイルを削除します。このオプションを選択した場合は、共有フォルダーに保存されたファイルは自動的に削除されません。
2	［　］日後に削除	指定した保存日数が経過すると、保存したファイルを自動的に削除します。このオプションを選択した場合は、ファイルを保存しておく日数を入力します。初期値は「30日」に設定されています。

□ 宛先の設定

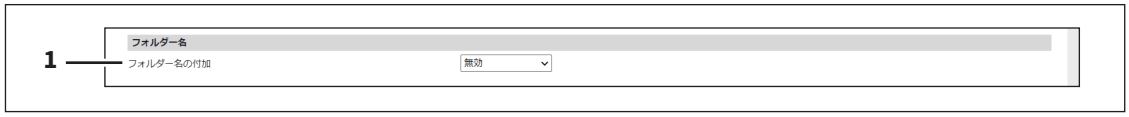
保存先にネットワークフォルダーを指定することを許可するか選択します。



	項目名	機能説明
1	ネットワークフォルダーを使用しない	保存先にネットワークフォルダーを指定することを許可しません。このオプションを選択した場合は、ユーザーは本機の共有フォルダーまたはUSBメディアにのみスキャンファイルを保存することができます。
2	ネットワークフォルダーを使用する	保存先にネットワークフォルダーを指定することを許可します。このオプションを選択した場合は、リモート1とリモート2の設定を行い、ユーザーが保存先にネットワークフォルダーをどのように選択するのかを設定します。
3	ファイル保存先	操作パネルの［共有フォルダーに保管］画面を表示したときにデフォルトで選択される保存先を選択します。 • **ローカルフォルダーを使用**：ローカルフォルダーに保存します。 • **リモート1**：リモート1に設定されているフォルダーに保存します。 • **リモート2**：リモート2に設定されているフォルダーに保存します。

□ フォルダー名の設定

ファイルの保存時に自動的に作成されるフォルダーの名前に、機体やユーザーの情報を付けるかを選択します。



	項目名	機能説明
1	フォルダー名の付加	ファイル保存時に作成されるフォルダー名の付加情報を選択します。 • **無効**：情報を付加しません。 • **マシン名を付加**：本機のNetBIOS名を付加します。 • **ユーザー名を付加**：ユーザー認証で設定されたユーザー名を付加します。

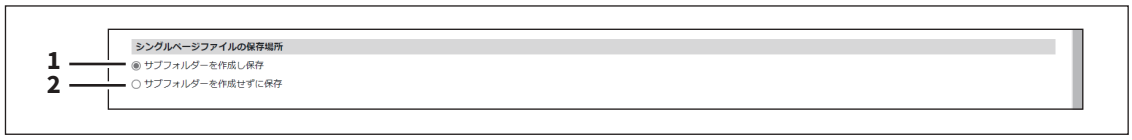
□ フォーマットの設定

スキャン結果を共有フォルダーやUSBに保存する際のファイル名の付け方を設定します。

	項目名	機能説明
1	ファイル名フォーマット	ファイル名のフォーマットを選択します。ファイル名、日付、ページ番号の各情報が、選択したフォーマットのとおりに付加されます。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。 • **[ファイル名] - [日付] - [ページ]** • **[ファイル名] - [ページ] - [日付]** • **[日付] - [ファイル名] - [ページ]** • **[日付] - [ページ] - [ファイル名]** • **[ページ] - [ファイル名] - [日付]** • **[ページ] - [日付] - [ファイル名]** • **[ファイル名] _ [日付] - [ページ]**
2	日付フォーマット	[ファイル名フォーマット] で選択したファイル名の「日付」部分の付け方を選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。 • **[YYYY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS]**：年（4桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **[YY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS]**：年（2桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **[YYYY] [MM] [DD]**：年（4桁）、月、日を付加します。 • **[YY] [MM] [DD]**：年（2桁）、月、日を付加します。 • **[HH] [mm] [SS]**：時、分、秒を付加します。 • **[YYYY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS] [mm0]**：年（4桁）、月、日、時、分、秒、乱数（3桁：乱数2桁と0）を付加します。
3	ページ番号フォーマット	[ファイル名フォーマット] で選択したファイル名の「ページ」部分に適用されるページ番号の桁数を、3～6桁の範囲で選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイル名にも適用されます。初期値は「4桁」に設定されています。
4	サブIDフォーマット	ファイルの保存時、すでに同じ名前のファイルが保存先に存在していた場合、本機はそのファイル名の末尾に自動的にサブID（識別番号）を付加して保存します。このサブIDの桁数を、[自動] または4～6桁の範囲で選択します。なお、初期設定では [自動] が設定されており、ファイル名の状況に合わせて任意の桁数（4～6桁）の番号が入力されます。

□ シングルページファイルの保存場所の設定

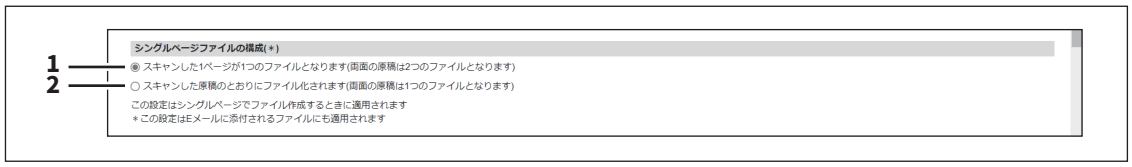
スキャン時にマルチ／スキャン設定で［シングル］を選択すると、スキャン結果はシングルページのファイルとして保存されます。この設定では、シングルページのファイルを保存する際に、サブフォルダーを作成して保存するかどうかを選択します。



	項目名	機能説明
1	サブフォルダーを作成し保存	指定した保存先にサブフォルダーを作成し、その中にファイルを保存します。
2	サブフォルダーを作成せずに保存	指定した保存先にそのままファイルを保存します。

□ シングルページファイルの構成の設定

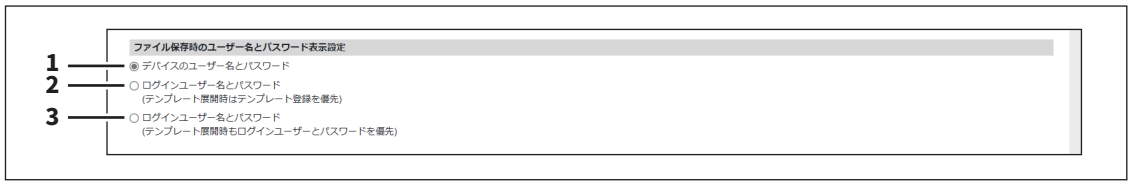
スキャン時にマルチ／スキャン設定で［シングル］を選択すると、スキャン結果はシングルページのファイルとして保存されます。この設定では、シングルページで保存されるファイルのページ構成を選択します。なお、この設定の内容は、Eメールに添付するファイルにも適用されます。



	項目名	機能説明
1	スキャンした1ページが1つのファイルとなります	原稿を1ページスキャンするごとに、1つのファイルとして保存します。たとえば、1枚の両面原稿をスキャンする場合は、表面を1ファイル、裏面を1ファイルとして保存します。
2	スキャンした原稿のとおりにファイル化されます	原稿を1枚スキャンするごとに、1つのファイルとして保存します。たとえば、1枚の両面原稿をスキャンする場合は、表面と裏面の2ページを1ファイルとして保存します。

□ ファイル保存時のユーザー名とパスワード表示設定

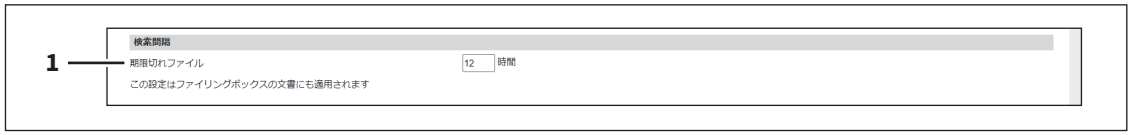
ユーザー認証機能が有効の場合、ユーザー認証に使用しているユーザー名とパスワードを、ネットワークフォルダー（リモート1／2で指定したフォルダー）に保存する際の［ログインユーザー名］と［パスワード］にも自動的に入力して優先的に使用するかどうかを設定します。この設定はリモート1またはリモート2の保存先設定が、「ユーザーがネットワークフォルダーを指定することを認める」のときに適用されます。



	項目名	機能説明
1	デバイスのユーザー名とパスワード	ログイン中のユーザー名とパスワードは使用しません。スキャン時に必要に応じて［ログインユーザー名］と［パスワード］を入力してください。
2	ログインユーザー名とパスワード （テンプレート展開時はテンプレート登録を優先）	ログイン中のユーザー名とパスワードが自動的に使用されます。ただし、テンプレートを使用した場合は、テンプレートに登録されているユーザー名とパスワードが自動的に使用されます。
3	ログインユーザー名とパスワード （テンプレート展開時もログインユーザーとパスワードを優先）	ログイン中のユーザー名とパスワードが自動的に使用されます。テンプレートを使用した場合も、ログイン中のユーザー名とパスワードが使用されます。

□ 検索間隔の設定

共有フォルダーに保存されたファイルの保存期間を検索するタイミングを設定します。なお、この設定の内容は、ファイリングボックスに保存されたファイルにも適用されます。



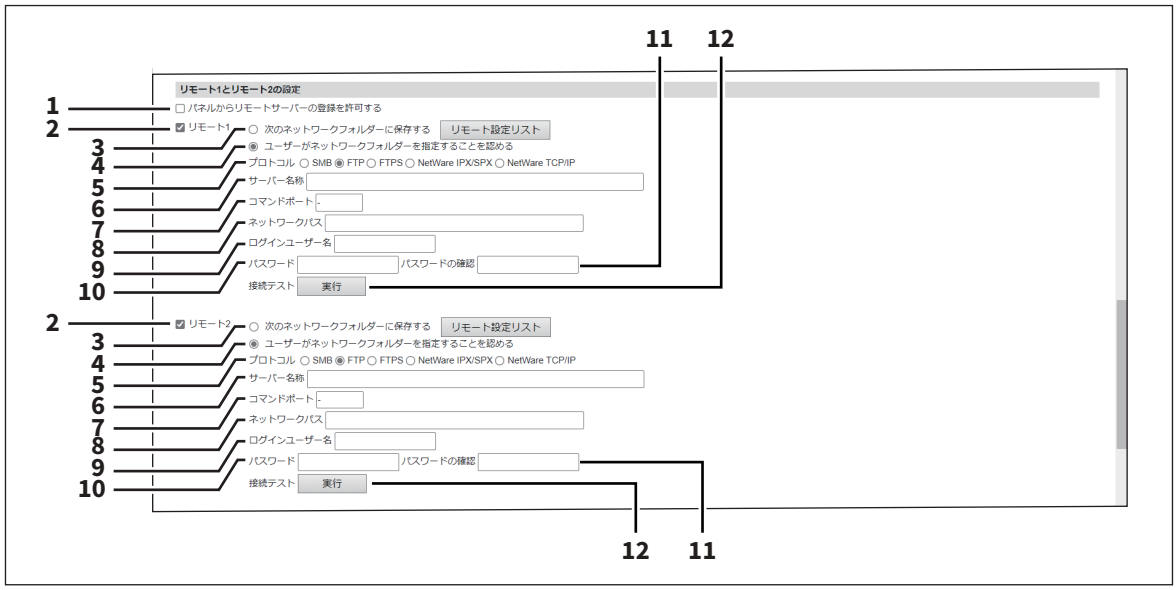
	項目名	機能説明
1	期限切れファイル	指定した時間が経過するごとにファイルの保存期間の検索を行います。1～24時間の範囲で設定します。初期設定では12時間に設定されています。 補 足 共有フォルダー内のファイルの保存期間や、期限が切れたファイルを削除するかどうかは、以下の項目で設定することができます。 📖 P.188 「期間の設定」

□ リモート1とリモート2の設定

ネットワークフォルダーへの保存を許可する場合に、適用されるネットワークフォルダーの保存先の設定を行います。リモート1およびリモート2の2つのネットワークフォルダーを指定することができます。リモート1、リモート2の設定項目は同じです。

注 意

保存先のネットワークフォルダーは、共有設定されている必要があります。



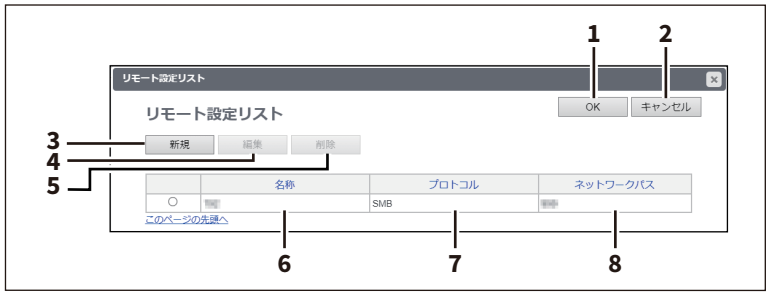
	項目名	機能説明
1	パネルからリモートサーバーの登録を許可する	操作パネルからリモートサーバーを登録できるように許可するかどうかを選択します。
2	［リモート1］/［リモート2］	利用するリモートを選択します。
3	次のネットワークフォルダーに保存する	ネットワークフォルダーへの保存を選択した場合に、保存されるネットワークフォルダーを設定します。ユーザーに任意のネットワークフォルダーの設定を許可する場合は、［ユーザーがネットワークフォルダーを指定することを認める］を選択します。 **［リモート設定リスト］ボタン**：リモート1およびリモート2から選択できるネットワークフォルダーの保存先リストを設定します。設定した設定リストを操作パネルから選択する場合は、［ユーザーがネットワークフォルダーを指定することを認める］を選択する必要があります。 📖 P.195 「［リモート設定リスト］画面」
4	ユーザーがネットワークフォルダーを指定することを認める	保存先のネットワークフォルダーを指定することをユーザーに許可します。［リモート設定リスト］で保存先リストを設定している場合、ネットワークフォルダーをリスト一覧から選択することができます。ファイルを保存するネットワークフォルダーを固定で設定する場合は、［次のネットワークフォルダーに保存する］を選択します。 **補 足** どちらか一方のネットワークフォルダーをユーザーに指定することを認める場合は、ネットワークフォルダーの保存先を設定していないリモート1またはリモート2の［ユーザーがネットワークフォルダーを指定することを認める］を選択します。

	項目名	機能説明
5	プロトコル	スキャンファイルをネットワークフォルダーに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用してスキャンファイルをネットワークフォルダーに転送します。 • **FTP**：スキャンファイルをFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSL/TLSでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。
6	サーバー名称	プロトコルでFTPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、スキャンファイルをFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダーに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。 半角英数字と記号で64文字まで入力できます。
7	コマンドポート	プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。 数字と「-」（ハイフン）を使用して、0から65535までの値を入力できます。初期値は「-」に設定されています。
8	ネットワークパス	プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダーへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピューターの「users¥scanned」というフォルダーを指定する場合は、「¥¥Client01¥users¥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダーを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys¥scan」というフォルダーを指定する場合は、「¥sys¥scan」と入力します。 半角／全角文字にかかわらず128文字まで入力できます。
9	ログインユーザー名	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザー名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。 「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザー名は使えません。
10	パスワード	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。

	項目名	機能説明
11	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。半角英数字と記号、スペースを含み32文字まで入力できます。スペース1文字のみも可能です。
12	［実行］ボタン	設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。

［リモート設定リスト］画面

リモート1およびリモート2から選択できるネットワークフォルダーの保存先リストを設定します。リモート設定リストには、30件まで登録できます。



	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	リモート設定リストを登録します。
2	［キャンセル］ボタン	リモート設定リストの登録を中止します。
3	［新規］ボタン	新しいリモート設定を設定します。 📖 P.195 「［リモート設定］画面」
4	［編集］ボタン	リモート設定リスト一覧で選択している項目を編集します。 📖 P.195 「［リモート設定］画面」
5	［削除］ボタン	リモート設定リスト一覧で選択している項目を削除します。
6	名称	リモート設定の名称を表示します。
7	プロトコル	リモート設定のプロトコルを表示します。
8	ネットワークパス	リモート設定のネットワークパスを表示します。

［リモート設定］画面

リストに登録するネットワークフォルダーの保存先の設定を行います。

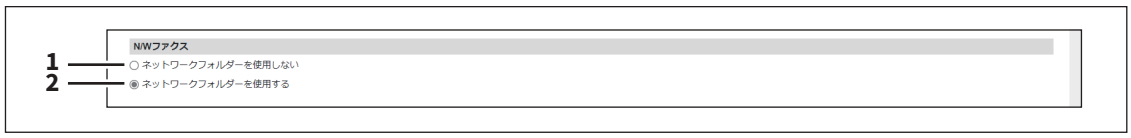
	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定したネットワークフォルダーの保存先を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。

	項目名	機能説明
3	［実行］ボタン	設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。
4	名称	ネットワークフォルダーの保存先の名称を入力します。
5	プロトコル	スキャンファイルをネットワークフォルダーに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用してスキャンファイルをネットワークフォルダーに転送します。 • **FTP**：スキャンファイルをFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSL/TLSでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。
6	サーバー名称	プロトコルでFTPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、スキャンファイルをFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダーに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。 半角英数字と記号で64文字まで入力できます。
7	コマンドポート	プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。 数字と「-」（ハイフン）を使用して、0から65535までの値を入力できます。初期値は「-」に設定されています。
8	ネットワークパス	プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダーへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピューターの「users¥scanned」というフォルダーを指定する場合は、「¥¥Client01¥users¥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダーを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys¥scan」というフォルダーを指定する場合は、「¥sys¥scan」と入力します。 半角英数字と記号で128文字まで入力できます。
9	ログインユーザー名	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザー名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。 「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザー名は使えません。

	項目名	機能説明
10	パスワード	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。
11	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。半角英数字と記号、スペースを含み32文字まで入力できます。スペース1文字のみも可能です。

□ N/Wファクスの設定

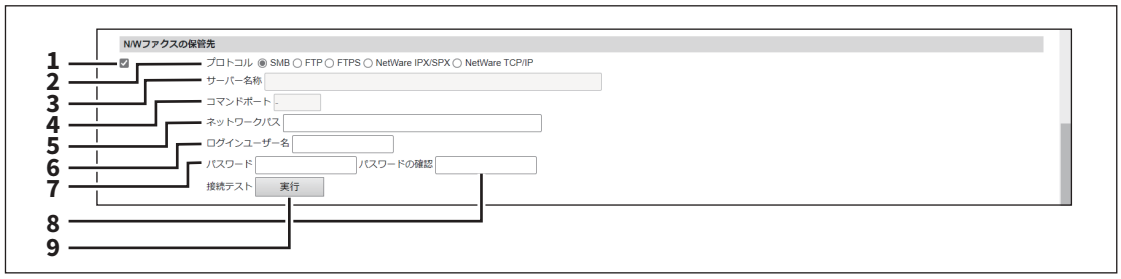
N/W-Faxドライバーでファイル保存機能をオンにして文書をファクス送信した場合に、保存先にネットワークフォルダーを指定することを許可するか選択します。



	項目名	機能説明
1	ネットワークフォルダーを使用しない	N/W-Faxドライバーのファイル保存機能をオンにして送信した文書の保存先にネットワークフォルダーを指定することを許可しません。このオプションを選択した場合は、ユーザーは本機の共有フォルダーにのみN/W-Faxドライバーを使って送信した文書を保存することができます。
2	ネットワークフォルダーを使用する	N/W-Faxドライバーのファイル保存機能をオンにして送信した文書を、ネットワークフォルダーに保存することを許可します。選択した場合は、［N/Wファクスの保管先］で、文書を保存するネットワークフォルダーを設定します。

□ N/Wファクスの保管先の設定

N/W-Faxドライバーのファイル保存機能でネットワークフォルダーへの保存を許可する場合に、適用されるネットワークフォルダーの保存先の設定を行います。



	項目名	機能説明
1	チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、ネットワークパスやサーバー名称を空欄のまま保存した場合、入力を促すポップアップ画面が表示されます。
2	プロトコル	N/W-Faxドライバーで送信する文書をネットワークフォルダーに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用して文書をネットワークフォルダーに転送します。 • **FTP**：文書をFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSL/TLSでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。

	項目名	機能説明
3	サーバー名称	プロトコルでFTPを選択した場合は、文書を転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、文書をFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダーに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。
4	コマンドポート	プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。
5	ネットワークパス	プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダーへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピューターの「users¥scanned」というフォルダーを指定する場合は、「¥¥Client01¥users¥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダーを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys¥scan」というフォルダーを指定する場合は、「¥sys¥scan」と入力します。
6	ログインユーザー名	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザー名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。 「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザー名は使えません。
7	パスワード	必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。パスワードにはスペースも入力可能です。
8	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。
9	［実行］ボタン	設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。

■ Eメール設定

Eメール設定をセットアップすることができます。この設定では、Eメール送信操作に必要な設定を行います。

補 足

［Eメール設定］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

□ Eメール設定

Eメール文書に適用する送信者アドレス、送信者名、ファイル形式、分割送信サイズ、本文を設定します。

	項目名	機能説明
1	SMTPクライアント	EメールのSMTP送信を設定します。 補 足 SMTPクライアントの設定については、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.158 「SMTPクライアントの設定」
2	POP3クライアント	Eメール印刷ジョブを受信するPOP3サーバーを設定します。 補 足 POP3クライアントの設定については、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.161 「POP3クライアントの設定」

	項目名	機能説明
3	送信者アドレス	本機のEメールアドレスを入力します。 補 足 • 送受信履歴（ログ）にはメールアドレスが表示されます 。 • 分かりやすいアドレスでの運用をお勧めします 。 注 意 Eメール送信を有効にするには、［送信者アドレス］ を入力する必要があります。ただし、内部認証以外のユーザー管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザーの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザー管理設定の詳細については、以下の説明を参照してください。 📖 P.73 「[ユーザー管理]」
4	送信者名	本機の名前を入力します。
5	件名（ファクス受信転送）	ファクス受信転送時に件名として使用するTTIを選択します。
6	宛先に付加するドメイン名	宛先を入力中に、ドメイン名を自動的に付加するかを設定します。 • **有効**：付加します。 • **無効**：付加しません。 テキストボックスに、付加するドメイン名を入力してください。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
7	ファイル形式（白黒）	白黒モードでスキャン時に、Eメール送信操作で送信されるスキャンイメージのファイル形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。 • **PDF/A（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。 • **PDF/A（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。 • **DOCX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **DOCX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 ［OCR有効］でOCRを有効にするかどうかを選択できます。

	項目名	機能説明
8	ファイル形式（カラー）	カラーモードでスキャン時に、Eメール送信操作で送信されるスキャンイメージのファイル形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **高圧縮PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **高圧縮PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。 • **JPEG**：スキャンイメージをJPEGファイルとして保存します。 • **PDF/A（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。 • **PDF/A（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。 • **DOCX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **DOCX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 ［OCR有効］でOCRを有効にするかどうかを選択できます。
9	リトライ回数	インターネットへのEメール送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す回数を入力します。初期値は「3回」に設定されています。
10	リトライ間隔	インターネットへのEメール送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す間隔を分単位で入力します。初期値は「1分」に設定されています。 **注 意** ［リトライ回数］および［リトライ間隔］の設定を変更した場合、インターネットファクス設定の［リトライ回数］および［リトライ間隔］も同様に変更されます。 📖 P.206 「インターネットファクス設定」

	項目名	機能説明
11	メール分割	スキャンしたファイルをEメールに添付して送信する際、Eメールを分割して送信するかどうかを選択し、分割送信する場合は分割方法を設定します。 • **分割なし**：メールを分割せずに送信します。 • **サイズ分割**：［分割サイズ］から選択したサイズにメールを分割して送信します。分割されたメールは受信側で1つのメールに結合されます。 • **ページ分割**：［分割サイズ］で指定したサイズを上限に添付ファイルをページ単位に分割して、メールを送信します。受信者は、分割された添付ファイルを含んだ複数のメールを受信します。各メールの件名末尾には「分割番号/総数」が付き、添付ファイル名の末尾には「分割番号」が付きます。分割されたすべてのメールには、同じ本文メッセージが記載されます。 **注 意** XPS、DOCX、XLSX、PPTX形式のファイルを添付したメールは分割できません。
12	件名（初期値）	Eメールの件名を工場出荷時の設定にするか任意の件名を設定するか選択します。 • **工場出荷設定**：件名を工場出荷時の設定にします。 • **<入力ボックス>**：任意の件名を入力します。
13	件名日付設定	Eメールの件名に日時を付加するか選択します。ここでの設定が初期値となります。 • **有効**：件名に日時を付加します。 • **無効**：件名に日時を付加しません。
14	件名変更	Eメールの件名を編集可能にするか選択します。 • **有効**：ユーザーがEメールの件名を編集することができます。 • **無効**：ユーザーはEメールの件名を編集できません。
15	本文（初期値）	タッチパネル画面からユーザーがEメール送信操作を実行するときに、［本文］ボックスに自動的に入力される標準の本文を設定します。この本文は、ユーザーがEメール送信操作を行うときに、自由に変更することができます。
16	本文送信	本文を送信するかしないかを選択します。
17	BCC送信アドレス表示（ジョブログ、ジョブ状況）	スキャンログ、スキャンジョブに表示されるBCC送信の宛先の表示方法を設定します。 • **ON**：BCC送信の宛先を表示しないで、代わりに［Bcc宛先］と表示します。 • **OFF**：Bcc送信の宛先を表示します。
18	Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します	送信者のアドレスを変更できないようにする場合は選択します。

□ URL送信設定

スキャンした画像をEメールで送信する際、ファイルを添付せず、ファイルの保存場所のURLを送信するかを設定します。

	項目名	機能説明
1	URL送信	スキャンデータの保存場所をURLで送信する機能を使うかを設定します。 • **有効**：保存場所をURLで送信します。 • **無効**：ファイルを添付して送信します。 補 足 • スキャンデータはMFPローカルに保存されます。 • URLで送信する場合、Eメールには、保存場所へのリンクおよび保存期間が記載されます。
2	添付ファイルからURLへの切り替えサイズ（1-100）	ファイルを添付する最大サイズを設定します。1MBから100MBまで設定できます。ファイルの大きさにかかわらず、ファイルの保存場所をURLで送信する場合は、［常にURLで送信］を選択します。最大サイズを設定すると、設定されたサイズ以下のファイルは、Eメールに添付して送信します。設定されたサイズより大きいファイルは、保存場所をURLで送信します。
3	ダウンロードファイル保存期間	URLで送信したファイルの保存期間を設定します。保存期間に制限を設けない場合は、［無制限］を選択します。定期的に自動削除する場合は、削除するまでの期間を設定してください。 補 足 MFPローカルがいっぱいで保存できない場合はエラーになります。定期的に保存されたファイルを削除してください。手動で削除する場合は、共有フォルダー内のすべてのスキャンデータが削除されます。 📖 P.295 「ファイル削除」
4	期限切れダウンロードファイルの検索間隔	保存期間の期限切れを確認する間隔を設定します。

	項目名	機能説明
5	URLで送信するホスト名のフォーマット	ホスト名のフォーマットを選択します。 • **IPアドレス**：本機に設定されているIPアドレスを使用します。 • **ホスト名（FQDN）**：本機に設定されているホスト名とドメイン名を組み合わせたFQDNを使用します。 • **NetBIOS名**：本機に設定されているNetBIOS名を使用します。 **注 意** • ［ホスト名（FQDN）］を選択する場合は、DDNSのドメイン名を設定してください。DDNSのドメイン名が設定されていない場合、ホスト名のフォーマットはIPアドレスが使用されます。また、コンピューターからURLに接続できるようにするため、本機のFQDNはDNSサーバーで名前解決してください。 📖 P.127 「DDNS」 • ［NetBIOS名］は本機に設定されているNetBIOS名（SMBの［NetBIOS名］）を指します。SMBの［SMBサーバープロトコル］が［無効］の場合、ホスト名のフォーマットはIPアドレスが使用されます。 📖 P.145 「SMBの設定」

■ インターネットファクス設定

インターネットファクス設定をセットアップすることができます。この設定では、インターネットファクス操作に必要な設定を行います。

補 足

［インターネットファクス］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

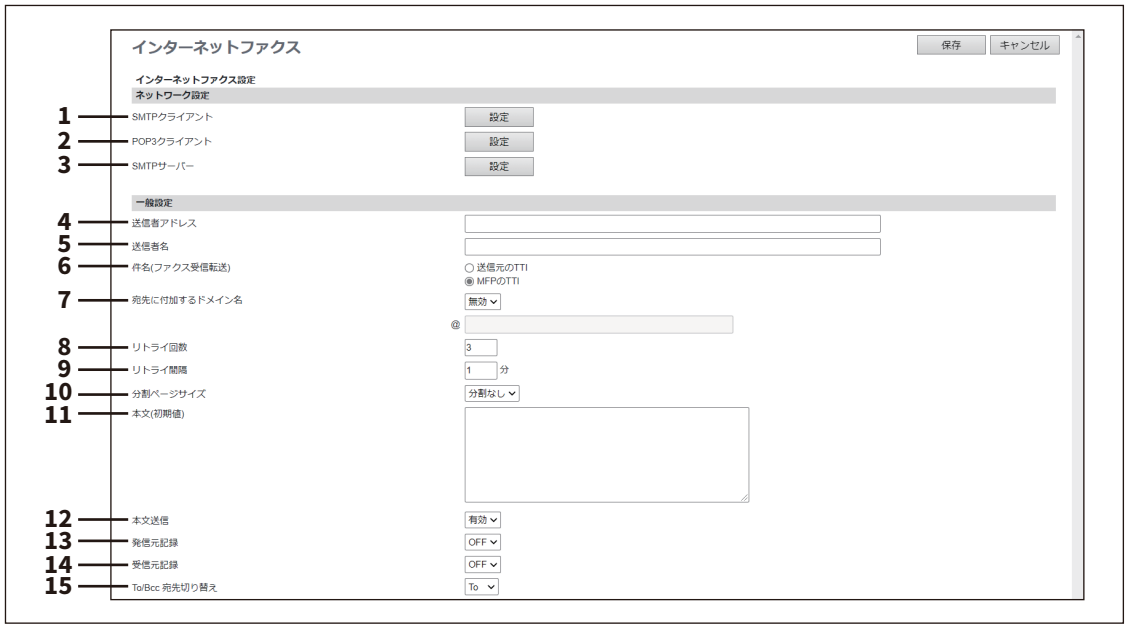
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

□ インターネットファクス設定

インターネットファクスに適用する送信者アドレス、送信者名、分割ページサイズ、初期値として設定される本文、および本文を送信するかどうかを設定します。



	項目名	機能説明
1	SMTPクライアント	インターネットファクスのSMTP送信を設定します。 **補 足** SMTPクライアントの設定については、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.158 「SMTPクライアントの設定」
2	POP3クライアント	インターネットファクス印刷ジョブを受信するPOP3サーバーを設定します。 **補 足** POP3クライアントの設定については、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.161 「POP3クライアントの設定」

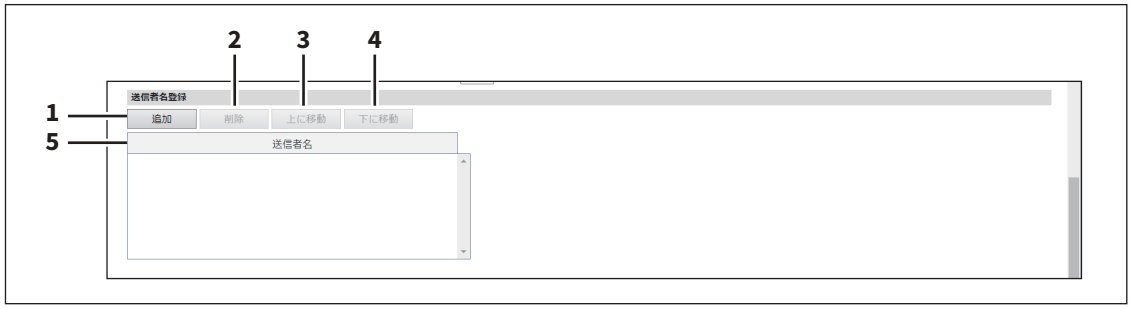
	項目名	機能説明
3	SMTP サーバー	インターネットファクスのSMTP受信を設定します。 補 足 SMTP サーバーの設定については、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.152 「SMTPサーバーの設定」
4	送信者アドレス	本機のEメールアドレスを入力します。 注 意 インターネットファクス送信を有効にするには、［送信者アドレス］を入力する必要があります。ただし、内部認証以外のユーザー管理設定が有効になっている場合は、本機にログインしたユーザーの送信者アドレスが自動的に設定されます。ユーザー管理設定の詳細については、以下の説明を参照してください。 📖 P.73 「［ユーザー管理］」
5	送信者名	本機の名前を入力します。
6	件名（ファクス受信転送）	ファクス受信転送時に件名として使用するTTIを選択します。
7	宛先に付加するドメイン名	宛先を入力中に、ドメイン名を自動的に付加するかを設定します。 **有効**：付加します。 **無効**：付加しません。 テキストボックスに、付加するドメイン名を入力してください。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。
8	リトライ回数	インターネットへのインターネットファクス送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す回数を入力します。初期値は「3回」に設定されています。
9	リトライ間隔	インターネットへのインターネットファクス送信が正常に完了できなかった場合に、再送信を試す間隔を分単位で入力します。初期値は「1分」に設定されています。 注 意 ［リトライ回数］および［リトライ間隔］の設定を変更した場合、Eメール設定の［リトライ回数］および［リトライ間隔］も同様に変更されます。 📖 P.199 「Eメール設定」
10	分割ページサイズ	メッセージの分割サイズを選択します。
11	本文（初期値）	タッチパネル画面からユーザーがインターネットファクス操作を実行するときに、［本文］ボックスに自動的に入力される標準の本文を設定します。この本文は、ユーザーがインターネットファクス操作を行うときに、目的の本文に変更することができます。 注 意 インターネットファクスの送信および受信に日本向け弊社複合機が使われる場合、本文は印刷されません。
12	本文送信	本文を送信するかしないかを選択します。
13	発信元記録	ヘッダー部分に発信元情報を付加するかどうかを設定します。
14	受信元記録	フッター部分に送信元情報を付加するかどうかを設定します。

	項目名	機能説明
15	To/Bcc宛先切り替え	インターネットファクスの宛先をToのみまたはBccのみで送信します。 **注 意** 宛先をBccに設定した場合、Toが空欄になります。メールサーバー、メーラー、セキュリティソフトの設定によっては、迷惑メールとして処理されることがありますので、迷惑メールの設定をご確認ください。

□ 送信者名登録

ファクスの送信者名を20件まで登録できます。登録した送信者名は、テンプレートでインターネットファクスやファクス設定を保存する際に選択できます。

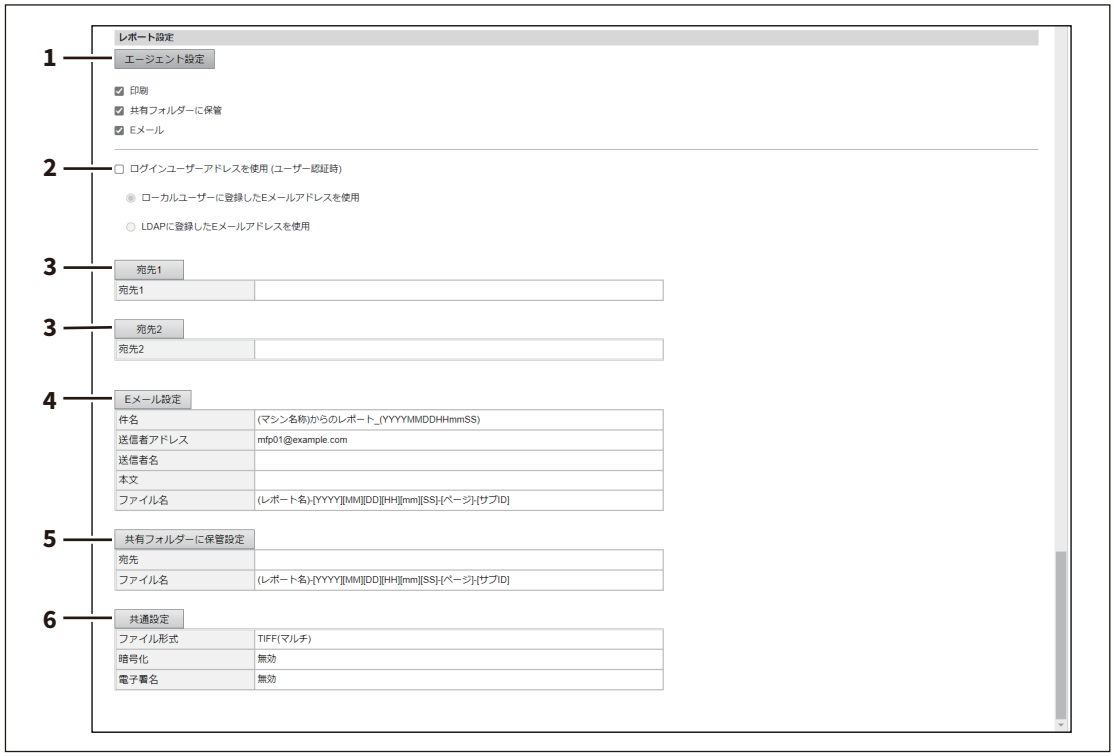
📖 P.323 「インターネットファクス設定」
📖 P.324 「ファクス設定」



	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	新しいファクス送信者名を登録します。入力ウィンドウが表示されたら、名前には全角10文字、半角20文字まで入力できます。［保存］をクリックして名前を登録します。設定操作を中止するには、［キャンセル］をクリックしてウィンドウを閉じます。
2	［削除］ボタン	リストで選択した名前を削除します。
3	［上に移動］	リストで選択した名前を上に移動します。
4	［下に移動］	リストで選択した名前を下へ移動します。
5	送信者名	登録した送信者名をリストに表示します。リストを上下にスクロールして名前を20件まで確認できます。

□ レポート設定

インターネットファクスの結果レポートをどのようにするか選択します。



	項目名	機能説明
1	エージェント設定	以下の項目を選択して［エージェント設定］をクリックすると、詳細な設定ができます。 **印刷**：印刷します。［エージェント設定］での設定はありません。 **共有フォルダーに保管**：ファイルに保存します。［エージェント設定］をクリックすると、［共有フォルダーに保管設定］と［共通設定］が設定できます。 **Eメール**：メールで送信します。［エージェント設定］をクリックすると、宛先設定と［Eメール設定］、［共通設定］が設定できます。
2	ログインユーザーアドレスを使用（ユーザー認証時）	ユーザー認証時にログインユーザーのEメールアドレスをEメール送信の宛先に使用するかどうかを設定します。チェックすると、以下の項目を設定できます。 **ローカルユーザーに登録したEメールアドレスを使用**：内部認証のユーザーに設定されたEメールアドレスを、Eメール送信の宛先に使用します。 **LDAPに登録したEメールアドレスを使用**：LDAPクライアントに登録されたサーバーのEメールアドレスを、Eメール送信の宛先に使用します。［サーバー割り当て］をクリックし、最大4つのLDAPサーバーを割り当てます。 📖 P.154 「LDAPクライアントの設定」
3	［宛先1］/［宛先2］ボタン	レポート設定で［Eメール］を選択して［エージェント設定］ボタンをクリックしたときに有効になります。 クリックすると宛先リストが表示され、宛先を設定できます。 📖 P.317 「宛先設定」

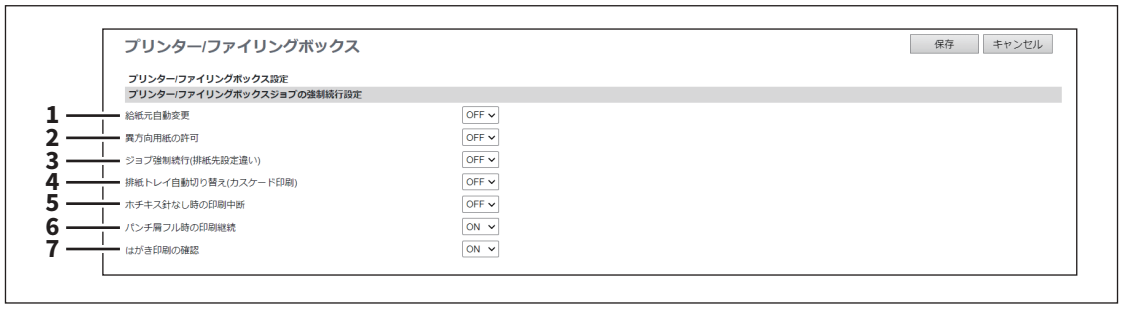
	項目名	機能説明
4	［Eメール設定］ボタン	レポート設定で［Eメール］を選択して［エージェント設定］ボタンをクリックしたときに有効になります。 クリックするとEメール設定に関するエージェント設定のページで、以下の項目を設定できます。 • 件名 • 送信者アドレス • 送信者名 • 本文 • ファイル名 📖 P.326 「Eメール設定」
5	［共有フォルダーに保管設定］ボタン	レポート設定で［共有フォルダーに保管］を選択して［エージェント設定］ボタンをクリックしたときに有効になります。 クリックすると共有フォルダーに保管設定に関するエージェント設定のページで、以下の項目を設定できます。 • 宛先 • ファイル名 📖 P.330 「共有フォルダーに保管設定」
6	［共通設定］ボタン	レポート設定で［Eメール］または［共有フォルダーに保管］を選択して［エージェント設定］ボタンをクリックしたときに有効になります。 エージェント設定のページで、以下の項目を設定できます。 • ファイル形式 • 暗号化 • 電子署名 📖 P.326 「Eメール設定」 📖 P.330 「共有フォルダーに保管設定」

■ プリンター /ファイリングボックス設定

補 足

［プリンター /ファイリングボックス］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

□ プリンター /ファイリングボックスジョブの強制続行設定



	項目名	機能説明
1	給紙元自動変更	原稿サイズと給紙元の用紙サイズが異なった場合に、自動的に原稿サイズに合わせて給紙元を変更するかどうか設定します。 • **ON**：給紙元を変更してジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
2	異方向用紙の許可 *1	原稿の向きと給紙元の用紙の向きが異なった場合に、異なる方向の用紙にコピーするかどうか設定します。 • **ON**：異方向の用紙へのコピーを許可してジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
3	ジョブ強制続行（排紙先設定違い）*1	排紙先の指定が間違っている場合に、ジョブを強制的に続行するかどうか設定します。 • **ON**：指定の排紙先に印刷します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
4	排紙トレイ自動切替（カスケード印刷）*1	自動的に排紙トレイを切り替えるかどうか設定します。 • **ON**：排紙トレイを自動的に切り替えてジョブを続行します。 • **OFF**：ジョブを停止します。
5	ホチキス針なし時の印刷中断 *1	ステイプルの針がなくなったときに印刷を中断するかどうか設定します。 • **ON**：ステイプルの針がなくなったときは印刷を中断します。 • **OFF**：ステイプルの針がなくなったときでも印刷を中断しません。
6	パンチ屑フル時の印刷継続 *1	パンチ屑がフルになったとき印刷を継続するかどうか設定します。 • **ON**：パンチ屑がフルになったときでも印刷を継続します。 • **OFF**：パンチ屑がフルになったときは印刷を中断します。
7	はがき印刷の確認	はがきサイズと普通紙が選択されている場合に、印刷ジョブを中断して確認メッセージを表示するかどうかを設定します。不適切な設定の組み合わせを低減できます。 • **ON**：印刷を中断して確認メッセージを表示しますので、そのまま印刷を継続するか、用紙タイプを変更して印刷を再開できます。 • **OFF**：確認メッセージを表示せず、そのまま印刷します。

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

■ プリンター設定

プリンターの動作方法とRaw印刷ジョブに適応するプリンターオプションを設定することができます。

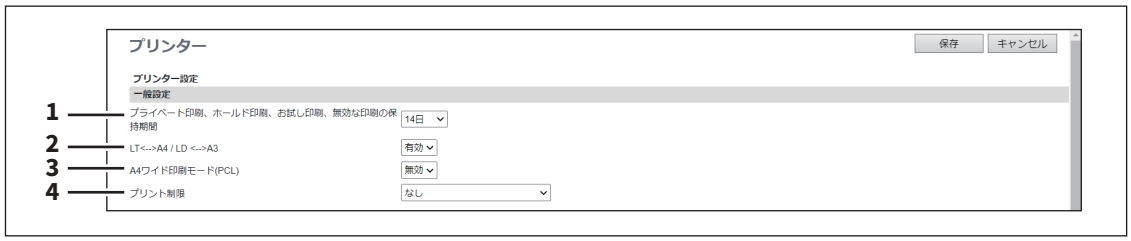
補 足

［プリンター］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

□ 一般設定

印刷ジョブをキューに保存する日数など、プリンター関連の機能を設定します。



	項目名	機能説明
1	プライベート印刷、ホールド印刷、お試し印刷、無効な印刷の保持期間	プライベート印刷、ホールド印刷およびお試し印刷ジョブをどのくらいの期間保存するか選択します。期間は、1～12時間または1～30日の範囲で選択できます。また、［無期限］を選択し、キューにあるジョブを手動で削除するまで保存することもできます。初期値は「14日」に設定されています。
2	LT<-->A4/LD<-->A3 *1	印刷ジョブに設定された用紙サイズがセットされていない場合に、自動的に異なる用紙に印刷するか選択します。［有効］を選択した場合、たとえば、レターサイズに設定された印刷ジョブをA4用紙に印刷することができます。［無効］を選択した場合は、印刷ジョブに設定されているサイズと同じサイズの用紙をカセットにセットするようメッセージが表示されます。初期値は「有効」に設定されています。
3	A4ワイド印刷モード（PCL）	PCLの印刷ジョブをA4用紙に印刷する場合、印刷範囲の横幅を広くするかを選択します。［有効］を選択した場合、用紙向きが縦で約3.5 mm、横で約1.5 mm印刷範囲の横幅が広がり、1行あたりに印刷される内容を増やすことができます。初期値は「無効」に設定されています。 **注 意** この項目は、一部の機種のみ使用できます。
4	プリント制限	印刷ジョブに応じて、印刷を制限するか選択します。 • **なし**：すべてのデータを印刷します。 • **プライベート印刷限定**：プライベート印刷された印刷ジョブのみ印刷します。 • **ホールド印刷限定**：ホールド印刷された印刷ジョブのみ印刷します。 • **プライベート/ホールド印刷限定**：プライベート印刷またはホールド印刷された印刷ジョブのみ印刷します。

＊1　お使いの機種によっては、［LD <--> A3］機能は利用できません。

□ ダイレクト印刷初期値設定

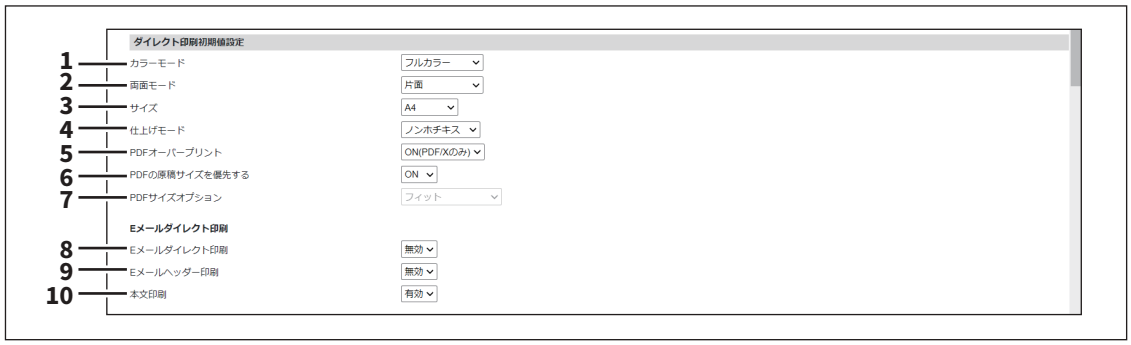
USBダイレクト印刷およびEメールダイレクト印刷での初期値を設定します。

注 意

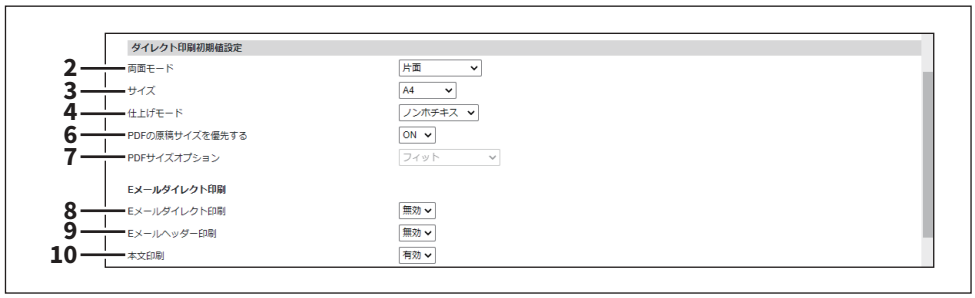
ファイルの種類によっては、印刷結果に反映されない印刷設定があります。

- ［両面モード］および［仕上げモード］は、Eメールダイレクト印刷には無効です。
- ［PDFオーバープリント］、［PDFの原稿サイズを優先する］、［PDFサイズオプション］は、PDFの印刷にのみ有効です。
- ［Eメールヘッダー印刷］および［本文印刷］は、Eメールダイレクト印刷にのみ有効です。
- 暗号化PDF（セキュアPDF）が添付されたEメールは、Eメールダイレクト印刷機能で印刷できません。

カラー機



モノクロ機



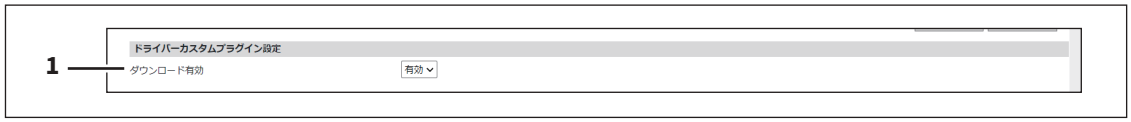
	項目名	機能説明
1	カラーモード	ダイレクト印刷時のカラーモードの初期値を選択します。カラー機でのみ選択できます。 • **自動カラー選択**：自動カラー選択で印刷します。 • **フルカラー**：フルカラーで印刷します。 • **白黒**：モノクロで印刷します。
2	両面モード	用紙の片面をダイレクト印刷するか、両面をダイレクト印刷するかの初期値を選択します。自動原稿送り装置が装着されている場合のみ、使用できます。 • **片面**：片面を印刷します。 • **両面（左／右とじ）**：両面左右開きで印刷します。 • **両面（上／下とじ）**：両面上下開きで印刷します。
3	サイズ	ダイレクト印刷時の用紙サイズの初期値を選択します。
4	仕上げモード *1	印刷した用紙をステイプル留めするかどうかの初期値を選択します。 • **ノンホチキス**：用紙をステイプル留めしません。 • **ホチキス（左上）**：用紙の左上をステイプルで留めます。 • **ホチキス（右上）**：用紙の右上をステイプルで留めます。

	項目名	機能説明
5	PDFオーバープリント	PDFファイル内のカラーをオーバープリントするかどうかの初期値を選択します。 • **OFF**：オーバープリント印刷しません。 • **ON**：オーバープリント印刷します。 • **ON（PDF/Xのみ）**：PDF/Xファイルのみオーバープリント印刷します。
6	PDFの原稿サイズを優先する	PDFの原稿サイズを優先するかどうかの初期値を選択します。 • **OFF**：原稿サイズより、選択した用紙サイズを優先して印刷します。 • **ON**：選択した用紙サイズより、原稿サイズを優先して拡大・縮小せずに印刷します。
7	PDFサイズオプション	［PDFの原稿サイズを優先する］を［OFF］に設定した場合に、PDFファイルをどのように印刷するかの初期値を選択します。 • **フィット**：原稿サイズを用紙サイズに合わせて、拡大または縮小して印刷します。 • **大きいサイズを縮小**：原稿サイズが用紙サイズより大きい場合は、縮小して印刷します。原稿サイズが用紙サイズと同じか小さい場合は、拡大せずに印刷します。
8	Eメールダイレクト印刷	PDF、JPEG、XPSファイルが添付されているEメールを、Eメールダイレクト印刷で印刷するかどうかの初期値を選択します。 • **無効**：Eメールダイレクト印刷を無効にします。 • **自動**：Eメールダイレクト印刷を自動的に処理します。
9	Eメールヘッダー印刷	Eメール印刷ジョブを受信したときに、Eメールヘッダーを印刷するかどうかの初期値を選択します。初期値は「無効」に設定されています。
10	本文印刷	Eメール印刷ジョブを受信したときに、本文を印刷するか選択します。初期値は［有効］に設定されています。

＊1　お使いの機種によっては、この機能は利用できません。

□ ドライバーカスタムプラグイン設定

プリンタードライバー用のカスタムプラグインのダウンロード機能を設定します。



	項目名	機能説明
1	ダウンロード有効	プリンタードライバー用のカスタムプラグインをダウンロードするか、しないかを選択します。 • **有効**：ダウンロード機能を有効にします。 • **無効**：ダウンロード機能を無効にします。

□ Raw印刷ジョブ印刷初期値設定

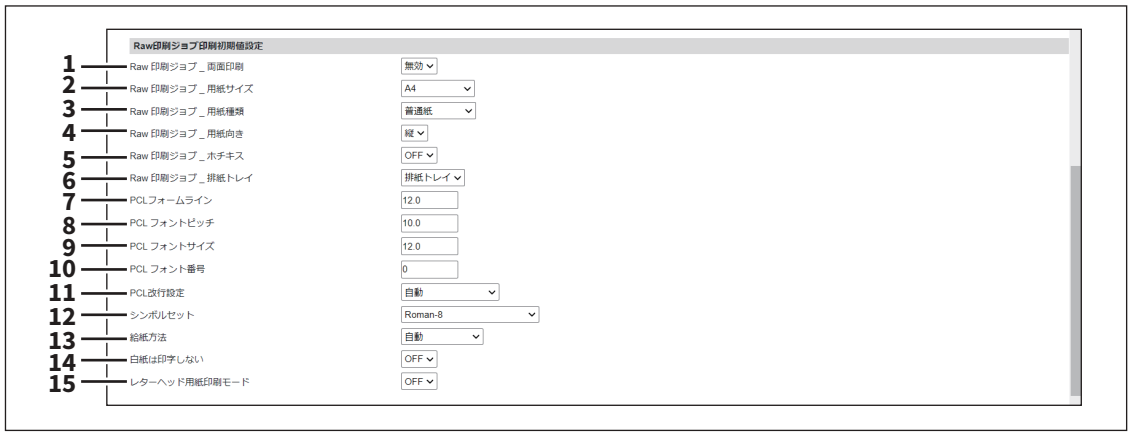
LPRキューが指定されていないRaw印刷ジョブ、または指定したLPRキューが存在しないRaw印刷ジョブに適用される印刷設定を設定します。

注 意

この設定は、一部の機種のみ使用できます。

補 足

Raw印刷ジョブの設定は、LPRキューを追加してLPRキューごとに設定することもできます。
📖 P.216 「RAW印刷ジョブ設定」



	項目名	機能説明
1	Raw印刷ジョブ_両面印刷	Raw印刷ジョブを両面印刷するか選択します。
2	Raw印刷ジョブ_用紙サイズ	Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙サイズを選択します。
3	Raw印刷ジョブ_用紙種類	Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙の種類を選択します。
4	Raw印刷ジョブ_用紙向き	Raw印刷ジョブに適用する標準の印刷の向きを選択します。
5	Raw印刷ジョブ_ホチキス *1	Raw印刷ジョブをステイプル留めするか選択します。
6	Raw印刷ジョブ_排紙トレイ *1	Raw印刷ジョブに適用する標準の排紙トレイを選択します。Novell、UNIX、WindowsなどOSが作成したバナーページもここで指定したトレイに排紙されます。
7	PCLフォームライン	行ピッチのポイントサイズを入力します（12.00の場合、1インチ6行となります）。
8	PCLフォントピッチ	選択したフォント番号が固定ピッチフォントである場合に、フォントピッチを入力します。文字ピッチは1インチあたりのANK文字の数で計算されます。10ピッチタイプは、1インチにANK文字を10文字印刷します。
9	PCLフォントサイズ	選択したフォント番号がプロポーショナルフォントである場合に、フォントサイズを入力します。フォントサイズオプションでは、標準フォントのポイントサイズ（高さ）を決定することができます。
10	PCLフォント番号	印刷を行う際に、標準フォントとして使用する内蔵PCLフォントのフォント番号を入力します。フォント番号および内蔵PCLフォントは、内蔵PCLフォントリストで確認することができます。内蔵PCLフォントについては、以下の参照先をご覧ください。 **本機の仕様 - 本体の仕様 - 内蔵フォント一覧 - 内蔵PCLフォント一覧**
11	PCL改行設定	改行設定を選択します。
12	シンボルセット	Raw印刷ジョブに適用するシンボルセットを選択します。

	項目名	機能説明
13	給紙方法	Raw印刷ジョブに適用する給紙方法を選択します。
14	白紙は印字しない	Raw印刷ジョブに含まれる白紙ページを印字するか選択します。 **注 意** UNIXフィルターやCUPSから印刷する場合には、本設定は反映されません。これらの印刷で白紙ページを印刷したくない場合は、UNIXフィルターのコマンドやCUPSの設定で、白紙ページを印刷しないように設定してください。設定方法については、以下の参照先をご覧ください。 **インストール - プリンタードライバーのインストール（UNIX/Linux）- CUPSの設定 - CUPSによるプリンターの設定** **印刷 - その他の印刷方法 - UNIX/Linux環境から印刷する - 一般的なオプション**
15	レターヘッド用紙印刷モード	合計ページ数が奇数となるRaw印刷ジョブを両面印刷する場合に、最終奇数ページをほかの奇数ページと同じ印字面に印刷するかを選択します。［ON］を選択した場合、最終奇数ページもほかの奇数ページと同じ印字面（うら）に印刷されます。［OFF］を選択した場合は、最終奇数ページは偶数ページと同じ印字面（おもて）に印刷されます。 **注 意** この項目は、一部の機種のみ使用できます。

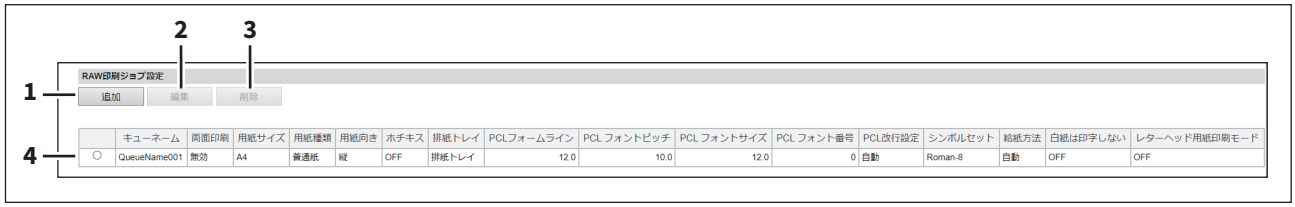
＊1　お使いの機種によっては、この機能は利用できません。

□ RAW印刷ジョブ設定

最大16個のLPRキューを作成し、キューごとにRaw印刷ジョブ設定を指定することができます。これらのキューは、UNIXコンピューターから印刷する場合など、プリンタードライバーを使用せずに印刷する場合に使用します。Raw印刷ジョブでは、LPRキューの追加、変更、削除を行います。

注 意

この設定は、一部の機種のみ使用できます。



	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	LPRキューを追加します。 📖 P.217 「［新規LPRキューの追加］画面」
2	［編集］ボタン	LPRキュー一覧で選択しているLPRキューの内容を編集します。 📖 P.217 「［新規LPRキューの追加］画面」
3	［削除］ボタン	LPRキュー一覧で選択しているLPRキューを削除します。
4	LPRキュー一覧	登録済みのLPRキューの一覧を表示します。

[新規LPRキューの追加] 画面

	項目名	機能説明
1	キューネーム	キュー名を、31文字以下の半角英数字で入力します。キュー名は、大文字・小文字を認識するため、「Queue1」と「queue1」など、大文字・小文字が異なるキュー名も異なるLPRキューとして追加することができます。
2	両面印刷	Raw印刷ジョブを両面印刷するか選択します。
3	用紙サイズ	Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙サイズを選択します。
4	用紙種類	Raw印刷ジョブに適用する標準の用紙の種類を選択します。
5	用紙向き	Raw印刷ジョブに適用する標準の印刷の向きを選択します。
6	ホチキス *1	Raw印刷ジョブをステイプル留めするか選択します。
7	排紙トレイ *1	Raw印刷ジョブに適用する標準の排紙トレイを選択します。Novell、UNIX、WindowsなどOSが作成したバナーページもここで指定したトレイに排紙されます。
8	PCLフォームライン	各ページに印刷する行数を入力します。
9	PCLフォントピッチ	選択したフォント番号が固定ピッチフォントである場合に、フォントピッチを入力します。文字ピッチは1インチあたりのANK文字の数で計算されます。10ピッチタイプは、1インチにANK文字を10文字印刷します。
10	PCLフォントサイズ	選択したフォント番号がプロポーショナルフォントである場合に、フォントサイズを入力します。フォントサイズオプションでは、標準フォントのポイントサイズ（高さ）を決定することができます。
11	PCLフォント番号	印刷を行う際に、標準フォントとして使用する内蔵PCLフォントのフォント番号を入力します。フォント番号および内蔵PCLフォントは、内蔵PCLフォントリストで確認することができます。内蔵PCLフォントについては、以下の参照先をご覧ください。 **本機の仕様 - 本体の仕様 - 内蔵フォント一覧 - 内蔵PCLフォント一覧**
12	PCL改行設定	改行設定を選択します。
13	シンボルセット	Raw印刷ジョブに適用するシンボルセットを選択します。
14	給紙方法	Raw印刷ジョブに適用する給紙方法を選択します。

	項目名	機能説明
15	白紙は印字しない	Raw印刷ジョブに含まれる白紙ページを印字するか選択します。 **注 意** UNIXフィルターやCUPSから印刷する場合には、本設定は反映されません。これらの印刷で白紙ページを印刷したくない場合は、UNIXフィルターのコマンドやCUPSの設定で、白紙ページを印刷しないように設定してください。設定方法については、以下の参照先をご覧ください。 **インストール - プリンタードライバーのインストール（UNIX/Linux）- CUPSの設定 - CUPSによるプリンターの設定** **印刷 - その他の印刷方法 - UNIX/Linux環境から印刷する - 一般的なオプション**
16	レターヘッド用紙印刷モード	合計ページ数が奇数となるRaw印刷ジョブを両面印刷する場合に、最終奇数ページをほかの奇数ページと同じ印字面に印刷するかを選択します。［ON］を選択した場合、最終奇数ページもほかの奇数ページと同じ印字面（うら）に印刷されます。［OFF］を選択した場合は、最終奇数ページは偶数ページと同じ印字面（おもて）に印刷されます。 **注 意** この項目は、一部の機種のみ使用できます。

＊1　お使いの機種によっては、この機能は利用できません。

■ プリントサービス設定

Raw TCP印刷、LPD印刷、IPP印刷、FTP印刷、NetWare印刷、Eメール印刷やマルチステーション印刷などの印刷サービスを設定します。

補 足

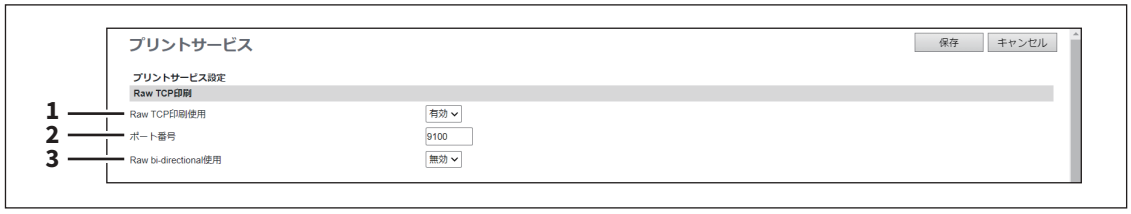
［プリントサービス］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

注 意

設定を変更しても、設定した内容がすぐに本体タッチパネルに反映されないことがあります。設定を変更した場合は、操作パネルの［リセット］ボタンを押すか、オートクリアされると反映されます。

□ Raw TCP印刷の設定

Raw TCP印刷では、Raw TCP印刷サービスを有効／無効およびRaw TCP印刷用のLPDポート番号を設定します。

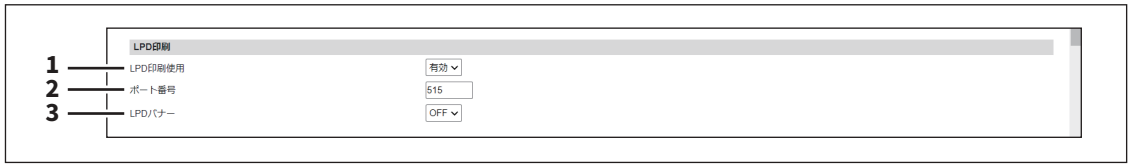


	項目名	機能説明
1	Raw TCP印刷使用	Raw TCP印刷サービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。

	項目名	機能説明
2	ポート番号	Raw TCP印刷に使用するポート番号を入力します。1024から32767までの値を入力できます。通常は、初期値の「9100」を使用します。 **注 意** HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL/TLS有効時はSSL/TLSポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。
3	Raw bi-directional使用	Raw双方向通信の有効／無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。 **注 意** この項目は、一部の機種のみ使用できます。

□ LPD印刷の設定

ユーザーにLPR印刷を許可する場合は、LPD印刷を設定しLPD/LPR印刷サービスを有効にする必要があります。



	項目名	機能説明
1	LPD印刷使用	LPD印刷サービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	ポート番号	LPR印刷に使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「515」を使用します。 **注 意** HTTP設定のセカンダリポート番号（HTTPのSSL/TLS有効時はSSL/TLSポート番号）と同じポート番号を指定すると、TopAccessやファイリングボックスWebユーティリティにアクセスできなくなります。誤って設定してしまった場合は、本機の操作パネルからHTTP設定を変更し、正しいポート番号を設定してください。
3	LPDバナー	LPR印刷で印刷するジョブごとにバナーページ（ヘッダーページ）を印刷するか選択します。初期値は［OFF］に設定されています。 **注 意** この項目は、一部の機種のみ使用できます。

□ IPP印刷の設定

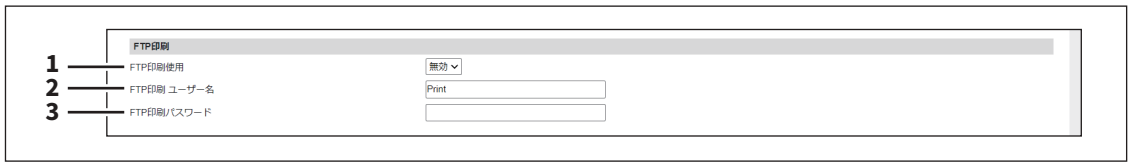
ユーザーにIPP印刷を許可する場合は、IPP印刷を設定しIPP印刷サービスを有効にする必要があります。

	項目名	機能説明
1	IPP印刷使用	IPP印刷サービスの有効／無効を選択します。初期値は［有効］に設定されています。
2	IPPポート80使用	IPP印刷にポート80を有効にするか選択します。通常、ポート631がIPPアクセスに使用されるので、各ユーザーはURLにIPPポートを指定する必要があります（例：http://<IPアドレスまたはDNS名>:631/Print）。このオプションを有効にすると、HTTPアクセスの標準ポートであるポート80を介してのIPPアクセスが許可され、IPPポートのポート番号を指定する必要がなくなります（例：http://<IPアドレスまたはDNS名>/Print）。初期値は［無効］に設定されています。
3	ポート番号	IPP印刷に使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「631」を使用します。 **注 意** 以下の設定と同じポート番号は使用できません。 該当するポート番号を変更した後に、ポート番号を設定してください。 • HTTP/プライマリポート番号 • HTTP/セカンダリポート番号 • HTTP/SSL/TLSポート番号
4	URL	IPP印刷用のURLが表示されます。IPP印刷用のURLを変更することはできません。ユーザーはプリンタードライバーでIPP印刷をセットアップする際に、このURLを印刷ポートとして設定します。
5	SSL/TLS使用	SSL/TLSを使用してIPP印刷を行うかどうかを設定します。初期値は［有効］に設定されています。 **補 足** • SSL/TLSを有効にした場合、SSL/TLSを利用したIPP印刷ポートを利用することができるようになります。SSL/TLSを利用したIPP印刷ポートを利用する場合は、以下のURLをIPP印刷ポートとして使用します。 https://<IPアドレス>:<SSL/TLSポート番号>/Print 例：https://192.168.53.204:631/Print • SSL/TLSを使用するには、サーバーのOSがSSL/TLSをサポートしている必要があります。

	項目名	機能説明
6	SSL/TLSポート番号	SSL/TLSを有効にした場合に使用するポート番号を入力します。1から65535までの値を入力できます。通常は、初期値の「631」を使用します。 注 意 以下の設定と同じポート番号は使用できません。 該当するポート番号を変更した後に、SSL/TLSポート番号を設定してください。 • HTTP/プライマリポート番号 • HTTP/セカンダリポート番号 • HTTP/SSL/TLSポート番号
7	SSL/TLS URL	SSL/TLSを使用したIPP印刷用のURLが表示されます。IPP印刷用のURLを変更することはできません。ユーザーはプリンタードライバーでIPP印刷をセットアップする際に、このURLを印刷ポートとして設定します。
8	プリンター名	IPP印刷するプリンター名称を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で127文字まで入力できます。初期値は「MFP名称」に設定されています。
9	認証	コンピューターにキューを作成する際に認証を行うかどうかを設定します。認証を有効にすると、IPP印刷ポートの作成時にユーザー名とパスワードの要求を行います。 • **無効**：認証を無効にします。 • **Basic**：認証を有効にします。 注 意 macOSプリンタードライバー（PPD）からIPP印刷を行う場合は、認証は無効に設定してください。macOSプリンタードライバー（PPD）では、Basic認証はサポートされていません。
10	ユーザー名	認証が有効な場合に、認証に使用するユーザー名を入力します。ユーザーは、IPPキューを作成時にこのユーザー名を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥ @を除く）で127文字まで入力できます。
11	パスワード	認証に使用するパスワードを入力します。ユーザーは、IPPキューを作成時にこのパスワードを入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で127文字まで入力できます。初期値は「password」に設定されています。

□ FTP印刷の設定

ユーザーにFTP印刷を許可する場合は、FTP印刷サービスを有効にする必要があります。



	項目名	機能説明
1	FTP印刷使用	FTP印刷サービスの有効／無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。
2	FTP印刷ユーザー名	FTP印刷を実行するユーザーにログインユーザー名を要求する場合は、ユーザー名を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で31文字まで入力できます。このボックスを空欄にした場合は、デフォルトの「Print」がユーザー名として使用されます。
3	FTP印刷パスワード	FTP印刷を実行するユーザーにログインパスワードを要求する場合は、パスワードを入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で31文字まで入力できます。

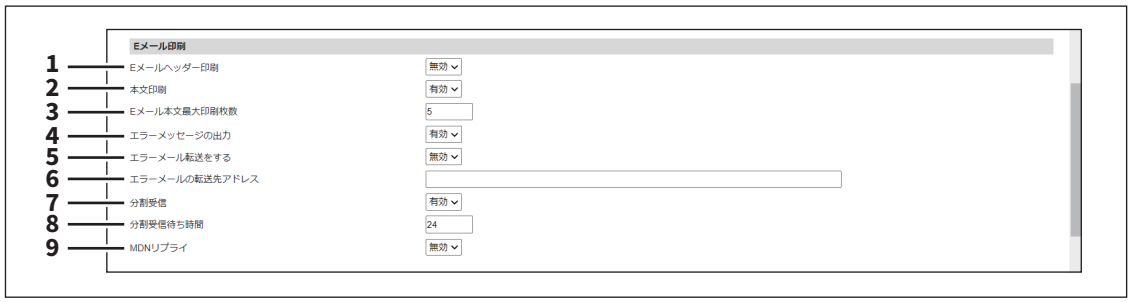
□ NetWare印刷の設定

ユーザーにNovell印刷を許可する場合は、NetWare印刷を設定しNovell印刷サービスを有効にする必要があります。

	項目名	機能説明
1	プリントサーバー名	NetWareファイルサーバーに作成したプリントサーバー名を入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で47文字まで入力できます。初期値は「MFP名称」に設定されています。
2	パスワード	必要に応じて、プリントサーバーに設定されたパスワードを入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で31文字まで入力できます。
3	印刷キューポーリングレート	プリントキューをどのくらいの頻度でスキャンするかを設定します。1から255の範囲で、秒単位で指定します。初期値は「30」に設定されています。

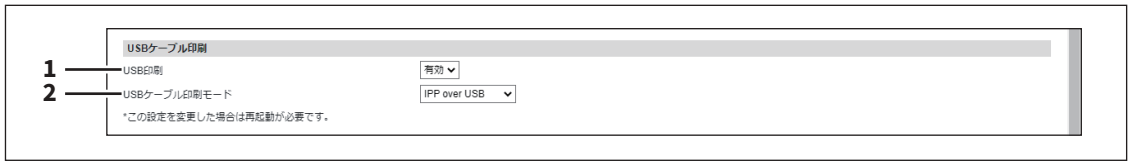
□ Eメール印刷の設定

受信したEメールの印刷方法を設定します。



	項目名	機能説明
1	Eメールヘッダー印刷	Eメール印刷ジョブを受信したときに、Eメールヘッダーを印刷するか選択します。初期値は「無効」に設定されています。
2	本文印刷	Eメール印刷ジョブを受信したときに、本文を印刷するか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
3	Eメール本文最大印刷枚数	Eメール印刷ジョブの本文を、最大何ページまで印刷するかを1から99の範囲で入力します。初期値は「5」に設定されています。
4	エラーメッセージの出力	Eメール印刷を正常に終了できなかったときに、エラーメッセージを記載したレポートを印刷するか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
5	エラーメール転送をする	Eメール印刷を正常に終了できなかったときに、エラーメッセージを指定したEメールアドレスに送信するか選択します。初期値は［無効］に設定されています。
6	エラーメールの転送先アドレス	［エラーメール転送をする］を有効にした場合に、エラーメッセージが送信されるEメールアドレスを入力します。半角英数字と記号（= ; # ¥ を除く）で192文字まで入力できます。
7	分割受信	分割して送信されてきたEメールジョブを印刷するか選択します。初期値は［有効］に設定されています。
8	分割受信待ち時間	分割して送信されてきたEメールジョブを本機が印刷するまでの待ち時間を入力します。1～168時間の範囲で設定します。初期値は「24」に設定されています。
9	MDNリプライ	開封確認メッセージを要求されたEメール印刷ジョブを受信した場合に、開封確認メッセージを返信するかどうかを選択します。初期値は［無効］に設定されています。

□ USBケーブル印刷の設定



	項目名	機能説明
1	USB印刷	USBケーブル印刷の有効／無効を設定します。
2	USBケーブル印刷モード	USB接続による印刷で使用するモードを選択します。 **IPP over USB**：通常はこのモードを使用します。 **USB（互換性優先）**：弊社複合機をすでにお使いの場合で、導入済みの複合機との互換性を優先する場合に使用します。

□ マルチステーション印刷の設定

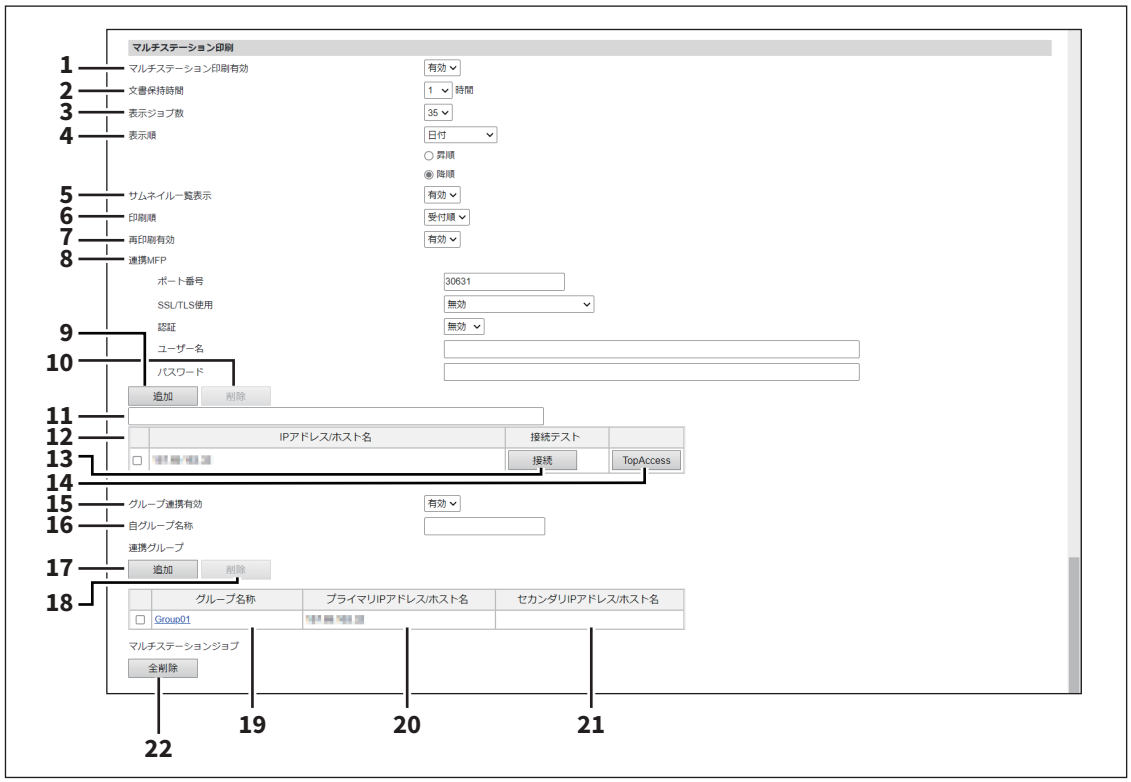
設定の流れについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.401 「マルチステーション印刷の設定」

注 意

- マルチステーション印刷機能を使用するには、マルチステーション印刷オプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。
- ［MFP連携］＞［マルチステーション印刷］で［共通設定から選択］を選択している場合、この画面でMFPの登録や削除はできません。
  📖 P.236 「マルチステーション印刷」

補 足

- 1台のMFPに接続されるコンピューターは30台までのネットワーク環境でお使いください。
- 1つのグループで最大10台のMFPを連係し、自機が属すグループを含めて合計5つのグループまで連係できます（4つのグループを追加して連係できます）。



	項目名	機能説明
1	マルチステーション印刷有効	共有印刷サービス（マルチステーション印刷）の有効／無効を設定します。
2	文書保持時間	印刷ドキュメントの保持時間を設定します。
3	表示ジョブ数	表示するジョブの数を設定します。
4	表示順	表示順を設定します。

	項目名	機能説明
5	サムネイル一覧表示	操作パネル上の文書一覧でマルチステーション印刷ファイルのサムネイル画像を表示するかしないかを選択します。PDFとJPEGファイルはサムネイル画像を、その他の形式のファイルは所定のアイコンを表示します。 注 意 サムネイルはファイルのイメージ図を表します。画像の一部がカットされたり余白が増やされたりして、オリジナルと異なる場合があります。
6	印刷順	印刷順を設定します。 補 足 印刷順で［表示順］を選択すると、項目4の［表示順］の設定に従って印刷されます。
7	再印刷有効	再印刷の有効／無効を設定します。
8	連携MFP	マルチステーション印刷を行うには、以下を設定します。 • **ポート番号**：ポート番号を設定します。 • **SSL/TLS使用**：SSL/TLSを使用してマルチステーション印刷を行うかどうかを設定します。 - **無効**：SSL/TLSを使用しません。 - **登録されたCA証明書を使用する**：連係にはCA証明書を使用します。各MFPの証明書をエクスポートしてすべてのMFPにインポートする必要があります。 - **すべての証明書を受け入れる**：CA認証を必要とせず、すべての証明書を受け入れます。各MFPの証明書をインポートする必要がありません。 • **認証**：認証として［無効］または［Basic］を選択します。初期値は［無効］に設定されています。 • **ユーザー名**：ユーザー名を設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥ @を除く）で127文字まで入力できます。 • **パスワード**：ユーザーのパスワードを設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で127文字まで入力できます。 注 意 すべてのMFPで同じ設定にしないと、連係できません。 補 足 ［認証］が［無効］の場合でもマルチステーション印刷機能は利用できますが、他機との連携はしません（ジョブリストの共有はしません）。
9	［追加］ボタン	接続機器を登録します。
10	［削除］ボタン	選択した接続機器を削除します。
11	連携MFP入力欄	登録するMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力します。 補 足 ［連係MFP］リストに複数のアドレスを登録した状態でユーザー認証を無効にした場合は、［連係MFP］の設定は表示されません。
12	IPアドレス／ホスト名	登録したMFPのIPアドレスまたはホスト名を表示します。

	項目名	機能説明
13	［接続］ボタン	設定したMFPの接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。 **注 意** ［接続］ボタンでMFPの接続テストをする前に、マルチステーション印刷の設定を［保存］ボタンで保存してください。
14	［TopAccess］ボタン	TopAccessを起動します。
15	グループ連携有効	MFPのグループ連携を有効/無効を設定します。初期値は「無効」に設定されています。
16	自グループ名称	自機が属すグループの名称を設定します。最大12文字まで入力できます。 **注 意** すべてのグループが各グループの同じ名前を共有しないと、連係できません。
17	［追加］ボタン	連係するグループをリストに追加します。このボタンをクリックすると、［連携グループ情報の追加］画面が表示されます。以下を設定して、［保存］をクリックして設定を保存します。リストに追加されたグループ名称をクリックすると、連係グループ情報を編集できます。 • **グループ名称**：連係するグループ名を入力します。最大12文字まで入力できます。 • **プライマリIPアドレス／ホスト名**：連係グループ内の第1（プライマリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を入力します。最大256文字まで入力できます。ここで指定したプライマリ機に最初にアクセスして、ジョブリストを取得します。 • **セカンダリIPアドレス／ホスト名**：連係グループ内の第2（セカンダリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を入力します。最大256文字まで入力できます。上記プライマリ機にアクセスできなかった場合、次にここで指定したセカンダリ機にアクセスして、ジョブリストを取得します。
18	［削除］ボタン	選択したグループを削除します。
19	グループ名称	追加した連携グループ名が表示されます。
20	プライマリIPアドレス／ホスト名	追加した連携グループ内の第1（プライマリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を表示します。
21	セカンダリIPアドレス／ホスト名	追加した連携グループ内の第2（セカンダリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を表示します。
22	［全削除］ボタン	マルチステーションジョブをすべて削除します。

■ ICCプロファイルの設定

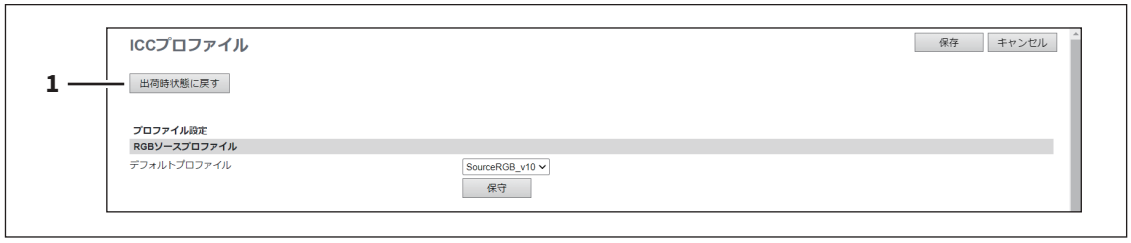
プリンター機能で使用するプロファイルを設定することができます。

注 意

この設定は、一部の機種のみ使用できます。

補 足

［ICCプロファイル］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	出荷時状態に戻す	すべてのICCプロファイル設定を工場出荷時の設定に戻す場合にクリックします。

□ RGBソースプロファイルの設定

RGBデータの印刷時、RGBデータのカラースペース変換に使用する入力プロファイルを設定します。

	項目名	機能説明
1	デフォルトプロファイル	印刷時にプリンタードライバーのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、RGBソースプロファイルを設定します。本機に登録されているRGBソースプロファイルの中から選択することができます。
2	［保守］ボタン	RGBソースプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとRGBソースプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルをエクスポートしたり、削除したりすることができます。 **注 意** 工場出荷時に登録されているプロファイルを、削除することはできません。

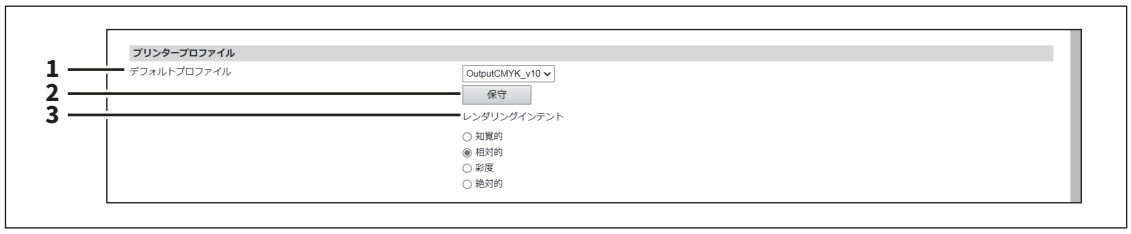
□ CMYKソースプロファイルの設定

CMYKデータの印刷時、CMYKデータのカラースペース変換に使用する入力プロファイルを設定します。

	項目名	機能説明
1	デフォルトプロファイル	印刷時にプリンタードライバーのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、CMYKソースプロファイルを設定します。本機に登録されているCMYKソースプロファイルの中から選択することができます。
2	［保守］ボタン	CMYKソースプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとCMYKソースプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルをエクスポートしたり、削除したりすることができます。 **注 意** 工場出荷時に登録されているプロファイルを、削除することはできません。

□ プリンタープロファイルの設定

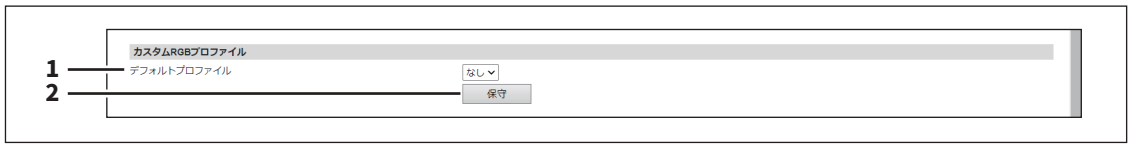
印刷時にデータのカラースペース変換に使用する出力プロファイルを設定します。



	項目名	機能説明
1	デフォルトプロファイル	印刷時にプリンタードライバーのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、プリンタープロファイルを設定します。本機に登録されているプリンタープロファイルの中から選択することができます。
2	［保守］ボタン	プリンタープロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとプリンタープロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、登録済みのプロファイルを削除したり、エクスポートしたりすることができます。 **注 意** 工場出荷時に登録されているプロファイルを、削除することはできません。
3	レンダリングインテント	プリンタープロファイルのレンダリングインテントを［知覚的］、［相対的］、［彩度］、［絶対的］から選択します。

□ カスタムRGBプロファイルの設定

カスタムRGBプロファイルの詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。



	項目名	機能説明
1	デフォルトプロファイル	印刷時にプリンタードライバーのカラープロファイル設定の初期設定として表示する、カスタムRGBプロファイルを設定します。本機に登録されているカスタムRGBプロファイルの中から選択することができます。
2	［保守］ボタン	カスタムRGBプロファイルをメンテナンスする場合にクリックします。クリックするとカスタムRGBプロファイルの保守ページが表示され、本機にプロファイルをインポートしたり、削除したりすることができます。 **注 意** 工場出荷時に登録されているプロファイルを、削除することはできません。

■ プリントデータコンバーター設定

プリントデータコンバーターの詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。

補 足

［プリントデータコンバーター］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

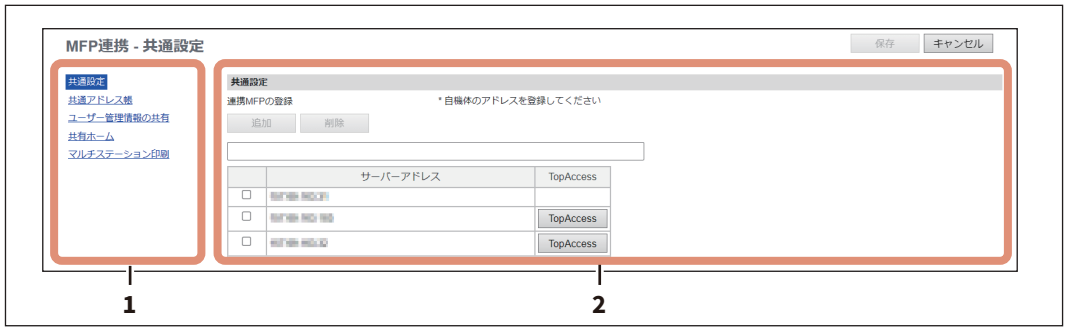
	項目名	機能説明
1	プリントデータコンバーター	プリントデータコンバーター機能の有効／無効を選択します。 コンバーターの設定ファイルがインポートされていない場合は有効を選択できません。
2	新規コンバーターインポート	コンバーターの設定ファイルをインポートします。 **補 足** ［ファイルの選択］ボタンをクリックしてインポートするファイルを選択し、［開く］をクリックします。 ファイル名を確認して、［インポート］ボタンをクリックします。
3	現在のコンバーター	インポートされているコンバーターの設定ファイルを表示します。

■ MFP連携

複数のMFPを登録して連携させるための機能を1つの画面で設定できます。

補 足

［MFP連携］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	メニューエリア	MFPの連携に必要な機能名をクリックします。
2	設定エリア	メニューエリアで選択した機能を設定します。 注 意 マルチステーション印刷機能を使用するには、マルチステーション印刷オプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。

□ 共通設定

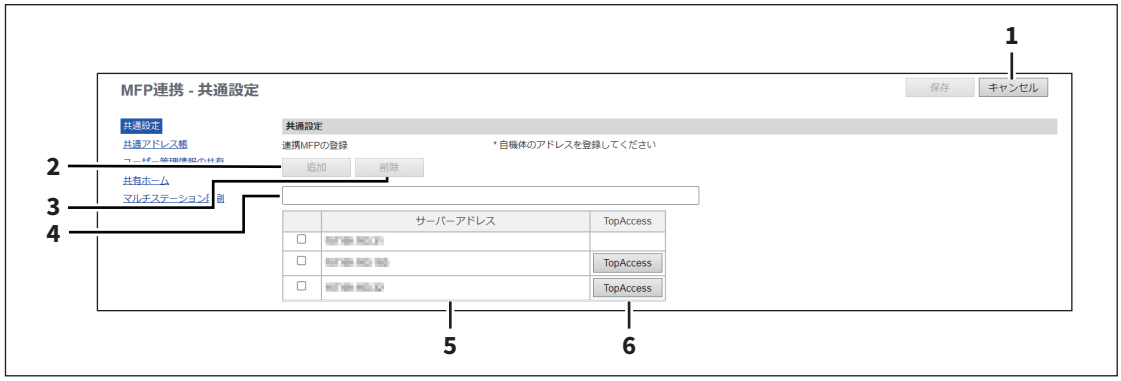
連携させたい複数のMFPをこの画面でまとめて登録できます。

注 意

連携するMFPとして本機は必ず登録してください。

補 足

［共通設定］画面では［保存］ボタンはクリックする必要はありません。



	項目名	機能説明
1	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。

	項目名	機能説明
2	［追加］ボタン	連携するMFPを登録します。 直下の入力ボックスに連携するMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力し、［追加］ボタンをクリックして登録します。最大10台まで登録できます。
3	［削除］ボタン	下のリストで選択したMFPを削除します。
4	入力ボックス	登録するMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
5	サーバーアドレス	登録したMFPのアドレスを表示します。
6	［TopAccess］ボタン	当該MFPのTopAccessを起動します。

□ 共通アドレス帳

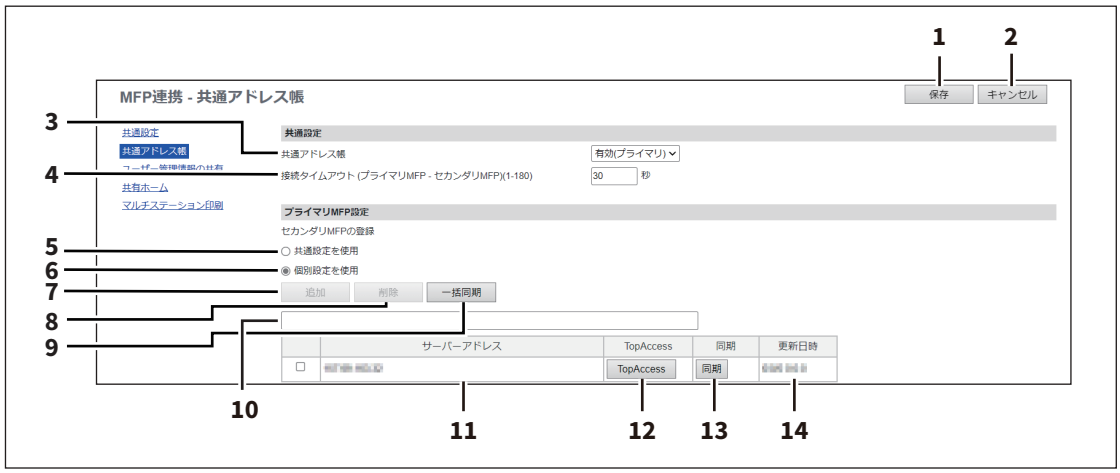
連携するMFPで共有するアドレス帳を設定します。設定は、リストに登録されているMFPに対して適用されます。

注 意

［共通設定を使用］を選択する場合は、［共通設定］画面でMFPをあらかじめ登録してください。
📖 P.230 「共通設定」

補 足

この［共通アドレス帳］の設定は、［登録］＞［アドレス帳］＞［共通設定］での設定にリンクしています。
📖 P.47 「共通設定」



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定した情報を登録します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	共通アドレス帳	他のMFPと共通アドレス帳を同期管理をする場合に、本機をプライマリとするかセカンダリとするかを設定します。 • **無効**：同期しません。 • **有効（プライマリ）**：本機をプライマリとして同期します。 • **有効（セカンダリ）**：本機をセカンダリとして同期します。 **注 意** ［有効（プライマリ）］として設定されているMFPにセカンダリMFPとして登録されているMFPでは、共通アドレス帳の設定が［有効（セカンダリ）］として設定されている場合に、プライマリMFPから共通アドレス帳を同期します。

	項目名	機能説明
4	接続タイムアウト	プライマリMFPとセカンダリMFPが接続できない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。
5	共通設定を使用	［共通設定］画面で登録したMFPの情報を使用して下記リストを自動更新します（リストは変更できません）。本機自身では［TopAccess］と［同期］ボタンは利用できません。
6	個別設定を使用	下記リストに登録したMFPの情報を使用します。
7	［追加］ボタン	新しいセカンダリMFPを追加します。直下の入力ボックスに同期対象のセカンダリMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力し、［追加］ボタンをクリックして登録します。最大10台まで登録できます。
8	［削除］ボタン	セカンダリMFP一覧で選択しているMFPを削除します。
9	［一括同期］ボタン	登録されているすべてのセカンダリMFPの共通アドレス帳を本機の情報に同期します。
10	入力ボックス	セカンダリMFPを登録するときに、IPアドレスまたはホスト名を入力します。
11	サーバーアドレス	登録したMFPのアドレスを表示します。
12	［TopAccess］ボタン	TopAccessを起動します。
13	［同期］ボタン	該当のセカンダリMFPの共通アドレス帳を本機の情報に同期します。
14	［更新日時］	前回の更新日時を表示します。

□ ユーザー管理情報の共有

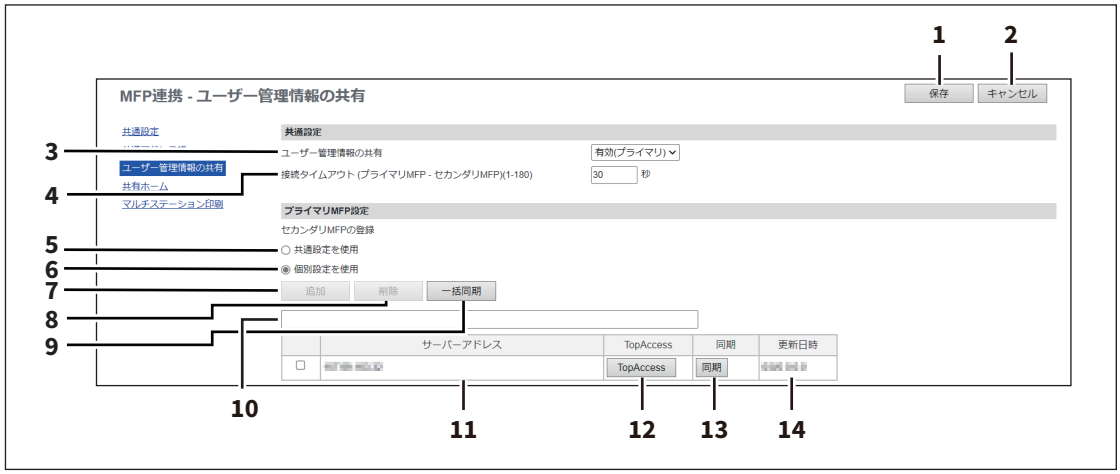
連携するMFPで共有するユーザー情報の管理を設定します。設定は、リストに登録されているMFPに対して適用されます。

注 意

- ［共通設定を使用］を選択する場合は、［共通設定］画面でMFPをあらかじめ登録してください。
  📖 P.230 「共通設定」
- 最大10,000人のユーザー情報を同期管理できますが、実質的に同期管理できる最大ユーザー数は2,000人を推奨します。
- セカンダリMFPのユーザー管理画面では、ユーザー情報を作成、編集、削除できません。

補 足

- 連携するMFPの情報は、［ユーザー管理］＞［共通設定］でのMFP情報にリンクしています。
  📖 P.98 「［共通設定］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」
- ［ユーザー管理情報の共有］と［接続タイムアウト］の設定は［管理者］＞［セキュリティ］＞［認証］＞［ユーザー認証設定］＞［共通設定］での設定にリンクしています。
  📖 P.246 「ユーザー認証設定」



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定した情報を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	ユーザー管理情報の共有	他のMFPと同期してユーザー情報を管理する場合に、本機をプライマリMFPとするかセカンダリMFPとするかを設定します。 • **無効**：同期しません。 • **有効（プライマリ）**：本機をプライマリとして同期します。 • **有効（セカンダリ）**：本機をセカンダリとして同期します。 **注 意** ［有効（プライマリ）］として設定されているMFPにセカンダリMFPとして登録されているMFPでは、共通アドレス帳の設定が［有効（セカンダリ）］として設定されている場合に、プライマリMFPから共通アドレス帳を同期します。
4	接続タイムアウト	プライマリMFPとセカンダリMFPが接続できない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を秒単位で入力します。1～180秒の範囲で設定します。
5	共通設定を使用	［共通設定］画面で登録したMFPの情報を使用して下記リストを自動更新します（リストは変更できません）。本機自身では［TopAccess］と［同期］ボタンは利用できません。
6	個別設定を使用	下記リストに登録したMFPの情報を使用します。
7	［追加］ボタン	新しいセカンダリMFPを追加します。直下の入力ボックスに同期対象のセカンダリMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力し、［追加］ボタンをクリックして登録します。最大10台まで登録できます。
8	［削除］ボタン	セカンダリMFP一覧で選択しているMFPを削除します。
9	［一括同期］ボタン	登録されているすべてのセカンダリMFPの共通アドレス帳を本機の情報に同期します。
10	入力ボックス	セカンダリMFPを登録するときに、IPアドレスまたはホスト名を入力します。
11	サーバーアドレス	登録したMFPのアドレスを表示します。
12	［TopAccess］ボタン	TopAccessを起動します。
13	［同期］ボタン	該当のセカンダリMFPの共通アドレス帳を本機の情報に同期します。
14	［更新日時］	前回の更新日時を表示します。

□ 共有ホーム

連携するMFPの共有ホームを設定します。ホームデータ同期設定の流れについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.403 「ホームデータ同期設定の流れ」

注 意

［共通設定から選択］を選択する場合は、［共通設定］画面でMFPをあらかじめ登録してください。

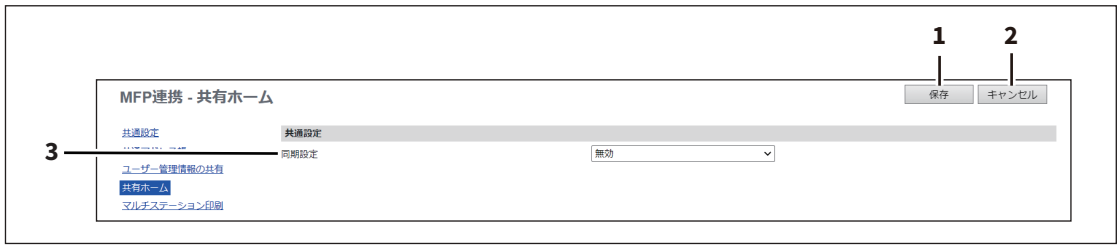
📖 P.230 「共通設定」

補 足

この［共有ホーム］の設定は、［管理者］＞［セットアップ］＞［一般］＞［ホーム設定］での設定にリンクしています。

📖 P.115 「ホーム設定」

［同期設定］で［無効］を選択した場合



［同期設定］で［同期にネットワークサーバーを使用する］を選択した場合

［同期設定］で［同期にMFPを使用する］を選択した場合

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。

	項目名	機能説明
3	同期設定	［ホーム］画面をネットワークサーバーまたはほかのMFPと同期するかどうかを設定します。 • **無効**：同期しません。 • **同期にネットワークサーバーを使用する**：ネットワークサーバーで同期します。 • **同期にMFPを使用する**：MFPで同期します。
4	サーバー名称	ネットワークサーバーの名称を入力します。
5	ポート番号	ネットワークサーバーのポート番号を入力します。
6	ユーザー名	ネットワークサーバーにアクセスするユーザー名を入力します。
7	パスワード	ネットワークサーバーにアクセスするユーザーのパスワードを入力します。
8	SSL/TLS使用	ネットワークサーバーにアクセスするときに、SSL/TLSを使用するかどうかを設定します。
9	このMFPをプライマリサーバーとする	このMFPをプライマリサーバーとして同期する場合はチェックします。チェックを外すと、その他のMFPをプライマリサーバーとして同期します。 **注 意** FTPサーバーが無効の場合は、このMFPをプライマリサーバーに設定できません。 📖 P.153 「FTPサーバーの設定」
10	共通設定から選択	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、［共通設定］画面で登録したMFPの中からプライマリMFPを選択します。
11	個別設定を使用	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、右の入力欄にそのプライマリMFPのIPアドレスを入力して使用します。
12	ポート番号	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、そのプライマリサーバーのポート番号を入力します。
13	SSL/TLS使用	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、そのプライマリサーバーにアクセスするときに、SSL/TLSを使用するかどうかを設定します。
14	［同期データ一括削除］ボタン	FTPサーバーに保存されている同期データをすべて削除します。

□ マルチステーション印刷

連携するMFPで使用するマルチステーション印刷機能を設定します。設定は、リストに登録されているMFPに対して適用されます。設定の流れについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.401 「マルチステーション印刷の設定」

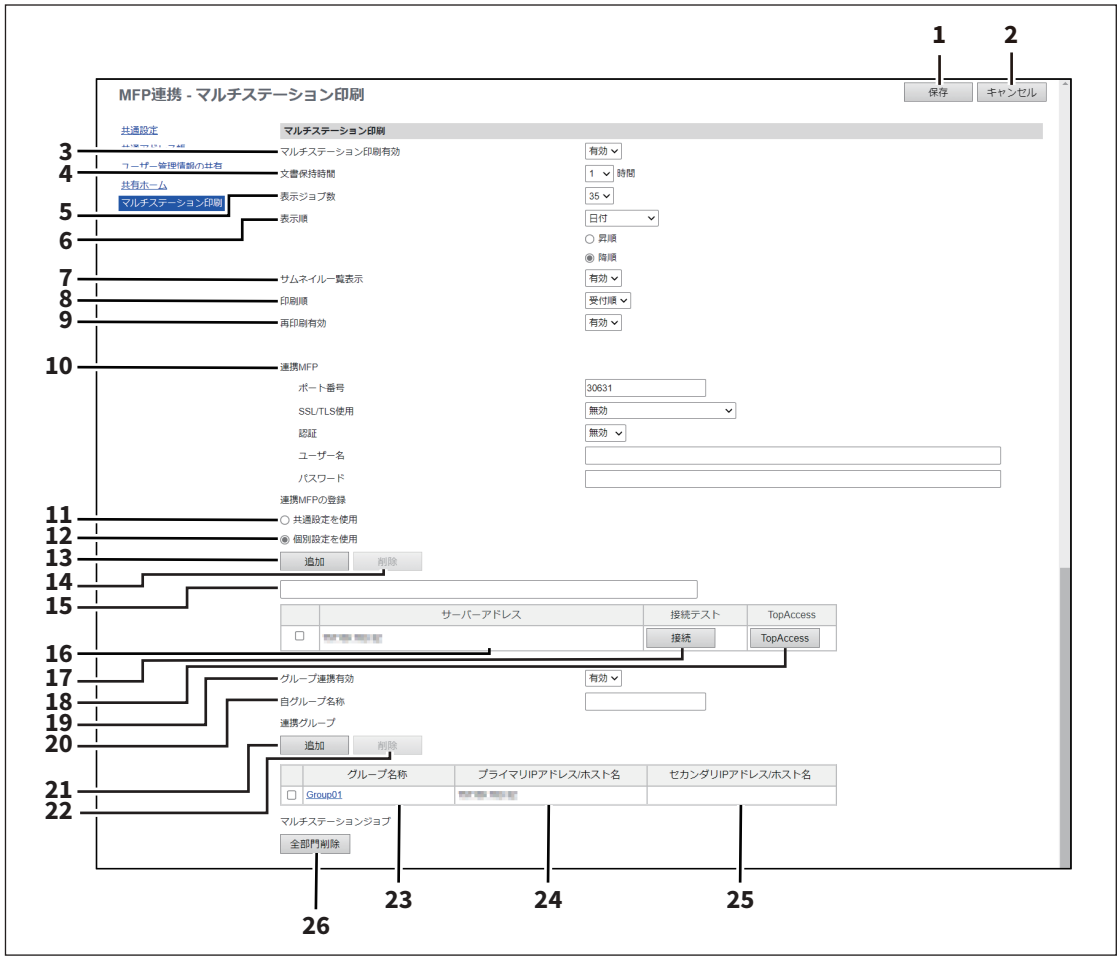
注 意

- マルチステーション印刷機能を使用するには、マルチステーション印刷オプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。
- ［共通設定から選択］を選択する場合は、［共通設定］画面でMFPをあらかじめ登録してください。
  📖 P.230 「共通設定」

補 足

この［マルチステーション印刷］の設定は、［管理者］＞［セットアップ］＞［プリントサービス］＞［マルチステーション印刷］での設定にリンクしています。

📖 P.224 「マルチステーション印刷の設定」



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	マルチステーション印刷有効	共有印刷サービス（マルチステーション印刷）の有効／無効を設定します。
4	文書保持時間	印刷ドキュメントの保持時間を設定します。
5	表示ジョブ数	表示するジョブの数を設定します。
6	表示順	表示順を設定します。

	項目名	機能説明
7	サムネイル一覧表示	操作パネル上の文書一覧でマルチステーション印刷ファイルのサムネイル画像を表示するかしないかを選択します。PDFとJPEGファイルはサムネイル画像を、その他の形式のファイルは所定のアイコンを表示します。 **注 意** サムネイルはファイルのイメージ図を表します。画像の一部がカットされたり余白が増やされたりして、オリジナルと異なる場合があります。
8	印刷順	印刷順を設定します。 **補 足** 印刷順で［表示順］を選択すると、項目4の［表示順］の設定に従って印刷されます。
9	再印刷有効	再印刷の有効／無効を設定します。
10	連携MFP	マルチステーション印刷を行うには、以下を設定します。 • **ポート番号**：ポート番号を設定します。 • **SSL/TLS使用**：SSL/TLSを使用してマルチステーション印刷を行うかどうかを設定します。 - **無効**：SSL/TLSを使用しません。 - **登録されたCA証明書を使用する**：連係にはCA証明書を使用します。各MFPの証明書をエクスポートしてすべてのMFPにインポートする必要があります。 - **すべての証明書を受け入れる**：CA認証を必要とせず、すべての証明書を受け入れます。各MFPの証明書をインポートする必要がありません。 • **認証**：認証として［無効］または［Basic］を選択します。初期値は［無効］に設定されています。 • **ユーザー名**：ユーザー名を設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥ @を除く）で127文字まで入力できます。 • **パスワード**：ユーザーのパスワードを設定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で127文字まで入力できます。 **注 意** すべてのMFPで同じ設定にしないと、連係できません。 **補 足** ［認証］が［無効］の場合でもマルチステーション印刷機能は利用できますが、他機との連携はしません（ジョブリストの共有はしません）。
11	共通設定を使用	［共通設定を使用］画面で登録したMFPの情報を使用して下記リストを自動更新します（リストは変更できません）。本機自身では［接続］と［TopAccess］ボタンは利用できません。
12	個別設定を使用	下記リストに登録したMFPの情報を使用します。
13	［追加］ボタン	接続機器を登録します。
14	［削除］ボタン	選択した接続機器を削除します。
15	連携MFP入力欄	登録するMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力します。 **補 足** ［連係MFP］リストに複数のアドレスを登録した状態でユーザー認証を無効にした場合は、［連係MFP］の設定は表示されません。

	項目名	機能説明
16	サーバーアドレス	登録したMFPのIPアドレスまたはホスト名を表示します。
17	［接続］ボタン	設定したMFPの接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。 **注 意** ［接続］ボタンでMFPの接続テストをする前に、マルチステーション印刷の設定を［保存］ボタンで保存してください。
18	［TopAccess］ボタン	TopAccessを起動します。
19	グループ連携有効	MFPのグループ連携を有効/無効を設定します。初期値は「無効」に設定されています。
20	自グループ名称	自機が属すグループの名称を設定します。最大12文字まで入力できます。 **注 意** すべてのグループが各グループの同じ名前を共有しないと、連係できません。
21	［追加］ボタン	連係するグループをリストに追加します。このボタンをクリックすると、［連携グループ情報の追加］画面が表示されます。以下を設定して、［保存］をクリックして設定を保存します。リストに追加されたグループ名称をクリックすると、連係グループ情報を編集できます。 • **グループ名称**：連係するグループ名を入力します。最大12文字まで入力できます。 • **プライマリIPアドレス／ホスト名**：連係グループ内の第1（プライマリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を入力します。最大256文字まで入力できます。ここで指定したプライマリ機に最初にアクセスして、ジョブリストを取得します。 • **セカンダリIPアドレス／ホスト名**：連係グループ内の第2（セカンダリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を入力します。最大256文字まで入力できます。上記プライマリ機にアクセスできなかった場合、次にここで指定したセカンダリ機にアクセスして、ジョブリストを取得します。
22	［削除］ボタン	選択したグループを削除します。
23	グループ名称	追加した連携グループ名が表示されます。
24	プライマリIPアドレス／ホスト名	追加した連携グループ内の第1（プライマリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を表示します。
25	セカンダリIPアドレス／ホスト名	追加した連携グループ内の第2（セカンダリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を表示します。
26	［全削除］ボタン	マルチステーションジョブをすべて削除します。

■ 内蔵ブラウザー設定

操作パネル上にWebページを表示させる「EWB（Embedded Web Browser）機能」を設定します。

補 足

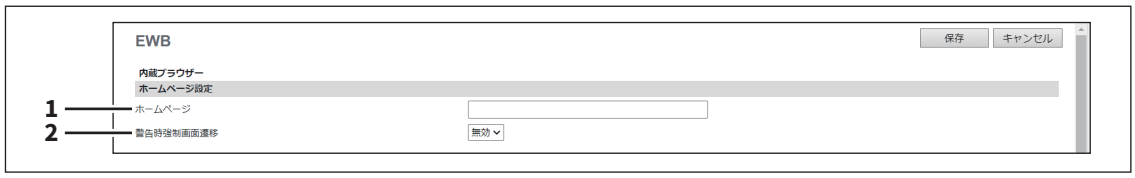
［内蔵ブラウザー］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

注 意

- EWB（Embedded Web Browser）機能を使用するには、外部連携オプションが必要です。
- ネットワーク障害などでインターネット接続時にエラーページが表示される場合、ネットワーク障害から復帰してもエラーページが表示され続けることがあります。その場合はMFPを再起動してください。

□ ホームページ設定

EWB機能を起動したときのホームページを設定します。



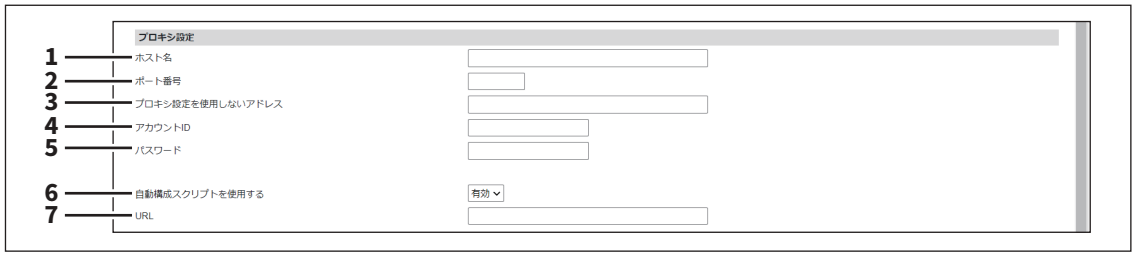
	項目名	機能説明
1	ホームページ	ホームページのURLを入力します。
2	警告時強制画面遷移	EWB画面を表示中に、用紙切れ、トナーエンプティなどでMFPがジョブを実行できなくなった場合、自動的に［状況確認］画面に遷移させるかを設定します。 • **有効**：［状況確認］画面に遷移させます。 • **無効**：［状況確認］画面に遷移させません。

□ プロキシ設定

内蔵ブラウザー機能またはアプリケーション設定のプロキシ設定を変更すると、待機画面機能のプロキシ設定も変更されます。

補 足

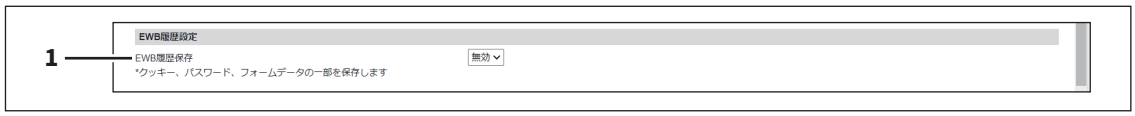
プロキシ設定は、内蔵ブラウザー、待機画面、アプリケーション機能で基本的に同じです。1つの機能で設定を変更すると、その他の機能でも同じ設定に変更されます。
📖 P.294 「プロキシ設定」
📖 P.375 「プロキシ設定」



	項目名	機能説明
1	ホスト名	プロキシサーバーのホスト名を入力します。

	項目名	機能説明
2	ポート番号	プロキシサーバーのポート番号を入力します。
3	プロキシ設定を使用しないアドレス	プロキシサーバーを利用しないURLをセミコロン（;）で区切って入力します。
4	アカウントID	プロキシサーバーのアカウントIDを入力します。
5	パスワード	プロキシサーバーのパスワードを入力します。
6	自動構成スクリプトを使用する	自動構成スクリプトを有効または無効にします。
7	URL	自動構成スクリプトを有効にした場合に、PACファイルをURLで指定します。 **注 意** PACファイルを使用する場合は、以下の点に注意してください。 • プロトコルは省略せずに入力してください。 • 関数は使用しないでください。

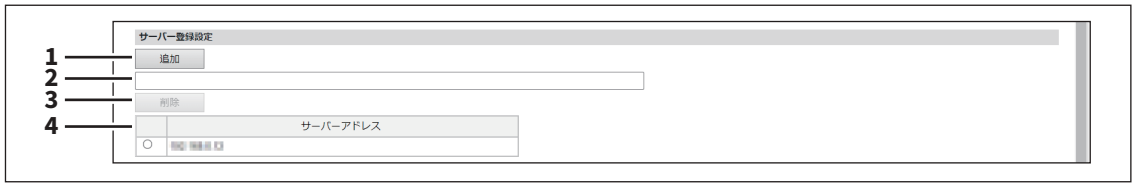
□ EWB履歴設定



	項目名	機能説明
1	EWB履歴保存	残す履歴情報についてサイズ制限をするかどうかを設定します。サイズ制限をする場合は100MBになります。

□ サーバー登録設定

EWB機能で使用するサーバーのアドレスを登録します。



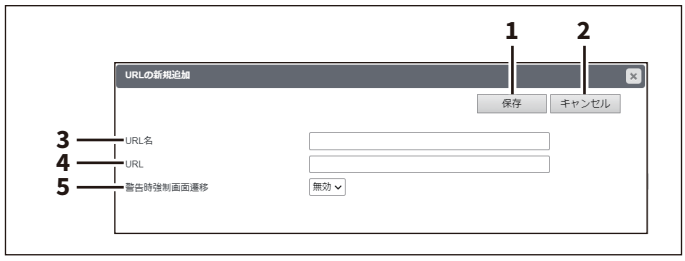
	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	入力欄に入力されたサーバーアドレスを一覧に登録します。
2	入力欄	サーバーアドレスを入力します。
3	［削除］ボタン	選択されたアドレスを一覧から削除します。
4	サーバーアドレス一覧	登録されているサーバーアドレス一覧を表示します。

□ ホーム画面URL一覧

操作パネルのホーム画面に表示するURLを登録します。

	項目名	機能説明
1	［追加］ボタン	操作パネルに表示するURLを登録します。 P.241 「［URLの新規追加］画面」
2	［削除］ボタン	ホーム画面URL一覧から選択されたURLを削除します。
3	URL一覧	操作パネルに表示されるURL一覧を表示します。

□ ［URLの新規追加］画面



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力したURL名/URLで登録します。
2	［キャンセル］ボタン	URLの新規追加を中止します。
3	URL名	登録するURLの名称を入力します。
4	URL	登録するURLを入力します。
5	警告時強制画面遷移	EWB画面を表示中に、用紙切れ、トナーエンプティなどでMFPがジョブを実行できなくなった場合、自動的に［状況確認］画面に遷移させるかを設定します。

■ Off Device Customization Architecture設定

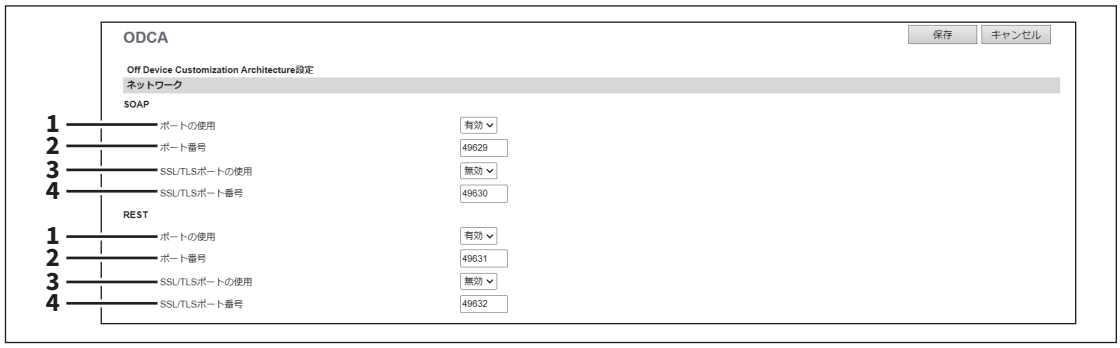
ODCA（Off Device Customization Architecture）は、外部環境のアプリケーションソフトと本機が提供するサービスを連携して使用する場合に設定します。
詳細については、連携するアプリケーションソフトの取扱説明書を参照してください。

補 足

［ODCA］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」

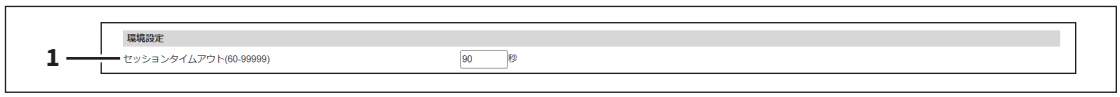
□ ネットワーク

SOAP（Simple Object Access Protocol）とREST（REpresentational State Transfer）に分けてネットワークを設定します。



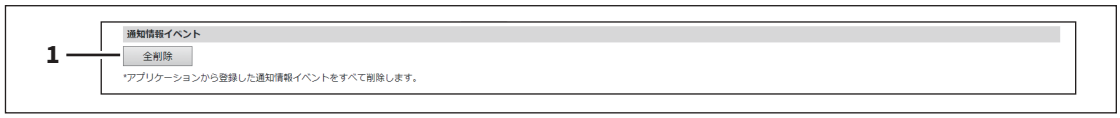
	項目名	機能説明
1	ポートの使用	外部環境から接続を受け付けるかどうかを設定します。
2	ポート番号	外部環境から接続を受け付けるポート番号を設定します。
3	SSL/TLSポートの使用	外部環境から接続する際にSSL/TLSを使用するかどうかを設定します。
4	SSL/TLSポート番号	外部環境から接続を受け付けるSSL/TLSポート番号を設定します。

□ 環境設定



	項目名	機能説明
1	セッションタイムアウト	接続状態を継続する時間を設定します。

□ 通知情報イベント



	項目名	機能説明
1	［全削除］ボタン	外部環境のアプリケーションソフトで登録した通知情報イベントをすべて削除します。

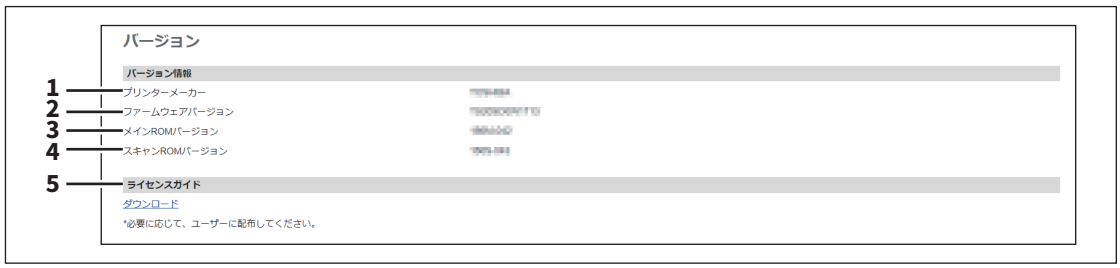
■ バージョン

バージョン情報を表示します。表示される情報は、モデルによって異なります。

補 足

［バージョン］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セットアップ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

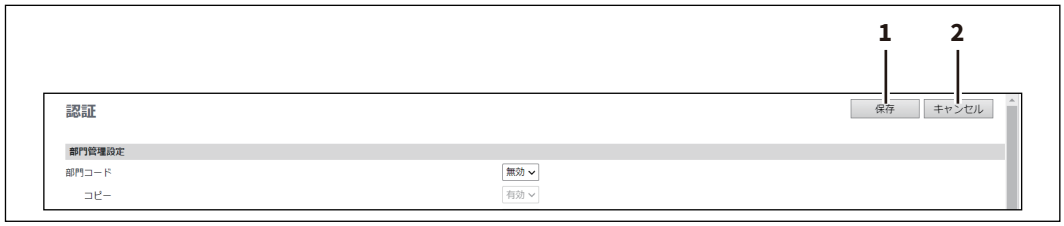
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.103 「［セットアップ］項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	プリンターメーカー	お使いの機器のメーカー名を表示します。
2	ファームウェアバージョン	お使いの機器のファームウェアバージョンを表示します。
3	メインROMバージョン	お使いの機器のメインROMのバージョンを表示します。
4	スキャンROMバージョン	お使いの機器のスキャンROMのバージョンを表示します。
5	ライセンスガイド	ライセンスガイドをダウンロードできます。

補 足

［セキュリティ］メニューは［管理者］から、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザーがアクセスできます。
アクセス方法は、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15「アクセスポリシーモード」



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	［セキュリティ］メニューで変更した設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	変更した設定を中止します。

■ 認証

お使いの機器の認証機能を利用して、それぞれの操作を制限することができます。

補 足

［認証］サブメニューは、［管理者］＞［セキュリティ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セキュリティ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15「アクセスポリシーモード」
📖 P.244「［セキュリティ］項目説明一覧」

□ 部門管理設定

部門ごとにカウンターを管理したい場合は、部門管理を有効に設定します。部門管理を有効にすると、コンピューターからの印刷操作、操作パネルからコピーやスキャン、ファクスおよびインターネットファクス送信、ファイリングボックスの操作などを行うときに部門コードの入力画面を表示し、お使いの機器の操作を部門ごとに管理することができます。

注 意

以下のアプリケーションは、部門管理設定に関係なく、お使いの機器にアクセスすることができます。

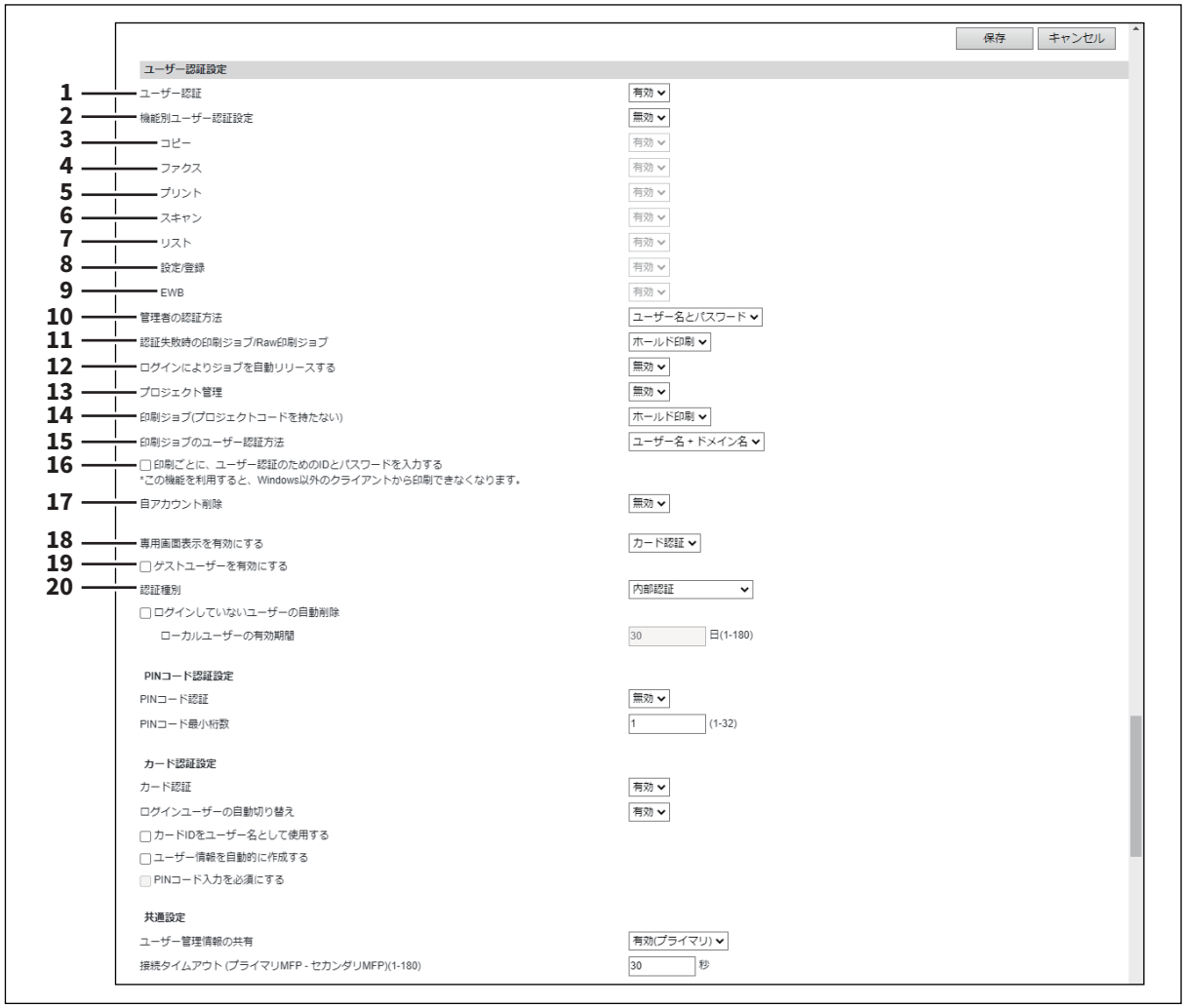
- AddressBook Viewer
- Backup/Restore Utility
- TWAINドライバー
- ファイルダウンローダー

	項目名	機能説明
1	部門コード	部門管理設定を有効にするかしないかを設定します。初期値は「無効」に設定されています。
2	コピー	この機能を有効に設定すると、以下のカウンターを部門ごとに管理します。 • コピー枚数 • コピー操作時に読み取った原稿枚数 初期値は「有効」に設定されています。
3	ファクス	この機能を有効に設定すると、以下のカウンターを部門ごとに管理します。 • 送信したファクス枚数 • ファクスを送信する際に読み取った原稿枚数 • 受信したファクス枚数 • 受信したファクスの印刷枚数* 初期値は「有効」に設定されています。
4	プリント	この機能を有効に設定すると、プリント/Eメール受信/インターネットファクス受信の印刷枚数を、部門ごとに管理します。 初期値は「有効」に設定されています。
5	スキャン	この機能を有効に設定すると、共有フォルダーに保管などのスキャン操作時に読み取った原稿枚数を、部門ごとに管理します。 初期値は「有効」に設定されています。
6	リスト	この機能を有効に設定すると、リストの印刷枚数を部門ごとに管理します。 初期値は「有効」に設定されています。
7	設定/登録	この機能を有効に設定すると、設定/登録メニューの操作を部門ごとに管理します。 初期値は「有効」に設定されています。
8	EWB	EWB（Embedded Web Browser）機能を有効にするかどうかを設定します。EWBを使用するには、外部連携オプションが必要です。
9	ユーザー登録時に部門コード入力を必須にする	ユーザー登録の際、部門コードを登録するかしないかを設定します。初期値は「無効」に設定されています。
10	部門コードなし印刷ジョブ	部門コードが有効に設定されている場合に、部門コードが設定されていない印刷ジョブまたは間違った部門コードが設定されている印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。 • **部門コードの使用を強制する**：印刷時に部門コードの入力を強制します。 • **印刷**：部門コードが間違っていても印刷します。 • **削除**：部門コードが間違っていた場合は、印刷ジョブを削除します。 補 足 プリンタードライバーで双方向通信が無効になっている場合は、部門コードなし印刷ジョブを「部門コードの使用を強制する」に設定し、プリンタードライバーで間違った部門コードを入力すると、印刷ジョブが部門コードなし印刷ジョブリストに登録されます。

＊手動受信やポーリング受信、本機の親展や掲示板などに登録されている原稿の印刷など、部門コードの入力が必要なファクス受信の印刷のみがカウントされます。

□ ユーザー認証設定

お使いの機器にアクセスするユーザーの認証について設定できます。



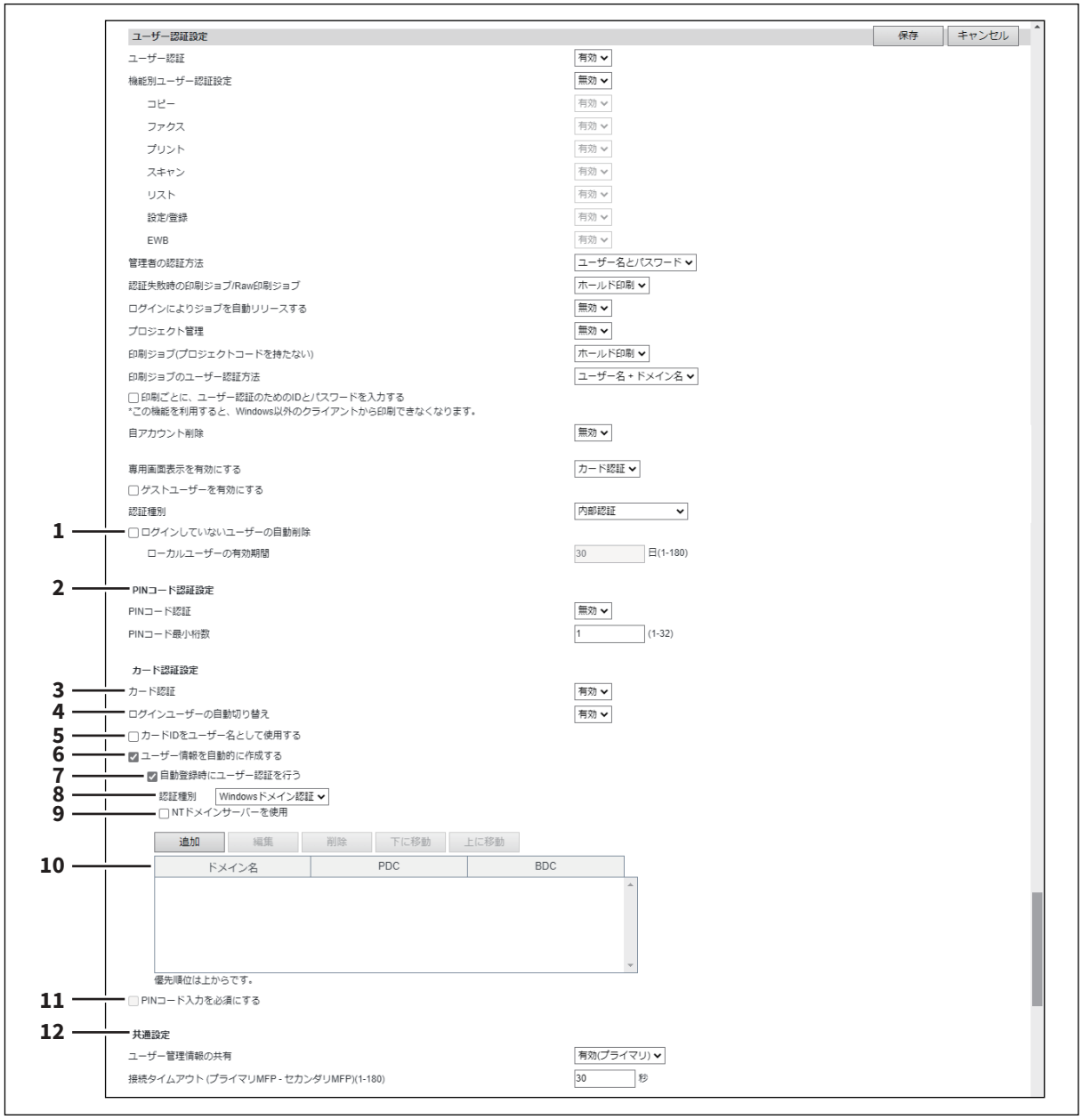
	項目名	機能説明
1	ユーザー認証	ユーザー認証を有効にするかしないかを設定します。初期値は［無効］に設定されています。 **注 意** • ユーザー認証を有効にすると「Eメール認証」は設定できません。 • ユーザー認証を有効にすると、白黒無制限機能を利用できなくなります。白黒無制限機能の詳細については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - カウンターの管理 - 部門管理設定 - 白黒無制限の有効/無効を設定する**
2	機能別ユーザー認証設定	機能別にユーザー認証を行うかどうかを設定します。
3	コピー	コピー機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。 初期値は「有効」に設定されています。
4	ファクス	ファクス機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。 初期値は「有効」に設定されています。 **注 意** この機能を［無効］にする場合は、最新のN/W-Faxドライバーをご使用ください。詳しくはサービスエンジニアにお問い合わせください。

	項目名	機能説明
5	プリント	プリント機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。 初期値は「有効」に設定されています。 **注 意** この機能を［無効］にする場合は、最新のプリンタードライバーをご使用ください。詳しくはサービスエンジニアにお問い合わせください。
6	スキャン	スキャン機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。 初期値は「有効」に設定されています。
7	リスト	リスト機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。 初期値は「有効」に設定されています。
8	設定/登録	設定/登録機能を使用する際に、ユーザー認証を行うかを設定します。 初期値は「有効」に設定されています。
9	EWB	EWB（Embedded Web Browser）機能を有効にするかどうかを設定します。EWBを使用するには、外部連携オプションが必要です。
10	管理者の認証方法	管理者の認証方法を選択します。 • **ユーザー名とパスワード**：ユーザー名とパスワードで認証します。 • **パスワードのみ**：パスワードで認証します。
11	認証失敗時の印刷ジョブ/Raw印刷ジョブ	ユーザー認証に失敗した印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。 • **ホールド印刷**：ホールド印刷ジョブに登録します。 • **印刷**：認証に失敗した印刷ジョブを印刷します。 • **削除**：認証に失敗した印刷ジョブを削除します。 **注 意** N/W-Faxドライバーを利用している場合、［ホールド印刷］を選択すると、ジョブは削除されます。
12	ログインによりジョブを自動リリースする	プライベート印刷ジョブとホールド印刷ジョブを、ログインのときに処理するか設定します。 • **無効**：ログインしても印刷しません。 • **有効**：ログインした段階で印刷します。
13	プロジェクト管理	プロジェクト管理を有効にするかしないかを設定します。
14	印刷ジョブ（プロジェクトコードを持たない）	プロジェクト管理を有効にした場合に、プロジェクトコードを持たない印刷ジョブを印刷するかしないかを設定します。 • **ホールド印刷**：ホールド印刷ジョブに登録します。 • **印刷**：認証に失敗した印刷ジョブを印刷します。 • **削除**：認証に失敗した印刷ジョブを削除します。

	項目名	機能説明
15	印刷ジョブのユーザー認証方法	印刷ジョブに関連するユーザー認証方法を選択します。2回線のネットワークを同時に使用するように本機を設定できますが、ネットワーク環境によってはセカンダリネットワークでユーザー認証できない場合がありえます。この設定によって、ネットワーク環境に合わせたユーザー認証が設定できます。 • **ユーザー名 + ドメイン名**：認証にはユーザー名とドメイン名を使用します。1回線のネットワークで通常使用する認証方法です。 • **ユーザー名のみ**：認証にはユーザー名のみを使用します。ユーザー名が認証できれば、ユーザーは本機で印刷できます。 • **ドメイン参加情報のみ**：認証にはドメイン参加情報のみを使用します。ユーザーのドメイン参加情報で認証できれば、ユーザーは本機で印刷できます。 補 足 2回線ネットワークの同時使用は、［管理者］＞［セットアップ］＞［ネットワーク］＞［基本設定］＞［ネットワーク構成］で設定できます。 P.120 「基本設定」
16	印刷ごとに、ユーザー認証のためのIDとパスワードを入力する	印刷ごとにユーザー認証を行います。印刷するには、ユーザー名とパスワードが必要になります。
17	自アカウント削除	ユーザーが自らのアカウントを削除することを許可するかどうかを設定します。 • **無効**：自アカウントの削除を禁止します。 • **有効**：自アカウントの削除を許可します。
18	専用画面表示を有効にする	認証画面をカード認証専用の画面に変更できます。 注 意 カード認証設定は、e-BRIDGE ID Gateを装着している場合のみ利用できます。
19	ゲストユーザーを有効にする	ゲストユーザーの操作を有効にします。

	項目名	機能説明
20	認証種別	認証方法を選択します。 • **内部認証**： ネットワークユーザーを管理するシステムがない環境では、お使いの機器の内部認証を使って管理することができます。 内部認証を有効にした場合、ユーザーはお使いの機器に登録されているユーザー名およびパスワードを入力すると、操作パネルから操作を行うことができます。 📖 P.250 「内部認証」 • **Windowsドメイン認証**： ネットワークユーザーをWindowsドメインで管理しているネットワークでは、Windowsドメイン認証を使って管理することができます。 Windowsドメイン認証を有効にした場合、ユーザーはWindowsドメインに登録されているユーザー名およびパスワードを入力すると、操作パネルから操作を行うことができます。 📖 P.254 「Windowsドメイン認証」 • **LDAP認証**： ネットワークユーザーをLDAPで管理しているネットワークでは、LDAP認証を使って管理することができます。LDAP認証を有効にした場合、ユーザーはLDAPサーバーに登録されているユーザー名およびパスワードを入力すると、操作パネルから操作を行うことができます。 📖 P.257 「LDAP認証」

内部認証


ユーザー認証設定
保存
キャンセル
ユーザー認証
有効
機能別ユーザー認証設定
無効
コピー
ファクス
プリント
スキャン
リスト
設定/登録
EWB
管理者の認証方法
ユーザー名とパスワード
認証失敗時の印刷ジョブ/Raw印刷ジョブ
ホールド印刷
ログインによりジョブを自動リリースする
プロジェクト管理
印刷ジョブ(プロジェクトコードを持たない)
印刷ジョブのユーザー認証方法
ユーザー名 + ドメイン名
印刷ごとに、ユーザー認証のためのIDとパスワードを入力する
*この機能を利用すると、Windows以外のクライアントから印刷できなくなります。
自アカウント削除
専用画面表示を有効にする
カード認証
ゲストユーザーを有効にする
認証種別
内部認証
1
ログインしていないユーザーの自動削除
ローカルユーザーの有効期間
30
日(1-180)
2
PINコード認証設定
PINコード認証
PINコード最小桁数
1
(1-32)
カード認証設定
3
カード認証
4
ログインユーザーの自動切り替え
5
カードIDをユーザー名として使用する
6
ユーザー情報を自動的に作成する
7
自動登録時にユーザー認証を行う
8
認証種別
Windowsドメイン認証
9
NTドメインサーバーを使用
追加
編集
削除
下に移動
上に移動
10
ドメイン名
PDC
BDC
優先順位は上からです。
11
PINコード入力を必須にする
12
共通設定
ユーザー管理情報の共有
有効(プライマリ)
接続タイムアウト (プライマリMFP - セカンダリMFP)(1-180)
30
秒

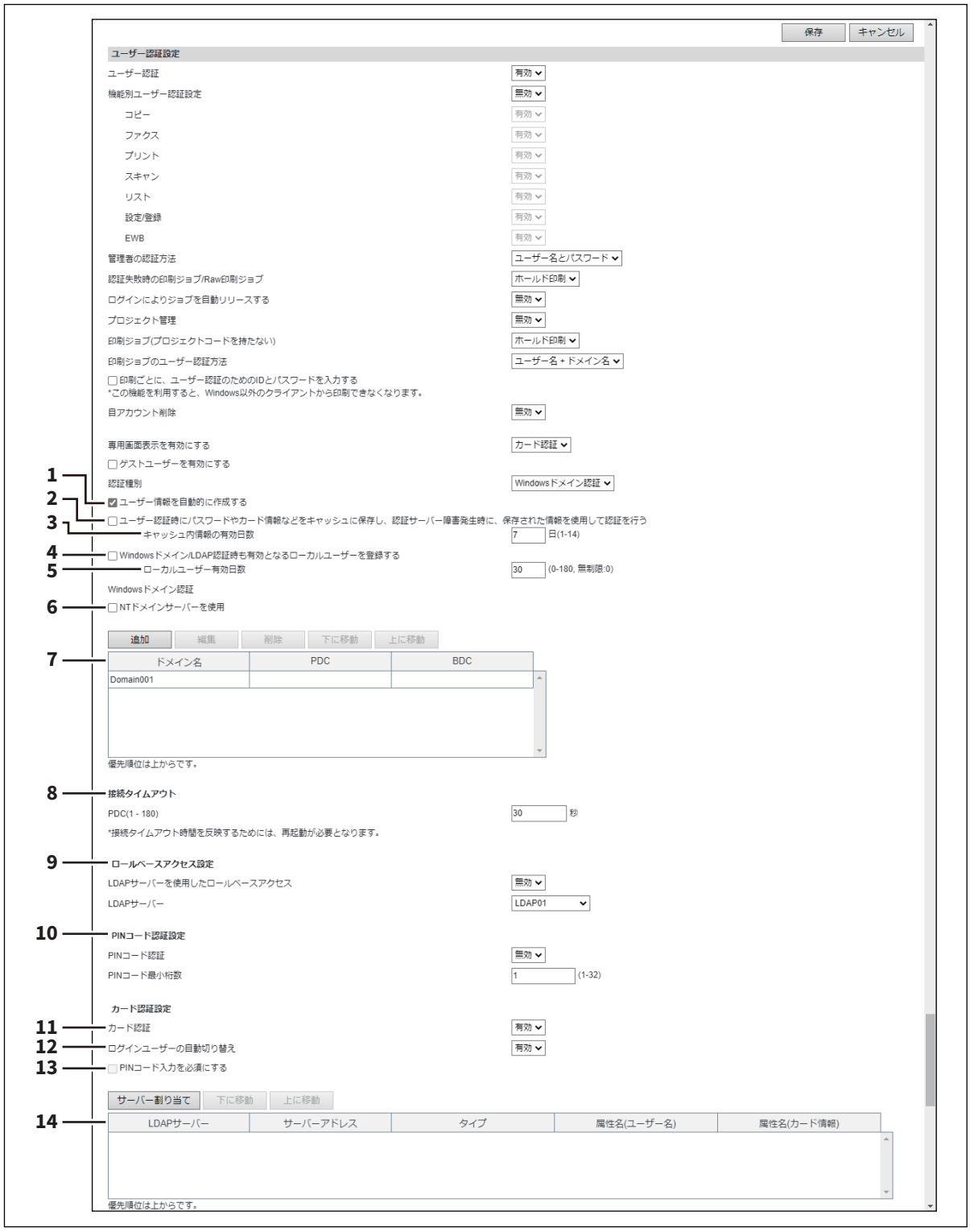
カード認証設定
カード認証
有効
ログインユーザーの自動切り替え
有効
カードIDをユーザー名として使用する
ユーザー情報を自動的に作成する
自動登録時にユーザー認証を行う
認証種別
LDAP認証
サーバー割り当て
下に移動
上に移動
10
LDAPサーバー
サーバーアドレス
タイプ
属性名(ユーザー名)
優先順位は上からです。
PINコード入力を必須にする

	項目名	機能説明
1	ログインしていないユーザーの自動削除	ログインしていないローカルユーザーを一定期間後に自動的に削除する機能を有効にします。ローカルユーザーが最後にログアウトしてから［ローカルユーザーの有効期間］で設定した日数が過ぎると、24時間ごとまたは本機の再起動時にそのローカルユーザーを自動的に削除します。
2	PINコード認証設定	• **PINコード認証**：PINコードによるユーザー認証を設定します。 **無効**：ユーザー認証にPINコードを使用しません。ユーザー名とパスワードでユーザーを認証します。 **有効**：ユーザー認証にPINコードを使用します。PINコードの代わりに、ユーザー名とパスワードでユーザー認証することもできます。 • **PINコード最小桁数**：PINコードの最少桁数を指定します。
3	カード認証	カード認証を有効にするかしないかを設定します。 **注 意** カード認証設定は、e-BRIDGE ID Gateを装着している場合のみ利用できます。
4	ログインユーザーの自動切り替え	カードによるユーザー認証時に、ログインユーザーの自動切り替え機能を有効にするかしないかを設定します。
5	カードIDをユーザー名として使用する	カードIDをユーザー名として使用するかしないかを設定します。
6	ユーザー情報を自動的に作成する	カードによるユーザー認証時に、未登録のユーザー情報を本機に自動的に追加するかしないかを設定します。
7	自動登録時にユーザー認証を行う	［ユーザー情報を自動的に作成する］が有効な場合、ユーザー情報を自動登録する前に外部サーバーによるユーザー認証を行うかどうかを設定します。この設定が有効な場合、外部サーバーで認証されたユーザーの情報だけが登録されます。外部認証サーバーは、［認証種別］で認証方法を選択してサーバー一覧リストに設定する必要があります。
8	認証種別	［自動登録時にユーザー認証を行う］が有効な場合、ユーザーを自動登録する際の認証方法を選択します。 • **Windowsドメイン認証**：Windowsドメインで管理しているネットワークでは、Windowsドメイン認証を使ってユーザーを管理することができます。 • **LDAP認証**：LDAPで管理しているネットワークでは、LDAP認証を使ってユーザーを管理することができます。
9	NTドメインサーバーを使用	［認証種別］で［Windowsドメイン認証］を選択している場合、NTドメインコントローラーを使用してドメインを管理するかどうかを設定します。

	項目名	機能説明
10	サーバー一覧	［認証種別］の設定に応じて、最大16個のユーザー認証ドメインまたはサーバーの一覧を表示します。 • **Windowsドメイン認証**：Windowsドメイン認証用に割り当てられたドメインの一覧が表示されます。ドメインを登録する場合は［追加］をクリックして、表示される画面で以下の項目を登録します。ドメインを編集するときは編集したいドメインを選択し、［編集］をクリックします。［削除］で選択したドメインを削除します。［上に移動］/［下に移動］で表示内の優先順位を変更します。 **ドメイン名**：ドメイン名を入力します。 **PDC**：プライマリドメインコントローラー（PDC）のサーバー名またはIPアドレスを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **BDC**：バックアップドメインコントローラー（BDC）のサーバー名またはIPアドレスを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **注 意** • ［NTドメインサーバーを使用］を選択している場合のみ、プライマリドメインコントローラーとバックアップドメインコントローラーを追加できます。 • プライマリドメインコントローラーおよびバックアップドメインコントローラーに誤った設定を行うと、Windowsネットワーク内のプライマリドメインコントローラーおよびバックアップドメインコントローラーを2～4分程度検索するとともに、検索中はタッチパネルのユーザー認証画面の［OK］が反転したままになります。 • **LDAP認証**：カード認証用に割り当てられたサーバーの一覧が表示されます。サーバーを割り当てる場合は［サーバー割り当て］ボタンをクリックして、表示される画面でサーバーを追加します。使用できるサーバーは［LDAPクライアントの設定］で登録します。［上に移動］/［下に移動］で表示内の優先順位を変更します。 📖 P.154「LDAPクライアントの設定」
11	PINコード入力を必須にする	カードによるユーザー認証時にPINコードの入力を必須にするかどうかを設定します。 **補 足** この機能は、PINコード入力に対応している複合機でのみ使用可能です。

	項目名	機能説明
12	共通設定	**ユーザー管理情報の共有**：他のMFPと同期してユーザー情報を管理する場合に、本機をプライマリMFPとするかセカンダリMFPとするかを設定します。 • **無効**：同期しません。 • **有効（プライマリ）**：本機をプライマリMFPとして同期します。 • **有効（セカンダリ）**：本機をセカンダリMFPとして同期します。 **接続タイムアウト**：プライマリMFPとセカンダリMFPが接続できない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。 **注 意** • ［ユーザー管理情報の共有］と［接続タイムアウト］は、［MFP連携］＞［ユーザー管理情報の共有］での設定とリンクしています。 📖 P.232 「ユーザー管理情報の共有」 • 最大10,000人のユーザー情報を同期管理できますが、実質的に同期管理できる最大ユーザー数は2,000人を推奨します。 • セカンダリMFPのユーザー管理画面では、ユーザー情報を作成、編集、削除できません。

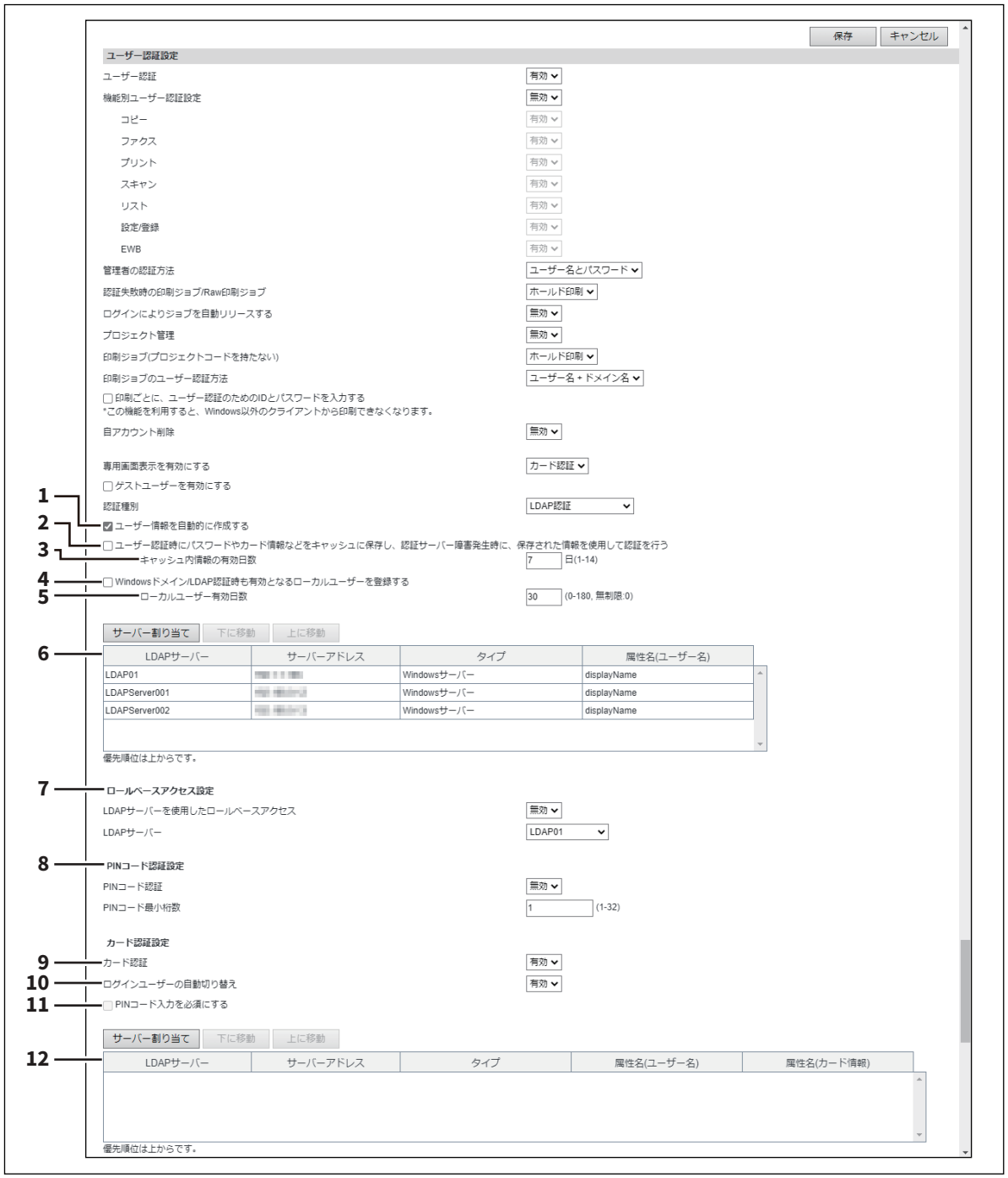
Windowsドメイン認証



	項目名	機能説明
1	ユーザー情報を自動的に作成する	ユーザー情報を自動的に本機に登録するかしないかを設定します。初期値はチェックが入っています。本機にユーザーを登録することで、ユーザーごとのカウンターや割り当て設定を管理できます。 補 足 プリンタードライバーからの印刷時に自動でユーザーを追加する場合は、［ユーザー認証設定］の「印刷ごとに、ユーザー認証のためのIDとパスワードを入力する」を有効にしてください。 P.246 「ユーザー認証設定」
2	ユーザー認証時にパスワードやカード情報などをキャッシュに保存し、認証サーバー障害発生時に、保存された情報を使用して認証を行う	以下の情報の中で、認証方法に応じた情報のみが保存されます。 パスワード、カード番号、ドメイン名、PINコード、ホームディレクトリ情報、RBAC情報 補 足 キャッシュ内の情報は、ユーザーが認証サーバーで認証に成功すると更新されますが、キャッシュ内の情報で認証した場合には情報は更新されません。
3	キャッシュ内情報の有効日数	キャッシュ内の情報を保持する日数を入力します。最終更新日を起点として、1～14日の範囲で設定することができます。
4	Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザーを登録する	この項目にチェックを入れると、外部認証で管理されているMFPに対し、キャッシュ内情報による内部認証でログインできるローカルユーザーを登録できます。
5	ローカルユーザー有効日数	ローカルユーザーの有効日数を入力します。ユーザー作成日を起点として、180日間まで設定できます。0を設定すると、有効日数が無期限になります。
6	NTドメインサーバーを使用	NTドメインコントローラーを使用してドメインを管理している場合はチェックします。
7	ドメイン一覧	Windowsドメイン認証用に割り当てられたドメインの一覧が表示されます。 ドメインを登録する場合は［追加］をクリックして、表示される画面で以下の項目を登録します。ドメインを編集するときは編集したいドメインを選択し、［編集］をクリックします。［削除］で選択したドメインを削除します。 ［上に移動］/［下に移動］で表内の優先順位を変更します。 **ドメイン名**：ドメイン名を入力します。 **PDC**：プライマリドメインコントローラー（PDC）のサーバー名またはIPアドレスを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **BDC**：バックアップドメインコントローラー（BDC）のサーバー名またはIPアドレスを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 注 意 • ［NTドメインサーバーを使用］を選択している場合のみ、プライマリドメインコントローラーとバックアップドメインコントローラーを追加できます。 • プライマリドメインコントローラーおよびバックアップドメインコントローラーに誤った設定を行うと、Windowsネットワーク内のプライマリドメインコントローラーおよびバックアップドメインコントローラーを2～4分程度検索するとともに、検索中はタッチパネルのユーザー認証画面の［OK］が反転したままになります。

	項目名	機能説明
8	接続タイムアウト	PDCおよびBDCのサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。
9	ロールベースアクセス設定	LDAPサーバーを使用したロールベースアクセスを設定します。 **LDAPサーバーを使用したロールベースアクセス**：ロールベースアクセスの有効／無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。 **LDAPサーバー**：ロールベースアクセスを管理するLDAPサーバーを選択します。
10	PINコード認証設定	**PINコード認証**：PINコードによるユーザー認証を設定します。 • **無効**：ユーザー認証にPINコードを使用しません。ユーザー名とパスワードでユーザーを認証します。 • **有効**：ユーザー認証にPINコードを使用します。PINコードの代わりに、ユーザー名とパスワードでユーザー認証することもできます。 **PINコード最小桁数**：PINコードの最少桁数を指定します。
11	カード認証	カード認証を有効にするかしないかを設定します。 注 意 カード認証設定は、e-BRIDGE ID Gateを装着している場合のみ利用できます。
12	ログインユーザーの自動切り替え	カードによるユーザー認証時に、ログインユーザーの自動切り替え機能を有効にするかしないかを設定します。
13	PINコード入力を必須にする	カードによるユーザー認証時に、PINコードの入力を必須にするかどうかを設定します。 補 足 この機能は、PINコード入力に対応している複合機でのみ使用可能です。
14	LDAPサーバー一覧	PINコードまたはカード認証用に割り当てられたサーバーの一覧が表示されます。サーバーを割り当てる場合は［サーバー割り当て］ボタンをクリックして、表示される画面でサーバーを追加します。使用できるサーバーは［LDAPクライアント］の設定で登録します。 ［上に移動］/［下に移動］で表内の優先順位を変更します。 📖 P.154 「LDAPクライアントの設定」 補 足 PINコードまたはカード認証を行うLDAPサーバーとして［Windowsサーバー］を選択すると、ログインした際のユーザー名、および［ユーザー情報を自動的に作成する］が有効の場合に自動的に登録されるユーザーのユーザー名に、以下の属性名のユーザー名が使われます。 • LDAPサーバーにKerberosで接続している場合：sAMAccountName • LDAPサーバーにDigest-MD5、CRAM-MD5、Login、Plain、Simple Bindで接続している場合：displayName

LDAP認証



	項目名	機能説明
1	ユーザー情報を自動的に作成する	ユーザー情報を自動的に本機に登録するかしないかを設定します。初期値はチェックが入っています。本機にユーザーを登録することで、ユーザーごとのカウンターや割り当て設定を管理できます。 補 足 プリンタードライバーからの印刷時に自動でユーザーを追加する場合は、［ユーザー認証設定］の「印刷ごとに、ユーザー認証のためのIDとパスワードを入力する」を有効にしてください。 P.246 「ユーザー認証設定」

	項目名	機能説明
2	ユーザー認証時にパスワードやカード情報などをキャッシュに保存し、認証サーバー障害発生時に、保存された情報を使用して認証を行う	以下の情報が保存されます。 パスワード、カード番号、ドメイン名、PINコード、ホームディレクトリ情報、RBAC情報 上記の中で、認証方法に応じた情報のみが保存されます。 補 足 キャッシュ内の情報は、ユーザーが認証サーバーで認証に成功すると更新されますが、キャッシュ内の情報で認証した場合には情報は更新されません。
3	キャッシュ内情報の有効日数	キャッシュ内の情報を保持する日数を入力します。最終更新日を起点として、1～14日の範囲で設定することができます。
4	Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザーを登録する	この項目にチェックを入れると、外部認証で管理されているMFPに対し、キャッシュ内情報による内部認証でログインできるローカルユーザーを登録できます。
5	ローカルユーザー有効日数	ローカルユーザーの有効日数を入力します。ユーザー作成日を起点として、180日間まで設定できます。0を設定すると、有効日数が無期限になります。
6	LDAPサーバー一覧	LDAP認証用に割り当てられたサーバーの一覧が表示されます。サーバーを割り当てる場合は［サーバー割り当て］ボタンをクリックして、表示される画面でサーバーを追加します。使用できるサーバーは［LDAPクライアント］の設定で登録します。 ［上に移動］/［下に移動］で表内の優先順位を変更します。 P.154 「LDAPクライアントの設定」
7	ロールベースアクセス設定	LDAPサーバーを使用したロールベースアクセスを設定します。 **LDAPサーバーを使用したロールベースアクセス**：ロールベースアクセスの有効／無効を選択します。初期値は［無効］に設定されています。 **LDAPサーバー**：ロールベースアクセスを管理するLDAPサーバーを選択します。
8	PINコード認証設定	**PINコード認証**：PINコードによるユーザー認証を設定します。 • 無効：ユーザー認証にPINコードを使用しません。ユーザー名とパスワードでユーザーを認証します。 • **有効**：ユーザー認証にPINコードを使用します。PINコードの代わりに、ユーザー名とパスワードでユーザー認証することもできます。 **PINコード最小桁数**：PINコードの最少桁数を指定します。
9	カード認証	カード認証を有効にするかしないかを設定します。 注 意 カード認証設定は、e-BRIDGE ID Gateを装着している場合のみ利用できます。
10	ログインユーザーの自動切り替え	カードによるユーザー認証時に、ログインユーザーの自動切り替え機能を有効にするかしないかを設定します。
11	PINコード入力を必須にする	カードによるユーザー認証時に、PINコードの入力を必須にするかどうかを設定します。 補 足 この機能は、PINコード入力に対応している複合機でのみ使用可能です。

	項目名	機能説明
12	LDAPサーバー一覧	PINコードまたはカード認証用に割り当てられたサーバーの一覧が表示されます。サーバーを割り当てる場合は［サーバー割り当て］ボタンをクリックして、表示される画面でサーバーを追加します。使用できるサーバーは［LDAPクライアントの設定］で登録します。 ［上に移動］/［下に移動］で表内の優先順位を変更します。 📖 P.154 「LDAPクライアントの設定」 補 足 PINコードまたはカード認証を行うLDAPサーバーとして［Windowsサーバー］を選択すると、ログインした際のユーザー名、および［ユーザー情報を自動的に作成する］が有効の場合に自動的に登録されるユーザーのユーザー名に、以下の属性名のユーザー名が使われます。 • LDAPサーバーにKerberosで接続している場合 ：sAMAccountName • LDAPサーバーにDigest-MD5、CRAM-MD5、Login、Plain、Simple Bindで接続している場合 ：displayName

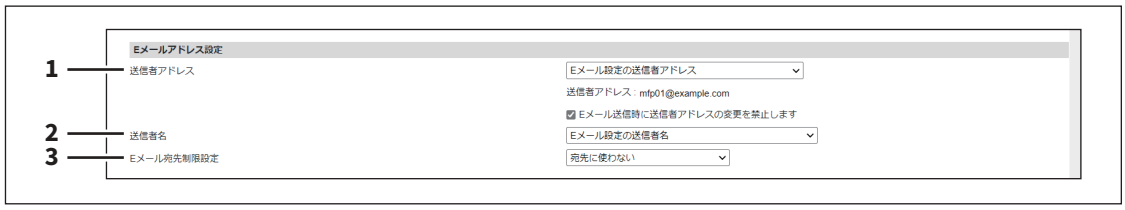
□ Eメール認証

Eメール認証を有効にすると、スキャン画面からEメール送信を行う際に、ユーザーはユーザー名とパスワードの入力が必要になります。

	項目名	機能説明
1	Eメール認証	Eメール認証を有効にするかしないかを設定します。 注 意 Eメール認証を行う場合は、「Eメールアドレス設定」を行う必要があります。 📖 P.260 「Eメールアドレス設定」

□ Eメールアドレス設定

Eメール認証が有効な場合に、Eメールアドレスの設定を行います。



	項目名	機能説明
1	送信者アドレス	送信者アドレスを設定します。 **Eメール設定の送信者アドレス**：Eメール設定で指定した送信者アドレスを設定します。 **ユーザー名+@+メールドメイン名**：送信者アドレスを、「ユーザー名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。 「ユーザー名」には、認証したユーザー名が使用されます。「メールドメイン名」には、［ドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。 これを選択した場合は、［ドメイン名］ボックスを入力します。 **LDAPのユーザー名**：LDAPアドレスから検索した送信者アドレスを設定します。 この機能を選択すると、LDAP認証用に割り当てられたサーバーの一覧が表示され、選択できます。 ［メールドメイン名］ボックスにはLDAPサーバーで検索できなかった場合に使用するメールドメイン名を指定します。 認証したユーザー名を、LDAPサーバーの［属性名（ユーザー名）］で検索します。 認証したユーザー名が指定したスキーマから見つかった場合は、［属性名（Eメール）］で設定されているスキーマの値を送信者アドレスとして設定します。 認証したユーザー名が指定したスキーマから見つからなかった場合は、「ユーザー名＋@＋メールドメイン名」の形式を送信者アドレスとして設定します。 検索対象のサーバーは登録されているLDAPサーバーを4つまで割り当てることができます。割り当てを変更する場合は［サーバー割り当て］ボタンをクリックして、表示される画面でサーバーを追加します。使用できるサーバーは［LDAPクライアント］の設定で登録します。 ［上に移動］/［下に移動］で表内の優先順位を変更します。 📖 P.154 「LDAPクライアントの設定」 **ローカルユーザーに登録したEメールアドレスを使用**：ユーザー情報に登録しているEメールアドレスを設定します。 **Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します**：Eメール送信操作時に、送信者アドレスの変更を許可しない場合は、このチェックボックスをオンにします。

	項目名	機能説明
2	送信者名	送信者名を設定します。 **送信者アドレスのアカウント名+Eメール設定の送信者名**：送信者名を、「送信者アドレスのアカウント名＋Eメール設定の送信者名」の形式で設定します。 **Eメール設定の送信者名**：Eメール設定で指定した送信者名を設定します。 **LDAPのユーザー名**：「送信者アドレス」が「LDAPのユーザー名」に設定されているときは、「送信者名」も自動的に「LDAPのユーザー名」に設定され、LDAPアドレスから検索したEメールアドレスの送信者名になります。 **ログインユーザー名**：ユーザー情報に登録しているログインユーザー名を設定します。

	項目名	機能説明
3	Eメール宛先制限設定	ユーザー認証またはEメール認証が有効の場合、認証されたユーザーの送信者アドレスを宛先に設定するか選択します。 • **宛先に使わない**：宛先には使用しません。 • **送信実行ユーザーのみをToにする**：認証されたユーザーの送信者アドレスのみをTo宛先にします。 • **送信実行ユーザーをToに追加する**：認証されたユーザーの送信者アドレスをTo宛先に追加します。 • **送信実行ユーザーをCcに追加する**：認証されたユーザーの送信者アドレスをCc宛先に追加します。 • **送信実行ユーザーをBccに追加する**：認証されたユーザーの送信者アドレスをBcc宛先に追加します。 「宛先に使わない」以外のいずれかの設定を選択した場合は右側に項目リストが表示されますので、リストから以下のいずれかの項目を選択して自分宛のアドレスを送信者アドレスとは別に指定できます。 **送信者アドレスを使用**：［送信者アドレス］で設定したEメールアドレス（ログインユーザーのEメールアドレス）を使用します。 **Eメール設定の送信者アドレス**：Eメール設定で指定した送信者アドレスを設定します。 **ユーザー名+@+メールドメイン名**：送信者アドレスを、「ユーザー名＋@＋メールドメイン名」の形式で設定します。 「ユーザー名」には、認証したユーザー名が使用されます。「メールドメイン名」には、［ドメイン名］ボックスで設定したドメイン名が使用されます。 これを選択した場合は、［ドメイン名］ボックスを入力します。 **LDAPのユーザー名**：LDAPアドレスから検索した送信者アドレスを設定します。 この機能を選択すると、LDAP認証用に割り当てられたサーバーの一覧が表示され、選択できます。 ［メールドメイン名］ボックスにはLDAPサーバーで検索できなかった場合に使用するメールドメイン名を指定します。 認証したユーザー名を、LDAPサーバーの［属性名（ユーザー名）］で検索します。 認証したユーザー名が指定したスキーマから見つかった場合は、［属性名（Eメール）］で設定されているスキーマの値を送信者アドレスとして設定します。 認証したユーザー名が指定したスキーマから見つからなかった場合は、「ユーザー名＋@＋メールドメイン名」の形式を送信者アドレスとして設定します。 検索対象のサーバーは登録されているLDAPサーバーを4つまで割り当てることができます。割り当てを変更する場合は［サーバー割り当て］ボタンをクリックして、表示される画面でサーバーを追加します。使用できるサーバーは［LDAPクライアント］の設定で登録します。 ［上に移動］/［下に移動］で表内の優先順位を変更します。 📖 P.154 「LDAPクライアントの設定」 **ローカルユーザーに登録したEメールアドレスを使用**：ユーザー情報に登録しているEメールアドレスを設定します。 **Eメール送信時に送信者アドレスの変更を禁止します**：Eメール送信操作時に、送信者アドレスの変更を許可しない場合は、このチェックボックスをオンにします。

□ シングルサインオン設定

Eメール認証を行う場合、スキャン画面からEメール送信を行う際に、ユーザーはユーザー名とパスワードの入力が必要となりますが、シングルサインオン設定を有効にすることにより、この操作が不要となります。

	項目名	機能説明
1	Eメール送信のシングルサインオン	シングルサインオンを有効にするかしないかを設定します。初期値は［無効］に設定されています。

□ ホームディレクトリ設定

ホームディレクトリ設定が有効な場合に、ホームディレクトリの設定を行います。

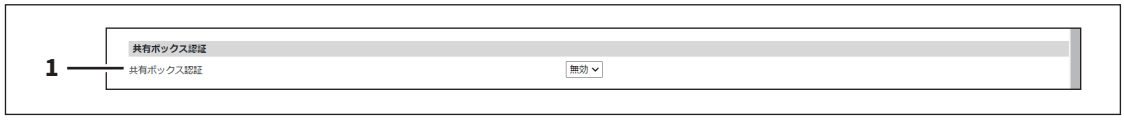
	項目名	機能説明
1	ホームディレクトリ	ホームディレクトリを有効にするかしないかを設定します。
2	ホームディレクトリサーバー	ホームディレクトリサーバーを設定します。 • **ローカルユーザーに登録したホームディレクトリを使用：** ローカルユーザーに登録したホームディレクトリを使用します。［認証種別］として［内部認証］を選択している場合にのみ、この設定を利用できます。 • **ユーザー認証のサーバーを使用する：** ユーザー認証で指定しているサーバーをホームディレクトリサーバーとして設定します。 • **ユーザー認証のサーバーを使用する（カード認証時は指定サーバーを使用する）：** ユーザー認証で指定しているサーバーをホームディレクトリサーバーとして設定します。ただし、カード認証する場合は、指定されているサーバーをホームディレクトリサーバーとして設定します。 • **指定サーバーを使用する：** ホームディレクトリサーバーを指定します。 「ユーザー認証のサーバーを使用する（カード認証時は指定サーバーを使用する）」または「指定サーバーを使用する」を選択した場合は、LDAPサーバーのリストが表示されます。サーバーは3つまで設定でき、［プライマリ］をクリックしてプライマリサーバーを選択します。 ホームディレクトリサーバーを指定するには、リストのサーバー名をクリックして［ホームディレクトリサーバー設定］画面を開き、各サーバー名に対してホームディレクトリサーバーを選択します。指定しない場合は、［無効］を選択します。

□ 共有ボックス認証

共有ボックスのパスワード認証を設定できます。

注 意

この設定により、共有ボックスをパスワードで保護することができます。共有ボックスのパスワードは、ファイリングボックス内から開くことができる共有ボックスのプロパティウィンドウで設定してください。



	項目名	機能説明
1	共有ボックス認証	共有ボックスのパスワード認証を有効または無効にします。 • **無効**：パスワード認証を無効にします。共有ボックスへアクセスする際、パスワードの入力は不要です。 • **有効**：パスワード認証を有効にします。共有ボックスへアクセスする際、正しいパスワードの入力が必要となります。

■ 証明書管理

デバイス証明、クライアント証明などの管理ができます。

補 足

［証明書管理］サブメニューは、［管理者］＞［セキュリティ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セキュリティ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.244 「［セキュリティ］項目説明一覧」

□ デバイス証明書

無線LAN、IEEE 802.1X認証、IPsec、またはSSL/TLSを利用した暗号化通信を行うときのデバイス証明書の設定を行います。

	項目名	機能説明
1	自己証明書	お使いの機器からSSL/TLSを利用した暗号化通信の証明書を作成します。 **［作成］ボタン**：［自己証明書作成］画面が表示され、証明書に必要な項目を設定して、自己証明書を作成します。 📖 P.266 「［自己証明書作成］画面」 **［エクスポート］ボタン**：作成した自己証明書をエクスポートします。
2	インポート	無線LAN、IEEE 802.1X認証、IPsec、またはSSL/TLSを利用した暗号化通信の証明書をインポートします。 **［ファイルの選択］ボタン**：証明書ファイルを選択します。 **［アップロード］ボタン**：選択した証明書ファイルをアップロードします。 **［削除］ボタン**：登録済みの証明書ファイルを削除します。

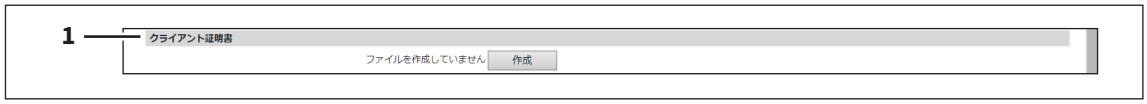
	項目名	機能説明
3	SCEP（自動取得）	IPsecまたはSSL/TLSを利用した暗号化通信の証明書を自動取得します。 **CAサーバーアドレス（プライマリ）**：CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **CAサーバーアドレス（セカンダリ）**：CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **証明書内Common NameのMFPアドレス**：証明書のCommon Nameに記述する本機のアドレスを、IPアドレスまたはFQDNのどちらにするかを選択します。初期値は［IPアドレス］に設定されています。 **タイムアウト**：CAサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～120秒の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。 **CAチャレンジ**：CAチャレンジのパスワードを設定します。半角英数字32文字まで入力できます。はじめてパスワード長を拡張する場合は、最大32英数字を入力する必要があります。 **SAN**：必要に応じてSAN属性を設定します。||で区切り、DNS、IPアドレス、URI、Eメールアドレス、OIDを入力します。DNSは半角英数字と . - で253文字まで入力できます。URIは半角英数字と - . _ ~ : / ? # ! @ $ '( ) * + ; =が使用できます。Eメールアドレスは@ . を含む必要があります。 **署名アルゴリズム**：署名のアルゴリズムをSHA1かMD5を選択します。 **ポーリング間隔**：ポーリング間隔を設定します。初期値は「1分」に設定されています。 **ポーリング持続時間**：ポーリングを行う時間を設定します。初期値は「8時間」に設定されています。 **［リクエスト］ボタン**：ボタンを押すと証明書をリクエストします。 **［削除］ボタン**：登録済みの証明書を削除します。

［自己証明書作成］画面

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	自己証明書を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	作成を中止します。
3	国/地域名	半角英数字と記号2文字で国名または地域名を入力します。（例：JP）
4	都道府県名	半角英数字と記号で都道府県名を入力します。最大128文字まで入力できます。
5	市区町村名	半角英数字と記号で市区町村名を入力します。最大128文字まで入力できます。
6	組織名	半角英数字と記号で組織名を入力します。最大64文字まで入力できます。
7	部署名	半角英数字と記号で部署名を入力します。最大64文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
8	一般名	半角英数字と記号で本機のFQDNまたはIPアドレスを名前として入力します。最大64文字まで入力できます。
9	Eメールアドレス	半角英数字と記号でEメールアドレスを入力します。最大64文字まで入力できます。
10	有効期間	自己証明書の有効月数を入力します。

□ クライアント証明書

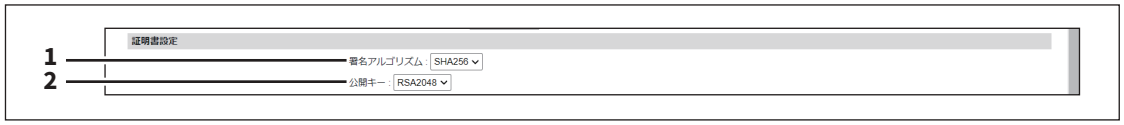


	項目名	機能説明
1	クライアント証明書	クライアントの証明書を作成します。 **［作成］ボタン**：［クライアント証明書作成］画面が表示され、証明書に必要な項目を設定して、クライアント証明書を作成します。 📖 P.267 「［クライアント証明書作成］画面」

［クライアント証明書作成］画面

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	クライアント証明書を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	作成を中止します。
3	国/地域名	半角英数字と記号2文字で国名または地域名を入力します。（例：JP）
4	都道府県名	半角英数字と記号で都道府県名を入力します。最大128文字まで入力できます。
5	市区町村名	半角英数字と記号で市区町村名を入力します。最大128文字まで入力できます。
6	組織名	半角英数字と記号で組織名を入力します。最大64文字まで入力できます。
7	部署名	半角英数字と記号で部署名を入力します。最大64文字まで入力できます。
8	一般名	半角英数字と記号でクライアントコンピューターのFQDNまたはIPアドレスを名前として入力します。最大64文字まで入力できます。
9	有効期間	自己証明書の有効月数を入力します。
10	パスワード	半角英数字と記号で証明書のパスワードを入力します。最大64文字まで入力できます。

□ 証明書設定



注 意

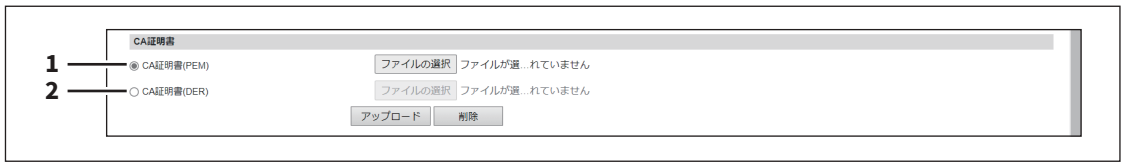
電子署名付きPDFをPDF/A-1bファイルフォーマット作成する場合は、署名アルゴリズム［SHA1］を、公開キー［RSA1024］を選択する必要があります。

📖 P.118 「PDF/Aファイルフォーマット設定」

	項目名	機能説明
1	署名アルゴリズム	証明書の署名アルゴリズムを選択します。 • **SHA1**：SHA1を使用します。 • **SHA256**：SHA256を使用します。 • **SHA384**：SHA384を使用します。 • **SHA512**：SHA512を使用します。 **補 足** 自己証明書の作成時、署名アルゴリズムは「SHA256/SHA384/SHA512」のいずれかを選択してください。
2	公開キー	証明書の公開キーを選択します。 • **RSA1024**：RSA1024を使用します。 • **RSA2048**：RSA2048を使用します。 **補 足** 自己証明書の作成時、公開キーは「RSA2048」を選択してください。

□ CA証明書

SMTPクライアントの設定、POP3の設定、FTPクライアントの設定、LDAPサービス、およびSyslog設定でSSL/TLS使用を［登録されたCA証明書を使用する］にしたい場合は、CA証明書をインストールする必要があります。CA証明書は最大10個まで登録することができます。



	項目名	機能説明
1	CA証明書（PEM）	PEM形式の証明書を選択します。 **［アップロード］ボタン**：証明書をアップロードします。 **［削除］ボタン**：登録済みの証明書を削除します。
2	CA証明書（DER）	DER形式の証明書を選択します。 **［アップロード］ボタン**：証明書をアップロードします。 **［削除］ボタン**：登録済みの証明書を削除します。

□ 証明書ファイル

登録済みの証明書ファイルの一覧が表示されます。

■ パスワードポリシー

登録するパスワードのポリシーを設定できます。

補 足

［パスワードポリシー］サブメニューは、［管理者］＞［セキュリティ］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［セキュリティ］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

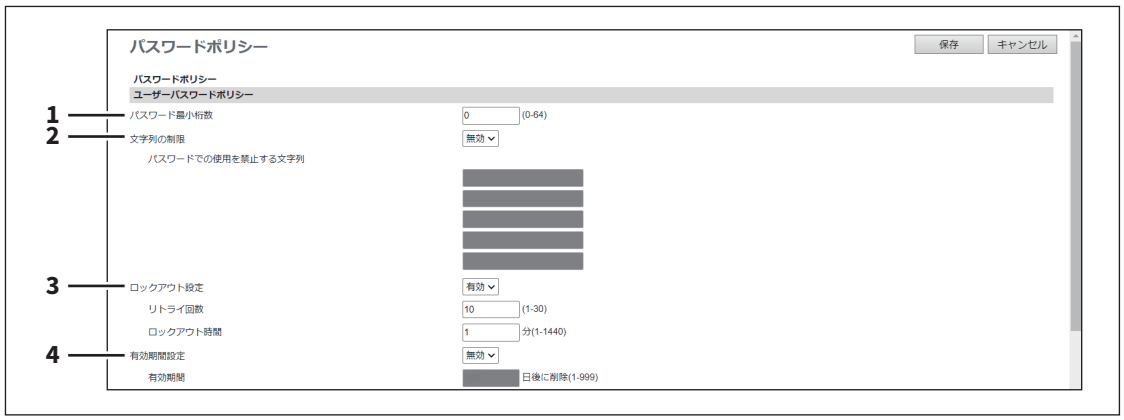
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.244 「［セキュリティ］項目説明一覧」

□ ユーザーパスワードポリシー

ユーザーとして登録する場合のポリシーを設定します。

補 足

設定を変更した場合、変更内容は次回ログイン時から反映されます。

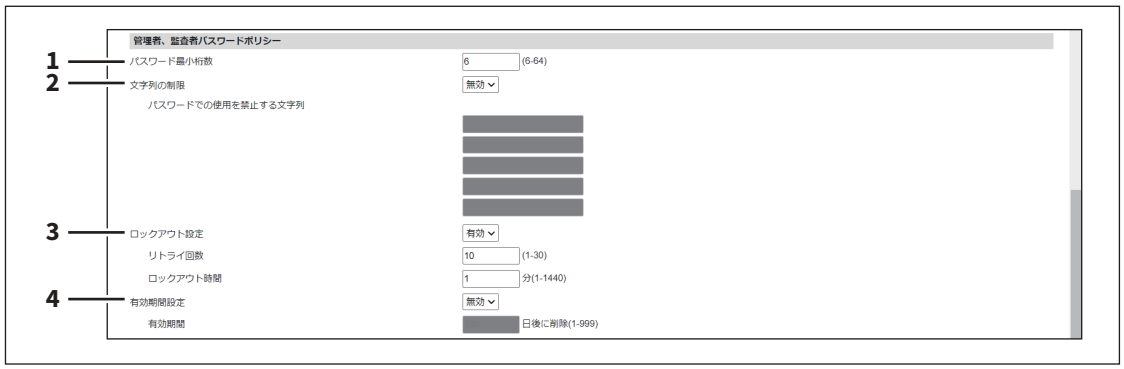


	項目名	機能説明
1	パスワード最小桁数	パスワードの最小桁数を設定します。0～64の範囲で設定します。初期値は「0」に設定されています。
2	文字列の制限	パスワードに使用する文字列の登録制限を有効にします。初期値は［無効］に設定されています。 **登録制限**： • ユーザー名と同じパスワードは登録できません。 • 使用していたパスワードと同じパスワードは登録できません。 • 連続または繰り返された文字列のパスワードは登録できません。 • 文字列の制限テキストボックスに入力されている文字が含まれているパスワードは登録できません。
3	ロックアウト設定	パスワードを間違えた場合にロックアウト設定を有効にするか設定します。初期値は［有効］に設定されています。 **リトライ回数**：パスワードの入力を何回間違えるとロックアウトするか設定します。1～30回の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。 **ロックアウト時間**：ロックアウトする時間を設定します。1～1440分の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。 補 足 リトライ回数の設定を変更したことにより、変更後のリトライ回数に達しているユーザーは、ロックアウトされます。また、ロックアウトされたことはログに保存されます。

	項目名	機能説明
4	有効期間設定	パスワードに有効期間を設定する場合に［有効］にします。初期値は［無効］が設定されています。 **有効期間**：パスワードの有効期間を設定します。1～999日の範囲で設定します。初期値は「180」に設定されています。 補 足 有効期間で設定された日数が経過すると、次回ユーザーがログインしたときに、パスワード変更を促す画面が表示されます。

□ 管理者、監査者パスワードポリシー

管理者や監査者として登録する場合のポリシーを設定します。

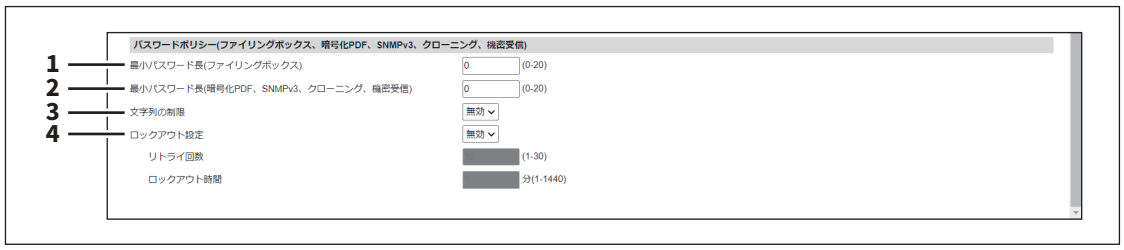


	項目名	機能説明
1	パスワード最小桁数	パスワードの最小桁数を設定します。6～64の範囲で設定します。初期値は「6」に設定されています。
2	文字列の制限	パスワードに使用する文字列の登録制限を有効にします。初期値は［無効］に設定されています。 **登録制限**： • ユーザー名と同じパスワードは登録できません。 • 使用していたパスワードと同じパスワードは登録できません。 • 連続または繰り返された文字列のパスワードは登録できません。 • 文字列の制限テキストボックスに入力されている文字が含まれているパスワードは登録できません。
3	ロックアウト設定	パスワードを間違えた場合にロックアウト設定を有効にするか設定します。初期値は［有効］に設定されています。 **リトライ回数**：パスワードの入力を何回間違えるとロックアウトするか設定します。1～30回の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。 **ロックアウト時間**：ロックアウトする時間を設定します。1～1440分の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。 補 足 リトライ回数の設定を変更したことにより、変更後のリトライ回数に達しているユーザーは、ロックアウトされます。また、ロックアウトされたことはログに保存されます。

	項目名	機能説明
4	有効期間設定	パスワードに有効期間を設定する場合に［有効］にします。初期値は［無効］が設定されています。 **有効期間**：パスワードの有効期間を設定します。1～999日の範囲で設定します。初期値は「180」に設定されています。 補 足 有効期間で設定された日数が経過すると、次回ユーザーがログインしたときに、パスワード変更を促す画面が表示されます。

□ パスワードポリシー（ファイリングボックス、暗号化PDF、SNMPv3、クローニング、機密受信）

操作やアプリケーションなどお使いの機器で使用するパスワードのポリシーを設定します。



	項目名	機能説明
1	最小パスワード長（ファイリングボックス）	ファイリングボックスで使用するパスワードの最小桁数を設定します。0～20 の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。
2	最小パスワード長（暗号化PDF、SNMPv3、クローニング、機密受信）	暗号化PDF、SNMPv3、クローニング、機密受信で使用するパスワードの最小桁数を設定します。0～20*1の範囲で設定します。初期値は「0」に設定されています。
3	文字列の制限	パスワードに使用する文字列の登録制限を有効にします。初期値は［無効］に設定されています。 **登録制限**： • ファイル名と同じパスワードは登録できません。*2 • 使用していたパスワードと同じパスワードは登録できません。
4	ロックアウト設定 *3	パスワードを間違えた場合にロックアウト設定を有効にするか設定します。初期値は［無効］に設定されています。 **リトライ回数**：パスワードの入力を何回間違えるとロックアウトするか設定します。1～30回の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。 **ロックアウト時間**：ロックアウトする時間を設定します。1～1440分の範囲で設定します。初期値は「1」に設定されています。 補 足 リトライ回数の設定を変更したことにより、変更後のリトライ回数に達しているユーザーは、ロックアウトされます。また、ロックアウトされたことはログに保存されます。

＊1　SNMP v3および暗号化PDFファイルの場合、パスワードは1桁以上必要になります。
＊2　クローニングの場合、ファイル名と同じパスワードも登録できます。
＊3　ロックアウト設定は、ファイリングボックス利用時のみ有効となります。

■ セキュリティスタンプ設定

印刷やファクス送信の画像の端に、日時、ユーザー名などの情報を付加します。

	項目名	機能説明
1	プリント	**コピー**：コピージョブに付加するかどうかを設定します。初期値は［無効］に設定されています。 **プリンター**：印刷ジョブに付加するかどうかを設定します。初期値は［無効］に設定されています。 **ファイリングボックス**：ファイリングボックスジョブに付加するかどうかを設定します。初期値は［無効］に設定されています。
2	ファクス	**送信**：ファクス送信ジョブに付加するかどうかを設定します。初期値は［無効］に設定されています。
3	ジョブID	スタンプにジョブIDを入れるかどうかを設定します。
4	日付と時間	スタンプに日時を入れるかどうかを設定します。 • **日付**：日付を印刷します。 • **日付と時間**：日付と時間を印刷します。
5	カードID	スタンプにカードIDを入れるかどうかを設定します。
6	ユーザー名	スタンプにユーザー名を入れるかどうかを設定します。
7	シリアル番号	スタンプに機体のシリアル番号を入れるかどうかを設定します。
8	部門名称	スタンプに部門名称を入れるかどうかを設定します。
9	任意の文字	スタンプに任意の文字を入れるかどうかを設定します。半角英数字で最大32文字、全角で最大16文字まで入力できます。

注 意

発信元記録（TTI）とセキュリティスタンプの両方を付加する場合、発信元記録が1行目、セキュリティスタンプが2行目に付加されます。
また、セキュリティスタンプはファクスの画像の上端5mmに付加されるため、受信画像の上端5mmが印刷されません。

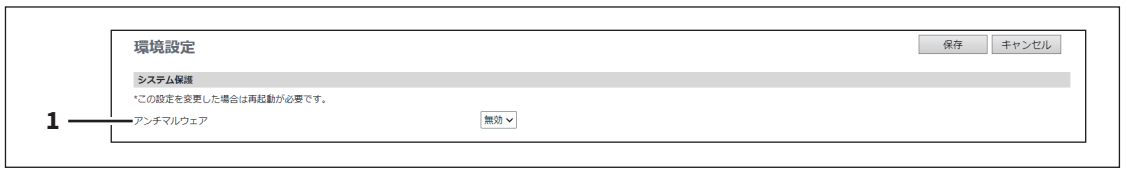
補 足

スタンプに日時を入れる場合、セキュリティスタンプでは1ページ目の送信日時が全ページに印刷されます。発信元記録の場合は各ページの送信日時が印刷されます。

■ 環境設定

□ システム保護

本機のシステムをマルウェアから保護することができます。本機で実行できるアプリケーションの情報を自動的に更新して、マルウェアを監視できます。この機能が有効な状態で不明なアプリケーションを実行すると、本機にメッセージログを残し、操作パネルにサービスコールを表示します。本機が再起動しても、そのアプリケーションを実行しないでください。詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。



	項目名	機能説明
1	アンチマルウェア	アンチマルウェア機能を有効にするかどうかを選択します。実行中のジョブがないときに設定を変更して保存し、本機を再起動すると、設定が有効になります。 • **有効**：アンチマルウェア機能を有効にします。本機の操作パネルのカウンター画面にアンチマルウェアのアイコンが現れ、マルウェアの活動を監視します。 • **無効**：アンチマルウェア機能を無効にします。

補 足

［保守］メニューは［管理者］から、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザーがアクセスできます。
アクセス方法は、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」

■ ソフトウェアのアップロード

お使いの機器に内蔵されているクライアントソフトウェアを更新することができます。ユーザーは、TopAccessの［ソフトウェアのインストール］リンクから自分のコンピューターにクライアントソフトウェアをダウンロードすることができます。

- クライアントソフトウェアインストーラー
- Mac PPDファイル
- UNIXフィルター

注 意

新しいクライアントソフトウェアをアップロードした場合、以前アップロードした古いバージョンのクライアントソフトウェアを上書きします。

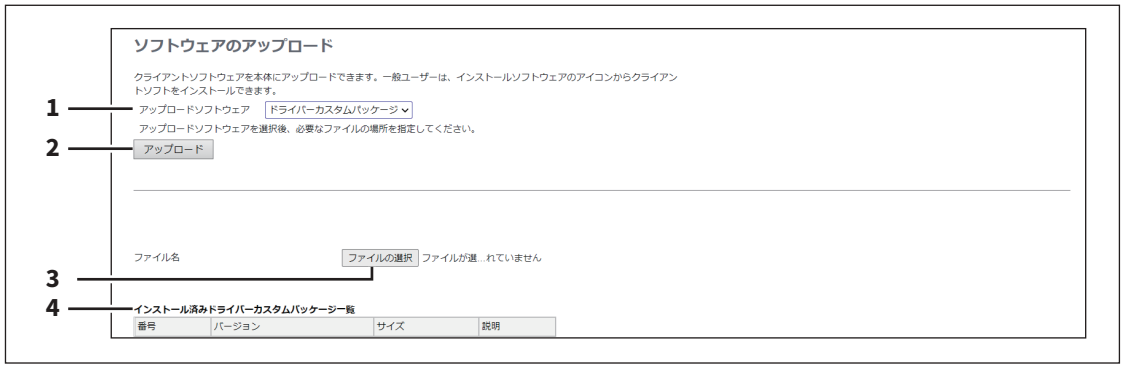
補 足

アップロード用のファイルはクライアントソフトウェアごとに以下のように提供されます。

- **ドライバーファイル**：
  ・インストーラー付きのドライバーファイルの入手については、サービスエンジニアにご連絡ください。
  ・Client Utilities/User Documentation DVDの「Client¥Drivers」のフォルダーをZIP形式で圧縮してアップロードするドライバーファイルを作成できます。
  📖 P.275 「アップロードするドライバーファイルを準備する」
- **Mac PPDファイル**：Client Utilities/User Documentation DVDの「MacPPD」フォルダーにあります。両面印刷が標準のPPDファイルは、「2-sided_default」フォルダーに収録されています。片面印刷のPPDファイルは、「normal」フォルダーに収録されています。
- **UNIXフィルター**：Client Utilities/User Documentation DVDの「Admin¥BW_Unix_Linux」フォルダー（モノクロ印刷対応）、または「Admin¥Color_Unix_Linux」フォルダー（カラー印刷対応）内のワークステーションごとのフォルダーにフィルターが収録されています。CUPSで両面印刷が標準のフィルターは、「2-sided_default」フォルダーに収録されています。片面印刷のフィルターは、「normal」フォルダーに収録されています。

アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」
［ソフトウェアのアップロード］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。

［ドライバーカスタムパッケージ］選択時



	項目名	機能説明
1	アップロードソフトウェア	お使いの機器にアップロードするアップロードソフトウェアを選択します。 • **Driver Files**：クライアントソフトウェアのインストーラーファイルをアップロードします。 • **Mac PPD Files**：macOSで使用するPPDファイルをアップロードします。 • **Unix Filters**：UNIXワークステーション用のtarファイルをアップロードします。 • **ドライバーカスタムパッケージ**：プリンタードライバー用のカスタムパッケージをアップロードします。 **［OK］ボタン**：選択したソフトウェアを確定します。
2	［アップロード］ボタン	参照した設定ファイルをアップロードします。
3	［ファイルの選択］ボタン	アップロードする設定ファイルを参照します。それぞれ対応する設定ファイルを指定してください。 **注 意** それぞれのボックスの左側には、ファイル名が表示されます。各ボックスには、必ず同じファイルを指定してください。
4	インストール済みドライバーカスタムパッケージ一覧	インストールされているカスタムパッケージファイルの一覧を表示します。

□ アップロードするドライバーファイルを準備する

1 **Client Utilities/User Documentation DVDをコンピューターにセットします。**

2 **ドライバーファイルとプラグインファイルが収録されているフォルダーを開きます。**

「Client¥Drivers」フォルダーに収録されています。

3 **フォルダーをZIP形式で圧縮して、アップロード用のドライバーファイルを作成します。**

フォルダー名	作成するZIPファイル名	備考
UNI	univ.zip	Universal Printerドライバー
PS	ps3.zip	PS3プリンタードライバー（PostScript）

補 足

作成するZIPファイル名は、TopAccess画面に表示されているファイル名に合わせてください。ファイル名は大文字／小文字を区別します。ファイル名が異なる場合、アップロードすることができません。

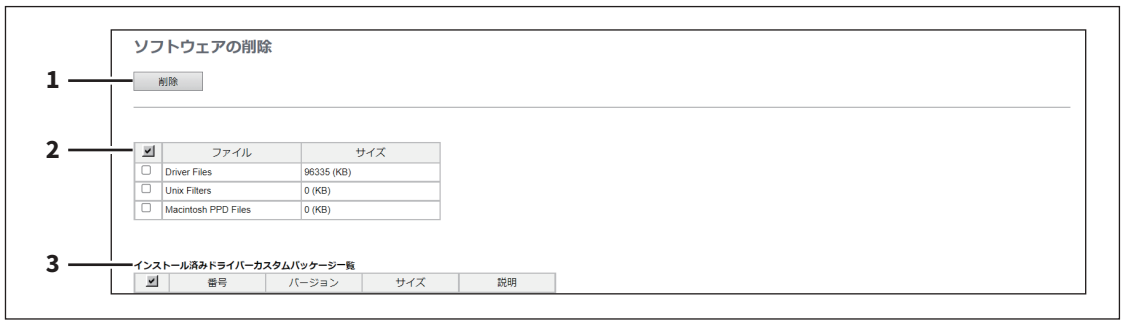
■ ソフトウェアの削除

お使いの機器にアップロードしたソフトウェアを削除することができます。

補 足

［ソフトウェアの削除］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

P.15 「アクセスポリシーモード」
P.274 「［保守］項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択したソフトウェアを削除します。 ソフトウェア一覧から削除するソフトウェアを選択しクリックします。
2	ソフトウェア一覧	お使いの機器にアップロードされているソフトウェアの一覧を表示します。 削除するソフトウェアにチェックを入れます。
3	インストール済みドライバーカスタムパッケージ一覧	インストールされているカスタムパッケージファイルの一覧を表示します。 削除するファイルにチェックを入れます。

■ クローンファイル作成

お使いの機器の環境のクローンファイルを作成できます。
作成したクローンファイルを他の機器にインストールすることで、お使いの機器のクローン環境が構築されます。
クローンファイルの詳細や使いかたについては、サービスエンジニアにお問い合わせください。

注 意

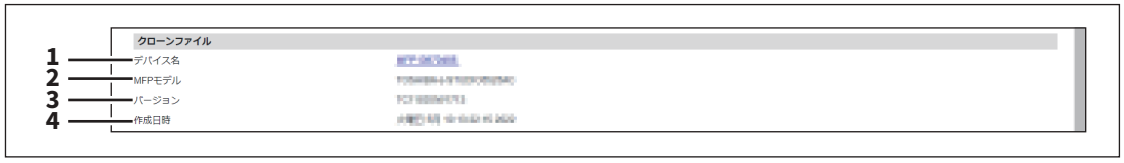
- クローンファイルは他の複合機にインストールすることができます。インストールできる機種については、サービスエンジニアにお問い合わせください。
- 東芝テック株式会社（以下、東芝テック）の製品（プリンター、複合機）を利用する利用者は、製品に保存されたデータ（フォント、ICCプロファイル等のデータ、ならびに利用者自身がダウンロードして追加したデータを含む）のクローニングを行う場合は、当該データに関する権利の帰属並びにデータ利用条件等を確認の上、利用者自身の責任においてクローニングを行ってください。
  利用者がデータのクローニングを行うにあたり、東芝テックおよび東芝テックグループ関係各社はいかなる保証もしません。利用者がデータのクローニングを行ったことにより、製品の不具合、利用者への損害、その他いかなる結果が生じようとも、東芝テックおよび東芝テックグループ関係各社は一切責任を負いません。
- LDAPロールのクローニングを行うときは、複合機間で整合性のあるのLDAP設定にしてください。
- 他機種などからクローンファイルをインストールすると、正しく動作しない場合があります。このため、復旧手段として、クローンファイルをインストールする前に、インストール予定の複合機でクローンファイルを作成・保管してください。

補 足

［クローンファイル作成］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」

	項目名	機能説明
1	［作成］ボタン	カテゴリ設定で選択されたカテゴリのクローンファイルを作成します。 クリックするとクローンファイルに設定するパスワード設定画面が表示されます。

□ クローンファイル



	項目名	機能説明
1	デバイス名	作成したクローンファイルのデバイス名（名称）を表示します。 デバイス名をクリックするとクローンファイルをダウンロードすることができます。
2	MFPモデル	作成したクローンファイルのMFPモデルを表示します。

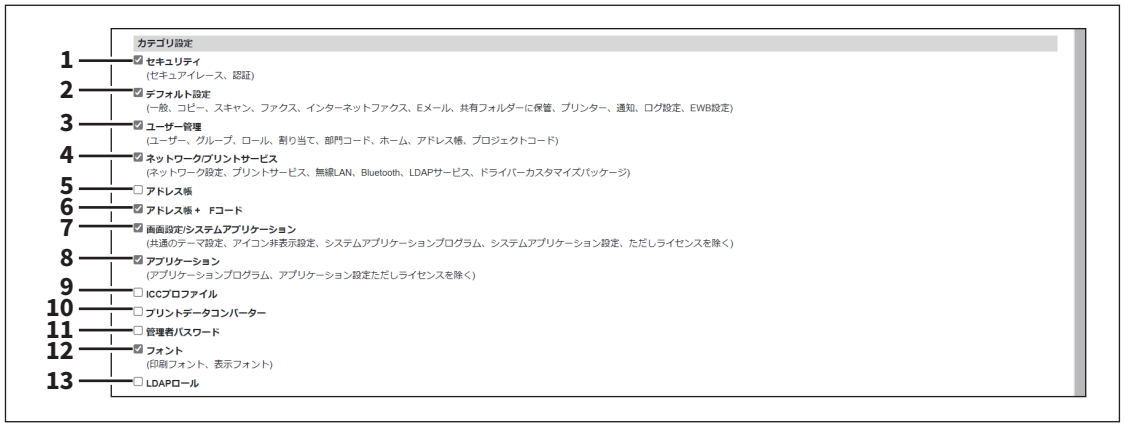
	項目名	機能説明
3	バージョン	作成したクローンファイルのシステムROMバージョンを表示します。
4	作成日時	クローンファイルの作成日時を表示します。

□ カテゴリ設定

クローンファイルにカテゴリを選択します。

補 足

クローンファイルには、チェックを入れたカテゴリの「機能説明」に書かれている設定が含まれます。



	項目名	機能説明
1	セキュリティ	セキュアイレース、認証の設定をクローンファイルに含めます。
2	デフォルト設定	一般、コピー、スキャン、ファクス、インターネットファクス、Eメール、共有フォルダーに保管、プリンター、通知、ログ設定、EWB設定をクローンファイルに含めます。
3	ユーザー管理	ユーザー、グループ、ロール、割り当て、部門コード、ホーム、アドレス帳、プロジェクトコードをクローンファイルに含めます。
4	ネットワーク/プリントサービス	ネットワーク設定、プリントサービス、無線LAN、Bluetooth、LDAPサービス、ドライバーカスタマイズパッケージをクローンファイルに含めます。
5	アドレス帳	アドレス帳をクローンファイルに含めます。
6	アドレス帳+Fコード	アドレス帳、Fコードをクローンファイルに含めます。
7	画面設定/システムアプリケーション	共通のテーマ設定、アイコン非表示設定、システムアプリケーションプログラム、システムアプリケーション設定（ライセンスを除く）をクローンファイルに含めます。
8	アプリケーション	アプリケーションプログラムやアプリケーション設定（ライセンスを除く）をクローンファイルに含めます。
9	ICCプロファイル	TopAccessからインストールしたICCプロファイルをクローンファイルに含めます。 注 意 • ICCプロファイルはカラー機のみで選択できます。 • ICCプロファイルによっては、使用するためのライセンスが必要です。
10	プリントデータコンバーター	プリントデータコンバーターの設定をクローンファイルに含めます。
11	管理者パスワード	初期登録管理者のパスワードをクローンファイルに含めます。

	項目名	機能説明
12	フォント	印刷または表示用にダウンロードしたフォントをクローンファイルに含めます。 **注 意** フォントによっては、使用するためのライセンスが必要です。
13	LDAPロール	LDAPロール情報をクローンファイルに含めます。

■ クローンファイルのインストール

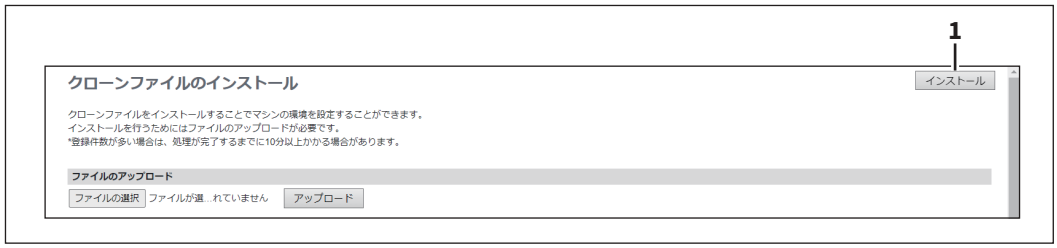
作成済みのクローンファイルをインストールすることができます。
他の機器で作成したクローンファイルをインストールすることで、クローン環境が構築することができます。

注 意

- クローンファイルをインストールする前に、［ジョブ］で実行中や実行待ちのジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、クローンファイルをインストールすることができません。
  📖 P.24 「［ジョブ］の概要説明」
- クローンファイルをインストールした後は、ガイダンスに従い本機を再起動してください。インストール実行画面を閉じるなどして本機を再起動しなかった場合は、手動で再起動してください。
- カラー機とモノクロ機の間でクローニングを行うと、スリープモードの動作が変わる場合があります。機器の電源が予期せずオフになったり、スリープモードが希望どおりに動作しない場合は、スリープモードの設定を確認してください。
  📖 P.109 「節電モード設定」

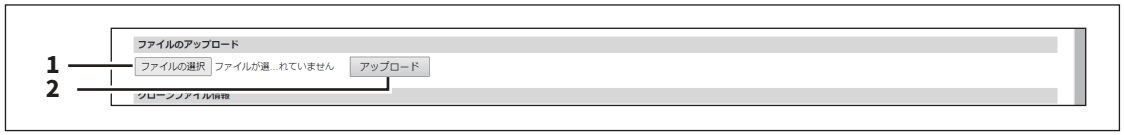
補 足

- ［クローンファイルのインストール］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
  📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
  📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」
- クローンファイルのインストールが終了すると、画面に参照リンクが表示されますので、クリックするとインストールの結果を記録したファイルをダウンロードできます。



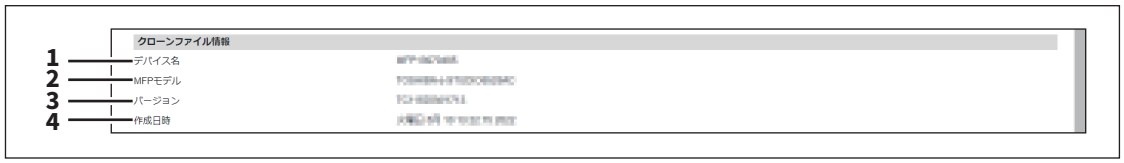
	項目名	機能説明
1	［インストール］ボタン	選択されているクローンファイルをインストールします。 クリックするとクローンファイル作成時に設定したパスワードの入力を求めるダイアログが表示されます。

□ ファイルのアップロード



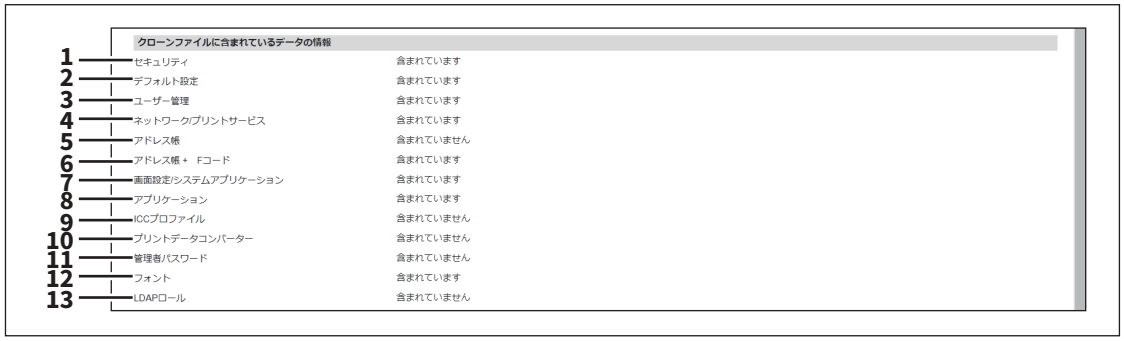
	項目名	機能説明
1	［ファイルの選択］ボタン	クローンファイルを選択します。
2	［アップロード］ボタン	選択したクローンファイルのクローンファイル情報とクローンファイルに含まれているデータの情報を表示します。

□ クローンファイル情報



	項目名	機能説明
1	デバイス名	作成したクローンファイルのデバイス名を表示します。
2	MFPモデル	作成したクローンファイルのMFPモデルを表示します。
3	バージョン	作成したクローンファイルのシステムROMバージョンを表示します。
4	作成日時	クローンファイルの作成日時を表示します。

□ クローンファイルに含まれているデータの情報



	項目名	機能説明
1	セキュリティ	セキュアイレース、認証の設定が含まれているか表示します。
2	デフォルト設定	一般、コピー、スキャン、ファクス、インターネットファクス、Eメール、共有フォルダーに保管、プリンター、通知、ログ設定、EWB設定が含まれているか表示します。
3	ユーザー管理	ユーザー、グループ、ロール、割り当て、部門コード、ホーム、アドレス帳、プロジェクトコードが含まれているか表示します。 補 足 アドレス帳が含まれていない設定でユーザー管理が含まれる設定の場合、アドレス帳の情報を含めるかチェックボックスで選択を行います。アドレス帳を含めない選択をした場合、アドレス帳から登録した宛先は入力しなおす必要があります。

	項目名	機能説明
4	ネットワーク/プリントサービス	ネットワーク設定、プリントサービス、無線LAN、Bluetooth、LDAPサービス、ドライバーカスタマイズパッケージが含まれているか表示します。
5	アドレス帳	アドレス帳が含まれているか表示します。
6	アドレス帳+Fコード	アドレス帳、Fコードが含まれているか表示します。
7	画面設定/システムアプリケーション	共通のテーマ設定、アイコン非表示設定、システムアプリケーションプログラム、システムアプリケーション設定（ライセンスを除く）が含まれているか表示します。
8	アプリケーション	アプリケーションプログラムやアプリケーション設定（ライセンスを除く）が含まれているか表示します。
9	ICCプロファイル	TopAccessからインストールしたICCプロファイルが含まれているか表示します。モノクロ機および一部のモデルでは表示されません。
10	プリントデータコンバーター	プリントデータコンバーターの設定が含まれているか表示します。
11	管理者パスワード	初期登録管理者のパスワードが含まれているか表示します。
12	フォント	印刷または表示用にダウンロードしたフォントが含まれているか表示します。
13	LDAPロール	LDAPロールが含まれているか表示します。

■ インポート

他の機器からエクスポートされたアドレス帳データや部門コード情報をインポートすることができます。

補 足

［インポート］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」

注 意

データをインポートする前に、［ジョブ］で実行中や実行待ちのジョブがないことを確認してください。これらのジョブがある場合、データをインポートすることができません。
データのインポートに時間がかかる場合は、お使いの機器がスリープモードに入ってからデータのインポートを行ってください
📖 P.24 「［ジョブ］の概要説明」

□ アドレス帳

他の機器のアドレス帳や、異なるアドレス帳プログラムからCSV形式またはXML形式でエクスポートされたアドレス情報をインポートすることができます。
アドレス帳のインポート方法は、本機に登録済みのアドレス帳にインポートしたアドレス帳の情報を追加する方法と、登録済みのアドレス帳をすべて削除してインポートしたアドレス帳の情報に書き換える方法があります。
アドレス帳データを作成する場合は、CSV形式/XML形式でアドレス帳をエクスポートしてから編集することをお勧めします。

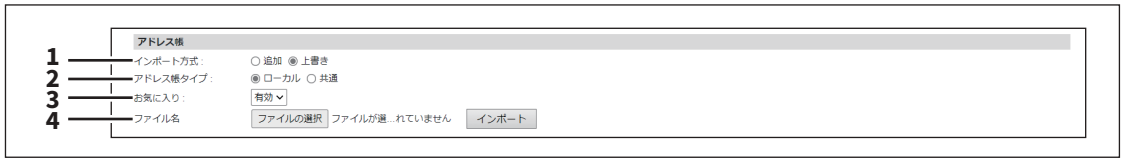
注 意

各項目の指定されている文字数を超える場合は、アドレス帳はインポートできません。
使用できない文字を入力しているときは「！」で置き換えられます。

- 姓：全角で32文字
- 名：全角で32文字
- 索引：全角カタカナで64文字
- Eメールアドレス：半角英数字で192文字
- 電話番号：半角数字で128文字
- 電話番号2：半角数字で128文字
- 会社名：全角で64文字
- 部署名：全角で64文字
- 備考：256文字
- SUB：20文字
- SID：20文字
- SEP：20文字
- PWD：20文字

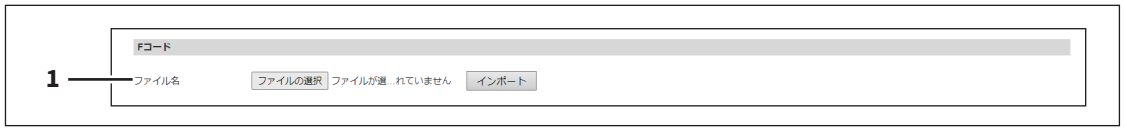
補 足

インポートしたアドレス帳のデータには、グループデータは含まれません。



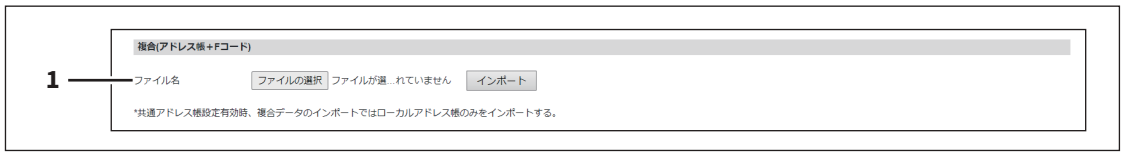
	項目名	機能説明
1	インポート方式	アドレス帳のインポート方式を設定します。 **追加**：登録済みのデータにインポートした情報を追加します。 **上書き**：登録済みのデータをすべて削除してインポートした情報に書き換えます。
2	アドレス帳タイプ	共通アドレス帳機能を使用しているときは、インポート対象として「ローカル」、「共通」を選択します。
3	お気に入り	お気に入りの情報を有効にするかどうかを設定します。初期値は［有効］に設定されています。
4	ファイル名	インポートするアドレス帳のファイルを選択します。 **［ファイルの選択］ボタン**：アドレス帳のファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択したアドレス帳のファイルをインポートします。

□ Fコード



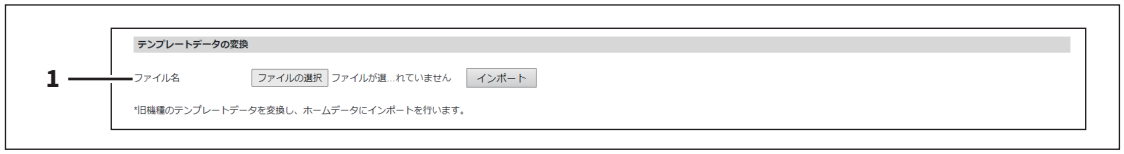
	項目名	機能説明
1	ファイル名	インポートするFコードのファイルを選択します。 **［ファイルの選択］ボタン**：Fコードのファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択したFコードのファイルをインポートします。

□ 複合（アドレス帳＋Fコード）



	項目名	機能説明
1	ファイル名	インポートする複合（アドレス帳＋Fコード）ファイルを選択します。 **［ファイルの選択］ボタン**：複合ファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択した複合ファイルをインポートします。

□ テンプレートデータの変換



	項目名	機能説明
1	ファイル名	旧機種のテンプレートデータファイルをインポートしてホームデータに変換するので、すべての旧テンプレートは共有ホームに追加されます。 **［ファイルの選択］ボタン**：旧テンプレートデータファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択した旧テンプレートデータファイルをインポートします。 **注 意** • 登録数の上限を超えたテンプレートは変換されません。 • パスワードで保護されていたテンプレート項目は変換されません。 • マイメニューは現在のユーザー情報に基づいてプライベートホームに移行されます（ユーザー情報は事前にクローニングする必要があります）。

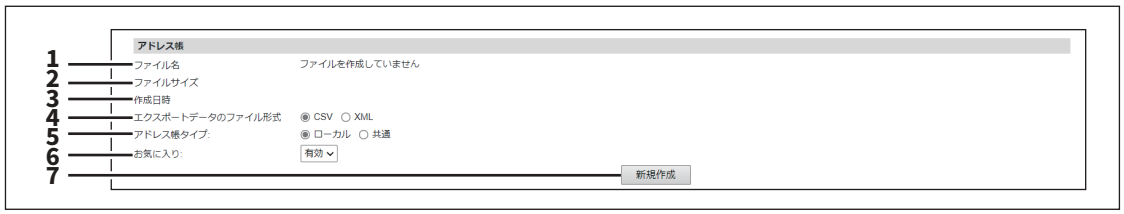
■ エクスポート

アドレス帳、Fコードなどをエクスポートすることができます。

補 足

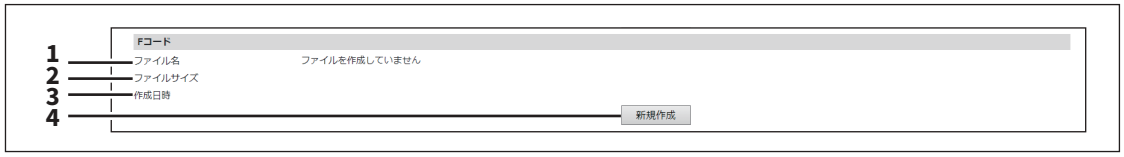
- エクスポートしたアドレス帳のデータには、グループデータは含まれません。
- ［エクスポート］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
  アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
  📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
  📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」

□ アドレス帳



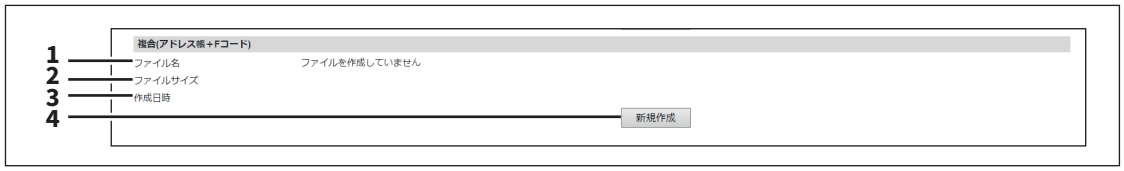
	項目名	機能説明
1	ファイル名	作成済みのエクスポート用ファイルのファイル名を表示します。 ファイル名をクリックするとダウンロードすることができます。
2	ファイルサイズ	作成済みのエクスポート用ファイルのファイルサイズを表示します。
3	作成日時	作成済みのエクスポート用ファイルの作成日時を表示します。
4	エクスポートデータのファイル形式	エクスポート用ファイルのファイル形式を選択します。 **CSV**：CSV形式でファイルを作成します。 **XML**：XML形式でファイルを作成します。
5	アドレス帳タイプ	共通アドレス帳機能を使用しているときは、エクスポート対象として「ローカル」、「共通」を選択します。
6	お気に入り	お気に入りの情報を有効にするかどうかを設定します。初期値は［有効］に設定されています。
7	［新規作成］ボタン	エクスポート用ファイルを作成します。 補 足 以前にアドレス帳データをエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報がアドレス帳エリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前にエクスポートしたファイルを保存することができます。

□ Fコード



	項目名	機能説明
1	ファイル名	作成済みのエクスポート用ファイルのファイル名を表示します。 ファイル名をクリックするとダウンロードすることができます。
2	ファイルサイズ	作成済みのエクスポート用ファイルのファイルサイズを表示します。
3	作成日時	作成済みのエクスポート用ファイルの作成日時を表示します。
4	［新規作成］ボタン	エクスポート用ファイルを作成します。 補 足 以前にアドレス帳データをエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報がアドレス帳エリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前にエクスポートしたファイルを保存することができます。

□ 複合（アドレス帳＋Fコード）



	項目名	機能説明
1	ファイル名	作成済みのエクスポート用ファイルのファイル名を表示します。 ファイル名をクリックするとダウンロードすることができます。
2	ファイルサイズ	作成済みのエクスポート用ファイルのファイルサイズを表示します。
3	作成日時	作成済みのエクスポート用ファイルの作成日時を表示します。
4	［新規作成］ボタン	エクスポート用ファイルを作成します。 補 足 以前にアドレス帳データをエクスポートした場合は、エクスポートしたファイルのリンクと情報がアドレス帳エリアに表示されます。リンクをクリックすると、以前にエクスポートしたファイルを保存することができます。

■ パネル表示

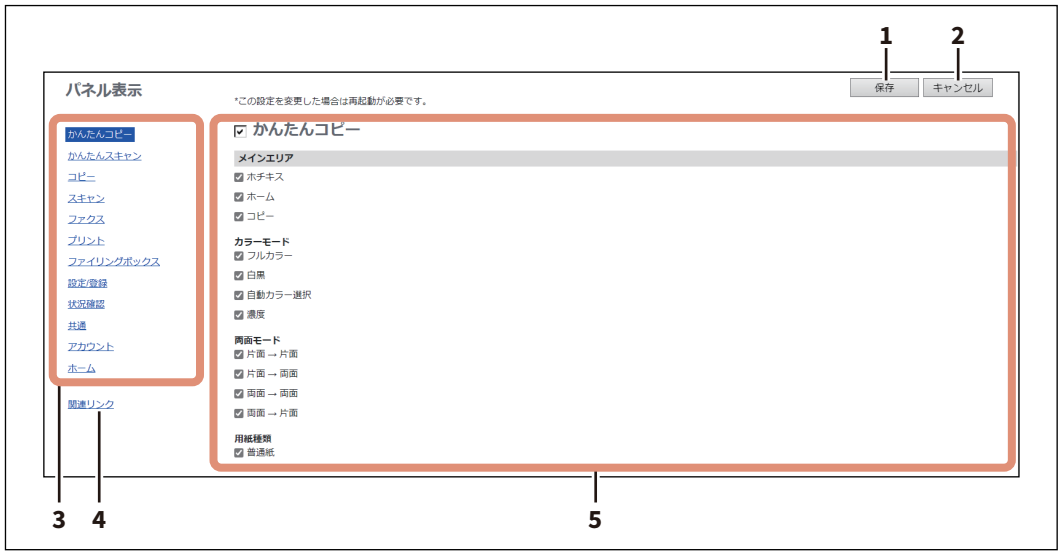
操作パネルで必要なボタンやリストだけを表示したり、ユーザーに使用させないボタンやリストを非表示にしたり、カスタマイズできます。

注 意

設定変更後は、本機を再起動する必要があります。

補 足

- ［パネル表示］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［登録］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
  📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
  📖 P.309 「［登録］（［管理者］）項目説明一覧」
- 非表示にした機能は表示されないだけで無効にはなりません。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	変更した設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	変更した設定を中止します。
3	かんたんコピー かんたんスキャン コピー スキャン ファクス プリント ファイリングボックス 設定/登録 状況確認 共通 アカウント ホーム	カスタマイズしたい操作パネルの画面を選択します。
4	関連リンク	パネル表示に関連するリンクが表示されます。
5	タイトル ガイダンス メインエリア	対象項目をカテゴリに分けています。選択した操作パネルの画面で、表示する項目にはチェックマークを付け、非表示にする項目はチェックマークを外します。

■ 待機画面

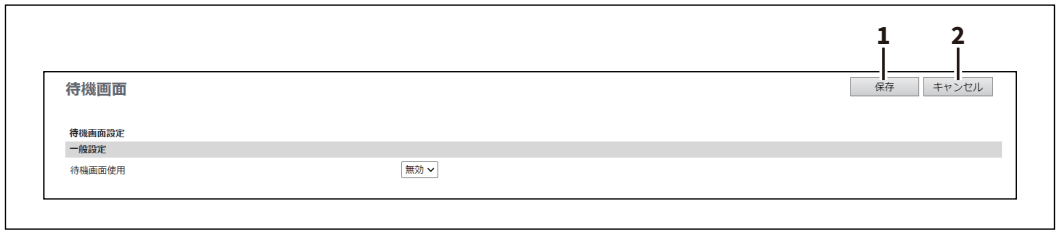
待機時に、特定のコンテンツを操作パネルに表示するよう設定できます。

注 意

待機画面の主に画像コンテンツ、Webコンテンツおよび外部URLコンテンツの表示機能（ただしこれらに限らない。以下、コンテンツ表示機能等という。）をご利用になる場合には、次の点を順守いただく必要がございますのでご留意ください。
コンテンツの表示機能等のご利用を通じて、待機画面上にいかなるコンテンツ・著作物・情報等もこれらを組み入れたり、表記・発信したりすることは、すべてご利用者の責任にて行っていただきます。
コンテンツの表示機能等のご利用にあたり、第三者の著作権・商標権・特許権・営業秘密・その他の知的財産に関するすべての権利侵害、さらにこれら以外のいかなる財産権、及び人格権やパブリシティ権等その他一切の権利に関する侵害が生じた場合も、東芝テック（株）および東芝テックグループ関係会社は免責されます。

補 足

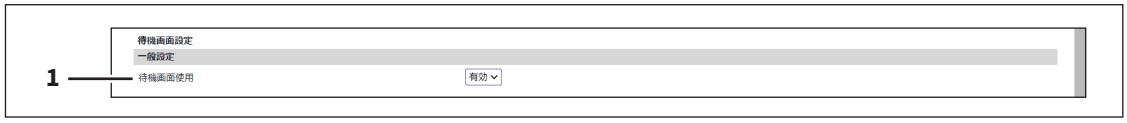
- Webコンテンツ等の作成にあたっては、各国・地域の政府機関やOWASP等の第三者機関が提供するセキュリティガイドラインに従って作成してください。
- ［待機画面］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
  📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
  📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	［待機画面］の設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。

□ 一般設定

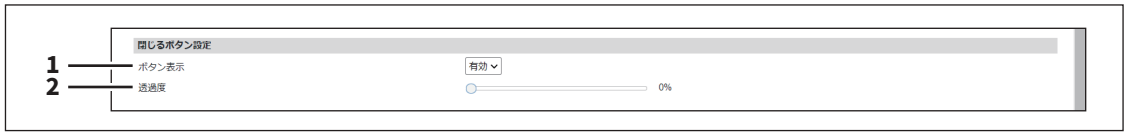
待機画面機能を使用するかしないかを切り替えることができます。



	項目名	機能説明
1	待機画面使用	待機画面機能を有効または無効にします。

□ 閉じるボタン設定

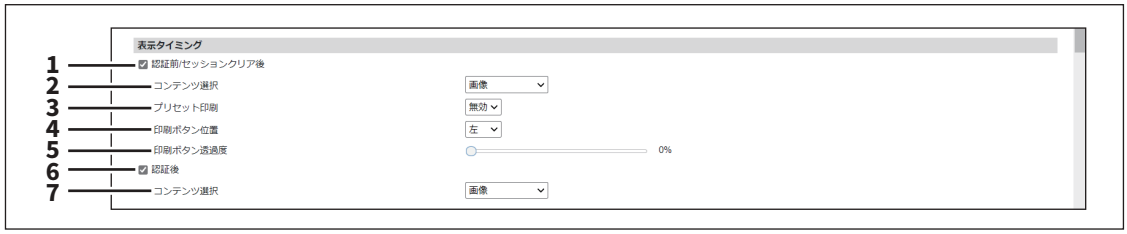
待機画面を閉じるボタンを表示するかしないかを切り替えることができます。



	項目名	機能説明
1	ボタン表示	待機画面を閉じるボタンを有効または無効にします。
2	透過度	待機画面を閉じるボタンの透過度を設定します。［ボタン表示］が有効な場合に設定できます。

□ 表示タイミング

待機画面を表示するタイミングを設定できます。



	項目名	機能説明
1	認証前/セッションクリア後	このチェックボックスを選択すると、認証前またはセッションクリア後に待機画面を表示します。この設定を選択した場合のみ、次に続く［コンテンツ選択］、［プリセット印刷］、［印刷ボタン位置］、［印刷ボタン透過度］を設定できます。 • **認証前**：ユーザー認証が有効な場合は、ユーザーのログイン前、MFP起動時、およびスリープ/スーパースリープからの復帰時に待機画面を表示します。ユーザー認証が無効な場合は、MFP起動時とスリープ/スーパースリープからの復帰時に待機画面を表示します。 • **セッションクリア後**：オートクリア後、［リセット］ボタンを2回押した後、または［認証］ボタンを押した後に待機画面を表示します。 補 足 セッションクリア後は、節電移行時間が経過しても節電画面は表示されません。
2	コンテンツ選択	認証前およびセッションクリア後に待機画面として表示するコンテンツのタイプを選択します。コンテンツは［コンテンツ設定］で設定する必要があります。 • **画像**：インポートした画像を10枚まで表示します。 • **Webコンテンツ**：インポートしたWebコンテンツを表示します。 • **外部URL**：URLで指定したコンテンツを表示します。

	項目名	機能説明
3	プリセット印刷	プリセット印刷機能を有効または無効にします。［有効］を選択すると、認証前およびセッションクリア後に表示される待機画面から、PDFファイルを印刷することができます。PDFファイルは［プリセット印刷設定］であらかじめ設定する必要があります。 注 意 • 以下の場合、この設定は選択できません。 - 本機がハイセキュリティモードで運用されている場合 - プリント制限が設定されている場合 - プリントデータコンバーター機能が有効の場合 - プロジェクト管理機能が有効の場合 • ユーザー認証後に表示される待機画面では、プリセット印刷は利用できません。
4	印刷ボタン位置	プリセット印刷機能を利用する際に押す印刷ボタンの表示位置（左、中央、右）を選択します。
5	印刷ボタン透過度	プリセット印刷機能を利用する際に押す印刷ボタンの透過度を設定します。
6	認証後	このチェックボックスを選択すると、待機画面を認証後に表示します。ユーザー認証有効時、ユーザーのログイン後に待機画面を表示します。この設定を選択した場合のみ、次に続く［コンテンツ選択］を設定できます。 注 意 ユーザー認証が無効な場合、［認証後］は選択できません。
7	コンテンツ選択	認証後の待機画面に表示するコンテンツのタイプを選択します。コンテンツは［コンテンツ設定］で設定する必要があります。 • **画像**：インポートした画像を10枚まで表示します。 • **Webコンテンツ**：インポートしたWebコンテンツを表示します。 • **外部URL**：URLで指定したコンテンツを表示します。

□ コンテンツ設定

待機画面に表示するコンテンツの3タイプを設定できます。

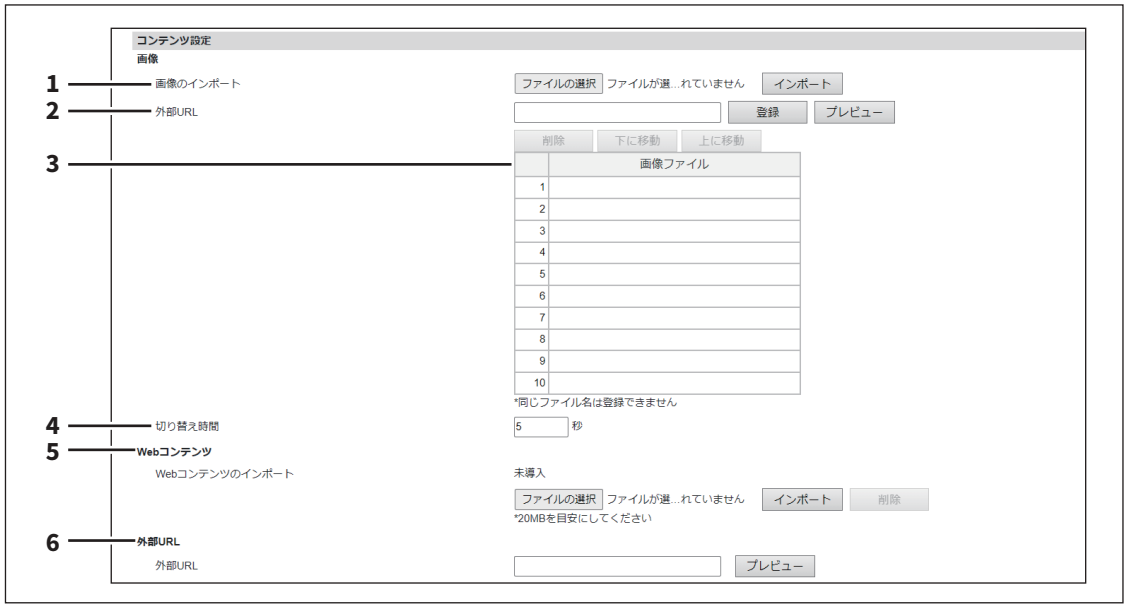
- **画像**：JPEG、PNG、GIFファイルを10個までインポートして登録できます。1ファイルあたりの推奨値は、ファイルサイズ1.5MBまで、解像度1024×600ピクセル、色深度32ビットです。タッチパネルのサイズに合わせて拡大・縮小して表示されます。
- **Webコンテンツ**：HTML、CSS、JPEG、PNG、GIF、JavaScriptファイルを圧縮した ZIPファイルをインポートできます。推奨ファイルサイズは20MBまでです。表示サイズは作成されたコンテンツに依存し、タッチパネルのサイズに合わせて拡大・縮小はされません。
- **外部URL**：コンテンツのURLを1つ指定できます。表示サイズは指定されたURLに依存し、タッチパネルのサイズに合わせて拡大・縮小はされません。

注 意

ファイル名には1バイト文字を使用してください。

補 足

解像度1024×600ピクセルのコンテンツを設定すると、拡大・縮小されることなく表示することができます。



	項目名	機能説明
1	画像のインポート	待機画面に表示する画像ファイルをインポートします。 • **［ファイルの選択］ボタン**：このボタンをクリックして、画像ファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：このボタンをクリックして、選択した画像ファイルをインポートします。インポートした画像ファイルは、下のリストに登録されます。 **注 意** 同じ名前のファイルを複数登録することはできません。
2	外部URL	画像コンテンツとして表示するファイルの外部URLを入力します。 • **［登録］ボタン**：このボタンをクリックして、指定した画像ファイルを下のリストに登録します。 • **［プレビュー］ボタン**：このボタンをクリックすると、画像のプレビューを別のウィンドウに表示します。プレビューウィンドウは［X］をクリックして閉じます。 **注 意** • 同じURLを複数登録することはできません。 • プロキシが正しく設定されていない場合、TopAccess上では正しく表示内容が確認できても、タッチパネル上では正しく表示されない場合があります。

	項目名	機能説明
3	画像ファイル	画像ファイルを10個までリストに登録できます。待機画面は、登録した画像を上から順番に一定の間隔で表示します。 • **［削除］ボタン**：このボタンをクリックして、画像ファイルをリストから削除します。 • **［下に移動］ボタン**：リスト内の画像ファイルを選択してこのボタンをクリックすると、下へ移動します。 • **［上に移動］ボタン**：リスト内の画像ファイルを選択してこのボタンをクリックすると、上へ移動します。 **注 意** ［削除］ボタン、［下に移動］/［上に移動］ボタンの操作は、［保存］ボタンや［キャンセル］ボタンを押す前であっても、取り消すことはできません。
4	切り替え時間	表示間隔を秒単位（1 - 60）で指定します。待機画面は、登録した画面を指定時間間隔で連続して表示します。
5	Webコンテンツ	待機画面に表示するWebコンテンツを圧縮してまとめたZIPファイルをインポートします。 • **［インポート］ボタン**：このボタンをクリックして、選択したZIPファイルをインポートします。 • **［削除］ボタン**：このボタンをクリックして、インポートしたZIPファイルを削除します。 **注 意** • インポートするZIPファイルを作成する際には、最初に表示したいファイルをindex.htmlとしてルートディレクトリに配置してください。 • Webコンテンツをインポートした後に別のものに変更したい場合は、すでにインポートしたWebコンテンツを一度削除してから、再度新しいWebコンテンツをインポートしてください。 • ［削除］ボタンの操作は、［保存］ボタンや［キャンセル］ボタンを押す前であっても、取り消すことはできません。
6	外部URL	待機画面に表示するコンテンツのURLを入力します。削除するには、URLを消します。 • **［プレビュー］ボタン**：このボタンをクリックすると、コンテンツのプレビューを別のウィンドウに表示します。プレビューウィンドウは［X］をクリックして閉じます。 **注 意** プロキシが正しく設定されていない場合、TopAccess上では正しく表示内容が確認できても、タッチパネル上では正しく表示されない場合があります。

□ プリセット印刷設定

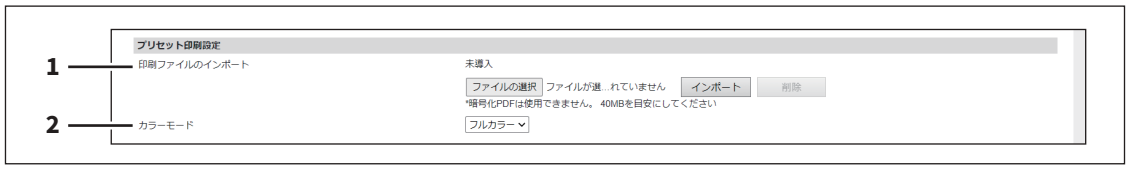
待機画面から印刷できるPDFファイルをあらかじめセットできます。推奨ファイルサイズは40MBまでです。

注 意

- 暗号化したPDFは印刷できませんので、プリセットしないでください。
- 待機画面表示中にEWBスキャンもしくはEWBプリントのジョブが実行されると、待機画面の上にジョブ実行画面が表示されます。
- 予約された印刷ジョブやユーザーの操作待ちの印刷ジョブ以外の印刷ジョブがある場合、プリセット印刷はできません。

補 足

- カラーモードは本機能の設定で印刷されます。
- 用紙サイズはPDFファイルで指定されたサイズで印刷されます。
- カラーモードと用紙サイズ以外の印刷設定はRaw印刷ジョブ印刷初期値設定に従います。
  📖 P.215 「Raw印刷ジョブ印刷初期値設定」



	項目名	機能説明
1	印刷ファイルのインポート	待機画面から印刷できるPDFファイルをプリセットファイルとしてインポートします。 • **［ファイルの選択］ボタン**：このボタンをクリックして、PDFファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：このボタンをクリックして、選択したPDFファイルをインポートします。 • **［削除］ボタン**：このボタンをクリックして、インポートしたPDFファイルを削除します。 **注 意** ［削除］ボタンの操作は、［保存］ボタンや［キャンセル］ボタンを押す前であっても、取り消すことはできません。
2	カラーモード	プリセット印刷機能のカラーモード［フルカラー］または［白黒］を選択します。

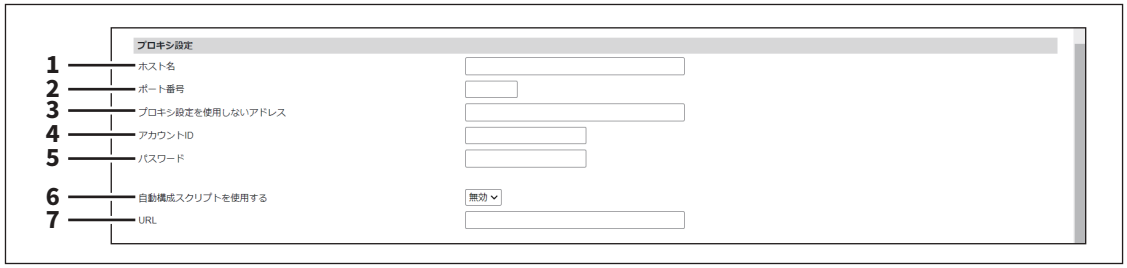
□ プロキシ設定

待機画面機能のプロキシをセットアップします。

補 足

プロキシ設定は、内蔵ブラウザー、待機画面、アプリケーション機能で基本的に同じです。1つの機能で設定を変更すると、その他の機能でも同じ設定に変更されます。

📖 P.239 「プロキシ設定」
📖 P.375 「プロキシ設定」



	項目名	機能説明
1	ホスト名	プロキシサーバーのホスト名を指定します。
2	ポート番号	プロキシサーバーのポート番号を指定します。
3	プロキシ設定を使用しないアドレス	プロキシサーバーを利用しないURLを指定します。複数のURLを指定する場合は、それぞれセミコロン（;）で区切ります。
4	アカウントID	プロキシサーバーのアカウントIDを入力します。
5	パスワード	プロキシサーバーのパスワードを入力します。
6	自動構成スクリプトを使用する	自動構成スクリプトを有効または無効にします。
7	URL	自動構成スクリプトを有効にした場合は、PACファイルのURLを指定します。 注 意 PACファイルを使用する場合は、以下の点に注意してください。 • プロトコルは省略せずに入力してください。 • 関数は使用しないでください。

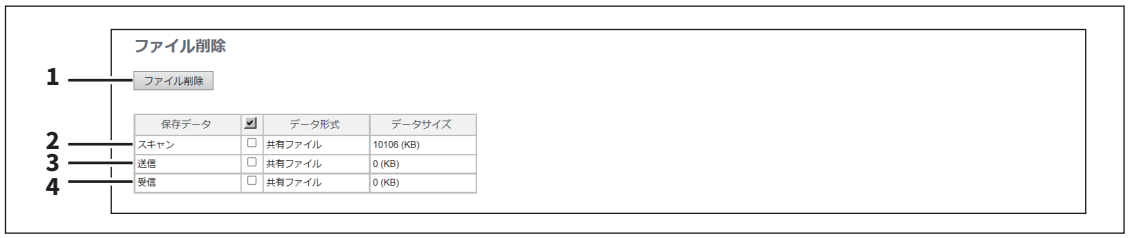
■ ファイル削除

［共有フォルダーへ保管］操作で本機の共有フォルダー（「FILE_SHARE」フォルダー）に保存されたスキャンデータや送信データ、受信データなどの保存データを削除することができます。この操作を定期的に行い、内蔵ストレージの空き容量を確保することをお勧めします。

補 足

［ファイル削除］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	［ファイル削除］ボタン	選択したデータファイルを削除します。
2	スキャン	スキャン時に共有フォルダーに保管されたデータをすべて削除します。
3	送信	ファクス／インターネットファクス送信時に共有フォルダーに保管されたデータをすべて削除します。
4	受信	ファクス／インターネットファクス受信時にメールボックス（Fコード）やファクス受信転送やインターネットファクス受信転送で共有フォルダーに保管されたデータをすべて削除します。

■ レポート通知

管理者はレポート通知を設定し、エラーが発生した場合やジョブを完了したときにEメール（携帯の端末も可）による通知を受けることができます。

注 意

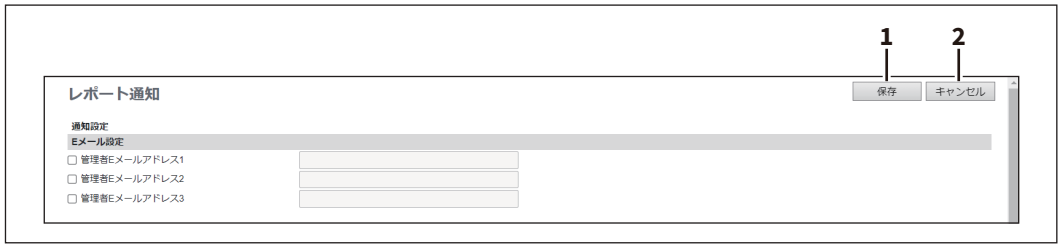
通知機能を有効にする場合は、［セットアップ］メニューの［Eメール］サブメニューでEメール設定を行う必要があります。

📖 P.199 「Eメール設定」

補 足

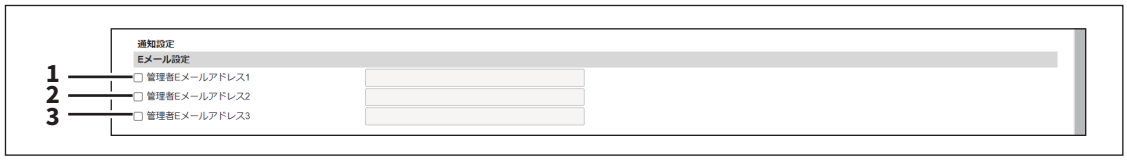
［レポート通知］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	登録されたEメールアドレスにレポートを送信する設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	変更した設定を中止します。

□ Eメール設定



	項目名	機能説明
1	管理者Eメールアドレス1	レポートを受信する管理者のEメールアドレスを登録します。 チェックを付けた管理者にEメールでレポートが送付されます。
2	管理者Eメールアドレス2	
3	管理者Eメールアドレス3	

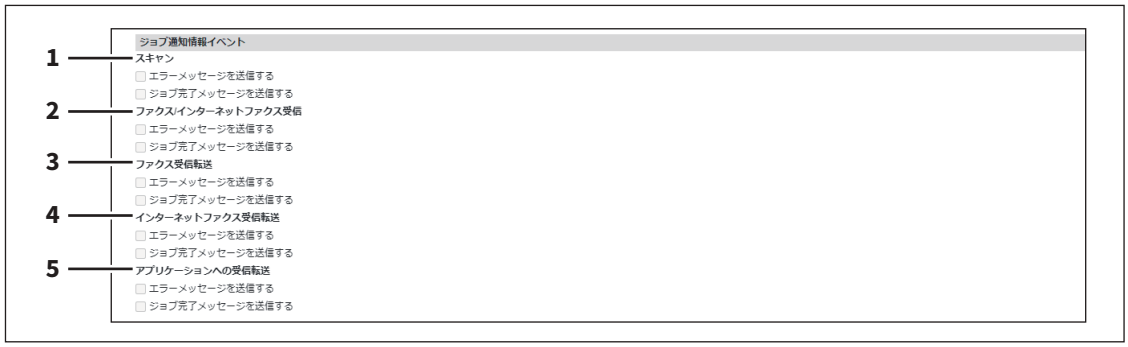
□ システム通知情報イベント

通知するイベントにチェックを付けます。

	項目名	機能説明
1	装置	**紙づまり**：紙づまりが発生した場合に通知します。 **用紙なし**：用紙がなくなった場合に通知します。 **カバー／カセットオープン**：カバー／カセットオープンが発生した場合に通知します。 **印刷**：印刷を行った場合に通知します。 **トナーエンプティ**：トナーエンプティになった場合に通知します。 **廃トナーボックスが満杯です**：廃トナーボックスがいっぱいになった場合に通知します。 **電源状態**：停電など電源状態が変わった場合に通知します。 **H/Wオプション接続履歴**：H/Wオプションを接続した場合に通知します。
2	保守	**設定変更**：設定変更があった場合に通知します。 **ユーザー情報の編集**：ユーザー情報の編集があった場合に通知します。 **エクスポート／インポート**：エクスポート/インポートを行った場合に通知します。 **クローニング**：クローニングを行った場合に通知します。 **システムアップデート**：システムアップデートを行った場合に通知します。 **ログ容量**：ログが最大件数に達した場合に通知します。 **ストレージデバイスアラート/データ バックアップ**：本機の内蔵ストレージの異常によりバックアップが必要な場合、または交換が必要な場合に通知します。
3	ネットワーク	**エラー**：ネットワークエラーが発生した場合に通知します。
4	セキュリティ	**エラー**：Web Serviceセキュリティエラーが発生した場合に通知します。 **警告**：Web Serviceセキュリティに関する警告情報があった場合に通知します。 **情報**：Web Serviceセキュリティの情報を通知します。
5	ファクス/インターネットファクス受信	**エラー**：ファクス／インターネットファクス受信にエラーが発生した場合に通知します。 **警告**：ファクス／インターネットファクス受信に関する警告情報があった場合に通知します。 **情報**：ファクス／インターネットファクス受信の情報を通知します。

	項目名	機能説明
6	スキャン	**警告**：定期的なスキャンファイルおよびファクス／インターネットファクス送受信データの削除が正常終了した場合に通知します。 **情報**：［保守］メニューの［ファイル削除］機能でスキャンファイルおよびファクス／インターネットファクス送受信データが正常に削除された場合に通知します。
7	ファイリングボックス	**警告**：ファイリングボックス空き容量が残りわずかになった場合、ファイリングボックス文書の保存期間が残りわずかになった場合に通知します。 **情報**：ファイリングボックスが初期化された場合に通知します。 補 足 ファイリングボックス操作が正常に終了したかを通知したい場合は、ファイリングボックスWebユーティリティを使ってボックスごとのプロパティ画面で設定します。設定方法については、以下の参照先をご覧ください。 **ファイリングボックス - クライアントコンピューターから操作する - ユーザーボックス/フォルダーを管理する - ユーザーボックス/フォルダーのプロパティを変更/表示する - ボックスのプロパティを変更する**

□ ジョブ通知情報イベント

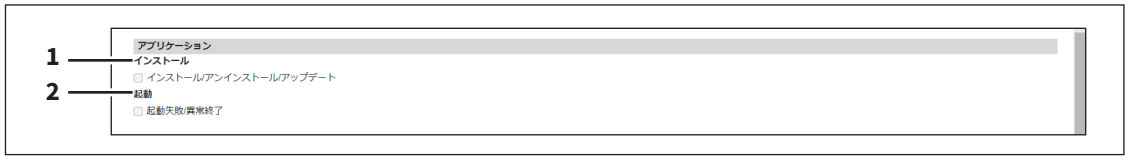


通知するジョブにチェックを付けます。

	項目名	機能説明
1	スキャン	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**
2	ファクス/インターネットファクス受信	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**
3	ファクス受信転送	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**
4	インターネットファクス受信転送	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**
5	アプリケーションへの受信転送	**エラーメッセージを送信する** **ジョブ完了メッセージを送信する**

□ アプリケーション

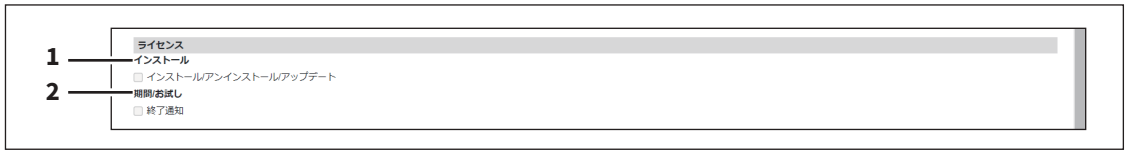
通知するジョブにチェックを付けます。



	項目名	機能説明
1	インストール	追加したアプリケーションがインストール/アンインストール/アップデートされたときに通知します。
2	起動	アプリケーションの起動に失敗/アプリケーションが異常終了したときに通知します。

□ ライセンス

通知するジョブにチェックを付けます。



	項目名	機能説明
1	インストール	追加したライセンスがインストール/アンインストール/アップデートされたときに通知します。
2	期間／お試し	お試し期間が終了したときに通知します。

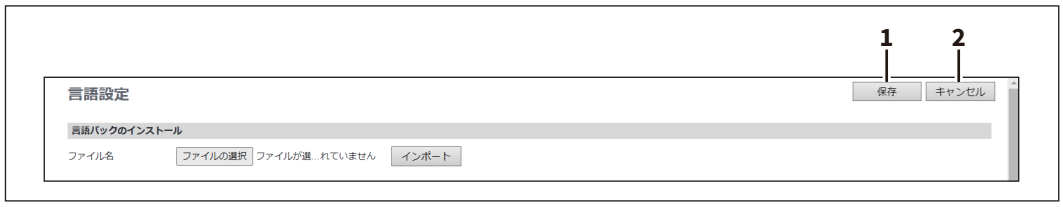
■ 言語設定

お使いの機器のタッチパネルの表示言語を設定することができます。

補 足

［言語設定］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」

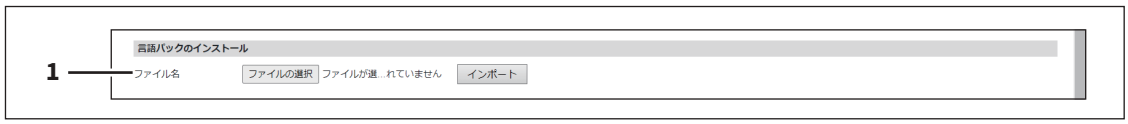


	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	登録された言語設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	変更した設定や操作を中止します。

□ 言語パックのインストール

言語パックを追加でインストールできます。

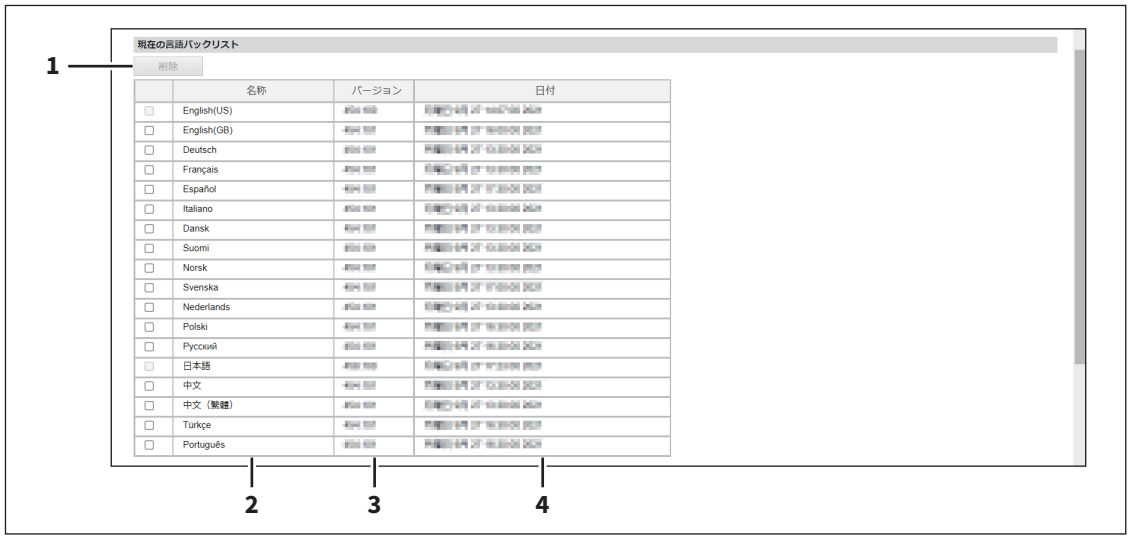
📖 P.300 「現在の言語パックリスト」



	項目名	機能説明
1	ファイル名	インストールする言語パックのファイルを選択します。 **［ファイルの選択］ボタン**：言語パックのファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：選択した言語パックのファイルをインポートします。

□ 現在の言語パックリスト

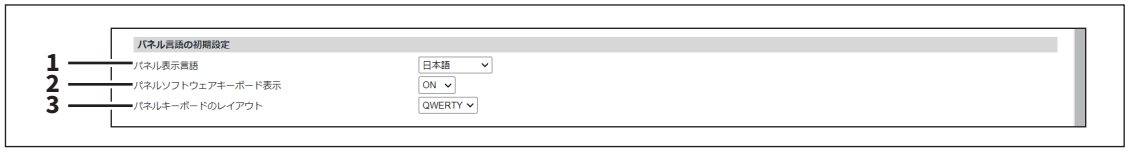
インストールされている言語パックのリストを表示します。不要な言語パックは削除することができます。



	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	不要な言語パックにチェックを付けてから［削除］ボタンをクリックすると削除することができます。 補 足 「English（US）」と［パネル表示言語］で選択している言語の言語パックは削除できません。
2	名前	言語パックの名前を表示します。
3	バージョン	言語パックのバージョンを表示します。
4	日付	言語パックのインストール日を表示します。

□ パネル言語の初期設定

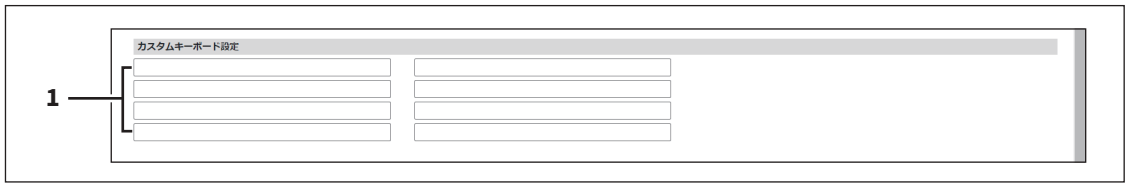
タッチパネルの表示言語を選択します。



	項目名	機能説明
1	パネル表示言語	タッチパネルの表示言語を選択します。
2	パネルソフトウェアキーボード表示	タッチパネルでの文字入力時にソフトウェアキーボードを表示するかどうかを選択します。
3	パネルキーボードのレイアウト	タッチパネルに表示されるパネルキーボードのキー配列を選択します。

□ カスタムキーボード設定

操作パネルで英語キーボードを使用する場合やEメールアドレスを入力する場合、［お好み設定］を選択して特定文字列を簡単に入力できます。8パターンまでの文字列をカスタムキーボードとして登録できます。



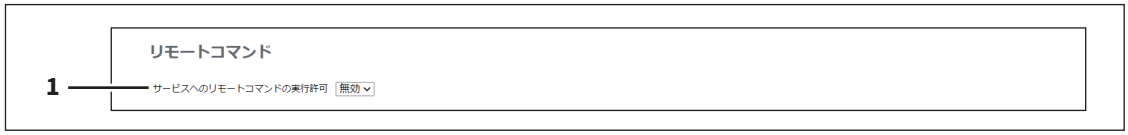
	項目名	機能説明
1	（登録欄）	半角英数字および記号64文字までの文字列を8パターンまで登録できます。操作パネル上では、登録と同じ順序で表示されます。 **注 意** 入力可能な文字数と入力禁止文字は、操作パネル上の入力エリアによって異なります。 • 入力可能な文字数を超えて登録すると、操作パネルは制限を超えた文字を表示せず、ユーザーは入力できません。 • 入力禁止文字を含む文字列を登録すると、ユーザーは操作パネル上でそのパターンを選択できません。

■ リモートコマンド

お使いの機器を遠隔保守するリモートコマンドは、機器の設定や状態に関する情報を取得したり設定を変更したりできます。このリモートコマンドファイルの実行方法を設定し、実行履歴を確認できます。

補 足

［リモートコマンド］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」



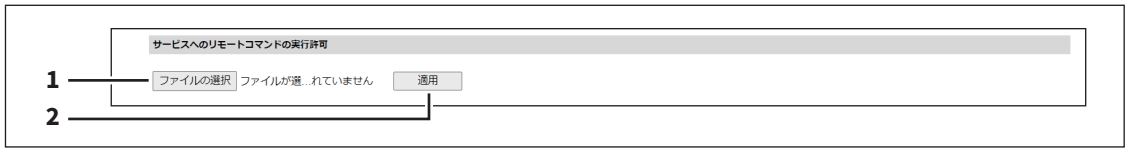
	項目名	機能説明
1	サービスへのリモートコマンドの実行許可	サービスエンジニアによる遠隔保守を許可するかどうかを設定します。 • **有効**：遠隔地からリモートコマンドを実行することを許可します。 • **無効**：遠隔地からリモートコマンドを実行することを禁止します。

□ リモートコマンドの適用

遠隔保守ができない場合、リモートコマンドファイルを入手してTopAccessから実行できます。

補 足

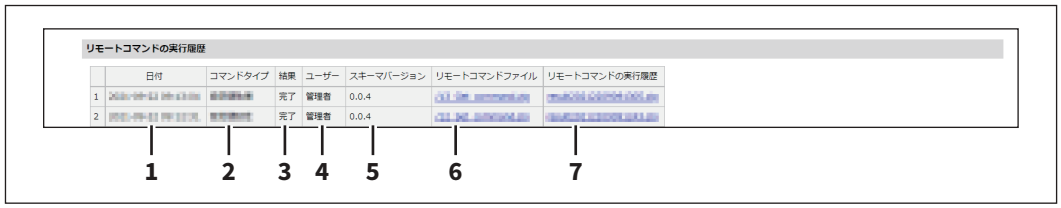
リモートコマンドファイルについては、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。



	項目名	機能説明
1	［ファイルの選択］ボタン	取得したリモートコマンドファイルを選択します。
2	［適用］ボタン	選択したリモートコマンドファイルを実行して、お使いの機器に適用します。リモートコマンドファイルを適用すると、ファイル名、スキーマバージョン、および実行日を表示します。 補 足 • 実行が成功した場合は、結果ファイルをダウンロードするためのリンクを表示しますので、リンクをクリックしてファイルをダウンロードしてください。［OK］をクリックすると、メッセージは消えます。 • 機器の設定値が変更された場合は、機器の再起動を促すメッセージが表示します。［OK］をクリックして再起動してください。 • 実行が失敗した場合は、メッセージとエラーコードを表示します。エラーコードを記録して、サービスエンジニアにお問い合わせください。

□ リモートコマンドの実行履歴

実行したリモートコマンドファイルの履歴を3回まで確認できます。



	項目名	機能説明
1	日付	リモートコマンドファイルの実行日時を表示します。
2	コマンドタイプ	リモートコマンドのタイプを表示します。 • **設定値取得**：機器の設定情報を取得するリモートコマンドを実行したことを表します。 • **設定値設定**：機器を設定するリモートコマンドを実行したことを表します。
3	結果	リモートコマンドファイルの実行結果を表示します。 • **完了**：実行が正常に行われたことを表します。 • **失敗（エラーコード）**：エラーが発生したことを表します。サービスエンジニアに連絡するエラーコードを確認できます。
4	ユーザー	リモートコマンドの実行者を表示します。 • **Service**：サービスエンジニアが遠隔からまたは機器の操作パネルからリモートコマンドを実行したことを表します。 • **管理者**：管理者がTopAccessからリモートコマンドを実行したことを表します。
5	スキーマバージョン	リモートコマンドファイルのスキーマバージョンを表示します。
6	リモートコマンドファイル	実行したリモートコマンドファイルの名前を表示します。クリックするとファイルをダウンロードできます。
7	リモートコマンドの実行履歴	実行したリモートコマンドの実行結果を記録したファイルの名前を表示します。クリックすると、ファイルをダウンロードできます。

■ データバックアップ機能

お使いの機器の内蔵ストレージのデータをバックアップすることができます。

補 足

［データバックアップ機能］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」

□ データバックアップ機能

	項目名	機能説明
1	保存	データバックアップ機能の設定を保存します。
2	キャンセル	変更した設定を中止します。
3	データバックアップ機能	データバックアップ機能を有効にするか設定します。初期値は［有効］に設定されています。

	項目名	機能説明
4	データのバックアップに外部サーバーを使用する	バックアップデータを外部サーバーに保存する場合にオンにします。 以下の項目を入力してバックアップデータを保存する外部サーバーを設定します。 **プロトコル** バックアップデータを外部サーバーに保存するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用してバックアップデータを外部サーバーに転送します。 • **FTP**：バックアップデータをFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：バックアップデータをFTP over SSL/TLSでFTPサーバーに転送します。 • **クラウド**：バックアップデータをクラウドに転送します。 **サーバー名称** プロトコルでFTPを選択した場合は、FTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。 半角英数字と記号で64文字まで入力できます。 **コマンドポート** プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。数字と「-」（ハイフン）を使用して、0から65535までの値を入力できます。初期値は「-」に設定されています。 **ネットワークパス** プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダーへのネットワークパスを入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。 半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **ログインユーザー名** 必要に応じて、SMBサーバー、またはFTPサーバーにアクセスするためのログインユーザー名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザー名は使えません。 **パスワード** 必要に応じて、SMBサーバー、またはFTPサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。半角英数字と記号、スペースを含み32文字まで入力できます。スペース1文字のみも可能です。 **パスワードの確認** 確認のためにパスワードを再入力します。 **接続テスト** ［実行］ボタンをクリックすると、設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。 **データ自動バックアップ周期** 自動バックアップの周期を設定します。 無効、毎週、2週ごと、毎月の周期から選択します。 • **曜日**：自動バックアップを行う曜日を選択します。 • **時刻**：自動バックアップを行う時刻を入力します。（24時間表示）
5	バックアップ対象	バックアップを行う対象データを選択します。

■ ユーザー用紙タイプ

ユーザー用紙タイプを設定することができます。

注 意

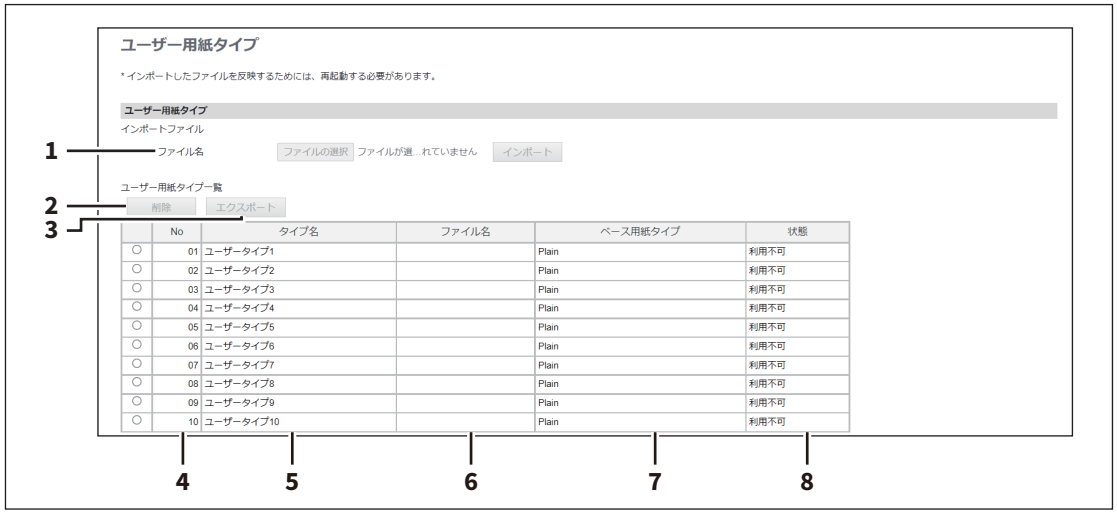
ユーザー用紙タイプを設定した後は、再起動する必要があります。

補 足

- ［ユーザー用紙タイプ］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
  📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
  📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」
- ユーザー用紙タイプの登録の詳細については、サービスエンジニアまたは弊社販売店にご相談ください。

□ ユーザー用紙タイプ

ユーザー用紙タイプを設定するファイルをインポートできます。



	項目名	機能説明
1	ファイル名	インストールするユーザー用紙タイプのファイルを選択します。 **［ファイルの選択］ボタン**：ユーザー用紙タイプのファイルを選択します。 **［インポート］ボタン**：［ユーザー用紙タイプ一覧］でユーザータイプ名を選択してからこのボタンをクリックします。選択したユーザー用紙タイプのファイルを、選択したユーザー用紙タイプ名にインポートします。
2	［削除］ボタン	［ユーザー用紙タイプ一覧］で選択したユーザー用紙タイプを削除します。
3	［エクスポート］ボタン	［ユーザー用紙タイプ一覧］で選択したユーザー用紙タイプをエクスポートします。 **補 足** ［インポート］ボタンでインポートしたユーザー用紙タイプがエクスポートできます。
4	No	ユーザー用紙タイプの番号を表示します。ユーザー用紙タイプは10ファイルまでインポートできます。
5	タイプ名	ユーザー用紙タイプの名前を表示します。クリックすると、名前を変更できます。
6	ファイル名	ユーザー用紙タイプのファイル名を表示します。

	項目名	機能説明
7	ベース用紙タイプ	ユーザー用紙タイプの元となるベース用紙タイプを表示します。
8	状態	ユーザー用紙タイプの状態を表示します。

■ システムアップデート

お使いの機器のシステムをアップデートすることができます。
FAXユニット装着時は、ファクスのシステムもアップデートできます。

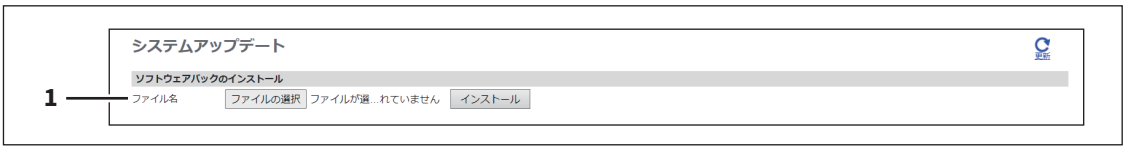
注 意

データが無効である旨のメッセージが表示された場合は、アップデート用ファイルをダウンロードしなおしてください。

補 足

［システムアップデート］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」

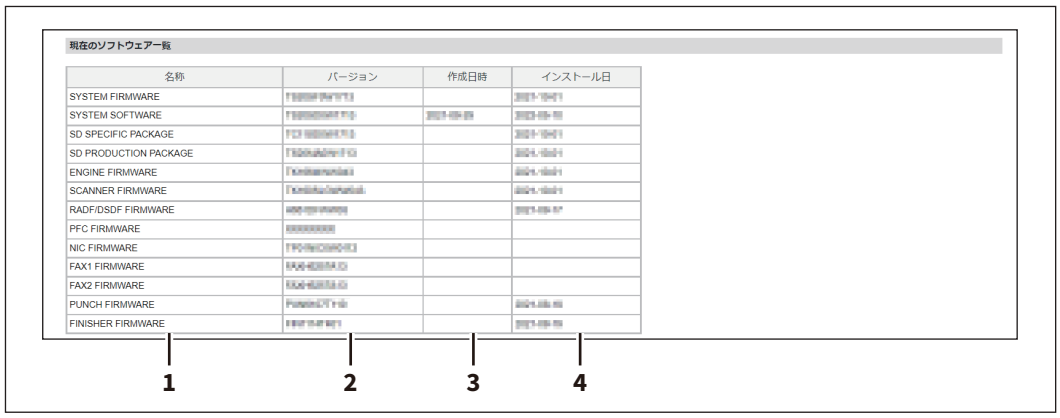
□ ソフトウェアパックのインストール



	項目名	機能説明
1	ファイル名	インストールするソフトウェアパックのファイルを選択します **［ファイルの選択］ボタン**：ソフトウェアパックのファイルを選択します。 **［インストール］ボタン**：選択したソフトウェアパックのファイルをインストールします。

□ 現在のソフトウェア一覧

インストールされているファームウェアの情報を表示します。表示される情報は、モデルによって異なります。［更新］をクリックすると、情報を更新します。



	項目名	機能説明
1	名称	システムファームウェアの名前を表示します。
2	バージョン	システムファームウェアのバージョンを表示します。

	項目名	機能説明
3	作成日時	システムファームウェアの作成日を表示します。
4	インストール日	システムファームウェアのインストール日を表示します。

□ カードリーダーファームウェアのインストール

詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。

■ 再起動

［再起動］ボタンをクリックすると、お使いの機器を再起動します。再起動する際、通常よりウォームアップに時間がかかります。

注 意

本機の再起動中は、ネットワークが無効になり、TopAccessには、しばらくしてからつなぎなおす内容のメッセージが表示されます。また、本機のタッチパネルには、ネットワークが準備中である内容のメッセージが表示されます。これらのメッセージが消えたら、TopAccessが再び使用できるようになります。

補 足

［再起動］サブメニューは、［管理者］＞［保守］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［保守］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.274 「［保守］項目説明一覧」

補 足

[登録] メニューは [管理者] から、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザーがアクセスできます。
アクセス方法は、以下の参照先をご覧ください。
P.15 「アクセスポリシーモード」

■ 共有ホーム

共有ホームは、操作パネルの [ホーム] ボタンを押すと表示されるホーム画面の設定を行います。
よく使う機能をパネルボタンとして登録することができます。

補 足

- 一般ユーザーは [ホーム設定] で許可されている場合にのみ [登録] で [共有ホーム] を設定できます。
  P.115 「ホーム設定」
- 管理者は [管理者] でのみ [共有ホーム] を設定できます。
  P.15 「アクセスポリシーモード」
  P.309 「[登録]（[管理者]）項目説明一覧」

	項目名	機能説明
1	[キャンセル] ボタン	操作を中止します。
2	[削除] ボタン	選択しているパネルボタンを削除します。フォルダーを削除する場合は、確認メッセージが表示されてその中のすべてのボタンが削除されます。
3	[リセット] ボタン	現在の設定を消去します。

	項目名	機能説明
4	パネルボタン一覧	共有ホームに選択できるパネルボタンの一覧が表示されます。ボタンの位置を変更するには、アイコンをマウスでドラッグ＆ドロップするか矢印をクリックします。 使用するパネルボタンを選択します。 リンクをクリックすることでホームタイプを編集できます。［設定編集］画面を開くと、ボタンアイコンや名称の変更、ボタンの削除や移動ができます（フォルダーボタンは移動できません）。また、マウスポインターをアイコンの上に重ねると、左上にチェックボックスが表示されます。このチェックボックスを選択すると、選択したボタンを削除できます。 ボタンを登録するには、未登録位置を表す［＋］アイコンをクリックします。 📖 P.310 「［ホームタイプ選択］画面」 補 足 共有ホームは、64種類登録することができます。

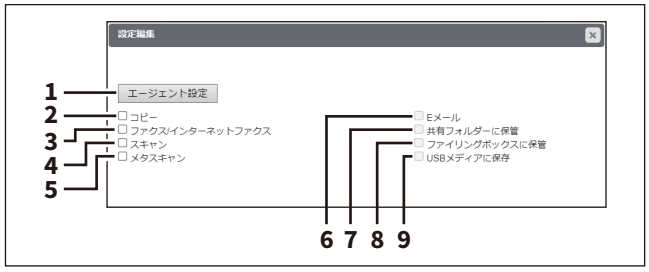
□［ホームタイプ選択］画面

共有ホームに追加するホームタイプを選択します。

	項目名	機能説明
1	テンプレート作成	テンプレートボタンを追加します。 📖 P.311 「テンプレートの［設定編集］画面」
2	フォルダー作成	フォルダーボタンを追加します。フォルダーは64個まで登録できます。 📖 P.312 「フォルダーの［設定編集］画面」
3	ジョブ履歴から登録	ジョブ履歴からパネルボタンを追加します。 📖 P.313 「［ジョブ履歴から登録］画面」
4	URLリストから登録	URLリストからパネルボタンを追加します。 📖 P.313 「［URLリストから登録］画面」
5	おすすめから登録	おすすめからパネルボタンを追加します。 📖 P.313 「［おすすめから登録］画面」
6	機能リストから登録	機能リストからパネルボタンを追加します。 📖 P.314 「［機能リストから登録］画面」
7	アプリケーションから登録	アプリケーションからパネルボタンを追加します。 📖 P.314 「［アプリケーションから登録］画面」
8	ホーム画面から登録	ホーム画面からパネルボタンを追加します。 📖 P.315 「［ホーム画面から登録］画面」

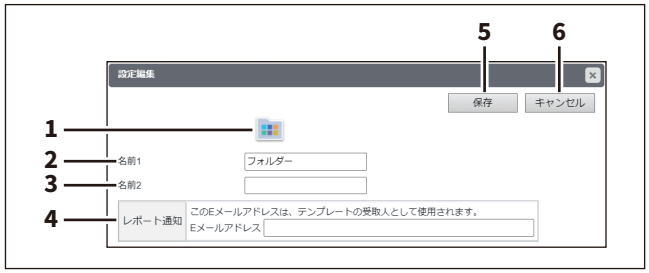
テンプレートの［設定編集］画面

登録するテンプレートを設定します。
エージェントを選択すると、画面下側に選択したエージェントの設定状態と編集画面を開くボタンが表示されます。



	項目名	機能説明
1	［エージェント設定］ボタン	選択されているエージェントを設定します。 新規にエージェントを設定する場合は、テンプレートの詳細を設定できます。 P.316 「テンプレートの詳細設定」
2	コピー	原稿のコピーを実行するテンプレートを作成します。原稿をほかの宛先に送信するのと同時にコピーを印刷したいときに、このエージェントを選択します。［共有フォルダーに保管］または［ファイリングボックスに保管］エージェントのどちらかと組み合わせてセットアップすることができます。
3	ファクス／インターネットファクス	ファクスやインターネットファクス送信用のテンプレートを作成します。［共有フォルダーに保管］エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。
4	スキャン	スキャン用のテンプレートを作成します。［Eメール］、［共有フォルダーに保管］、［ファイリングボックスに保管］または［USBメディアを使用］のいずれかを選択する必要があります。最大2つのエージェントを組み合わせることができます。
5	メタスキャン	メタスキャンオプションをインストールしている場合に有効になります。 メタスキャンオプションのテンプレートを作成します。 詳細については、メタスキャンオプション対応のアプリケーションのベンダーから提供されるドキュメントを参照してください。
6	Eメール	Eメールに添付して送付します。
7	共有フォルダーに保管	共有フォルダーに保存します。
8	ファイリングボックスに保管	ファイリングボックスに保存します。
9	USBメディアに保存	USBメディアに保存します。

フォルダーの［設定編集］画面

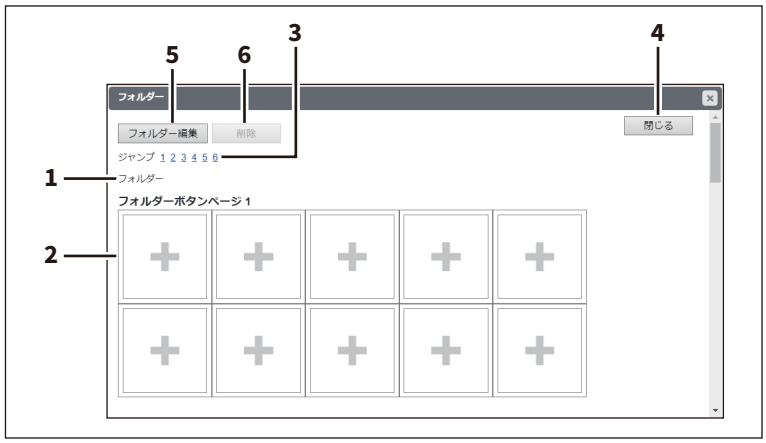


注 意

登録したフォルダーの位置は変更できません。

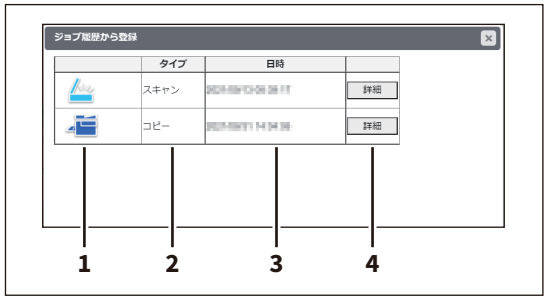
	項目名	機能説明
1	アイコン	このフォルダーアイコンがタッチパネル画面に表示されます。このアイコンは変更できません。
2	名前1	タッチパネル画面に表示されるフォルダーアイコンの名前1（上段）を入力します。以下の文字を含めて20文字まで入力できます。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
3	名前2	タッチパネル画面に表示されるフォルダーアイコンの名前2（下段）を入力します。以下の文字を含めて20文字まで入力できます。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
4	レポート通知	通知メッセージを送信するEメールアドレス入力します。プライベートグループに設定されたEメールアドレスに送信するか、または送信するEメールアドレスを設定することができます。
5	［保存］ボタン	設定を保存します。
6	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。

フォルダー内にボタンを登録できます。



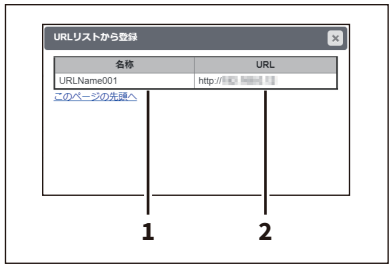
	項目名	機能説明
1	フォルダー	登録したフォルダーの［名前1］が表示されます。
2	フォルダーボタンページ	1つのフォルダー内にボタンを60個まで登録できます。
3	ジャンプ	番号をクリックすると、登録ページへ直接移動します。
4	［閉じる］ボタン	編集画面を閉じます。
5	［フォルダー編集］ボタン	［設定編集］画面が開き、［名前1］、［名前2］、［レポート通知］を変更できます。また、フォルダーそのものを削除できます。
6	［削除］ボタン	登録したフォルダーを削除します。

[ジョブ履歴から登録] 画面



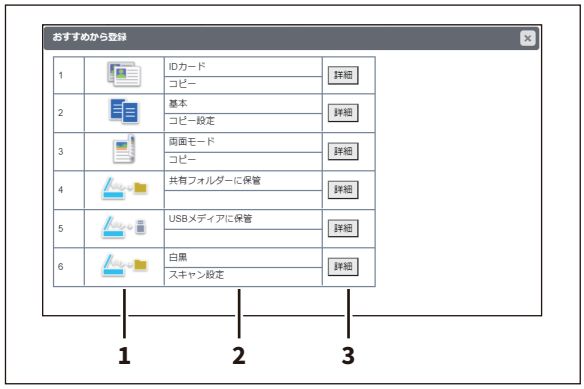
	項目名	機能説明
1	ボタンアイコン	ボタンアイコンが表示されます。
2	タイプ	ジョブの種類が表示されます。
3	日時	ジョブが実行された日時が表示されます。
4	[詳細] ボタン	ジョブの詳細を表示します。

[URLリストから登録] 画面



	項目名	機能説明
1	名称	接続先の名称が表示されます。
2	URL	URLが表示されます。

[おすすめから登録] 画面

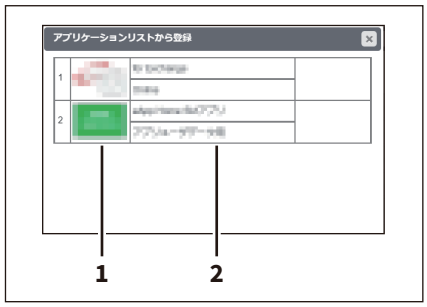


	項目名	機能説明
1	ボタンアイコン	ボタンアイコンが表示されます。
2	名称	機能の名称が表示されます。
3	[詳細] ボタン	機能の詳細を表示します。

[機能リストから登録] 画面

	項目名	機能説明
1	ボタンアイコン	ボタンアイコンが表示されます。
2	名称	機能の名称が表示されます。

[アプリケーションから登録] 画面



	項目名	機能説明
1	ボタンアイコン	ボタンアイコンが表示されます。
2	名称	機能の名称が表示されます。

補 足

アプリケーションによってはボタンテンプレートを持つものがあり、[アプリケーションから登録] 画面に [詳細] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ボタン名やアイコン情報がテンプレートとして登録されているボタンを選択できます。選択したボタンテンプレートは、[設定編集] 画面に表示されます。

［ホーム画面から登録］画面

共有ホームまたはユーザーホーム画面から登録できます。表示内容はどちらも同じです。

補 足

ホーム画面からボタンを登録する場合は、フォルダー内のボタンを選択してコピーできますが、フォルダーそのものはコピーできません。

	項目名	機能説明
1	ボタンアイコン	ボタンアイコンが表示されます。
2	名称	機能の名称が表示されます。

■ テンプレートの詳細設定

テンプレートの［設定編集］画面で選択したエージェントに応じて、以下を設定できます。
📖 P.311 「テンプレートの［設定編集］画面」

タッチパネル画面にテンプレートアイコンをどのように表示するかを設定します。また、テンプレートの通知機能を設定することができます。

補 足

登録したテンプレートの［設定編集］画面を開いて設定を変更できますが、エージェントの変更はできません。

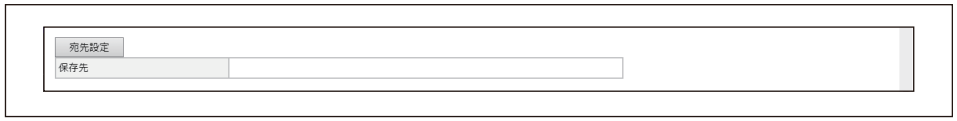
	項目名	機能説明
1	画像一覧からアイコンを選択	タッチパネル画面に表示されるアイコンが表示されます。選択したエージェントによって、アイコンは自動的に指定されます。アイコンをクリックすると、画像一覧から選択することができます。
2	名前1	タッチパネル画面に表示されるアイコンの名前1（上段）を入力します。以下の文字を含めて20文字まで入力できます。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
3	名前2	タッチパネル画面に表示されるアイコンの名前2（下段）を入力します。以下の文字を含めて20文字まで入力できます。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
4	自動実行	自動スタート機能の有効／無効を選択します。チェックボックスをオンにした場合、タッチパネルのホーム画面に登録されたテンプレートボタンを押すと、［スタート］ボタンや［スキャン］を押さなくても操作が自動的に開始されます。 注 意 Eメール認証（Eメール送信のユーザー認証設定）とユーザー認証（ユーザー管理設定）のユーザー名またはパスワードが異なる場合、およびEメール認証のみを実施している場合は、自動実行のテンプレート呼び出し時にも、Eメール認証のユーザー名とパスワードの入力が必要です。
5	レポート通知：エラーメッセージを送信する	エラー発生時に指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。
6	レポート通知：ジョブ完了メッセージを送信する	ジョブ完了時に指定したEメールアドレスに通知メッセージを送信します。

	項目名	機能説明
7	レポート通知：Eメールアドレス	通知メッセージを送信するEメールアドレスを指定します。プライベートグループに設定されたEメールアドレスに送信するか、または送信するEメールアドレスを設定することができます。 **注 意** レポート通知を設定した場合は、TopAccessアクセスポリシーモードの［セットアップ］メニューにある［Eメール設定］サブメニューで、Eメール送信の設定を必ず行ってください。 📖 P.199 「Eメール設定」
8	［保存］ボタン	設定を保存します。
9	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。

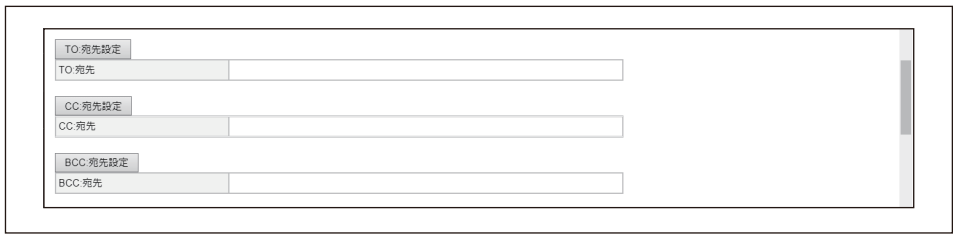
□ 宛先設定

宛先リストのページでは、ファクスやインターネットファクス、Eメール送信文書を送信する宛先を指定します。
Eメール送信エージェントの宛先を指定するときは、Eメールアドレスのみを使用することができます。
ファクス／インターネットファクスエージェントの宛先を指定するときは、ファクス番号およびEメールアドレスの両方を使用することができます。

ファクス／インターネットファクスエージェントの場合



Eメール送信エージェントの場合



宛先を指定するには、相手先のEメールアドレスやファクス番号を手動で入力したり、アドレス帳から個人やグループを選択します。また、LDAPサービスを使って検索することもできます。

注 意

宛先にファクス番号を指定するには、FAXユニットが本機に装着されている必要があります。

宛先を手動で入力する

宛先を手動で入力し、宛先リストに追加します。

注 意

［宛先選択制限］＞［直接入力禁止］が有効に設定されている場合、宛先を入力することはできません。
P.107 「宛先選択方法の制限」

1 **［宛先設定］（ファクス／インターネットファクスエージェントの場合）または［TO：宛先設定］／［CC：宛先設定］／［BCC：宛先設定］（Eメール送信エージェントの場合）をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **［新規］をクリックします。**

宛先情報ページが表示されます。

3 **［宛先］ボックスに宛先のEメールアドレスかファクス番号を入力します。**

注 意

FAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。

補 足

ファクス番号を入力した場合は「ファクス種別」で「G3ファクス」、Eメールアドレスを入力した場合は「インターネットファクス」を選択してください。

4 **［OK］をクリックします。**

入力した宛先が宛先リストページに追加されます。

5 **複数の宛先を指定する場合は、手順2～4を繰り返します。**

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。
P.322 「宛先リストから宛先を削除する」

6 **［保存］をクリックします。**

宛先設定が保存されます。

宛先をアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳から宛先を選択します。

注 意

［宛先選択制限］＞［アドレス帳禁止］が有効に設定されている場合、宛先をアドレス帳から選択することはできません。

📖 P.107 「宛先選択方法の制限」

1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［アドレス帳］をクリックします。

アドレス帳のページが表示されます。

3 Eメール送信またはインターネットファクス送信の宛先を選択する場合は、選択したい宛先の［Eメール］チェックボックスをオンにします。ファクス送信の宛先を選択する場合は、目的の宛先の［ファクス］チェックボックスをオンにします。

注 意

- Eメール送信用のテンプレートを作成している場合は、Eメールアドレスの一覧のみ表示されます。
- FAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。

補 足

特定のグループの宛先のみを表示する場合は、［グループ］ボックスから目的のグループを選択します。

4 ［追加］をクリックします。

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

📖 P.322 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

グループをアドレス帳から選択する

本機のアドレス帳からグループを選択します。

注 意

［宛先選択制限］＞［アドレス帳禁止］が有効に設定されている場合、宛先をグループアドレス帳から選択することはできません。

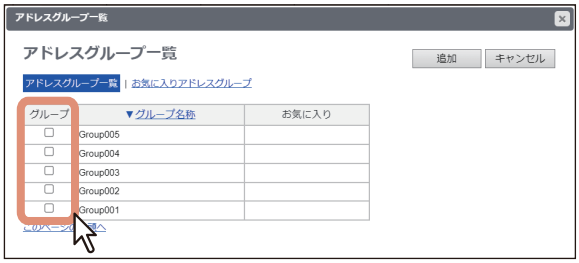
📖 P.107 「宛先選択方法の制限」

1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［アドレスグループ一覧］をクリックします。

アドレスグループ一覧のページが開きます。

3 目的の宛先が所属するグループのチェックボックスをオンにします。



4 ［追加］をクリックします。

選択したグループのすべての宛先が、宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。

📖 P.322 「宛先リストから宛先を削除する」

5 ［保存］をクリックします。

宛先設定が保存されます。

LDAPサーバーを使って宛先を検索する

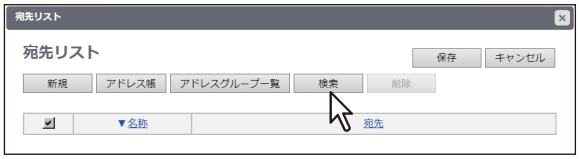
登録したLDAPサーバーを使って宛先を検索します。本機のアドレス帳から宛先を検索することもできます。

注 意

検索に使用するLDAPサーバーは、アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーによって登録されている必要があります。
📖 P.154 「LDAPクライアントの設定」

1 ［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。

2 ［検索］をクリックします。



連絡先検索のページが表示されます。

3 ［LDAPサーバー名］ボックスで検索するディレクトリサービス名を選択し、検索したい項目欄に検索文字を入力します。

補 足

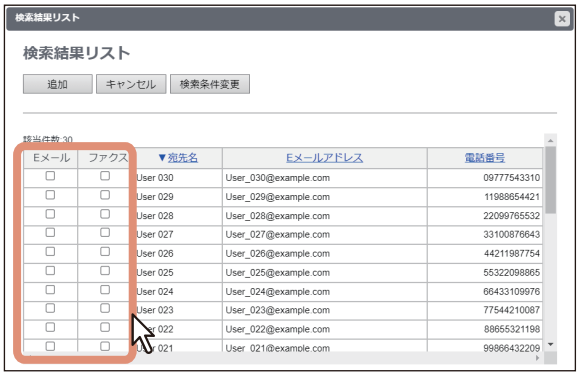
- ［LDAPサーバー名］ボックスから本機モデル名を選択すると、本機のアドレス帳を検索することができます。
- 各項目に入力した文字列を含む宛先が検索されます。
- 空欄にした項目は無視され、入力した項目だけを用いて検索します。ただし、最低1つのボックスには情報を入力する必要があります。

4 ［検索］をクリックします。

LDAPサーバーを使った宛先の検索を開始します。検索を終了すると、検索結果が検索結果リストページに表示されます。

5 **Eメール送信またはインターネットファクス送信の宛先を選択する場合は、選択したい宛先の［Eメール］チェックボックスをオンにします。ファクス送信の宛先を選択する場合は、目的の宛先の［ファクス］チェックボックスをオンにします。**

［条件変更］をクリックすると、手順3に戻って条件を変更して検索できます。



注 意

- FAXユニットを装着している場合にのみ、ファクス番号を宛先に指定できます。
- ［company（会社名）］［department（部門名）］の値はアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーの設定に依存します。

6 **［追加］をクリックします。**

選択した宛先が宛先リストページに追加されます。

補 足

宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。
📖 P.322 「宛先リストから宛先を削除する」

7 **［保存］をクリックします。**

宛先設定が保存されます。

宛先リストから宛先を削除する

1 **［宛先設定］をクリックし、宛先リストページを開きます。**

2 **宛先リストから削除したい宛先のチェックボックスをオンにし、［削除］をクリックします。**

選択された宛先が宛先リストから削除されます。

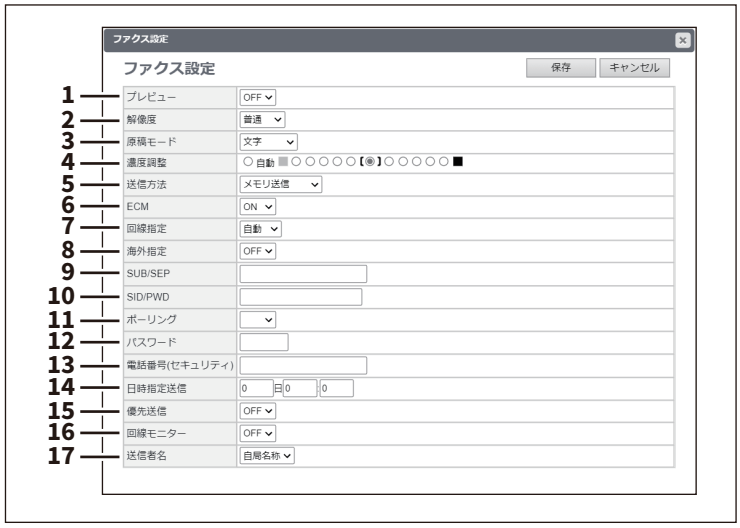
□ インターネットファクス設定

インターネットファクス設定のページでは、送信されるインターネットファクスのプロパティを設定します。

	項目名	機能説明
1	件名	インターネットファクスに適用する件名を設定します。デフォルト設定の［(マシン名称）からのスキャン［(テンプレート名称)］(日付)（時間)］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。手動で入力した場合の件名は、［(件名）（日付）（時間)］となります。
2	送信者アドレス	送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。半角英数字140文字まで入力できます。
3	送信者名	「インターネットファクス一般設定の送信者名」または登録されている送信者名をリストから選択します。 P.183 「送信者名登録」 P.206 「インターネットファクス設定」
4	本文	インターネットファクスに適用する本文を入力します。全角半角に関係なく、スペースを含み1000文字まで入力できます。
5	ファイル形式	スキャンイメージのファイル形式を選択します。［TIFF-S］（TIFF-FX（Profile S)）のみ選択することができます。
6	分割ページサイズ	メッセージの分割サイズを選択します。初期値は［分割無］に設定されています。

□ ファクス設定

ファクス設定に関するエージェント設定のページでは、ファクス／インターネットファクスエージェントを使ってファクスをどのように送信するか設定します。



	項目名	機能説明
1	プレビュー	ファクスを送信する前にプレビュー表示するか選択します。 • **ON**：プレビューを表示します。 • **OFF**：プレビューを表示しません。
2	解像度	ファクスを送信する際に適用する標準の解像度を選択します。 • **普通**：標準の解像度に標準モードを適用します。このモードは、普通サイズの文字で構成されたテキスト原稿をひんぱんに送信する場合に適しています。 • **精細**：標準の解像度に精細モードを適用します。このモードは、細かい文字や細かな線画を含む原稿を送信する場合に適しています。 • **高精細**：標準の解像度に高精細モードを適用します。このモードは、特に細かい文字や精密な線画を含む原稿を送信する場合に適しています。
3	原稿モード	ファクスを送信する際に適用する標準の画質を選択します。 • **文字**：標準の画質モードに文字モードを適用します。このモードは、テキスト原稿を送信する場合に適しています。 • **文字／写真**：標準の画質モードに文字／写真モードを適用します。このモードは、テキスト、写真両方で構成された原稿を送信する場合に適しています。 • **写真**：標準の画質モードに写真モードを適用します。このモードは、写真原稿を送信する場合に適しています。
4	濃度調整	ファクスを送信する際に適用する標準の濃度を選択します。 原稿によって理想的な濃度を適用する［自動］を選択するか、手動で11段階の濃度を調整します。

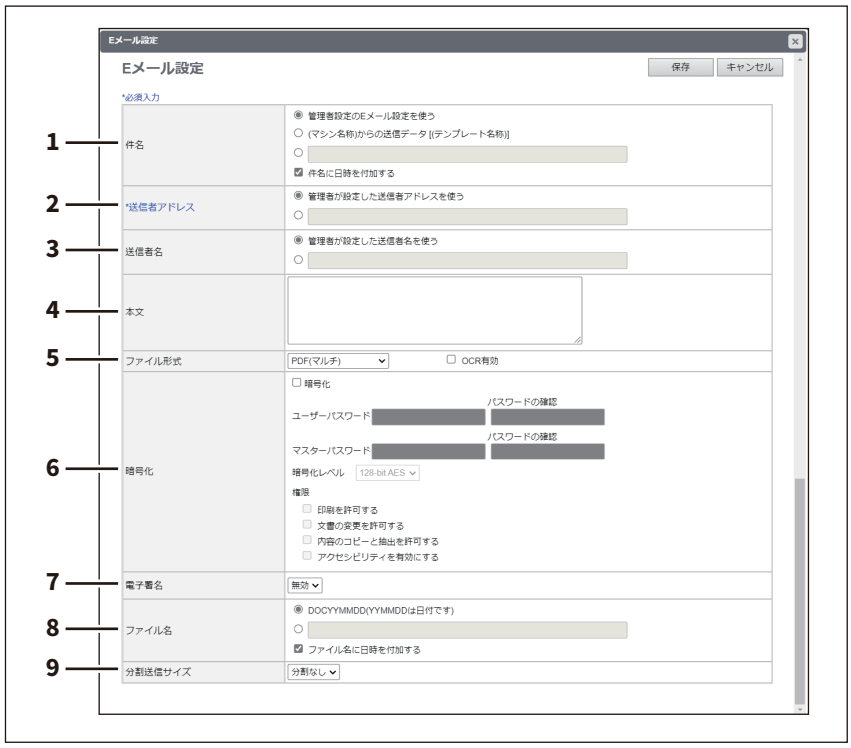
	項目名	機能説明
5	送信方法	送信モードを選択します。 • **メモリ送信**：このモードでは、原稿をいったんメモリに保存し、自動的に送信を開始します。原稿をすみやかに返却したいときや、同じ原稿を複数の相手先に送信するときに便利な機能です。 • **ダイレクト送信**：このモードでは、相手先にダイヤルし、原稿を1枚ずつ送信します。送信している相手先を確認したいときに便利な機能です。原稿はメモリに保存されないため、送信できる相手先は1件です。 補 足 ［ダイレクト送信］はファクス／インターネットファクスのテンプレート（共有フォルダーに保管しない）を作成した場合に選択することができます。 ファクス／インターネットファクスと［共有フォルダーに保管］を組み合わせた場合は、非表示となり選択できません。
6	ECM	文書が電話回線のノイズや歪みなどにより影響を受けた部分があるときに、自動的に再送するECM（Error Correction Mode：自動誤り訂正モード）を有効にするかを選択します。
7	回線指定 *1	使用回線を指定するかを選択します。 • **自動**：使用回線を指定しません（回線が設置されている場合にのみ有効）。 • **回線1**：このファクスエージェントに回線1を使用します。 • **回線2**：このファクスエージェントに回線2を使用します（回線が設置されている場合にのみ有効）。
8	海外指定	文書を海外指定モードで送信するかを選択します。この機能は、長距離通信を行う場合などに、文書を通常より遅い速度で送信し、回線の影響を受けにくくします。
9	SUB/SEP	SUB番号またはSEP番号を指定したい場合に番号を入力します。
10	SID/PWD	SUB番号またはSEP番号を指定した場合に、パスワードが必要な場合は、パスワードを入力します。
11	ポーリング	このエージェントにポーリング通信を設定するかを選択します。 • **＜空欄＞**：ポーリング通信を行いません。 • **送信**：ポーリング予約を行います。この機能を使用すると、ポーリング通信のために原稿をメモリに保存することができます。 • **受信**：反転ポーリングを行います。この機能を使用すると、原稿を送信したときに、そのまま回線を切らずに相手先にセットされているポーリング原稿を受信することができます。 注 意 ［送信］はファクス／インターネットファクスのテンプレート（共有フォルダーに保管しない）を作成した場合に選択することができます。 ファクス／インターネットファクスと［共有フォルダーに保管］を組み合わせた場合は、非表示となり選択できません。
12	パスワード	ポーリングを有効にした場合に、必要に応じてポーリング文書を保存あるいは受信するための4桁のセキュリティコードを入力します。
13	電話番号（セキュリティ）	［ポーリング］ボックスで［送信］を選択した場合は、保存した文書をポーリングできる電話番号を入力します。 ［ポーリング］ボックスで［受信］を選択した場合は、相手機から文書をポーリングするための電話番号を入力します。

	項目名	機能説明
14	日時指定送信	このエージェントに時刻指定通信を許可する場合は、原稿を送信する日時を入力します。日付を「0」に設定すると、日時指定送信は無効になります。
15	優先送信	ほかのジョブよりも優先して送信を実行するかを選択します。
16	回線モニター	回線モニターを確認して相手機との接続を確認するかどうか設定します。
17	送信者名	「自局名称」または登録されている送信者名をリストから選択します。 📖 P.178 「ファクス設定」 📖 P.183 「送信者名登録」

＊1　お使いの機種によっては選択できません。

□ Eメール設定

Eメール設定に関するエージェント設定のページでは、送信されるEメール送信文書のプロパティを設定します。



	項目名	機能説明
1	件名	Eメールの件名を設定します。 **管理者設定のＥメール設定を使う**：［管理者］＞［セットアップ］＞［Eメール］で設定した件名にします。 **（マシン名称）からの送信データ［(テンプレート名称)］**：（マシン名称）からの送信データ［(テンプレート名称)］を件名にします。 **<入力ボックス>**：入力されたテキストを件名にします。 **件名に日時を付加する**：上記で選択した件名の最後に日時を付加する場合にチェックします。 補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、件名に変数を使用することができます。 変数については、以下の参照先をご覧ください。 📖 P.389 「XMLフォーマットファイルの変数」

	項目名	機能説明
2	送信者アドレス	送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを設定します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。 **管理者が設定した送信者アドレスを使う**：［管理者］＞［セットアップ］＞［Eメール］で設定した送信者アドレスを使用します。ユーザー認証またはEメール認証が有効の場合は、［管理者］＞［セキュリティ］＞［認証］＞［Eメールアドレス設定］で設定した送信者アドレスを使用します。 **<入力ボックス>**：送信者アドレスを半角英数字（140文字）で設定します。
3	送信者名	Eメール文書に適用する送信者の名前を入力します。 **管理者が設定した送信者名を使う**：［管理者］＞［セットアップ］＞［Eメール］で設定した送信者名を使用します。ユーザー認証またはEメール認証が有効の場合は、［管理者］＞［セキュリティ］＞［認証］＞［Eメールアドレス設定］で設定した送信者名を使用します。 **<入力ボックス>**：送信者名を設定します。全角半角に関係なく64文字まで入力できます。
4	本文	Eメール文書に初期設定として適用する本文を入力します。全角半角に関係なく、スペースを含み1000文字まで入力できます。

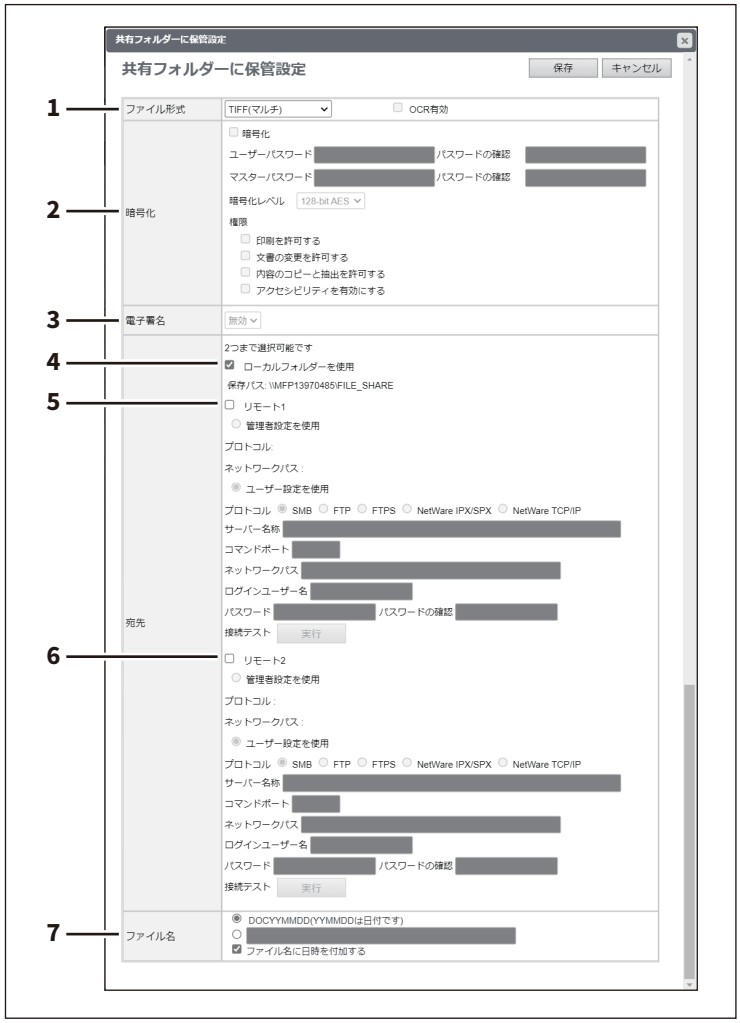
	項目名	機能説明
5	ファイル形式	スキャンイメージのファイル形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **高圧縮PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **高圧縮PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。 • **JPEG**：スキャンイメージを、JPEGファイルとして保存します。 • **PDF/A（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。 • **PDF/A（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。 • **DOCX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **DOCX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 ［OCR有効］でOCRを有効にするかどうかを選択できます。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • OCR読み取りは、OCRオプション装着時のみ有効です。

	項目名	機能説明
6	暗号化	ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。 **暗号化**：PDFを暗号化する場合にオンにします。 **ユーザーパスワード**：暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します **マスターパスワード**：PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。 **暗号化レベル**：暗号化レベルを選択します。 • **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **256-bit AES**：Acrobat 9.0、PDF V1.7に互換性のある暗号化レベルを設定します。 **権限**：暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。 • **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。 • **文書の変更を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。 • **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。 • **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • 工場出荷時の状態では、ユーザーパスワードとマスターパスワードは設定されていません。 • 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。 • ユーザーパスワードとマスターパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。 注 意 各パスワードはユーザーが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスターパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。ユーザーパスワードまたはマスターパスワードのいずれかを入力すると、暗号化の設定が可能になります。暗号化の詳細設定については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** ユーザーパスワードおよびマスターパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

	項目名	機能説明
7	電子署名	PDFへの電子署名の付加を有効または無効にします。 補 足 PDF（マルチ）、PDF（シングル）、高圧縮PDF（マルチ）高圧縮（シングル）、PDF/A（マルチ）、PDF/A（シングル）以外のファイル形式を選択している場合、この設定は選択できません。
8	ファイル名	初期設定として使用されるファイル名を入力します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的のファイル名をボックスに入力します。 ファイル名に日付と時刻を付加したい場合は、［ファイル名に日時を付加する］チェックボックスをオンにします。 補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］＞［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。
9	分割送信サイズ	メッセージの分割サイズを選択します。初期値は［分割無］に設定されています。

□ 共有フォルダーに保管設定

共有フォルダーに保管設定のページでは、スキャンファイルの保存方法および保存先を設定します。



	項目名	機能説明
1	ファイル形式	スキャンファイルの保存形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **高圧縮PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **高圧縮PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。 • **JPEG**：スキャンイメージを、JPEGファイルとして保存します。 • **PDF/A（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。 • **PDF/A（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。 • **DOCX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **DOCX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 ［OCR有効］でOCRを有効にするかどうかを選択できます。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • OCR読み取りは、OCRオプション装着時のみ有効です。

	項目名	機能説明
2	暗号化	ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。 **暗号化**：PDFを暗号化する場合にオンにします。 **ユーザーパスワード**：暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します **マスターパスワード**：PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。 **暗号化レベル**：暗号化レベルを選択します。 • **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **256-bit AES**：Acrobat 9.0、PDF V1.7に互換性のある暗号化レベルを設定します。 **権限**：暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。 • **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。 • **文書の変更を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。 • **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。 • **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • 工場出荷時の状態では、ユーザーパスワードとマスターパスワードは設定されていません。 • 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。 • ユーザーパスワードとマスターパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。 注 意 各パスワードはユーザーが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスターパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。ユーザーパスワードまたはマスターパスワードのいずれかを入力すると、暗号化の設定が可能になります。暗号化の詳細設定については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** ユーザーパスワードおよびマスターパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
3	電子署名	PDFへの電子署名の付加を有効または無効にします。 補 足 PDF（マルチ）、PDF（シングル）、PDF/A（マルチ）、PDF/A（シングル）以外のファイル形式を選択している場合、この設定は選択できません。

	項目名	機能説明
4	宛先／ローカルフォルダーを使用	スキャンファイルを本機の共有フォルダー（「FILE_SHARE」フォルダー）に保存します。 補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、宛先は1つしか指定できません。
5	宛先／リモート1	スキャンファイルをネットワークフォルダーに保存する場合にオンにします。アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーが、［セットアップ］メニューの［共有フォルダーに保管］サブメニューで、リモート1をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。 ［次のネットワークフォルダーに保存する］を選択した場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。 ［ユーザーがネットワークフォルダーを指定することを認める］を選択した場合は、［ユーザー設定を使用］を選択し、以下の項目を入力してファイルを保存する宛先を設定します。 **プロトコル** スキャンファイルをネットワークフォルダーに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用してスキャンファイルをネットワークフォルダーに転送します。 • **FTP**：スキャンファイルをFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSL/TLSでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 **サーバー名称** プロトコルでFTPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、スキャンファイルをFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダーに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。 半角英数字と記号で64文字まで入力できます。 **コマンドポート** プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。数字と「-」（ハイフン）を使用して、0から65535までの値を入力できます。初期値は「-」に設定されています。

	項目名	機能説明
	宛先／リモート1（続き）	**ネットワークパス** プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダーへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピューターの「users¥scanned」というフォルダーを指定する場合は、「¥¥Client01¥users¥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダーを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys¥scan」というフォルダーを指定する場合は、「¥sys¥scan」と入力します。 半角英数字と記号で128文字まで入力できます。 **ログインユーザー名** 必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザー名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。 「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザー名は使えません。 **パスワード** 必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。半角英数字と記号、スペースを含み32文字まで入力できます。スペース1文字のみも可能です。 **パスワードの確認** 確認のためにパスワードを再入力します。 **［実行］ボタン** 設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。 補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、宛先は1つしか指定できません。
6	宛先／リモート2	スキャンファイルをネットワークフォルダーに保存する場合にオンにします。 アクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーが［セットアップ］メニューの［共有フォルダーに保管］サブメニューで、リモート2をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。 リモート2がアクセスポリシーモードで、管理権限が設定されているユーザーにより指定されたネットワークフォルダーを使用するように設定されている場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。 ネットワークフォルダーを自由に指定することが許可されている場合は、［ユーザー設定を使用］を選択し、ファイルを保存する宛先を設定します。設定する項目はリモート1と同様です。 補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、宛先は1つしか指定できません。
7	ファイル名	スキャンファイルの名前の付け方を選択します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的のファイル名を入力します。 ファイル名に日付と時刻を付加したい場合は、［ファイル名に日時を付加する］チェックボックスをオンにします。 補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］＞［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。

□ ボックス設定

ボックス設定のページでは、ファイリングボックスにスキャンイメージをどのように保存するかを設定します。

	項目名	機能説明
1	宛先	スキャンイメージを保存するファイリングボックスを指定します。 **ボックス番号**：スキャンイメージを保存するボックス番号を選択します。 **パスワード**：指定したボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。 **パスワードの確認**：確認のためにパスワードを再入力します。
2	フォルダー名	スキャンイメージをファイリングボックス内のフォルダーに保存したい場合は、保存するフォルダー名を入力します。あらかじめフォルダーがない場合は、入力したフォルダー名で自動的に作成され、保存されます。64文字まで入力できます。
3	文書名	スキャンファイルの名前の付け方を選択します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的の文書名を入力します。

□ USBメディア保存設定

USBメディア保存設定のページでは、USBメディアに保存する方法を設定します。

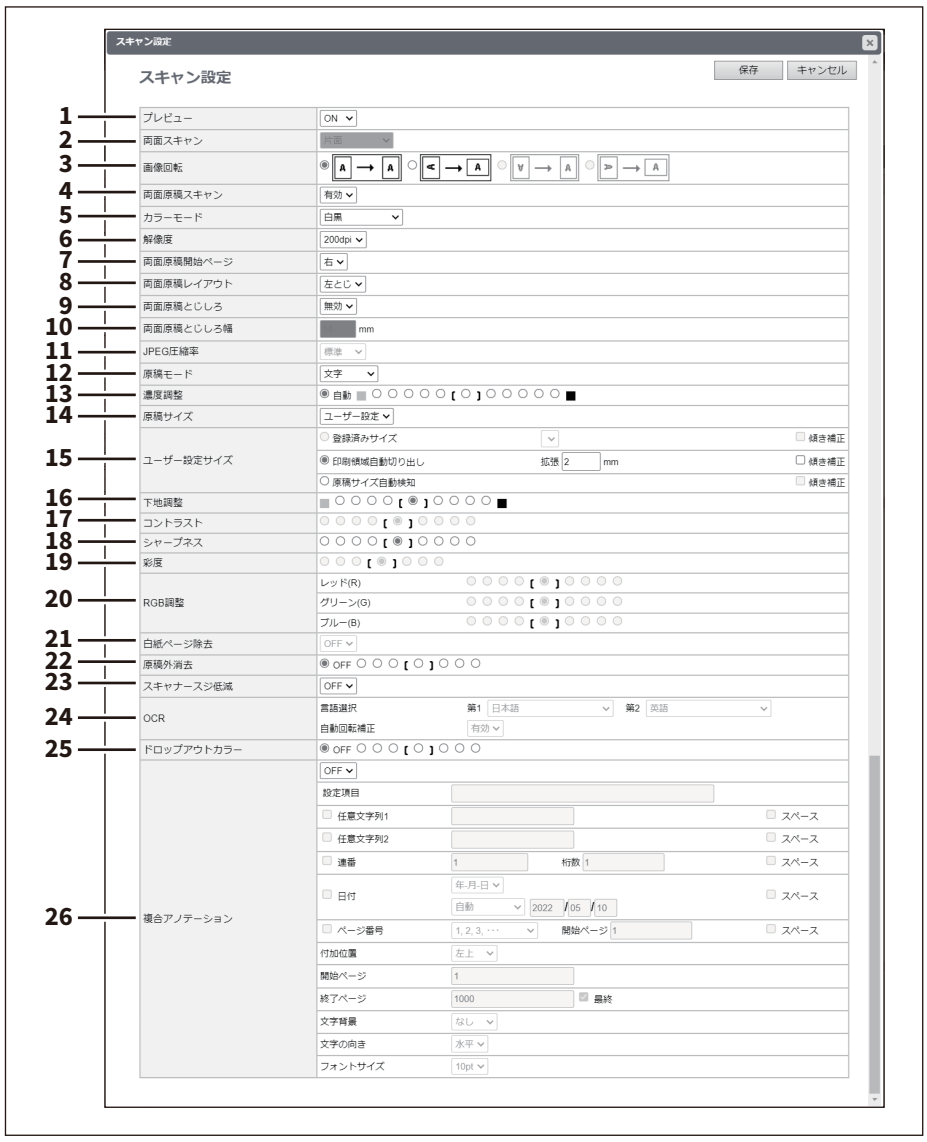
	項目名	機能説明
1	ファイル形式	スキャンファイルの保存形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **高圧縮PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **高圧縮PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルの高圧縮PDFファイルとして保存します。画質よりファイルサイズの縮小を優先したい場合に適しています。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのXPSファイルとして保存します。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。 • **JPEG**：スキャンイメージを、JPEGファイルとして保存します。 • **PDF/A（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDF/Aファイルとして保存します。 • **PDF/A（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDF/Aファイルとして保存します。 • **DOCX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **DOCX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのWord（DOCX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **XLSX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのExcel（XLSX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（マルチ）**：スキャンイメージをOCR読み取りした複数ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 • **PPTX（シングル）**：スキャンイメージをOCR読み取りした1ページのPowerPoint（PPTX）ファイルとして保存します。 ［OCR有効］でOCRを有効にするかどうかを選択できます。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • OCR読み取りは、OCRオプション装着時のみ有効です。

	項目名	機能説明
2	暗号化	ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。 **暗号化**：PDFを暗号化する場合にオンにします。 **ユーザーパスワード**：暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します **マスターパスワード**：PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。 **暗号化レベル**：暗号化レベルを選択します。 • **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **256-bit AES**：Acrobat 9.0、PDF V1.7に互換性のある暗号化レベルを設定します。 **権限**：暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。 • **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。 • **文書の変更を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。 • **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。 • **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • 工場出荷時の状態では、ユーザーパスワードとマスターパスワードは設定されていません。 • 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。 • ユーザーパスワードとマスターパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。 注 意 各パスワードはユーザーが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスターパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。ユーザーパスワードまたはマスターパスワードのいずれかを入力すると、暗号化の設定が可能になります。暗号化の詳細設定については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** ユーザーパスワードおよびマスターパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

	項目名	機能説明
3	電子署名	PDFへの電子署名の付加を有効または無効にします。 補 足 PDF（マルチ）、PDF（シングル）、高圧縮PDF（マルチ）高圧縮（シングル）、PDF/A（マルチ）、PDF/A（シングル）以外のファイル形式を選択している場合、この設定は選択できません。
4	ファイル名	初期設定として使用されるファイル名を入力します。デフォルト設定の［DocYYMMDD］を選択するか、目的のファイル名をボックスに入力します。 ファイル名に日付と時刻を付加したい場合は、［ファイル名に日時を付加する］チェックボックスをオンにします。 補 足 ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］＞［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。

□ スキャン設定

スキャン設定ページでは、スキャンエージェントを選択した場合に、どのように原稿をスキャンするかを設定します。



	項目名	機能説明
1	プレビュー	原稿のスキャン後、スキャンイメージを操作パネル上に表示するかを選択します。 • **OFF**：スキャンイメージを表示しません。 • **ON**：スキャンイメージを表示します。
2	両面スキャン	原稿の片面をスキャンするか、両面をスキャンするかを選択します。［両面原稿スキャン］が有効な場合は、選択できません。自動原稿送り装置が装着されている場合のみ、使用できます。 • **片面**：原稿の片面をスキャンします。 • **両面左右開き**：両面左右開きでスキャンします。 • **両面上下開き**：両面上下開きでスキャンします。
3	画像回転	スキャンイメージをどのように回転させるかを選択します。［両面原稿スキャン］が有効な場合は、180度と270度の回転（右2つの選択肢）は選択できません。
4	両面原稿スキャン	ブック原稿の見開き両面を別々にスキャンするかどうかを選択します。［白紙ページ除去］が［ON］に設定されている場合は、選択できません。 • **無効**：両面原稿スキャン機能を無効にします。 • **有効**：両面原稿スキャン機能を有効にします。［両面原稿開始ページ］、［両面原稿レイアウト］、［両面原稿とじしろ］、［両面原稿とじしろ幅］を設定できます。
5	カラーモード	スキャンのカラーモードを選択します。 • **白黒**：モノクロでスキャンします。 • **グレースケール**：グレースケールでスキャンします。 • **フルカラー**：フルカラーでスキャンします。 • **オートカラー**：オートカラーでスキャンします。 **注 意** • ［カラーモード］の設定は、共有フォルダーに保管設定の［ファイル形式］およびEメール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ）］または［高圧縮PDF（シングル）］を選択した場合は、設定できません。 • ［オートカラー］を選択した場合、［ファイル形式］で［JPEG］と［TIFF（マルチ）］は選択できません。また、［白黒］を選択した場合は、［JPEG］を選択できません。
6	解像度	スキャンの解像度を選択します。 **注 意** ［解像度］の設定は、共有フォルダーに保管設定の［ファイル形式］およびEメール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ）］または［高圧縮PDF（シングル）］を選択した場合は、設定できません。
7	両面原稿開始ページ	ブック原稿の開始ページを選択します。［両面原稿スキャン］が有効な場合のみ選択できます。 • **右**：右ページから始まるブック原稿の見開き両面を別々にスキャンします。 • **左**：左ページから始まるブック原稿の見開き両面を別々にスキャンします。

	項目名	機能説明
8	両面原稿レイアウト	ブック原稿のとじ位置を選択します。［両面原稿スキャン］が有効な場合のみ選択できます。 • **左とじ**：左側でとじているブック原稿の見開き両面を別々にスキャンします。 • **右とじ**：右側でとじているブック原稿の見開き両面を別々にスキャンします。
9	両面原稿とじしろ	ブック原稿のとじしろを考慮して、別々にスキャンした見開き両面の画像をシフトするかどうかを選択します。［両面原稿スキャン］が有効な場合のみ選択できます。 • **有効**：とじしろを考慮して、別々にスキャンした見開き両面の画像をシフトします。 • **無効**：とじしろを考慮せず、見開き両面をそのまま別々にスキャンします。
10	両面原稿とじしろ幅	別々にスキャンした見開き両面の画像をシフトするため、両面原稿のとじしろ幅を0から30mmまで指定します。［両面原稿スキャン］および［両面原稿とじしろ］が有効な場合のみ、とじしろ幅を設定できます。
11	JPEG圧縮率	スキャンデータの圧縮率を選択します。 **注 意** • カラーモードで［白黒］を選択した場合は設定できません。 • ［JPEG圧縮率］の設定は、共有フォルダーに保管設定の［ファイル形式］およびEメール設定の［ファイル形式］で［高圧縮PDF（マルチ）］または［高圧縮PDF（シングル）］を選択した場合は、設定できません。
12	原稿モード	原稿の種類を選択します。 • **文字**：原稿モードに文字モードを使用します。 • **文字／写真**：原稿モードに文字／写真モードを使用します。一部の機種では、カラーモードで［白黒］を選択している場合のみ設定できます。*1 • **写真**：原稿モードに写真モードを使用します。 **注 意** カラーモードで［グレースケール］を選択した場合は設定できません。
13	濃度調整	スキャンの濃度を選択します。 ［自動］を選択すると、原稿に応じた理想的なコントラストを自動的に適用します。手動で濃度を調節する場合は、11段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画像全体の濃度が濃くなります。 **注 意** カラーモードで［グレースケール］［フルカラー］または［オートカラー］を選択した場合は、［自動］は設定できません。その場合は、手動で設定してください。
14	原稿サイズ	原稿サイズを選択します。 ［自動］を選択すると、原稿サイズを自動的に検出します。［原稿サイズ混在］を選択すると、サイズの異なる用紙が混在する原稿をスキャンすることができます。また、目的の原稿サイズを選択することもできます。［ユーザー設定］を選択すると、スキャンする際のカスタム原稿サイズを指定できます。

	項目名	機能説明
15	ユーザー設定サイズ	［原稿サイズ］で［ユーザー設定］を選択すると、スキャンする際のカスタム原稿サイズを選択できます。以下のどの選択肢でも［傾き補正］を設定できます。 • **登録済みサイズ**：操作パネルであらかじめ登録したユーザー設定サイズを選択します。 • **印刷領域自動切り出し**：原稿の印刷領域を自動検知して切り出し、ユーザー設定サイズ を設定します。［拡張］にサイズを入力すると、領域を広げることができます。 • **原稿サイズ自動検知**：原稿サイズを自動的に検知して、ユーザー設定サイズ を設定します。この機能は、両面同時原稿送り装置装着時のみ利用できます。
16	下地調整	スキャンの背景色の濃度を選択します。背景色の濃度は9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、背景色の濃度が濃くなります。
17	コントラスト	スキャンのコントラストを選択します。コントラストは9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、コントラストが強くなります。 **注 意** カラーモードで［白黒］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。
18	シャープネス	スキャンのシャープネスを選択します。シャープネスの強度は9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画質がシャープになります。
19	彩度	スキャンの彩度を選択します。彩度は7段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、画質が鮮やかになります。 **注 意** カラーモードで［白黒］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。
20	RGB調整	スキャンのRGB濃度を選択します。濃度は色ごとに9段階に調節することができます。選択値を右側に設定するほど、設定した色の濃度が濃くなります。 **注 意** カラーモードで［白黒］または［グレースケール］を選択した場合は設定できません。
21	白紙ページ除去	原稿に白紙ページが含まれていた場合、スキャン結果から白紙ページを自動的に省くかを選択します。［両面原稿スキャン］が有効な場合は、選択できません。 • **OFF**：白紙ページを含めます。 • **ON**：白紙ページを省きます。
22	原稿外消去	原稿ガラス上に原稿をセットし、原稿カバーを開けた状態でスキャンした場合、原稿以外の部分を消去するかを選択します。消去された部分は白色になります。 原稿以外の部分を消去する場合は、消去する部分を判定するための基準を、7段階に調節することができます。基準を右側に設定するほど、消去する部分を増やすことができます。なお、初期設定では［OFF］が選択されています。

	項目名	機能説明
23	スキャナースジ低減	原稿をスキャンした際に、画像にスジが目立つ場合に設定します。 • **OFF**：スジ低減しません。 • **ON**：スジ低減します。 補 足 この機能を使用すると、スキャン速度が通常より遅くなります。
24	OCR	OCR読み取りを行う優先言語や自動回転を設定します。OCRオプションが装着されている場合のみ、使用できます。 • **言語選択**：第1、第2の優先言語を選択します。 • **自動回転補正**：自動回転するかどうかを設定します。
25	ドロップアウトカラー	スキャンしたカラー原稿からカラーを除去（ドロップアウト）する度合いを選択します。ドロップアウトの度合いは7段階に調整することができます。この機能を無効にする場合は、［OFF］を選択します。

	項目名	機能説明
26	複合アノテーション	複合アノテーション機能を設定します。スキャンした原稿をPDFファイルとして保存する際に、指定した情報をアノテーションとして付加できます。 • **ON/OFF**：複合アノテーション機能のオン、オフを切り替えます。［ON］を選択すると、アノテーションとして付加する以下の情報を指定できます。 • **設定項目**：［任意文字列1］、［任意文字列2］、［連番］、［日付］、［ページ番号］を選択した順番に合わせて表示し、アノテーションとして付加します。 • **任意文字列1、スペース**：チェックボックスを選択すると、32文字までの文字列1を入力できます。［スペース］を選択すると、文字列1の後にスペースを追加します。 • **任意文字列2、スペース**：チェックボックスを選択すると、32文字までの文字列2を入力できます。［スペース］を選択すると、文字列2の後にスペースを追加します。 • **連番、桁数、スペース**：チェックボックスを選択すると、連番の開始番号と桁数（1 - 10）を入力できます。［スペース］を選択すると、連番の後にスペースを追加します。 • **日付、スペース**：チェックボックスを選択すると、日付の形式（YYYY-MM-DD、DD-MM-YYYY、MM-DD-YYYY）を選択して日付を指定できます。［ユーザー指定］を選択すると任意の日付を指定でき、［自動］を選択すると日付はファイルの作成日になります。［スペース］を選択すると、日付の後にスペースを追加します。 • **ページ番号、開始ページ、スペース**：チェックボックスを選択すると、ページ番号の形式（ページ番号のみ、ハイフンで囲んだページ番号、ページ番号/総ページ数）を選択して開始ページ（1 – 30,000）を指定できます。［スペース］を選択すると、ページ番号の後にスペースを追加します。 • **付加位置**：アノテーションを付加する位置（上部左、中央上、上部右、左中央、右中央、下部左、中央下、下部右）を選択します。 • **開始ページ**：アノテーションの付加を開始する最初のページ番号（1 – 1,000）を入力します。 • **終了ページ、最終**：初期設定では［最終］が選択されていますので、最後のページまでアノテーションが付加されます（終了ページ番号は入力できません）。最後のページの前でアノテーションの付加を終了するには、［最終］の選択を外して終了ページ番号（1 – 1,000）を入力します。 • **文字背景**：アノテーション文字の背景（なし、白背景）を選択します。 • **文字の向き**：アノテーション文字の方向（水平、垂直）を選択します。 • **フォントサイズ**：アノテーション文字のフォントサイズ（8 - 16）を選択します。

	項目名	機能説明
	複合アノテーション（続き）	**注 意** • スキャンした原稿をPDF以外のファイル形式で保存する場合、複合アノテーション機能は無効です。 • ［アノテーション］欄に表示するアノテーション項目の順序が変わる場合あります。［任意文字列2］と［任意文字列1］の順番で選択して設定を保存しても、設定画面を再度開くと［任意文字列1］と［任意文字列2］の順番に変わり、指定した文字列も入れ替わります。 • ［日付］で［ユーザー指定］を選択すると、入力した日付がそのままアノテーションとして追加されます。ありえない日付を入力しないでください。 • 最後に選択したアノテーション項目で［スペース］を選択しても、最後のスペースは無視されます。 • スキャンした原稿の実際のページ数よりも大きい数値を［開始ページ］に入力すると、アノテーションは付加されません。また、［終了ページ］より大きな数値を入力できません。 • スキャンした原稿の実際のページ数よりも大きい数値を［終了ページ］に入力すると、最後のページまでアノテーションは付加されます。また、［開始ページ］より小さな数値を入力できません。 • ［文字の向き］で［垂直］を選択すると、アノテーション全体を90度左に回転して文字を下から上へ並べます。また、［付加位置］で［中央上］と［中央下］は選択できません。

＊1　カラー印刷に対応した機種のみ可能となります。

□ 拡張フィールド設定

メタスキャンの拡張フィールドを設定します。
［管理者］＞［登録］＞［拡張フィールド定義］で登録したフィールドを選択します。

	項目名	機能説明
1	拡張フィールド定義番号	登録済みの拡張フィールド定義を選択します。

□ 拡張フィールド属性

選択された登録済み拡張フィールド定義で設定されている［拡張フィールド属性］が表示されます。
ここで設定した値が、メタスキャン実行時に操作パネルに表示される［拡張フィールド属性］のデフォルト値になります。
［拡張フィールド属性］の名称の前に、アスタリスク（*）が表示されている項目は、必ず入力する必要があります。

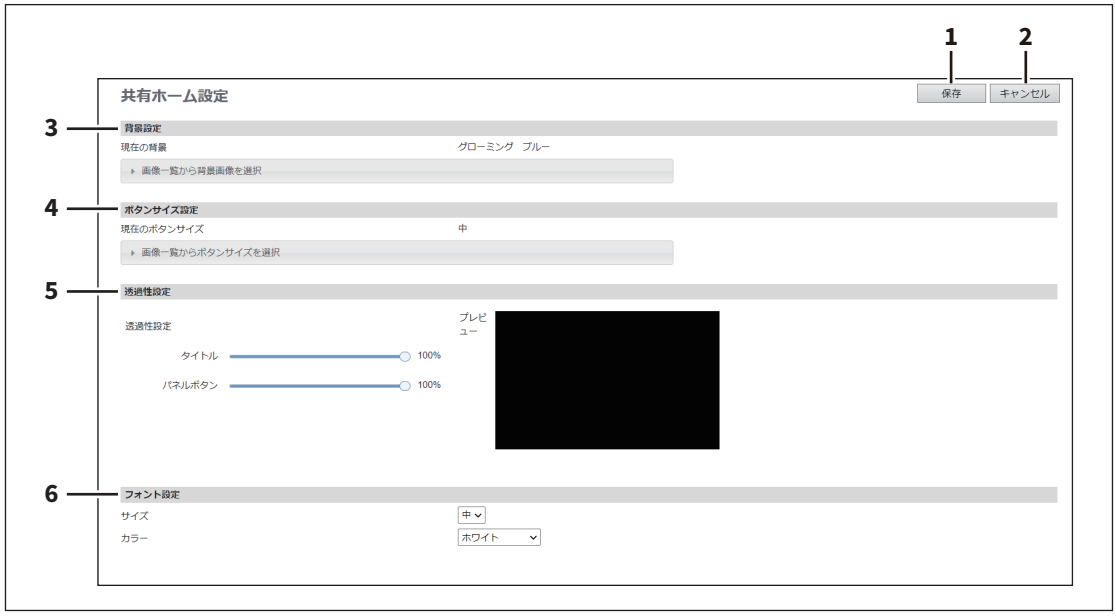
■ 共有テーマ設定

共有ホーム画面のテーマを設定します。

	項目名	機能説明
1	保存	変更した設定を保存します。
2	キャンセル	操作を中止します。
3	ホーム画面	ホーム画面のテーマを選択します。 ［画像一覧からテーマを選択］を選択すると、一覧からテーマを選択できます。
4	共通画面	共通画面のテーマを選択します。 ［画像一覧からテーマを選択］を選択すると、一覧からテーマを選択できます。 **注 意** 一般ユーザーはこの設定を変更できません。

■ 共有ホーム設定

共有ホーム画面の背景やボタンサイズ、透明度を設定します。



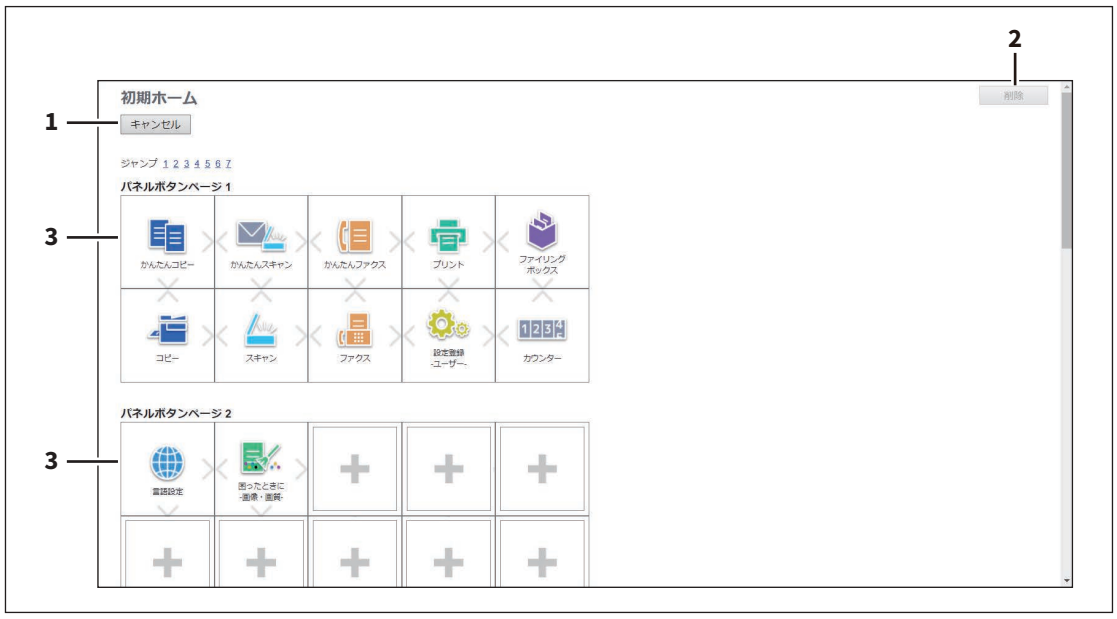
	項目名	機能説明
1	保存	変更した設定を保存します。
2	キャンセル	操作を中止します。
3	背景設定	ホーム画面の背景を選択します。 ［現在の背景］で［画像一覧から背景画像を選択］を選択すると、一覧から背景デザインを選択できます。 **注 意** 一般ユーザーはこの設定を変更できません。
4	ボタンサイズ設定	ボタンサイズを設定します。 ［現在のボタンサイズ］で［画像一覧からボタンサイズを選択］を選択すると、一覧からボタンサイズを選択できます。
5	透過性設定	ホーム画面の透明度を設定します。 • **タイトル** － タイトルバーの透明度を設定できます。 • **パネルボタン** － ボタンの透明度を設定できます。
6	フォント設定	共有ホーム画面で使用するフォントを設定します。 • **サイズ** － フォントサイズを選択できます。 • **カラー** － フォントカラーを選択できます。

■ 初期ホーム

初期ホームは、操作パネルの［ホーム］ボタンを押すと表示されるホーム画面の初期状態の設定を行います。

補 足

［初期ホーム］サブメニューは、［管理者］＞［登録］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［登録］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.309 「［登録］（［管理者］）項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
2	［削除］ボタン	選択しているパネルボタンを削除します。
3	パネルボタン一覧	共有ホームに選択できるパネルボタンの一覧が表示されます。使用するパネルボタンを選択します。 リンクをクリックすることでホームタイプを編集できます。 📖 P.310 「［ホームタイプ選択］画面」

■ 初期ホーム設定

初期ホーム画面の背景やボタンサイズ、透明度を設定します。
設定項目は［共有ホーム設定］と同様です。
📖 P.346 「共有ホーム設定」

■ かんたん画面設定

かんたん画面の背景を選択します。

補 足

［かんたん画面設定］サブメニューは、［管理者］＞［登録］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［登録］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.309 「［登録］（［管理者］）項目説明一覧」

	項目名	機能説明
1	保存	変更した設定を保存します。
2	キャンセル	操作を中止します。
3	現在の背景	現在選択されている背景の名前を表示します。
4	画像一覧からテーマを選択	クリックすると一覧が表示され、背景を選択できます。

■ 画像/アイコン管理

背景やアイコンの画像を管理します。

□ パネル背景画像

	項目名	機能説明
1	背景画像のインポート	背景用の画像をインポートします。 • **［ファイルの選択］ボタン**：画像ファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：選択した画像ファイルをインポートします。
2	現在の背景画像一覧	登録されている画像一覧を表示、管理します。 • **［削除］ボタン**：選択している画像ファイルを削除します。 • **［エクスポート］ボタン**：選択している画像ファイルをエクスポートします。
3	エクスポートされた背景画像情報	エクスポートされた画像ファイルの情報を表示します。

インポート可能な画像形式は次のとおりです。

- 画像サイズ：1024×600ピクセル（推奨サイズ）
- 画像フォーマット：png
- カラー：24bit
- 最大ファイルサイズ：1.5MB

□ パネルアイコン画像

	項目名	機能説明
1	パネルアイコン画像インポート	アイコン用の画像をインポートします。 • **［ファイルの選択］ボタン**：画像ファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：選択した画像ファイルをインポートします。
2	現在のアイコン画像一覧	登録されている画像一覧を表示、管理します。 • **［削除］ボタン**：選択している画像ファイルを削除します。 • **［エクスポート］ボタン**：選択している画像ファイルをエクスポートします。
3	エクスポートされたアイコン画像情報	エクスポートされた画像ファイルの情報を表示します。

インポート可能な画像形式は次のとおりです。

- 画像サイズ：193×128ピクセル
- 画像フォーマット：png
- カラー：24bit
- 最大ファイルサイズ：50KB

□ カード認証ガイダンス画像

	項目名	機能説明
1	カード認証ガイダンス画像のインポート	カード認証ガイダンス用の画像をインポートします。 • **［ファイルの選択］ボタン**：画像ファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：選択した画像ファイルをインポートします。
2	カード認証ガイダンス画像リスト	登録されている画像一覧を表示、管理します。 • **［削除］ボタン**：選択している画像ファイルを削除します。 • **［エクスポート］ボタン**：選択している画像ファイルをエクスポートします。
3	カード認証ガイダンス情報	エクスポートされた画像ファイルの情報を表示します。

インポート可能な画像形式は次のとおりです。

- 画像サイズ：500×320ピクセル
- 画像フォーマット：png、gif
- 最大ファイルサイズ：2MB

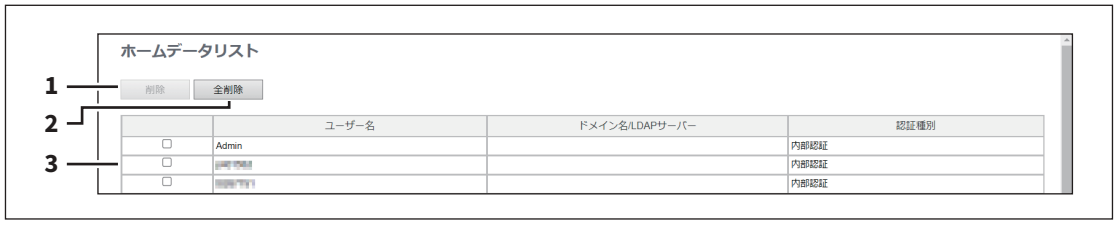
■ ホームデータリスト

ホームデータリストでは、保存されている全ホーム画面データを表示し、管理できます。

補 足

［ホームデータリスト］サブメニューは、［管理者］＞［登録］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［登録］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.309 「［登録］（［管理者］）項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	［削除］ボタン	選択しているホーム画面データを削除します。
2	［全削除］ボタン	すべてのホーム画面データを削除します。
3	ホーム画面データ一覧	登録されているホーム画面データの一覧が表示されます。

■ ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送

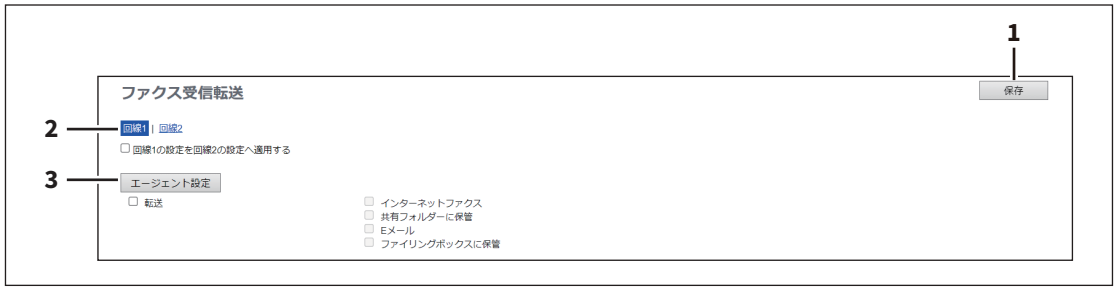
ファクス受信転送およびインターネットファクス受信転送では、受信ファクスやインターネットファクスを特定の宛先に転送することができます。この機能を使用すれば、本機が受信したすべてのファクスやインターネットファクスを確認することができます。

補 足

［ファクス受信転送］/［インターネットファクス受信転送］サブメニューは、［管理者］＞［登録］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［登録］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.309 「［登録］（［管理者］）項目説明一覧」

ファクスの受信転送は、受信形態に応じて［ファクス受信転送］と［インターネットファクス受信転送］の2つの画面で別々に設定します。設定は電話回線を使ったファクスの回線選択以外は共通です。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	ファクスの受信転送を設定した後で、クリックして設定を保存します。

	項目名	機能説明
2	回線1／回線2	電話回線を使ったファクスの場合は2回線を別々に設定できますので、［回線1］または［回線2］を選択します。回線1の設定を済ませて回線2に適用したい場合は、［回線1の設定を回線2の設定へ適用する］を選択します。
3	［エージェント設定］ボタン	受信したファクスを転送するには、［転送］を選択してからエージェントを以下から選択します。ファクス転送を停止するには、［転送］のチェックを外します。 • **インターネットファクス**：受信ファクスを別のインターネットファクス装置に転送します。このエージェントは、［共有フォルダーに保管］または［ファイリングボックスに保管］エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。 • **共有フォルダーに保管**：受信ファクスを本機の共有フォルダーまたはネットワークフォルダーに転送します。このエージェントは、ほかのエージェントの1つと組み合わせてセットアップすることができます。 • **Eメール**：受信ファクスをEメールアドレスに転送します。このエージェントは、［共有フォルダーに保管］または［ファイリングボックスに保管］エージェントと組み合わせてセットアップすることができます。 • **ファイリングボックスに保管**：受信ファクスを本機内のファイリングボックスに転送します。このエージェントは、ほかのエージェントの1つと組み合わせてセットアップすることができます。 ［エージェント設定］ボタンをクリックすると、選択したエージェントに必要な設定や機能リストが画面に表示されます。各リストの上側に配置したボタンをクリックすると、別のウィンドウが開き、必要な機能を設定できるようになります。

注 意

- Fコード通信機能を持つファクスどうしで通信する場合は、本機のFコード通信機能を使用して転送することができます。事前に箱（メールボックス）を開設しておく必要があります。また相手先のファクス番号をボックス番号にして、箱（メールボックス）ごとに指定した保存先へ原稿を転送するTSI（送信者情報）または発信電話番号（ナンバーディスプレイ利用時のみ）転送機能を利用することもできます。
- ［ファクス受信転送］は、FAXユニットが本機に装着されているときにのみ有効です。
- ［ファクス受信設定］は、FAXユニットに回線増設ユニットを装着することにより、2回線となります。回線ごとに受信設定することができます。回線1と回線2どちらで受信しても、設定した転送先に受信ファクスを転送します。
- 共有フォルダーに保管、Eメール送信、ファイリングボックスに保管で保管された受信文書を印刷した場合、画像処理が通常のファクスと異なるため、画質が異なります。

受信ファクスやインターネットファクスを以下の宛先に転送することができます。

- ほかのインターネットファクス装置
- 本機の共有フォルダーまたはネットワークフォルダー
- Eメールアドレス
- 本機内のファイリングボックス

□ 原稿印刷（ファクス／インターネットファクス受信転送）

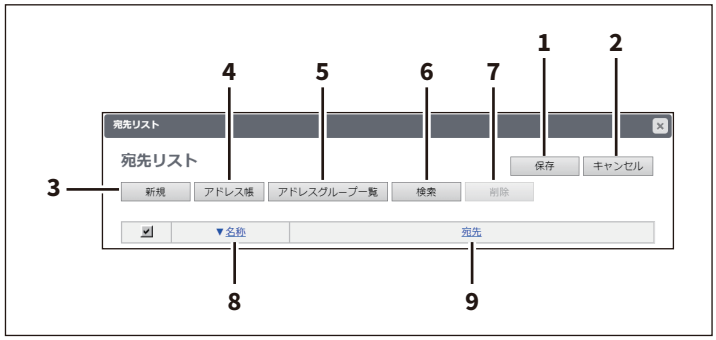
転送する受信ファクス原稿をいつ印刷するかを選択します。

	項目名	機能説明
1	原稿印刷	• **常時印刷**：転送する受信原稿を常に印刷します。 • **エラー時のみ印刷**：すべての転送箇所がエラーになったとき受信原稿を印刷します。（たとえば、共有フォルダー保管とEメール送信設定でEメール送信エラーだけが発生した場合は印刷しません。）

□ 宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

［インターネットファクス］または［Eメール］エージェントを選択した場合、受信したファクスを転送するEメールアドレスを指定を指定できます。［宛先設定］、［TO: 宛先設定］、［CC: 宛先設定］または［BCC: 宛先設定］ボタンをクリックして以下のウィンドウを開いて設定します。

宛先リスト



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	宛先の設定内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	［新規］ボタン	宛先としてEメールアドレスを登録する画面を表示します。 📖 P.50 「［宛先情報作成］/［宛先情報編集］画面」
4	［アドレス帳］ボタン	アドレス帳から宛先を選択します。
5	［アドレスグループ一覧］ボタン	アドレス帳のグループを宛先として選択します。
6	［検索］ボタン	アドレス帳から連絡先を検索します。 📖 P.52 「［宛先検索］画面」
7	［削除］ボタン	選択されている宛先を削除します。 **補 足** 宛先設定を保存する前に、宛先リストに追加した宛先を削除することができます。
8	宛先名	アドレス帳に登録されている名称を表示します。
9	宛先	Eメールアドレスを表示します。

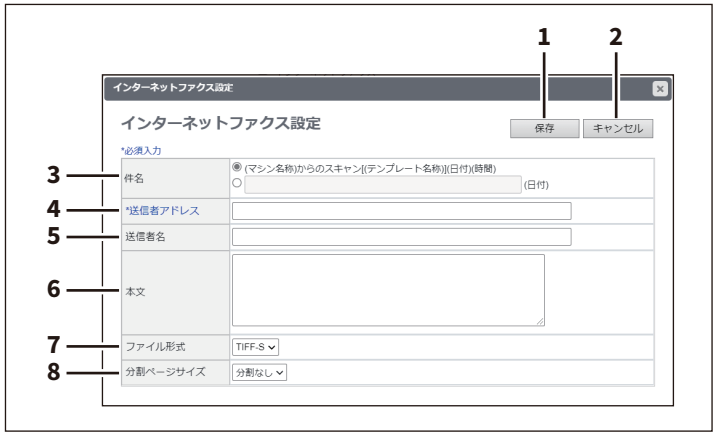
［宛先情報］画面

宛先としてEメールアドレスを設定します。

	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	宛先を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	［リセット］ボタン	入力されているEメールアドレスを消去します。
4	宛先	Eメールアドレスを入力します。

□ インターネットファクス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

［インターネットファクス］エージェントを選択した場合、受信ファクスをどのように転送するかを設定できます。［インターネットファクス］ボタンをクリックして以下のウィンドウを開いて設定します。

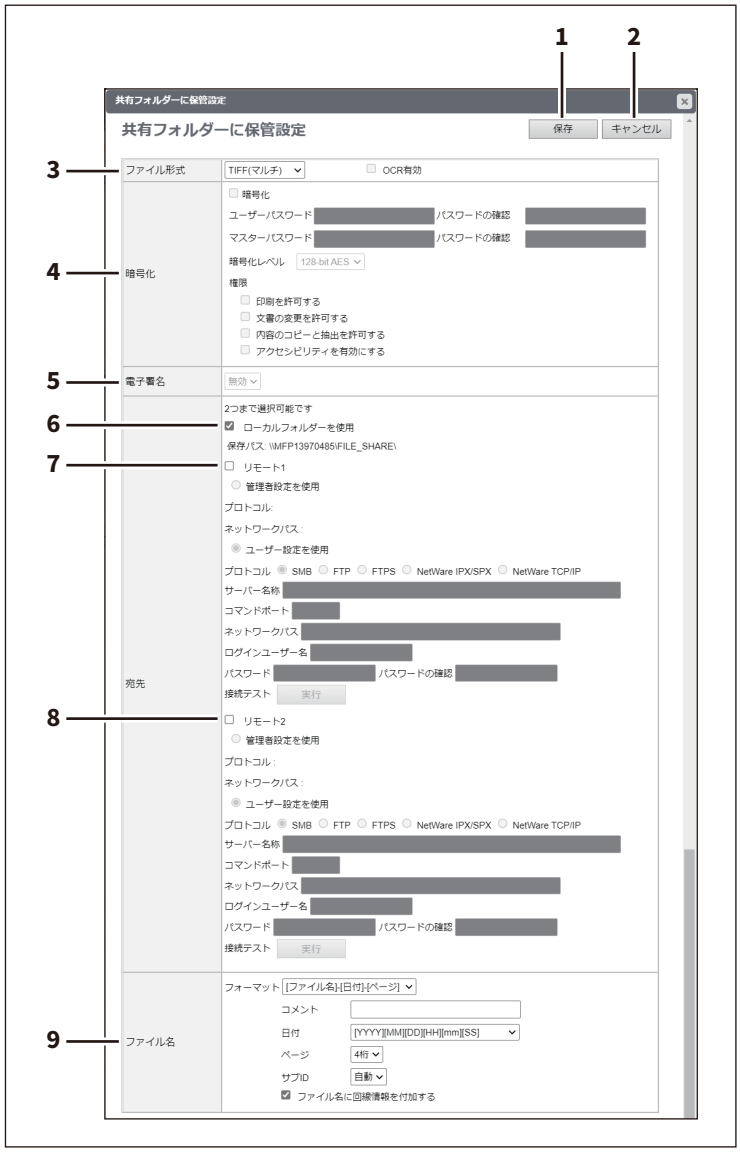


	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	件名	インターネットファクスに適用する件名を設定します。デフォルト設定の［(マシン名称）からのスキャン［(テンプレート名称)］(日付）(時間)］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。手動で件名を入力した場合は、自動的に（日付）が付与され、［(件名）(日付)］になります。
4	送信者アドレス	送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。
5	送信者名	インターネットファクス送信に適用する送信者の名前を入力します。
6	本文	インターネットファクスに適用する本文を入力します。スペースを含み1000文字まで入力できます。
7	ファイル形式	スキャンイメージのファイル形式を選択します。［TIFF-S］（TIFF-FX（Profile S））のみ選択することができます。

	項目名	機能説明
8	分割ページサイズ	メッセージの分割サイズを選択します。

□ 共有フォルダーに保管設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

［共有フォルダーに保管］エージェントを選択した場合、受信ファクスの保管方法や保存先を設定できます。
［共有フォルダーに保管］ボタンをクリックして以下のウィンドウを開いて設定します。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。

	項目名	機能説明
3	ファイル形式	スキャンファイルの保存形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのXPSファイルとして保存します。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。 ［OCR有効］でOCRを有効にするかどうかを選択できます。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • OCR読み取りは、OCRオプション装着時のみ有効です。

	項目名	機能説明
4	暗号化	ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。 **暗号化** PDFを暗号化する場合にオンにします。 **ユーザーパスワード** 暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します。 **マスターパスワード** PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。 **暗号化レベル** 暗号化レベルを選択します。 • **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **256-bit AES**：Acrobat 9.0、PDF V1.7に互換性のある暗号化レベルを設定します。 **権限** 暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。 • **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。 • **文書の変更を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。 • **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。 • **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。 補 足 • 暗号化PDF強制モードが有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • 工場出荷時の状態では、ユーザーパスワードとマスターパスワードは設定されていません。 • 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。 • ユーザーパスワードとマスターパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。 注 意 各パスワードはユーザーが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスターパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。ユーザーパスワードまたはマスターパスワードのいずれかを入力すると、暗号化の設定が可能になります。暗号化の詳細設定については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** ユーザーパスワードおよびマスターパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

	項目名	機能説明
5	電子署名	PDFへの電子署名の付加を有効または無効にするかを選択します。 補 足 PDF（マルチ）、PDF（シングル）以外のファイル形式を選択している場合、この設定は選択できません。
6	宛先／ローカルフォルダーを使用	受信原稿を本機の共有フォルダー（「FILE_SHARE」フォルダー）に保存します。
7	宛先／リモート1	受信原稿をネットワークフォルダーに保存する場合にオンにします。 ［セットアップ］メニューの［共有フォルダーに保管］サブメニューで、リモート1をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。 ［次のネットワークフォルダーに保存する］を選択した場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。 ［ユーザーがネットワークフォルダーを指定することを認める］を選択した場合は、［ユーザー設定を使用］を選択し、以下の項目を入力してファイルを保存する宛先を設定します。 **プロトコル** 受信原稿をネットワークフォルダーに転送するときに使用するプロトコルを選択します。 • **SMB**：SMBプロトコルを使用して受信原稿をネットワークフォルダーに転送します。 • **FTP**：受信原稿をFTPサーバーに転送します。 • **FTPS**：スキャンファイルをFTP over SSL/TLSでFTPサーバーに転送します。 • **NetWare IPX/SPX**：スキャンファイルをIPX/SPXプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 • **NetWare TCP/IP**：スキャンファイルをTCP/IPプロトコルを介してNetWareサーバーに転送します。 **サーバー名称** プロトコルでFTPを選択した場合は、受信原稿を転送するFTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。たとえば、受信原稿をFTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というFTPフォルダーに転送する場合は、このボックスに「192.168.1.1」と入力します。 プロトコルでNetWare IPX/SPXを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバー名または、Tree/Context（NDSが使用可能な環境の場合）を入力します。 プロトコルでNetWare TCP/IPを選択した場合は、スキャンファイルを転送するNetWareサーバーのIPアドレスを入力します。 **コマンドポート** プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの［FTPクライアント］で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。

	項目名	機能説明
	宛先／リモート1（続き）	**ネットワークパス** プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダーへのネットワークパスを入力します。たとえば、SMBサーバー名が「Client01」というコンピューターの「users¥scanned」というフォルダーを指定する場合は、「¥¥Client01¥users¥scanned」と入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、FTPサーバーの「ftp://192.168.1.1/user/scanned」というフォルダーを指定する場合は、「user/scanned」と入力します。 プロトコルにNetWare IPX/SPXまたはNetWare TCP/IPを選択した場合は、指定したNetWareサーバーのディレクトリを入力します。たとえば、NetWareサーバーの「sys¥scan」というフォルダーを指定する場合は、「¥sys¥scan」と入力します。 **ログインユーザー名** 必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのログインユーザー名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。「<>":;」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザー名は使えません。 **パスワード** 必要に応じて、SMBサーバー、FTPサーバー、またはNetWareサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。 **パスワードの確認** 確認のためにパスワードを再入力します。 **［実行］ボタン** 設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。
8	宛先／リモート2	受信原稿をネットワークフォルダーに保存する場合にオンにします。 ［セットアップ］メニューの［共有フォルダーに保管］サブメニューで、リモート2をどのようにセットアップしたかによって設定方法は異なります。リモート2が管理者により指定されたネットワークフォルダーを使用するように設定されている場合は、［アドミン設定を使用］のみ選択可能です。その場合、保存に使用するプロトコルおよび保存先のネットワークパスが表示されます。ネットワークフォルダーを自由に指定することが許可されている場合は、［ユーザー設定を使用］を選択し、ファイルを保存する宛先を設定します。設定する項目はリモート1と同様です。

	項目名	機能説明
9	ファイル名	**フォーマット** ファイル名のフォーマットを選択します。ファイル名、日付、ページ番号の各情報が、選択したフォーマットのとおりに付加されます。 • **[ファイル名] - [日付] - [ページ]** • **[ファイル名] - [ページ] - [日付]** • **[日付] - [ファイル名] - [ページ]** • **[日付] - [ページ] - [ファイル名]** • **[ページ] - [ファイル名] - [日付]** • **[ページ] - [日付] - [ファイル名]** • **[ファイル名] _ [日付] - [ページ]** **コメント** ファイルについてコメントを入力します。 **日付** [フォーマット] で選択したファイル名の「日付」部分の付け方を選択します。 • **[YYYY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS]**：年（4桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **[YY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS]**：年（2桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **[YYYY] [MM] [DD]**：年（4桁）、月、日を付加します。 • **[YY] [MM] [DD]**：年（2桁）、月、日を付加します。 • **[HH] [mm] [SS]**：時、分、秒を付加します。 • **[YYYY] [MM] [DD] [HH] [mm] [SS] [mm0]**：年（4桁）、月、日、時、分、秒、乱数（3桁：乱数2桁と0）を付加します。 • **[なし]**：日付を付加しません。 **ページ** [フォーマット] で選択したファイル名の「ページ」部分に適用されるページ番号の桁数を、3～6桁の範囲で選択します。初期値は「4桁」に設定されています。 **サブID** ファイルの保存時、すでに同じ名前のファイルが保存先に存在していた場合、本機はそのファイル名の末尾に自動的にサブID（識別番号）を付加して保存します。このサブIDの桁数を、[自動] または4～6桁の範囲で選択します。なお、初期設定では [自動] が設定されており、ファイル名の状況に合わせて任意の桁数（4～6桁）の番号が入力されます。 **ファイル名に回線情報を付加する** 受信した回線の情報（回線1、回線2 *1、インターネットファクス）をファイル名に付加します。初期設定では「ファイル名に回線情報を付加する」チェックボックスはオンです。

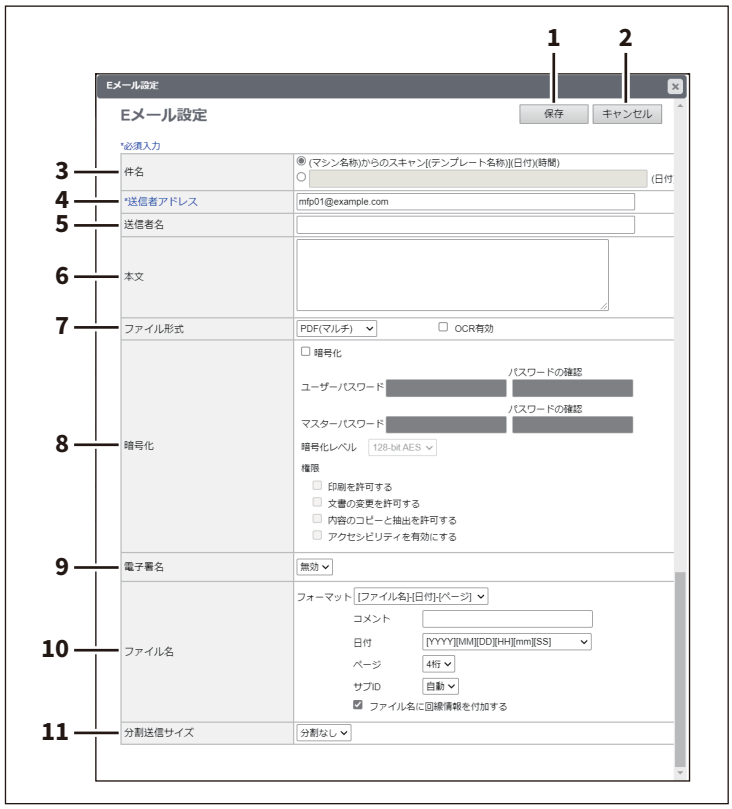
＊1　回線2の情報は、FAXユニットに回線増設ユニットがない機種では利用できません。

注 意

同一の送信者により送信された最大999個のファイルを同じ保存先に保管することができます。999を超えると、本機はファイルを保管する代わりに、受信文書を印刷します。

□ Eメール設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

［Eメール送信］エージェントを選択した場合、送信するEメールの内容を設定できます。［Eメール送信］ボタンをクリックして以下のウィンドウを開いて設定します。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	件名	Eメール文書に適用する件名を設定します。デフォルト設定の［(マシン名称）からのスキャン［(テンプレート名称)］（日付）（時間)］を選択するか、目的の件名をボックスに入力します。手動で件名を入力した場合は、自動的に（日付）が付与され、［(件名）（日付)］になります。
4	送信者アドレス	送信者のEメールアドレスとして適用するEメールアドレスを入力します。テンプレートを使って本機が送信した文書に対して相手先が返信する場合は、ここで設定するEメールアドレスに返信されます。
5	送信者名	Eメール文書に適用する送信者の名前を入力します。
6	本文	Eメール文書に初期設定として適用する本文を入力します。スペースを含み1000文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
7	ファイル形式	ファイル形式を選択します。 • **TIFF（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのTIFFファイルとして保存します。 • **TIFF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのTIFFファイルとして保存します。 • **PDF（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのPDFファイルとして保存します。 • **PDF（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのPDFファイルとして保存します。 • **XPS（マルチ）**：スキャンイメージを、複数ページのXPSファイルとして保存します。 • **XPS（シングル）**：スキャンイメージを、1ページ1ファイルのXPSファイルとして保存します。 ［OCR有効］でOCRを有効にするかどうかを選択できます。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、選択できるファイル形式はPDF（マルチ）とPDF（シングル）のみとなります。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • OCR読み取りは、OCRオプション装着時のみ有効です。

	項目名	機能説明
8	暗号化	ファイル形式でPDF（マルチ）またはPDF（シングル）を選択したとき、PDFを暗号化します。 **暗号化** PDFを暗号化する場合にオンにします。 **ユーザーパスワード** 暗号化PDFを開くためのパスワードを入力します。 **マスターパスワード** PDFの暗号化設定を変更するためのパスワードを入力します。 **暗号化レベル** 暗号化レベルを選択します。 • **40-bit RC4**：Acrobat 3.0, PDF V1.1に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit RC4**：Acrobat 5.0, PDF V1.4に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **128-bit AES**：Acrobat 7.0, PDF V1.6に互換性のある暗号化レベルを設定します。 • **256-bit AES**：Acrobat 9.0、PDF V1.7に互換性のある暗号化レベルを設定します。 **権限** 暗号化PDFの権限を設定する項目をオンにします。 • **印刷を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの印刷を許可します。 • **文書の変更を許可する**：作成される暗号化PDFファイルの文書の変更を許可します。 • **内容のコピーと抽出を許可する**：作成される暗号化PDFファイルのコピーと抽出を許可します。 • **アクセシビリティを有効にする**：アクセシビリティを有効にします。 補 足 • 強制暗号化機能が有効に設定されている場合、［暗号化］チェックボックスをオフにすることはできません。強制暗号化機能については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** • 工場出荷時の状態では、ユーザーパスワードとマスターパスワードは設定されていません。 • 半角の英数字で、1文字以上32文字まで入力できます。 • ユーザーパスワードとマスターパスワードは、同じパスワードを設定することはできません。 注 意 各パスワードはユーザーが変更することを許可されている場合のみ入力できます。マスターパスワードの変更が許可されていない場合は、暗号化レベルおよび権限の設定を変更することはできません。ユーザーパスワードまたはマスターパスワードのいずれかを入力すると、暗号化の設定が可能になります。暗号化の詳細設定については、以下の参照先をご覧ください。 **設定/登録 - 設定項目（管理者設定）- セキュリティ設定 - セキュアPDFの初期設定をする** ユーザーパスワードおよびマスターパスワードの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

	項目名	機能説明
9	電子署名	PDFへの電子署名の付加を有効または無効にします。 補 足 PDF（マルチ）、PDF（シングル）以外のファイル形式を選択している場合、この設定は選択できません。
10	ファイル名	**フォーマット** ファイル名のフォーマットを選択します。ファイル名、日付、ページ番号の各情報が、選択したフォーマットのとおりに付加されます。 • **［ファイル名］-［日付］-［ページ］** • **［ファイル名］-［ページ］-［日付］** • **［日付］-［ファイル名］-［ページ］** • **［日付］-［ページ］-［ファイル名］** • **［ページ］-［ファイル名］-［日付］** • **［ページ］-［日付］-［ファイル名］** • **［ファイル名］_［日付］-［ページ］** **コメント** ファイルについてコメントを入力します。 **日付** ［フォーマット］で選択したファイル名の「日付」部分の付け方を選択します。 • **［YYYY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］**：年（4桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **［YY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］**：年（2桁）、月、日、時、分、秒を付加します。 • **［YYYY］［MM］［DD］**：年（4桁）、月、日を付加します。 • **［YY］［MM］［DD］**：年（2桁）、月、日を付加します。 • **［HH］［mm］［SS］**：時、分、秒を付加します。 • **［YYYY］［MM］［DD］［HH］［mm］［SS］［mm0］**：年（4桁）、月、日、時、分、秒、乱数（3桁：乱数2桁と0）を付加します。 • **［なし］**：日付を付加しません。 **ページ** ［フォーマット］で選択したファイル名の「ページ」部分に適用されるページ番号の桁数を、3～6桁の範囲で選択します。初期値は「4桁」に設定されています。 **サブID** ファイルの保存時、すでに同じ名前のファイルが保存先に存在していた場合、本機はそのファイル名の末尾に自動的にサブID（識別番号）を付加して保存します。このサブIDの桁数を、［自動］または4～6桁の範囲で選択します。なお、初期設定では［自動］が設定されており、ファイル名の状況に合わせて任意の桁数（4～6桁）の番号が入力されます。 **ファイル名に回線情報を付加する** 受信した回線の情報（回線1、回線2 *1、インターネットファクス）をファイル名に付加します。初期設定では「ファイル名に回線情報を付加する」チェックボックスはオンです。
11	分割送信サイズ	メッセージの分割サイズを選択します。

＊1　回線2の情報は、FAXユニットに回線増設ユニットがない機種では利用できません。

□ ボックス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）

［ファイリングボックスに保管］エージェントを選択した場合、受信ファクスをどのようにファイリングボックスに保存するかを設定できます。［ファイリングボックスに保管］ボタンをクリックして以下のウィンドウを開いて設定します。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	宛先	受信原稿を保存するファイリングボックスを指定します。 **箱番号** 受信原稿を保存する箱番号を選択します。 **パスワード** 指定した箱にパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。 **パスワードの確認** 確認のためにパスワードを再入力します。
4	フォルダー名	受信原稿をファイリングボックス内のフォルダーに保存したい場合は、保存するフォルダー名を入力します。
5	文書名	「（送信元）-NNN」が文書名になります。文書名を変更することはできません。

■ メタスキャン

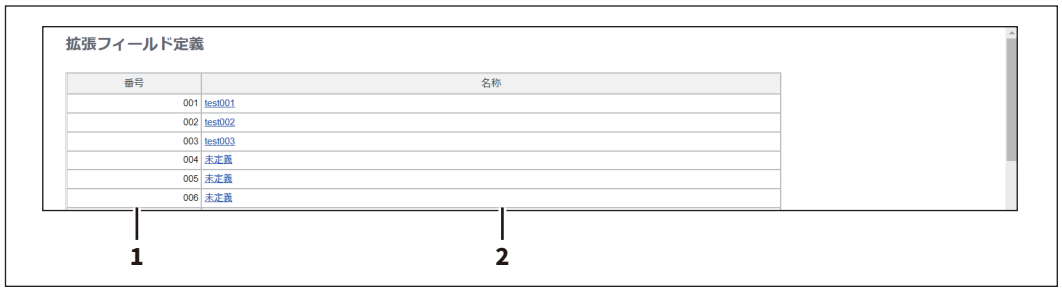
メタスキャン機能でスキャンした画像はメタデータを持つことができます。このメタデータの拡張フィールドは、100件まで定義して登録できます。

補 足

［拡張フィールド定義］サブメニューは、［管理者］＞［登録］メニューからアクセスできます。
アクセス方法、［登録］メニューについては、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.309 「［登録］（［管理者］）項目説明一覧」

注 意

メタスキャン機能を使用するには、メタスキャンオプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。

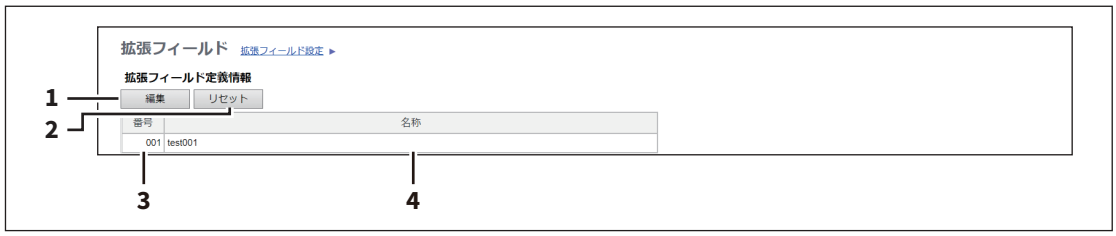


	項目名	機能説明
1	番号	拡張フィールド定義の番号が表示されます。
2	名称	拡張フィールド定義の名称が表示されます。 すでに登録済みの名称をクリックすると、登録されている拡張フィールド定義を確認・編集することができます。 📖 P.366 「［拡張フィールド］画面」 ［未定義］をクリックすると、拡張フィールド定義を登録することができます。 📖 P.369 「［拡張フィールド定義のプロパティ］」

□［拡張フィールド］画面

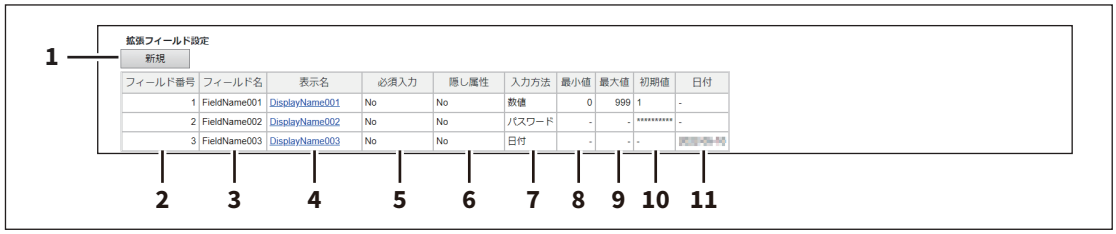
メタスキャンを実行するときに、操作パネルで入力する情報を設定します。
📖 P.393 「拡張フィールド定義の登録」

□ 拡張フィールド定義情報



	項目名	機能説明
1	［編集］ボタン	拡張フィールド定義を編集します。 📖 P.369 「［拡張フィールド定義のプロパティ］」
2	［リセット］ボタン	拡張フィールド定義を削除します。
3	番号	拡張フィールド定義の番号が表示されます。
4	名称	拡張フィールド定義の名称が表示されます。

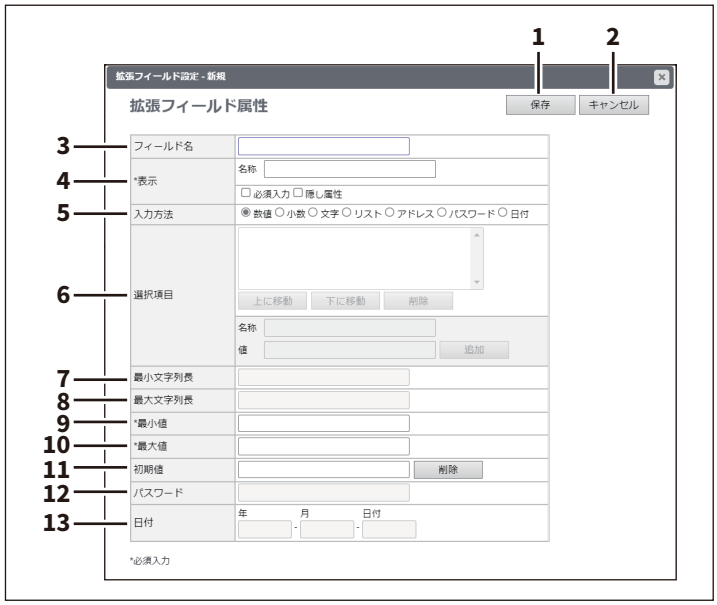
□ 拡張フィールド設定



	項目名	機能説明
1	［新規］ボタン	拡張フィールド属性を編集します。 📖 P.34 「受信管理記録」
2	フィールド番号	拡張フィールド属性の番号が表示されます。
3	フィールド名	拡張フィールド属性の名称が表示されます。
4	表示名	操作パネルに表示される拡張フィールド属性の表示名が表示されます。
5	必須入力	情報を必ず入力しなければならない拡張フィールド属性かどうか表示されます。
6	隠し属性	操作パネルに表示しない拡張フィールド属性かどうか表示されます。
7	入力方法	拡張フィールド属性の種類が表示されます。
8	最小値	拡張フィールド属性の最小値が表示されます。
9	最大値	拡張フィールド属性の最大値が表示されます。
10	初期値	拡張フィールド属性にあらかじめ設定される値が表示されます。
11	日付	拡張フィールド属性にあらかじめ設定される日付が表示されます。

□ ［拡張フィールド属性］画面

拡張フィールド属性は、25件まで登録できます。
📖 P.397 「メタスキャン用のテンプレート登録」



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した内容で拡張フィールド属性を作成します。
2	［キャンセル］ボタン	設定を中止します。
3	フィールド名	拡張フィールドの名称を設定します。

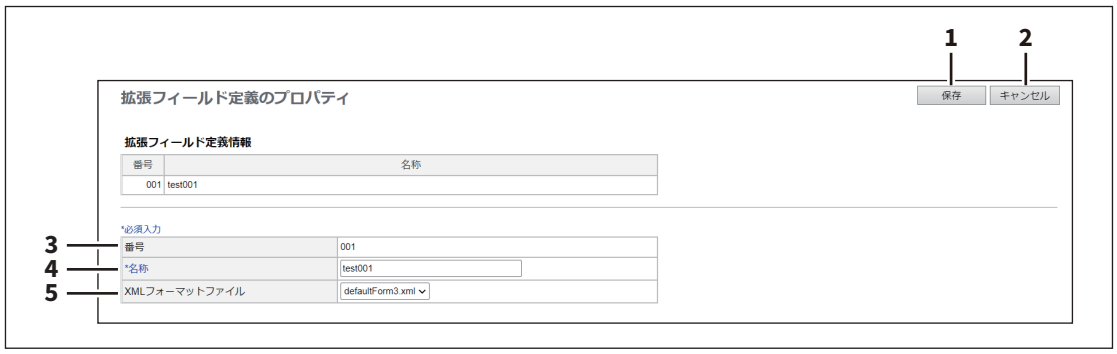
	項目名	機能説明
4	表示	拡張フィールドを操作パネル上に表示する際の表示のしかたを設定します。 **名称**：操作パネル上に表示する拡張フィールドの名称を設定します。最大20文字まで入力できます。 **必須入力**：情報を必ず入力しなければならない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。 **隠し属性**：操作パネル上に表示しない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。
5	入力方法*	拡張フィールドの種類を選択します。 • **数値**：整数を入力する拡張フィールドを作成します。 • **少数**：小数を入力する拡張フィールドを作成します。 • **文字**：文字列を入力する拡張フィールドを作成します。 • **リスト**：リストから値を選択する拡張フィールドを作成します。 • **アドレス**：アドレスを入力する拡張フィールドを作成します。 • **パスワード**：パスワードを入力する拡張フィールドを作成します。 • **日付**：日付を入力する拡張フィールドを作成します。
6	選択項目	リストの拡張フィールドで選択する項目を設定します。選択項目のフィールドには、登録した選択項目が表示されます。フィールドに項目を登録する場合は、［名称］と［値］を入力して［追加］をクリックします。項目を選択して［上に移動］をクリックすると項目が上に移動し、［下に移動］をクリックすると項目が下に移動します。また、フィールドから不要な項目を削除する場合は、項目を選択して［削除］をクリックします。 **名称**：項目の名称を入力します。 **値**：その項目を選択した場合に適用する値（数値や文字列などの情報）を入力します。 **注 意** • 項目の登録制限は、選択項目のフィールドに表示される文字数の合計が、半角／全角文字にかかわらず127文字までとなります。 • 名称や値にセミコロンを使用することはできません。
7	最小文字列長	拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最小の文字数を設定します。
8	最大文字列長	拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最大の文字数を設定します。
9	最小値	拡張フィールドに数値を入力する場合の、最小の数値を設定します。
10	最大値	拡張フィールドに数値を入力する場合の、最大の数値を設定します。
11	初期値	拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
12	パスワード	パスワードの拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
13	日付	拡張フィールドにあらかじめ設定される日付を設定します。

＊［入力方法］で選択した拡張フィールドの種類と、設定項目の関係は下表のとおりです。なお、必ず設定しなければならない項目には「＊」が表示されます。

入力方法 （拡張フィールドの種類）	必須の設定項目	任意の設定項目
数値	［最大値］、［最小値］ 各値は、-999,999,999,999～999,999,999,999の範囲で設定できます。	［初期値］

入力方法 （拡張フィールドの種類）	必須の設定項目	任意の設定項目
小数	［最大値］、［最小値］ 各値は、-999,999,999,999.999999～999,999,999,999.999999の範囲で設定できます。 小数点以下2桁を超える値を入力する場合は、サービスエンジニアにお問い合わせください。	［初期値］
テキスト	［最大文字列長］、［最小文字列長］ 各値は、0～256文字の範囲で設定できます。	［初期値］
リスト	［選択項目］ ［選択項目］は、最大30個まで登録できます。 ［名称］は、1～126文字まで設定できます。 ［値］は、1～126文字まで設定できます。 ただし、［名称］と［値］の合計した文字数が2～127文字までとなります。	［初期値］ 登録した選択項目の中から選択します。
アドレス	なし	［初期値］
パスワード	なし パスワードは、0～256文字の範囲で設定できます。	［初期値］
日付	なし	［初期値］

□［拡張フィールド定義のプロパティ］



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	入力した内容で拡張フィールド定義を作成します。
2	［キャンセル］ボタン	新規追加を中止します。
3	番号	拡張フィールド定義の番号が表示されます。
4	名称	拡張フィールド定義の名称を設定します。
5	XMLフォーマットファイル	メタデータ用のXMLフォーマットファイルを選択します。

■ XMLフォーマットファイル

XMLフォーマットファイルをインポートしたり、削除したりできます。

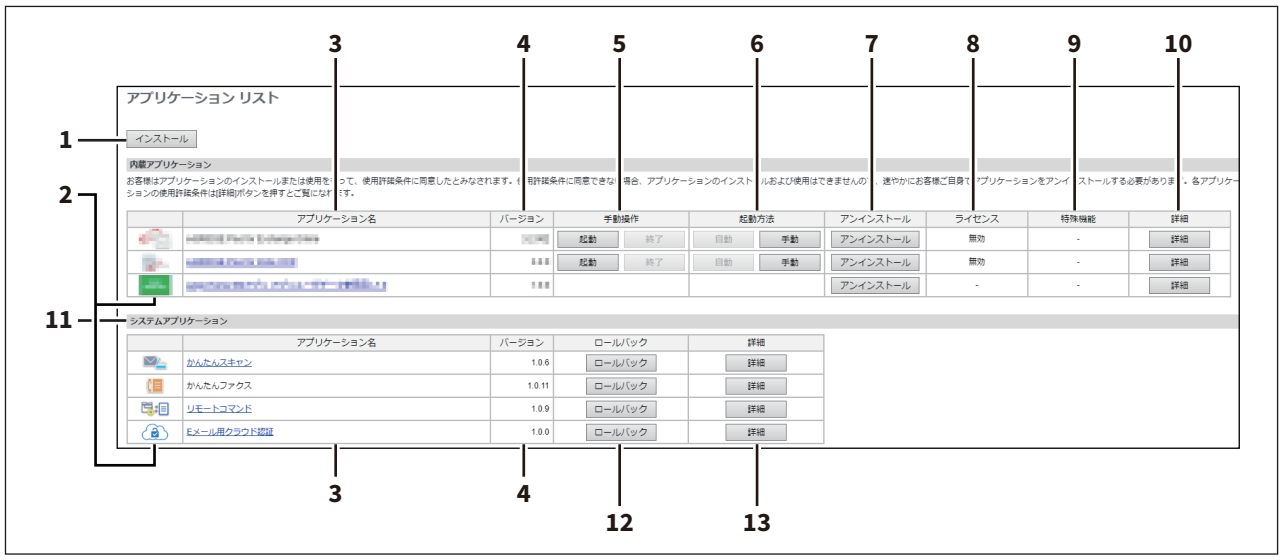
	項目名	機能説明
1	XMLフォーマットファイルのインポート	XMLフォーマットファイルをインポートします。 • **［ファイルの選択］ボタン**：XMLフォーマットファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：選択したXMLフォーマットファイルをインポートします。
2	XMLフォーマットファイルの削除	インポートしたXMLフォーマットファイルの名前、サイズ、日付をリストに表示します。 • **［削除］ボタン**：リストで選択したXMLフォーマットファイルを削除します。

［アプリケーション］項目説明一覧

［アプリケーション］メニューは［管理者］から、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザーがアクセスできます。
アクセス方法は、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15「アクセスポリシーモード」

■ アプリケーションリスト

インストール済みのアプリケーションリストを表示します。
各アプリケーションの開始/終了や起動方法の設定、アンインストールやインストールとアプリケーションを管理することができます。



	項目名	機能説明
1	［インストール］ボタン	内蔵アプリケーションやシステムアプリケーションをインストールします。 このボタンをクリックすると、アプリケーションをインストールするページが表示されます。このページからアプリケーションの配布パッケージのファイル名を指定してインストールすることができます。 システムアプリケーションをインストールする場合は、指示に従ってインストールしたいシステムアプリケーションを選択して、使用許諾契約に同意してください。 補 足 • アプリケーションをインストールまたは使用すると、使用許諾契約に同意したとみなされます。使用許諾契約に同意できない場合、アプリケーションをアンインストールしてください。 • アプリケーションの配布パッケージはあらかじめ入手してください。 • 複数のアプリケーションパッケージをインストールする場合は、1つずつインストールしてください。 アプリケーションをインストールする際、フレームワークのバージョンが古い旨のメッセージが表示された場合、本機のシステムをアップデートしてください。詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。
2	アプリケーションアイコン	アプリケーションのアイコンを表示します。
3	アプリケーション名	アプリケーションの名称を表示します。 アプリケーション名をクリックすると、アプリケーションを設定するページが表示されます。
4	バージョン	アプリケーションのバージョンを表示します。

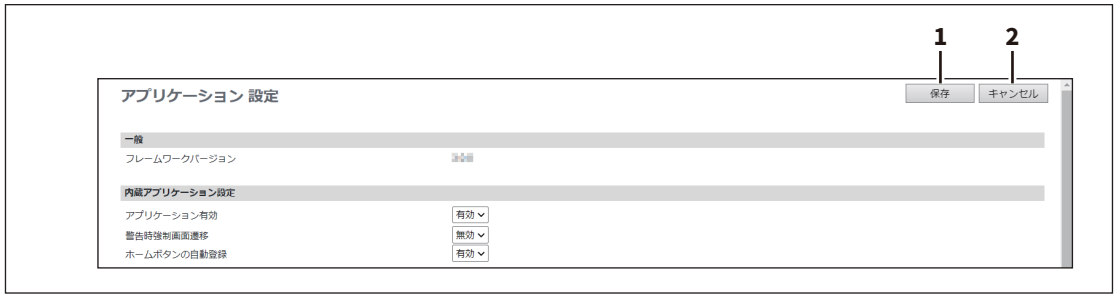
	項目名	機能説明
5	手動操作	アプリケーションの起動/終了操作を手動で行います。 アプリケーションパッケージがバックグラウンドアプリケーションを含む場合のみ表示します。 • **起動**：アプリケーションを起動します。 • **終了**：アプリケーションを終了します。
6	起動方法	アプリケーションの起動方法を変更します。 アプリケーションパッケージがバックグラウンドアプリケーションを含む場合のみ表示します。 • **自動**：MFP起動後およびインストール後にアプリケーションを自動で起動します。 • **手動**：アプリケーションを手動で起動します。
7	アンインストール	アプリケーションをアンインストールします。 このボタンをクリックすると、アプリケーションをアンインストールするページが表示されアンインストールすることができます。
8	ライセンス	アプリケーションを使用するためのライセンスファイルのインストール状況を表示します。 • **—**：ライセンスファイルのインストールは不要です。 • **無効**：ライセンスファイルがインストールされていないため、アプリケーションを使用できません。ライセンスが無効なアプリケーションを使用する場合は、サービスエンジニアにお問い合わせください。 • **有効**：ライセンスファイルがインストールされており、アプリケーションを使用できます。
9	特殊機能	特殊機能の詳細については、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。

	項目名	機能説明
10	詳細	アプリケーションの詳細情報や設定項目を表示する画面が開きます。 • 内蔵アプリケーション起動時に部門認証またはユーザー認証を行うかを、個別のアプリケーションごとに設定できます。［認証］から［有効］を選択して［保存］をクリックすると、そのアプリケーションの起動時に認証画面が表示されます。［無効］を選択して［保存］をクリックすると、認証画面を表示しません。設定を中止するには、［キャンセル］をクリックします。この［認証］設定は、アプリケーションの次回起動時に有効となります。なお、バックグラウンドで動作する内蔵アプリケーションには表示されません。 • 通信機能を持つ内蔵アプリケーションの場合、外部機器との通信を有効または無効に切り替えることができます。［外部通信許可設定］から［有効］を選択すると内蔵アプリケーションは外部機器と接続可能な状態に、［無効］を選択すると接続不可能な状態になります。設定を変更するには［保存］をクリックし、設定を中止するには［キャンセル］をクリックします。 •［外部USBデバイスの使用］は、内蔵アプリケーションが外部USBデバイスを利用できるかどうかを表示します。 •［ステータスメッセージ］＞［表示設定］は、内蔵アプリケーションが出すステータスメッセージとアイコンの表示を有効にするか無効にするかを選択します。［表示位置］はステータスメッセージとアイコンがタッチパネルに表示される位置を選択します。ここでの設定は、［管理者］＞［セットアップ］＞［一般設定］で設定するステータスメッセージに共通する設定より優先します。なお、ここで［共通］を選択すると、ここでの設定より共通設定を優先します。 📖 P.118 「ステータスメッセージ」 • 受信したファクス画像をアプリケーションが利用できる場合は、［受信原稿の使用］に「使用する」と表示されます。利用できない場合は、この機能について何も表示しません。 📖 P.186 「アプリケーションへの受信転送設定」 補 足 • 内蔵アプリケーション起動時にユーザー認証を行いたい場合は「機能別ユーザー認証設定」を有効にしてください。 📖 P.246 「ユーザー認証設定」 • 認証が必須の内蔵アプリケーションおよび認証設定がない内蔵アプリケーションの場合、［認証］を変更できません。 • 使用許諾契約の表示をクリックすると、使用許諾契約の内容が表示されます。 • 言語は内蔵アプリケーションに言語パックを含む場合、表示されます。
11	システムアプリケーション	本機にインストールされたシステムアプリケーションを表示します。 補 足 ［Eメール用クラウド認証］を使用するには、［管理者］＞［セットアップ］＞［ネットワーク］＞［POP3クライアント］＞［認証］でセットアップする必要があります。［認証］または［システムアプリケーション］リストに表示される［Eメール用クラウド認証］の名前をクリックすると、設定画面を開くことができます。 📖 P.161 「POP3クライアントの設定」
12	ロールバック	インストールしたシステムアプリケーションを元に戻します。ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されます。指示に従ってボタンをクリックします。

	項目名	機能説明
13	詳細	システムアプリケーションの詳細情報や設定項目を表示する画面が開きます。

■ アプリケーション設定

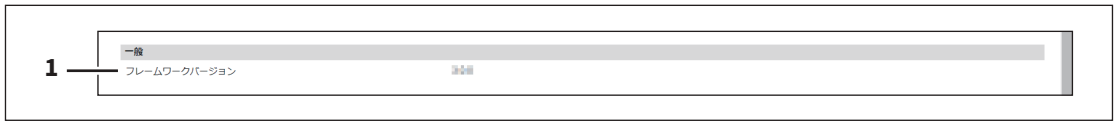
アプリケーション設定、プロキシ設定、デバッグレベルなど、インストール済みのアプリケーション全体に対する設定をします。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	設定内容の変更を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	設定内容の変更を中止します。

□ 一般

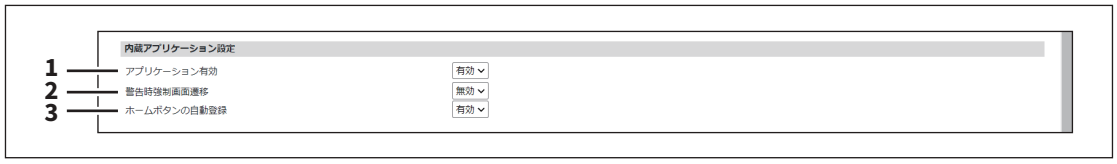
フレームワークのバージョンを確認できます。



	項目名	機能説明
1	フレームワークバージョン	フレームワークバージョンを表示します。

□ 内蔵アプリケーション設定

内蔵アプリケーション機能の有効/無効を設定します。

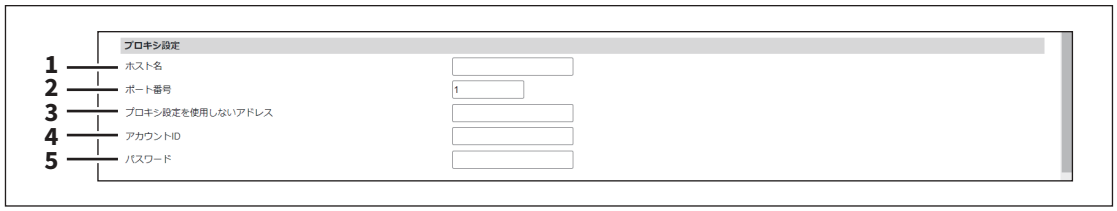


	項目名	機能説明
1	アプリケーション有効	アプリケーションの有効/無効を設定します。 • **有効**：アプリケーション機能を有効にします。 • **無効**：［アプリケーションリスト］画面でアプリケーションのインストール、アンインストール、起動、設定ができません。また、MFPの操作パネルでアプリケーションを起動できません。 補 足 システムアプリケーションはこの設定の影響を受けず、常にインストール、ロールバック、設定を行うことができます。
2	警告時強制画面遷移	ホームアプリ実行中に警告が発生した場合、自動的に［状況確認］画面に遷移させるかを設定します。

	項目名	機能説明
3	ホームボタンの自動登録	アプリケーションをインストールしたときに、ホーム画面にアプリケーションのボタンを自動登録するかを設定します。

□ プロキシ設定

アプリケーション機能のプロキシを設定します。



	項目名	機能説明
1	ホスト名	プロキシサーバーのホスト名を入力します。
2	ポート番号	プロキシサーバーのポート番号を入力します。
3	プロキシ設定を使用しないアドレス	プロキシサーバーを利用しないURLをセミコロン（;）で区切って入力します。
4	アカウントID	プロキシサーバーのアカウントIDを入力します。
5	パスワード	プロキシサーバーのパスワードを入力します。

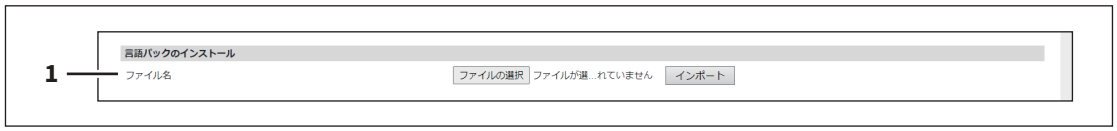
補 足

プロキシ設定は、内蔵ブラウザー、待機画面、アプリケーション機能で基本的に同じです。1つの機能で設定を変更すると、その他の機能でも同じ設定に変更されます。

📖 P.239 「プロキシ設定」
📖 P.294 「プロキシ設定」

□ 言語パックのインストール

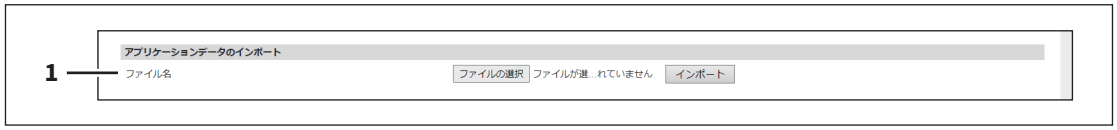
アプリケーションの言語パックをインストールできます。



	項目名	機能説明
1	ファイル名	インストールする言語パックのファイルを選択します。 • **［ファイルの選択］ボタン**：言語パックのファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：選択した言語パックのファイルをインポートします。

□ アプリケーションデータのインポート

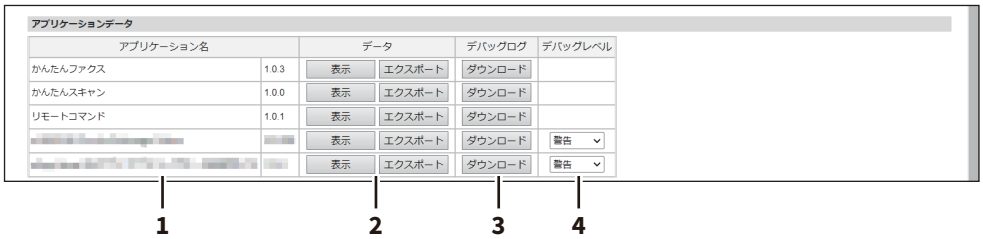
アプリケーションのデータファイルを配信できます。



	項目名	機能説明
1	ファイル名	配信するアプリケーションデータファイルを選択します。 • **［ファイルの選択］ボタン**：アプリケーションデータファイルを選択します。 • **［インポート］ボタン**：選択したアプリケーションデータファイルを配信するためにインポートします。

□ アプリケーションデータ

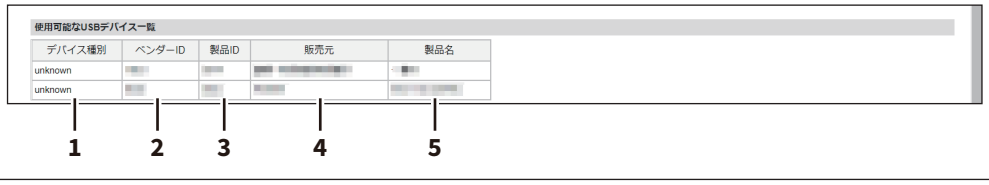
アプリケーションのデータファイルを取得、閲覧できます。また、アプリケーションのデバッグログを収集できます。



	項目名	機能説明
1	アプリケーション名	アプリケーションの名前を表示します。
2	データ	アプリケーションのデータファイルを取得、閲覧します • **［表示］ボタン**：アプリケーションデータファイルの情報を表示します。 • **［エクスポート］ボタン**：アプリケーションデータファイルをエクスポートします。
3	デバッグログ	アプリケーションのデバッグログファイルを収集します。 **［ダウンロード］ボタン**：デバッグログファイルをダウンロードします。
4	デバッグレベル	アプリケーションのデバッグレベルを選択します。［保存］をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。

□ 使用可能なUSBデバイス一覧

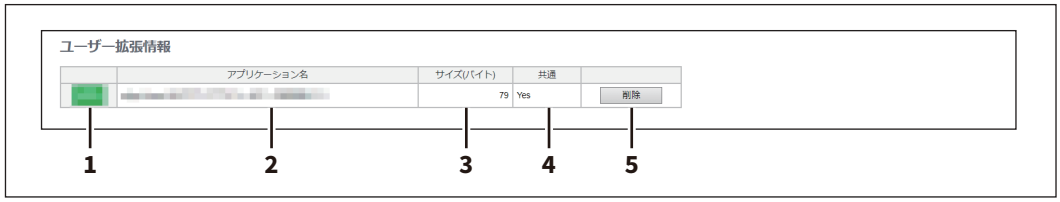
アプリケーションが利用できる外部USBデバイスの情報を確認できます。



	項目名	機能説明
1	デバイス種別	USBデバイスの種別を表示します。
2	ベンダー ID	USBデバイスのベンダー IDを表示します。
3	製品ID	USBデバイスの製品IDを表示します。
4	販売元	USBデバイスの販売元を表示します。
5	製品名	USBデバイスの製品名を表示します。

■ ユーザー拡張情報

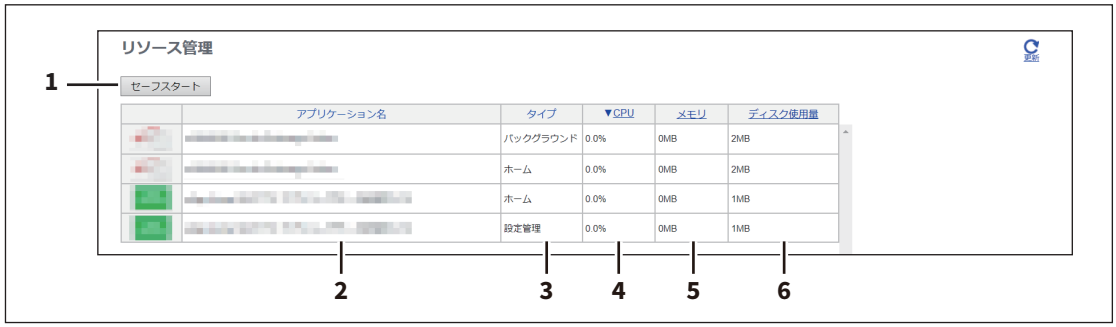
アプリケーションのユーザー拡張情報ファイルを表示、削除します。



	項目名	機能説明
1	アプリケーションアイコン	アプリケーションのアイコンを表示します。
2	アプリケーション名	アプリケーションの名前を表示します。
3	サイズ（バイト）	ユーザー拡張情報ファイルのサイズ（バイト）を表示します。
4	共通	ユーザー拡張情報には共通情報が含まれているかどうかを表示します。 • **[Yes]**：共通情報が含まれているので、削除する際に確認メッセージが表示されます。 • **[No]**：共通情報は含まれていませんが、削除する際に確認メッセージが表示されます。
5	削除	ユーザー拡張情報ファイルを削除します。

■ リソース管理

実行中のアプリケーションのリソースを管理できます。[CPU]、[メモリ]、[ディスク使用量] のいずれかのリソース名をクリックすると、クリックしたリソースを昇順または降順でソートして表示します。[更新] をクリックすると、最新の情報を表示します。
極端にリソースを使用しているアプリケーションがある場合はすべてのアプリケーションを無効にしたまま本機を再起動できるので、リソースの異常使用に対処できます。



	項目名	機能説明
1	セーフスタート	すべてのアプリケーションを無効にしたまま本機を再起動します。 [セーフスタート] をクリックすると、確認メッセージが表示されますので [OK] をクリックしてセーフスタートを実行します。[キャンセル] をクリックすると、操作を中止できます。
2	アプリケーション名	アプリケーションのアイコンと名前を表示します。
3	タイプ	アプリケーションのタイプを表示します。
4	CPU	アプリケーションのCPU使用率を表示します。
5	メモリ	アプリケーションのメモリ使用量を表示します。
6	ディスク使用量	アプリケーションのディスク使用量を表示します。

［ライセンス］項目説明一覧

注 意

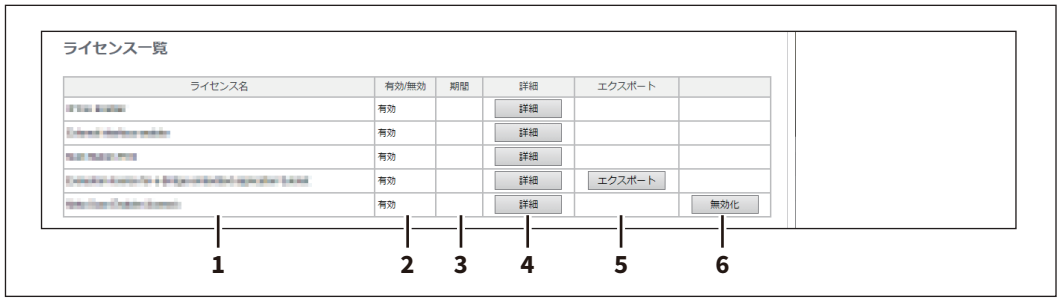
- ライセンスをインストールする前に、本機が操作中でないことを確認してください。
- ライセンスについて不明点がある場合は、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。

補 足

［ライセンス］メニューは［管理者］から、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザーがアクセスできます。アクセス方法は、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.15「アクセスポリシーモード」

■ ライセンス一覧

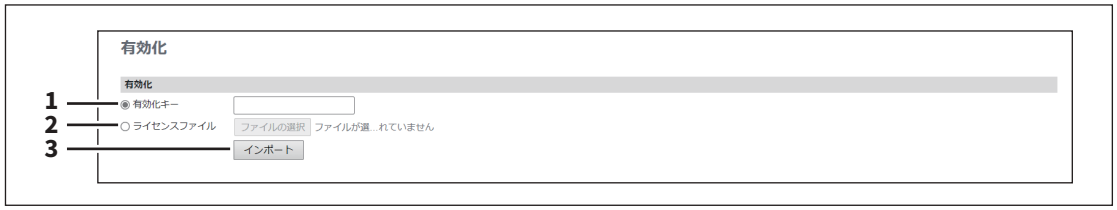
インストール済みのライセンスリストを表示します。



	項目名	機能説明
1	ライセンス名	ライセンス名を表示します。
2	有効/無効	ライセンスの状態（有効/無効）を表示します。
3	期間	ライセンスの有効期間を表示します。
4	詳細	ライセンスの詳細情報を表示します。
5	エクスポート	ライセンスファイルをエクスポートします。
6	無効化	ライセンスを無効化します。

■ 有効化

有効化キーまたはライセンスファイルを使ってライセンスを有効化します。



	項目名	機能説明
1	有効化キー	入手した有効化キーを入力して、ライセンスを有効化します。
2	ライセンスファイル	［ファイルの選択］をクリックしてライセンスファイルを選択し、ライセンスを有効化します。
3	インポート	選択したライセンスファイルをインポートします。

9

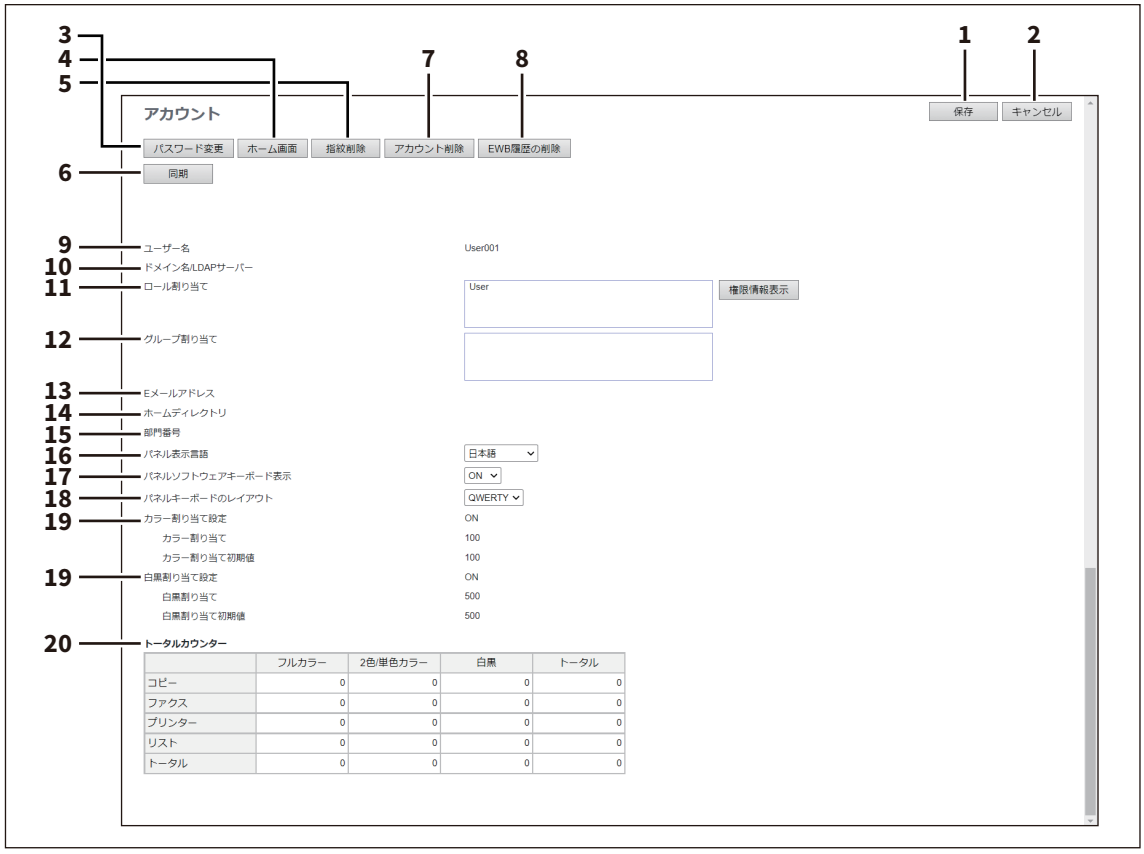
[アカウント]

[アカウント] の概要説明 380
[アカウント] 項目説明一覧 380

［アカウント］の概要説明

［アカウント］は、［管理者］＞［セキュリティ］＞［認証］＞［ユーザー認証設定］＞［ユーザー認証］を有効にしている場合に表示されます。
アクセスしているユーザーのアカウント情報を表示します。また、操作パネルの表示言語やキーボードのレイアウトを変更することができます。

■［アカウント］項目説明一覧



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	［アカウント］の内容を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
3	［パスワード変更］ボタン	アクセスしているユーザーのパスワードを変更します。 📖 P.382 「［パスワード変更］画面」
4	［ホーム画面］ボタン	操作パネルの［ホーム］ボタンを押して表示されるホーム画面の設定を行います。［アカウント］では、TopAccessにアクセスしているユーザーのホーム画面を設定します。 📖 P.382 「［ホーム画面設定］画面」
5	［指紋削除］ボタン	詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。
6	［同期］ボタン	［ユーザー認証設定］＞［共有設定］で本機がプライマリMFPに設定されている場合、本機のユーザー情報を他のセカンダリMFPに同期できます。 📖 P.98 「［共通設定］項目説明一覧 <アクセスポリシーモード>」 📖 P.246 「ユーザー認証設定」

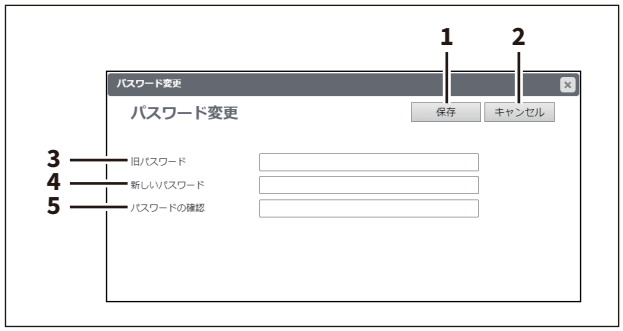
	項目名	機能説明
7	［アカウント削除］ボタン	ログインに成功していれば、ユーザーは自らのアカウントを削除できます。以下の場合、このボタンを利用できません。 • ビルトインユーザー • ローカルに登録されていない外部ユーザー • ユーザーの自アカウント削除を禁止している場合（［ユーザー認証設定］＞［自アカウント削除］を［無効］に設定） 📖 P.246 「ユーザー認証設定」 • ユーザー管理情報を共有するため本機をセカンダリ機器として設定している場合（［ユーザー認証設定］＞［ユーザー管理情報の共有］を［有効（セカンダリ）］に設定） 📖 P.246 「ユーザー認証設定」
8	［EWB履歴の削除］ボタン	ログインに成功していれば、ユーザーは自らのEWB履歴を削除できます。ビルトインユーザーは、このボタンを利用できません。
9	ユーザー名	アクセスしているユーザー名を表示します。
10	ドメイン名/LDAPサーバー	アクセスしているユーザーのドメイン名またはLDAPサーバーを表示します。
11	ロール割り当て	アクセスしているユーザーに割り当てられているロールを表示します。［権限情報表示］ボタンをクリックすると、［権限情報表示］画面が表示され、ロール情報の詳細を確認することができます。 📖 P.386 「［権限情報表示］画面」
12	グループ割り当て	アクセスしているユーザーに割り当てられているグループを表示します。
13	Eメールアドレス	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 ユーザーのEメールアドレスを入力またはアドレス帳から選択します。 半角英数字と記号で192文字まで入力できます。
14	ホームディレクトリ	［認証方式］で「内部認証」を選択している場合に設定できます。 ホームディレクトリへのネットワークパスを入力します。たとえば、サーバーアドレスが「192.168.1.1」というコンピューターの「users¥name」というフォルダーを指定する場合は、「¥¥192.168.1.1¥users¥name」と入力します。
15	部門番号	アクセスしているユーザーで登録されている部門番号を表示します。
16	パネル表示言語	操作パネルの表示言語を選択します。
17	パネルソフトキーボード表示	タッチパネルでの文字入力時にソフトキーボードを表示するかどうかを選択します。
18	パネルキーボードのレイアウト	操作パネルのキーボード配列を選択します。
19	割り当て設定	［割り当て設定］で「ジョブ割り当て」を選択している場合に設定できます。 • **OFF**：割り当てを行いません。 • **ON**：割り当てを行います。 📖 P.72 「［割り当て設定］画面 <アクセスポリシーモード>」
	割り当て	割り当て数が表示されます。［割り当て設定］の重み付けに従い減算され、0.00になると出力が制限されます。割り当て数は、手動で任意の値に変更することができます。
	割り当て初期値	ユーザーに割り当てる初期値を入力します。99,999,999.99まで入力できます。
20	トータルカウンター	アクセスしているユーザーのトータルカウンターを表示します。

□［パスワード変更］画面

TopAccessにアクセスしているユーザーのパスワードを変更します。認証方法が［内部認証］の場合のみ、パスワードを変更できます。

注 意

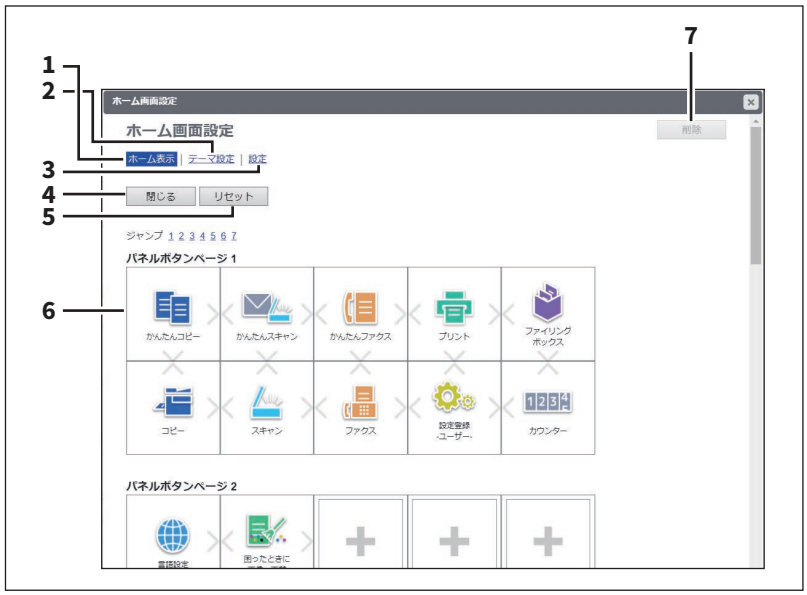
内容を修正した場合は、次回ログイン時から有効になります。



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	パスワード変更を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
3	旧パスワード	現在使用しているパスワードを入力します。
4	新しいパスワード	変更するパスワードを入力します。
5	パスワードの確認	確認のためにパスワードを再入力します。

□［ホーム画面設定］画面

アクセスしているユーザーのホーム画面を設定できます。
ホーム画面は、操作パネルの［ホーム］ボタンを押すと表示され、よく使うテンプレートまたはフォルダーや外部連携オプションのショートカットを登録することができます。



	項目名	機能説明
1	ホーム表示	ホーム画面の設定を表示します。 📖 P.383 「［ホーム表示］画面」
2	テーマ設定	ホーム画面のテーマを設定します。 📖 P.384 「［テーマ設定］画面」

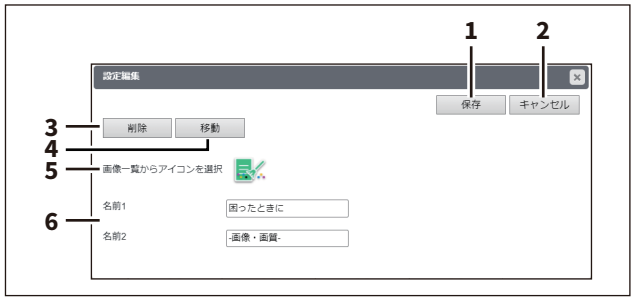
	項目名	機能説明
3	設定	ホーム画面の背景やボタンサイズ、透明度を設定します。 📖 P.385 「［設定］画面」
4	［閉じる］ボタン	［メニュー設定］画面を閉じます。
5	［リセット］ボタン	現在の設定を消去します。
6	パネルボタン一覧	ホームに選択できるパネルボタンの一覧が表示されます。 使用するパネルボタンを選択します。 補 足 ホーム設定は、64種類登録することができます。
7	［削除］ボタン	選択しているメニュー設定を削除します。

□［ホーム表示］画面

ホーム画面の設定を編集します。

	項目名	機能説明
1	ボタンアイコン	ボタンアイコンが表示されます。未定義アイコンをクリックすると、新しいボタンを登録することができます。
2	名称	機能の名称が表示されます。

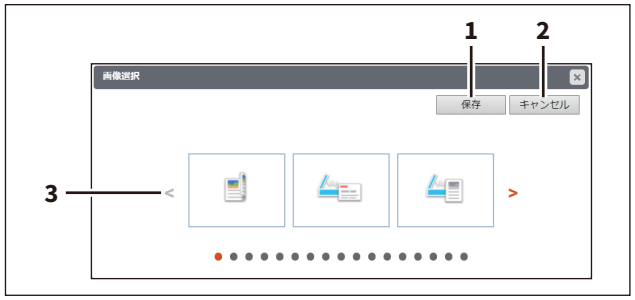
［設定編集］画面



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	ボタンの設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
3	［削除］ボタン	ボタンの設定を削除します。

	項目名	機能説明
4	［移動］ボタン	ボタンを他の位置に移動します。
5	画像一覧からアイコンを選択	アイコンの画像を選択します。 📖 P.384 「［画像選択］画面」
6	名前1/名前2	ボタン名を入力します。

［画像選択］画面



	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	アイコンの設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
3	画像選択	アイコンの画像を選択します。

□［テーマ設定］画面

ホーム画面のテーマを設定します。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	テーマ設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
3	画像一覧からテーマを選択	テーマを選択します。

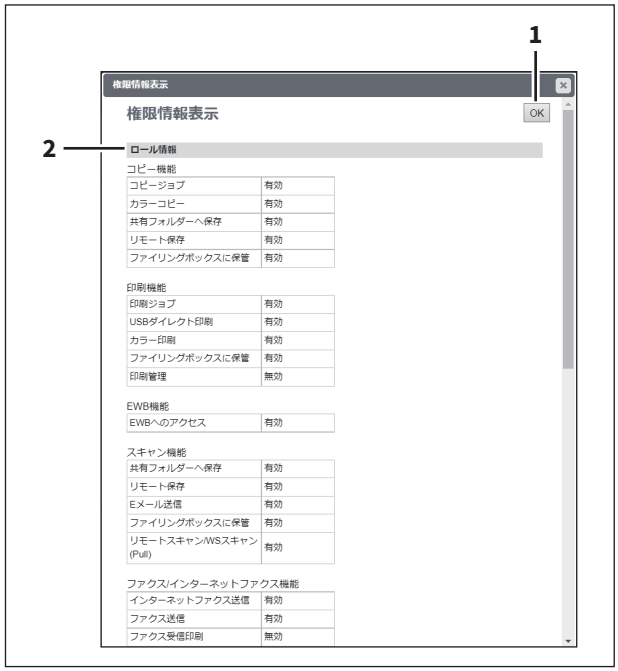
□［設定］画面

ホーム画面の背景やボタンサイズ、透明度を設定します。

	項目名	機能説明
1	［保存］ボタン	テーマ設定を保存します。
2	［キャンセル］ボタン	操作を中止します。
3	背景設定	ホーム画面の背景を選択します。 ［現在の背景］で［画像一覧から背景画像を選択］を選択すると、一覧から背景デザインを選択できます。
4	ボタンサイズ設定	ボタンサイズを設定します。 ［現在のボタンサイズ］で［画像一覧からボタンサイズを選択］を選択すると、一覧からボタンサイズを選択できます。
5	透過性設定	ホーム画面の透明度を設定します。 • **タイトル** － タイトルバーの透明度を設定できます。 • **パネルボタン** － ボタンの透明度を設定できます。
6	フォント設定	ホーム画面で使用するフォントを設定します。 • **サイズ** － フォントサイズを選択できます。 • **カラー** － フォントカラーを選択できます。

□［権限情報表示］画面

アクセスしているユーザーの権限情報を表示します。



	項目名	機能説明
1	［OK］ボタン	［権限情報表示］画面を閉じます。
2	ロール情報	アクセスしているユーザーに割り当てられているロール情報が表示されます。

10

目的別設定方法

メタスキャンの設定 388
メタスキャンの操作の流れ 388
メタスキャンオプションの確認 389
XMLフォーマットファイルの編集 389
XMLフォーマットファイルの登録 393
拡張フィールド定義の登録 393
メタスキャン用のテンプレート登録 397
メタスキャン 400
メタスキャンのログ確認 400

マルチステーション印刷の設定 401
マルチステーション印刷の操作の流れ 401
マルチステーション印刷オプションの確認 402

ホームデータ同期機能の設定 403
ホームデータ同期設定の流れ 403

外部認証の属性をMFPのロールとして使う 405
ロール情報設定ファイルをエクスポートする 405
ロール情報設定ファイルを定義する 405
ロール情報設定ファイルをインポートする 406
ロールベースアクセス設定を有効にする 406

Eメールの設定 407
Eメール設定操作の流れ 407

証明書のインストール 408
デバイス証明書をインストールする 408
クライアント証明書の作成／エクスポート 416
CA証明書をインストールする 417

メタスキャンの設定

メタスキャンとは、スキャンした画像にデバイス内で生成された情報（メタデータ）を添付する機能です。添付されたメタデータをワークフローサーバーなどで処理してスキャンした画像を活用することができます。メタスキャンを利用するには、テンプレートにメタスキャンの［Eメール］、［共有フォルダーに保管］、［USBメディアを使用］エージェントを選択して登録します。

メタデータは、情報を格納するためのスキーマを定義したXMLフォーマットファイルで管理します。
ここでは、初期設定で登録されているデフォルトXMLフォーマットファイル<defaultForm3.xml>を例にデータ構造について紹介します。
デフォルトXMLフォーマットファイルは、「基本データエリア」と「拡張データエリア」の2つのデータエリアで構成されています。
「基本データエリア」は、デバイス情報、スキャンパラメーターやユーザー情報を記録するエリアで、「拡張データエリア」は、メタスキャンを実行するときに、ユーザーが操作パネルから入力する情報（最大25個）を記録するエリアです。
「拡張データエリア」の内容は、［拡張フィールド定義］＞［拡張フィールド属性］画面でユーザーが操作パネルから入力する情報のフィールドを作成することができます。

メタスキャン連携するアプリケーションを利用する場合、XMLフォーマットファイルと拡張フィールドの設定は、アプリケーションベンダーからの指示に従ってください。

■ メタスキャンの操作の流れ

設定

	操作	説明	参照先
1	メタスキャンオプションの確認	お使いの機器でメタスキャンが使用できるか確認します。	📖 P.389 「メタスキャンオプションの確認」
2	XMLフォーマットファイルの編集	必要に応じてメタデータ用のXMLフォーマットファイルを編集します。	📖 P.389 「XMLフォーマットファイルの編集」
3	XMLフォーマットファイルの登録	メタデータ用のXMLフォーマットファイルを登録します。	📖 P.393 「XMLフォーマットファイルの登録」
4	拡張フィールド定義の登録	必要に応じて拡張フィールド定義を登録します。	📖 P.393 「拡張フィールド定義の登録」
5	メタスキャン用のテンプレート登録	メタスキャン用のテンプレートを登録します。	📖 P.397 「メタスキャン用のテンプレート登録」

操作

	操作	説明	参照先
1	メタスキャン	メタスキャン用のテンプレートを使用してメタスキャンします。	**テンプレート - テンプレートボタンを使う - テンプレートの呼び出し - テンプレートを使用する**
2	メタスキャンのログ確認	メタデータが正しく作成されたかは、スキャンログで確認します。	📖 P.400 「メタスキャンのログ確認」 **機体の情報 - 機体の情報 - 印刷/コピー/スキャン/ファクスの実行状況を確認する - 実行履歴の確認**

■ メタスキャンオプションの確認

メタスキャン機能を使用するには、メタスキャンオプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。

お使いの機器にメタスキャンオプションが設定されているかは、以下の手順で確認できます。
［管理者設定］＞［機器設定］＞［ライセンス管理］に「Meta scan enabler」が登録されていればメタスキャン機能を利用できます。

注 意

この機能は、一部の機種のみ使用できます。

■ XMLフォーマットファイルの編集

「XMLフォーマットファイル」はメタスキャン連携するアプリケーションに合わせて編集します。XMLフォーマットファイル内には変数を定義でき、定義された変数はメタスキャン時に対応する情報（メタデータ）に置き換えられます。

補 足

変数を「XMLフォーマットファイル」に記述する場合は、${変数名}の形で記述してください。

□ XMLフォーマットファイルの変数

XMLフォーマットファイルに定義できる変数は下表のとおりです。

補 足

変数は、Eメールの件名、メタスキャンの画像ファイルのファイル名、メタデータのファイル名に使用することができます。

変数（${変数名}）	格納される情報	値
${MANUFACT}	メーカー名	TOSHIBA
${MODEL}	モデル名	string
${FWVER}	ファームウェアバージョン	string
${SERIAL}	シリアル番号	string
${LOCATION}	ロケーション	string
${CONTACT}	連絡先の情報	string
${CONTACTTEL}	連絡先の電話番号	string
${IP}	IPアドレス	string
${IPV6}	IPv6アドレス	string
${NETBIOSNAME}	NetBIOS名	string
${FQDN}	FQDN（Fully Qualified Domain Name）	string
${RESOLUTION}	解像度	HHHxVVVdpi
${FILEFORMAT}	ファイルのフォーマット	MultipleTIFF singleTIFF MultiplePDF singlePDF MultipleSLIMPDF singleSLIMPDF MultipleXPS singleXPS JPEG MultiplePDF/A singlePDF/A

変数（${変数名}）	格納される情報	値
${COLORMODE}	カラーモード	BLACK GRAY SCALE FULL COLOR AUTO COLOR
${NUMFILE}	画像ファイル数	string
${PAGES}	スキャンしたページ数	string
${PATH} *1 *2	画像ファイルの保存先	string
${FILE} *2	画像ファイル名	string
${MYEMAIL}	送信者のEメールアドレス	string
${DATE}	年月日	YYYY-MM-DD
${YEAR}	年	YYYY
${MONTH}	月	MM
${DAY}	日	DD
${TIME}	時間	HH:MM:DD.mmmTZD *3
${USER}	ログインユーザー名	string
${DOMAIN}	ドメイン名	string
${DEPTCODE}	部門コード	string
${DEPTNAME}	部門名	string
${TEMPGROUPNO}	テンプレートボタンが登録されているフォルダーの番号	string
${TEMPGROUPNAME}	テンプレートボタンが登録されているフォルダーの名前	string
${TEMPNO}	テンプレート番号	string
${TEMPNAME}	テンプレート名	string
${FIELDNAMEn} *4	拡張フィールド名n	string
${VALUEn} *4	拡張フィールドn	string

＊1　Eメールの件名には、使用できません。
＊2　画像ファイルのファイル名、メタデータのファイル名には、使用できません。
＊3　TZDはタイムゾーンです。
＊4　「n」部分には、フィールド番号（1～25の範囲）を入力します。

□ デフォルトXMLフォーマットファイル

本機に初期設定で登録されているXMLフォーマットファイル<defaultForm3.xml>の内容は以下のとおりです。XMLフォーマットファイルはUTF-8のXML形式です。メタスキャン時、XMLフォーマットファイルに記述された各フィールドの変数に該当する情報を格納し、XML形式ファイルのメタデータとして添付します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!-- metadata version 3.1 -->
<mfp_metadata>
<metadata_version>
<major>3</major>
<minor>1</minor>
</metadata_version>
<device_info>
<ip_address>${IP}</ip_address>
<ipv6_address>${IPV6}</ipv6_address>
<fqdn>${FQDN}</fqdn>
<netbios_name>${NETBIOSNAME}</netbios_name>
<location>${LOCATION}</location>
<contact>${CONTACT}</contact>
<contact_tel>${CONTACTTEL}</contact_tel>
<FW_version>${FWVER}</FW_version>
<manufacture>${MANUFACT}</manufacture>
<model>${MODEL}</model>
<serial>${SERIAL}</serial>
<!-- deprecated tag start -->
<host_name>${NETBIOSNAME}</host_name>
<tempt_file_ver>1.0</tempt_file_ver>
<!-- deprecated tag end -->
</device_info>
<scan_info>
<template >
<template_group_no>${TEMPGROUPNO}</template_group_no>
<template_group_name>${TEMPGROUPNAME}</template_group_name>
<template_group_user></template_group_user>
<template_no>${TEMPNO}</template_no>
<template_name>${TEMPNAME}</template_name>
<template_user></template_user>
</template >
<scanned_date>${YEAR}-${MONTH}-${DAY}</scanned_date>
<scanned_time>${DATE}T${TIME}</scanned_time>
<color_mode>${COLORMODE}</color_mode>
<resolution>${RESOLUTION}</resolution>
<file_format>${FILEFORMAT}</file_format>
<no_of_files>${NUMFILE}</no_of_files>
<no_of_pages>${PAGES}</no_of_pages>
<file_path>${PATH}</file_path>
<file_name>${FILE}</file_name>
<sender_email>${MYEMAIL}</sender_email>
<!-- deprecated tag start -->
<workflow>${TEMPGROUPNAME} ${TEMPNAME}</workflow>
<!-- deprecated tag end -->
</scan_info>
<user_info>
<user_id>${USER}</user_id>
<user_domain>${DOMAIN}</user_domain>
<dept_code>${DEPTCODE}</dept_code>
<dept_name>${DEPTNAME}</dept_name>
<!-- deprecated tag start -->
<user_email>${MYEMAIL}</user_email>
```

```
<!-- deprecated tag end -->
</user_info>
<user_input>
<field1 name="${FIELDNAME1}">${VALUE1}</field1>
<field2 name="${FIELDNAME2}">${VALUE2}</field2>
<field3 name="${FIELDNAME3}">${VALUE3}</field3>
<field4 name="${FIELDNAME4}">${VALUE4}</field4>
<field5 name="${FIELDNAME5}">${VALUE5}</field5>
<field6 name="${FIELDNAME6}">${VALUE6}</field6>
<field7 name="${FIELDNAME7}">${VALUE7}</field7>
<field8 name="${FIELDNAME8}">${VALUE8}</field8>
<field9 name="${FIELDNAME9}">${VALUE9}</field9>
<field10 name="${FIELDNAME10}">${VALUE10}</field10>
<field11 name="${FIELDNAME11}">${VALUE11}</field11>
<field12 name="${FIELDNAME12}">${VALUE12}</field12>
<field13 name="${FIELDNAME13}">${VALUE13}</field13>
<field14 name="${FIELDNAME14}">${VALUE14}</field14>
<field15 name="${FIELDNAME15}">${VALUE15}</field15>
<field16 name="${FIELDNAME16}">${VALUE16}</field16>
<field17 name="${FIELDNAME17}">${VALUE17}</field17>
<field18 name="${FIELDNAME18}">${VALUE18}</field18>
<field19 name="${FIELDNAME19}">${VALUE19}</field19>
<field20 name="${FIELDNAME20}">${VALUE20}</field20>
<field21 name="${FIELDNAME21}">${VALUE21}</field21>
<field22 name="${FIELDNAME22}">${VALUE22}</field22>
<field23 name="${FIELDNAME23}">${VALUE23}</field23>
<field24 name="${FIELDNAME24}">${VALUE24}</field24>
<field25 name="${FIELDNAME25}">${VALUE25}</field25>
</user_input>
</mfp_metadata>
```

□ メタデータの保存設定

次に示す要素をXMLフォーマットファイルに追加することで、メタデータの保存先やファイル名を指定できます。

メタデータの保存先を設定する場合

プロトコル	フォーマット
SMB	<metadata_file_path>file://server name/path/</metadata_file_path>
FTP	<metadata_file_path>ftp://server name/path/</metadata_file_path>
FTPS	<metadata_file_path>ftps://server name/path/</metadata_file_path>
NetWare（Binary mode）	<metadata_file_path>server name/path/</metadata_file_path>
NetWare（NDS mode）	<metadata_file_path>Tree/Context/file_share/</metadata_file_path>

入力例：
プロトコル：SMB
外部サーバー：192.168.1.1
保存フォルダー：metadata
フォーマット：<metadata_file_path>file://192.168.1.1/metadata/</metadata_file_path>

注 意

プロトコルは、メタスキャンの画像ファイルを保存するプロトコルと合わせてください。
メタスキャンの画像ファイルを保存するプロトコルは、テンプレートで設定されている共有フォルダーに保管設定の［宛先］で確認できます。

メタデータのファイル名を指定する場合

<metadata_file_name>file name.xml</metadata_file_name>

入力例：
ファイル名：Sample_MetaData.xml
フォーマット：<metadata_file_name>Sample_MetaData.xml </metadata_file_name>

補 足

メタデータのファイル名には、XMLフォーマットファイルの変数を使用することができます。
日付の変数 (${DATE}) を利用した入力例：
<metadata_file_name>Sample_MetaData_${DATE}.xml </metadata_file_name>
📖 P.393 「拡張フィールド定義の登録」
変数については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.389 「XMLフォーマットファイルの変数」

■ XMLフォーマットファイルの登録

XMLフォーマットファイルは、拡張フィールドの定義を登録するときに選択できます。
📖 P.393 「拡張フィールド定義の登録」
メタスキャン連携するアプリケーションを利用する場合、XMLフォーマットファイルと拡張フィールドの設定は、アプリケーションベンダーからの指示に従ってください。

補 足

「XMLフォーマットファイル」は、99個まで登録することができます。

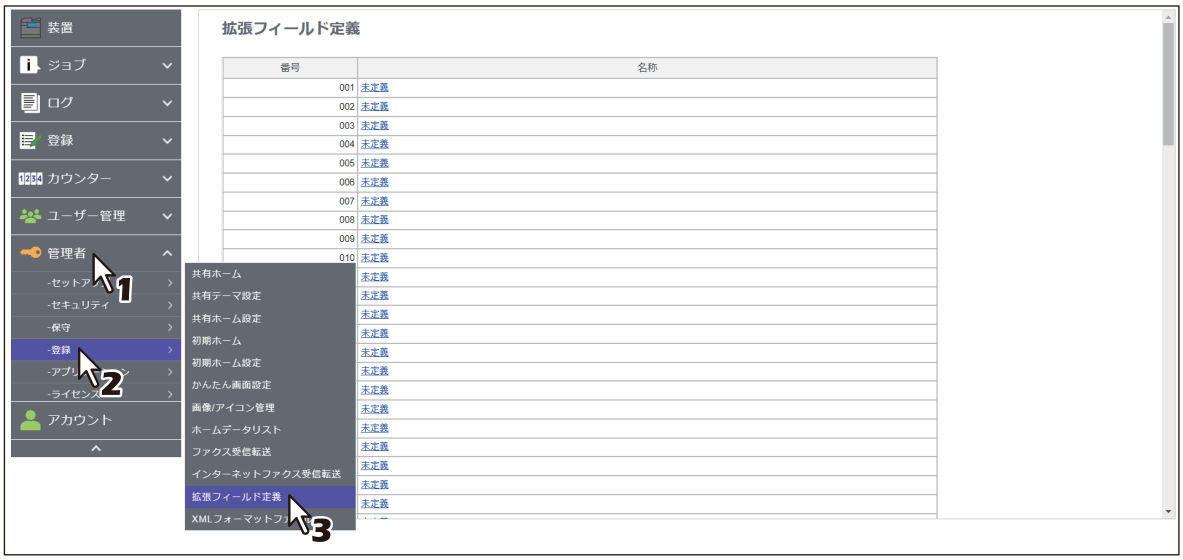
■ 拡張フィールド定義の登録

「拡張フィールド定義」は100件まで登録でき、それぞれ「XMLフォーマットファイル」の選択と必要に応じて「拡張フィールド属性」を設定します。
メタスキャン連携するアプリケーションを利用する場合、XMLフォーマットファイルと拡張フィールドの設定は、アプリケーションベンダーからの指示に従ってください。

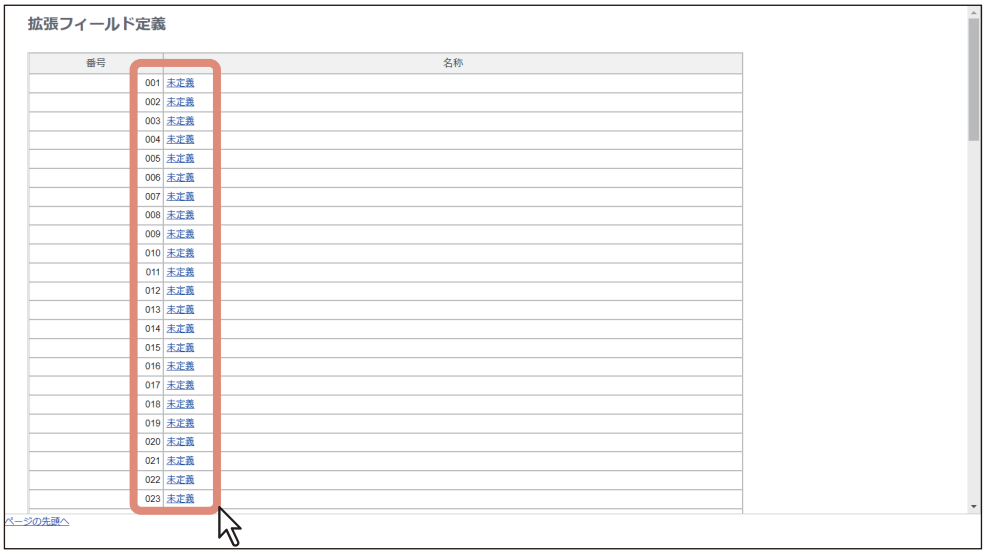
1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］＞［登録］＞［拡張フィールド定義］を選択します。



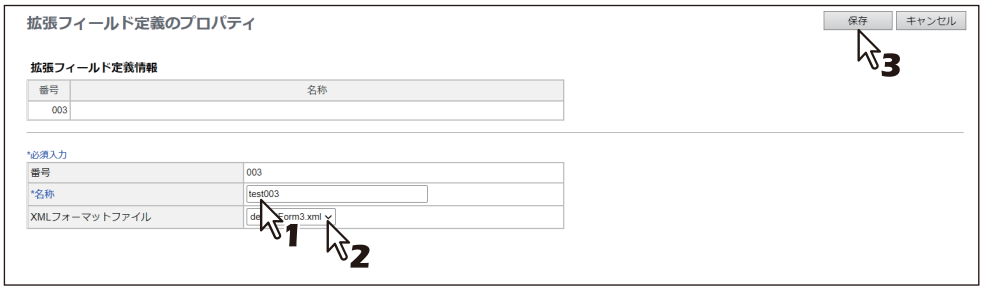
3 **拡張フィールド定義を登録するため、［未定義］をクリックします。**



登録済みの拡張フィールド名をクリックした場合は、拡張フィールドの編集画面が表示されます。
手順6に進みます。

4 **フィールド名を入力してから、XMLフォーマットファイルを選択し、［保存］ボタンをクリックします。**

カスタマイズしたXMLフォーマットファイルを用いる場合は、XMLフォーマットファイル右側の［編集］をクリックしてXMLフォーマットファイルを選択します。カスタマイズしたXMLフォーマットファイルがない場合は、「defaultForm3.xml」を選択します。



5 **拡張フィールド属性を設定する場合は、拡張フィールド設定の［新規］ボタンをクリックします。**

拡張フィールド属性を設定しない場合は、画面上の［拡張フィールド定義］をクリックします。

6 拡張フィールド属性を設定します。

フィールド名	拡張フィールドの名称を設定します。
表示	拡張フィールドを操作パネル上に表示する際の表示のしかたを設定します。 **名称**：操作パネル上に表示する拡張フィールドの名称を設定します。最大20文字まで入力できます。 **必須入力**：情報を必ず入力しなければならない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。 **隠し属性**：操作パネル上に表示しない拡張フィールドを作成する場合、チェックボックスをオンにします。
入力方法*	拡張フィールドの種類を選択します。 • **数値**：整数を入力する拡張フィールドを作成します。 • **少数**：小数を入力する拡張フィールドを作成します。 • **文字**：文字列を入力する拡張フィールドを作成します。 • **リスト**：リストから値を選択する拡張フィールドを作成します。 • **アドレス**：アドレスを入力する拡張フィールドを作成します。 • **パスワード**：パスワードを入力する拡張フィールドを作成します。 • **日付**：日付を入力する拡張フィールドを作成します。
選択項目	リストの拡張フィールドで選択する項目を設定します。選択項目のフィールドには、登録した選択項目が表示されます。フィールドに項目を登録する場合は、［名称］と［値］を入力して［追加］をクリックします。項目を選択して［上に移動］をクリックすると項目が上に移動し、［下に移動］をクリックすると項目が下に移動します。また、フィールドから不要な項目を削除する場合は、項目を選択して［削除］をクリックします。 **名称**：項目の名称を入力します。 **値**：その項目を選択した場合に適用する値（数値や文字列などの情報）を入力します。 **注 意** • 項目の登録制限は、選択項目のフィールドに表示される文字数の合計が、半角／全角文字にかかわらず127文字までとなります。 • 名称や値にセミコロンを使用することはできません。
最小文字列長	拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最小の文字数を設定します。
最大文字列長	拡張フィールドに文字列を入力する場合の、最大の文字数を設定します。

最小値	拡張フィールドに数値を入力する場合の、最小の数値を設定します。
最大値	拡張フィールドに数値を入力する場合の、最大の数値を設定します。
初期値	拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
パスワード	パスワードの拡張フィールドにあらかじめ設定される値を設定します。
日付	拡張フィールドにあらかじめ設定される日付を設定します。

＊ ［入力方法］で選択した拡張フィールドの種類と、設定項目の関係は下表のとおりです。なお、必ず設定しなければならない項目には「＊」が表示されます。

入力方法 （拡張フィールドの種類）	必須の設定項目	任意の設定項目
数値	［最大値］、［最小値］ 各値は、-999,999,999,999～999,999,999,999の範囲で設定できます。	［初期値］
小数	［最大値］、［最小値］ 各値は、-999,999,999,999.999999～999,999,999,999.999999の範囲で設定できます。 小数点以下2桁を超える値を入力する場合は、サービスエンジニアにお問い合わせください。	［初期値］
テキスト	［最大文字列長］、［最小文字列長］ 各値は、0～256文字の範囲で設定できます。	［初期値］
リスト	［選択項目］ ［選択項目］は、最大30個まで登録できます。 ［名称］は、1～126文字まで設定できます。 ［値］は、1～126文字まで設定できます。 ただし、［名称］と［値］の合計した文字数が2～127文字までとなります。	［初期値］ 登録した選択項目の中から選択します。
アドレス	なし	［初期値］
パスワード	なし パスワードは、0～256文字の範囲で設定できます。	［初期値］
日付	なし	［初期値］

7 **［保存］ボタンをクリックして、拡張フィールド属性を登録します。**

拡張フィールド属性は、25個まで登録することができます。

以上で、拡張フィールドの登録は終了です。

■ メタスキャン用のテンプレート登録

メタスキャン機能を利用するには、メタスキャン用のテンプレートを登録する必要があります。

補 足

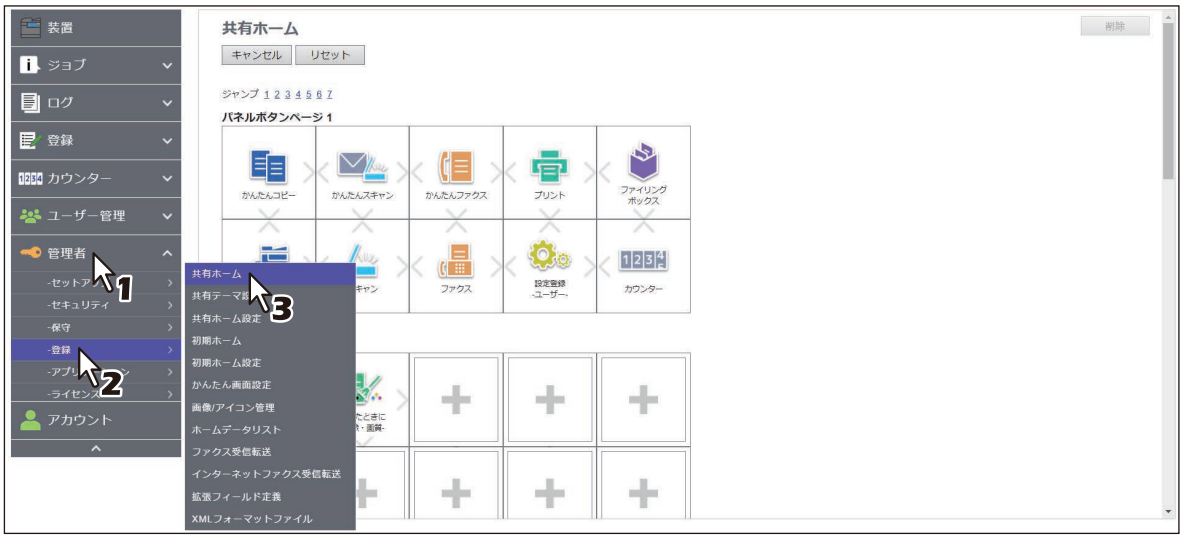
管理者が［ホーム設定］＞［一般ユーザーによる共有ホームの変更を許可する］を有効にした場合のみ、一般ユーザーは［登録］＞［共有ホーム］サブメニューでテンプレートを登録できます。以下の方法は管理者向けの画面で手順を説明しています。

📖 P.115「ホーム設定」

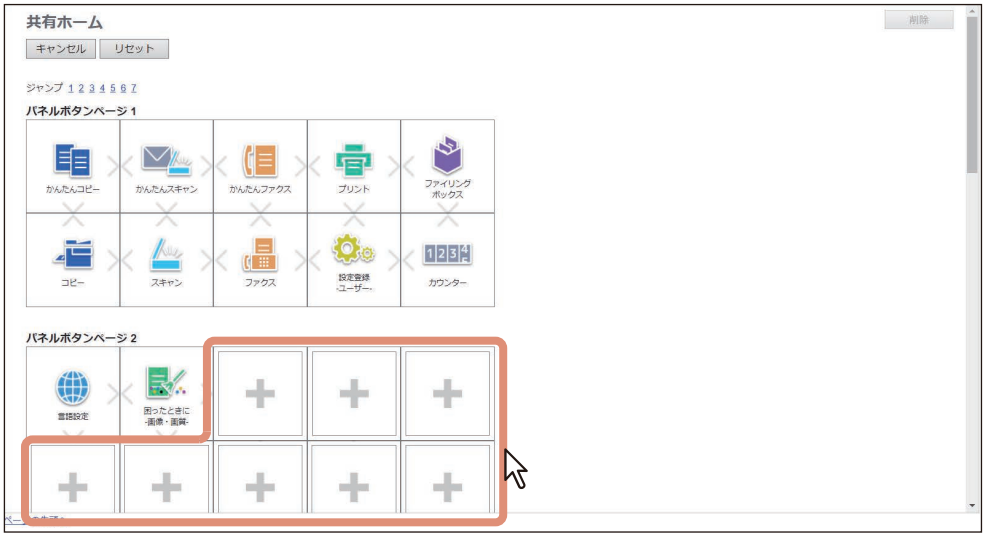
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.15「アクセスポリシーモード」

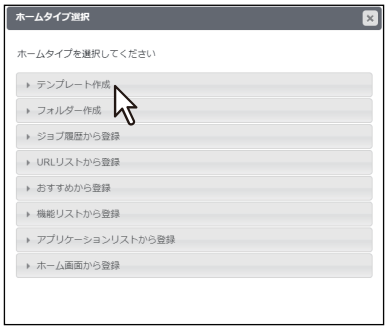
2 **［管理者］＞［登録］＞［共有ホーム］を選択します。**



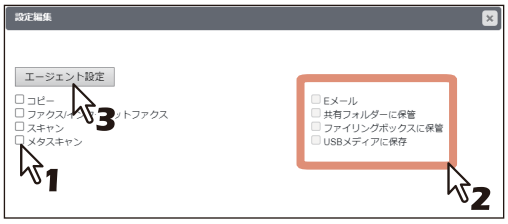
3 **パネルボタン一覧で、未登録位置を示す［+］アイコンをクリックします。**



4 ［テンプレート作成］をクリックします。



5 ［メタスキャン］のチェックボックスをオンにしてからエージェントを選択し、［エージェント設定］をクリックします。



注 意

［メタスキャン］を選択するには、メタスキャンオプションが利用できるようにセットアップされている必要があります。利用できない場合は、［メタスキャン］を選択できません。

［メタスキャン］では、［Eメール］と［共有フォルダーに保管］は同時に選択できますが、それ以外の場合は［Eメール］/［共有フォルダーに保管］/［USBメディアに保存］のいずれか1つしか選択できません。

Eメール	Eメールに添付して送付します。 **補 足** • ［メタスキャン］を選択している場合、件名に変数を使用することができます。 • ［送信者アドレス］で指定したアドレスが、メタデータに記述されます。 • ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］＞［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。 📖 P.326 「Eメール設定」
共有フォルダーに保管	共有フォルダーに保存します。 **注 意** • ［メタスキャン］を選択している場合、宛先は1つしか指定できません。 • 宛先で指定したプロトコルとネットワークパスが、メタデータに記述されます。 例： プロトコル：SMB ネットワークパス：¥¥192.168.1.1¥ImageFolder <file_path>file：//192.168.1.1/ImageFolder/</file_path> • ［メタスキャン］を選択している場合、［ファイル名］＞［ファイル名に日時を付加する］を選択すると、メタデータのファイル名にも適用されます。 📖 P.330 「共有フォルダーに保管設定」
USBメディアに保存	USBメディアに保存します。

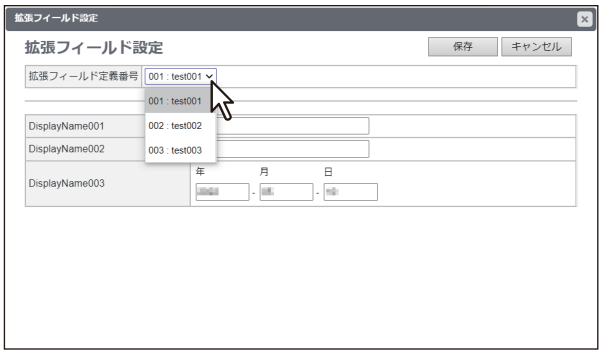
6 エージェントを設定します。

設定方法は、通常のテンプレートと同じです。
📖 P.316「テンプレートの詳細設定」

以降の手順は、［拡張フィールド設定］の設定方法です。メタスキャン用テンプレートには必ず設定してください。

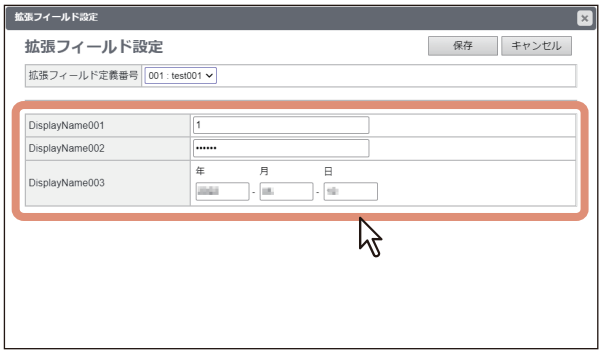
7 ［拡張フィールド設定］ボタンをクリックして、拡張フィールドを設定します。

8 ［拡張フィールド定義番号］で登録済みの拡張フィールド定義を選択します。

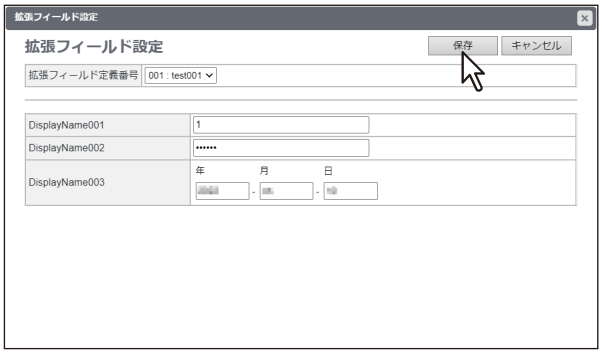


9 ［拡張フィールド属性］のデフォルト値を入力します。

選択した拡張フィールド定義で、［拡張フィールド属性］が設定されている場合に表示されます。
ここで設定した値が、メタスキャン実行時に操作パネルに表示される［拡張フィールド属性］のデフォルト値になります。
［拡張フィールド属性］の名称の前に、アスタリスク（*）が表示されている項目は、必ず入力する必要があります。



10 ［保存］をクリックして拡張フィールド設定を保存します。



11 ［保存］をクリックして、テンプレートを登録します。

以上で、メタスキャン用のテンプレート登録は終了です。

■ メタスキャン

メタスキャン用のテンプレートを使用してメタスキャンします。
操作方法については、以下の参照先をご覧ください。
テンプレート - テンプレートボタンを使う - テンプレートの呼び出し - テンプレートを使用する

補 足

メタスキャン用テンプレートの［拡張フィールド設定］で設定されていた［拡張フィールド定義］が削除された場合、デフォルトXMLフォーマットファイル<defaultForm3.xml>を使用します。

■ メタスキャンのログ確認

メタデータが正しく作成されたかは、スキャンログで確認することができます。

確認するスキャンログの内容は下記のとおりです。

確認項目	確認内容
モード	メタスキャンを示す“MSxxxx”（xxxxはコードフォーマット）と表示されます。
結果	エラー内容が表示されていなければ、正しくメタデータが作成されています。

スキャンログの詳細については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.35「スキャンログ」

マルチステーション印刷の設定

あらかじめ複数のMFPを連携先として登録することで、コンピューターから印刷する際に、登録したMFPのいずれからでも印刷が可能になる機能です。1つのグループで最大10台のMFPを連係し、自機が属すグループを含めて合計5つのグループまで連係できます（4つのグループを追加して連係できます）。
印刷時の出力設定変更機能の利用を目的として1台のみで運用することもできます。

■ マルチステーション印刷の操作の流れ

マルチステーション印刷機能を使用する場合は、連携するすべてのMFPの設定が必要です。2台目以降の連携MFPを設定する場合、手動で設定する方法と、クローンファイルを使って1台目の設定をコピーする方法があります。

設定

	操作	説明	参照先
1	マルチステーション印刷オプションの確認	お使いのMFPでマルチステーション印刷が使用できるか確認します。	📖 P.402 「マルチステーション印刷オプションの確認」
2	ユーザー認証の有効化	ユーザー認証を有効にします。	📖 P.246 「ユーザー認証設定」 📖 P.232 「ユーザー管理情報の共有」
3	マルチステーション印刷機能の有効化	マルチステーション印刷機能を有効にします。	📖 P.236 「マルチステーション印刷」 📖 P.224 「マルチステーション印刷の設定」
4	連携MFPの設定（1台目/グループ連携なし）	連携するため、複数のMFPの中から１台目（グループ連携なし）を選択して登録します。	📖 P.236 「マルチステーション印刷」 📖 P.224 「マルチステーション印刷の設定」
5	連携MFPの設定（2台目/2グループ目以降）	2台目/2グループ目以降のMFPを手動で登録します。	📖 P.236 「マルチステーション印刷」 📖 P.224 「マルチステーション印刷の設定」
		1台目の設定をコピーする場合は、クローンファイルを作成し、2台目以降のMFPにインストールします。	📖 P.277 「クローンファイル作成」 📖 P.279 「クローンファイルのインストール」

操作

	操作	説明	参照先
1	マルチステーション印刷	ネットワークで連携しているMFPから印刷します。	**印刷 - Windowsアプリケーションから印刷する - 本体にジョブを保存してから出力する - 別の複合機から印刷する（マルチステーション印刷）**

■ マルチステーション印刷の操作の流れ（1台のみ）

マルチステーション印刷機能を1台のみで使用する場合は、MFPの連携を行わないため、使用するMFPのみを設定します。

設定

	操作	説明	参照先
1	マルチステーション印刷オプションの確認	お使いのMFPでマルチステーション印刷が使用できるか確認します。	📖 P.402 「マルチステーション印刷オプションの確認」
2	マルチステーション印刷機能の有効化	マルチステーション印刷機能を有効にします。	📖 P.236 「マルチステーション印刷」 📖 P.224 「マルチステーション印刷の設定」
3	MFPの設定	TopAccessで接続している複合機（本機）を登録します。	📖 P.236 「マルチステーション印刷」 📖 P.224 「マルチステーション印刷の設定」

操作

	操作	説明	参照先
1	マルチステーション印刷	設定したMFPから印刷します。	**印刷 - Windowsアプリケーションから印刷する - 本体にジョブを保存してから出力する - 別の複合機から印刷する（マルチステーション印刷）**

■ マルチステーション印刷オプションの確認

マルチステーション印刷機能を使用するには、マルチステーション印刷オプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。
お使いのMFPにマルチステーション印刷オプションが設定されているかは、以下の手順で確認できます。
操作パネルの［設定/登録］＞［管理者設定］＞［機器設定］＞［ライセンス管理］に「Multi Station Print」が登録されていればマルチステーション印刷機能を利用できます。

ホームデータ同期機能の設定

あらかじめ複数のMFPを連携先として登録することで、ネットワークに接続されたどのMFPからログインしても、共通のホーム画面を使用できる機能です。ホーム画面の同期にMFPを使用する場合、最大10台のMFPを連携することができます。

注 意

ホームデータ同期機能の運用を開始した後に連携MFPの初期値などを変更した場合は、すべての連携MFPで同じ変更を設定するか、設定を変更したMFPでクローンファイル（ユーザー管理とアドレス帳を除く）を作成し、すべての連携MFPにインストールしてください。

■ ホームデータ同期設定の流れ

ホーム画面の同期にMFPを使用する場合の設定について説明します。

	操作	説明	参照先
1	連携MFPの設定（1台目）	連携するため、複数のMFPの中から親機（プライマリサーバー）として1台のMFPを選択します。 ユーザー情報、アドレス帳情報、ジョブの初期値設定、内蔵アプリケーションのインストール、EWB機能の設定など、複合機の各種設定を行います。	📖 P.74 「[ユーザー管理] の概要説明」 📖 P.44 「[アドレス帳] 項目説明一覧」 📖 P.371 「[アプリケーション] 項目説明一覧」 📖 P.239 「内蔵ブラウザー設定」
		注 意 「FTPサーバー使用」が有効になっていることを確認してください。 📖 P.153 「FTPサーバーの設定」	
2	クローンファイルの作成	1台目の設定をコピーするため、クローンファイルを作成し、2台目以降のMFPにインストールします。 クローンファイルには、以下の項目を含んでください。 • デフォルト設定 • ユーザー管理 • ネットワーク/プリントサービス • アドレス帳 • アプリケーション	📖 P.277 「クローンファイル作成」
3	連携MFPの設定（2台目以降）	2台目以降のMFPに作成したクローンファイルをインストールします。	📖 P.279 「クローンファイルのインストール」
		注 意 クローンファイルをインストールする前に、[同期データ一括削除] を行ってください。 📖 P.234 「共有ホーム」 📖 P.115 「ホーム設定」	
4	親機（プライマリサーバー）の設定	連携するMFPの中の1台を親機として、共有ユーザー情報および共通アドレス帳の設定を行います。	📖 P.232 「ユーザー管理情報の共有」 📖 P.246 「ユーザー認証設定」 📖 P.47 「共通設定」

	操作	説明	参照先
5	ホームデータ同期の設定	連携するすべてのMFPでホームデータ同期の設定を行ってください。	📖 P.234 「共有ホーム」 📖 P.115 「ホーム設定」
		注 意 • MFPを連携から外す場合は、対象のMFPの［共有ホーム］または［同期設定］を［無効］にしてください。 • 親機（プライマリサーバー）として使用するMFPは［このMFPをプライマリサーバーとする］をチェックしてください。	

外部認証の属性をMFPのロールとして使う

外部認証（Windowsドメイン認証およびLDAP認証）有効時、外部認証サーバーから本機に管理者としてログインするためには、本機で定義されているロールと外部認証サーバーの属性を関連づける必要があります。関連づけは、ロール情報設定ファイルを本機にインポートすることで行います。ロール情報設定ファイルは、外部認証サーバーの属性と対応するMFPのロールをXMLで定義したファイルです。本機からエクスポートしたロール情報設定ファイルを編集して、再度本機にインポートすることもできます。

■ ロール情報設定ファイルをエクスポートする

ロール情報設定ファイルをエクスポートする手順については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.96 「エクスポート」

■ ロール情報設定ファイルを定義する

ロール情報設定ファイルはXML形式で書かれています。外部認証サーバーの設定に応じて定義することで、外部認証サーバーで設定されている属性（attribute）に対して、本機のロールを割り当てることができます。ここでは、ロール情報設定ファイルでの代表的な定義方法として、3つのサンプルを紹介します。各要素（element）の内容（content）には、半角英数字を使用することができます。<AttributeValue> 要素の内容にはワイルドカードとしてアスタリスク（*）を使用することができます。

補 足

<AnyOtherUser> 要素では、<RoleSet> 要素に当てはまらないユーザーのロールを定義します。
<AnyOtherUser> 要素は、1つのみ使用することができます。

□ 1つの属性に1つのロールを設定する場合

外部認証サーバーで設定されている属性名	department
外部認証サーバーで設定されている属性値	ITDept
設定するロール名	Administrator

```
<RoleSetting>
  <RoleSet>
    <Condition>
      <AttributeName>department</AttributeName>
      <AttributeValue>ITDept</AttributeValue>
    </Condition>
    <Role>Administrator</Role>
  </RoleSet>
  <AnyOtherUser>User</AnyOtherUser>
</RoleSetting>
```

□ 1つの属性に複数のロールを設定する場合

外部認証サーバーで設定されている属性名	department
外部認証サーバーで設定されている属性値	ITDept
設定するロール名［1］	Administrator
設定するロール名［2］	PrintOperator

```
<RoleSetting>
  <RoleSet>
    <Condition>
      <AttributeName>department</AttributeName>
      <AttributeValue>ITDept</AttributeValue>
    </Condition>
      <Role>Administrator</Role>
  </RoleSet>
  <RoleSet>
    <Condition>
      <AttributeName>department</AttributeName>
      <AttributeValue>ITDept</AttributeValue>
    </Condition>
    <Role>PrintOperator</Role>
  </RoleSet>
  <AnyOtherUser>User</AnyOtherUser>
</RoleSetting>
```

□ 複数の属性に1つのロールを設定する場合

外部認証サーバーで設定されている属性名［1］	department
外部認証サーバーで設定されている属性値［1］	Sales
外部認証サーバーで設定されている属性名［2］	title
外部認証サーバーで設定されている属性値［2］	SeniorManager
設定するロール名	Print

```
<RoleSetting>
  <RoleSet>
    <Condition>
      <AttributeName>department</AttributeName>
      <AttributeValue>Sales</AttributeValue>
    </Condition>
    <Condition>
      <AttributeName>title</AttributeName>
      <AttributeValue>SeniorManager</AttributeValue>
    </Condition>
    <Role>Print</Role>
  </RoleSet>
  <AnyOtherUser>User</AnyOtherUser>
</RoleSetting>
```

■ ロール情報設定ファイルをインポートする

ロール情報設定ファイルをインポートする手順については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.97 「インポート」

補 足

設定を変更する場合は、ロール情報設定ファイルをインポートしなおしてください。

■ ロールベースアクセス設定を有効にする

インポートしたロール情報設定ファイルを使用するには、ロールベースアクセス設定を有効にする必要があります。手順については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.246 「ユーザー認証設定」

Eメールの設定

TopAccessをアクセスポリシーモードでログインした画面の［管理者］からEメールの送受信、操作に必要な設定を行ってください。

注 意

Eメールをお使いの場合は、ネットワークの基本設定が必要です。［ネットワーク］サブメニューは、［管理者］＞［セットアップ］メニューからアクセスできます。アクセス方法、［セットアップ］メニュー、セットアップ手順については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」
📖 P.119 「ネットワーク設定」

■ Eメール設定操作の流れ

	操作	説明	参照先
1	Eメール送信機能の確認	［セットアップ］＞［一般］＞［機能設定］のEメール送信機能が［有効］であることを確認します。	📖 P.103 「一般設定」 📖 P.105 「機能設定」
2	SMTPクライアントの設定	EメールのSMTP送信を［有効］に設定します。	📖 P.158 「SMTPクライアントの設定」
3	Eメールの設定	Eメール送信操作に必要な設定を行います。	📖 P.199 「Eメール設定」
4	URL送信設定	スキャンした画像をEメールに添付せずに保存場所のURLを送信する設定にします。	📖 P.204 「URL送信設定」
5	Eメール認証設定	スキャン画面からEメール送信する際にユーザー名とパスワードの入力が必要になる設定にします。	📖 P.259 「Eメール認証」
6	Eメールアドレス設定	Eメール認証またはユーザー認証を［有効］に設定した場合、自分宛送信が行える設定にします。	📖 P.246 「ユーザー認証設定」 📖 P.259 「Eメール認証」 📖 P.260 「Eメールアドレス設定」
7	シングルサインオン設定	「SMTPクライアントの設定」の認証をSMTPサーバーに接続するための認証方法を選択し、「ユーザー認証」や「Eメール認証」を［有効］に設定した場合、MFPへログインするために操作パネルから入力したユーザー名とパスワードがSMTPの通信にも適用されます。	📖 P.158 「SMTPクライアントの設定」 📖 P.246 「ユーザー認証設定」 📖 P.259 「Eメール認証」 📖 P.263 「シングルサインオン設定」

証明書のインストール

セキュリティの設定では、無線LAN通信でRADIUSサーバーを使用して認証するときに必要な無線LAN証明書のインストール、SSL/TLSを使用するときに必要なデバイス証明書のインストール・エクスポート・SCEP（自動取得）設定やCA証明書のインストール、IEEE802.1X認証に必要なIEEE802.1X用証明書のインストール・SCEP設定を行うことができます。

■ デバイス証明書をインストールする

HTTPの設定、FTPサーバーの設定、IPP印刷、Web Serviceプリント、およびOff Device Customization Architectureの設定でSSL/TLS使用を有効にしたい場合は、デバイス証明書をインストールする必要があります。デバイス証明書をインストールするには、自己証明書を作成するか、認証機関から入手またはCAサーバーで発行したデバイス証明書をインストールします。また、SCEPでCAサーバーからデバイス証明書を自動取得することもできます。

補 足

HTTPの設定、FTPサーバーの設定、IPP印刷、Web Serviceプリント、およびOff Device Customization Architectureの設定でSSL/TLS使用を有効にしたい場合で、本機およびクライアントコンピューターにインストールする必要のある証明書は以下のとおりです。

使用目的	本機で必要な証明書			クライアントコンピューターに必要な証明書		
	デバイス証明書		CA証明書	自己証明書	クライアント証明書	CA証明書
	自己証明書	認証機関から入手／CAサーバーが発行したデバイス証明書				
HTTP、FTP、IPP印刷、Off Device Customization Architecture＊	○	-	-	（○）	-	-
	-	○	-	-	-	（○）
Web Serviceプリント	-	○	○	-	○	○
	○	-	-	○	-	-

＊HTTPの設定、FTPサーバーの設定、IPP印刷、およびOff Device Customization Architectureの設定で、本機に自己証明書をインストールする場合は、クライアント側にも自己証明書をインストールします。本機に認証機関から入手したデバイス証明書をインストールする場合は、クライアント側にCA証明書をインストールしてください。

P.417 「CA証明書をインストールする」

注 意

ユーザー証明書を本機にインストールするときは、セキュリティを確保するため、本機とクライアントコンピューターをクロスケーブルで接続し、インストールすることを推奨します。

□ 自己証明書を作成する／エクスポートする

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

📖 P.15 「アクセスポリシーモード」

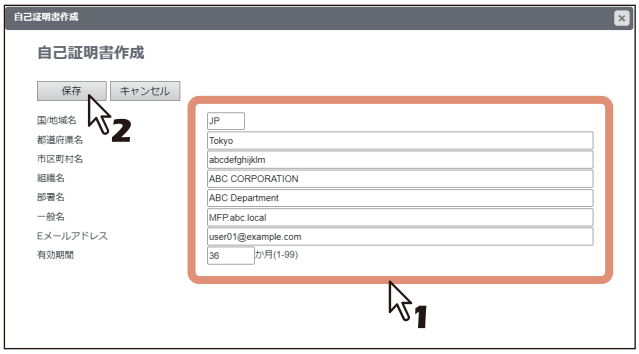
2 **［管理者］＞［セキュリティ］＞［証明書管理］を選択します。**

証明書管理ページが表示されます。

3 **［デバイス証明書］＞［自己証明書］を選択し、［作成］をクリックします。**

自己証明書作成ページが表示されます。

4 **以下の項目をすべて入力し、［保存］をクリックします。**



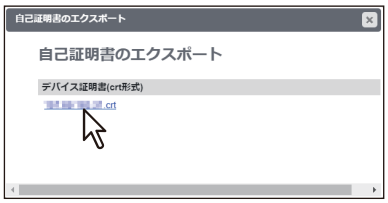
このページでは、以下の設定を行うことができます：

📖 P.266 「［自己証明書作成］画面」

5 ［OK］をクリックします。

6 自己証明書が作成されます。エクスポートする場合は、［エクスポート］をクリックします。

7 エクスポートする証明書のファイル名のリンクをクリックします。



ファイルがダウンロードされます。

8 自己証明書を作成したら、以下の設定でSSL/TLSを有効に設定することができます。

P.150 「HTTPの設定」
P.151 「WSDの設定」
P.153 「FTPサーバーの設定」
P.154 「LDAPクライアントの設定」
P.158 「SMTPクライアントの設定」
P.161 「POP3クライアントの設定」
P.220 「IPP印刷の設定」
P.242 「Off Device Customization Architecture設定」

□ デバイス証明書をインストールする

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.15 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］＞［セキュリティ］＞［証明書管理］を選択します。**

証明書管理ページが表示されます。

3 **［デバイス証明書］＞［インポート］＞［ファイルの選択］をクリックして、デバイス証明書ファイルを選択し、［アップロード］をクリックします。**

警告メッセージが表示されます。

4 **デバイス証明書のパスワードを入力し、［OK］をクリックします。**

デバイス証明書がインストールされます。

5 **［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。**

6 **以下の設定でSSL/TLSを有効に設定することができます。**

P.150 「HTTPの設定」
P.151 「WSDの設定」
P.153 「FTPサーバーの設定」
P.154 「LDAPクライアントの設定」
P.158 「SMTPクライアントの設定」
P.161 「POP3クライアントの設定」
P.220 「IPP印刷の設定」
P.242 「Off Device Customization Architecture設定」

□ 登録したデバイス証明書を削除する

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.15 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］＞［セキュリティ］＞［証明書管理］を選択します。**

証明書管理ページが表示されます。

3 **［デバイス証明書］＞［インポート］＞［削除］をクリックします。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

デバイス証明書がインポートされていない場合は、削除することはできません。

4 ［OK］をクリックします。

デバイス証明書が削除されます。

5 ［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。

□ デバイス証明書を自動取得する

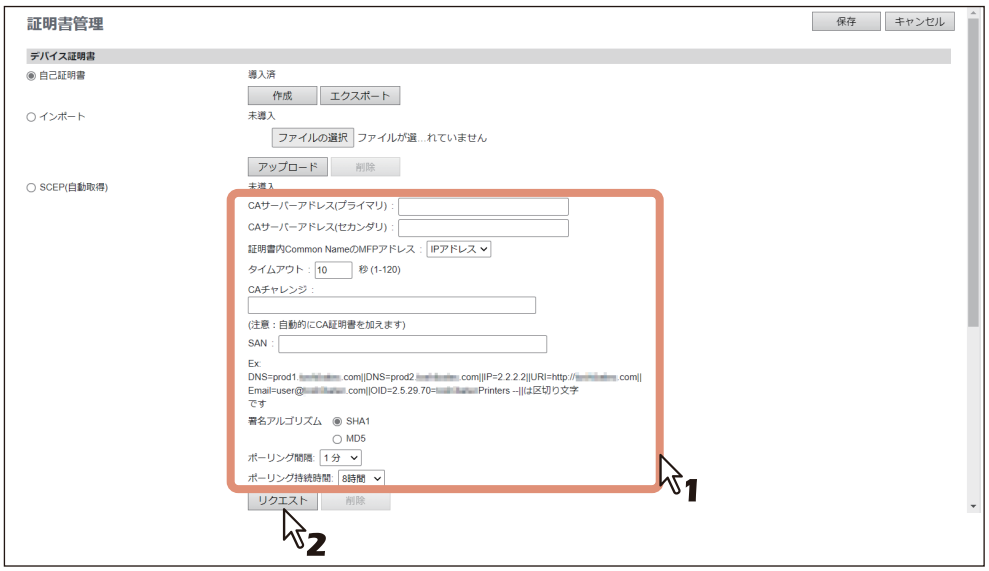
1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.15「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］＞［セキュリティ］＞［証明書管理］を選択します。

証明書管理ページが表示されます。

3 ［デバイス証明書］＞［SCEP（自動取得）］で以下の項目を入力し、［リクエスト］をクリックします。



CAサーバーアドレス（プライマリ）	CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。最大128文字まで入力できます。
CAサーバーアドレス（セカンダリ）	CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。最大128文字まで入力できます。
証明書内Common NameのMFPアドレス	証明書のCommon Nameに記述する本機のアドレスを、IPアドレスまたはFQDNのどちらかにするかを選択します。

タイムアウト	CAサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。
CAチャレンジ	CAチャレンジを入力します。
署名アルゴリズム	署名のアルゴリズムをSHA1かMD5を選択します。
ポーリング間隔	ポーリング間隔を設定します。
ポーリング持続時間	ポーリングを行う時間を設定します。

注 意

- ［CAサーバーアドレス］でFQDNを使用してCAサーバーを指定する場合は、DNSサーバーを設置しDNSの設定を有効にする必要があります。
- ［証明書のCommon NameのMFPアドレス］で［FQDN］を使用する場合は、DNSサーバーに本機のIPアドレスが登録されている必要があります。

デバイス証明書が取得されます。

注 意

デバイス証明書と同時にCA証明書も自動取得されます。CA証明書がすでに自動取得されていた場合は、新しいCA証明書を自動取得させるために、一度、デバイス証明書のSCEPの［削除］をクリックして自動取得されていたCA証明書を削除し、［取得］をクリックして新たに証明書を自動取得してください。

4 **［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。**

5 **以下の設定でSSL/TLSを有効に設定することができます。**

📖 P.150 「HTTPの設定」
📖 P.151 「WSDの設定」
📖 P.153 「FTPサーバーの設定」
📖 P.154 「LDAPクライアントの設定」
📖 P.158 「SMTPクライアントの設定」
📖 P.161 「POP3クライアントの設定」
📖 P.220 「IPP印刷の設定」
📖 P.242 「Off Device Customization Architecture設定」

□ 自動取得したデバイス証明書を削除する

1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.15「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］＞［セキュリティ］＞［証明書管理］を選択します。**

証明書管理ページが表示されます。

3 **［デバイス証明書］＞［SCEP（自動取得）］を選択し、［削除］をクリックします。**

設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

注 意

- デバイス証明書と同時に自動取得したCA証明書も削除されます。
- デバイス証明書が自動取得されていない場合は、削除することはできません。

4 **［OK］をクリックします。**

デバイス証明書が削除されます。

5 **［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。**

■ クライアント証明書の作成／エクスポート

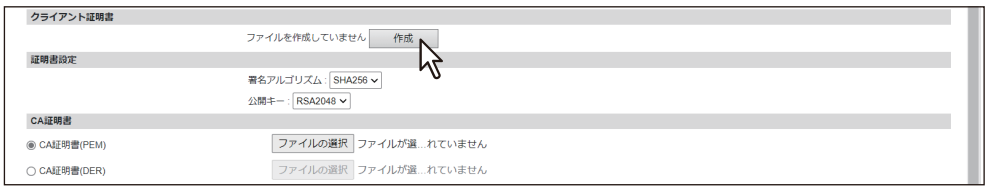
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.15 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］＞［セキュリティ］＞［証明書管理］を選択します。**

証明書管理ページが表示されます。

3 **［クライアント証明書］＞［作成］をクリックします。**



作成クライアント証明書ページが表示されます。

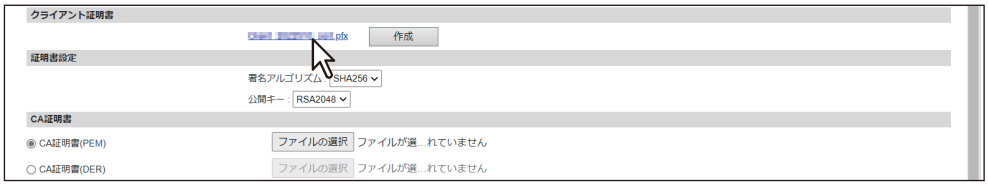
4 **以下の項目をすべて入力し、［保存］をクリックします。**

このページでは、以下の設定を行うことができます：

P.267 「［クライアント証明書作成］画面」

5 **［OK］をクリックします。**

6 エクスポートする証明書のファイル名のリンクをクリックします。



ファイルがダウンロードされます。

補 足

クライアント証明書が未導入の場合は、［パスワード］にパスワードを入力し、［作成］をクリックして証明書を作成します。

■ CA証明書をインストールする

SMTPクライアントの設定、POP3の設定、FTPクライアントの設定、LDAPサービス、およびSyslog設定でSSL/TLS使用を［登録されたCA証明書を使用する］にしたい場合は、CA証明書をインストールする必要があります。CA証明書は最大10個まで登録することができます。

□ CA証明書をインストールする

1 TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。

📖 P.15「アクセスポリシーモード」

2 ［管理者］＞［セキュリティ］＞［証明書管理］を選択します。

証明書管理ページが表示されます。

3 CA証明書の暗号化種別を選択し、［ファイルの選択］をクリックしてCA証明書ファイルを選択して、［アップロード］をクリックします。

CA証明書がインストールされます。

4 ［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。

5 **以下の設定のSSL/TLS使用設定で［登録されたCA証明書を使用する］を選択して、SSL/TLSを有効に設定することができます。**

P.151 「WSDの設定」
P.154 「LDAPクライアントの設定」
P.158 「SMTPクライアントの設定」
P.161 「POP3クライアントの設定」
P.164 「FTPクライアントの設定」
P.171 「Syslog設定」
P.242 「Off Device Customization Architecture設定」

□ 登録したCA証明書を削除する

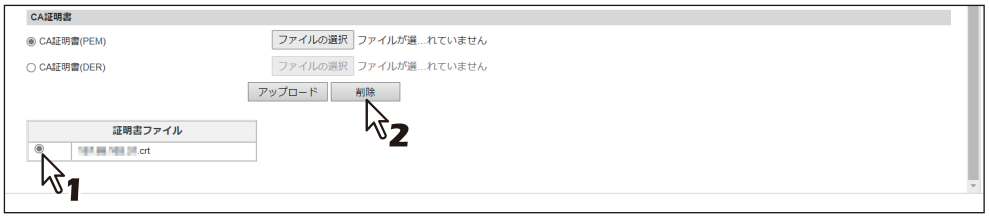
1 **TopAccessのアクセスポリシーモードを起動します。**

P.15 「アクセスポリシーモード」

2 **［管理者］＞［セキュリティ］＞［証明書管理］を選択します。**

証明書管理ページが表示されます。

3 **［証明書ファイル］で削除したいCA証明書を選択し、［CA証明書］＞［削除］をクリックします。**



設定の確認ダイアログボックスが表示されます。

4 **［OK］をクリックします。**

CA証明書が削除されます。

5 **［証明書管理］サブメニューで［保存］をクリックします。**

索引

B

Bonjourの設定 164

C

CA証明書 268
CA証明書をインストールする 417
CMYKソースプロファイルの設定 228

D

DDNS 127
DNS 126

E

EWB履歴設定 240
Eメールアドレス設定 260
Eメール印刷の設定 223
Eメール設定 199, 204, 296, 326
Eメール設定（ファクス／インターネットファクス受信 転送）.....361
Eメール設定（メールボックス）.....60
Eメール設定操作の流れ 407
Eメール認証 259
Eメールの設定 407

F

FTP印刷の設定 222
FTPクライアントの設定 164
FTPサーバーの設定 153
Fコード 283, 286
Fコード／ファクス受信転送（振分け）.....55
Fコード／ファクス受信転送（振分け）項目説明一覧 55
Fコード設定 56

H

HTTPの設定 150

I

ICCプロファイルの設定 227
IKEの追加/IKEの修正 138
IPP印刷の設定 220
IPX/SPXの設定 172
IPセキュリティの設定 132

L

LDAPクライアントの設定 154
LDAPサーバーを使って宛先を検索する 321
LDAP情報 155
LDAP認証 257
LLMNR 129
LPD印刷の設定 219

M

MFP連携 230

N

N/Wファクスの設定 197
N/Wファクスの保管先の設定 197
NetWare印刷の設定 222
NetWareの設定 173

O

Off Device Customization Architecture設定 242

P

PDF/Aファイルフォーマット設定 118
POP3クライアントの設定 161

R

Raw TCP印刷の設定 218
Raw印刷ジョブ印刷初期値設定 215
RAW印刷ジョブ設定 216
RGBソースプロファイルの設定 227

S

SLPの設定 170
SMBの設定 145
SMTPクライアントの設定 158
SMTPサーバーの設定 152
SNMP V3ユーザー情報作成 169
SNMPの設定 166
SNTP設定 113
SSL/TLSの設定 131
Syslogの設定 171

T

TopAccessの画面説明 14
TopAccessの機能 10
TopAccessの条件 11
TopAccessを起動する 12

U

URLの新規追加 241
URLリストから登録 313
USBケーブル印刷の設定 223
USBメディア保存設定 335

W

WEB設定 114
Windowsドメイン認証 254
WSDの設定 151

X

XMLフォーマットファイル 370
XMLフォーマットファイルの登録 393
XMLフォーマットファイルの編集 389
XMLフォーマットファイルの変数 389

あ

アカウント 項目説明一覧 380
アカウント の概要説明 380
アクセスポリシーモード 10, 15
アップロードするドライバーファイルを準備する 275
宛先検索 52
宛先情報作成 50
宛先情報編集 50
宛先設定 317
宛先設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）..... 353
宛先設定（メールボックス）..... 59
宛先選択制限 107
宛先の設定 189
宛先リストから宛先を削除する 322
宛先を手動で入力する 318
アドレス帳 44, 282, 285

アドレス帳 項目説明一覧 44
アドレスを入力して起動する 12
アプリケーション 299
アプリケーションから登録 314
アプリケーション設定 374
アプリケーション項目説明一覧 371
アプリケーションデータ 376
アプリケーションデータのインポート 375
アプリケーションへの受信転送設定 186
アプリケーションリスト 371

い

一般 374
一般設定 103, 212, 288
印刷再開条件 26
印刷ジョブ 項目説明一覧 24
印刷ログ 32
インターネットファクス設定 206, 323
インターネットファクス設定（ファクス／
インターネットファクス受信転送）.....354
インターネットファクス設定（メールボックス）...59
インポート 48, 97, 282

え

エクスポート／インポート 項目説明一覧 96
エクスポート 49, 96, 285

お

お気に入りアドレス帳 45
お気に入りグループ 46
おすすめから登録 313

か

カード認証ガイダンス画像 350
カードリーダーファームウェアのインストール ...308
外部認証の属性をMFPのロールとして使う 405
カウンター 項目説明一覧 62
カウンター の概要説明 62
拡張フィールド設定 344, 367
拡張フィールド属性 344, 367
拡張フィールド定義情報 366
拡張フィールド定義のプロパティ 369
拡張フィールド定義の登録 393
カスタムRGBプロファイルの設定 229
カスタムキーボード設定 301
画像/アイコン管理 349
画像選択 384
カテゴリ設定 278
環境設定 242, 273
かんたん画面設定 348
管理者、監査者パスワードポリシー 270
管理者によるアドレス帳操作制限 107

き

期間の設定 188
機能設定 105
機能リストから登録 314
機密化設定 108
共通アドレス帳 231
共通設定 47, 230
共通設定 項目説明一覧 98
共有テーマ設定 44, 345
共有フォルダーに保管設定 188, 330
共有フォルダーに保管設定（ファクス／
インターネット ファクス受信転送）..... 355
共有フォルダーに保管設定（メールボックス）..... 60
共有ホーム 44, 234, 309
共有ホーム設定 44, 346
共有ボックス認証 264

く

クライアント証明書 267
クライアント証明書作成 267
クライアント証明書の作成／エクスポート 416
グループ 46
グループ管理 項目説明一覧 83
グループ情報作成 54, 84
グループ情報編集 54, 84
グループ割り当て 83
グループをアドレス帳から選択する 320
クローンファイル 277
クローンファイル作成 277
クローンファイル情報 280
クローンファイルに含まれているデータの情報 .. 280
クローンファイルのインストール 279

け

結果送信宛先（メールボックス）..... 59
権限情報表示 386
原稿印刷（ファクス／インターネットファクス
受信転送）..... 353
言語設定 299
言語パックのインストール 300, 375
現在の言語パックリスト 300
現在のソフトウェア一覧 307
検索間隔の設定 192
検索結果リスト 53

こ

コピージョブ強制続行設定 177
コピー設定 175
コンテンツ設定 290

さ

サーバー登録設定 240
サーバー割り当て 157
再起動 308
サポートブラウザー 11
サマータイム設定 114

し

自己証明書作成 266
自己証明書を作成する／エクスポートする 409
システムアップデート 307
システム通知情報イベント 297
システム保護 273
自動取得したデバイス証明書を削除する 415
受信管理記録 34
受信電話番号拒否登録 183
使用可能なUSBデバイス一覧 376
証明書管理 265
証明書設定 268
証明書のインストール 408
証明書ファイル 268

初期設定 175
初期登録ロールと権限 86
初期ホーム 347
初期ホーム設定 347
ジョブ制御設定 106
ジョブ通知情報イベント 298
ジョブ の概要説明 24
ジョブ履歴から登録 313
新規LPRキューの追加 217
シングルサインオン設定 263
シングルページファイルの構成の設定 191
シングルページファイルの保存場所の設定 191

す

スキャンカウンター 64
スキャンジョブ 項目説明一覧 28
スキャン設定 338
スキャンログ 35
ステータスメッセージ 118

せ

セキュリティ 項目説明一覧 244
セキュリティスタンプ 272
設定 385
設定編集 383
節電モード設定 109
セットアップ 項目説明一覧 103

そ

送信管理記録 33
送信者名登録 183, 208
装置情報の設定 104
ソフトウェアのアップロード 274
ソフトウェアパックのインストール 307
ソフトウェアの削除 276

た

待機画面 288
ダイレクト印刷初期値設定 213

つ

通知情報イベント 242

て

データバックアップ機能 304
テーマ設定 384
デバイス証明書 265
デバイス証明書をインストールする 408, 411
デバイス証明書を自動取得する 413
デフォルトXMLフォーマットファイル 391
テンプレートの詳細設定 316
テンプレートの設定編集画面 311
テンプレートデータの変換 284

と

トータルカウンター 62
登録 項目説明一覧 309
登録したCA証明書を削除する 418
登録したデバイス証明書を削除する 412
登録 の概要説明 44
閉じるボタン設定 289
ドライバーカスタムプラグイン設定 214

な

内蔵アプリケーション設定 374
内蔵ブラウザー設定 239
内部認証 250

に

認証 244

ね

ネットワーク 242
ネットワーク設定 119

は

バージョン 243
パスワード入力 78
パスワード変更 382
パスワードポリシー 269
パネルアイコン画像 350
パネル言語の初期設定 301
パネル背景画像 349
パネル表示 287

ひ

日付と時間 113
1つの属性に1つのロールを設定する場合 405
1つの属性に複数のロールを設定する場合 405
表示アイコンの説明 20
表示タイミング 289

ふ

ファイリングボックス通知情報イベント 106
ファイル削除 295
ファイルのアップロード 280
ファイル保存時のユーザー名と
パスワード表示設定 192
ファクス／インターネットファクスジョブ
項目説明 一覧 27
ファクス受信転送およびインターネットファクス
受信転送 351
ファクス設定 51, 178, 324
フィルターの追加/フィルターの修正 134
フィルタリングの設定 130
フォーマットの設定 190
フォルダーの設定編集画面 312
フォルダー名の設定 189
複合（アドレス帳＋Fコード） 283, 286
複数の属性に1つのロールを設定する場合 406
部門カウンター 65
部門管理 項目説明一覧 91
部門管理情報 66, 92
部門管理情報編集 93
部門管理設定 244
プリセット印刷設定 293
プリンター /ファイリングボックスジョブの
強制続行設定 211
プリンター /ファイリングボックス設定 211
プリンター設定 212
プリンタープロファイルの設定 228
プリントカウンター 64
プリントサービス設定 218
プリントデータコンバーター設定 229

プロキシ設定 239, 294, 375
プロジェクト管理画面 95
プロジェクト管理 項目説明一覧 95
プロジェクト情報（作成）画面 95
プロジェクト情報（編集）画面 95
プロファイルの追加/プロファイルの修正 141

ほ

ホーム画面URL一覧 241
ホーム画面から登録 315
ホーム画面設定 382
ホーム設定 115
ホームタイプ選択 310
ホームデータ同期機能の設定 403
ホームデータ同期設定の流れ 403
ホームデータリスト 351
ホームディレクトリ設定 263
ホーム表示 383
ホームページ設定 239
保守 項目説明一覧 274
ボックス設定 335
ボックス設定（アプリケーションへの受信転送設定）.....187
ボックス設定（ファクス／インターネットファクス受信転送）.....365
ボックス設定（メールボックス）.....60
ポリシーの追加/ポリシーの修正 144

ま

マニュアルキー追加/マニュアルキーの修正 136
マルチステーション印刷 236
マルチステーション印刷の設定 224
マルチステーション 項目説明一覧 29

め

メタスキャン 366, 400
メタスキャンオプションの確認 389
メタスキャンの設定 388
メタスキャンの操作の流れ 388
メタスキャンのログ確認 400
メタスキャン用のテンプレート登録 397
メタデータの保存設定 392
メッセージログ 39

も

モバイルスキャン（eSCL）の設定 165

ゆ

ユーザーモード 10
ユーザーアカウント検索 75
ユーザーアカウント 項目説明一覧 74
ユーザーカウンター 68
ユーザー拡張情報 377
ユーザー管理情報の共有 232
ユーザー管理 の概要説明 74
ユーザー情報 69, 79
ユーザー情報作成 76
ユーザー認証設定 246
ユーザーパスワードポリシー 269
ユーザー用紙タイプ 306
有効化 378

ら

ライセンス 299
ライセンス一覧 378
ライセンス 項目説明一覧 378

り

リソース管理 377
リモート1とリモート2の設定 193
リモートコマンド 302
リモートコマンドの実行履歴 303
リモートコマンドの適用 302
リモート設定 195
リモート設定リスト 195
リモート操作設定 174

れ

レポート設定 184, 209
レポート通知 296

ろ

ロール管理 項目説明一覧 85
ロール情報設定ファイルをインポートする 406
ロール情報設定ファイルをエクスポートする 405
ロール情報設定ファイルを定義する 405
ロールの新規作成 88
ロールベースアクセス設定を有効にする 406
ロール編集 90
ロール割り当て 82
ログ閲覧 項目説明一覧 32
ログサイズ 42
ログ設定 項目説明一覧 42
ログ認証 42
ログのエクスポート 項目説明一覧 40
ログ の概要説明 32
ロングファイル名設定 106

わ

割り当て設定 72

FC-2020AC
FC-2525AC/3525AC/4525AC/5525AC
DP-2528A/3528A/4528A/5528A
FC-6527AC/7527AC
DP-6529A/9029A

東芝デジタル複合機
TopAccess

e-STUDIO2020AC
e-STUDIO2525AC/3525AC/4525AC/5525AC
e-STUDIO2528A/3528A/4528A/5528A
e-STUDIO6527AC/7527AC
e-STUDIO6529A/9029A

東芝テック株式会社

QUALITY SERVICE

OMJ210035A0
R210220X7101-TTEC
Ver01 F 発行 2022年10月

© 2021, 2022 Toshiba Tec Corporation All rights reserved